

東野土居遺跡Ⅱ

南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅷ
(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XV)



2015.3

高 知 県 教 育 委 員 会
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

東野土居遺跡Ⅱ

南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅷ
(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XⅤ)

2015.3

高 知 県 教 育 委 員 会
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

東野土居遺跡の発掘調査は、国土交通省が進める高規格道路南国安芸道路建設に伴う緊急調査として平成21年4月から24年3月まで3ヶ年にわたって実施いたしました。香南市の西側を流れる物部川流域や東側の香宗川流域においては数回にわたって発掘調査が行われており、考古資料をとおして地域の歴史復原がある程度可能になってまいりました。しかし中央部においてはこれまでに発掘事例がなく、どのような遺跡が存在しているのか、その内容を把握することのできていない地域で、東野土居遺跡の調査は、このような空白の地帯に初めて考古学のメスを入れることで大きな期待が掛けられていました。

一連の調査をとおして、弥生時代前期末に生活の営みがはじまり弥生時代後期末から古墳時代前期にかけて最初の盛行期を迎え、古墳時代後期から古代・中世、戦国期にかけて繁栄した遺跡であることが明らかとなりました。古代の瓦の出土や中世の大溝に囲まれた屋敷群の存在は、今後高知平野の歴史を語る上で重要な位置を占めるものと思います。

今回の報告書は、東野土居遺跡の中央部に展開している弥生時代から中世を中心としたものですが、東野土居遺跡の変遷を考えるうえにおいては興味深い成果が記録されたものと自負致しております。本報告書が地域の歴史や文化の解明や斯学の向上に役立つことができれば幸いです。

今次調査に於きましては国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所、香南市教育委員会をはじめ地元の皆様には多大なご理解とご協力を得ることができました。また発掘作業・整理作業に従事していただきました作業員の皆様に対しましても厚く御礼を申し上げます。

平成27年3月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 森田尚宏

例言

1. 本書は南国安芸道路の建設に伴い、平成22～23年度に実施した東野土居遺跡調査第ⅡC区及び調査第ⅢA・B区の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、高知県教育委員会が国土交通省四国地方整備局から受託し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター（現公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター）が発掘調査を実施した。
3. 東野土居遺跡は香宗川右岸に広がる野市台地の縁辺部に立地する弥生時代から近世までの複合遺跡で、弥生時代及び古墳時代の集落跡や古代の掘立柱建物跡群、中世の屋敷跡群、近世の屋敷跡など多くの遺構・遺物が確認されている。

調査第ⅡC区及び調査第ⅢA・B区の発掘調査は調査対象区域の買収状況に応じて平成22年度に調査第ⅢB区の一部、平成23年度に調査第ⅡC区、ⅢA・B区と2ヶ年にわたって実施し、平成22年度の調査面積は706㎡、平成23年度の調査面積は16,477㎡、発掘調査延べ面積は17,183㎡であった。

4. 発掘調査・整理作業は次の体制で行った。

平成22年度

総 括：財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫

総 務：同次長 森田尚宏、同総務課長 里見敦典、同主任 弘末節子

調 査 総 括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久

調 査 担 当：同調査第四班長 出原恵三、同専門調査員 鍵山真一、同主任調査員 筒井三菜、
測量補助員 都築愛

事務補助員：友永可奈

平成23年度

総 括：財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 森田尚宏

総 務：同次長 嶋崎るり子、同総務課長 里見敦典、同主任 黒岩千恵

調 査 総 括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久

調 査 担 当：同調査第四班長 出原恵三、同専門調査員 安岡猛・小山求・谷脇正、同主任調査員 久家隆芳・筒井三菜、同調査員 下村裕・山崎孝盛・菊池直樹・松本安紀彦、
技術補助員 坂本憲彦・大賀幸子・矢野雅子、測量補助員 都築愛・秋山英洋

事務補助員：友永可奈

平成26年度

総 括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 森田尚宏

総 務：同次長兼調査課長 松田直則、同総務課長 野田美智子、同主任 黒岩千恵

整 理 総 括：同調査課長 松田直則

整 理 担 当：同調査第一班長 出原恵三、同主任調査員 下村裕、同調査員 矢野雅子、同調査第二班主任調査員 久家隆芳、同調査第三班主任調査員 筒井三菜、調査補助員 坂本憲彦・松井喬行

事務補助員：谷 幸絵

5. 本書の執筆は調査第Ⅰ・Ⅱ章を下村、第Ⅲ章1を出原、第Ⅲ章2を下村、第Ⅳ章1を矢野、2を筒井、

3を久家・筒井, 4を筒井が行い, 編集は筒井が行った。現場写真は平成22年度は出原・筒井, 平成23年度は出原, 久家, 下村, 筒井, 山崎, 菊池が撮影し, 遺物写真は出原, 下村, 矢野, 筒井が撮影した。

6. 遺構についてはST(竪穴建物跡), SB(掘立柱建物跡), SA(柵列), SK(土坑), SD(溝), SE(井戸), P(柱穴), SX(性格不明遺構)で表記した。また, 掲載している遺構平面図の縮尺はそれぞれに記しており, 方位Nは世界測地系のGNである。
7. 遺物については原則として縮尺1/4と1/3で掲載し, 一部の遺物については縮尺を変えているが, 各挿図にはスケールを表記している。また, 遺物番号は調査区ごとの通し番号とし, 挿図と図版の遺物番号は一致している。
8. 現地調査及び報告書作成をするにあたっては, 下記の方々のご指導及び貴重なご教示, ご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏, パリノ・サーヴェイ株式会社

9. 調査にあたっては, 国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所のご協力を頂いた。また, 地元住民の方々に遺跡に対するご理解とご協力を頂き, 厚く感謝の意を表したい。
10. 整理作業及び発掘作業については多くの方々に労を厭わず作業に従事して頂いた。感謝の意を表したい。
11. 出土遺物は「10-1KH」, 「11-1KH」と注記し, 高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 序章	1
1. はじめに	1
2. 調査の契機と経過	1
3. 調査の概要	2
(1) 遺跡の概要	2
(2) 調査の方法	3
第Ⅱ章 ⅡC区	5
1. 調査区の概要と基本層序	5
(1) 調査区の概要	5
(2) 基本層序	5
2. 検出遺構と遺物	5
(1) 掘立柱建物跡	5
(2) 柵列	6
(3) 土坑	8
(4) 溝	12
(5) 柱穴	14
(6) 性格不明遺構	18
(7) 包含層出土遺物	18
第Ⅲ章 ⅢA区	19
1. ⅢA-6・7区	19
(1) 調査区の概要と基本層序	19
① 調査区の概要	19
② 基本層序	19
(2) 検出遺構と遺物	20
① 掘立柱建物跡	20
② 柵列	26
③ 土坑	27
④ 溝	51
⑤ 柱穴	66
⑥ 井戸	74
⑦ 包含層出土遺物	75
2. ⅢA-5区	76
(1) 調査区の概要と基本層序	76
① 調査区の概要	76
② 基本層序	76
(2) 検出遺構と遺物	77

① 掘立柱建物跡	77
② 柵列	78
③ 土坑	78
④ 溝	82
⑤ 柱穴	87
⑥ 井戸	92
⑦ 性格不明遺構	92
⑧ 遺物包含層等	94
第Ⅳ章 ⅢB区	95
1. ⅢB-4区	95
(1) 調査区の概要と基本層序	95
① 調査区の概要	95
② 基本層序	95
(2) 検出遺構と遺物	97
① 掘立柱建物跡	97
② 柵列	98
③ 土坑	101
④ 溝	114
⑤ 暗渠	130
⑥ 井戸	136
⑦ 柱穴	137
⑧ 性格不明遺構	138
2. ⅢB-3区	140
(1) 調査区の概要と基本層序	140
① 調査区の概要	140
② 基本層序	140
(2) 検出遺構と遺物	141
① 掘立柱建物跡	141
② 柵列	149
③ 土坑	151
④ 溝	166
⑤ 柱穴	179
⑥ 井戸	185
⑦ 包含層出土遺物	185
3. ⅢB-2区	186
(1) 調査区の概要と基本層序	186
① 調査区の概要	186
② 基本層序	186

(2) 検出遺構と遺物	186
① 竪穴建物跡	186
② 掘立柱建物跡	205
③ 柵列	217
④ 土坑	219
⑤ 溝	237
⑥ 柱穴	253
⑦ 井戸	258
⑧ 性格不明遺構	259
⑨ 包含層出土遺物	259
4. ⅢB-1区	261
(1) 調査区の概要と基本層序	261
① 調査区の概要	261
② 基本層序	261
(2) 検出遺構と遺物	262
① 竪穴建物跡	262
② 掘立柱建物跡	279
③ 柵列	281
④ 土坑	281
⑤ 溝	283
⑥ 柱穴	285
⑦ 性格不明遺構	286

挿図目次

図1-1 東野土居遺跡位置図	1
図1-2 調査区位置図	2
図1-3 調査区グリット設定図	3
図2-1 調査区南壁セクション図	5
図2-2 SB1	5
図2-3 SB1出土遺物実測図	6
図2-4 SB2	6
図2-5 SB2出土遺物実測図	7
図2-6 SA2	8
図2-7 SA7	8
図2-8 SK2	9
図2-9 SK2・6・8出土遺物実測図	9

図2-10	SK10・14・17出土遺物実測図	10
図2-11	SK14.	11
図2-12	SK18.	11
図2-13	SD1～3出土遺物実測図	12
図2-14	SD2.	12
図2-15	SD8.	13
図2-16	SD8出土遺物実測図1	13
図2-17	SD8出土遺物実測図2	14
図2-18	P1～5出土遺物実測図.	14
図2-19	P6～12出土遺物実測図.	15
図2-20	P13～17出土遺物実測図.	16
図2-21	P18～22出土遺物実測図.	17
図2-22	遺物包含層出土遺物実測図.	18
図3-1	調査区セクション図	19
図3-2	SB3・4	20
図3-3	SB5・6	21
図3-4	SB7・8 SA9	22
図3-5	SB9.	23
図3-6	SB10・11.	24
図3-7	SB12.	25
図3-8	SB13.	26
図3-9	SB14・15・16	27
図3-10	SB17.	28
図3-11	SB18・19.	29
図3-12	SB6・8・9・12・18・19 SA9出土遺物実測図	30
図3-13	SK5・7・8.	31
図3-14	SK9・10.	32
図3-15	SK11・14.	33
図3-16	SK5～14出土遺物実測図	34
図3-17	SK17・18.	35
図3-18	SK17・18出土遺物実測図	36
図3-19	SK20・25・28・29	36
図3-20	SK20・25・28・29出土遺物実測図	37
図3-21	SK30.	37
図3-22	SK30出土遺物実測図	38
図3-23	SK31～35・38.	39
図3-24	SK43・44・46.	40
図3-25	SK48.	41

図3-26	SK31～35・38・43・44・46・48出土遺物実測図	42
図3-27	SK53～55・57	43
図3-28	SK58・59・62	44
図3-29	SK63・67	44
図3-30	SK53～67出土遺物実測図	45
図3-31	SK69・70・71	47
図3-32	SK72・76・83	47
図3-33	SK69～87出土遺物実測図	48
図3-34	SK87・91・92・98・101	49
図3-35	SK105・108・110・111・117・118	50
図3-36	SK91～118出土遺物実測図	52
図3-37	SD1E・SD1W・SD3・SD4	53
図3-38	SD1W出土遺物実測図	54
図3-39	SD1E出土遺物実測図	55
図3-40	SD2・3・5～10・14・17	57
図3-41	SD2～12出土遺物実測図	58
図3-42	SD11・12・15・16・18・19・20	60
図3-43	SD15出土遺物実測図	61
図3-44	SD18出土遺物実測図	62
図3-45	SD21～24・26・27	63
図3-46	SD25	63
図3-47	SD23～29出土遺物実測図	64
図3-48	SD28～38	65
図3-49	SD30～38出土遺物実測図	67
図3-50	ピット内遺物出土状況	68
図3-51	P1～10出土遺物実測図	69
図3-52	P11～20出土遺物実測図	69
図3-53	P21～30出土遺物実測図	70
図3-54	P31～40出土遺物実測図	70
図3-55	P41～50出土遺物実測図	71
図3-56	P51～64出土遺物実測図	72
図3-57	SE1	73
図3-58	SE1出土遺物実測図	74
図3-59	SE2	75
図3-60	包含層出土遺物実測図	75
図3-61	調査区北壁セクション図	76
図3-62	SB20 SA11	76
図3-63	SB21	77

図3－64	SB22.....	77
図3－65	SB23.....	78
図3－66	SB24.....	78
図3－67	SB25.....	79
図3－68	SK126.....	79
図3－69	SK128・129出土遺物実測図.....	80
図3－70	SK129.....	80
図3－71	SK133・138出土遺物実測図.....	80
図3－72	SK135.....	81
図3－73	SD39～41出土遺物実測図.....	81
図3－74	SD41～43.....	82
図3－75	SD42出土遺物実測図1.....	83
図3－76	SD42出土遺物実測図2.....	84
図3－77	SD43出土遺物実測図.....	84
図3－78	SD46.....	84
図3－79	SD46出土遺物実測図.....	85
図3－80	SD47・48.....	85
図3－81	SD48出土遺物実測図.....	86
図3－82	SD56.....	86
図3－83	SD56出土遺物実測図1.....	87
図3－84	SD56出土遺物実測図2.....	88
図3－85	SD56出土遺物実測図3.....	89
図3－86	柱穴出土遺物実測図.....	90
図3－87	SE3.....	92
図3－88	SE4出土遺物実測図.....	92
図3－89	SX6出土遺物実測図.....	92
図3－90	遺物包含層等出土遺物実測図.....	93
図4－ 1	ⅢB－4－1区北壁セクション図.....	95
図4－ 2	調査区北壁セクション図.....	96
図4－ 3	SB26.....	97
図4－ 4	SB26出土遺物実測図.....	97
図4－ 5	SB27・28.....	98
図4－ 6	SB27・28出土遺物実測図.....	98
図4－ 7	SB29.....	99
図4－ 8	SB30～33.....	100
図4－ 9	SB33出土遺物実測図.....	100
図4－10	SB34.....	101
図4－11	SB34出土遺物実測図.....	101

図4-12	SB35.....	101
図4-13	SA11~20.....	102
図4-14	SK8・10・11.....	103
図4-15	SK14・16.....	104
図4-16	SK17出土遺物実測図.....	104
図4-17	SK17・18出土遺物実測図.....	105
図4-18	SK21.....	106
図4-19	SK21出土遺物実測図.....	106
図4-20	SK24.....	107
図4-21	SK25・28.....	108
図4-22	SK25出土遺物実測図.....	108
図4-23	SK28出土遺物実測図.....	108
図4-24	SK30・32・34.....	109
図4-25	SK35.....	109
図4-26	SK40.....	109
図4-27	SK42.....	110
図4-28	SK43出土遺物実測図.....	110
図4-29	SK43・44・46~48・68.....	111
図4-30	SK48・68出土遺物実測図.....	111
図4-31	SK50.....	112
図4-32	SK53出土遺物実測図.....	112
図4-33	SK54.....	112
図4-34	SK54・60出土遺物実測図.....	113
図4-35	SK56.....	113
図4-36	SK59・60出土遺物実測図.....	113
図4-37	SK61出土遺物実測図.....	113
図4-38	SK62出土遺物実測図.....	114
図4-39	SK65出土遺物実測図.....	114
図4-40	SK66出土遺物実測図.....	115
図4-41	SD1・2出土遺物実測図.....	115
図4-42	SD4出土遺物実測図.....	115
図4-43	SD5.....	116
図4-44	SD6・10・13.....	116
図4-45	SD5・6・10・11・15出土遺物実測図.....	117
図4-46	SD7.....	118
図4-47	SD7・8出土遺物実測図.....	118
図4-48	SD9.....	119
図4-49	SD10出土遺物実測図.....	119

図4-50	SD10・15・11・12出土遺物実測図	.119
図4-51	SD15出土遺物実測図	.120
図4-52	SD16	.120
図4-53	SD19	.121
図4-54	SD19出土遺物実測図	.121
図4-55	SD21	.122
図4-56	SD24～26・68	.122
図4-57	SD24～26出土遺物実測図	.122
図4-58	SD26出土遺物実測図	.123
図4-59	SD29	.123
図4-60	SD30・31	.123
図4-61	SD33・48・50	.124
図4-62	SD33出土遺物実測図	.125
図4-63	SD34出土遺物実測図	.125
図4-64	SD35～37	.126
図4-65	SD36・37出土遺物実測図	.126
図4-66	SD39・40出土遺物実測図	.127
図4-67	SD41～46	.127
図4-68	SD43出土遺物実測図	.127
図4-69	SD49・52・53・57	.128
図4-70	SD57出土遺物実測図	.128
図4-71	SD61	.129
図4-72	SD65	.129
図4-73	SD70出土遺物実測図	.129
図4-74	暗渠1～4	.130
図4-75	暗渠1～4・暗渠2出土遺物実測図	.131
図4-76	暗渠1～4出土遺物実測図	.132
図4-77	暗渠4出土遺物実測図	.133
図4-78	暗渠4出土瓦銘拓本1	.134
図4-79	暗渠4出土瓦銘拓本2	.135
図4-80	SE1	.136
図4-81	SE1出土遺物実測図	.136
図4-82	P1～8出土遺物実測図	.137
図4-83	P9・10	.138
図4-84	SX1出土遺物実測図	.139
図4-85	調査区西部セクション図	.140
図4-86	調査区東部セクション図	.141
図4-87	SB36・37	.142

図4-88	SB38.....	143
図4-89	SB39.....	143
図4-90	SB40.....	144
図4-91	SB41・42.....	144
図4-92	SB43・44.....	145
図4-93	SB45・46.....	146
図4-94	SB47.....	146
図4-95	SB48・49.....	147
図4-96	SB50・51・53.....	148
図4-97	SB52・54.....	149
図4-98	SB52・54出土遺物実測図.....	149
図4-99	SB55・56.....	150
図4-100	SB55出土遺物実測図.....	150
図4-101	SB57・58.....	151
図4-102	SA24～31.....	152
図4-103	SK73・76・77・79・80.....	153
図4-104	SK80出土遺物実測図.....	153
図4-105	SK81・83.....	154
図4-106	SK83出土遺物実測図.....	154
図4-107	SK85.....	154
図4-108	SK86・87.....	155
図4-109	SK89.....	155
図4-110	SK89出土遺物実測図.....	155
図4-111	SK91.....	156
図4-112	SK91出土遺物実測図.....	156
図4-113	SK93～95・97～99.....	157
図4-114	SK98出土遺物実測図.....	157
図4-115	SK100.....	158
図4-116	SK100出土遺物実測図.....	158
図4-117	SK101・105・106・109.....	159
図4-118	SK107.....	160
図4-119	SK107・109出土遺物実測図.....	160
図4-120	SK111～113・116～118・120・126・127・133.....	161
図4-121	SK120出土遺物実測図.....	162
図4-122	SK134.....	163
図4-123	SK134出土遺物実測図.....	164
図4-124	SK136・137・139・140・142.....	165
図4-125	SK137・142出土遺物実測図.....	165

図4-126	SD34・51.....	.166
図4-127	SD34出土遺物実測図.....	.166
図4-128	SD51出土遺物実測図.....	.167
図4-129	SD72・75～78.....	.168
図4-130	SD72出土遺物実測図.....	.169
図4-131	SD73出土遺物実測図.....	.170
図4-132	SD74.....	.170
図4-133	SD74出土遺物実測図.....	.170
図4-134	SD72-1・77.....	.171
図4-135	SD77出土遺物実測図.....	.171
図4-136	SD79・81.....	.171
図4-137	SD81出土遺物実測図.....	.172
図4-138	SD82.....	.172
図4-139	SD82・84・88出土遺物実測図.....	.173
図4-140	SD85・88・89・90.....	.173
図4-141	SD90～93・106・108.....	.174
図4-142	SD91出土遺物実測図1.....	.175
図4-143	SD91出土遺物実測図2.....	.176
図4-144	SD92出土遺物実測図.....	.176
図4-145	SD94～96.....	.177
図4-146	SD97・98.....	.177
図4-147	P11～18出土遺物実測図.....	.179
図4-148	P19～32出土遺物実測図.....	.181
図4-149	P33～37出土遺物実測図.....	.182
図4-150	SE2.....	.184
図4-151	包含層出土遺物実測図.....	.185
図4-152	調査区北壁セクション図.....	.187
図4-153	ST1.....	.188
図4-154	ST1出土遺物実測図.....	.189
図4-155	ST2.....	.190
図4-156	ST2出土遺物実測図1.....	.191
図4-157	ST2出土遺物実測図2.....	.192
図4-158	ST3出土遺物実測図.....	.195
図4-159	ST4.....	.196
図4-160	ST4出土遺物実測図.....	.197
図4-161	ST5.....	.198
図4-162	ST5出土遺物実測図1.....	.199
図4-163	ST5出土遺物実測図2.....	.200

図4-164	ST6.....	202
図4-165	ST6出土遺物実測図.....	203
図4-166	ST7出土遺物実測図.....	204
図4-167	ST8.....	205
図4-168	ST8出土遺物実測図.....	206
図4-169	SB59.....	207
図4-170	SB60.....	207
図4-171	SB61・62.....	208
図4-172	SB61・62出土遺物実測図.....	208
図4-173	SB63~66.....	209
図4-174	SB67~69.....	210
図4-175	SB70~72.....	211
図4-176	SB73・74.....	212
図4-177	SB75・76.....	213
図4-178	SB77・78.....	214
図4-179	SB79~82.....	215
図4-180	SB82出土遺物実測図.....	215
図4-181	SB83~85.....	216
図4-182	SA32~37.....	218
図4-183	SK145.....	219
図4-184	SK145出土遺物実測図.....	219
図4-185	SK151-1・2・3.....	220
図4-186	SK155・156・166.....	221
図4-187	SK155出土遺物実測図.....	222
図4-188	SK156・166出土遺物実測図1.....	222
図4-189	SK166出土遺物実測図2.....	222
図4-190	SK157~159 SD128.....	223
図4-191	SK157出土遺物実測図.....	224
図4-192	SK158出土遺物実測図.....	224
図4-193	SK170~172.....	225
図4-194	SK171出土遺物実測図.....	225
図4-195	SK172出土遺物実測図.....	225
図4-196	SK173・174.....	226
図4-197	SK174出土遺物実測図.....	227
図4-198	SK175・177・178.....	227
図4-199	SK175・177出土遺物実測図.....	228
図4-200	SK179・183・185.....	229
図4-201	SK179出土遺物実測図.....	229

図4－202	SK185出土遺物実測図	.229
図4－203	SK189～193	.230
図4－204	SK199・203～205	.231
図4－205	SK199出土遺物実測図	.232
図4－206	SK203～205出土遺物実測図	.232
図4－207	SK210	.233
図4－208	SK210出土遺物実測図	.233
図4－209	SK219・220・222・223・225	.234
図4－210	SK220・222出土遺物実測図	.234
図4－211	SK224	.235
図4－212	SK224出土遺物実測図	.235
図4－213	SK225出土遺物実測図	.236
図4－214	SK229	.237
図4－215	SK229出土遺物実測図1	.238
図4－216	SK229出土遺物実測図2	.239
図4－217	SD94・95・125	.240
図4－218	SD94・95出土遺物実測図	.241
図4－219	SD97・138	.242
図4－220	SD97出土遺物実測図1	.243
図4－221	SD97出土遺物実測図2	.244
図4－222	SD97出土遺物実測図3	.245
図4－223	SD97出土遺物実測図4	.246
図4－224	SD114・116・118・119・122・124	.247
図4－225	SD113・114出土遺物実測図	.248
図4－226	SD120出土遺物実測図	.249
図4－227	SD124・136・139・140・141	.250
図4－228	SD124出土遺物実測図	.250
図4－229	SD125出土遺物実測図	.250
図4－230	SD136出土遺物実測図	.251
図4－231	SD137・138出土遺物実測図	.251
図4－232	SD139・140出土遺物実測図	.252
図4－233	SD144・147・148	.253
図4－234	ピット出土遺物実測図1	.255
図4－235	ピット出土遺物実測図2	.257
図4－236	SE3・4	.258
図4－237	SX23	.259
図4－238	SX23出土遺物実測図	.259
図4－239	包含層出土遺物実測図	.260

図4-240	調査区東壁セクション図	261
図4-241	ST9	262
図4-242	ST10	263
図4-243	ST10出土遺物実測図	264
図4-244	ST11 SK247	265
図4-245	ST11 SK247出土遺物実測図	266
図4-246	ST12	267
図4-247	ST12出土遺物実測図	268
図4-248	ST13	269
図4-249	ST13出土遺物実測図1	271
図4-250	ST13出土遺物実測図2	272
図4-251	ST14	272
図4-252	ST14出土遺物実測図	273
図4-253	ST16	275
図4-254	ST16出土遺物実測図	276
図4-255	ST17	276
図4-256	ST17出土遺物実測図	277
図4-257	ST18	278
図4-258	ST18出土遺物実測図	278
図4-259	SB86～88	279
図4-260	SB89	280
図4-261	SB89出土遺物実測図	280
図4-262	SA38・39	281
図4-263	SK238	281
図4-264	SK238出土遺物実測図	281
図4-265	SK239・240・242・243・246	282
図4-266	SD153・154・156～158	283
図4-267	SD155 SX25・28	284
図4-268	SD155・156・161出土遺物実測図	285
図4-269	P62出土遺物実測図	286
図4-270	SX30	287
図4-271	SX30出土遺物実測図	287

遺物観察表目次

遺物観察表1(ⅡC区)	293
遺物観察表2(ⅡC区)	294
遺物観察表3(ⅡC区)	295

遺物観察表4(ⅡC区)	296
遺物観察表5(ⅢA-6・7区)	299
遺物観察表6(ⅢA-6・7区)	300
遺物観察表7(ⅢA-6・7区)	301
遺物観察表8(ⅢA-6・7区)	302
遺物観察表9(ⅢA-6・7区)	303
遺物観察表10(ⅢA-6・7区)	304
遺物観察表11(ⅢA-6・7区)	305
遺物観察表12(ⅢA-6・7区)	306
遺物観察表13(ⅢA-6・7区)	307
遺物観察表14(ⅢA-6・7区)	308
遺物観察表15(ⅢA-6・7区)	309
遺物観察表16(ⅢA-6・7区)	310
遺物観察表17(ⅢA-6・7区)	311
遺物観察表18(ⅢA-6・7区)	312
遺物観察表19(ⅢA-6・7区)	313
遺物観察表20(ⅢA-6・7区)	314
遺物観察表21(ⅢA-6・7区・5区)	315
遺物観察表22(ⅢA-5区)	316
遺物観察表23(ⅢA-5区)	317
遺物観察表24(ⅢA-5区)	318
遺物観察表25(ⅢA-5区)	319
遺物観察表26(ⅢB-4区)	323
遺物観察表27(ⅢB-4区)	324
遺物観察表28(ⅢB-4区)	325
遺物観察表29(ⅢB-4区)	326
遺物観察表30(ⅢB-4区)	327
遺物観察表31(ⅢB-4・3区)	328
遺物観察表32(ⅢB-3区)	329
遺物観察表33(ⅢB-3区)	330
遺物観察表34(ⅢB-3区)	331
遺物観察表35(ⅢB-3区)	332
遺物観察表36(ⅢB-3区)	333
遺物観察表37(ⅢB-3・2区)	334
遺物観察表38(ⅢB-2区)	335
遺物観察表39(ⅢB-2区)	336
遺物観察表40(ⅢB-2区)	337
遺物観察表41(ⅢB-2区)	338

遺物觀察表42(ⅢB-2区).....	339
遺物觀察表43(ⅢB-2区).....	340
遺物觀察表44(ⅢB-2区).....	341
遺物觀察表45(ⅢB-2区).....	342
遺物觀察表46(ⅢB-2区).....	343
遺物觀察表47(ⅢB-2区).....	344
遺物觀察表48(ⅢB-2区).....	345
遺物觀察表49(ⅢB-2区).....	346
遺物觀察表50(ⅢB-2区).....	347
遺物觀察表51(ⅢB-2区).....	348
遺物觀察表52(ⅢB-2・1区).....	349
遺物觀察表53(ⅢB-1区).....	350
遺物觀察表54(ⅢB-1区).....	351
遺物觀察表55(ⅢB-1区).....	352
遺物觀察表56(ⅢB-1区).....	353
遺物觀察表57(ⅢB-1区).....	354
遺物觀察表58(ⅢB-4区瓦觀察表).....	355

土坑・竪穴建物跡・掘立柱建物跡計測表目次

土坑計測表1(ⅡC区・ⅢA区1).....	359
土坑計測表2(ⅢA区2).....	360
土坑計測表3(ⅢA区3).....	361
土坑計測表4(ⅢA区4・ⅢB区1).....	362
土坑計測表5(ⅢB区2).....	363
土坑計測表6(ⅢB区3).....	364
土坑計測表7(ⅢB区4).....	365
土坑計測表8(ⅢB区5).....	366
土坑計測表9(ⅢB区6).....	367
竪穴建物跡計測表(ⅢB区).....	368
掘立柱建物跡計測表1.....	369
掘立柱建物跡計測表2.....	370

図版目次

- 図版1 調査前風景(南西より)
調査区南壁セクション(北より)
- 図版2 西部遺構検出状態(東より)
中央部遺構検出状態(南西より)
- 図版3 東部遺構検出状態(南西より)
西部遺構完掘状態(東より)
- 図版4 中央部遺構完掘状態(北西より)
東部遺構完掘状態(南西より)
- 図版5 SB2完掘状態(東より)
SB2 P16 遺物出土状態(北東より)
SB2 P26 遺物出土状態(南より)
SK25 セクション(西より)
SB2 P16 遺物出土状態(東より)
SB2 P16 遺物出土状態(南より)
SA1・8 SD3完掘状態(南より)
SK25完掘状態(西より)
- 図版6 SK1バンクセクション(南より)
SD8バンクセクション(北より)
P8遺物出土状態(東より)
P17遺物出土状態(南より)
SD2バンクセクション(北より)
SD8完掘出土状態(南東より)
P11遺物出土状態(西より)
P18遺物出土状態(北より)
- 図版7 土師質土器皿・杯
- 図版8 土師質土器皿・杯, 石製品(砥石)
- 図版9 調査前風景(北西より)
ⅢA-6区航空写真(西より)
- 図版10 ⅢA-6区航空写真(上空より)
ⅢA-6区遺構完掘状態(南東より)
- 図版11 ⅢA-7区航空写真(北上空より)
ⅢA-7区航空写真(上空より)
- 図版12 ⅢA-7区遺構完掘状態(南東より)
ⅢA-7区遺構完掘状態(北西より)
- 図版13 ⅢA-6区遺構検出状態(東より)
ⅢA-6区遺構検出状態(西より)
- 図版14 ⅢA-7区遺構検出状態(南東より)
ⅢA-7区遺構検出状態(南西より)
- 図版15 ⅢA-6区北壁セクション(南東より)
ⅢA-7区北壁セクション(南より)
- 図版16 SB2完掘状態(北より)
SB3完掘状態(西より)
- 図版17 SD15完掘状態(南東より)
SD25完掘状態(北より)
- 図版18 SD1~4完掘状態(南より)
SD1・25完掘状態(南西より)
- 図版19 SD1バンクセクション(南より)
SD2・3バンクセクション(南より)
- 図版20 SE1完掘状態(南より)
SE2完掘状態(南より)
- 図版21 SK5遺物出土状態(東より)
SK11セクション(西より)
SK20完掘状態(南より)
SK35完掘状態(北西より)
SK5完掘状態(東より)
SK11完掘状態(北より)
SK32セクション(北東より)
SK48完掘状態(南西より)
- 図版22 SK54セクション(南西より)
SK58セクション(南西より)
SD1W完掘状態(南より)
SD1W完掘状態(北より)
SK54完掘状態(南東より)
SK76完掘状態(南西より)
SD1W北西コーナー部(南西より)
SD2・3完掘状態(南より)
- 図版23 SD2バンクセクション(南より)
SD5・6セクション(南より)
SD7セクション(南より)
SD8バンクセクション(南より)

- SD5・6・8完掘状態(南より)
SD5セクション(南より)
SD8・18完掘状態(西より)
SD12完掘状態(西より)
図版24 SD12セクション(西より)
SD15完掘状態西側(北より)
SD15セクション(西より)
SD16セクション(北より)
SD15完掘状態西側(北より)
SD15完掘状態北側(東より)
SD15セクション(東より)
SD18完掘状態(東より)
図版25 SD20セクション(西より)
SD22完掘状態(南より)
SD30完掘状態(東より)
SE1セクション(南より)
SD21セクション(東より)
SD24完掘状態(東より)
SD31完掘状態(東より)
SE2セクション(南より)
図版26 SB19 P4瓦器碗(8)出土状態
SK14土師質土器(40・41など)出土状態
SK30土師質土器皿(67・73)出土状態
SK43床土師質皿出土状態
SK5古銭(11・12)土師質皿(13・14)出土状態
SK17床土師質皿(46)出土状態
SK35土師質土器(86~88)出土状態
SK63遺物出土状態
図版27 SK70土師質土器杯(130)出土状態
SK83土師質土器皿(136~138)出土状態
SD1上層土師質小皿(182)出土状態
SD1土師質土錘(199)出土状態
SK71土師質皿(131)出土状態
SK87遺物出土状態
SD1備前播鉢(198)出土状態
SD38遺物出土状態
図版28 P30青磁(356)出土状態
P36土師質土器杯(362)出土状態
P48土師質土器皿(377)出土状態
P50土師質土器皿(380)出土状態
P31瓦質土器釜脚部(357)出土状態
P43備前大甕(374)出土状態
P49礎石, 土師質土器杯(379)出土状態
P59土師質土器皿(392)出土状態
図版29 近世陶器, 瓦質土器鍋, 土師質土器杯(鉄滓), 瓦質土器釜
図版30 土師質土器皿
図版31 土師質土器皿・杯
図版32 土師質土器皿・杯
図版33 青磁碗・皿(外面)
青磁碗・皿(内面)
図版34 白磁碗(外面)
白磁碗(内面)
図版35 瓦質土器鍋(外面)
瓦質土器鍋(内面)
図版36 瓦質土器羽釜
瓦質土器羽釜
図版37 土師質土器羽釜
瓦質土器釜
図版38 瓦質土器播鉢(外面)
瓦質土器播鉢(内面)
図版39 国内産陶器瀬戸(外面)
国内産陶器瀬戸(内面)
図版40 備前焼壺(外面)
備前焼壺(内面)
図版41 備前焼播鉢(外面)
備前焼播鉢(内面)
図版42 備前焼甕
石鍋
図版43 備前焼甕
土製品土錘
図版44 瓦器碗, 土師質土器皿・杯
図版45 調査前風景(南東より)
調査区東部遺構検出状態(西より)
図版46 調査区遺構検出状態(西より)

- 遺構検出状態(東より)
- 図版 47 調査区西部遺構検出状態(西より)
調査区西部遺構完掘状態(西より)
- 図版 48 SD40バンクセクション
SD56青磁碗(490)出土状態
SD56バンクセクション
SE3バンクセクション
SD46バンクセクション
SD56青花皿(493)出土状態
SD56完掘状態
土師質土器杯(519)出土状態
- 図版 49 土師質土器皿
- 図版 50 土師質土器皿・杯
- 図版 51 調査前風景(西より)
遺構検出状態(東より)
- 図版 52 遺構完掘状態(上空より)
遺構完掘状態(西より)
- 図版 53 調査区北壁セクション(南より)
調査区北壁セクション(南西より)
- 図版 54 SK35セクション(南より)
SK44セクション(北より)
SK59遺物出土状態(北より)
SD2遺物出土状態(南より)
SK43セクション(南より)
SK54遺物出土状態(南より)
SD1遺物出土状態(西より)
SD5バンクセクション(北より)
- 図版 55 SD5遺物出土状態(西より)
SD33バンクセクション(西より)
SD57遺物出土状態(北より)
D10-3-20P7遺物出土状態(南より)
SD5遺物出土状態(北より)
SD43遺物出土状態(南東より)
SD61バンクセクション(南より)
D10-4-19P14遺物出土状態(北より)
- 図版 56 暗渠1〜3蓋石・暗渠4瓦検出状態(南より)
暗渠1〜3蓋石・暗渠4瓦検出状態(北より)
- 図版 57 暗渠1蓋石検出状態(北より)
- 暗渠2蓋石検出状態(南より)
暗渠4瓦検出状態(北より)
土管出土状態(北東より)
暗渠1セクション(南より)
暗渠4瓦検出状態(西より)
SX1セクション(南西より)
SX1遺物出土状態(北より)
- 図版 58 暗渠1〜3蓋石除去・暗渠4完掘状態
(南より)
暗渠1蓋石除去・暗渠4完掘状態(南より)
- 図版 59 土師器皿, 土師質土器皿・杯, 瓦質土器
鍋・釜
- 図版 60 土師質土器皿・杯, 瓦質土器釜
- 図版 61 瓦質土器鍋・羽釜, 土師質土器皿・杯
- 図版 62 瓦質土器羽釜・焜炉, 土師質土器羽釜・
焜炉, 磁器碗・皿, 陶器播鉢, 瓦
- 図版 63 調査前遠景(東より)
調査区西部航空写真(上空より)
- 図版 64 調査区東部航空写真(上空より)
調査区北部遺構検出状態(西より)
- 図版 65 調査区北部遺構完掘状態(北西より)
調査区西部遺構完掘状態(西より)
- 図版 66 調査区東部遺構検出状態(西より)
調査区東部遺構完掘状態(西より)
- 図版 67 調査区西部北壁セクション(南東より)
調査区東部北壁セクション(南より)
- 図版 68 調査区西部完掘状態(北東より)
調査区西部南側完掘状態(西より)
- 図版 69 調査区東部北側完掘状態(東より)
調査区東部南側完掘状態(南より)
- 図版 70 SD34・51バンクセクション(東より)
SD72バンクセクション(南より)
SD73黒色土器杯出土状態(北より)
SD81刀子, 土師質土器出土状態(南東より)
SD72・77バンクセクション(南東より)
SD82バンクセクション(北より)
SD81刀子, 土師質土器出土状態

- SD81 刀子出土状態(東より)
- 図版 71 SK85 完掘状態(南より)
- SK100 バンクセクション(北より)
- SD91 集石出土状態(北より)
- 掘立柱建物跡完掘状態(北より)
- SK90 遺物出土状態(東より)
- SK100 完掘状態(北より)
- 石臼出土状態
- P15 白磁皿出土状態
- 図版 72 SK107 青花皿出土状態
- SK134 バンクセクション(南より)
- SK134 土師器杯出土状態(北東より)
- SD89・90 バンクセクション(南より)
- SK142 瓦質土器出土状態
- SK134 土師器甕出土状態(北東より)
- SK134 土師器甕出土状態(南より)
- SD91 青磁皿出土状態
- 図版 73 SD91 砥石出土状態
- SD95 バンクセクション(南より)
- SD95 瓦質土器釜出土状態
- SD96 バンクセクション(南より)
- SD92 バンクセクション(南より)
- SD95 青花皿出土状態
- SD95 石臼出土状態
- SD93・106 バンクセクション(南より)
- 図版 74 P27 土師質土器小壺出土状態1(東より)
- SB55 土師質土器出土状態(北より)
- P20 土師器出土状態(東より)
- P26 上面土師器杯出土状態(北より)
- P27 土師質土器小壺出土状態2(東より)
- P26 土師器皿出土状態(北より)
- P37 青花碗(285)出土状態
- P23 遺物出土状態(東より)
- 図版 75 土師質土器杯, 土師器皿
- 図版 76 土師質土器杯, 土師器皿, 瓦質土器釜,
常滑焼甕, 白磁皿
- 図版 77 土師器甕, 土師質土器小壺・鍋, 須恵器
器台・甕, 青花碗・皿, 青磁皿, 刀子
- 図版 78 土師質土器皿・杯, 土師器皿・杯
- 図版 79 遺構検出状態(西より)
- 上面遺構完掘状態(西より)
- 図版 80 遺構完掘状態(上空より)
- 遺構完掘状態(北方向より)
- 図版 81 調査区中央北壁セクション(南より)
- 調査区北壁セクション(南より)
- 図版 82 ST1 完掘状態(北より)
- ST1 遺物出土状態(西より)
- 図版 83 ST2 完掘状態(東より)
- ST2 遺物出土状態(南西より)
- ST2-SK1 遺物出土状態(南東より)
- ST2 床面検出状態(南より)
- ST2 遺物出土状態(南より)
- 図版 84 ST3 完掘状態(北より)
- ST3-SK1 半裁セクション
- ST3 カマド除去状態
- ST3 カマド半裁状態
- ST3 上面遺構完掘 床面ピット検出状
態
- 図版 85 ST4 完掘状態(東より)
- ST4 バンク 遺物出土状態(北西より)
- 図版 86 ST5 完掘状態(東より)
- ST5 遺物出土状態(東より)
- ST5 中央ピット遺物出土状態(南より)
- ST5 遺物出土状態(北より)
- ST5 中央ピット北床面遺物出土状態(北
より)
- 図版 87 ST6 完掘状態(南より)
- ST6 バンクセクション(東より)
- ST6 調査区壁出土遺物状態(東南より)
- ST6 カマド完掘状態(南より)
- ST6 鉄鏝出土状態(南西より)
- 図版 88 ST7 完掘状態(北東より)
- ST7-P1 遺物出土状態(北より)
- ST7 遺物出土状態(東より)
- ST7-P3 遺物出土状態(北より)
- ST7 バンクセクション(南より)

- 図版 89 ST8 ベッド除去状態(南より)
ST8 バンクセクション(南より)
ST8 床面検出状態(東より)
ST8 バンクセクション(南より)
ST8 石包丁出土状態
- 図版 90 SB59 完掘状態(東より)
SB60 完掘状態(東より)
- 図版 91 調査区南西部SK171・172 完掘状態(東より)
SK145 完掘状態(北より)
- 図版 92 SK229 遺物出土状態(南より)
SK229 遺物出土状態
- 図版 93 調査区中央南側完掘状態(南より)
SK224 完掘状態(南より)
- 図版 94 SD139・140 バンクセクション(南より)
SD97 バンクセクション(東より)
SD114 バンクセクション
SK199 完掘状態(南より)
SD125・95 バンクセクション(東より)
SD126 バンクセクション
SD114 遺物出土状態
SK225 セクション(北より)
- 図版 95 SK157 セクション(西より)
SK171 遺物出土状態(南より)
SK145 遺物出土状態(東より)
SK145 黒色土器碗出土状態(東より)
SK157 遺物出土状態(南より)
SK172 遺物出土状態
SK145 セクション(北より)
SK155 遺物出土状態
- 図版 96 SD97 遺物出土状態
SK224 遺物出土状態
包含層弥生土器甕出土状態
P40 遺物出土状態
P38 遺物出土状態
P51 遺物出土状態
包含層青磁出土状態
SD95 遺物出土状態
- 図版 97 弥生土器壺・甕
- 図版 98 弥生土器鉢, ミニチュア土器, 石製品(石包丁)
- 図版 99 弥生土器鉢, 粘土塊, ミニチュア土器, 石製品(石包丁)
- 図版 100 弥生土器鉢, 粘土塊, 支脚, 石製品(石包丁), 黒色土器碗, 土師器杯, 瓦質土器鍋
- 図版 101 瓦質土器鍋, 土師器皿・杯・甕, 須恵器杯, 青磁碗・盤, 白磁
- 図版 102 土師器杯, 黒色土器碗, 土師質土器羽釜・杯
- 図版 103 遺構検出状態(南より)
遺構完掘状態(南より)
- 図版 104 遺構完掘状態(上空より)
調査区東壁セクション(西より)
- 図版 105 ST9 完掘状態(東より)
ST10 完掘状態(南東より)
- 図版 106 ST14 完掘状態(南西より)
ST16 完掘状態(南より)
- 図版 107 ST17 完掘状態(南西より)
ST18 完掘状態(西より)
- 図版 108 調査区南側完掘状態(北西より)
SB89 完掘状態(北より)
- 図版 109 調査区北側完掘状態(西より)
調査区完掘状態(北上空より)
- 図版 110 ST10 中央ピットセクション(南より)
ST10 遺物出土状態(南より)
ST12 遺物出土状態(東より)
ST13 遺物出土状態(西より)
ST10 遺物出土状態(東より)
ST10 甕出土状態(南より)
ST12 遺物出土状態(東より)
ST13 遺物出土状態(北より)
- 図版 111 ST14 遺物出土状態(南より)
ST14 南北バンクセクション(西より)
ST17 東西バンクセクション(北より)
ST18 バンクセクション(西より)
ST14 砥石出土状態

ST16 カマド検出状態	SX30 完掘状態(東より)
ST17 遺物出土状態	SD155 バンクセクション(南より)
ST18 遺物出土状態	SD156 完掘状態(北より)
図版 112 ST10 土製品土玉(676)出土状態	SX30 須恵器杯(787)出土状態
ST11 完掘状態(南より)	SX30 土師器皿(790)出土状態
SB86 完掘状態(東より)	図版 114 弥生土器壺・甕
SK238 完掘状態	図版 115 弥生土器壺・甕・鉢・高杯, 石製品
ST11 遺物出土状態(東より)	図版 116 弥生土器鉢・高杯, ミニチュア土器,
ST13 完掘状態(東より)	支脚
SK238 セクション(東より)	図版 117 弥生土器鉢, ミニチュア土器, 支脚, 須
SK246 セクション(南より)	恵器甕・杯蓋・高杯
図版 113 SK246 完掘状態	図版 118 弥生土器甕・鉢, 須恵器杯, 土師器皿, 土
SD155 白磁皿(780)出土状態(東より)	製品, 石製品
SD161 完掘状態(北より)	

付図目次

- 付図1 東野土居遺跡調査第ⅡC区遺構平面図(S=1/200)
- 付図2 東野土居遺跡調査第ⅢA-6・7区遺構平面図(S=1/200)
- 付図3 東野土居遺跡調査第ⅢA-5区遺構平面図(S=1/200)
- 付図4 東野土居遺跡調査第ⅢB-4区遺構平面図(S=1/200)
- 付図5 東野土居遺跡調査第ⅢB-3区遺構平面図(S=1/200)
- 付図6 東野土居遺跡調査第ⅢB-2・1区遺構平面図(S=1/200)
- 付図7 東野土居遺跡調査第ⅡC区・ⅢA区遺構平面図(S=1/500)
- 付図8 東野土居遺跡調査第ⅢB区遺構平面図(S=1/500)

第 I 章 序章

1. はじめに

本書は、高知県教育委員会が平成 20 年度に実施した試掘調査及び平成 21 年度に実施した確認調査の結果を受け、平成 21～23 年度に実施した高知南国道路外 1 件埋蔵文化財発掘調査のうち東野土居遺跡における調査第ⅡC 区及び調査第Ⅲ A・B 区の発掘調査成果をまとめたものである。

この調査は、国土交通省(四国地方整備局土佐国道事務所)が計画し、実施している一般国道南国安芸道路建設工事に伴い、工事によって影響を受ける遺跡(埋蔵文化財)について事前の発掘調査を行ったうえで出土遺物等の整理作業を行い、遺跡の記録保存を図ることを目的としている。

東野土居遺跡は平成元年に行われた分布調査によって発見された遺跡で、平成 20 年度に実施した事前の試掘調査によって周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)範囲が拡大している。本書で報告するのは平成 22・23 年度に行われた東野土居遺跡の発掘調査報告書である。

本遺跡は香宗川右岸に広がる野市台地上に立地する弥生時代から近世までの複合遺跡で、弥生時代及び古墳時代の集落跡や古代の掘立柱建物跡群、中世の屋敷跡群、近世の屋敷跡群などが確認されている。

2. 調査の契機と経過

南国安芸道路は、高知市と安芸市間 36 km を結ぶ一般国道 55 号の自動車専用道路である高知東部自動車道の一環として安芸地方生活圏と高知中央生活圏の連携強化を図るほか、四国横断自動車道と接続し広域交通ネットワークの形成を目的とする道路で、昭和 62 年には国の高規格幹線道路網計画に組み込まれている。高知東部自動車道は延長 36 km と長く、高知県内で最も周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)が集中する高知平野を横断する路線であることから大規模で長期的な発掘調査が予想された。埋蔵文化財について具体的な調整を開始したのは平成 15 年度からであり、まず埋蔵文化財の取り扱いについて国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所と高知県教育委員会が調整を行った。その結果、当面の工事予定区域については周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)があるもののこれまで発掘調査が実施されておらず、遺構の遺存状態が全く不明であるため土地の買収が完了した箇所の試掘調査及び確認調査を平成 19 年度までは財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター(現公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター)、平成 20 年度からは高知県教育委員会が順次実施した。

平成 20 年度の南国安芸道路

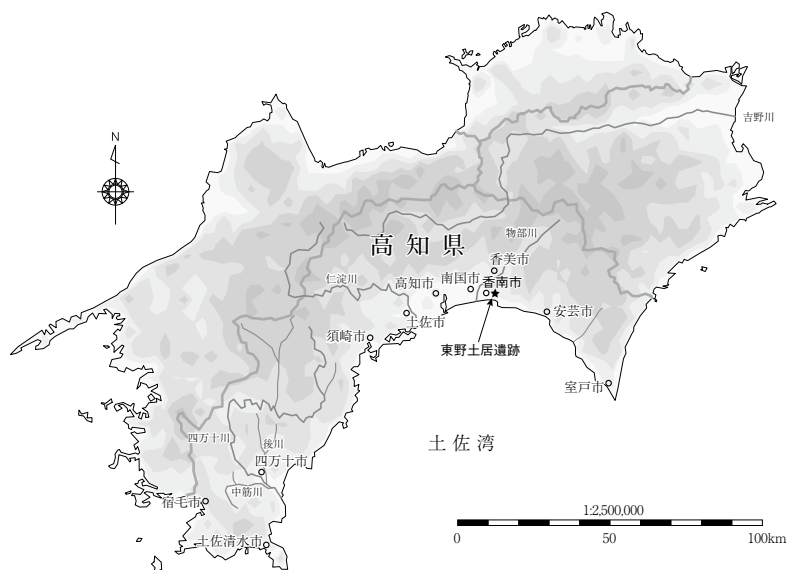


図1-1 東野土居遺跡位置図

2. 調査の契機と経過

関係では東野・土居地区が対象となり試掘調査が実施された結果、調査対象地に設定したトレンチから遺構が検出され、当該ヶ所が本発掘調査の必要があると判断された。また、平成21年度には確認調査が実施され、調査対象地で36ヶ所のトレンチから遺構が検出された。本遺跡は平成元年に実施された分布調査の結果確認された遺跡であり、地名をとって「東野土居遺跡」と命名されていたが、この試掘調査の結果を受けて周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の範囲は拡大することとなった。このため、国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所と高知県教育委員会の間で本発掘調査について協議を行い、平成21年度に本発掘調査を実施することとなった。調査は国土交通省四国地方整備局から高知県教育委員会が業務委託を受け、平成21年5月11日付けで高知県教育委員会と財団法人高知県文化財団(現公益財団法人高知県文化財団)との間で業務委託契約を締結したうえで、本発掘調査を実施した。また、平成21年度において未買収であった箇所については、当年度に高知県教育委員会が試掘調査及び確認調査を行い遺物包含層及び遺構が確認されたことから、平成21年度と同様に国土交通省四国地方整備局から高知県教育委員会が業務委託を受け、平成22年度は平成22年4月1日付け、平成23年度は平成23年4月1日付けで高知県教育委員会と財団法人高知県文化財団(現公益財団法人高知県文化財団)との間で業務委託契約を締結したうえで、本発掘調査を実施した。平成24年度からは引き続き整理作業を実施し、平成25年度には調査第Ⅰ区～ⅡB区の調査成果が『東野土居遺跡Ⅰ』として公刊されている。

3. 調査の概要

(1) 遺跡の概要

東野土居遺跡は平成元年に実施された分布調査で確認されていた遺跡で、平成20年度の試掘調査

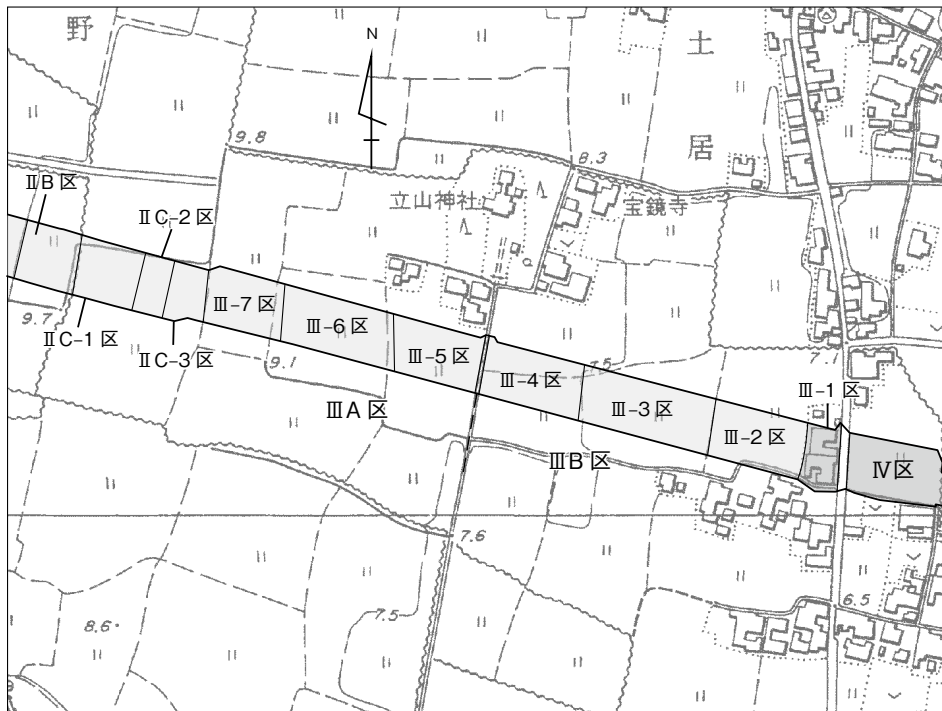


図1-2 調査区位置図

によって周知の埋蔵文化財包蔵地範囲は拡大され、弥生時代から近世にかけての遺構・遺物が確認される複合遺跡となった。調査第Ⅰ区からⅡB区の調査は平成21年～23年度にかけて実施されており、20,752㎡を対象としている。18世紀代から19世紀に属すると考えられる屋敷跡を中心とする近世遺構を確認している。これら屋敷跡は方形の区画溝に囲まれており、掘立柱建物跡や土坑などが検出されている。

ⅠC区は一辺65m、ⅠB・D区は一辺25～30mの長さの方形区画を有しており、屋敷地に大小のあることが判明している。この差異は住人の階層性に起因する可能性が考えられている。これらの屋敷の特徴として肥溜めと考えられる径15m前後の円形または方形の素掘りまたはハンダで固めた密集土坑が付属しており、土坑群を覆う掘立柱建物跡を伴う例が確認されている。これらの屋敷群は、近世農村を構成するものであるが、先行する中世や近世初期の遺構が調査区内で見られないことから成立期の村落遺構として捉えられている。また屋敷地の地割りや区画溝が現在の水田畦畔や畦道に一致することから18世紀に成立した屋敷群が、現在の集落の出発点となっていると考えられている。今回対象範囲となった調査第ⅡC区・ⅢA区・ⅢB区はⅡB区の東側に位置し、調査対象地のほぼ中央部にあたる。特に中央部から東部にかけて一辺約35～55mを測る10区画以上の屋敷跡や幅3～4m、深さ1.5～2mを測る堀に囲まれた一辺約80mの屋敷跡などが確認されており、中世段階の屋敷群が展開していたものとみられ、さらにこの時代を中心とする遺構が多く検出されており、近世以前の歴史を考えていく上で貴重な成果をえることができた。

(2) 調査の方法

試掘調査の結果を受けて、平成21年度に世界測地系の3級基準点及び4級基準点を設置し、発掘調査に備えた。

測量は世界測地系第4座標系(Ⅳ系)の基準点を使用し、 $X=61,800\text{m}$ 、 $Y=19,400\text{m}$ (北緯 $33^{\circ}33'25''$ 、東経 $133^{\circ}42'32''$ 、真北方向角 $-0^{\circ}06'56''$)を原点とし、X軸にA～G、Y軸に1～15(100mグリッド:大グリッド)を配した。100mグリッドの中にはそれぞれの大グリッド番号を冠する20m(中グリッド:1～25)グリッドを設定し、調査で使用する4mグリッド(小グリッド:1～25)にはA1-1-1と枝番を付した。なお、遺構図にはグリッド名ではなく座標値を標記している。

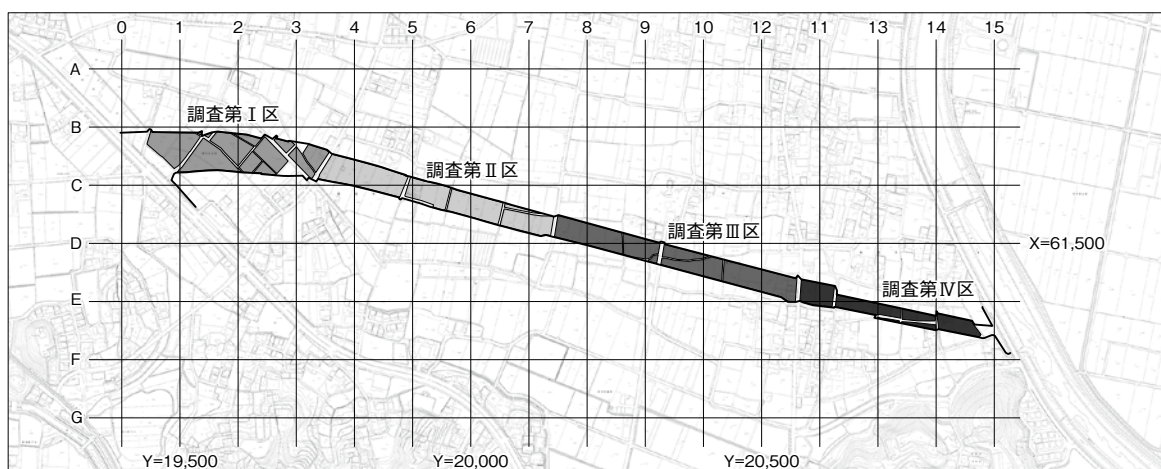


図1-3 調査区グリッド設定図

3. 調査の概要 (2) 調査の方法

堆積層の掘削は原則として遺物包含層直上までは機械力を導入し、遺物包含層以下は人力掘削を実施した。なお、遺物包含層でも遺物量が少ない場合などは作業効率を考慮し、機械力で遺構検出を行った。また、遺跡の成り立ち等を明らかにするために地質学や土壌学等関連分野の協力を得て、古環境の復元にも重点を置いた。

第Ⅱ章 ⅡC区

1. 調査区の概要と基本層序

(1) 調査区の概要

調査第Ⅱ区東側に位置する調査区で、調査面積は2,773㎡である。遺構は調査区中央部南側に集中

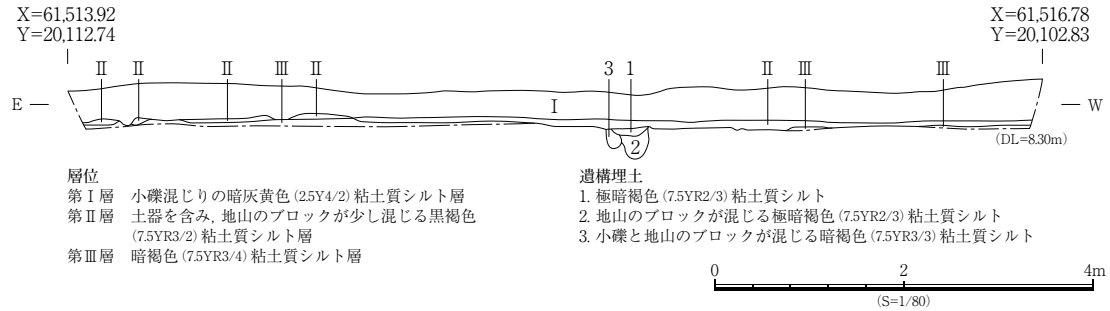


図2-1 調査区南壁セクション図

しているが、総じて遺構密度は低い。検出された遺構は掘立柱建物跡2棟、柵列8列、土坑19基、溝11条などで、遺物は溝や柱穴から多く出土している。

(2) 基本層序(図2-1)

調査区で認められた基本層序は以下のとおりである。

- 第Ⅰ層 小礫混じりの暗灰黄色(25Y4/2)粘土質シルト層
- 第Ⅱ層 土器を含み、地山のブロックが少し混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト層
- 第Ⅲ層 暗褐色(7.5YR3/4)粘土質シルト層

2. 検出遺構と遺物

(1) 掘立柱建物跡

SB1(図2-2・3)

桁行4間(7.4m)、梁行2間(4.5m)、面積33.3㎡の南北

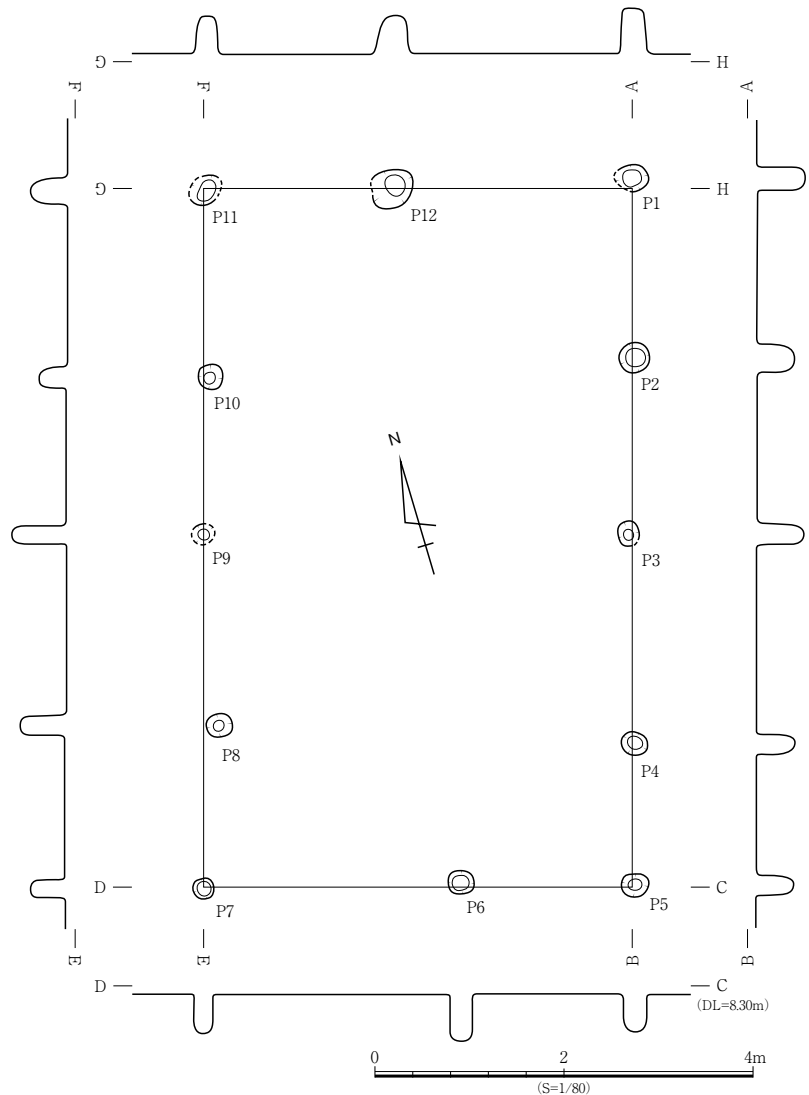


図2-2 SB1

2. 検出遺構と遺物 (2) 柵列

棟で、棟方向は $N-15^{\circ}-E$ である。柱穴間は桁行で1.5～2.3m、梁行で1.8～2.7mで、柱筋通りは悪い。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径25～50cm、深さ30～60cmを測る。埋土は地山のブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

1はP3、2・3はP10、4はP11から出土している。1～4は土師質土器で、1～3は杯、4は小皿である。

SB2(図2-4・5)

桁行4間(7.4m)、梁行4間(5.2m)、面積38.5㎡の南北棟で、棟方向は $N-16^{\circ}-E$ である。柱穴間は桁行で1.8～2.1m、梁行で1.0～1.6mで、柱筋通りは悪い。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径20～30cm、深さ20～50cmを測る。埋土は地山のブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、遺物は南東隅の柱穴(P4)と南側柱東から1間目(P5)、東側柱南から1間目の柱穴(P3)から土師質土器がまとまって出土している。

5～9はP3、10～26はP4、27～30はP5、31はP10から出土している。5～31は土師質土器で、5・6・10～16・27・31は杯、7～9・17～26・28～30は小皿である。

(2) 柵列

SA1

調査区中央部南側、SB1の西側で検出した南北塀跡($N-15^{\circ}-E$)である。8間(19.7m)を検出し、柱間

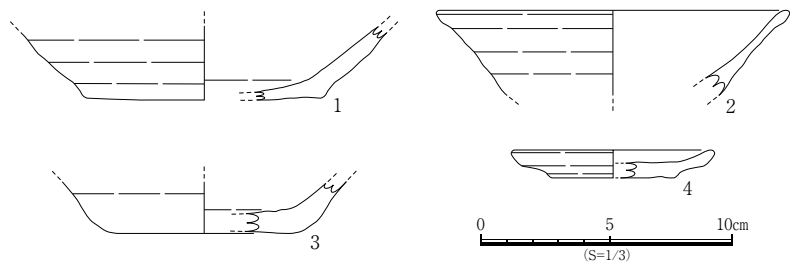


図2-3 SB1出土遺物実測図

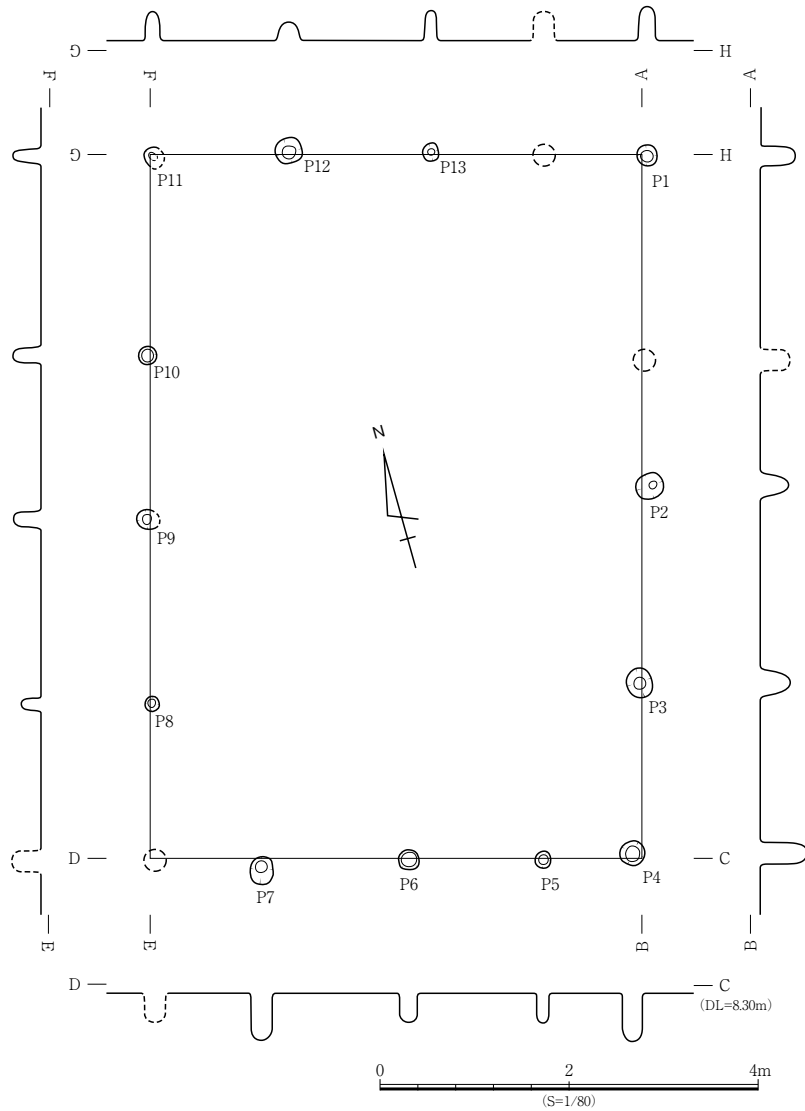


図2-4 SB2

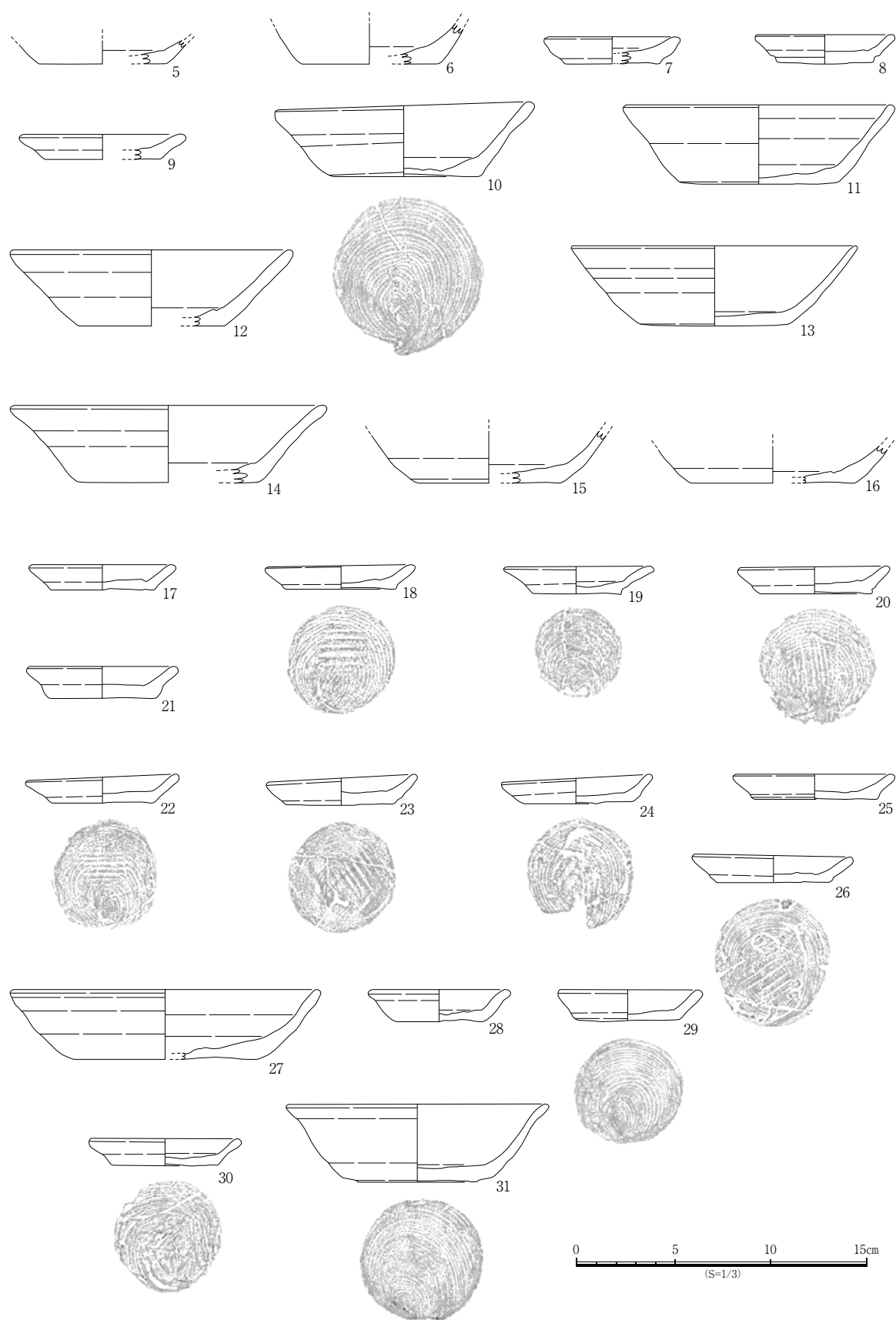


图2-5 SB2出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (3) 土坑

寸法は1.4～4.2mで、柱穴は径15～20cmの円形及び楕円形である。埋土は暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SA2(図2-6)

調査区中央部南側，SB1の西側で検出した南北塀跡(N-15°-E)である。8間(18.2m)を検出し、柱間寸法は1.2～3.5mで、柱穴は径15～30cmの円形及び楕円形である。埋土は暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SA3

調査区中央部南側，SB1の西側で検出した南北塀跡(N-15°-E)である。5間(7.9m)を検出し、柱間寸法は1.1～2.4mで、柱穴は径20～30cmの円形及び楕円形である。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SA4

調査区中央部南側，SB1の西側で検出した南北塀跡(N-15°-E)である。7間(13.3m)を検出し、柱間寸法は0.9～2.5mで、柱穴は径20～30cmの円形及び楕円形である。埋土は暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SA5

調査区中央部南側，SB1の西側で検出した南北塀跡(N-15°-E)である。10間(18.4m)を検出し、柱間寸法は0.8～3.2mで、柱穴は径15～30cmの円形及び楕円形である。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SA6

調査区中央部南側，SB1の西側で検出した南北塀跡(N-15°-E)である。4間(7.4m)を検出し、柱間寸法は1.4～2.9mで、柱穴は径15～25cmの円形及び楕円形である。埋土は黒褐色(10YR3/1)で、出土遺物には土師質土器がみられた。

SA7(図2-7)

調査区中央部南側，SB1の西側で検出した南北塀跡(N-15°-E)である。5間(10.2m)を検出し、柱間寸法は1.0～2.7mで、柱穴は径20～40cmの円形及び楕円形である。埋土は黒褐色(10YR3/1)で、出土遺物には土師質土器がみられた。

SA8

調査区中央部南側，SB1の西側で検出した南北塀跡(N-13°-E)である。4間(6.5m)を検出し、柱間寸法は1.2～2.3mで、柱穴は径25～40cmの円形及び楕円形である。埋土は暗褐色(10YR3/3)で、出土遺物は皆無であった。

(3) 土坑

SK1

調査区南西部に位置する土坑で、平面形は不整円形を呈し、長軸0.76m，短軸0.71m，深さ4cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒色(7.5YR1.7/1)粘土質シルトである。出土遺物は皆無であった。

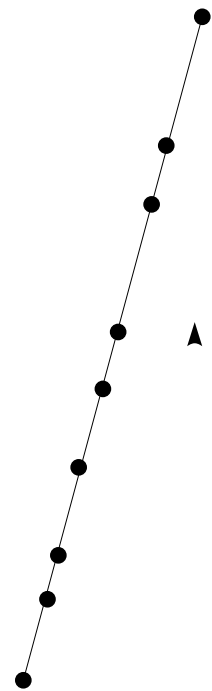


図2-6 SA2

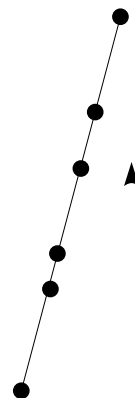


図2-7 SA7

SK2(図2-8・9)

調査区中央部北側に位置するハンダ土坑で、平面形は隅丸方形を呈し、長軸 2.56m、深さ 86 cmを測る。北側は調査区外へ続き、短軸は不明で、埋土は1層が風化小礫と小礫を含み、黒色(10YR1.7/1)シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、2層が中礫を含み、褐色(10YR4/6)粘土とハンダ塊が混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、3層が中礫を多く含む暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、4層が中礫を含み、褐色(10YR4/6)粘土のブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、5層が粗粒砂混じりの明黄褐色(10YR6/8)シルト、6層が風化礫が多く混じる褐色(7.5YR4/6)粘土、7層が褐色(7.5YR4/6)粘土のブロックを含む暗褐色(7.5YR3/4)粘土質シルトで、出土遺物には弥生土器、土師器、須恵器、古代瓦、土師質土器、備前焼、近世陶磁器、近世瓦、石製品がみられた。

32は石製品の砥石である。

SK3

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、SK4を切る。SD3に切られるため長軸と短軸は不明で、深さは7cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦質土器がみられた。

SK4

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈する。SK3に切られるため短軸は不明で、長軸 0.77m、深さ 6 cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

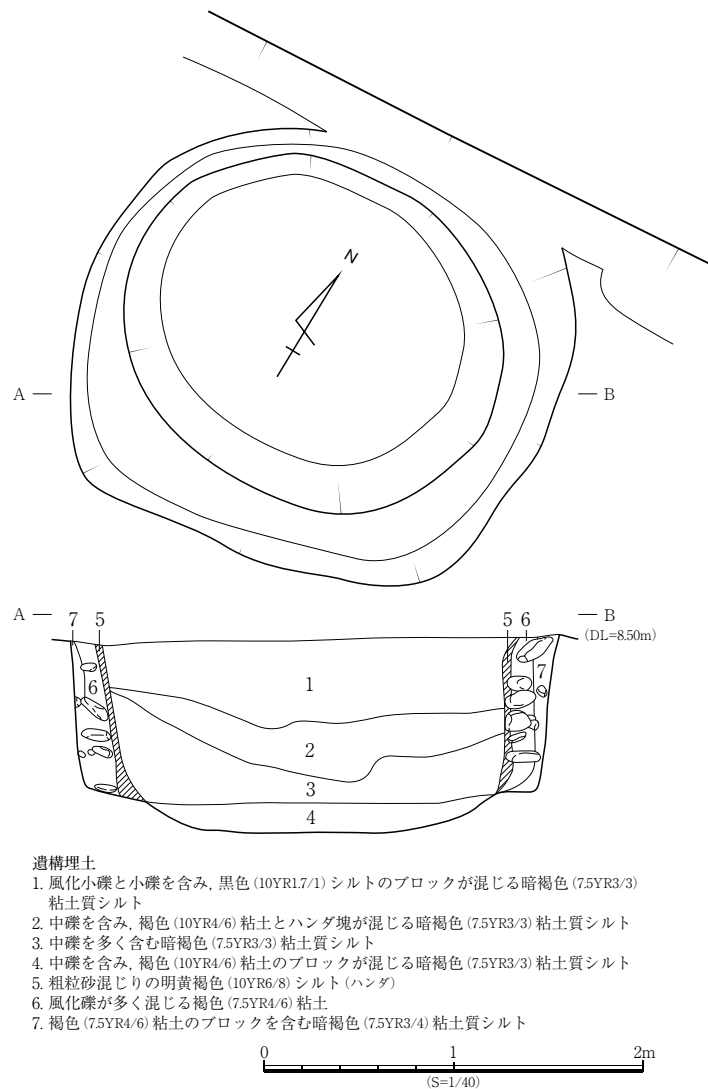


図2-8 SK2

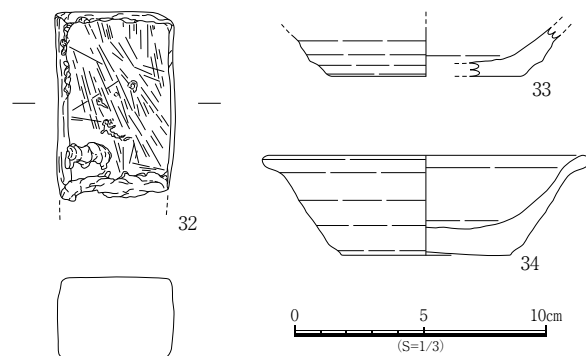


図2-9 SK2・6・8出土遺物実測図

SK5

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は隅丸長方形を呈する。SD3に切られるため長軸は不明で、短軸0.62m、深さ17cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物は皆無であった。

SK6(図2-9)

調査区中央部に位置する土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸0.68m、短軸0.59m、深さ9～24cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

33は土師質土器の杯である。

SK7

調査区中央部北側に位置する土坑で、北側と東側は調査区外へ続き、平面形、長軸、短軸は不明である。深さは11cmを測り、埋土は黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトで、出土遺物は皆無であった。

SK8(図2-9)

調査区中央部北側に位置する土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸0.84m、短軸0.73m、深さ7cmを測る。埋土は地山のブロックが多く混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

34は土師質土器の杯である。

SK9

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は方形を呈する。SK10に切られるため短軸は不明で、長軸0.56m、深さ10cmを測る。埋土は土器を含み、地山のブロックが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトで、出土遺物は皆無であった。

SK10(図2-10)

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は方形を呈する。SK9を切っており、長軸0.56m、短軸0.47m、深さ9cmを測る。埋土は土器を含み、地山のブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

35は土師質土器の小皿である。

SK11

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸0.90m、短軸0.43m、深さ5cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SK12

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸0.69m、短軸0.63m、深さ14cmを測る。埋土は1層が土器を含み、地山のブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)シルト、2層が地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、出土遺物は皆無であった。

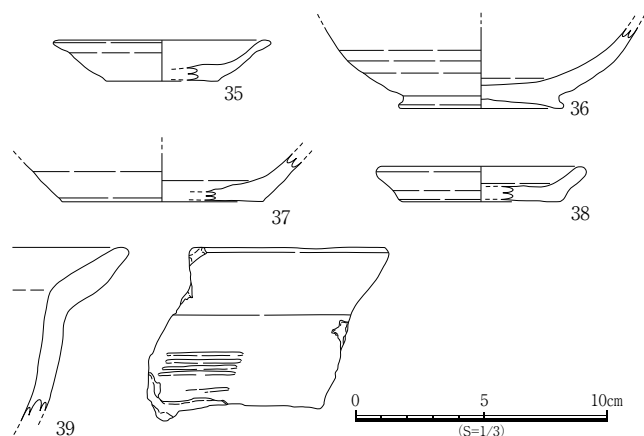


図2-10 SK10・14・17出土遺物実測図

SK13

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸0.81m、短軸0.56m、深さ22cmを測る。埋土は1層が地山のブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト、2層が地山のブロックが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト、3層が暗褐色(7.5YR3/3)シルト、4層が地山のブロックが少し混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SK14(図2-10・11)

調査区中央部に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸1.13m、短軸0.39～0.73m、深さ7～34cmを測る。埋土は1層が小礫と地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルト、2層が地山のブロックを多く含む極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルト、3層が地山のブロックを含む極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルト、4層が地山のブロックを含む黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルト、5層が小礫混じりの極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルト、6層が地山のブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

36は土師質土器の杯である。

SK15

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.08m、短軸0.73m、深さ15cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SK16

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸0.86m、短軸0.35m、深さ6cmを測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SK17(図2-10)

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は楕円形を呈する。北西側と南東側は柱穴に切られるため長軸は不明で、短軸0.59m、深さ29cmを測る。埋土は1層が土器を含み、地山のブロックが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、2層が地山のブロックが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、3層が地山のブロックが多く混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には弥生土器、土師質土器、瓦器がみられた。

37～39は土師質土器で、37は杯、38は小皿、39は鍋とみられるものである。

SK18(図2-12)

調査区中央部南側に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸0.77m、短軸0.74m、深さ8cmを測る。埋土は地山のブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

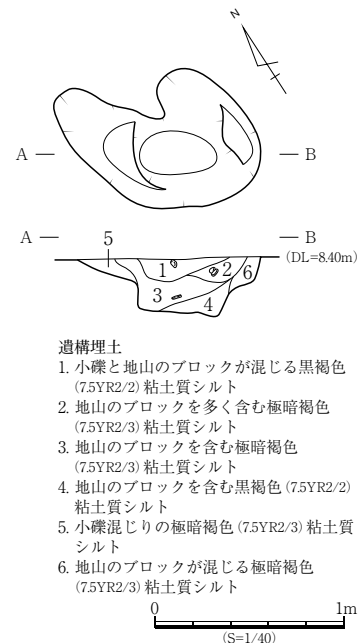


図2-11 SK14

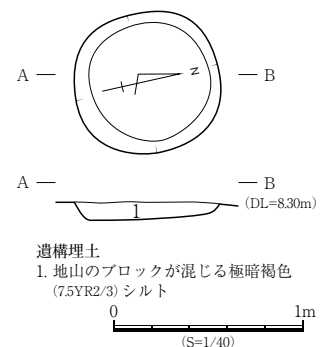


図2-12 SK18

2. 検出遺構と遺物 (4) 溝

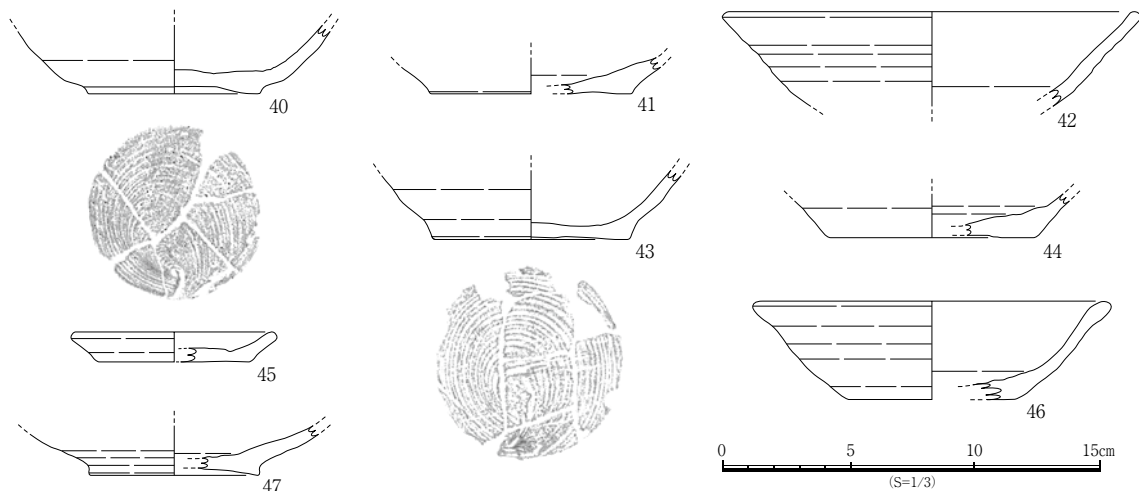


図2-13 SD1~3出土遺物実測図

SK19

調査区東部北側に位置する土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.08m、短軸0.71m、深さ15～17cmを測る。埋土は1層が地山のブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)シルト、2層が地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト、3層が地山のブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)シルト、4層が地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト、5層が地山のブロックが多く混じる極暗褐色(7.5YR2/3)シルトで、出土遺物は皆無であった。

(4) 溝

SD1(図2-13)

調査区西部に位置する溝で、確認延長30.4m、幅0.39～0.76m、深さ13cmを測り、南北側とも調査区外へ続く。埋土は1層が黒色(10YR2/1)シルト、2層が地山のブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

40・41は土師質土器の杯である。

SD2(図2-13・14)

調査区西部に位置する溝で、確認延長36.1m、幅0.33～1.23m、深さ4～10cmを測り、南北側とも調査区外へ続く。埋土は1層が暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、2層が黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルト、3層が風化礫と小礫混じりの黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト、4層が暗褐色(7.5YR3/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦器がみられた。

42～45は土師質土器で、42～44は杯、45は小皿である。

SD3(図2-13)

調査区中央部に位置する溝で、確認延長35.7m、幅0.53～0.98m、深さ7～30cmを測り、南北側とも調査区外へ続く。埋土は1層が黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルト、2層が暗褐色(7.5YR3/4)粘土質シルトのブロックを含む黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルト、3層が暗褐色(7.5YR3/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト、4

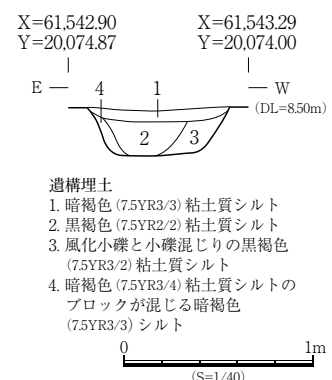


図2-14 SD2

層が黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

46・47は土師質土器の杯である。

SD4

調査区中央部北側に位置する溝で、確認延長11.8m、幅0.43～0.81m、深さ3～4cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には近世磁器がみられた。

SD5

調査区中央部北側に位置する溝で、確認延長6.9m、幅0.14～0.23m、深さ3～7cmを測り、東側は調査区外へ続く。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物は皆無であった。

SD6

調査区中央部北側に位置する溝で、北側は調査区外へ続き、幅は不明である。確認延長4.0m、深さ6～9cmを測り、埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SD7

調査区中央部から東部に位置する溝で、確認延長31.4m、幅0.27～0.42m、深さ2～12cmを測り、東側は調査区外へ続く。埋土は土器を含み、小礫と地山のブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/4)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SD8(図2-15～17)

調査区東部に位置する溝で、確認延長21.1m、幅1.02～1.28m、深さ19～26cmを測り、東側はⅢA区へ続き、北側と南側は調査区外へ延びる。埋土は1層が土器を含み、地山のブロックが少し混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルト、2層が小礫と地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルト、3層が地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物には弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、備前焼がみられた。

48～57は土師質土器で、48～55は杯、56・57は小皿である。

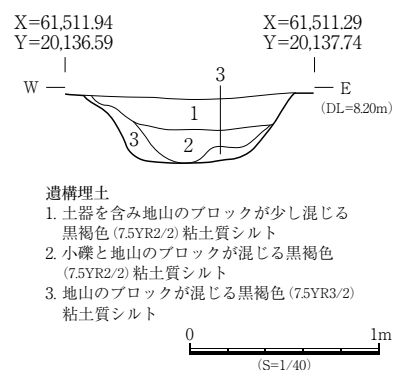


図2-15 SD8

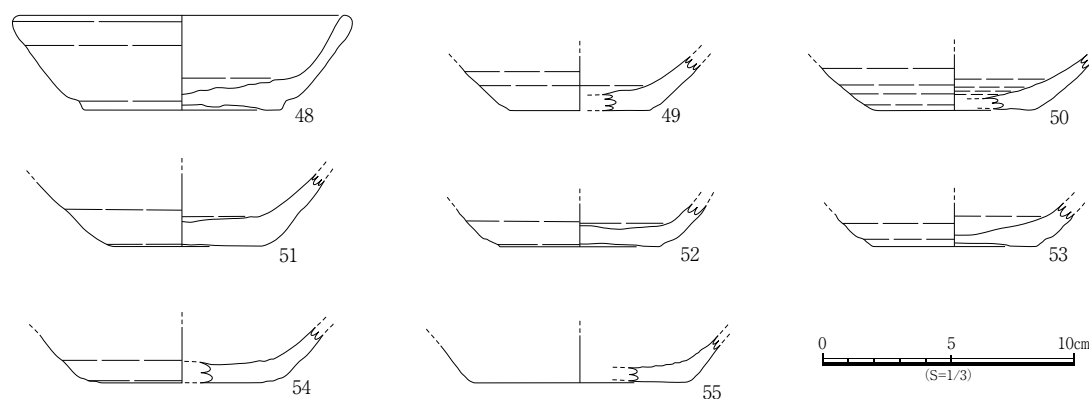


図2-16 SD8出土遺物実測図1

SD9

調査区東部に位置する溝で、確認延長2.6m、幅0.18～0.29m、深さ4～5cmを測る。埋土は地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物は皆無であった。

SD10

調査区東部に位置する溝で、北側はSD9に繋がる。確認延長1.4m、幅0.25～0.39m、深さ3cmを測り、埋土は地山のブロックが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SD11

調査区東部に位置する溝で、確認延長1.6m、幅0.27～0.45m、深さ6～7cmを測る。埋土は地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物は皆無であった。

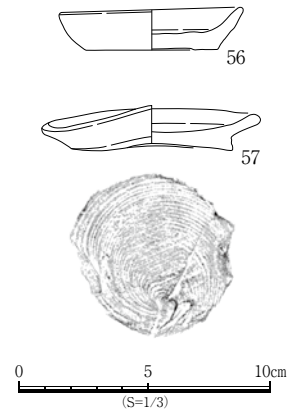


図2-17 SD8出土遺物実測図2

(5) 柱穴

P1(図2-18)

調査区中央部北側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸10cm、短軸9cm、深さ2cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

58・59は土師質土器の杯である。

P2(図2-18)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸25cm、短軸21cm、深さ27cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

60は土師質土器の杯である。

P3(図2-18)

調査区中央部に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸39cm、短軸33cm、深さ11cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

61は土師質土器の小皿である。

P4(図2-18)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸26cm、短軸25cm、深さ19cmを測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルト、2層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックと風化礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土

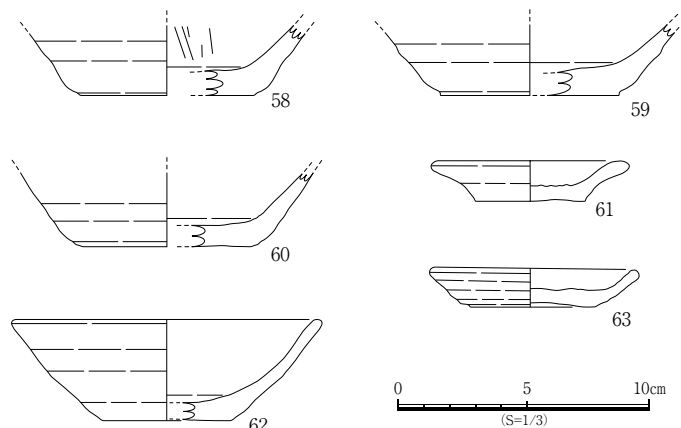


図2-18 P1～5出土遺物実測図

遺物には土師質土器がみられた。

62は土師質土器の杯である。

P5(図2-18)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸32cm、短軸30cm、深さ16cmを測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、2層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

63は土師質土器の小皿である。

P6(図2-19)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸45cm、短軸34cm、深さ30cmを測る。埋土は1層が地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト、2層が地山のブロックが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

64・65は土師質土器の小皿である。

P7(図2-19)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸36cm、短軸36cm、深さ35cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

66は土師質土器の杯である。

P8(図2-19)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸34cm、短軸33cm、深さ13cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物

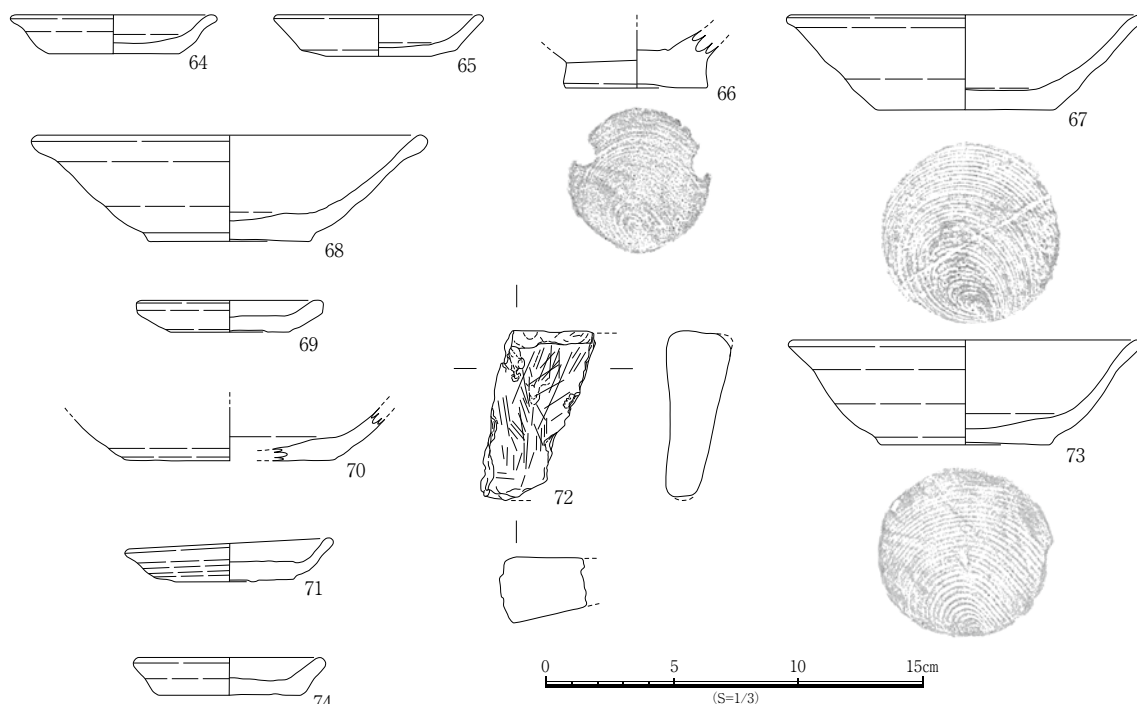


図2-19 P6～12出土遺物実測図

には土師質土器がみられた。

67・68は土師質土器の杯である。

P9(図2-19)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸 29 cm、短軸 23 cm、深さ 36 cm を測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、2層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

69は土師質土器の小皿である。

P10(図2-19)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸 35 cm、短軸 26 cm、深さ 33 cm を測る。埋土は1層が地山のブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト、2層が地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

70・71は土師質土器で、70は杯、71は小皿である。72は石製品の砥石である。

P11(図2-19)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、東側は調査区外へ続く。平面形と短軸は不明で、長軸 37 cm、深さ 24 cm を測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが少し混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルト、2層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、3層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

73は土師質土器の杯である。

P12(図2-19)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸 39 cm、短軸 24 cm、深さ 15 cm を測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/4)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

74は土師質土器の小皿である。

P13(図2-20)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸 22 cm、短軸 18 cm、深さ 7 cm を測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

75・76は土師質土器で、75は杯、76は小皿である。

P14(図2-20)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、

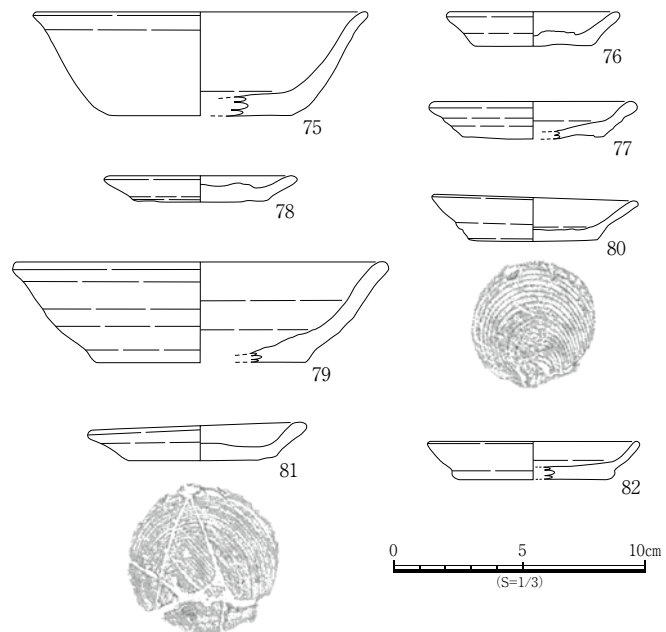


図2-20 P13～17出土遺物実測図

平面形は円形を呈し、径14cm、深さ14cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

77は土師質土器の小皿である。

P15(図2-20)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸28cm、短軸27cm、深さ15cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

78は土師質土器の小皿である。

P16(図2-20)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸31cm、短軸29cm、深さ22cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

79・80は土師質土器で、79は杯、80は小皿である。

P17(図2-20)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸28cm、短軸26cm、深さ15cmを測る。埋土は地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

81・82は土師質土器の小皿である。

P18(図2-21)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸32cm、短軸30cm、深さ36cmを測る。埋土は1層が土器を含み、地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト、2層が地山のブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

83～86は土師質土器で、83・84は杯、85・86は小皿である。

P19(図2-21)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸28cm、短軸26cm、深さ15cmを測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、2層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

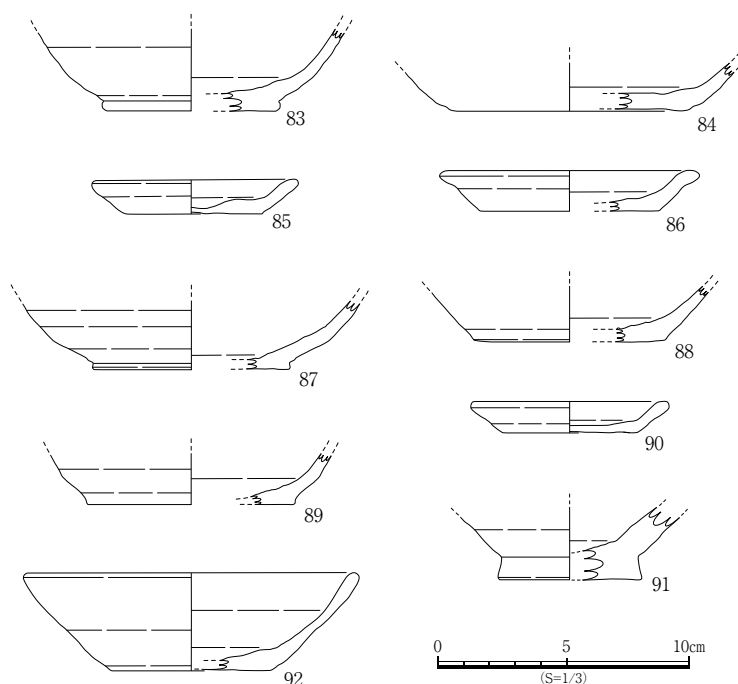


図2-21 P18～22出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (6) 性格不明遺構

87は土師質土器の杯である。

P20(図2-21)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸31cm、短軸30cm、深さ16cmを測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルト、2層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロック

が混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

88～90は土師質土器で、88・89は杯、90は小皿である。

P21(図2-21)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、西側は調査区外へ続く。平面形と短軸は不明で、長軸39cm、深さ29cmを測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト、2層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

91は土師質土器の杯である。

P22(図2-21)

調査区中央部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸46cm、短軸44cm、深さ21cmを測る。埋土は1層が地山のブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)粘土質シルト、2層が地山のブロックが混じる黒色(7.5YR2/1)粘土質シルト、3層が地山のブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)粘土質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

92は土師質土器の杯である。

(6) 性格不明遺構

SX1

調査区中央部南側に位置する性格不明遺構で、平面形は不整長方形を呈し、長軸1.86m、短軸1.27～1.44m、深さ8～16cmを測る。埋土は1層が褐色(7.5YR4/4)粘土質シルトのブロックが混じる黒色(7.5YR2/1)粘土質シルト、2層が黒色(7.5YR2/1)粘土質シルトのブロックが混じる極暗褐色(7.5YR2/3)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

(7) 包含層出土遺物(図2-22)

93は金属製品の銭貨で、寛永通宝である。

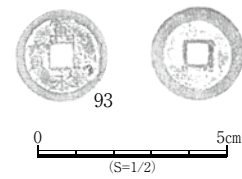


図2-22 遺物包含層出土遺物実測図

第Ⅲ章 ⅢA区

1. ⅢA-6・7区

(1) 調査区の概要と基本層序

① 調査区の概要

ⅢA-6・7区は東西120m、南北36mの調査区で、西は農道を隔ててⅡC区と東はⅢA-5区と接している。調査区の中央部から東を6区、西を7区として調査を行ったが、堀状の大溝によって画された中世遺構を中心としたまとまりが把握できたことからまとめて報告する。掘立柱建物跡17棟、柵列2条、土坑121基、溝37条、1,000個以上のピットを検出している。

② 基本層序(図3-1)

基本層序は、調査区の北壁と西壁、調査区内に南北方向のベルトを何本か残して土層観察をおこなった。北壁(W-E)と西壁(N-S)の土層を掲載する。

第Ⅰ層 褐灰色粘質シルト(耕作土)で層厚4～30cmである。

第Ⅱ層 にぶい黄褐色粘質シルトで北壁の一部に見られる。

第Ⅲ層 灰黄褐色粘質シルトで中世の遺物包含層を形成している。堆積のみられないところもある。層厚は5～15cmである。

第Ⅳ層 褐色粘質シルトで地山を形成している。中世の遺構検出面である。

全体的に遺構検出面は浅く現地表下40～50cm下げると地山面(褐色粘質シルト)に達し中世の遺構検出面となる。耕作土下に遺物包含層(第Ⅲ層灰黄褐色粘質シルト)の形成が認められるが、耕作土直下が遺構検出面となるところもある。

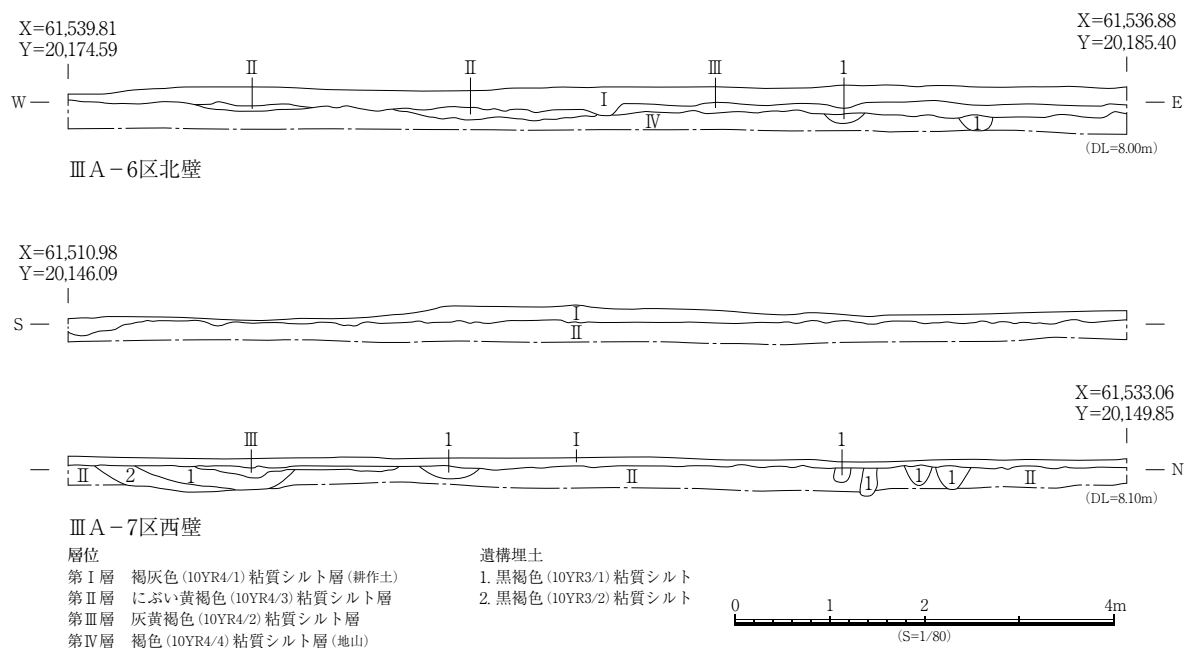


図3-1 調査区セクション図

(2) 検出遺構と遺物

① 掘立柱建物跡

SB3(図3-2)

調査区の北西隅に位置する。桁行2間(5.1m), 梁行1間(4.1m)の東西棟で方位は $N - 87^{\circ} - W$ である。面積は20.9 m^2 である。北側のSD21に平行している。柱穴掘方は円形を呈しP4が径40cm, 他は30cm前後, 深さは10cm前後である。柱間寸法は桁行2.4~2.5m, 梁行4.1m, 柱穴埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はみられない。

SB4(図3-2)

調査区の西部にありSB3の南4mに位置する。桁行3間(6.3m), 梁行2間(3.5m)の東西棟, 方位は $N - 85^{\circ} - W$ でSB3と棟方向を同じくしている。面積は22.1 m^2 である。SD24とSD33に切られている。柱穴掘方は円形で径30~40cm, 深さは10~15cmである。柱間寸法は桁行で2~2.3m, 梁行で1.7~1.8mを測る。柱穴埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はみられない。

SB5(図3-3)

調査区西寄りに位置する。桁行3間(4.8m), 梁行2間(3.5m)の東西棟, 方位は $N - 78^{\circ} - W$ である。面積は16.8 m^2 である。柱穴の掘方は平面形・大きさともに不揃いで長軸30~50cmを測る。深さは20cm前後である。柱間寸法は桁行で1.2~1.9m, 梁行で1.75mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトで遺物は認められない。

SB6(図3-3・12)

SB5の南2mに位置する。桁行3間(5.3m), 梁行2間(3.8m)の東西棟, 方位は $N - 86^{\circ} - W$ である。面積は20.1 m^2 である。柱穴は多くのピットと切り合っており正確な平面形を把握できないものもあるが, 総じて大きさ・

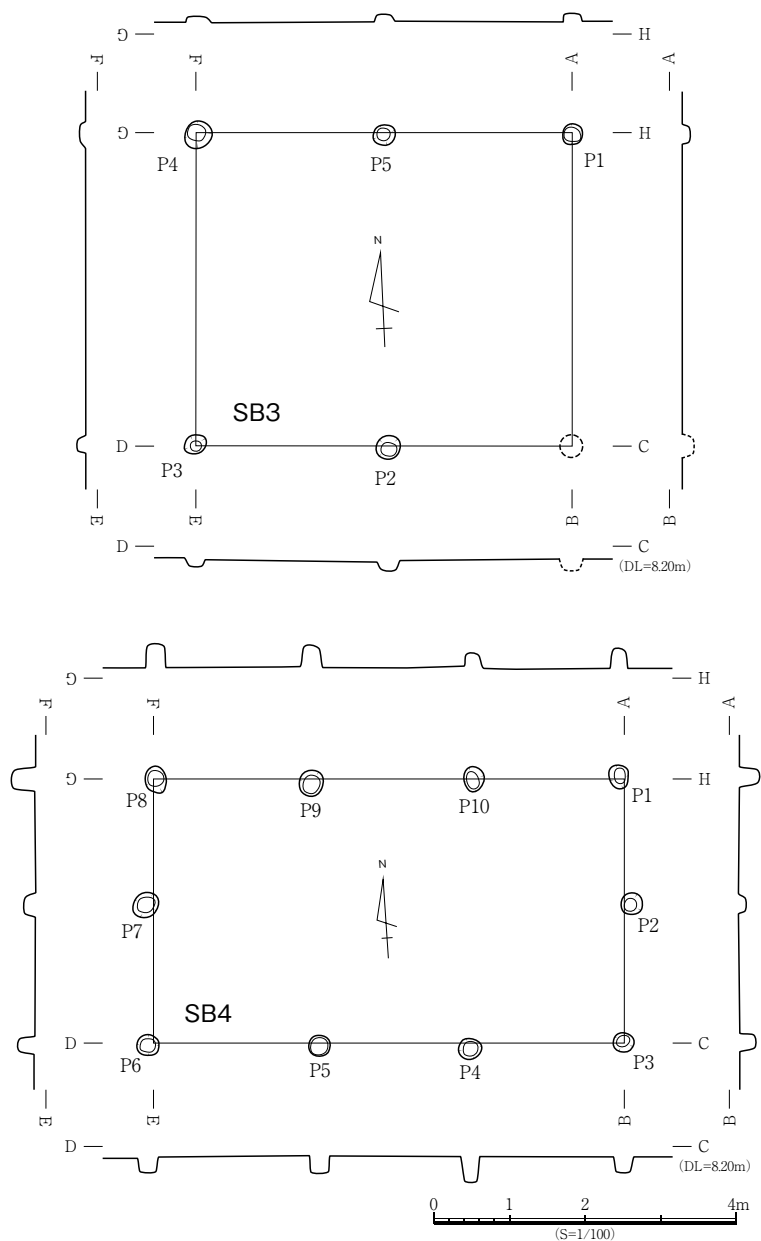


図3-2 SB3・4

平面形ともに不揃いで掘方の長軸は 20 ～ 60 cm を測る。深さは 30 cm 前後である。柱間寸法は桁行で 1.4 ～ 1.9m, 梁行で 1.8 ～ 2.0m を測る。

遺物は P7 から土師質土器皿(1), P9 から同じく小皿(2)が出土している。両者ともに手づくね成形である。図示したもの以外に P1・5 ～ 9 の埋土中から土師質土器の杯や皿, 備前焼の胴部細片などが出土している。

SB7(図3-4)

SB6 の南 8m に位置する。桁行 3 間(6.6m), 梁行 2 間(5.6m)の南北棟で総柱建物である。方位は $N - 6^{\circ} - E$ を示す。面積は 37 m² である。柱穴の平面形は概ね円形を呈し, 大きさは P7 が径 20 cm である以外は 30 cm 前後と揃っている。柱間寸法は桁行が 1.7 ～ 2.0m, 梁行が 2.8 ～ 3.5m を測る。遺物は P1・4 ～ 6・10 ～ 12 埋土から土師質土器杯・皿, 瓦器碗片が出土しているが図示できるものは無い。土師質の杯・皿類はロクロ成形と手づくね成形の両者が見られる。

SB8(図3-4・12)

SB7 の南 4m に位置する。桁行 3 間(6.6m), 梁行 2 間(4.2m)の東西棟で方位は $N - 82^{\circ} - W$ を示す。面積は 27.7 m² である。柱穴の平面形は隅丸方形ないしは楕円形を呈し, 大きさも長軸 20 ～ 50 cm と不揃いである。柱間寸法は桁行が 1.6 ～ 2.75m, 梁行が 1.6 ～ 2.5m を測る。深さは 6 ～ 30 cm を測る。なお後述するように SB8 の西側 1.5m には方位をほぼ共有する SA9 が位置する。SB8 の目隠し塀と考えられる。

遺物は P6 からロクロ成形の土師質土器杯(3), P8 から白磁皿(4)が出土している。白磁皿は口縁部を水平に折り曲げ輪花を呈す。この他 P1 ～ 3・5・7 からは土師質杯・皿, 瓦器碗などの細片が多く出土している。

SB9(図3-5)

調査区南部に位置し大溝 SD1 と SD25 の間に配されている。桁行 3 間(8.8m), 梁行 2 間(4.2m)の南北棟で方位は $N - 6.5^{\circ} - E$ を示す。面積は 37 m² である。柱穴の平面形は円形～楕

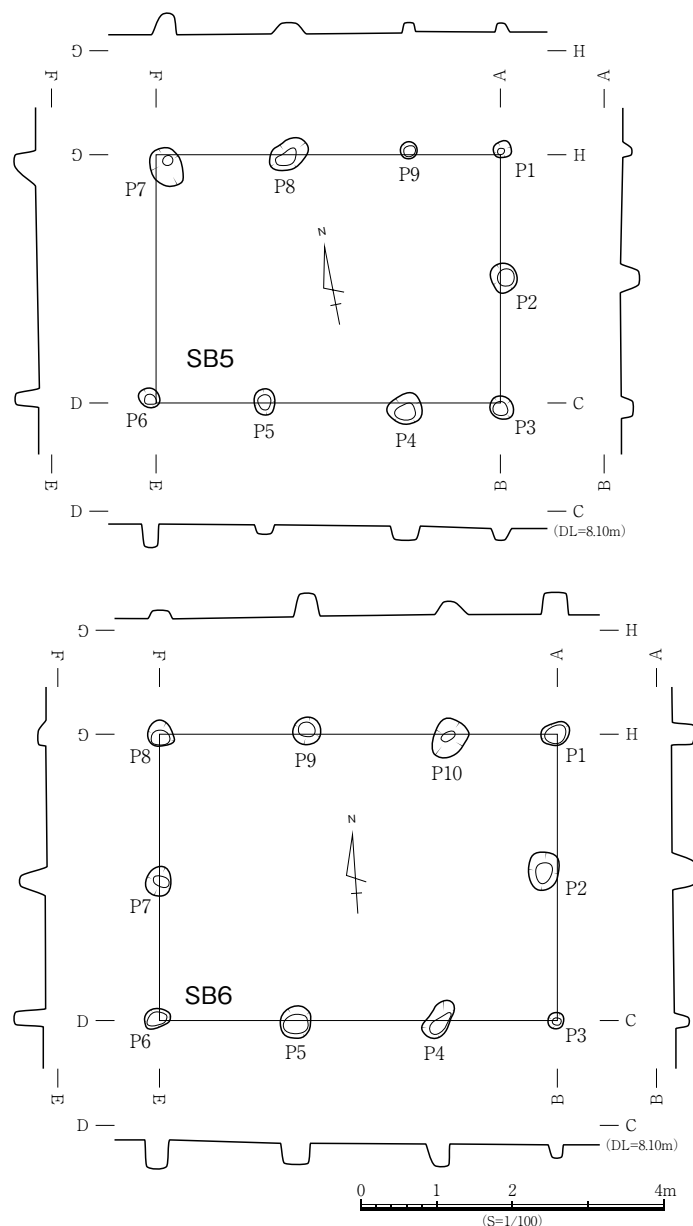


図3-3 SB5・6

円形を呈し長軸 40～50 cm、深さは 30～50 cmを測る。柱掘方の規模は、これまでの掘立柱建物に比べてやや大きい。柱間寸法は桁行で 2.5～3.4m、梁行で 1.8～2.5m を測る。P1～3 は SD1 のテ

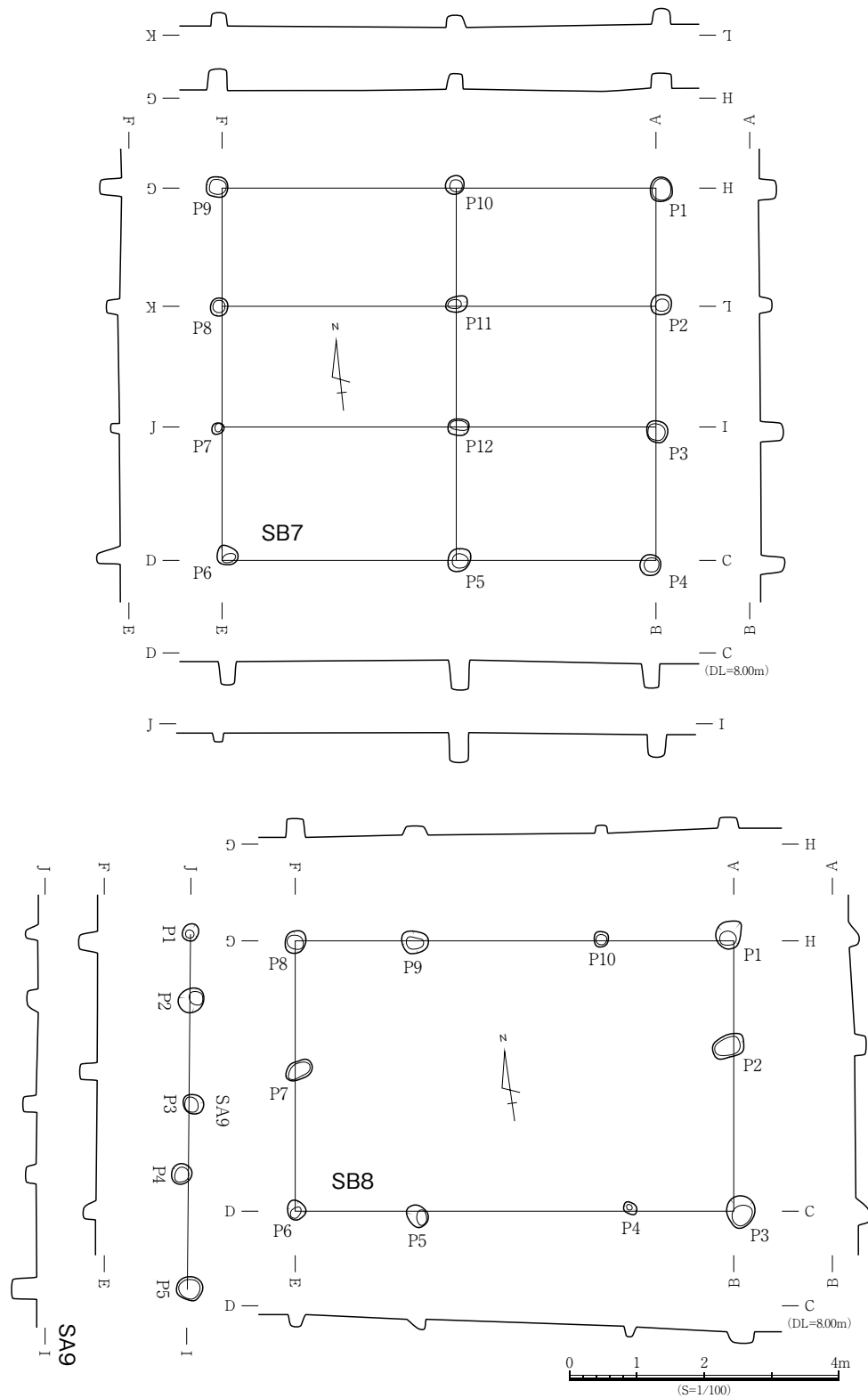


図3-4 SB7・8 SA9

ラス部分に立っている。

遺物は P2 からロクロ成形の土師質土器小皿(5)が出土している。この他 P2 ～ 4・7～9 の埋土から土師質土器を中心に瓦器碗の細片が出土している。SB9 はその位置や SB8 の周辺部に限って SD1・25 の肩にピットが集中しているところから、SB9 の左右に SD1・25 に渡された橋の存在が考えられる。SB9 はその間に立つ櫓的な性格を有する建物であると考えられる。

SB10(図3-6)

調査区北部に位置し SD1 のコーナー部内側に配され SD18 を切っている。桁行 2 間(3.6m)、梁行 2 間(3.7m)の総柱建物で方位は N - 85° - W を示す。面積は 13.0 m² である。柱穴の平面形は P6 を除いて概ね円形を呈し径 40 cm 前後、深さは 20 ～ 30 cm を測る。側柱の柱間寸法は 1.8 ～ 1.9m と揃っている。位置関係から見て物見櫓的な建物と考えられる。

SB11(図3-6)

SB10 の南隣に位置する。桁行 2 間(4.0m)、梁行 1 間(2.0m)の南北棟で方位は N - 8° - E を示す。面積は 8.0 m² である。柱穴の平面形は概ね円形を呈し径 35 ～ 50 cm、深さは 20 cm 前後である。柱

間寸法は桁行で 2.0m、梁行で 2.3m と揃っている。遺物は P1 ～ 3 から土師質土器の杯片が出土しているが図示できるものはない。

SB12(図3-7・12)

調査区の中央部に位置し、堀状の遺構である SD1 に囲まれた屋敷地内の西部に配されている。南面庇付の東西棟で方位は N - 81° - W である。身舎は桁行 5 間(10.5m)、梁行 2 間(3.8m)、庇の幅は概ね 1m である。身舎の面積は 37 m²、庇部分を含めると 50.4 m² になる。身舎の柱穴径は 30 ～ 50 cm であるのに対して庇柱穴は 30 cm 前後と一回り小さい。深さは両者とも 20 ～ 30 cm である。身舎の柱間寸法は桁行で 1.7 ～ 2.5m、梁行で 1.9m を測り、柱通りはよい。庇柱は東から 4 間分確認しており、柱間寸法は 1.8 ～ 2.5m で穴の位置は身舎の桁行柱穴の位置に対応している。

遺物は殆どの柱穴から土師質土器の杯片等の出土が見られるが、図示できたのは P4 出土の土師質杯 1 点(6)のみである。

SB13(図3-8)

SB12 の東隣に位置する。南面庇付の東

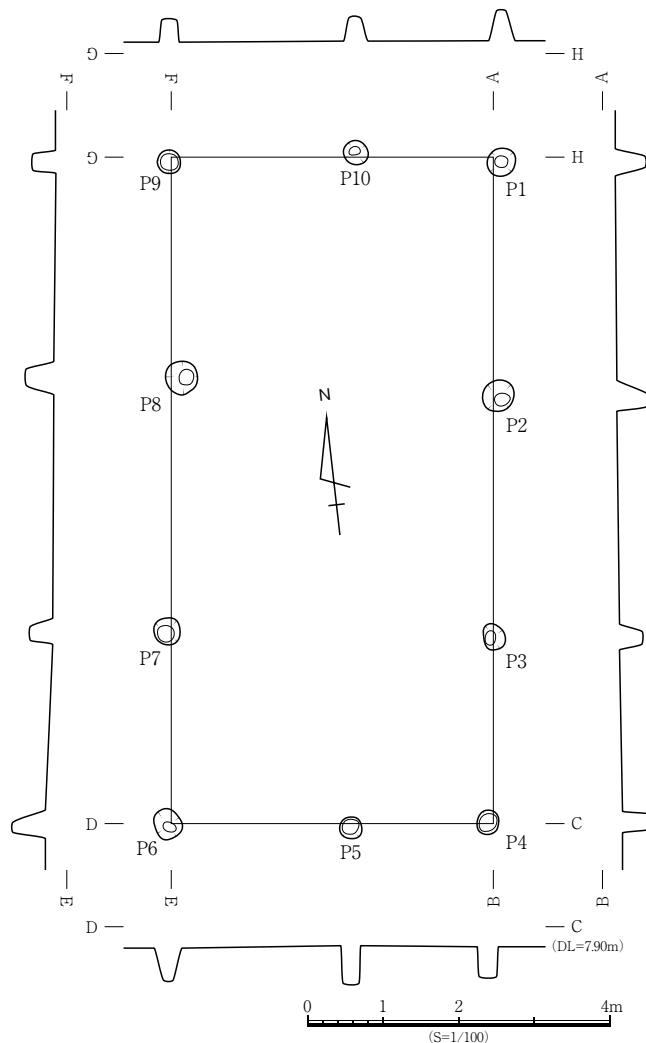


図3-5 SB9

西棟で方位はN - 80° - Wである。身舎は桁行3間(7.4 m), 梁行2間(2.9m), 庇の幅は1.3mである。身舎の面積は21.5 m², 庇部分を含めると31.8 m²になる。身舎の柱穴径は30~40 cmであるのに対して庇柱穴は30 cm前後と一回り小さい。深さは両者とも20~30 cmである。身舎の柱間寸法は桁行で1.9~3.1m, 梁行で1.3~1.6mを測り, 柱通りはよい。庇柱は4間分確認しており, 柱間寸法は1.0~2.6mで穴の位置は身舎の桁行柱穴の間を埋めるように配されている。遺物は多くの柱穴から土師質土器の杯・皿などの細片が出土しているが図示できるものはない。

SB14(図3-9)

SB12の南隣に位置し, SD1の内部を逆L字状に区画する溝SD15に近接し南北方向に平行する。桁行5間(10.4m), 梁行1間(2.3m)の南北棟で方位はN - 11° - Eを示す。面積は23.9 m²である。柱穴の平面形は概ね円形を呈し径30~50 cm, 深さは20 cm前後である。柱間寸法は桁行で1.7~1.9m, 梁行で2.3mを測るがP5 - P6とP7 - P8間は3.2mと広がっている。柱通りはよい。今次調査で検出した建物跡の中では最も細長いものである。遺物はみられない。

SB15(図3-9)

調査区の中央部に位置しSD1の内部を区画するSD15の内側に配置される。桁行2間(2.8m), 梁行1間(1.5m)の東西棟で方位はN - 79° - Wを示す。面積は4.2 m²である。柱穴の平面形は概ね円形を呈し径25~30 cm, 深さは15 cm前後である。柱間寸法は桁行で1.3~1.5m, 梁行で1.5mである。遺物はみられない。

SB16(図3-9)

区画溝SD15の内側に位置する。桁行3間(4.6m), 梁行2間(2.8m)の東西棟で方位はN - 82° - Wを示す。面積は12.9 m²である。柱穴の平面形は, P10が長軸50 cmを測る楕円形である以外は概ね円形を呈し径20~30 cm, 深さは20 cm前後である。P9・10は径15 cmの柱痕跡が認められる。柱間寸法は桁行で1.2~2.1m, 梁行で1.3~1.5mである。P6から土師質土器の杯と底部細片が出土

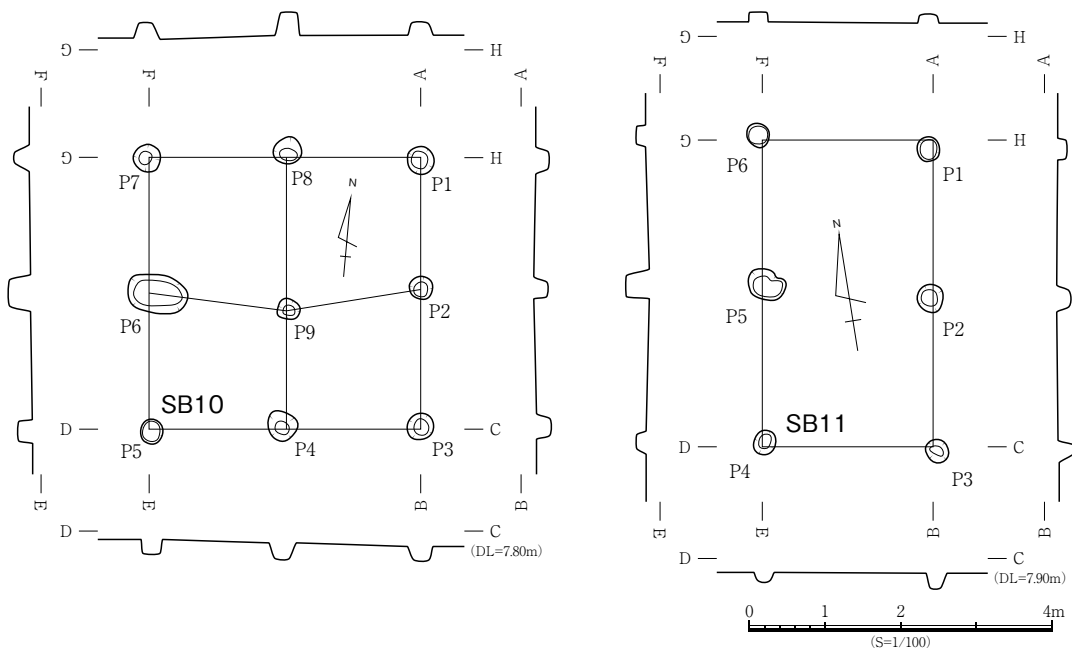


図3-6 SB10・11

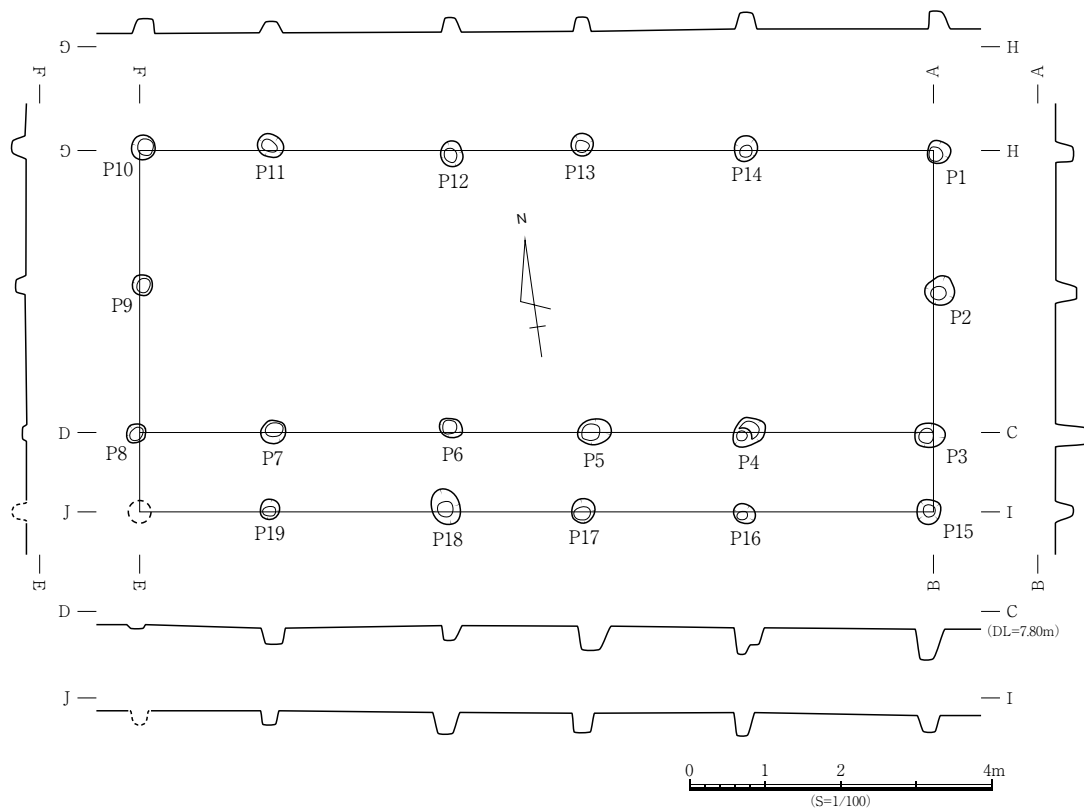


図3-7 SB12

しているが図示できるものはない。

SB17(図3-10)

調査区中央部の南よりに位置する。最も柱穴の集中する地点にありSK43など多くの土坑や溝とも重複している。西と南・北の三面庇を持つ南北棟であるが、四面庇となる可能性もある。身舎は桁行3間(6.7m)、梁行2間(4.3m)で方位はN-6°-Eを示す。身舎の面積は28.8㎡、庇を含めると64.3㎡である。平面形は均等な長方形にはならず身舎は南の梁行が北側のそれよりも40cmほど長く、庇も90cm程長く台形状を呈している。重複関係から柱穴の平面形や大きさを正確に掴むことはできないが、身舎は残りの良いP1・2・3・6などから見ると径30～40cm前後、庇柱穴ではP12・15・17・18などから径20～30cmと見ることができる。身舎柱穴が庇より一回り大きい。身舎の柱間寸法は梁行で1.9～2.3m、桁行で1.6～2.5m、庇のそれは1.3～2.8mを測る。身舎の側柱穴と庇柱穴は梁行ではほぼ対応する位置関係にあるが桁行は対応関係にない。遺物はP4・8から土師質土器の杯・皿細片が出土しているが図示できるものはない。SB17は三面庇を持つ建物跡であり堀で囲繞された屋敷の中心的な建物であったと考えられる。

SB18(図3-11・12)

SB17の南隣に位置し大部分が調査区外に出ている。桁行4間(8.6m)、梁行1間以上の東西棟で方位はN-85°-Wを示す。多くの土坑、柱穴などと重複している。柱穴の平面形は概ね円形を呈し径35～40cm、深さは20～40cmを測る。柱間寸法は桁行で1.9～2.5m、梁行は一間分のみ確認できたが1.7mである。遺物はP1から手づくね成形による土師質土器の皿(7)が出土しているのみである。

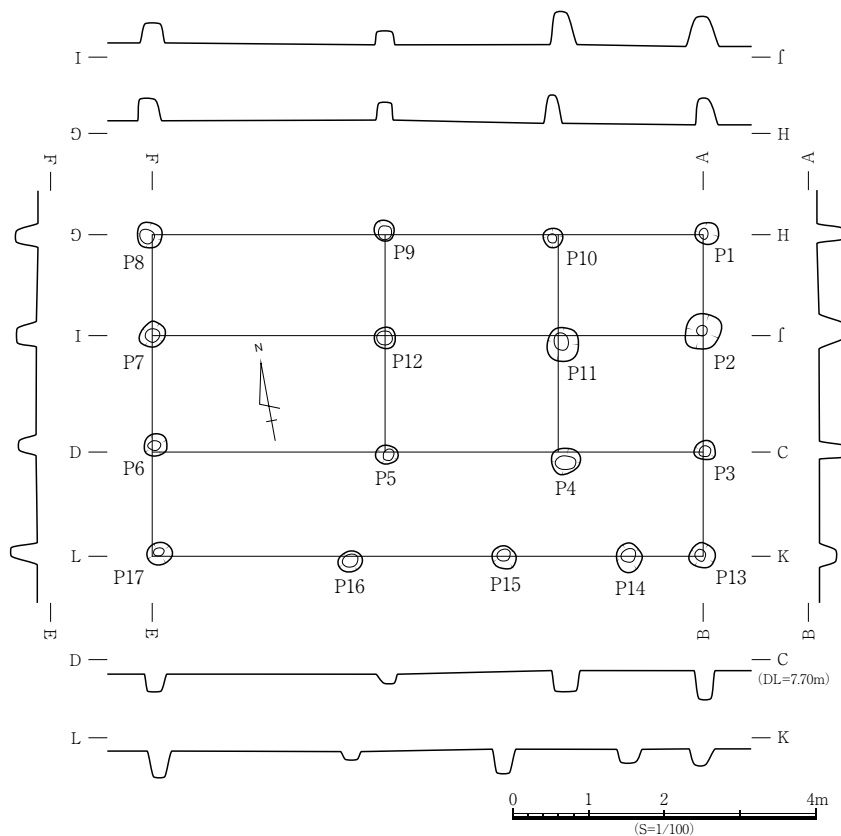


図3-8 SB13

SB19(図3-11・12)

屋敷地を囲繞するSD1の内側の肩部に位置しSB11の南に棟方向を共有して並んでいる。桁行2間(2.8m)、梁行1間(1.5m)の南北棟で方位はN - 10° - Eを示す。面積は4.4㎡と調査区で最も小規模な建物である。柱穴掘方はほぼ円形で径30cm前後、深さは20～30cmである。柱間寸法は桁行で1.4～1.5m、梁行で1.5mである。遺物はP4から瓦器碗の完形品(8)が出土している。柱抜き取り後に埋納されたものと考えられる。しっかりした断面三角形の高台が貼付されており、内面には暗文が施されている。13世紀後半に比定できるものと考えられる。この他P2・6から土師質杯片が出土している。

② 柵列

SA9(図3-4・12)

調査区の西南部に位置する。SB8の西側に方位をほぼ共有して5個の柱穴が並ぶ。柱穴掘方の平面形は円形を呈し、大きさはP2が径40cm、他は30cm前後である。柱間寸法はP1 - P2・P3 - P4が1.0m、P2 - P3が1.6m、P4 - P5が1.7mである。遺物はP3から土師質土器の小皿が2点(9・10)出土している。SA9はSB8の目隠し塀として機能していたものと考えられる。

SA10

調査区中央部にある。SD1内を区画する逆L字状の溝SD15の内側に沿って並ぶ柱穴列である。南北方向に5間(9.5m)並びそこからほぼ直角に曲がって東に11間(24.2m)、総延長は16間(33.7m)に及ぶ。柱通りは良好である。柱穴掘方は円形を呈し径30cm前後で揃っている。SD1で囲まれた

敷地の中央部にあることから中心的な建物を意識した柵列と考えられる。遺物は P12・14～16 から土師質土器や瓦器碗片が出土している。

③ 土坑

土坑については主要なものについて具体的に述べるがそれ以外のものについては土坑一覧表にまとめた。

SK5(図3-13・16)

調査区東部に位置する。平面形は楕円形を呈し長軸 1.3m、短軸 0.93m、深さ 18 cmである。埋土は黒褐色粘質シルトに拳大の円礫を含む。遺物は床面から土師質皿(13・14)と銭貨(11・12)などが出土している。13・14 は手づくね成形によるもので内外面丁寧な横方向のナデ調整で仕上げられている。銭貨は二枚が裏面側で付着しており、12 は 3 分の 2 が欠損している。11 は外径 2.37 cm、内径 1.88 cmを測る。北宋銭の「元豊通宝」(篆書)で初鑄は 1078 年に求めることができる。12 は「皇」(篆書)と「寶」が判読できることから「皇宋通寶」と考えられる。これも北宋銭で初鑄は 1038 年に求められる。この他、ロクロ成形の土師質土器杯や瓦器碗の細片が出土している。

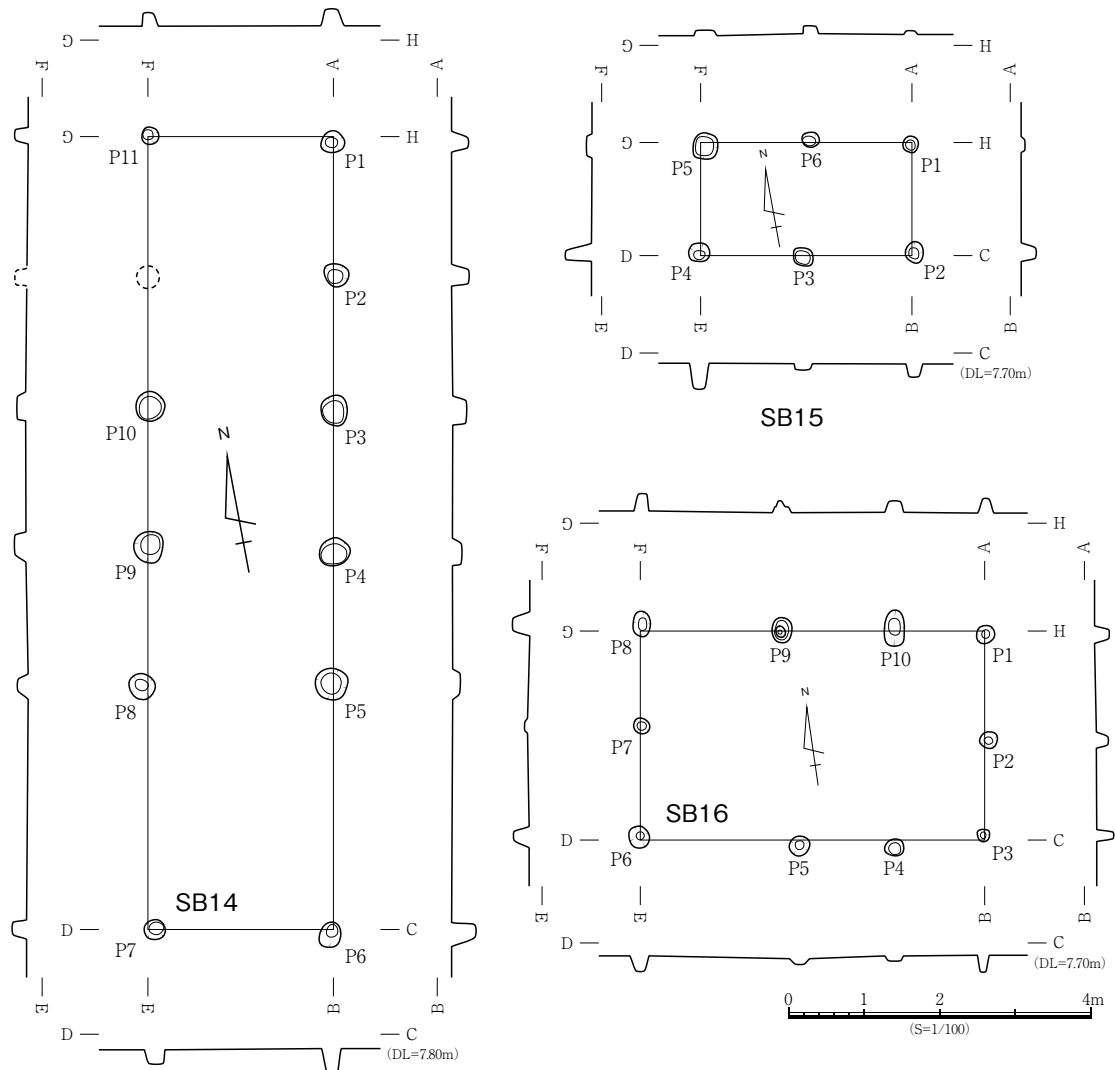


図3-9 SB14・15・16

SK7(図3-13・16)

調査区東部に位置する。SD9・10を切っている。平面形は楕円形を呈し長軸 2.27m, 短軸 1.6m, 深さ 29 cmで, 断面形は逆台形状である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は土師質土器皿(15

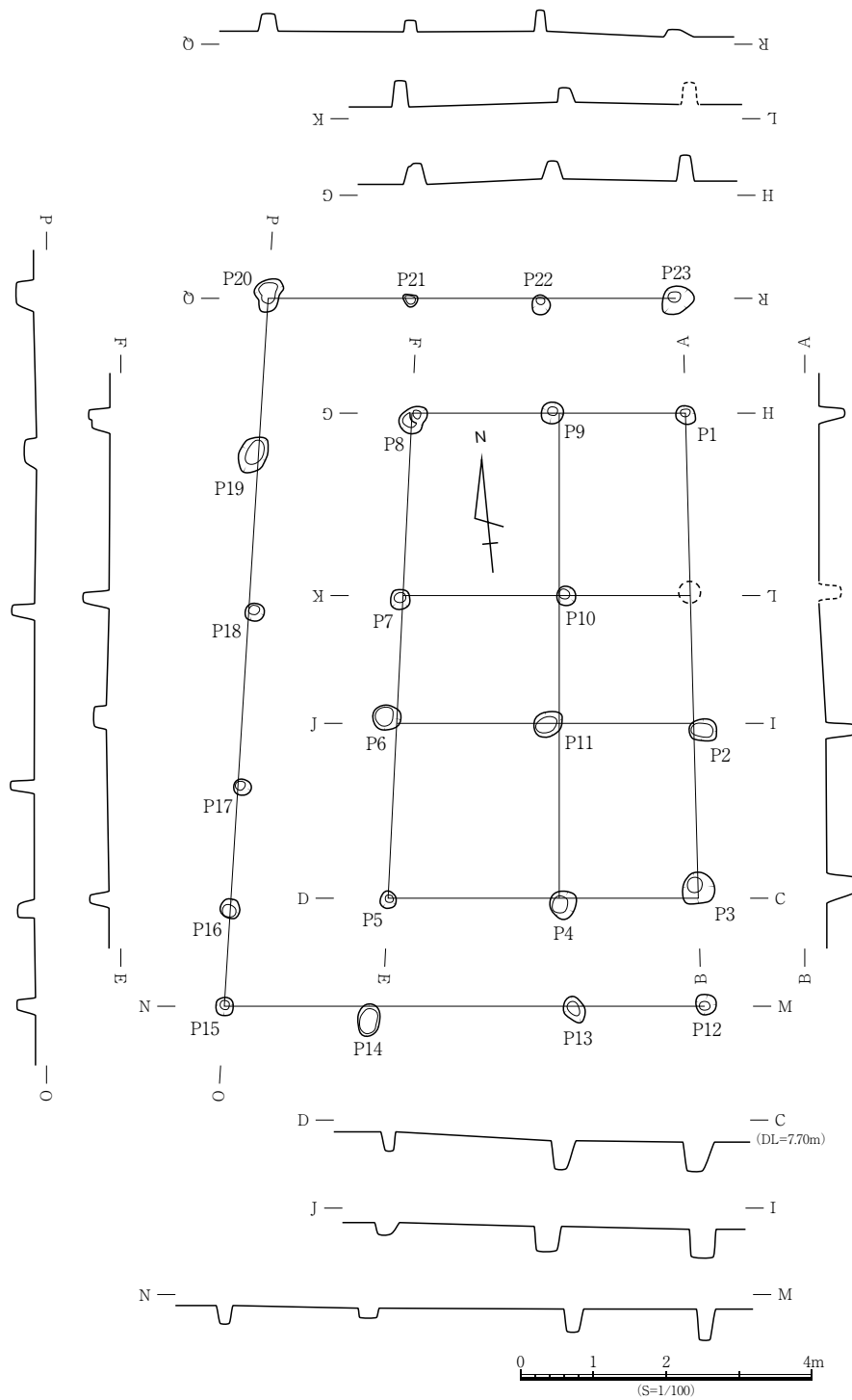


図3-10 SB17

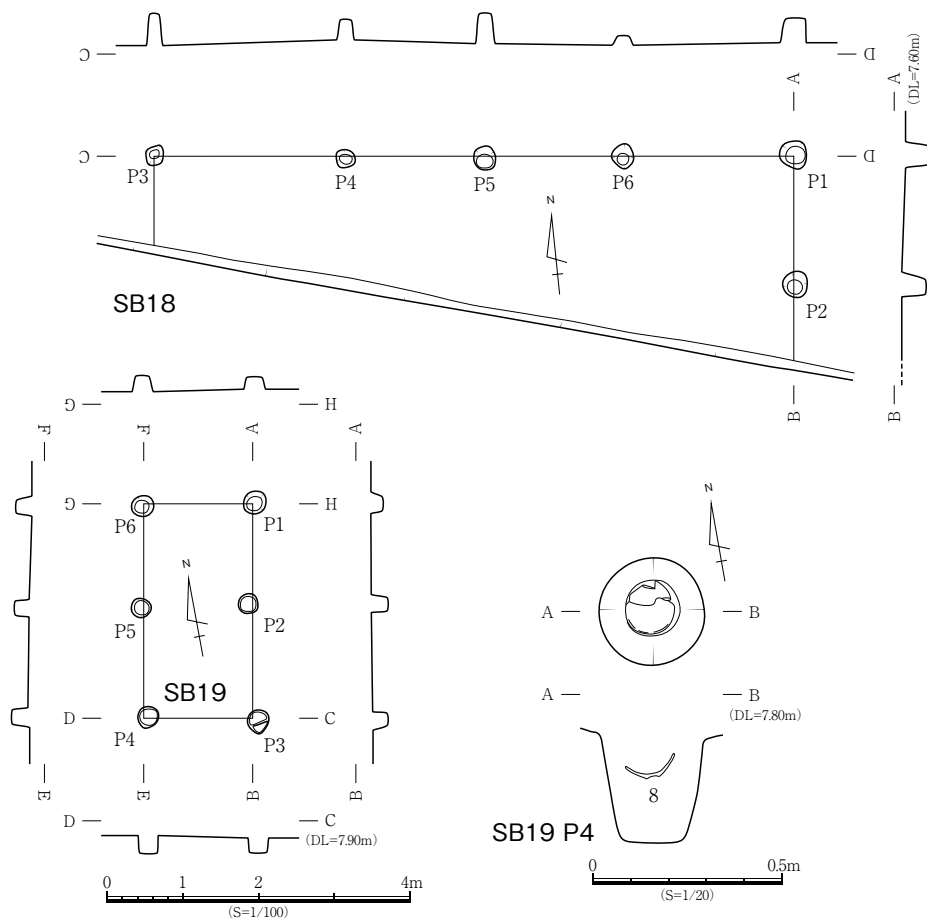


図3-11 SB18・19

～18)が出土している。ともに手づくね成形によるもので口縁部内外に強い横方向のナデ調整を施し体部外面には指頭圧痕が顕著に見られる。16は口縁部が特に強く外反している。

SK8(図3-13・16)

SK7の南に隣接しSD9・10を切っている。平面形は楕円形を呈し長軸1.91m、短軸1.56m、深さ28cmである。埋土は2層である。土師質土器片が多く出土しており、ロクロ成形と手づくね成形の両者が見られる。手づくね成形の皿(19・20)を図示し得た。2点ともに口縁部内外を強く横方向にナデ調整を施し体部外面は指頭圧痕が顕著に見られる。東播系須恵器の捏鉢も出土している。

SK9(図3-14・16)

調査区東部に位置しSK10を切っている。平面形は不整楕円形を呈し長軸2.0m、短軸1.32m、深さ32cm、断面はU字形である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は土師質土器杯や皿片を主体に瓦器碗片も見られる。土師質土器皿(21)と鉄釘(22)を図示し得た。21は手づくね成形で横方向の強いナデ調整により口縁部外面が段状を呈する。体部外面は指頭圧痕が顕著である。22は長さ5.3cmで断面は方形である。

SK10(図3-14・16)

調査区東部に位置しSD15を切り、SK9に切られている。平面形は不整形を呈し長軸3.93m、最大幅は南部で2.04m、深さは北部で34cm、南部で14cmを測る。埋土は1層:黒褐色(10YR3/2)粘質シルト、

1.ⅢA-6・7区 (2) 検出遺構と遺物

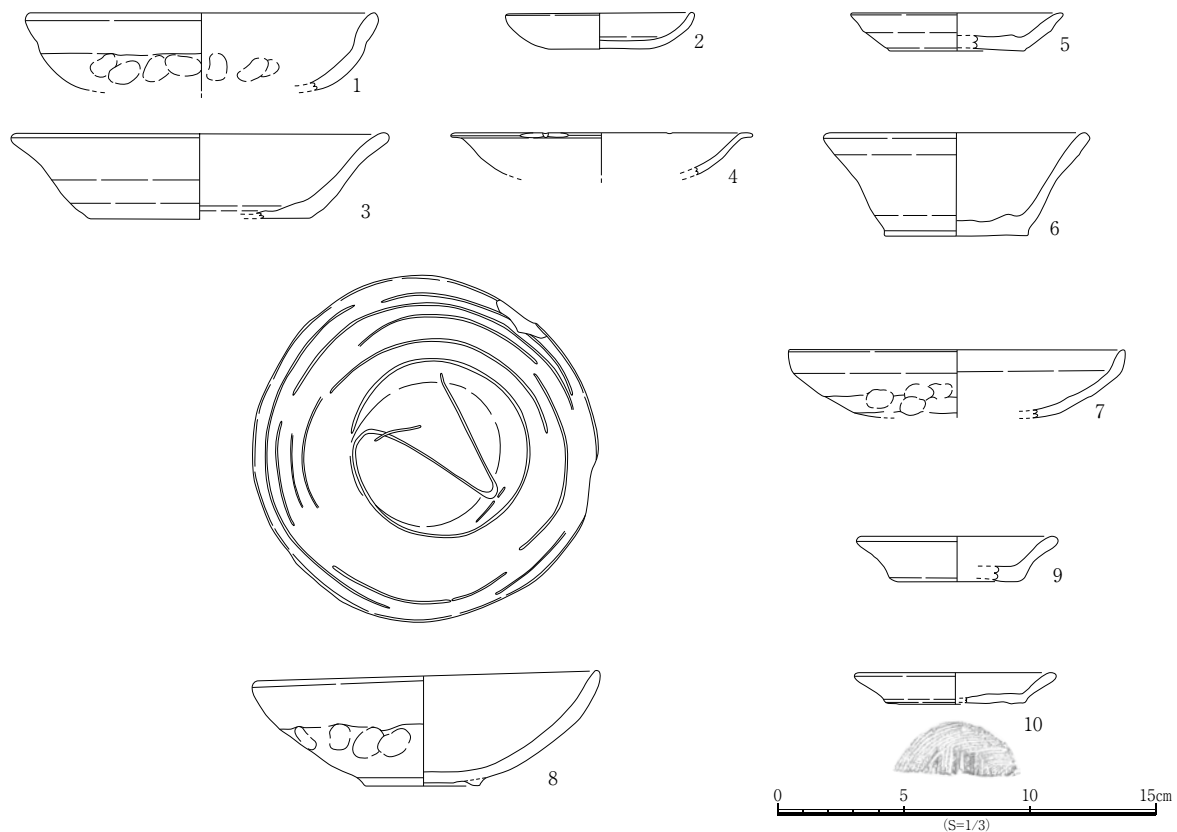


図3-12 SB6・8・9・12・18・19 SA9出土遺物実測図

2層:黒褐色(10YR2/2)粘質シルトである。遺物は手づくね成形の土師質皿5点(23~27), 同小皿(28)が出土している。杯は横方向の強いナデ調整により口縁部と体部との界が稜をなすもの(23~26)とそのまま口縁部に移行する(27)が見られる。23・24・26はハケ状原体によるナデ調整が見られる。28は丁寧なナデ調整で仕上げられている。この他, 少量のロクロ成形杯と多量の手づくね成形皿片が出土している。SK9出土の土師質土器と類似するもので, 両者の時間差は小さいと考えられる。

SK11(図3-15・16)

調査区南東部に位置する。平面形は不整形を呈し長軸 1.42m, 短軸 1.3m, 深さ 24 cmを測る。埋土はにぶい黄褐色粘質シルトで小礫を含んでいる。遺物は手づくね成形の土師質皿(29・30)と青磁碗(31)を図示した。31は龍泉窯系で上田編年のE類に属する。この他に瓦質土器の小片と手づくね成形による土師質皿片が多く出土している。ロクロ成形によるものはみられない。

SK14(図3-15・16)

調査区東部に位置し SK19 を切り, SK13 に切られている。平面形は不整形を呈し長軸 2.45m, 短軸 2.53m, 深さ 36 cmで断面は逆台形である。埋土は1層:黒褐色(10YR2/2)粘質シルト, 2層:黒褐色(10YR3/1)粘質シルトである。遺物は埋土中から出土しており手づくね成形の土師質小皿(32), 同皿(33~43), 瀬戸皿(44), 石鍋(45)を図示した。この他, 土師質皿を中心に三足羽釜の脚部, 瓦器碗, 常滑甕など多くの遺物が出土している。ロクロ成形の土師質土器は殆どみられない。

SK17(図3-17・18)

SD1 内の中央部で最も遺構が密集するところに位置し SK18 を切っている。平面形は不整形を

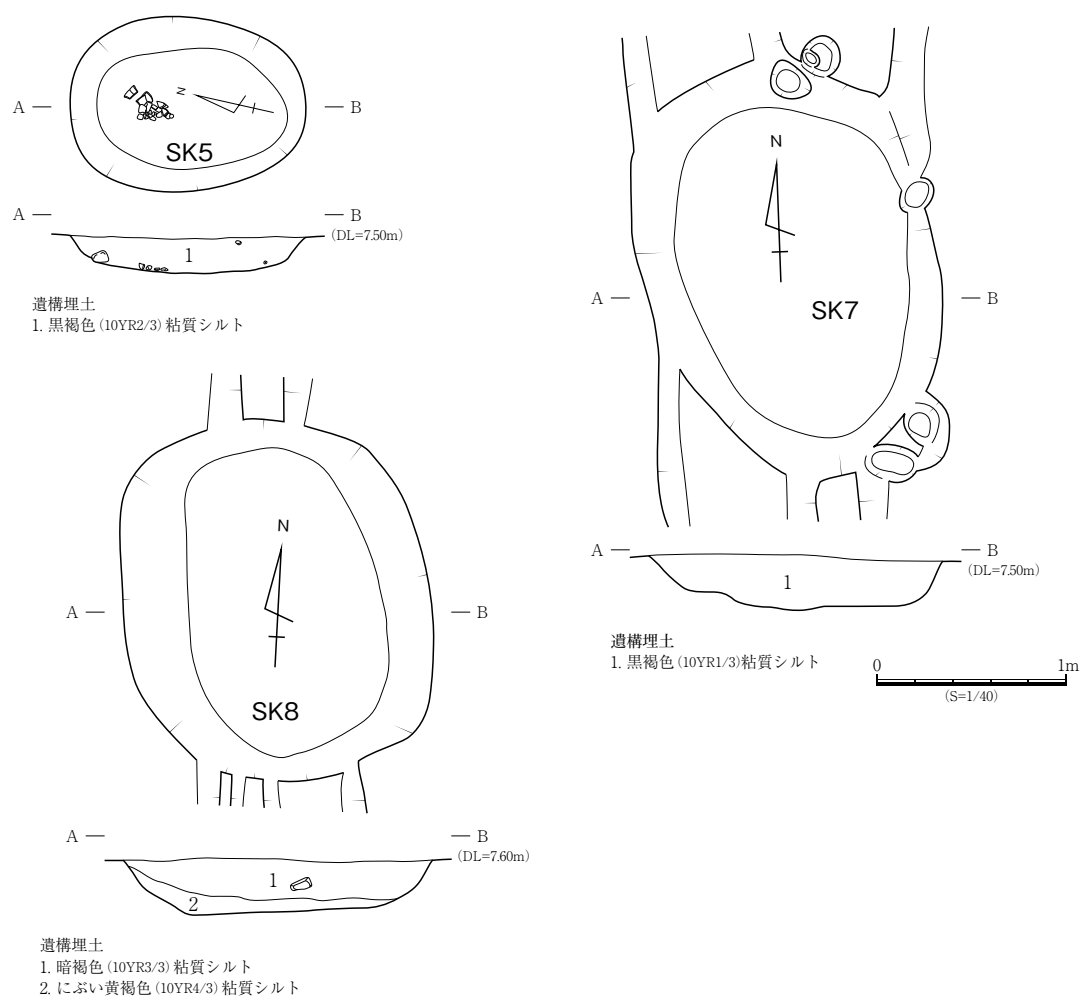


図3-13 SK5・7・8

呈し長軸 3.77m, 短軸 3.06m, 深さ 25 cmで断面は逆台形である。埋土は黒褐色粘質シルトである。最初是一个の土坑として検出し遺物の取り上げも行っていたが途中から切り合い関係にある2つの土坑であることが判明した。遺物はSK17出土のものとして手づくね成形の土師質皿(46~50・55), ロクロ成形の土師質杯(53・54), 瀬戸大皿(51), 備前大甕底部(56), 土鍾(52・57)を図示したがこれらのうちで確実にSK17に伴うものは床面出土の土師質皿(46)と下層出土の土鍾(52)である。それ以外の大半の遺物はSK18のものが混在している。図示したもの以外にも同安窯や龍泉窯の青磁碗, 備前甕, 瓦器碗, 瓦質鍋などの細片が出土している。遺物からはSK18との時期差は殆どないものと考えられる。

SK18(図3-17・18)

東西に長い不整形の土坑でSK17と切り合っている。長軸 3.88m, 短軸 1.48m, 深さ 26 cmを測る。断面は逆台形である。埋土は1層: 黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト, 2層: 暗褐色 (10YR3/3) 粘質シルト, 3層: 黒色 (10YR2/1) 粘質シルトである。遺物は手づくね成形の土師質皿を中心に出土しているが, 先述のようにSK17と区別して取り上げることができなかった。確実にSK18出土で図化し得たものは土鍾2点(58・59)で, この他白磁口禿小皿の細片が出土している。

SK20(図3-19・20)

調査区中央部の北寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し長軸 2.99m, 短軸 1.66m, 床面は南北部が深く中央部は凸状をなして浅くなっている。南北部で 42 cm, 中央部は 28 cm を測る。埋土は 1 層: 黒褐色(10YR3/1)粘質シルト, 2 層: 暗褐色(10YR3/3)粘質シルト, 3 層: 黒褐色(10YR2/2)粘質シルト, 4 層: 黒色(10YR2/1)粘質シルトである。遺物はロクロ成形による土師質小皿(60~62), 手づくね成形による皿(63)を図示した。この他土師質杯類を中心に瓦質土器や白磁碗Ⅳ類, 青磁, 内外面にハケ調整が見られる陶器甕の細片が見られる。SK20 出土の土師質土器はロクロ成形によるものが圧倒的に多い。

SK25(図3-19・20)

区画溝 SD15 を切っている。平面形は楕円形を呈し長軸 1.55m, 短軸 0.98m, 深さ 36 cm を測り, 断面は U 字形である。埋土は 1 層: 黒褐色(10YR3/1)粘質シルト, 2 層: 黒褐色(10YR3/2)粘質シルト, 3 層: 黒褐色(10YR3/2)粘質シルトである。遺物は瓦質土器羽釜(64)の他土師質土器片が多く出土している。

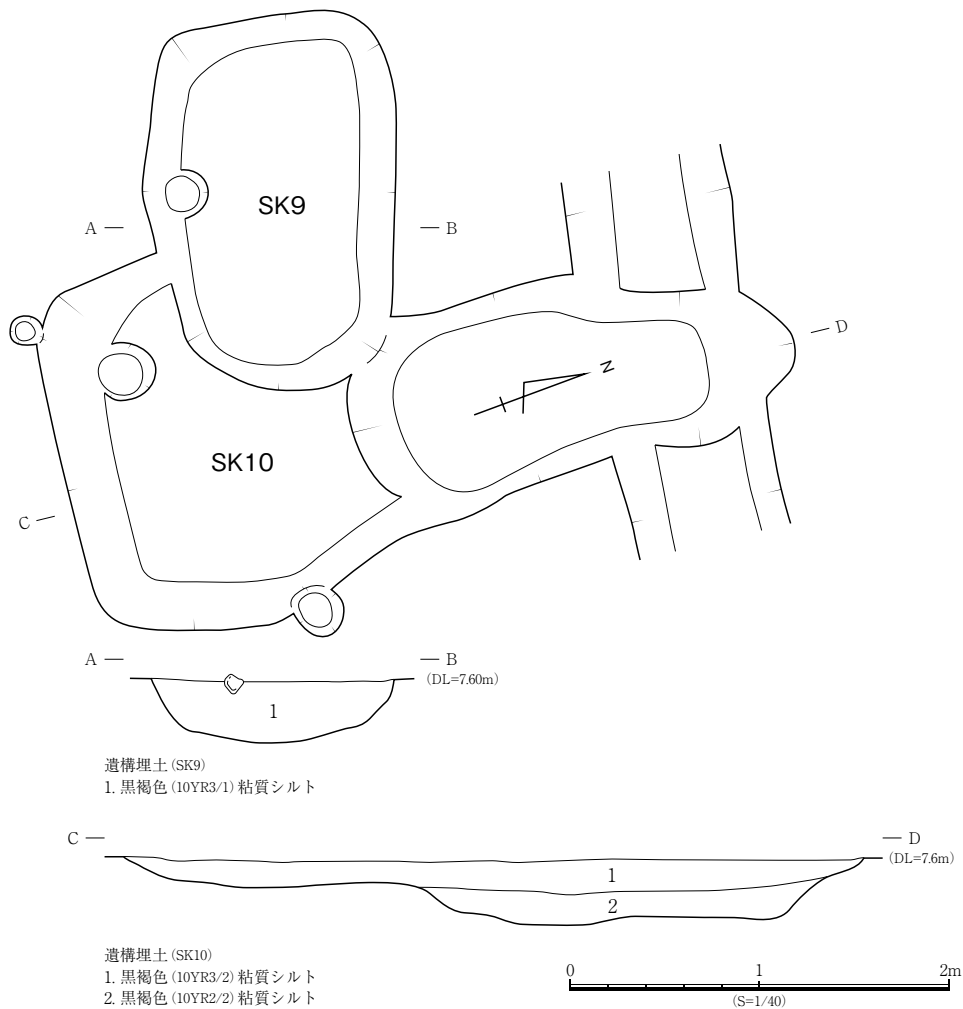


図3-14 SK9・10

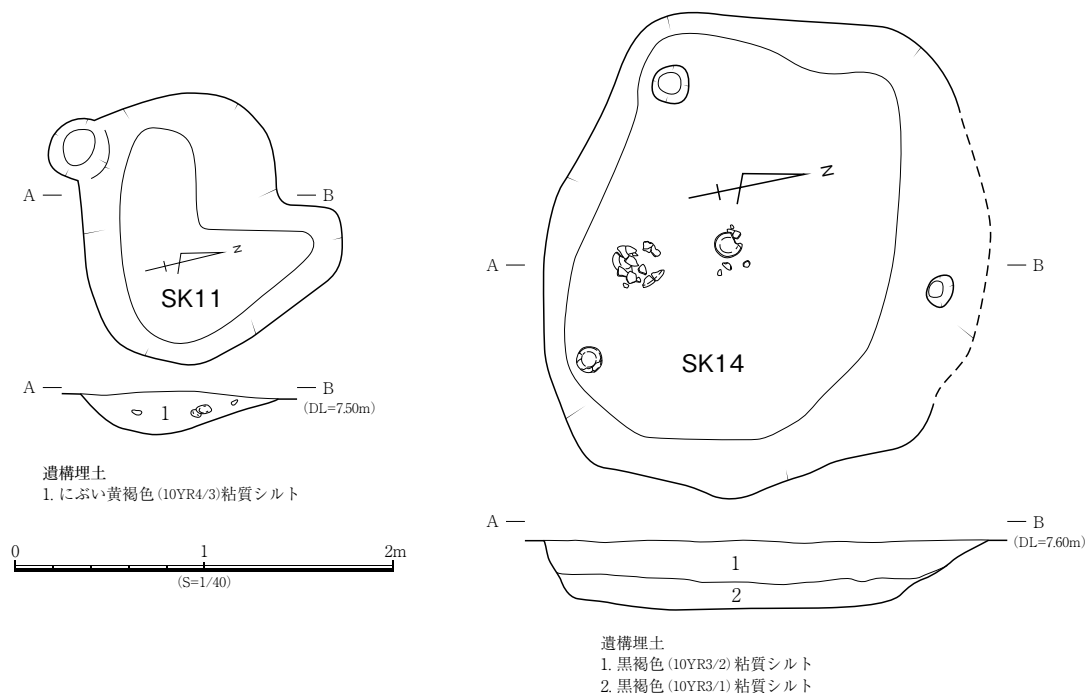


図3-15 SK11・14

SK28(図3-19・20)

区画溝SD15の内側に位置する。平面形は円形を呈し長軸 1.06m, 短軸 0.95m で床面は二段になっており深さ 20~26cm を測る。断面はU字形である。埋土は1層:黒褐色(10YR3/1)粘質シルトである。遺物は土師質杯類を中心に常滑, 瓦質土器片が出土している。ロクロ成形の土師質小杯(65)は内外面激しく煤けている。SK28の土師質土器はロクロ成形によるものが多い。

SK29(図3-19・20)

区画溝SD15の内側に位置する。平面形は楕円形を呈し長軸 1.97m, 短軸 1.41m, 深さ 20~26cm を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質シルトである。遺物は土師質杯類を中心に瓦質羽釜片が出土している。図示し得たのは土鍾1点(66)のみである。

SK30(図3-21・22)

区画溝SD15の内側に位置しSB15の柱穴(P2)を切っている。平面形は長楕円形を呈し長軸 3.11m, 短軸 1.31m, 深さ 33cm を測る。埋土は1層:黒褐色(10YR3/1)粘質シルト, 2層:灰黄褐色(10YR4/2)粘質シルト, 3層:褐灰色(10YR4/1)粘質シルト, 4層:黒褐色(2.5Y3/1)粘質シルト, 5層:にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質シルトである。土師質杯・皿を中心に瓦質土器や陶器片, 炭化物も出土している。手づくね成形の土師質皿(67~73), 同小皿(74~76), 瀬戸の大皿(77)を図示した。土師質土器の供善形態は圧倒的に手づくね成形が多い。皿は体部下半に顕著な指頭圧痕が残る。内面は丁寧なナデ調整で仕上げられるが, 67の底部外面には木目状の平行圧痕が見られ, 外面は全面が煤けている。

SK31(図3-23・26)

調査区中央部に位置しSD15を切っている。平面形は楕円形を呈し長軸 1.8m, 短軸 1.5m, 深さ 29cm を測る。埋土は1層:黒褐色(10YR3/1)粘質シルト, 2層:にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質シルトである。

1.ⅢA-6・7区 (2) 検出遺構と遺物

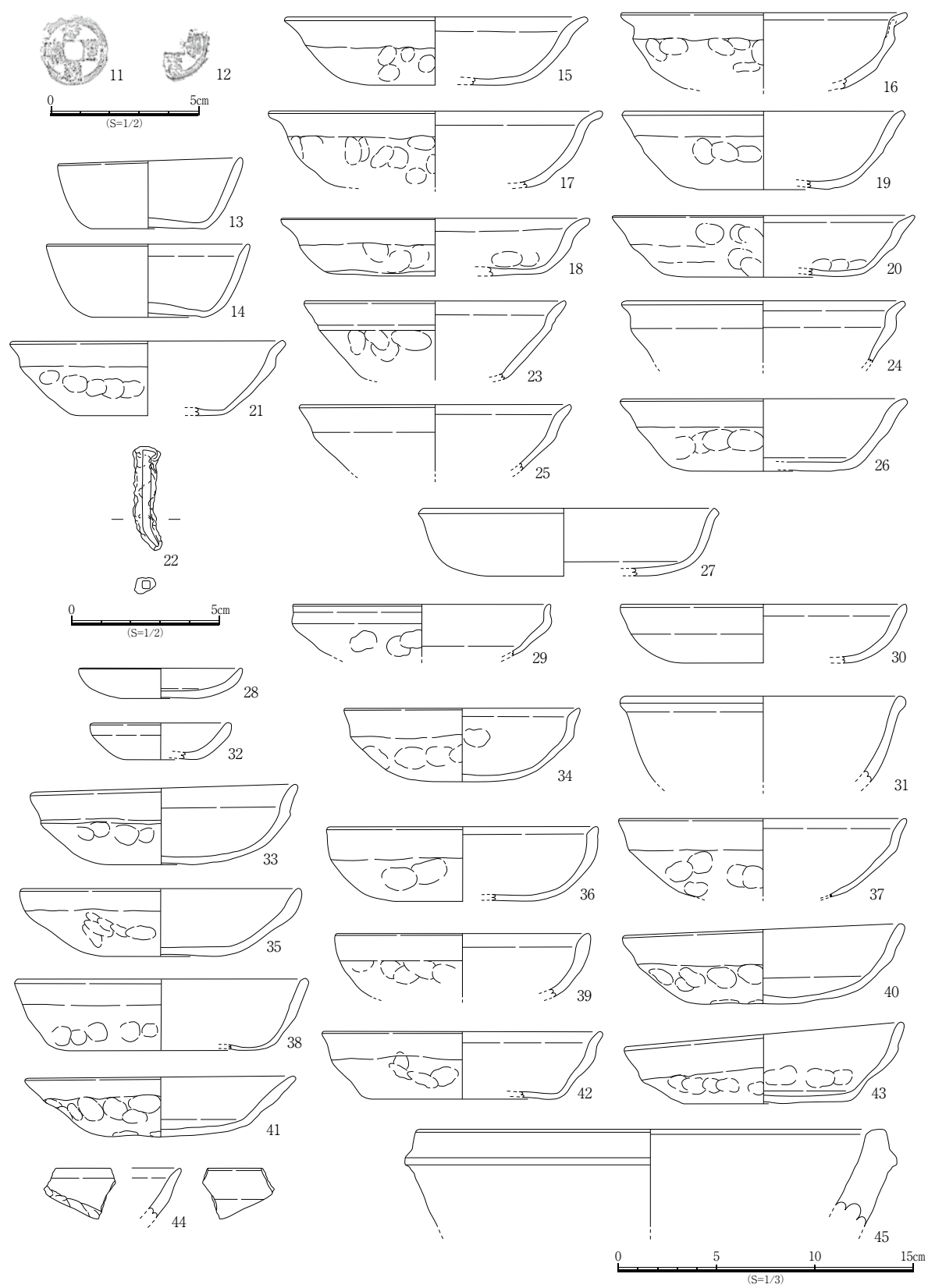


図3-16 SK5~14出土遺物実測図



図3-17 SK17・18

遺物はロクロ成形の土師質小皿(78), 手づくね成形の杯(79), 土錘(80・81)で土師質土器の供善形態は, 細片が多いが底部を見る限り糸切りが大半を占めている。

SK32(図3-23・26)

SK31 の北隣にあり SB13 に切られている。平面形は不整円形を呈し長軸 2.12m, 短軸 2.02m, 深さ 21 cmを測る。埋土は黒褐色 (10YR3/1) 粘質シルトである。土師質土器細片や瓦質土器鍋底部片が出土している。ロクロ成形の小杯(82)のみ図示し得た。

SK33(図3-23・26)

SD15 の内側にあり SK36 や SB17, いくつかのピットと重複している。SK36 を切っているが SB17 との先後関係は不明である。平面形は不整形を呈し長軸 1.55m, 短軸 1.65m, 深さ 13 cmを測る。

1. III A - 6・7区 (2) 検出遺構と遺物

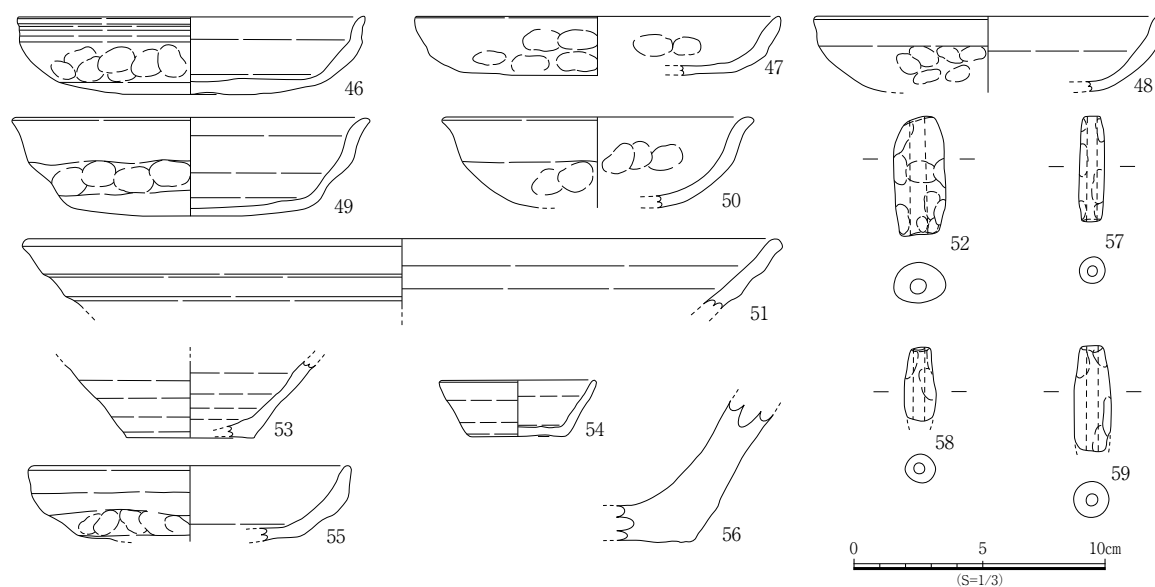


図3-18 SK17・18出土遺物実測図

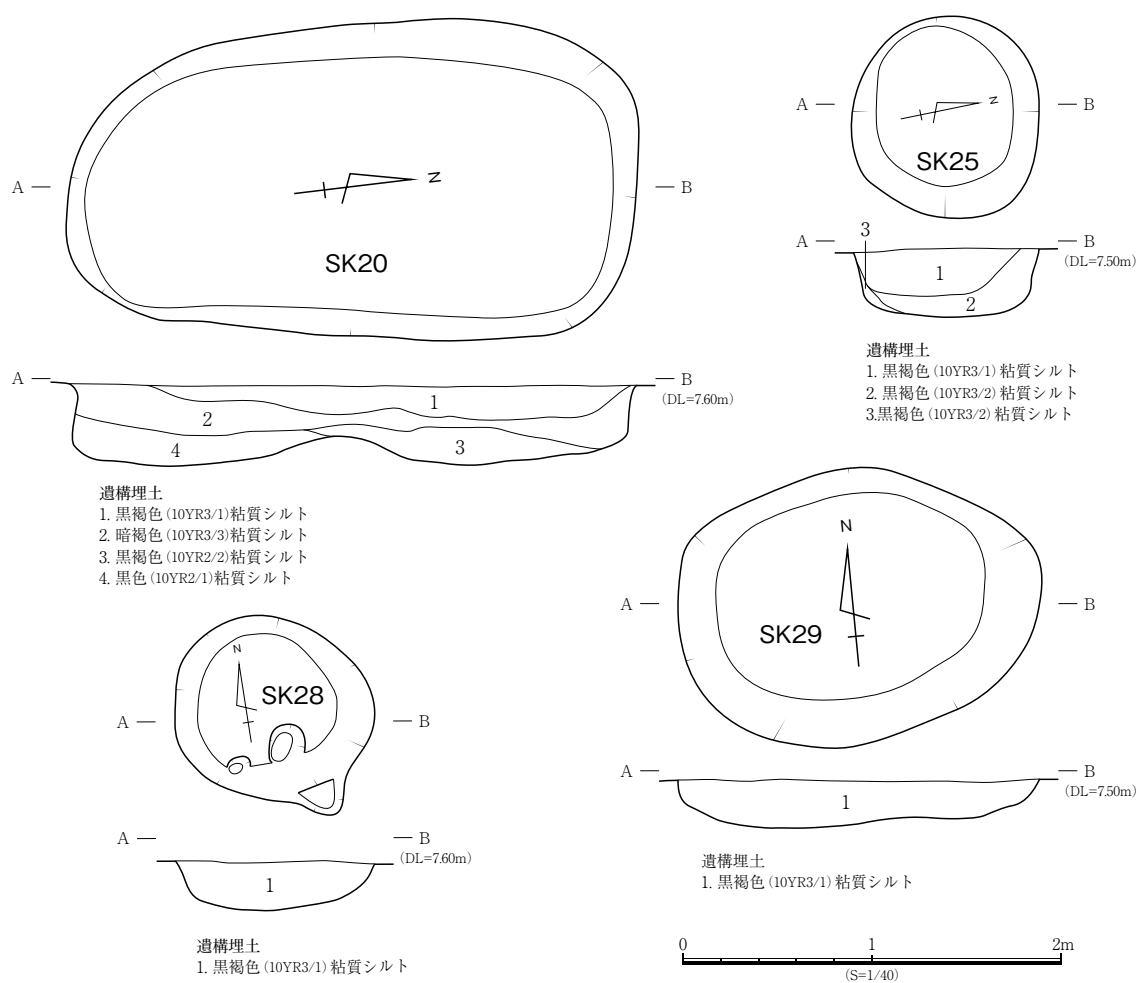


図3-19 SK20・25・28・29

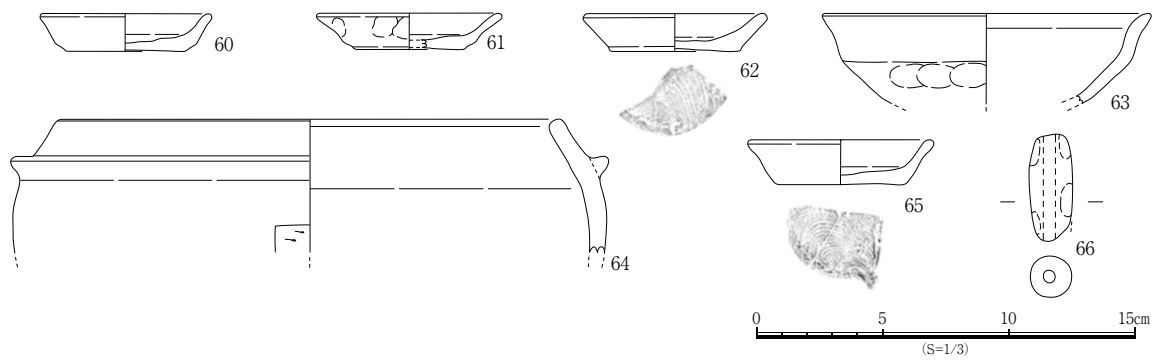


図3-20 SK20・25・28・29出土遺物

埋土は灰黄褐色(10YR4/2)粘質シルトである。遺物は土師質土器細片が多い。白磁小皿(83)を図示し得たのみである。

SK34(図3-23・26)

SD15の内側にあり幾つかの遺構と切り合い関係にある。SK36を切っているがSB17との先後関係は不明である。平面形は楕円形を呈し長軸2.34m、短軸1.4m、深さ25cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質シルトに砂礫を多く含む。遺物は土師質皿・

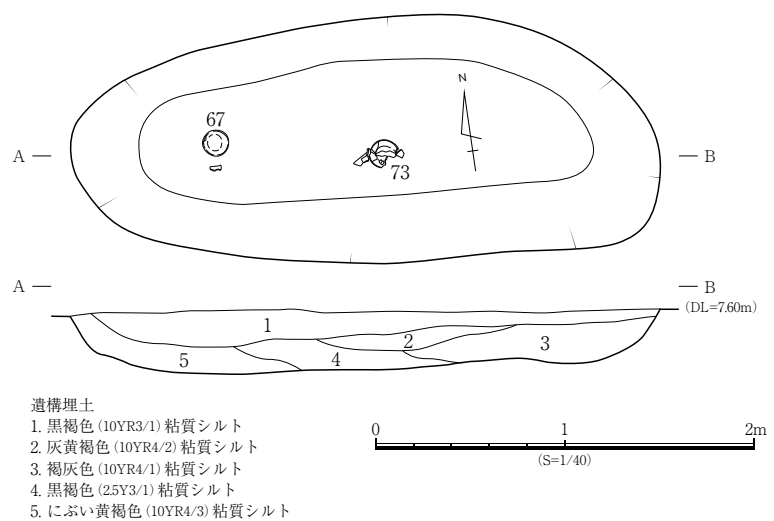


図3-21 SK30

杯片が多く出土している。84・85は手づくね成形の皿である。糸切りの底部も認められるが手づくね成形が殆どである。

SK35(図3-23・26)

SD15の外側を巡る区画溝SD8を切っている。平面形は楕円形を呈し長軸1.19m、短軸1.02m、深さ7cmを測る。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)粘質シルトである。遺物は手づくね成形の土師質皿が3点(86~88)下層から出土している。

SK38(図3-23・26)

調査区南部の遺構密集部に位置する。SD12を切り、SK16に切られている。平面形は長楕円形を呈し長軸3.24m、短軸1.2m、深さ21cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)砂礫で1~3cm大の砂岩礫を多く含む。遺物は土師質杯・皿片が多く瓦質土器も出土している。89・90は手づくね成形の皿、91は土錘、92は銭貨で明の「洪武通寶」(初鑄1368年)である。外径2.3cm、内径1.98cmを測る。

SK43(図3-24・26)

調査区中央部南寄りの遺構密集地点に位置し多くの遺構と重複しており、SK41・42に切られている。埋土は1層:黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルト、2層:暗褐色(7.5YR3/3)粘質シルト、3層:黒褐色

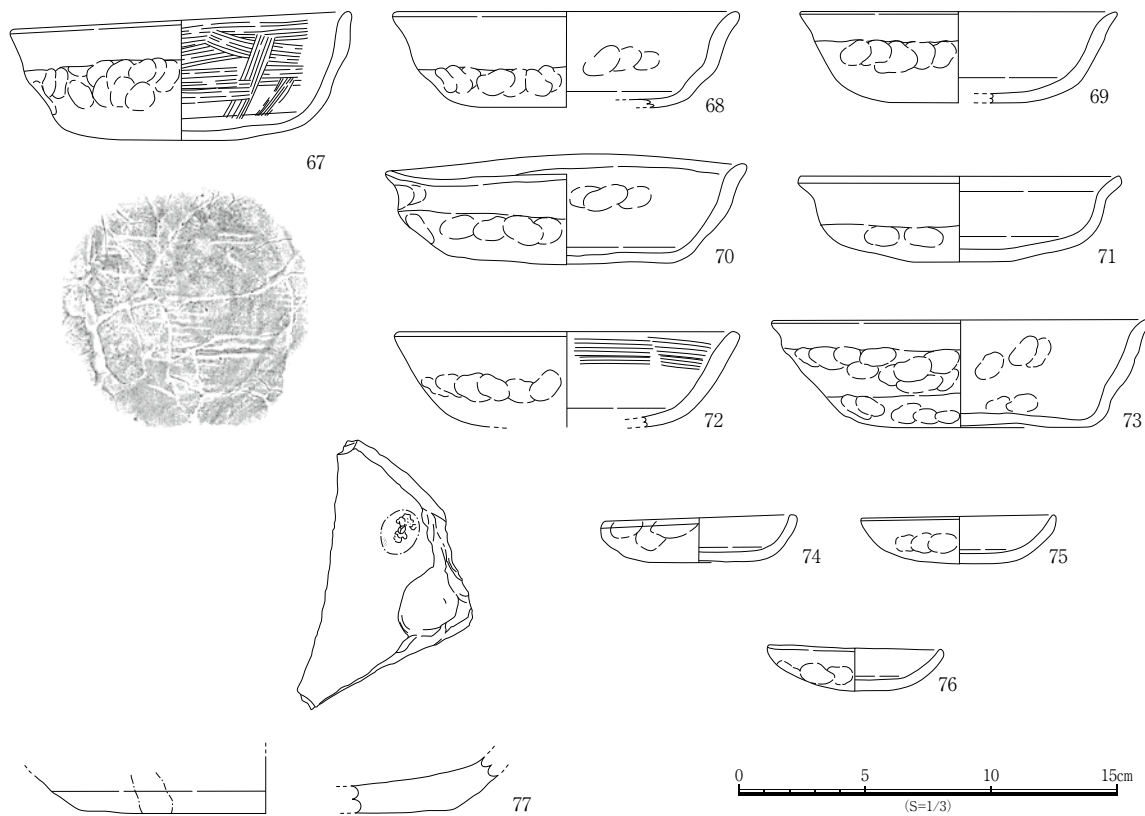


図3-22 SK30出土遺物実測図

(7.5YR3/2)シルト, 4層:小礫を多く含む灰褐色(7.5YR4/2)粘質シルト, 5層:暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。断面を見るといくつかの遺構が切り合っているものと考えられるが, 平面的に個々の遺構輪郭を捉えて掘り下げることができなかったので一つの土坑として遺物を取り上げた。

埋土の広がりや楕円形を呈し長軸 3.38m, 短軸 1.66m, 深さ 20 ~ 37 cmを測る。遺物は土師質土器を中心に瓦質土器, 備前, 青磁碗など多くの遺物が出土している。93 ~ 95 は手づくね成形の土師質皿, 96 は内外面に片切り彫りによる文様を描いた青磁碗, 97 は瓦質播鉢, 98 は備前大甕である。土師質土器の供善形態は圧倒的に手づくね成形が多い。

SK44(図3-24・26)

調査区南寄りの遺構密集地点に位置する。平面形は不整形を呈し長軸 1.58m, 短軸 1.16m, 深さ 13cmを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)粘質シルトである。遺物は土師質杯・皿の細片, 白磁壺細片が出土しており, 手づくね成形の土師質皿(99), 土鍾(100)を図示した。土師質の供善形態には糸切り痕も認められるが手づくね成形が圧倒的に多い。

SK46(図3-24・26)

調査区南部を走る SD12 の床面で検出した。平面形は長楕円形を呈し長軸 1.9m, 短軸 0.53m, 深さ 16cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR2/2)粘質シルトである。土師質土器の細片が少量出土している。土鍾(101)のみ図示し得た。

SK48(図3-25・26)

調査区中央部北寄りに位置する。SD18 を切り SD8 に切られている。平面は長楕円形状を呈する

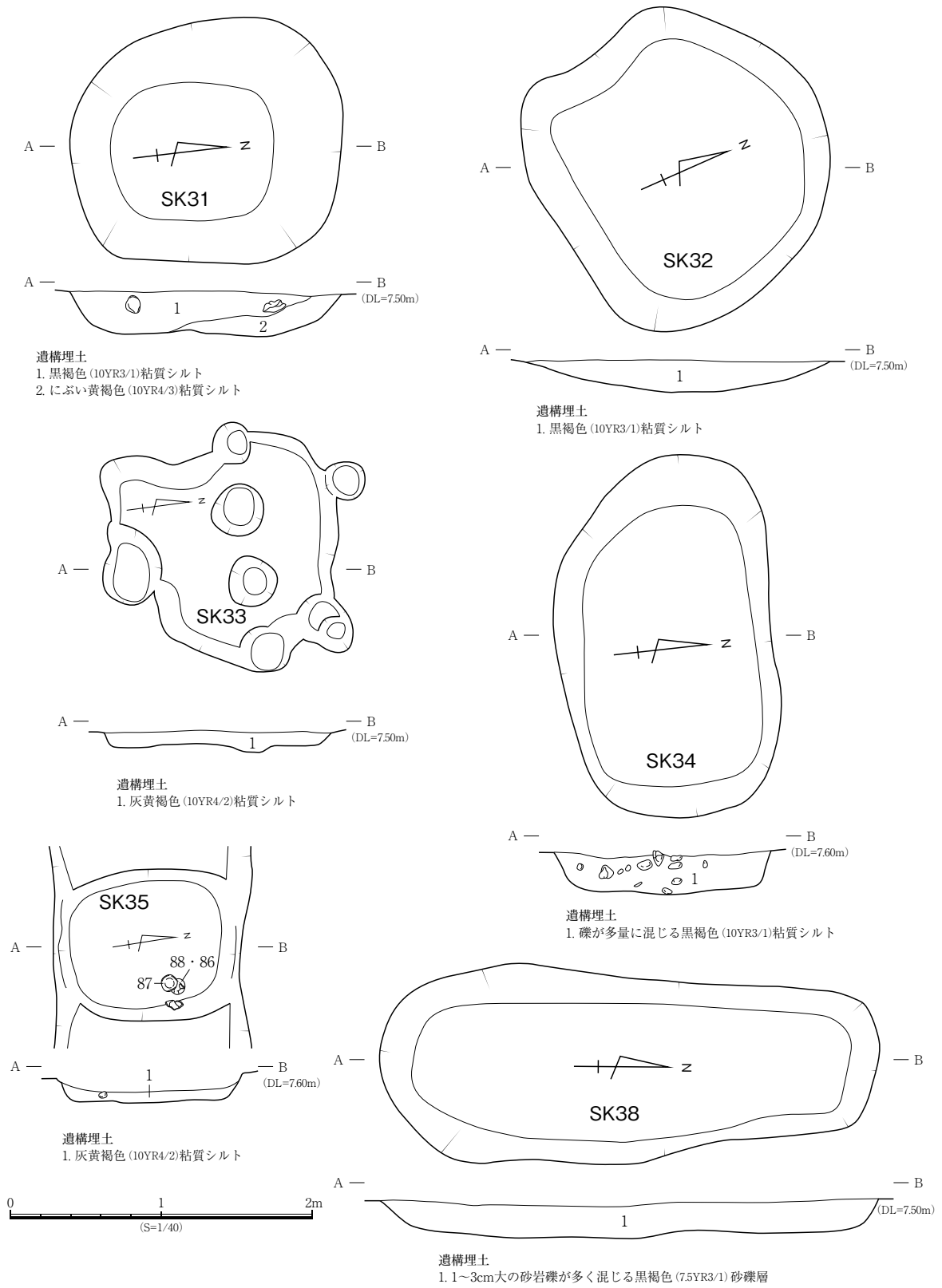


図3-23 SK31~35・38

1. III A - 6・7区 (2) 検出遺構と遺物

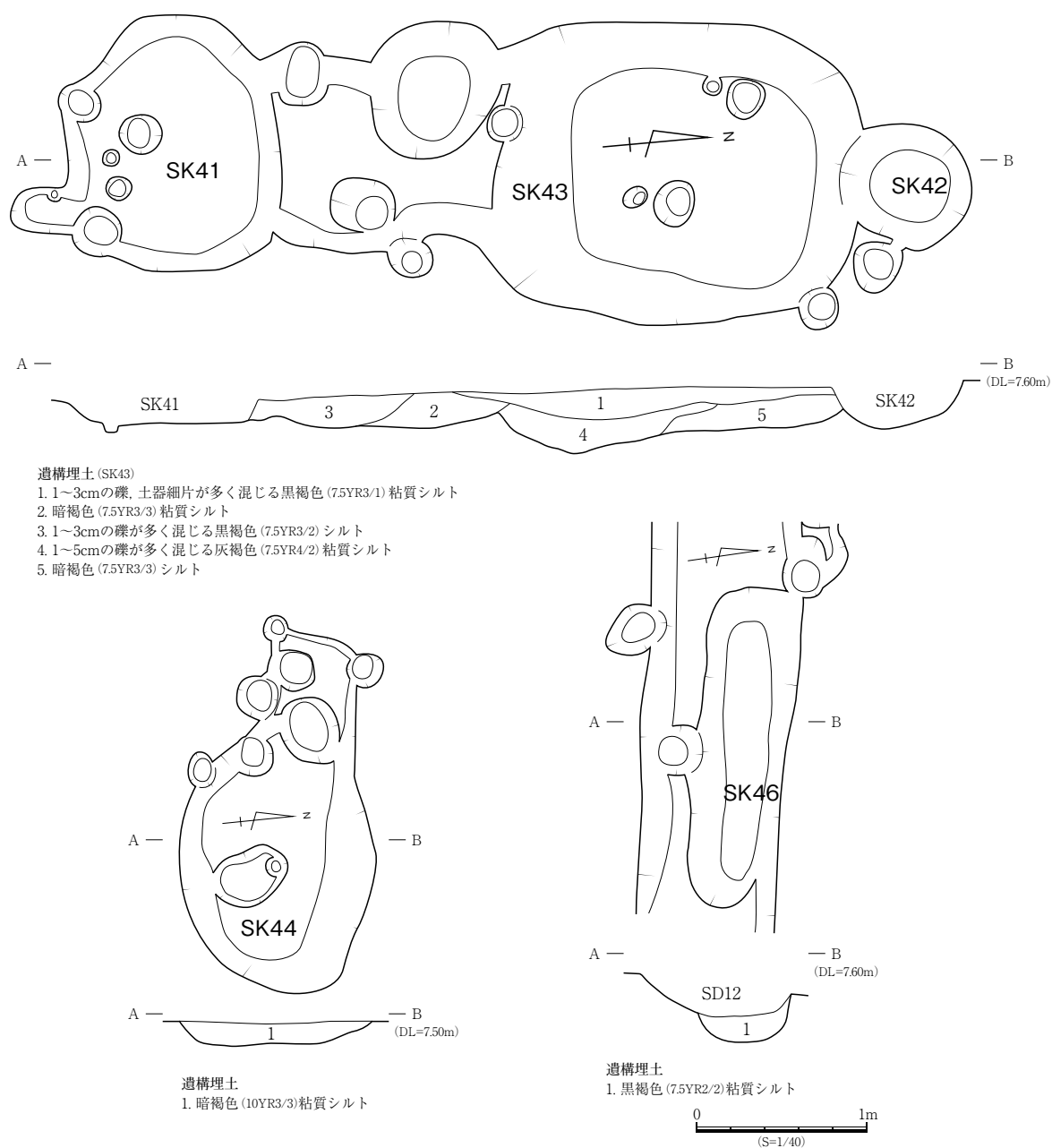


図3-24 SK43・44・46

ものと考えられる。確認できる長軸 1.97m, 短軸 1.28m, 深さ 13 cmである。埋土は黒褐色 (7.5YR2/1) 粘質シルトである。土師質の杯・皿の細片が多く出土している。102 はロクロ成形の小杯である。

SK53(図3-27・30)

調査区南部にあり SD12 に接している。平面形は不整形を呈し長軸 1.87m, 短軸 1.57m, 深さ 27 cmを測る。埋土は 1 層: 黒褐色 (7.5YR3/1) 粘質土, 2 層: 黒色 (7.5YR2/1) 粘質土で小礫を含んでいる。遺物は土師質杯・皿を中心に備前大甕の胴部片や瓦質土器などが出土している。土師質杯・皿では手づくね成形によるものが多い。103 は手づくね成形の皿, 104 は土錘である。

SK54(図3-27・30)

調査区南部に位置する。平面形は不整形を呈し長軸3.12m, 短軸2.6m, 深さ 16 cmである。埋土は褐灰色(10YR4/1)粘質シルトである。105 は手づくね成形の皿, 106 は鉄滓である。鉄滓は 6 cm程の大きさで厚さ 2 cmの塊である。この他土師質土器の細片が出土している。



図3-25 SK48

SK55(図3-27・30)

調査区南部に位置し, SK80 に切られる。平面形は方形を呈し長軸 1.51m, 短軸 1.34m, 深さ 22 cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質シルトである。遺物は土師質の供善形態を中心に備前大甕片や瓦質土器片が出土している。107 は手づくね成形の小皿, 108 は同皿で内面は横方向のハケ調整が施されている。

SK57(図3-27・30)

調査区南部に位置する。平面形は不整形を呈し長軸 0.92m, 短軸 0.8m, 深さ 17 cmを測る。埋土は 1 層: 黒褐色(7.5YR3/1)粘質土, 2 層: 暗褐色(7.5YR3/3)粘質土である。遺物はロクロ成形の土師質杯(109)が出土している。

SK58(図3-28・30)

調査区南部の遺構集中地点に位置する。平面形は不整形を呈し長軸 3.83m, 短軸 2.4m, 深さ 27 cmを測る。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)粘質シルトである。遺物は土師質土器片が多く出土している。110・111 は手づくね成形の皿, 112 は回転台成形による小型の杯で, 底部にヘラ切り痕跡を明瞭に留めている。底部ヘラ切り手法は, 当地域の中世には認められない手法であり違和感のある遺物である。古代遺物の混入の可能性がある。113 は土錘である。

SK59(図3-28・30)

SK58 の西北隣に位置する。平面形は隅丸方形を呈し長軸 1.65m, 短軸 1.1m, 深さ 34 cmを測る。埋土は 1 層: 黒褐色(10YR3/1)粘質シルト, 2 層: 黒色(10YR2/1)粘質シルトである。遺物は土師質杯・皿の細片と瓦質羽釜胴部片が出土している。115 は瓦質土器羽釜で口縁下に断面蒲鉾状の突帯を貼付している。114 は土錘である。

SK62(図3-28・30)

SK58 の南隣に位置する。平面形は楕円形を呈し長軸 0.76m, 短軸 0.67m, 深さ 14 cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)粘質土である。遺物は土師質土器の細片と退化した高台を持つ瓦器碗底部が出土している。116 はロクロ成形の杯である。

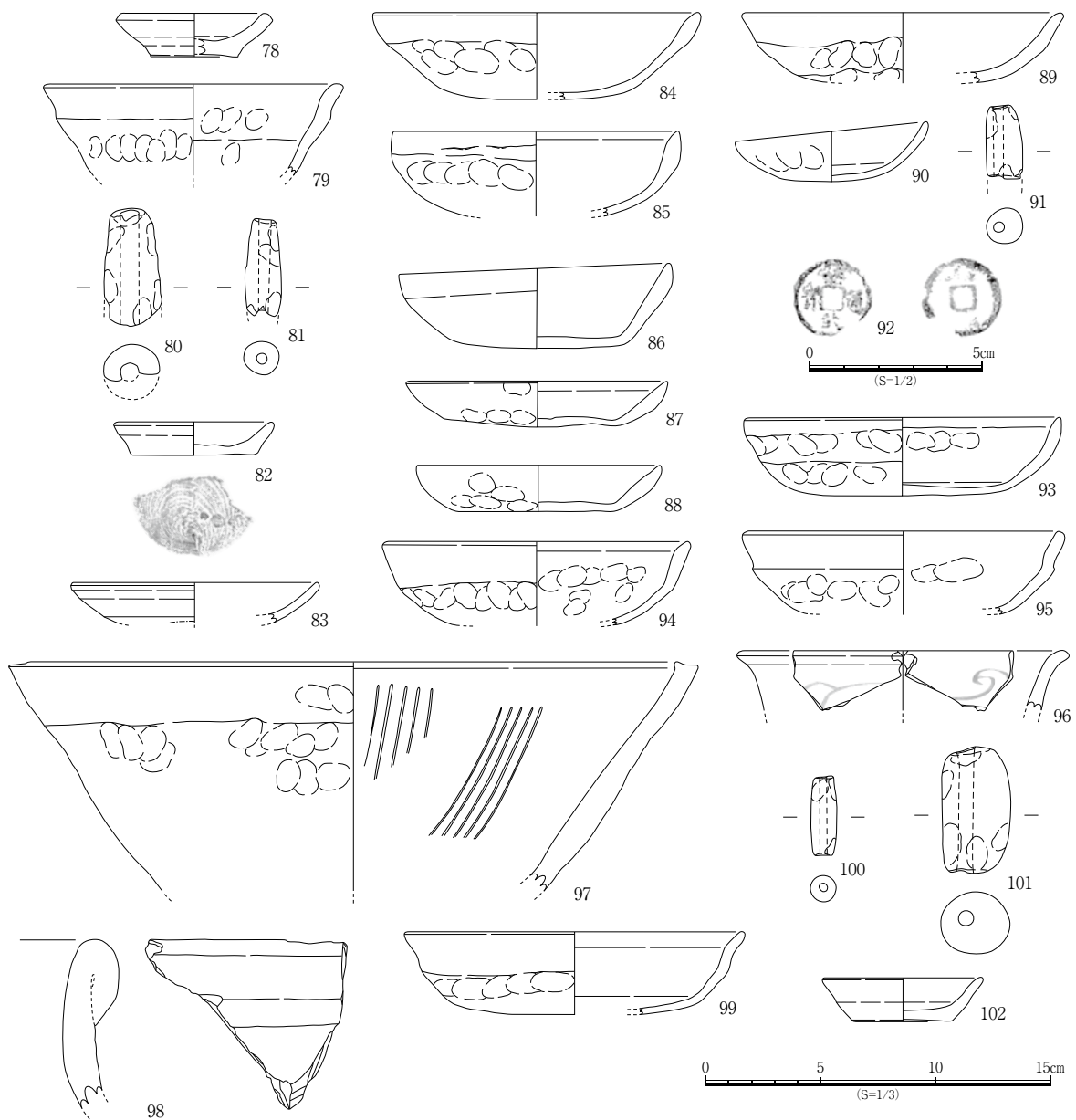


図3-26 SK31~35・38・43・44・46・48出土遺物実測図

SK63(図3-29・30)

遺構密集部分の南部に位置する。平面形は隅丸方形状を呈し長軸 1.28m、短軸 0.83m、深さ 21cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルトである。遺物はロクロ成形の土師質杯(121・122)、同小杯(117~120・123)、瓦質鍋(124・125)が見られる。瓦質土器鍋は外面に指頭圧痕が顕著に残る。土師質の杯・皿類が多いが、ここではロクロ成形によるものが多く認められる。

SK67(図3-29・30)

調査区南端に位置し大部分が調査区外に出ており、平面形や規模は不明である。埋土は1層で黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルトである。土師質の杯・皿類の細片が多く、瓦器碗細片も少量出土しているが、図示し得たのは土鍾(126・127)のみである。

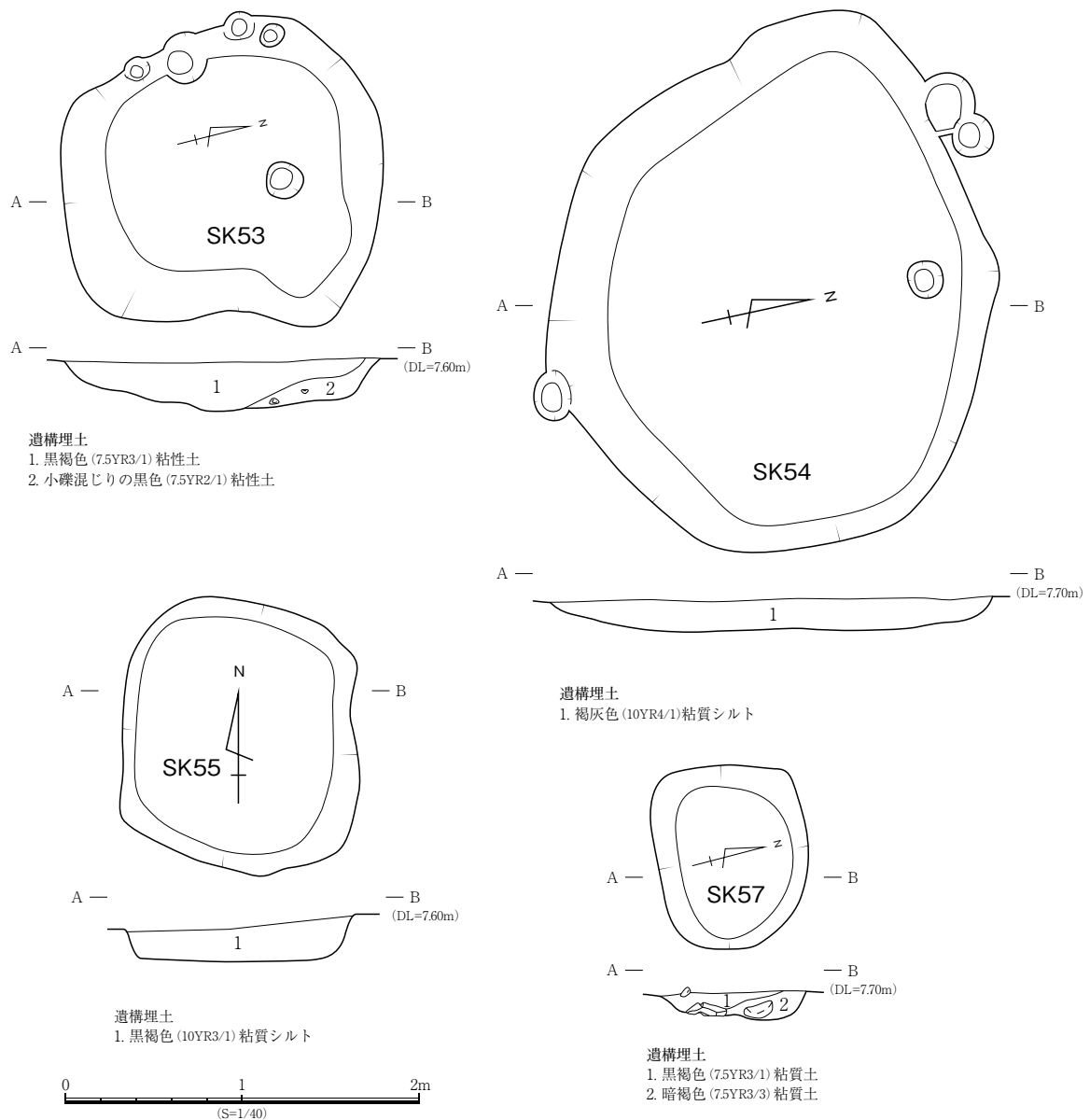


図3-27 SK53~55・57

SK69(図3-31・33)

調査区中央部北寄りに位置し区画溝SD8を切っている。平面形は楕円形で長軸1.12m, 短軸0.84m, 深さ23cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルトで小円礫を含む。遺物は手づくね成形の土師質皿(128), 刀子(129)が床面から出土している。この他埋土中からは土師質土器の細片が出土している。

SK70(図3-31・33)

調査区南部の遺構集中地点に位置し複数のピットと切り合っている。平面形は隅丸方形状を呈し長軸1.18m, 短軸1.07m, 深さ10cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルトである。遺物はロクロ成形や手づくね成形による土師質杯・皿の細片が見られる。130はロクロ成形による

1.ⅢA-6・7区 (2) 検出遺構と遺物

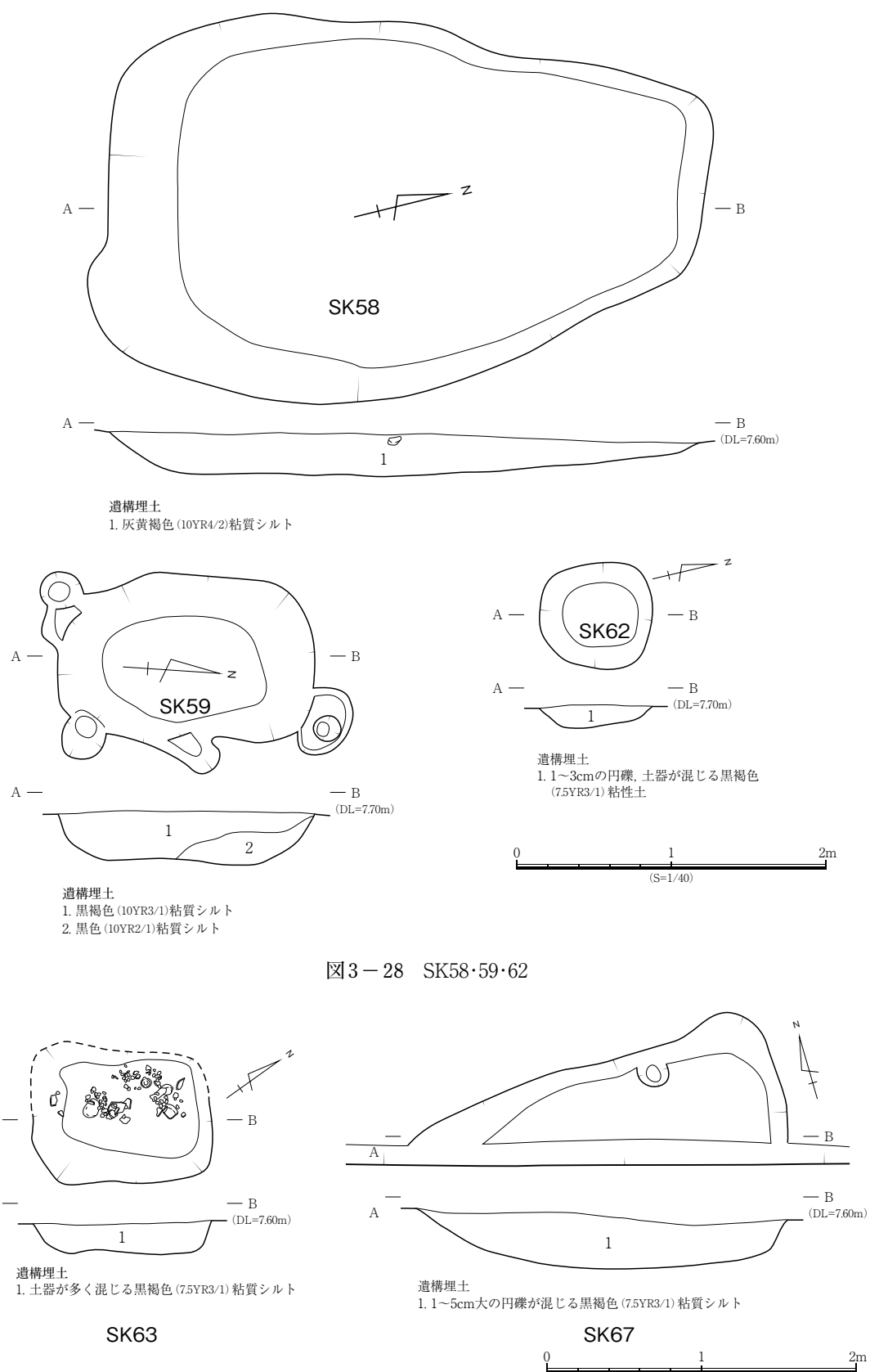


図3-28 SK58・59・62

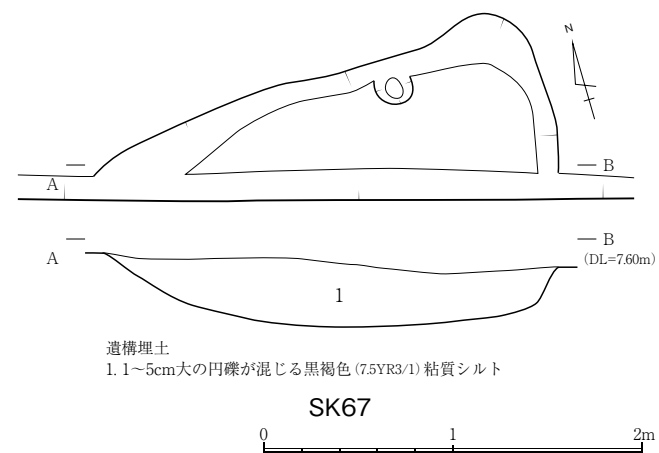


図3-29 SK63・67

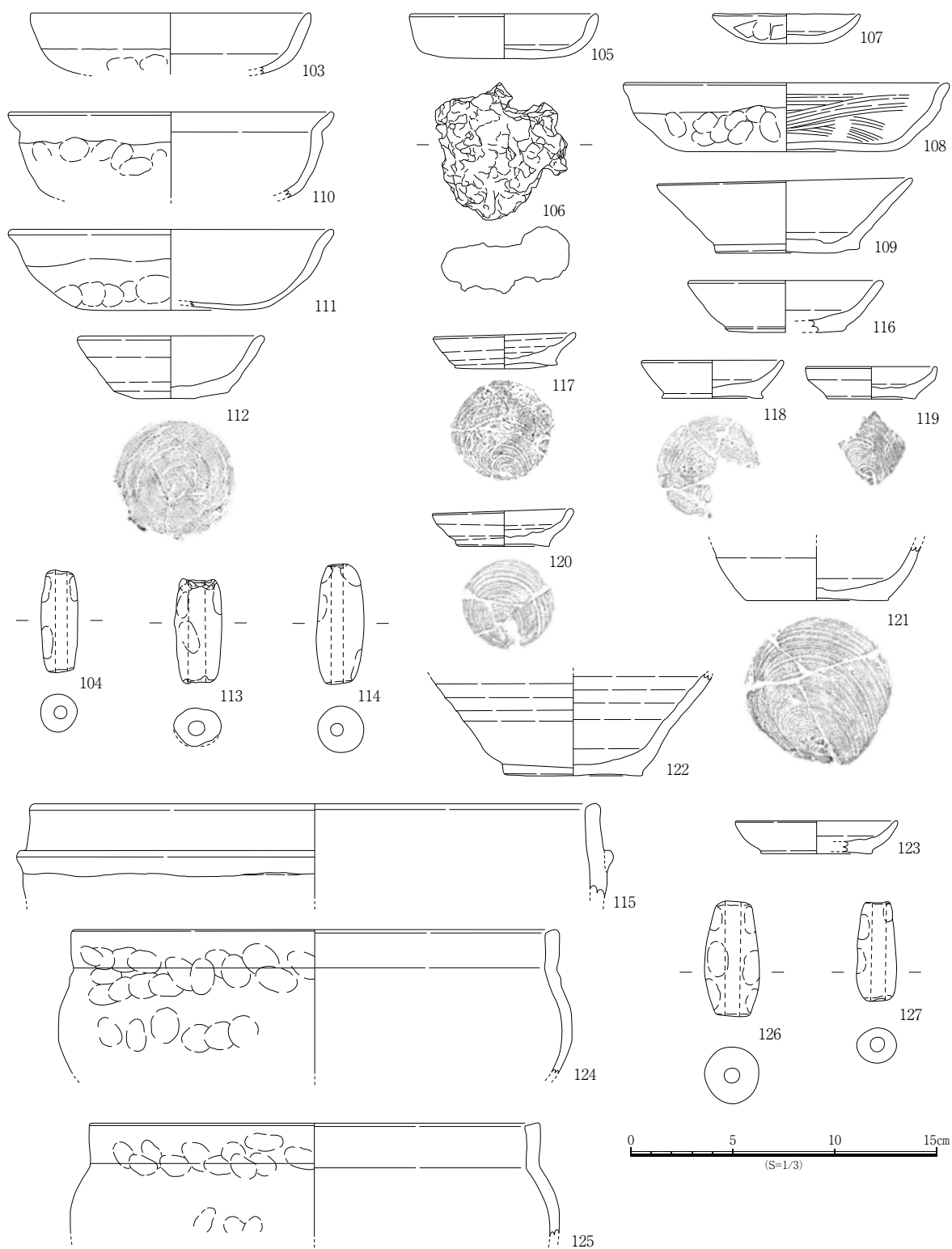


图3-30 SK53~67出土遺物実測図

土師質杯である。

SK71(図3-31・33)

中央部の遺構密集地点に位置しSK39やピットに切られている。平面形は不整形を呈し長軸1.1m, 短軸0.72m, 深さ7cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルトである。遺物は手づくね成形の土師質皿(131)が出土している。底部外面に平行圧痕が認められる。

SK72(図3-32・33)

調査区南部に位置する。区画溝SD12に大きく切られており平面形や規模を明らかにすることはできない。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質シルトである。遺物は土師質土器の細片が出土している。132はロクロ成形の杯である。

SK76(図3-32・33)

調査区中央部の遺構密集地点に位置する。平面形は楕円形を呈し, 長軸1.87m, 短軸1.68m, 深さ31cmを測る。埋土は黒色(10YR2/1)粘質シルトである。遺物は土師質杯・皿の細片が多く瓦質鍋や陶器片も少量見られる。133はロクロ成形の土師質杯, 134・135は瓦質羽釜である。

SK83(図3-32・33)

調査区中央部南寄りに位置しSK84を切っている。平面形は隅丸方形を呈し, 長軸1.04m, 短軸0.98m, 深さ32cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質シルトである。遺物は手づくね成形の土師質皿(136~138)が出土している。

SK86(図3-33)

調査区中央部に位置する。平面形は円形を呈し直径1.0m, 深さ19cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質シルトである。遺物はロクロ成形による土師質杯(139)と東播系須恵器の捏鉢(140), この他土師質細片が出土しているが, 全てロクロ成形による杯片である。

SK87(図3-33・34)

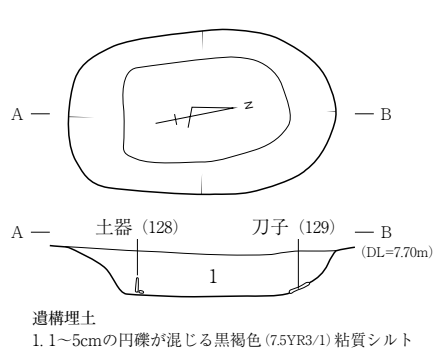
調査区の南端に位置し一部が調査区外に出ている。楕円形状を呈し長軸1.98m, 短軸0.9m, 深さ20cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)粘質土である。遺物は土師質皿が多く出土している。141~149は手づくね成形の皿, 150は瓦質播鉢である。後者は外面に指頭圧痕が顕著に残り内面に5本単位の条線が見られる。土師質皿は図示し得なかった細片も含めてすべて手づくね成形によるもので, ロクロ成形はみられない。

SK91(図3-34・36)

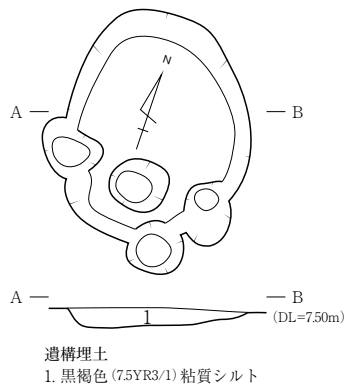
SD1とSD25の間に位置する。平面形は不整形を呈し長軸1.11m, 短軸1.02m, 深さ12cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)粘質シルトである。遺物は土師質杯類が出土しているが全てロクロ成形によるものである。151は杯底部である。

SK92(図3-34・36)

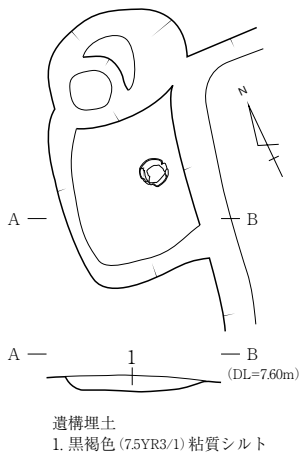
SK91の南に位置する。平面形は楕円形を呈し長軸1.54m, 短軸1.23m, 深さ29cmを測る。埋土は1層:黒褐色(10YR3/1)粘質シルト, 2層:にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質シルトである。遺物は多量の土師質杯・碗類片と少量の瓦器碗片が出土している。土師質杯・碗類は殆ど例外無くロクロ成形によるものである。152~156は土師質杯, 157~161は同小杯, 162は同碗である。160は口縁部のかなりの部分を焼成後意識的に打ち欠いている。162は内面にヘラ磨きを施し円盤状高台を有する。



SK69



SK70



SK71

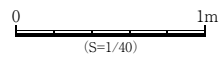


図3-31 SK69・70・71

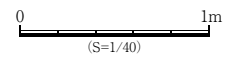
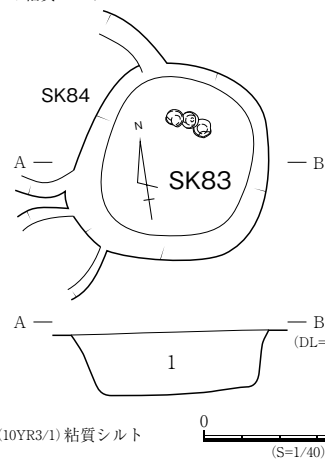
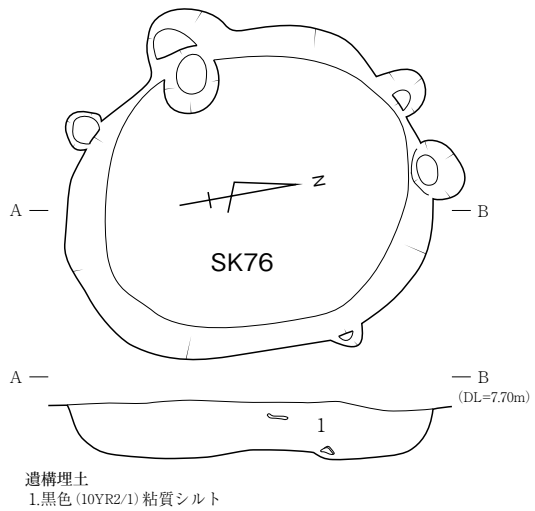
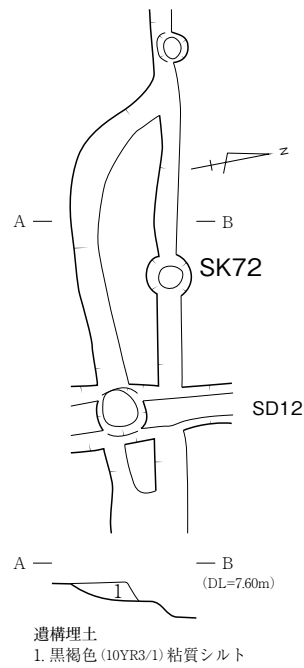


図3-32 SK72・76・83

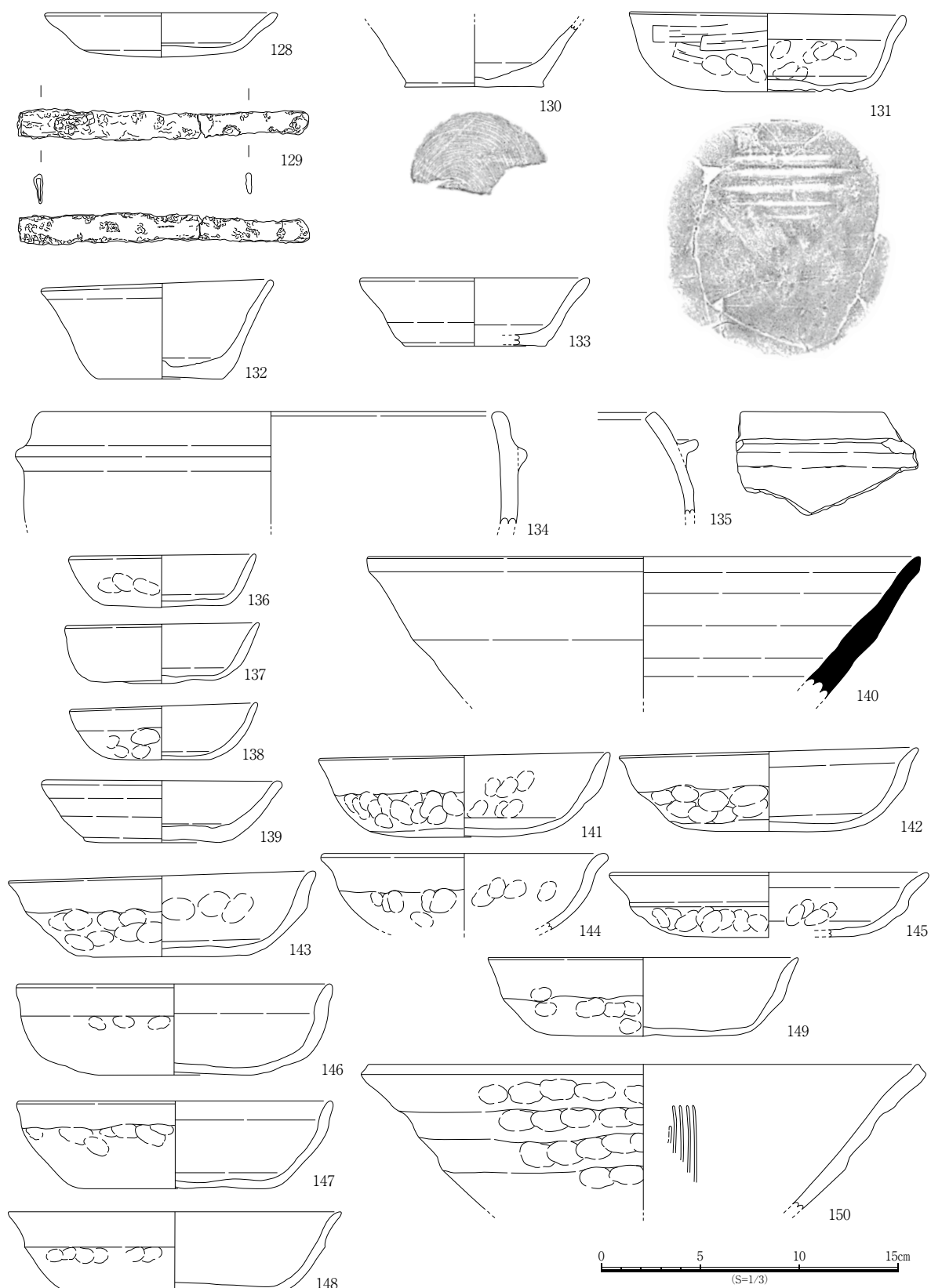


図3-33 SK69~87出土遺物実測図

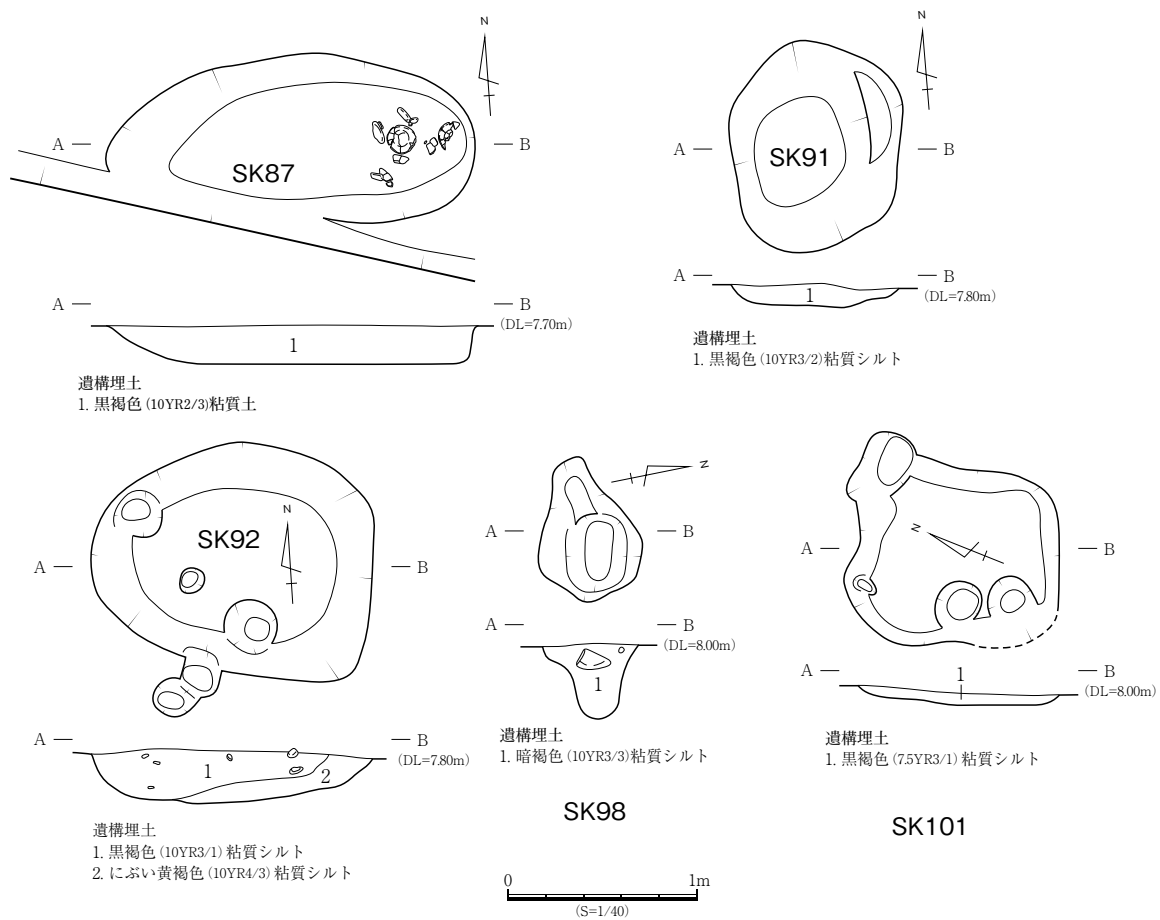


図3-34 SK87・91・92・98・101

SK98(図3-34・36)

調査区西部に位置し SB6 と重複しているが先後関係は不明である。平面形は不整形を呈し長軸 0.73m, 短軸 0.55m, 深さ 40 cmを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)粘質シルトである。遺物は土師質土器片が少量と鉄製品が出土している。163 は手づくね成形の皿, 164 は板状の鉄製品で径 3 mmの小孔が穿たれている。

SK101(図3-34・36)

SK98 の西隣に位置し SB6 と重複している。平面形は隅丸方形状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルトである。遺物は少なく瓦質鍋(165)が見られるのみである。

SK105(図3-35・36)

調査区西部に位置する。平面形は円形を呈し, 径 0.79m 前後, 深さ 15 cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)粘質シルトである。遺物は土師質片が多く見られる。166 はロクロ成形の杯, 167 は瓦質鍋である。土師質土器片はすべてロクロ成形の杯である。

SK108(図3-35・36)

調査区西部に位置し SD26・27 を切っている。平面形は楕円形状を呈し長軸 4.32m, 短軸 2.64m, 深さ 26 cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルトである。遺物は土師質の杯・皿類や瓦質土器が出土している。168 ～ 170 は手づくね成形の土師質皿である。細片の中にはロクロ成形の土師

質杯類も見られる。

SK110(図3-35・36)

調査区西部に位置しSD26と接している。平面形は一辺0.95mの隅丸方形状を呈し、深さ14cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘質シルトである。遺物はロクロ成形による土師質杯類が少量出土している。171は土師質小杯である。

SK111(図3-35・36)

SD27を切っている。平面形は隅丸方形を呈し長軸1.21m、短軸0.78m、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘質シルトである。遺物は手づくね成形による土師質土器皿(172・173)、白磁碗

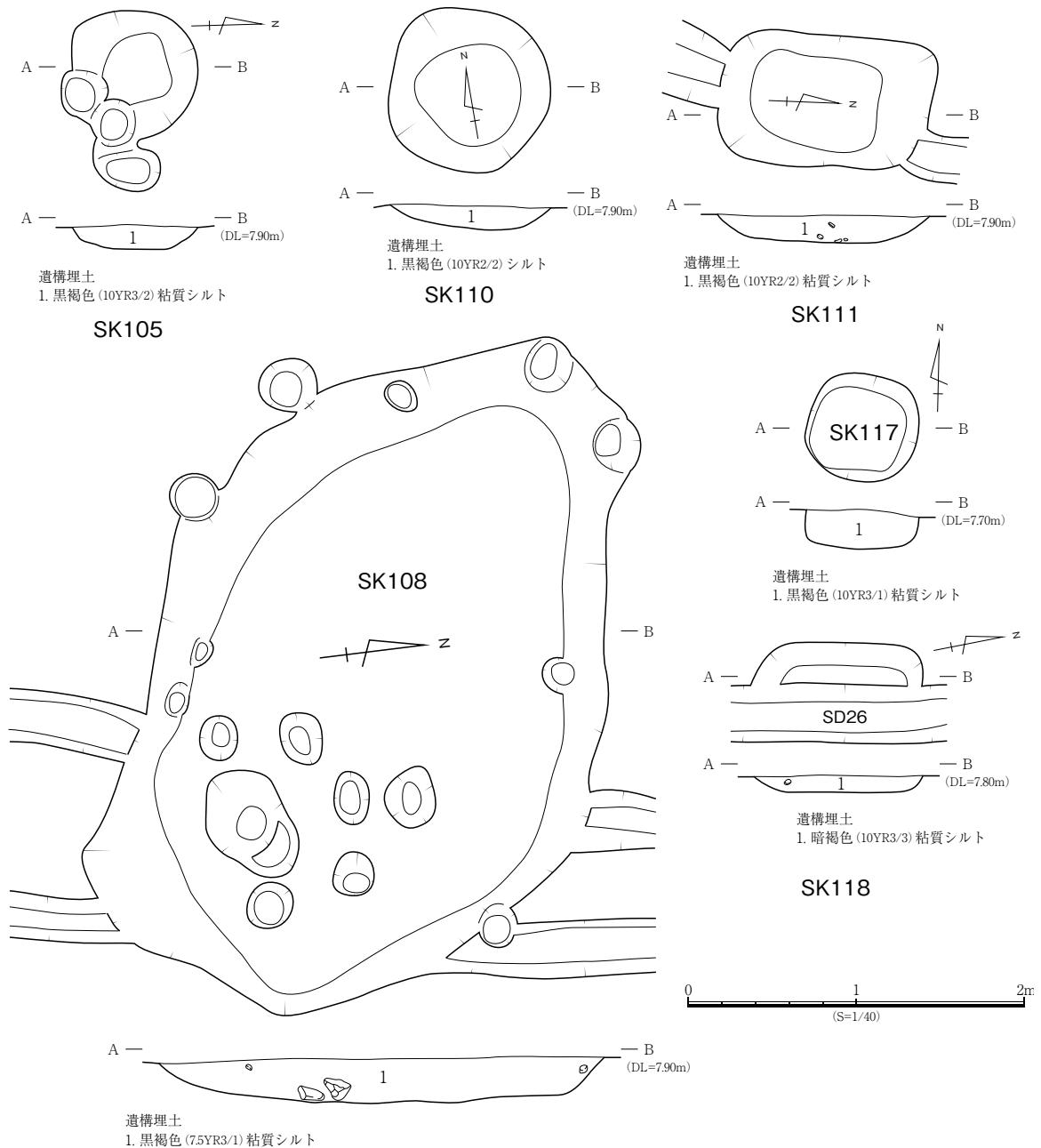


図3-35 SK105・108・110・111・117・118

底部(174)が出土している。土師質片の中にはロクロ成形によるものも見られる。

SK117(図3-35・36)

調査区西南部に位置しSB8と重複している。平面形は隅丸方形を呈し長軸0.71m, 短軸0.68m, 深さ24cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質シルトである。遺物はロクロ成形による土師質土器片を多く含んでいる。175は土師質杯底部である。

SK118(図3-35・36)

調査区南西部に位置しSD26に切られている。平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸1.1m, 短軸0.23m以上, 深さ10cmを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)粘質シルトである。遺物はロクロ成形による土師質土器片が含まれる。176は土師質土器杯底部である。

④ 溝

SD1(図3-37~39)

屋敷地を方形に囲む堀状の溝である。北東のコーナー部分と南部が調査区外に出ており, 同一遺構であることをプランで確認することはできないが, 規模や方向性から考えて一連の区画溝として捉えた。西側の溝は調査区南端から北に34m延びて東へ直角に曲がり23m程延びて調査区外に出ている。東側は南北方向に40mを確認することができる。西側の溝をSD1W, 東側の溝をSD1Eとして述べることにする。SD1WとSD1Eとの東西方向の内法の距離は南部で55m, 北部で51mを測り, SD1Wの主軸は磁北に対して7度東に, SD1Eの主軸は同じく西に8度30分振っている。SD1が囲む平面形は南辺が長くなる台形状を呈するものと考えられ, 調査区内で確認できる圍繞面積は約1,900㎡である。

SD1WとSD1Eとでは断面形や埋土に違いが見られる。前者は幅3.5~4.5m, 深さ1.9~2.0mを測り, 床面は比較的平坦で幅1.5mである。床面の標高は南端で6.6m, 北のコーナー部で7.0mと40cmの高低差が見られる。二段に掘られており特に西側の肩には30~80cm幅のテラス状の段が設けられ, SB9の東側の柱穴は段部にかかっている。南部の東肩にある大型のピットP65・66は橋脚に関係する遺構の可能性もある。SD1Wの埋土は図示したように1~8層に分けられるが, 総じて拳から人頭大の砂岩を中心とする河原石が多く入っており短時間で埋められたような状況を呈している。SD1Wからの遺物は中・上層から出土しており下層からは殆ど遺物がみられない。中・上層からは土師質土器を中心に貿易陶磁器や常滑, 須恵器, 石鍋などが出土している。上層からは土師質杯(179), 同小皿(182), 同碗(181), 青磁碗(184・185), 青磁合子(186), 白磁碗(188), 同壺(187), 常滑甕底部(190), 石鍋底部(191), 土錘(192~197・199・200)が出土している。土師質土器の供善形態は図示したもの他に破片6,000gが出土している。これらは極一部に手づくね成形を認めるものの殆どがロクロ成形による。白磁壺(187)は水差しの可能性もある。中層からは土師質土器杯(177・178・180), 青磁碗(183), 須恵器甕(189), 土師質土器の供善形態片が3,400g出土している。全てロクロ成形によるものである。SD1Wの遺物の中で須恵器甕(189)は古代に属するもので混入が考えられるが, 常滑や貿易陶磁器は13世紀前後に比定できるものである。

SD1Eも二段に掘られており西の肩には幅70~80cm, 深さ10cm程の段部が形成されている。床面の標高は南端で6.4m, 北端で6.5mと10cmの高低差が認められる。東肩はSD3・4と切り合っているがやはり段部が形成されている。段部を含めると最大幅は5m前後を測り, 段部を除いた幅は2.4~3.2m前後, 深さは1m前後である。床面はSD1Wにおいてほぼ水平であったのに対して

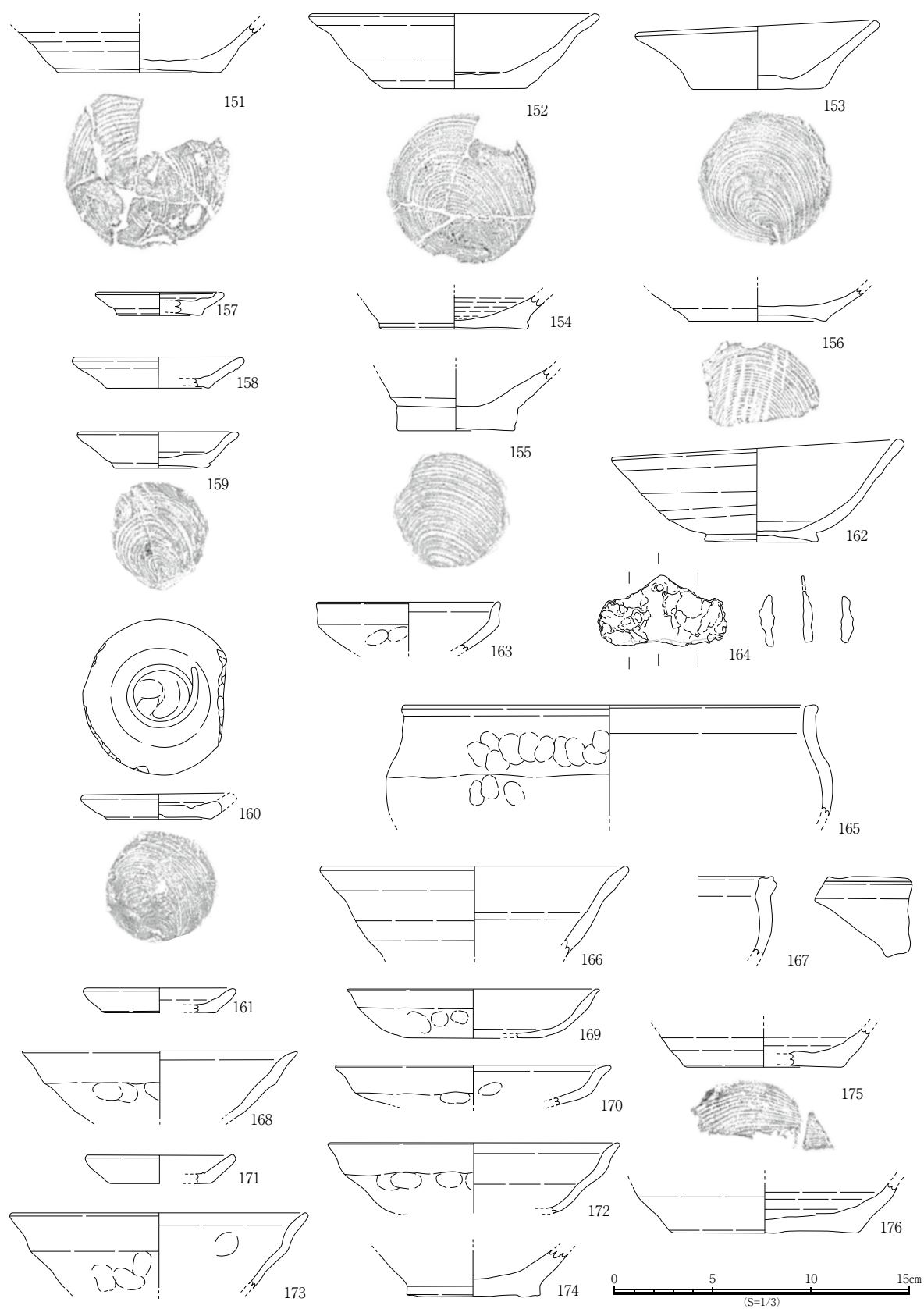


図3-36 SK91~118出土遺物実測図

船底状を呈する。埋土は1～14層に分かれるが粘性土が多く SD1W のような円礫の密集は見られず、SD1W とは埋没の状況が大きく異なるものと考えられる。

遺物は上層、中層、下層から土師質土器を中心に備前などが出土している。上層からは土師質杯(201)、備前播鉢(198)、瀬戸皿(202・203)、瓦質鍋(204)、瓦質羽釜(207)、堺甕(209)が出土している。203の内低には目跡が二ヶ所に見られる。中層からは瓦質羽釜(206)、東播系土師質羽釜(208)、土師質羽

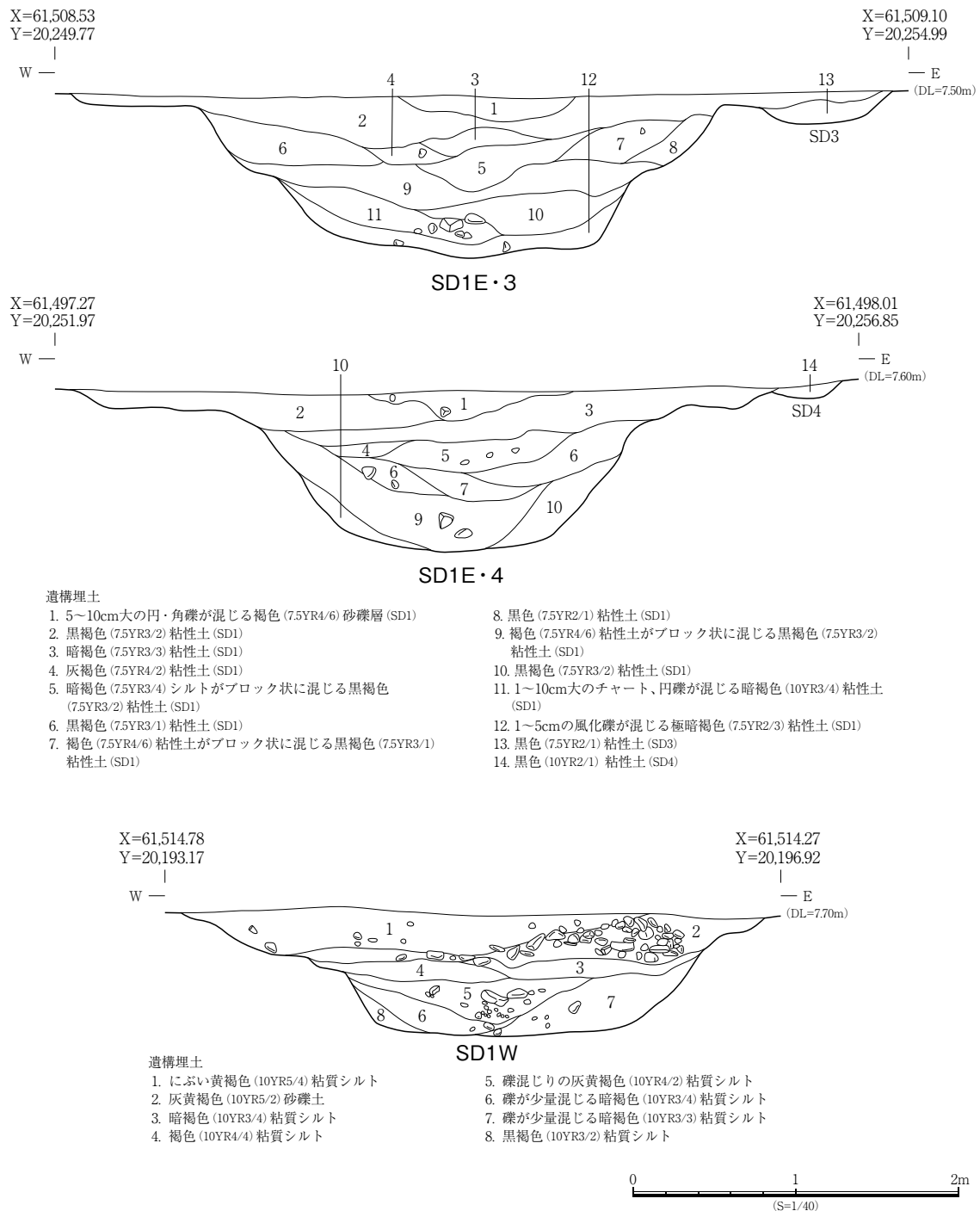


図3-37 SD1E・SD1W・SD3・SD4

1.ⅢA-6・7区 (2) 検出遺構と遺物

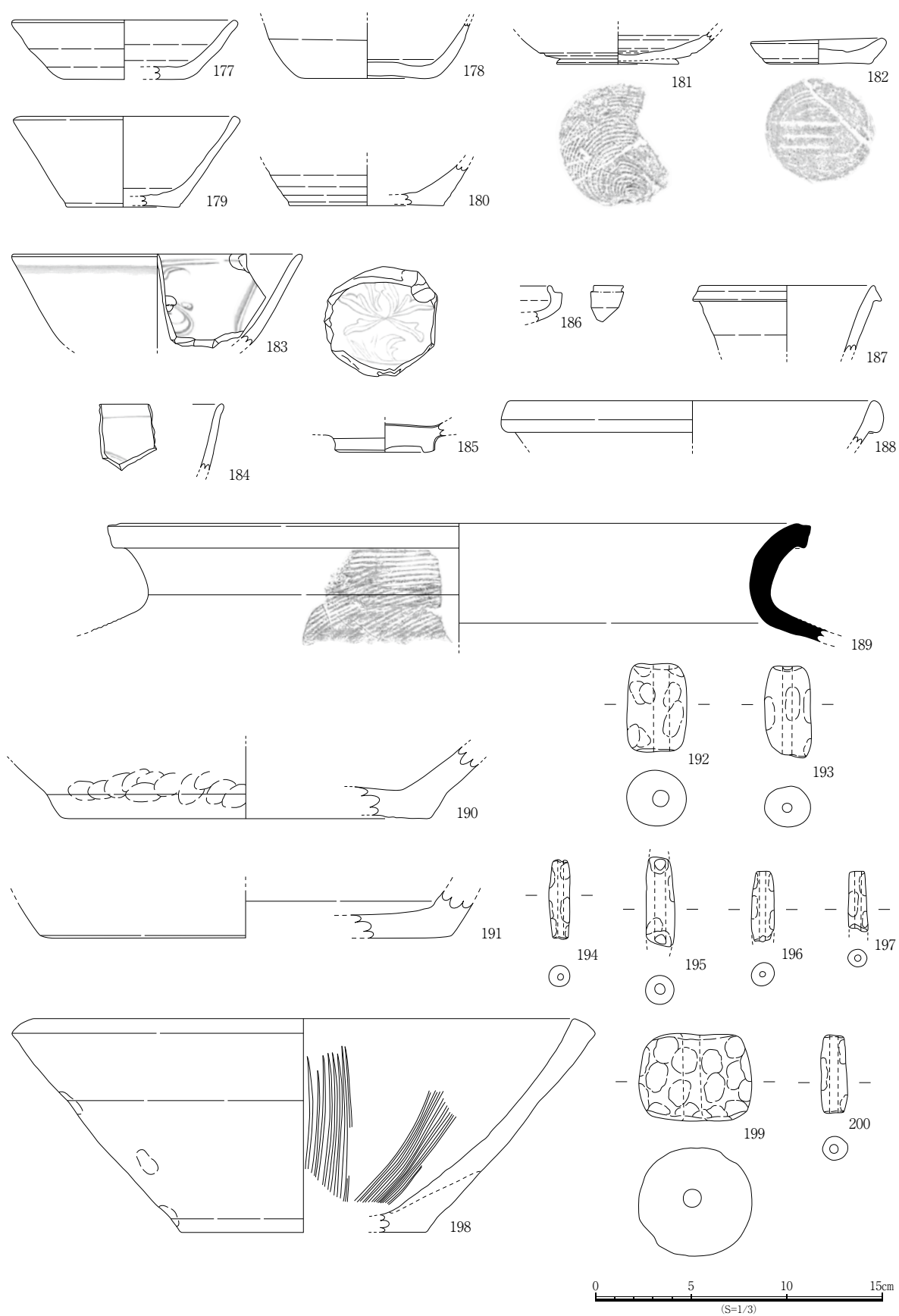


図3-38 SD1W出土遺物実測図

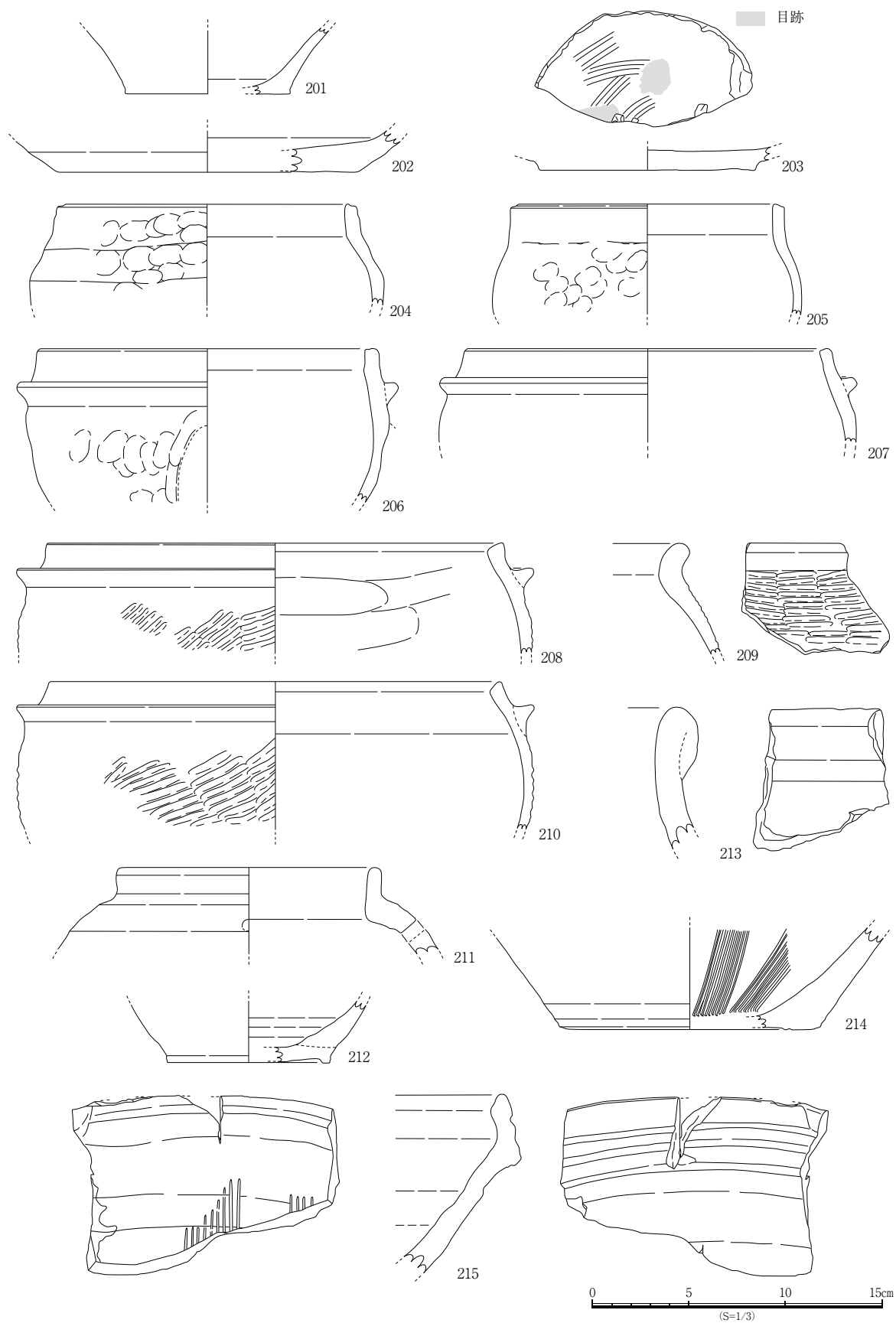


图3-39 SD1E出土遗物实测图

釜(211), 備前甕(213), 同壺(212), 同播鉢(214・215), 下層からは瓦質鍋(205), 東播系土師質羽釜(210)が出土している。この他に図示し得なかったが, 各層から土師質土器片が出土している。図示したもの他に出土した破片が上層から 700g, 中層から 320g, 下層から 360gである。SD1Wに比べると激減している。またSD1Eでもロクロ成形によるものが多いがSD1Wに比べると手づくね成形によるものも一定量見られる。SD1Eの遺物は, Ⅲ期の備前播鉢(198)に見られるような古相の遺物も見られるが, 瓦質鍋や東播系土師質羽釜, Ⅳ期の備前甕(213)・播鉢(215)など15世紀代に属するものが多く見られる。

SD1WとSD1Eの埋土や遺物時期の相違の要因をどのように考えたら良いのであろうか。両者を同一遺構として捉えた場合, 埋没の仕方とその時期の違いが投影されているものと考えられる。

SD2(図3-40・41)

調査区東部に位置する。SD1Eと2m程の間隔を保って南北に並走しSD3を切っている。確認延長は36m, 幅1.2~1.4m, 深さ40~50cmで断面は逆台形状を呈する。埋土1層には拳大の河原石が密集している個所がある。遺物は少ない。216はロクロ成形による土師質杯, 217は瓦質羽釜である。この他に常滑甕底部や鎬蓮弁を持った青磁碗の細片が出土している。

SD3(図3-40・41)

調査区東部に位置する。SD1・2に切られておりSD4との先後関係は不明である。確認延長は23m, 幅0.8~0.9m, 深さは20cm前後で断面は船底状を呈する。遺物は埋土中からロクロ成形の土師質杯(218~220), 瓦質土器羽釜の脚(221)が出土している。

SD4

調査区東部に位置する。SD1Eのセクションベルトで確認し得たが, SD1Eの東側の段部と重複していることから平面的に確認することはできなかった。遺物は認められない。

SD5(図3-40・41)

調査区東部に位置する。南北方向に延びる溝で確認延長25.5m, 幅0.5~0.6m, 深さ10cm前後を測り, 断面はU字形を呈する。遺物は埋土中から瓦質鍋(222), 土鍾(223)が出土している。この他にロクロ成形の土師質杯底部が出土している。

SD6・7(図3-40)

調査区東部に位置する。南北方向に延びる溝でSD5に切られている。SD5との重複部から北をSD6, 南をSD7としていたが一条の溝としなければならない。南部で一部途切れているところがあるが, 確認延長33m, 幅0.3~0.5m, 深さ6~8cm前後である。遺物は認められない。

SD8(図3-40・41)

調査区中央部から東部を「コ」の字状に大きく巡り東部では調査区外に出ている。SD1WとSD1Eの内側を沿うように建物群を囲繞している。確認総延長は91m, 幅は0.3~1.6mで北辺に広く南北方向に狭い。深さは3~10cmで断面は皿状を呈する。遺物は極めて少なくロクロ成形の土師質小杯(224), 土鍾(225・226), 図示し得なかったが瓦質土器羽釜脚部, 龍泉窯青磁碗の細片が出土している。

SD9(図3-40)

調査区東部に位置し南北に延びる溝で, SD8やSK7・8に切られている。確認延長22.5m, 幅は0.2~0.8mで北に広く南に狭い。深さも北部では35cmを測るが南部は浅く数cmである。断面形は逆台形状を呈し, 埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は瓦質鍋と同脚部片が出土している。

SD10(図3-40・41)

SD9の西隣に位置する南北に延びる溝でSD8やSK7・8に切られている。確認延長は20m, 幅は0.7～0.9m, 深さは10cm前後である。断面形は皿状を呈し, 埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は白磁底部(227)が出土している。

SD11(図3-42)

調査区の南東部に位置する東西方向の短小な溝である。SD1EとSD7に切られている。確認延長1.8m, 幅0.3～0.4m, 深さ7cmを測る。断面形は皿状を呈し, 埋土はにぶい黄褐色粘質シルトである。遺物は認められない。

SD12(図3-41・42)

調査区南部を東西方向に直線的に走る溝である。SD1・2・8などに切られている。確認延長46.3m, 幅0.8～1.5m, 深さ20cm前後を測る。東部では2つに別れるが再び合体している。断面はU字～逆台形状を呈し, 埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成形の土師質杯(230～234), 同

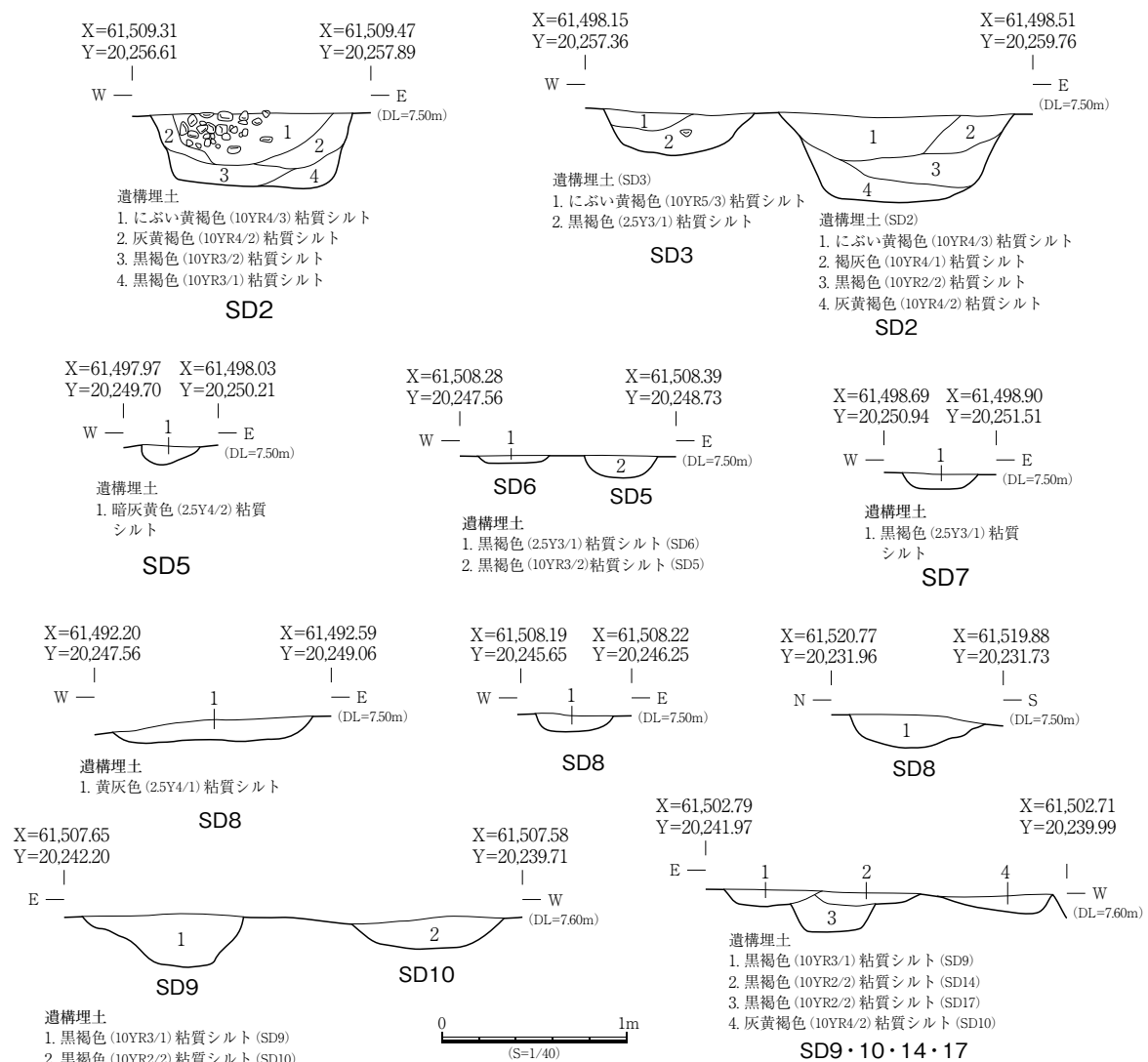


図3-40 SD2・3・5～10・14・17

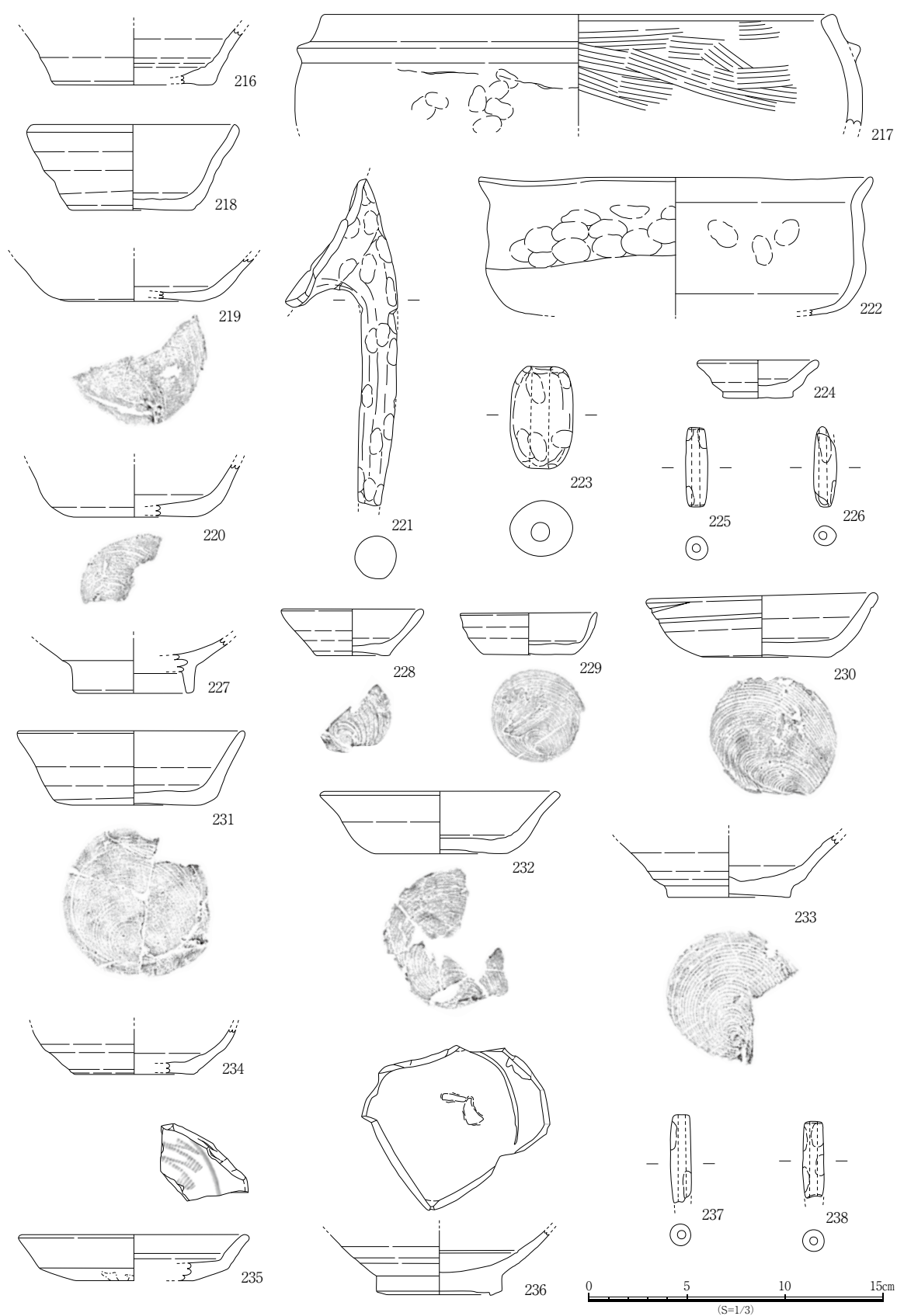


図3-41 SD2~12出土遺物実測図

小杯(228・229), 同安窯青磁皿(235), 白磁碗底部(236), 土鍾(237・238)が出土している。235は内面に櫛目文が見られる。236は白磁Ⅳ類に属し, 見込みには沈線と目跡が認められる。

SD13

SD12の南に位置し東西に延びる溝である。多くのピットと切り合っている。延長11m, 幅0.3～0.4m, 深さ5cm前後を測る。断面は逆台形状を呈し, 埋土は黒褐色粘質土である。遺物はみられない。

SD14(図3-40)

SD9とSD10の間に位置しSK8に切られている。確認延長2.2m, 幅0.5m, 深さ10cmを測る。埋土は黒褐色粘質土である。遺物はみられない。

SD15(図3-42・43)

調査区の中央部に位置し遺構密集地を南から逆L字状に囲む溝である。南北方向に20m, 東西方向に28m, 総延長48m, 幅1.0～1.2m, 深さは東端で15cm前後, 他の部分では30cm前後を測る。断面は逆台形状～船底状を呈する。埋土は図示したように1～3層が見られる。遺物は手づくね成形の土師質皿(239・242), ロクロ成形の土師質小杯(240), 同杯(241), 土鍾(243～253)を図示した。これ以外に瓦質鍋, 同播鉢, 瀬戸天目, 東播系須恵器の捏鉢, 同安窯青磁碗などの細片が出土している。

SD16(図3-42)

SD15の東部に南から直行するように配されている。両者はほぼ接しているがSD15を切っている。確認延長4.2m, 幅0.5～0.9m, 深さ7cmを測る。断面形は皿状を呈し埋土は灰黄褐色粘質シルトである。遺物は土師質の杯・皿の細片が少量出土している。ロクロ成形と手づくね成形の両者が見られる。

SD17(図3-40)

SD9とSD14の下層で確認した。断面では捉えることができたがプランを追うことはできなかった。SD9とSD14に切られているものと考えられる。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は認められない。

SD18(図3-42・44)

調査区中央部の北部から南西方向に大きな弧を描きながら延びる溝で, SD1WやSD23, SD25などに切られている。総延長は80m, 幅は中央部付近で1.0～1.5m, 南端付近では0.9mである。深さは中央部で20cm前後であるが, 両端では10～15cm前後を測る。床面の高さは南端部で7.86m, 東端部では7.43mを測り43cmの高低差がある。埋土は概ね黒褐色粘質シルトであるが, 部分的に灰黄褐色粘質シルトである。断面形は概ね船底状を呈する。遺物は土師質土器の供善形態を中心に出土している。255～267はロクロ成形の杯, 268～277は同小皿である。この他にも細片が出土しているが手づくね成形によるものは僅少で殆どがロクロ成形によるものである。254は土師質土器甕で胴部外面には縦方向の平行叩きが見られる。278・279は瓦器碗である。図示したものの他に瓦質羽釜や瓦質播鉢, 白磁皿, 須恵器甕などの細片が出土している。

SD19(図3-42)

調査区南部に位置し南北方向に延びる溝である。SD12を切っている。確認延長5.4m, 幅0.3～0.4m, 深さ20cm前後である。断面はU字形を呈し, 埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は手づくね成形による土師質皿と瓦質播鉢の細片が出土している。

SD20(図3-42)

調査区北部に位置し東西方向に延びる溝である。延長8.5m, 幅0.55m, 深さ6cmを測る。断面は皿

1. III A - 6・7区 (2) 検出遺構と遺物

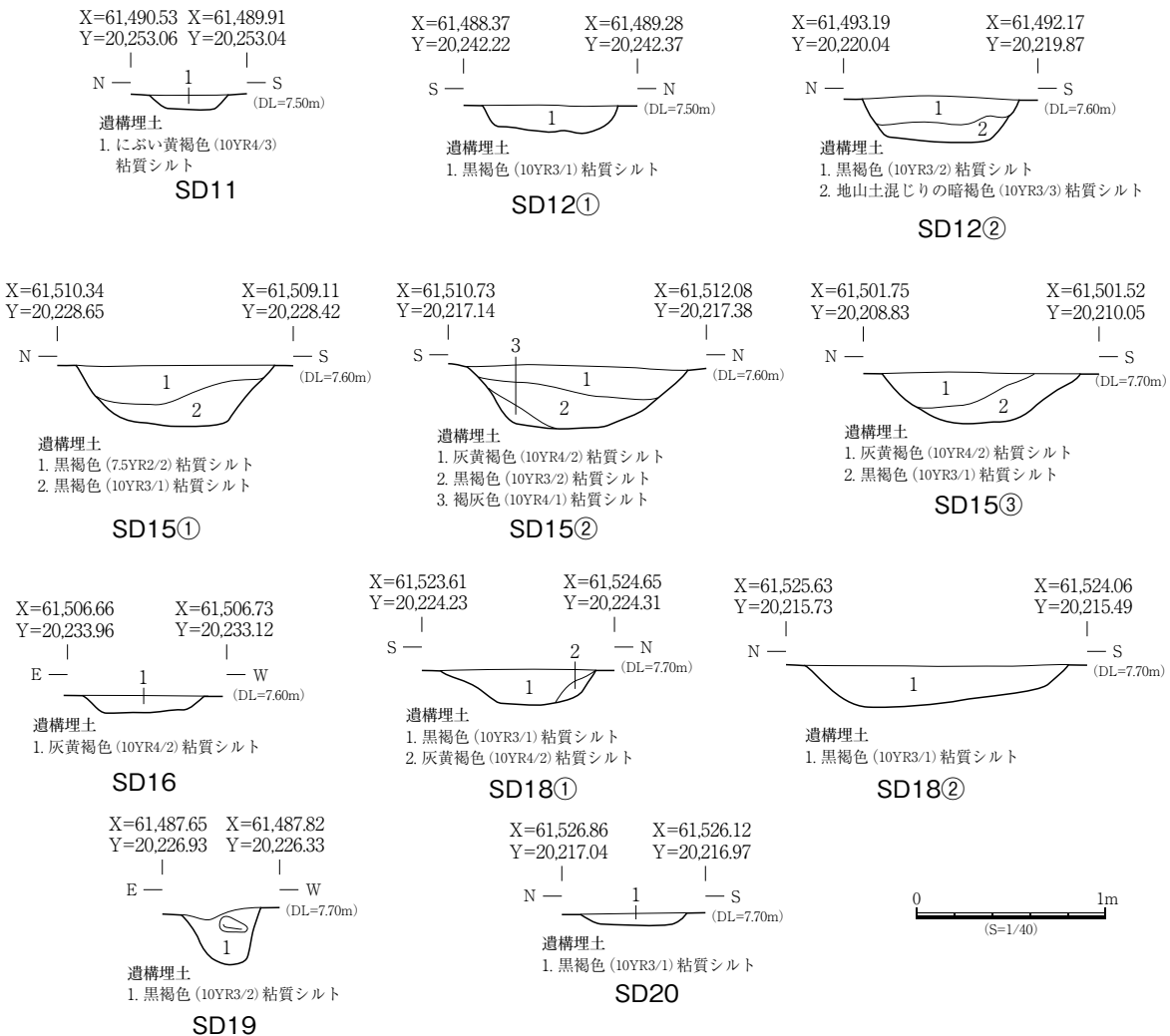


図3-42 SD11・12・15・16・18・19・20

状を呈し、埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はみられない。

SD21(図3-45)

調査区南部に位置する東西方向の溝でSK81に切られている。確認延長2m, 幅0.5～0.6m, 深さは西端で10cmを測り東に向かって浅くなる。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は認められない。

SD22(図3-45)

調査区東北隅に位置する。確認延長9m, 幅0.6～0.7m, 深さ15cmを測る。断面は船底状を呈し、埋土は灰黄褐色粘質シルトである。遺物は認められない。

SD23(図3-45・47)

調査区中央部に位置しSD25と接して南北方向に直線的に延びる溝である。両端共に調査区外に出ている。確認延長35m, 幅1m前後, 深さは北端で5cm, 南端で30cmである。床面の高さは北端で7.7m南端で7.36mを測り, 34cmの高低差がある。断面は船底状を呈する。埋土は1層:灰黄褐色粘質シルト, 2層:黒褐色粘質シルト, 3層:暗褐色粘質シルトである。遺物は土師質杯や白磁碗, 瓦器碗などの細片が出土している。同安窯青磁碗(280)のみ図示し得た。口縁部内面に櫛描文が見られる。土師質杯類

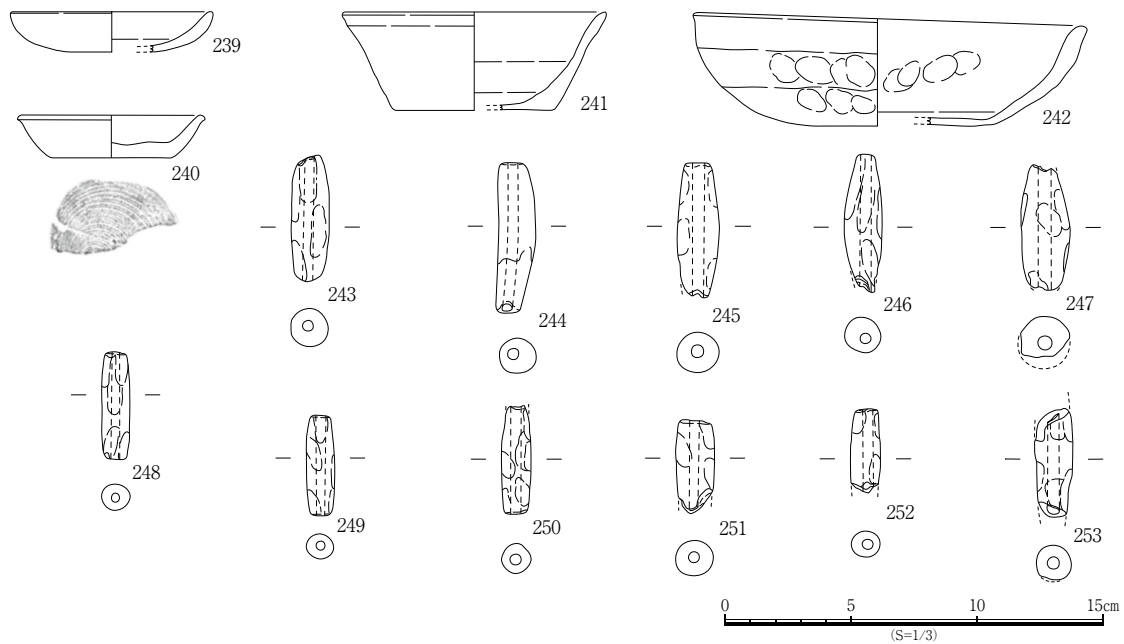


図3-43 SD15出土遺物実測図

はすべてロクロ成形によるものである。

SD24(図3-45・47)

調査区西部の北半をカーブを描きながら東西方向に延びる溝である。SD23 を切っており，SD25 やSD26・27，SB4に切られている。確認延長は45mで両端は調査区外に出ている。幅0.5～0.7m，深さ10cmである。床面の高さは西端で7.95m，東端で7.7mと25cmの高低差がある。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成形の土師質杯(281)と同小杯の細片が出土しているのみである。

SD25(図3-46・47)

調査区西部を南北方向に貫く堀状の大溝である。確認延長36m，幅3～3.5m，深さ1.2m前後を測る。断面は逆台形状を呈し床面は平坦である。北部の3分の1を除くと両肩に深さ10cm程の平坦部が作られ二段に掘られているテラス部分を入れると溝幅は5m前後になる。埋土は図示したように1～15層に分かれるが，中・下層の7・13層に大小の河原石が密集している。意識的な埋め戻しがあったものと考えられる。

遺物は少ないが上層から多く出土している。上層からはロクロ成形の土師質杯(282～284)，同小皿(285)，瓦器椀底部(286)，見込みに印刻花文を配した白磁碗底部(295)，常滑甕底部(294)などが出土している。瓦質土器鍋(289～291)，同羽釜(292)は中層と下層の接合資料である。瓦質羽釜(293)，同鍋(288)は下層出土，瓦質壺(287)は上・中・下層の接合資料である。図示し得なかったが手づくね成形の土師質皿，青磁碗，瓦質播鉢，東播系土師質羽釜などが出土している。SD25は遺物の接合関係などから見ても一時期に埋められたものと考えられる。

SD26(図3-45・47)

SD25の西隣を並行して南北方向に走る溝である。SD18やSD27を切りSK108に切られている。確認延長36m，幅0.2～0.3m，深さ10cmを測る。床面の高さは北端で7.73m，南端で7.63mを測り10cmの高低差が見られる。断面は逆台形状を呈し埋土は灰黄褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成

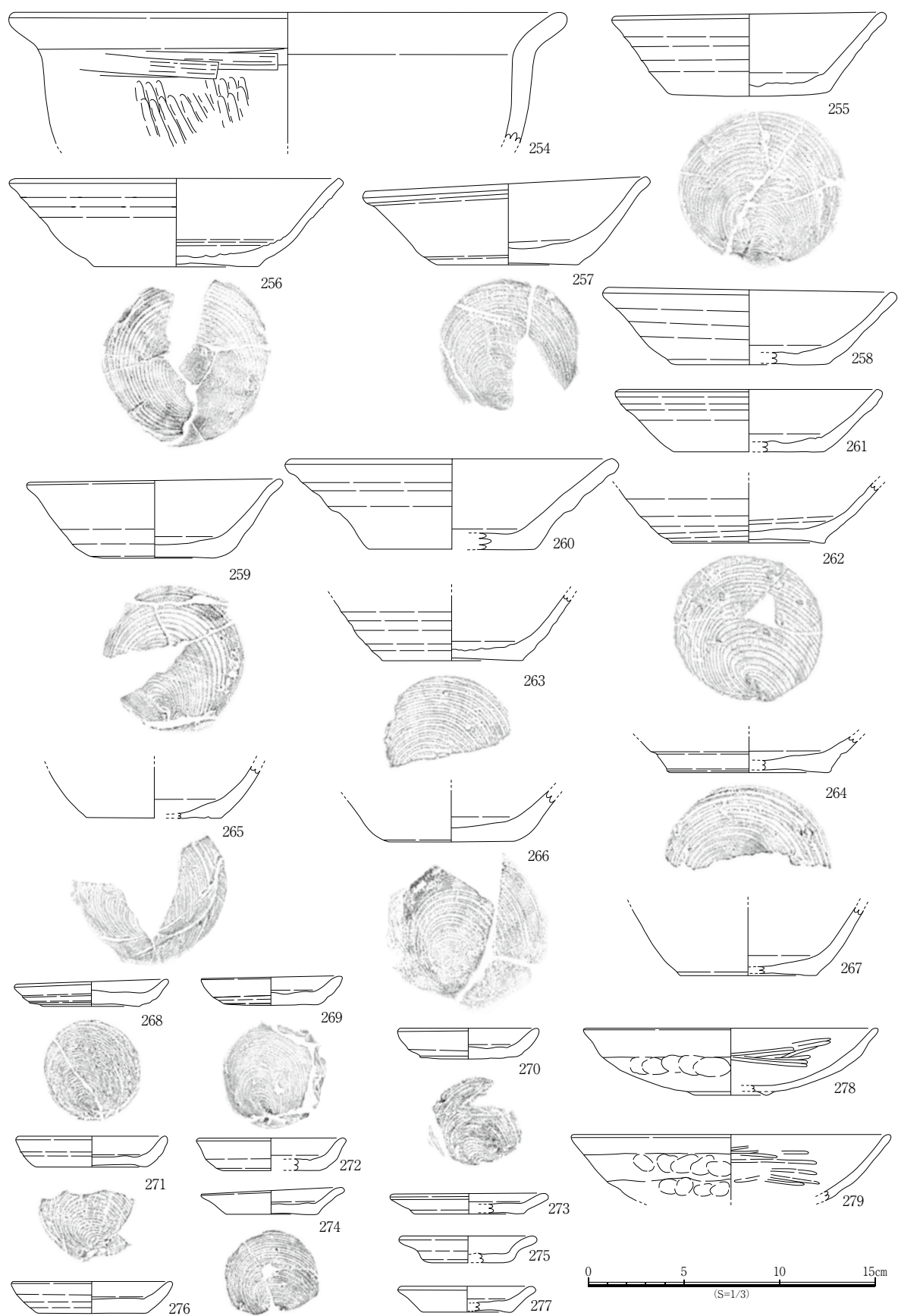


図3-44 SD18出土遺物実測図

形の土師質杯(296)を図示したが、この他にも同様の細片が出土している。

SD27(図3-45)

調査区西部に位置する南北方向の溝である。SD26やSK108などに切られている。SD18との先後関係は不明である。確認延長は36m，幅20cm，深さ6cmを測る。断面は逆台形状を呈し埋土は暗褐色粘質シルトである。

SD28(図3-48)

調査区西部に位置する。東西方向の短い溝でSD26に切られている。確認延長2.8m，幅0.2m，深さ6cmを測る。断面は皿状を呈し，埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は認められない。

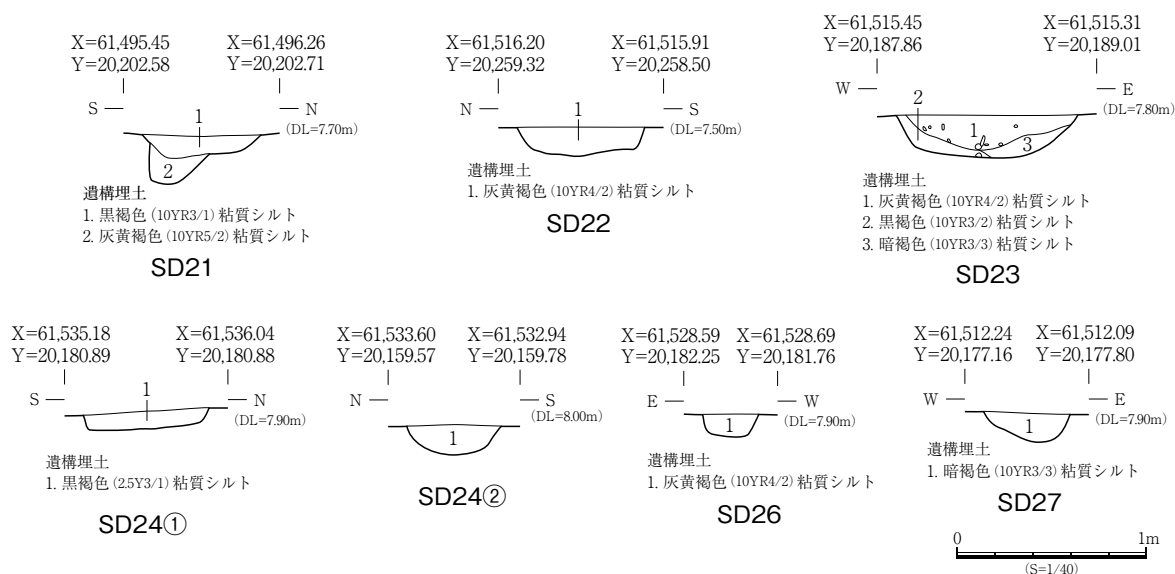


図3-45 SD21~24・26・27

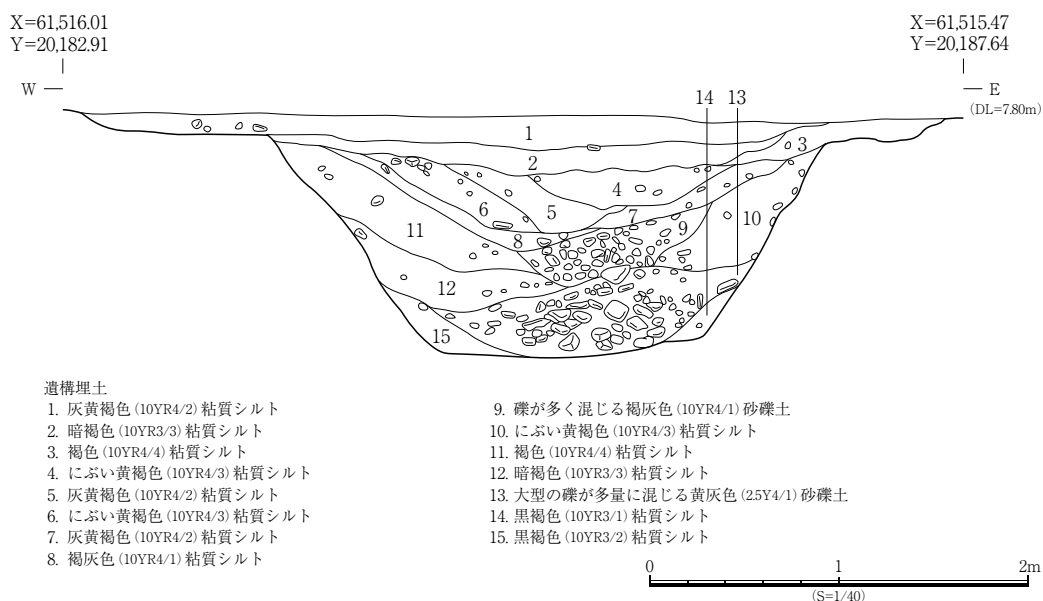


図3-46 SD25

1.ⅢA-6・7区 (2) 検出遺構と遺物

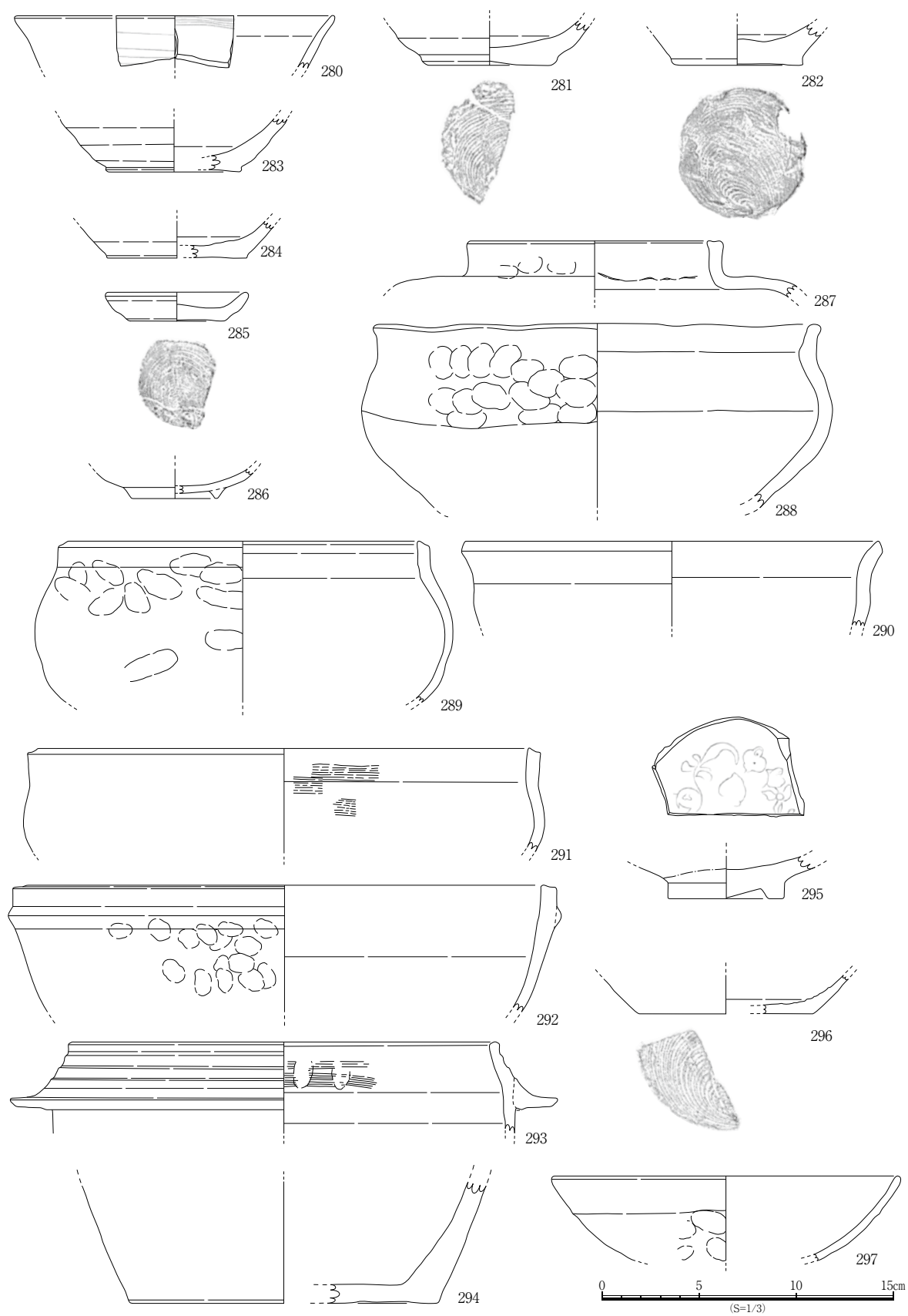


図3-47 SD23~29出土遺物実測図

SD29(図3-47・48)

調査区の北西隅に位置する東西方向の溝である。SD32 を切っている。確認延長 18m, 幅は 0.5 ～ 0.9m, 深さ 10 ～ 15cm を測り, 幅と深さは東に行くほど大きくなる。床面の高さは, 西部で 7.9m, 東端で 7.7m を測り 20 cm の高低差がある。断面は U 字形を呈し, 埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は瓦器碗(297)を図示したが, この他ロクロ成形による大振りの土師質杯片が少量出土している。

SD30(図3-48・49)

調査区南部に位置する。東西方向に延びる溝で SD1W, SD23 に切られている。確認延長 17m, 幅 0.6 ～ 0.8m, 深さ 5 ～ 20 cm を測り東部で浅くなっている。断面は逆台形状を呈し, 埋土は暗褐色粘質シルトである。遺物は土錘 2 点(298・299)を図示したが, この他に土師質杯の細片が多く出土している。殆どロクロ成形によるもので占められている。

SD31(図3-48)

調査区の西北隅を東西方向に延びる溝である。確認延長 15.5m, 幅 0.6 ～ 0.8m, 深さ 5 ～ 20cm を測る。断面は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成形による土師質杯が数点出土している。

SD32(図3-48)

調査区北西部に位置する。確認延長 2.5m, 幅 0.3m, 深さ 7 cm である。SD29 に切られている。断面

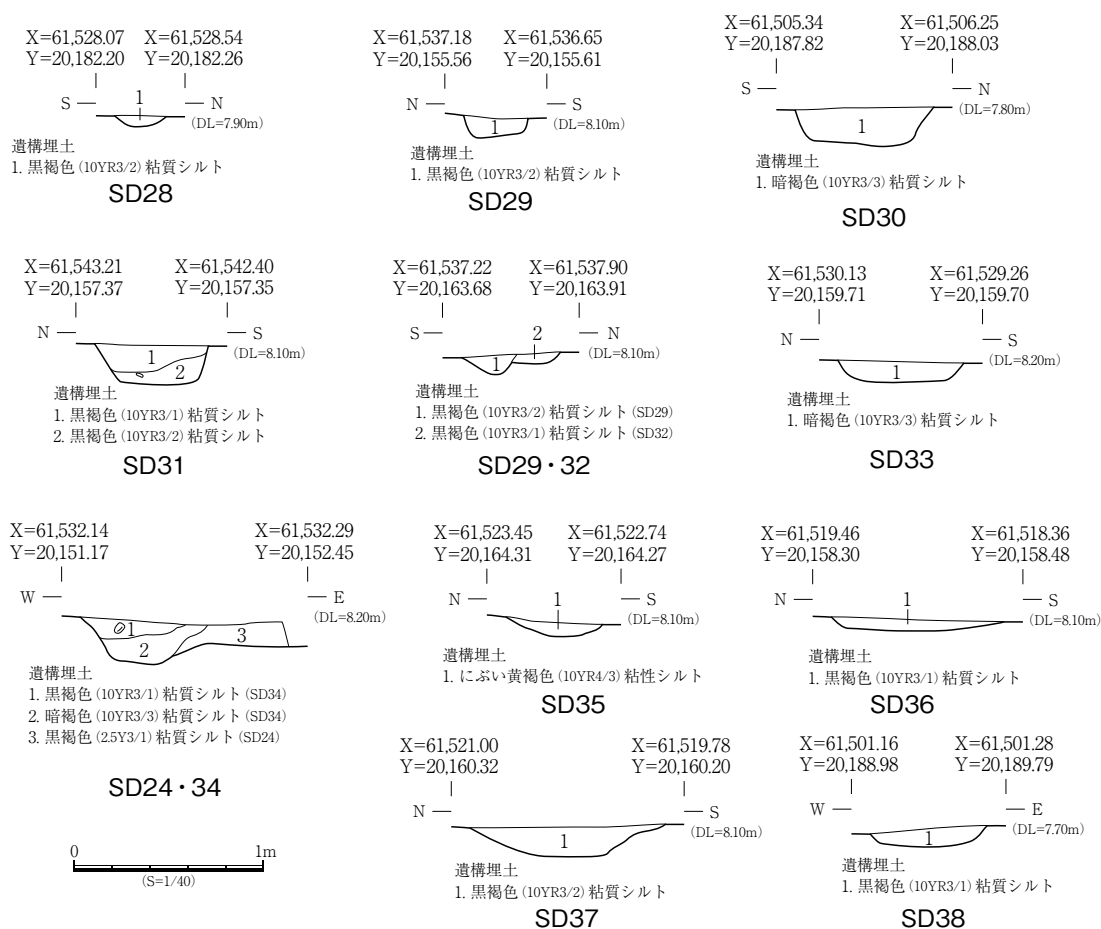


図3-48 SD28～38

は皿状を呈し、埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はみられない。

SD33(図3-48)

調査区西部に位置する東西方向の溝である。SB4に切られている。確認延長10m、幅0.7m、深さは3～7cmで東が浅い。断面は逆台形状を呈し、埋土は暗褐色粘質シルトである。遺物は土師質土器や瓦質土器の細片が出土している。

SD34(図3-48・49)

調査区西端に位置する。屈曲して南北方向に延びる溝で両端は調査区外に出ている。SD24を切っている。確認延長12m、幅0.7m、深さ20cmを測る。断面は逆台形状を呈する。埋土は1層:黒褐色粘質シルト、2層:暗褐色粘質シルトである。遺物は瓦質短頸壺(300)の他、ロクロ成形による大振りの土師質杯が出土している。300はSD25出土の287に比べてナデ調整も丁寧で全体的にシャープな作りである。

SD35(図3-48・49)

調査区西部に位置する。東西方向に延びる溝で確認延長3m、幅0.55～0.95m、深さ8～18cmを測る。断面は皿状を呈し埋土はにぶい黄褐色粘質シルトである。遺物は瓦質鍋(301)を図示したが、他に土師質土器と瓦質土器の細片が出土している。

SD36(図3-48)

調査区西部に位置する。東西方向の短い溝である。確認延長3m、幅0.8～0.9m、深さ10cmで東端の輪郭は明瞭でない。断面は皿状を呈し、埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は土師質土器細片が少量出土している。

SD37(図3-48・49)

SD36の北隣に位置する。東西方向の溝としたが大きな土坑の可能性もある。東に向かって幅を広げ、西から3.0mの付近で一旦輪郭が消え、再び浅い立ち上がりが確認できる。確認延長6m、幅0.5～2.0m、深さは西端で7cmである。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は土師質土器杯類を中心に国産陶器片が出土している。土師質杯は全てロクロ成形による大振りのタイプである。土師質杯(302)のみ図示し得た。国産陶器の中には地元亀山窯の製品も見られる。

SD38(図3-48・49)

調査区南端に位置する南北方向の溝で大部分が調査区外に出ている。確認延長3.5m、幅0.6～0.8m、深さ18～25cmである。断面は皿状を呈し、埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は土師質土器や瓦質土器が多く出土している。303は東播系須恵器捏鉢、304はロクロ成形の土師質杯、305は同皿、306～310は瓦質土器の羽釜で、309以外は何れも激しく煤けている。土師質杯類は殆どがロクロ成形に抛るものである。

⑤ 柱穴

掘立柱建物や柵列に属さないピットが、1,000個以上検出されている。他の遺構と同じようにSD1で囲まれた方形区画やSD25の両側を中心に分布している。この中で遺物が出土したものは381個である。その内容は圧倒的に多数が土師質杯や皿類である。これらの遺物の中で97点を図示した。ピットの性格を明らかにすることは難しいが、復元し得なかった掘立柱建物の柱穴に属するものも多いと考えられる。ここでは出土状況などから重要と考えられるピットについて具体的に記述し、他のものについては遺物のみを挙げることとする。

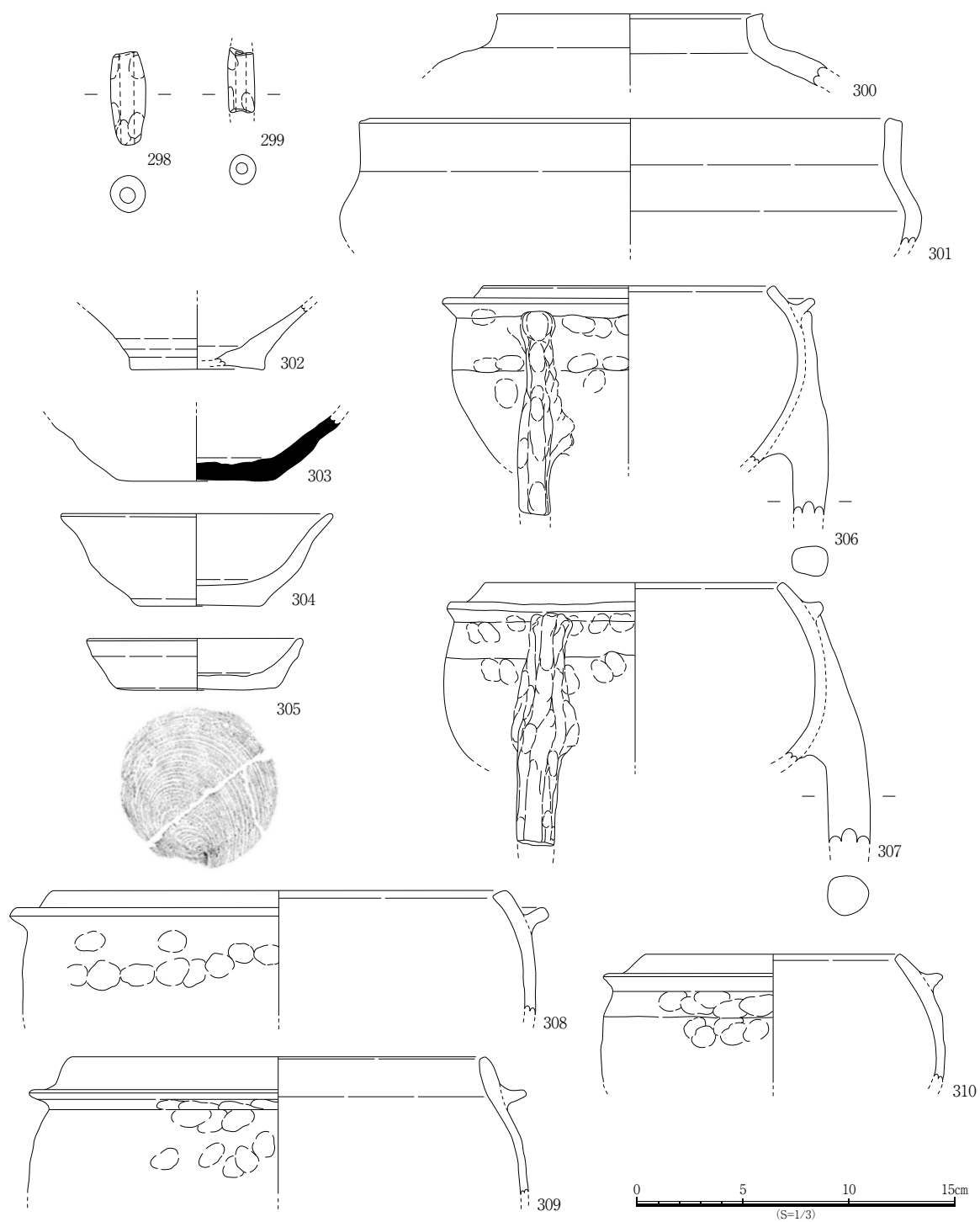


图3-49 SD30~38出土遗物实测图

P1(図3-51)

調査区西北部に位置する。楕円形を呈し長軸 34 cm, 短軸 26 cm, 深さ 13 cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成形の土師質小皿の完形品 3 点(311・313・314), 同杯(312)が出土している。

P7(図3-51)

調査区西南部に位置する。楕円形を呈し長軸 32 cm, 短軸 24 cm, 深さ 21 cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成形の土師質杯 2 点(320・321), 同小皿 3 点(322~324)が出土している。

P9(図3-51)

調査区西南部に位置しSD26 と切り合っているが先後関係は不明である。円形を呈し径 34 cm深さ 20 cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成形による土師質杯(326), 同小皿(327・328), 鉄製紡錘車(329)が出土している。329は径 4.5 cm, 厚さ 3~4 mmを測り中央に径 3.5 mmの小孔が穿たれている。

P10(図3-51)

調査区西南部に位置する。一辺 30 cmの隅丸方形を呈し深さ 20 cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルト

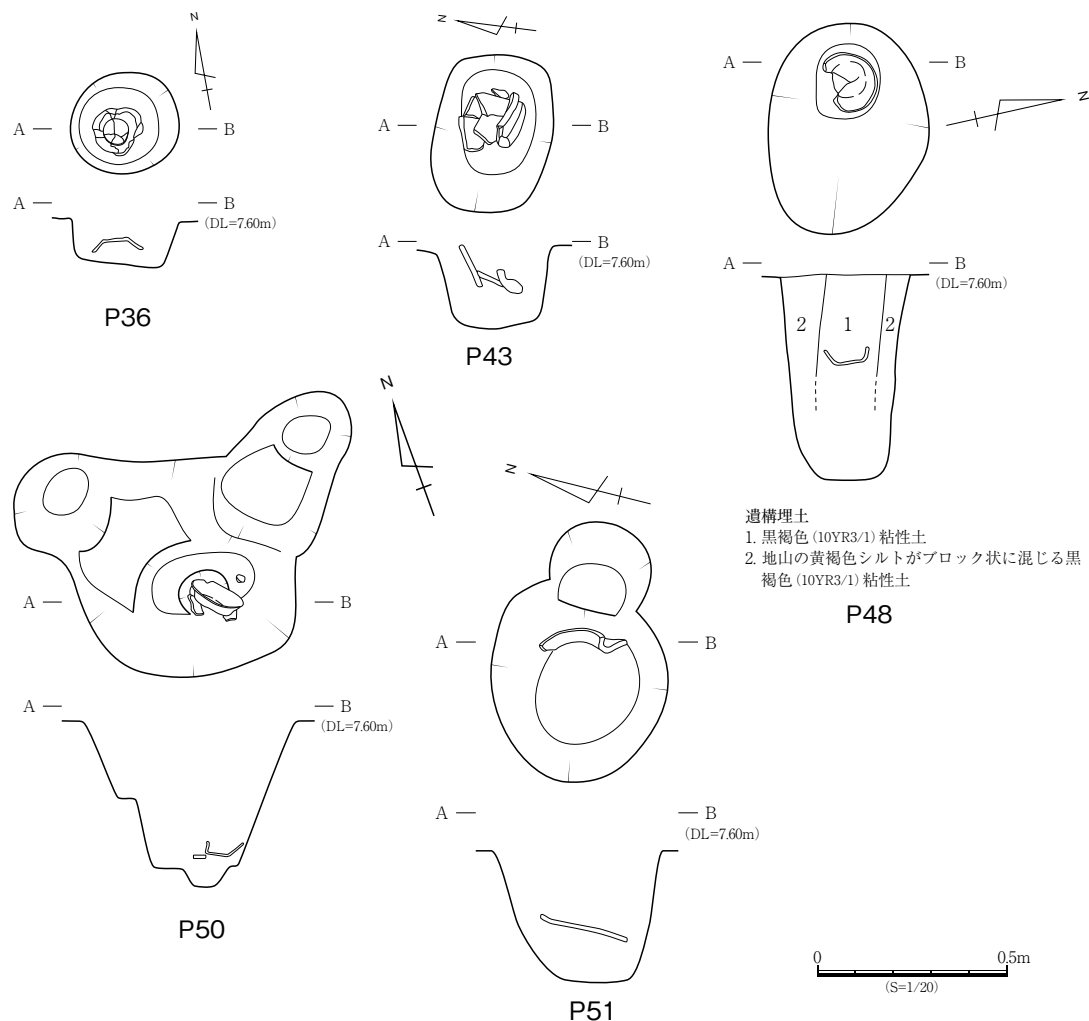


図3-50 ピット内遺物出土状況

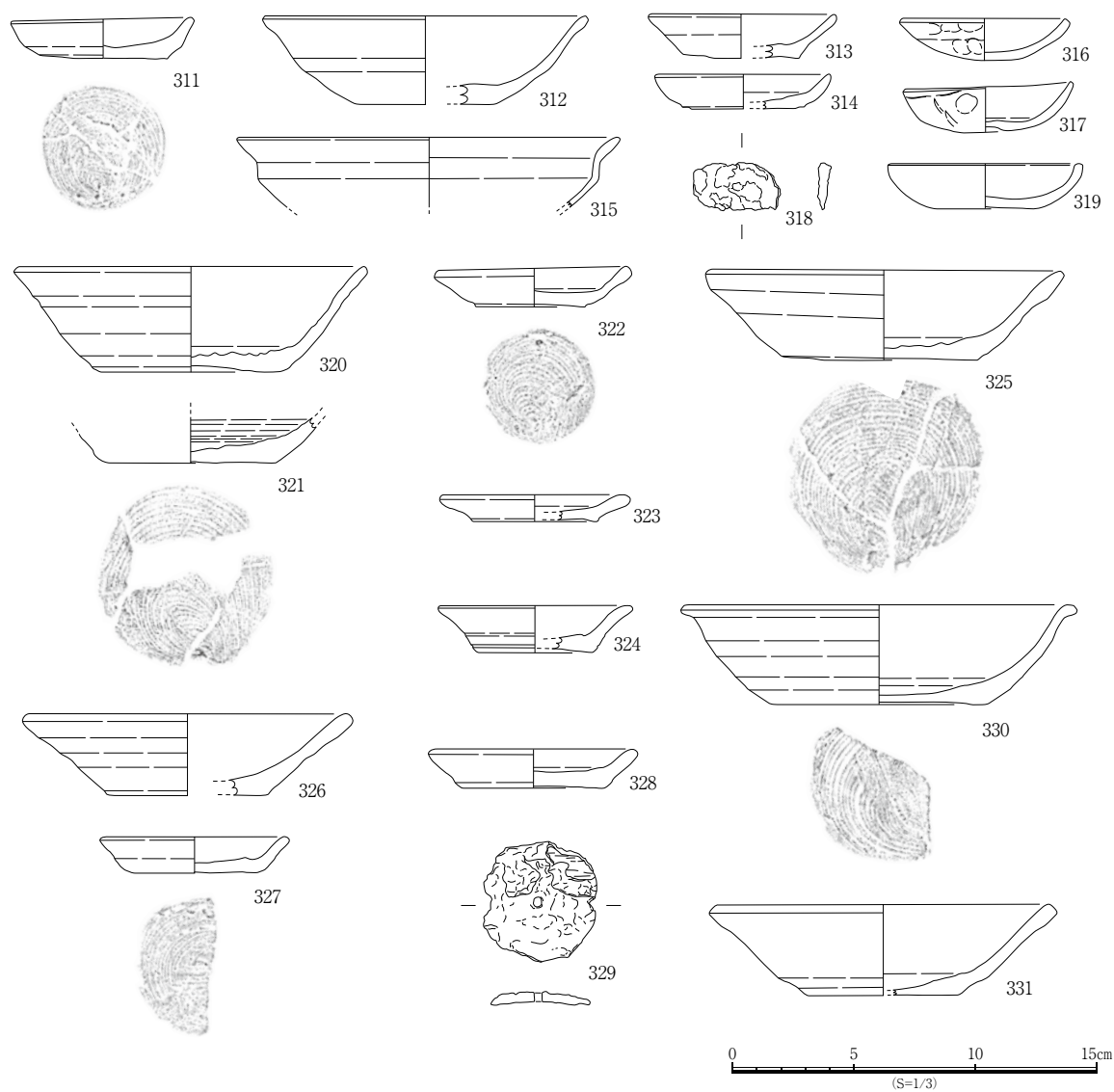


图3-51 P1~10出土遺物実測図

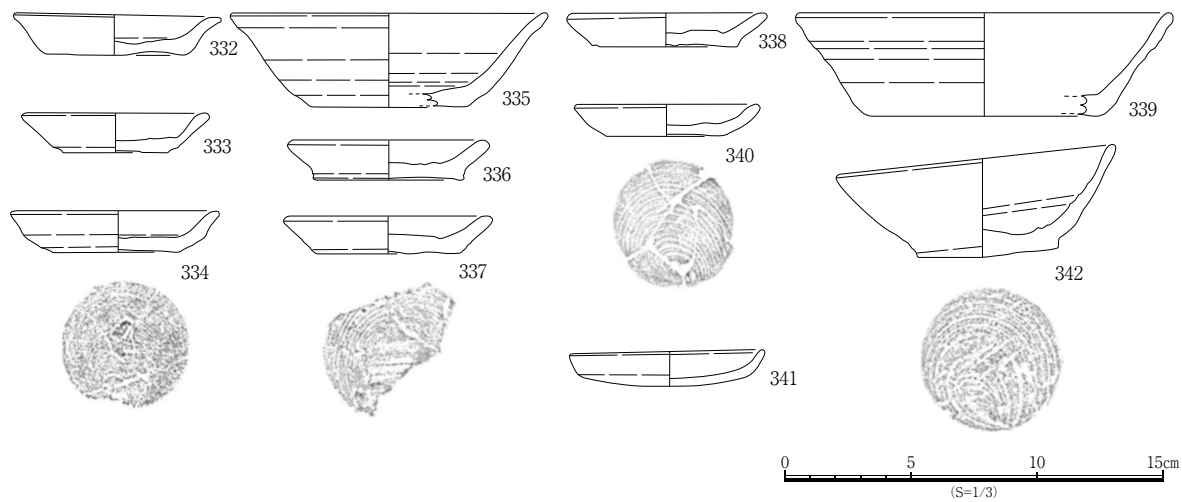


图3-52 P11~20出土遺物実測図

1.ⅢA-6・7区 (2) 検出遺構と遺物

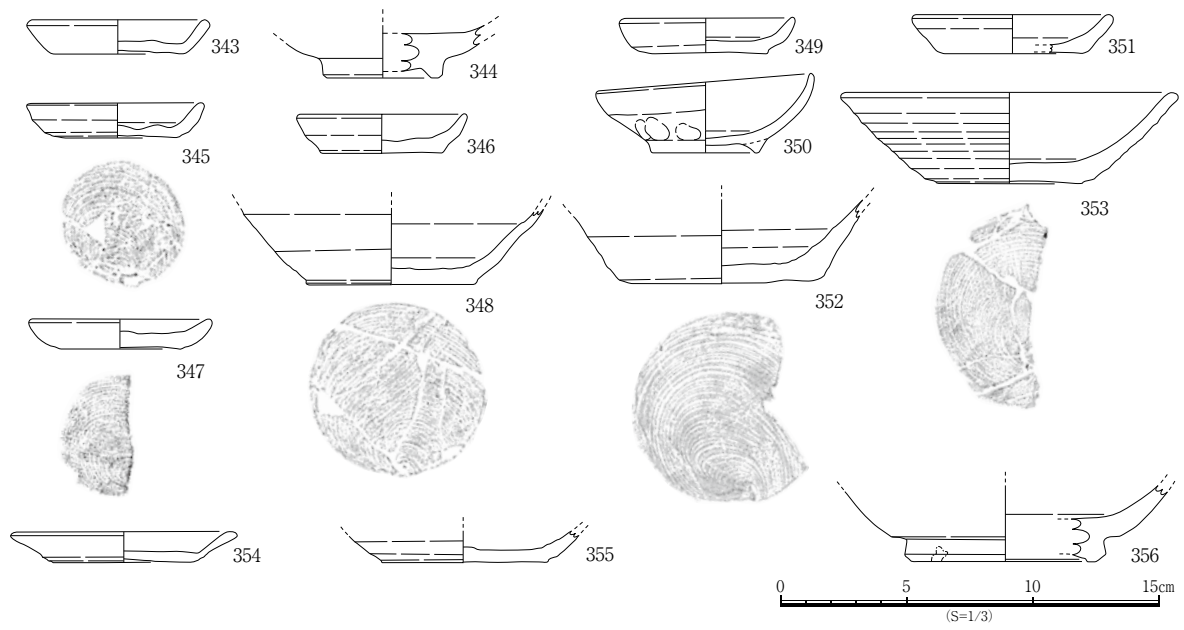


図3-53 P21～30出土遺物実測図

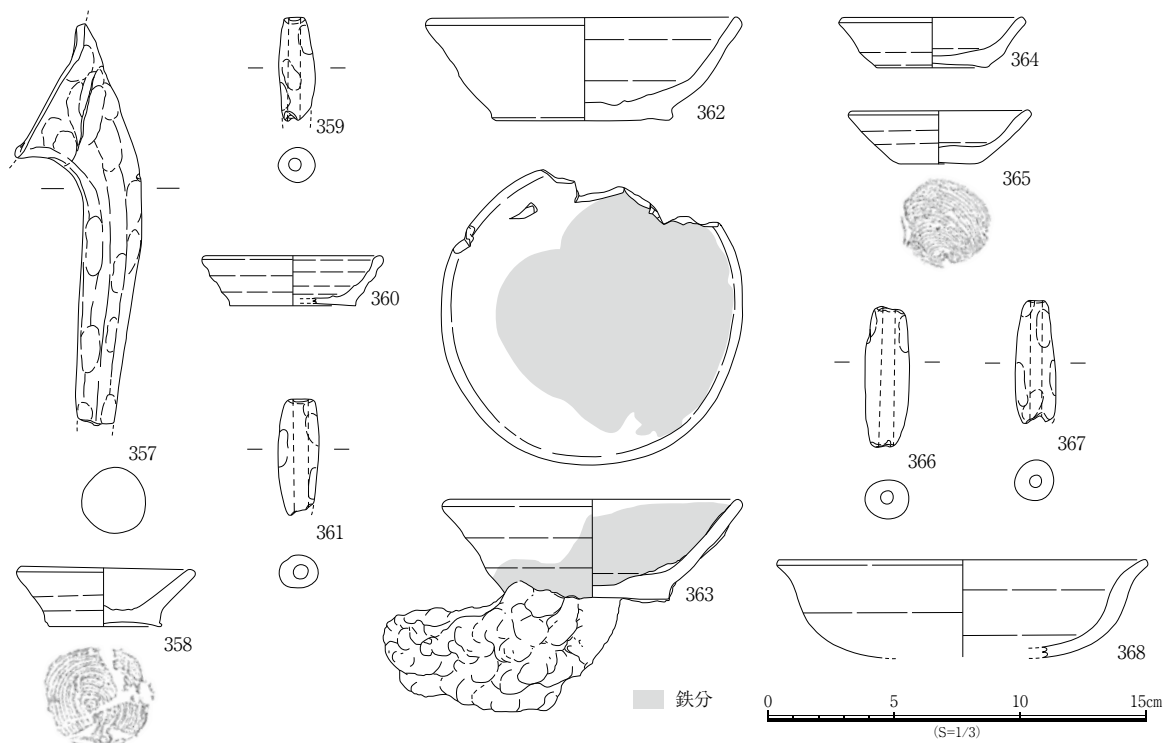


図3-54 P31～40出土遺物実測図

である。遺物はロクロ成形の土師質杯(330・331)が出土している。

P23(図3-53)

調査区南部に位置する。不整形を呈し長軸 60 cm, 短軸 42 cm, 深さ 25 cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成形による土師質小皿3点(345～347)が出土している。

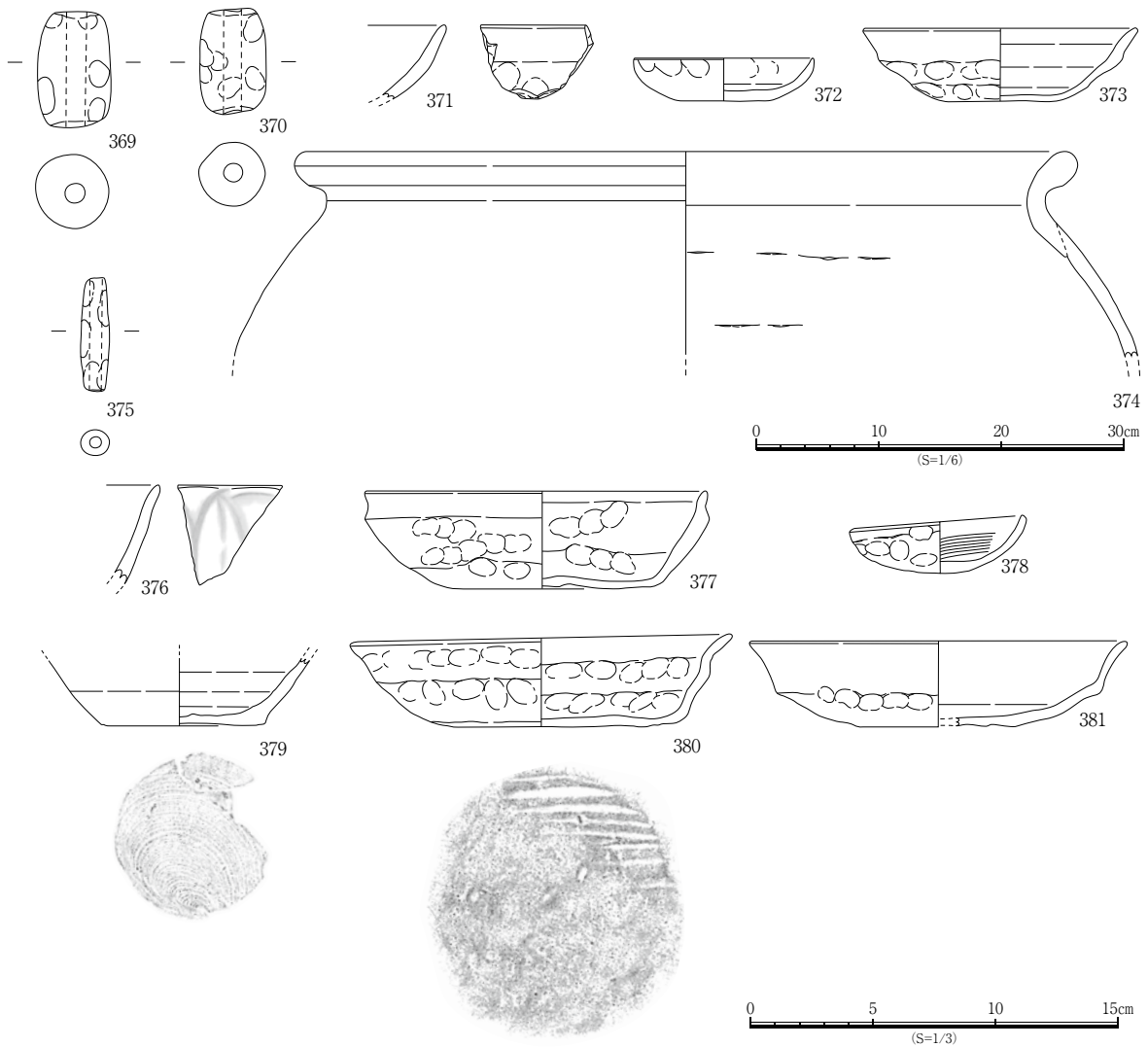


図3-55 P41~50出土遺物実測図

P30(図3-53)

調査区南部に位置しSB9のP4に近接する。楕円形を呈し長軸34cm, 短軸26cm, 深さ40cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は図示したように検出面から人頭大の河原石と青磁碗(356)が出土している。

P36(図3-50・54)

調査区中央部に位置する。円形を呈し径20cm, 深さ20cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物はロクロ成形の土師質杯(362・363)が出土している。この内の1点は図示したように埋土中に伏せた状態で出土している。祭祀的な意味合いが強いものと考えられる。363の内面には鉄分が広く付着し外底には長さ10cm, 幅7cm, 厚さ5cmの錆で膨張した鉄塊が付着している。

P43(図3-50・55)

調査区中央部に位置する。楕円形を呈し長軸50cm, 短軸30cm, 深さ24cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は埋土中層から備前大甕の上胴部(374)と手づくね成形による土師質皿(371)が出土している。

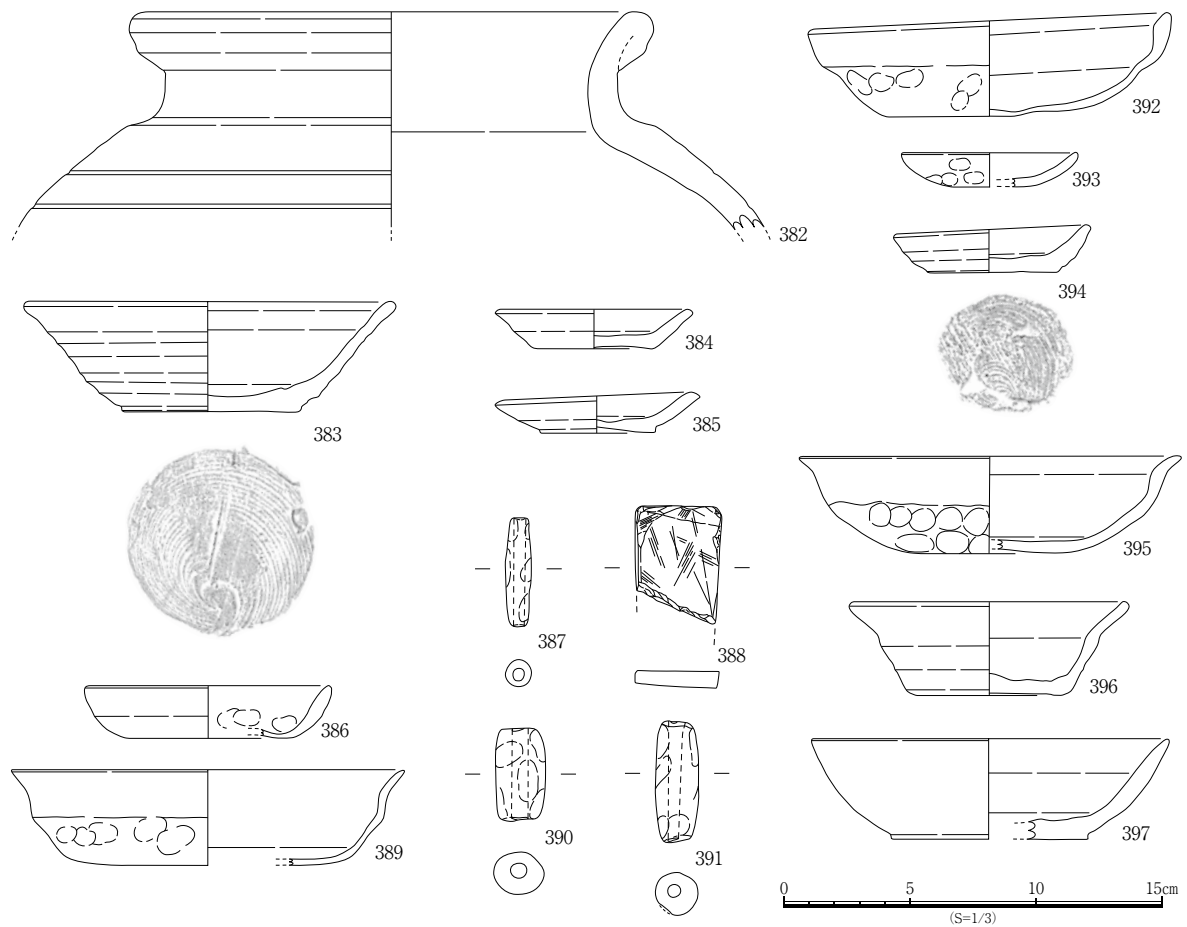


図3-56 P51~64出土遺物実測図

P48(図3-50・55)

調査区のほぼ中央部に位置する。楕円形を呈し長軸 53 cm, 短軸 42 cm, 深さ 52 cmを測る。図示したように柱穴断面に径 15 cm前後の柱痕跡が見られる。柱痕跡の中位から土師質皿(377)と同小皿(378)が出土している。両者ともにほぼ完形品であり柱抜き取り後に埋められたものである。

P50(図3-50・55)

調査区中央部の遺構密集地に位置する。複数のピットと切り合っており正確な平面形を捉えることができないが長軸 50 cm, 短軸 30 cm前後, 深さ 44 cmを測り, 床面で径 14 cmの柱痕跡を確認することができた。埋土は黒褐色粘質シルトで中層から手づくね成形による土師質皿の完形品 2 点(380・381)が出土している。柱を抜き取った後に入れられたものである。

P51(図3-50・56)

同じく中央部の遺構集中部に位置する。楕円形を呈し長軸 50 cm, 短軸 45 cm, 深さ 37 cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。図示したように埋土中層から備前甕(382)が出土している。

P59(図3-56)

調査区中央部の南寄りに位置する。隅丸長方形状を呈し長軸 72 cm, 短軸 32 cm, 深さ 22 cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は図示したように埋土下層から手づくね成形の皿の完形品(392)が出土している。

以上の他にピットからはロクロ成形による土師質土器杯(P8:325, P14:335, P17:339, P20:342, P24:348, P27:352, P28:353, P29:355, P49:379, P52:383, P63:396, P64:397), 同小皿・小杯(P11:332, P12:333, P13:334, P15:336, P16:337, P17:338, P18:340, P21:343, P25:349, P27:351, P29:354, P32:358, P34:360, P37:364・365, P52:384・385, P61:394,)手づくね成形による皿(P2:315, P40:368, P44:372, P45:373, P53:386, P56:389, P62:395), 同小皿(P3:316, P4:317, P6:319, P19:341, P60:393), 瓦器椀(P26:350), 瓦質土器羽釜(P31:357)青磁碗(P22:344, P47:376), 土鍾(P33:359, P35:361, P38:366, P39:367, P41:369, P42:370, P46:375, P54:387, P57:390, P58:391), 砥石(P55:388),

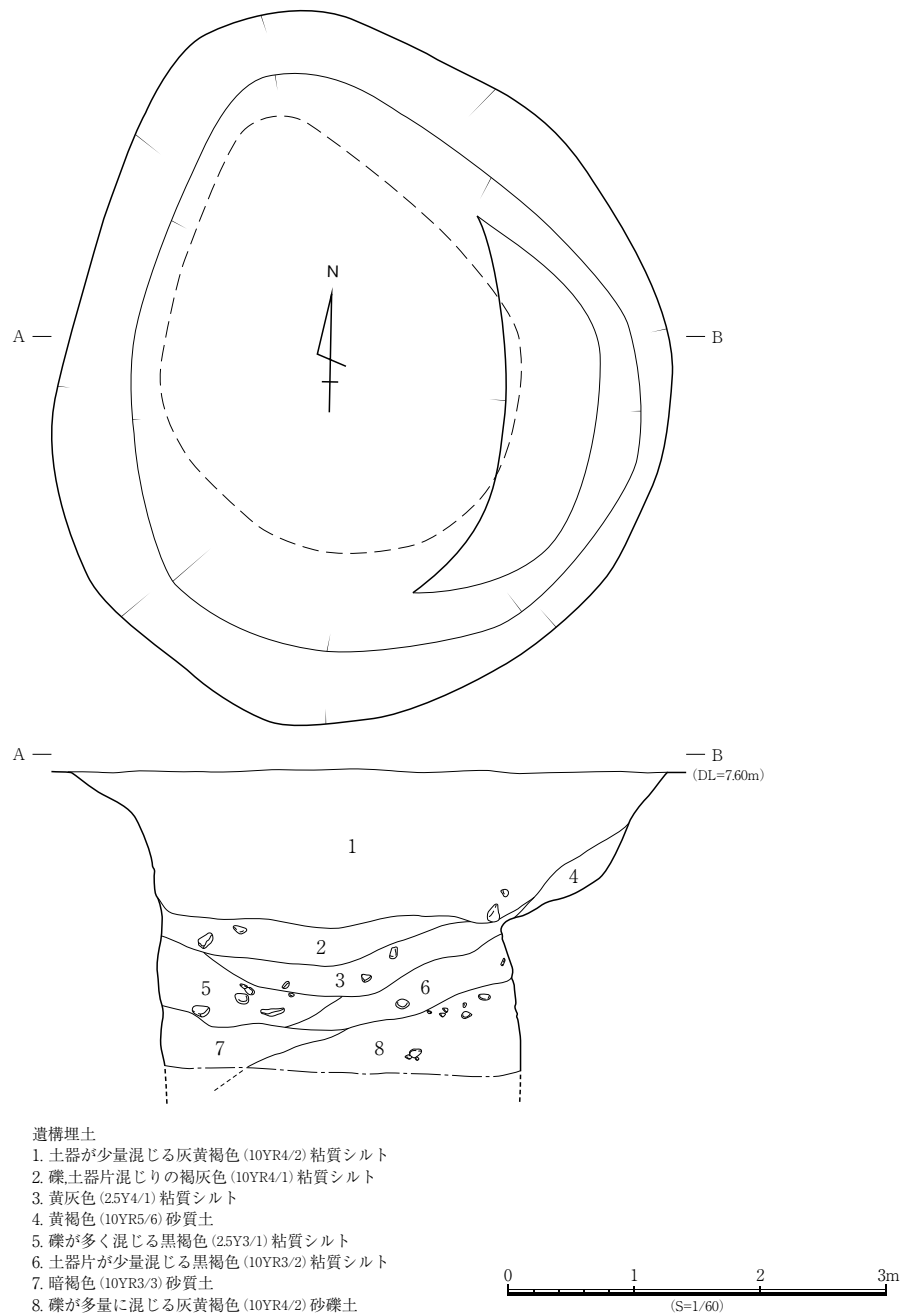


図3-57 SE1

鉄片(P5:318)が出土している。

⑥ 井戸

SE1(図3-57・58)

調査区中央部の東寄りに位置する。素掘りの井戸である。検出面での大きさは長軸5.6m, 短軸4.6mの不整形プランを呈するが, 図示したように検出面下1.1mのところまで直径2.7m程の円形となる。上部は崩落などによって変形したものである。深さは検出面から2.5mまで下げることができたが, 壁面崩落の危険から掘削を中止せざるを得なかった。埋土は1～8層で1・2層は壁面の崩落土がかなり入っている。遺物は1層から瓦質擂鉢(398), 備前擂鉢(399), 3～6層中からは瀬戸大皿(400), 東播磨系羽釜(401), 瓦質羽釜(402), 菊花がスタンプされた瓦質火鉢(403), 土鍾(404), 棒状鉄製品(釘?)

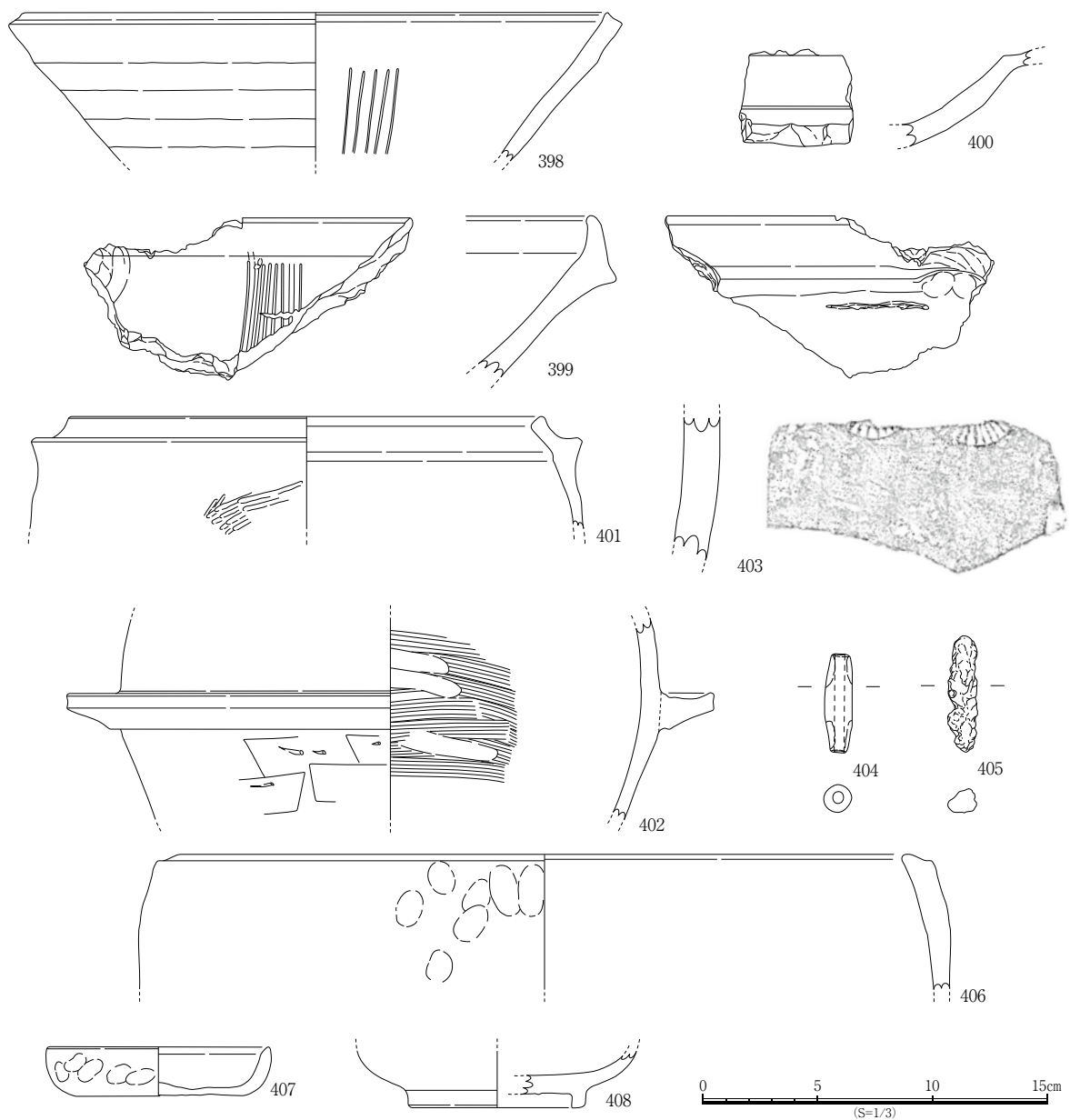


図3-58 SE1出土遺物

405), 7層から手づくね成形の土師質皿(407), 青磁碗(408), 土師質鍋(406)が出土している。SE1の下限は406から16世紀に求めることができる。

SE2(図3-59)

調査区中央部に位置する。素彫りの井戸である。検出面のプランは一辺1.1~1.3m程の隅丸方形形状を呈するが、本来は直径1.1m前後の円形と考えられる。深さは1.1mである。埋土は1~3層からなっている。埋土中から青磁碗(409)が出土している。片切彫による略式の蓮弁が施されている。本例も16世紀代に属する。

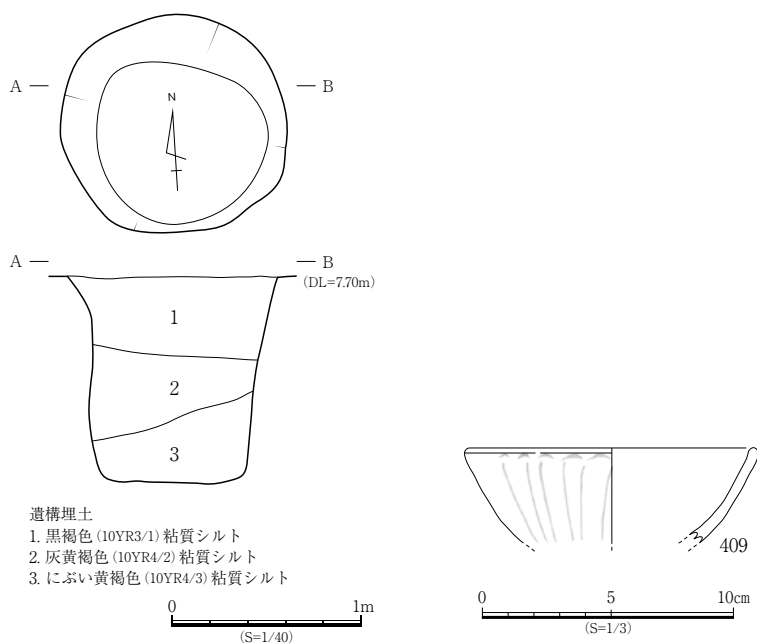


図3-59 SE2

⑦ 包含層出土遺物(図3-60)

包含層出土の遺物で図示できたものは手づくね成形の土師質皿(410・419), ロクロ成形の土師質小皿(417・418), 回転台成形の土師質杯(411~416・420)同安窯青磁皿(421), 土鍾(422~428)である。これらの遺物は殆どが遺構検出面からの出土である。

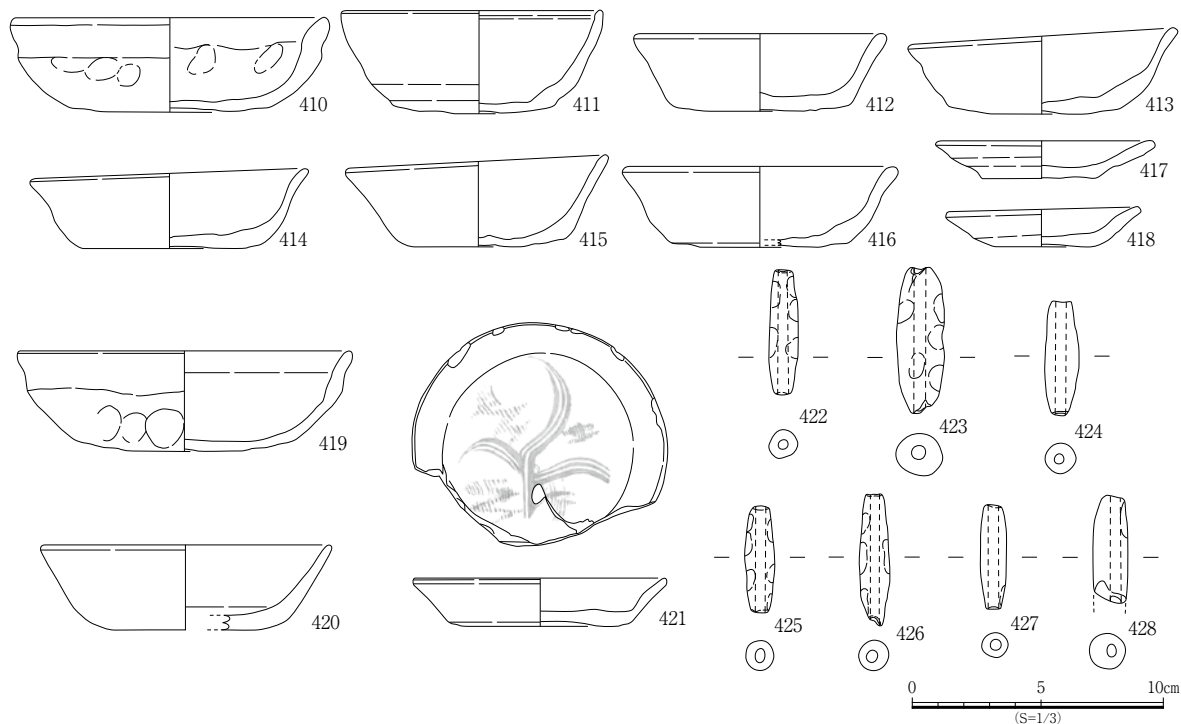


図3-60 包含層出土遺物実測図

2.ⅢA-5区

(1) 調査区の概要と基本層序

① 調査区の概要

調査第Ⅲ区の中央部に位置する調査区で、調査面積は2,044 m²である。遺構は調査区全域で確認されているが、遺構密度はそれほど高くはない。検出された遺構は掘立柱建物跡6棟、柵列3列、土坑19基、溝18条などで、遺物は溝から多く出土している。

② 基本層序(図3-61)

本調査区の地勢は西から東に向けて緩やかに傾斜しており、比高差は約40cmを測る。このため、遺物包含層である第Ⅱ層は西側においては削平されたと考えられ、調査区西側での遺存状態は良くなかった。

調査区で認められた基本層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層 黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂質シルト層

第Ⅱ層 10cm大の円礫が混じる褐色(7.5YR4/3)シルト層

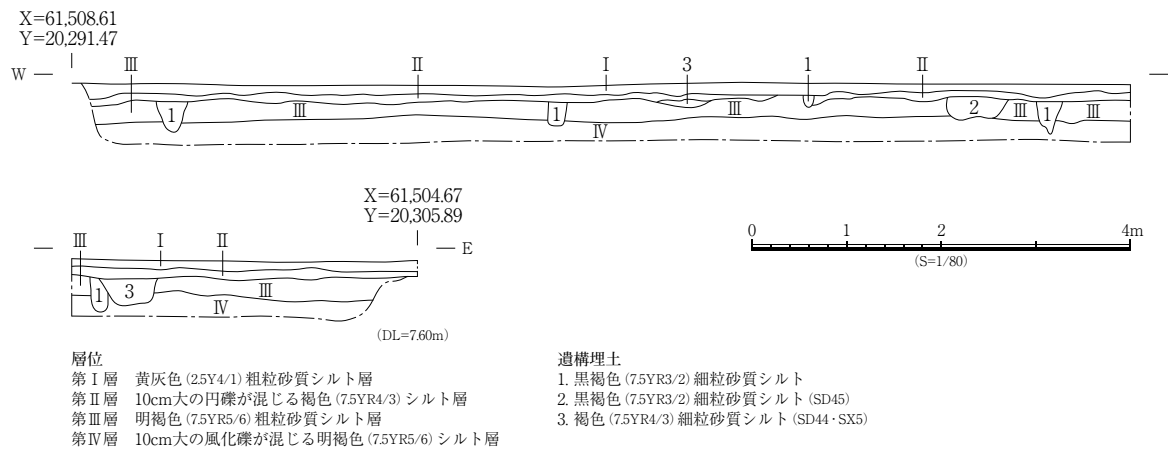


図3-61 調査区北壁セクション図

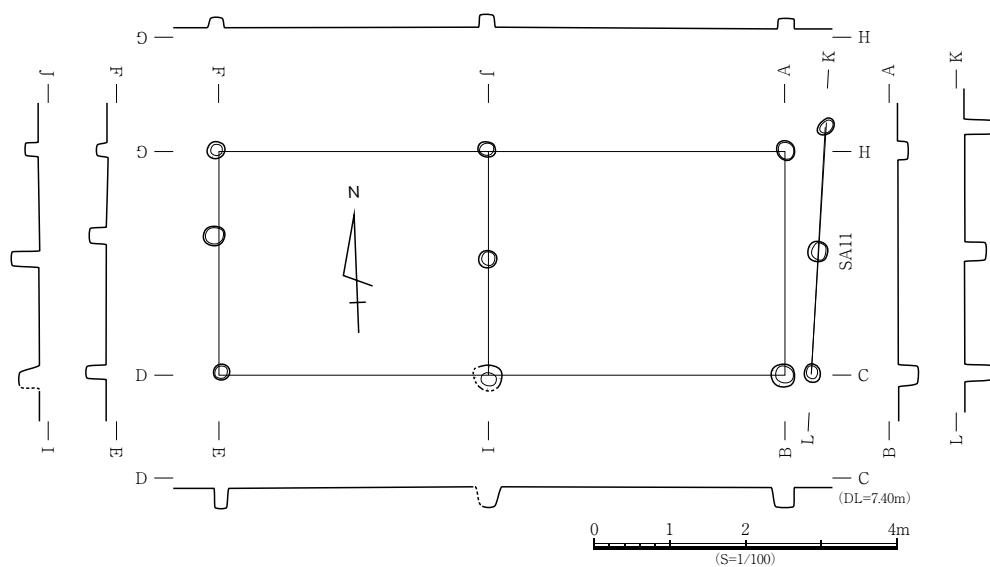


図3-62 SB20・SA11

第Ⅲ層 明褐色(7.5YR5/6)粗粒砂質シルト層

第Ⅳ層 10cm大の風化礫が混じる明褐色(7.5YR5/6)シルト層

(2) 検出遺構と遺物

① 掘立柱建物跡

SB20(図3-62)

桁行2間(7.2m), 梁行2間(2.9m), 面積20.9㎡の東西棟で, 棟方向はN-88°-Wである。柱穴間は桁行で3.6m, 梁行で1.1~1.8mで, 柱筋通りは良い。柱穴の掘方は円形を呈し, 径21~35cm, 深さ14~29cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

SB21(図3-63)

桁行2間(3.6m), 梁行1間(3.0m), 面積10.8㎡の南北棟で, 棟方向はN-2°-Eである。柱穴間は桁行で1.6~2.0m, 梁行で3.0mで, 柱筋通りは良い。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し, 径24~33cm, 深さ25~44cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物は皆無であった。

SB22(図3-64)

桁行3間(4.8m), 梁行2間(3.8m), 面積18.2㎡の南北棟で, 棟方向はN-2°-Eである。柱穴間は桁行で1.8~2.0m, 梁行で1.3~2.1mで, 柱筋通りは悪い。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し, 径12~29cm, 深さ9~37cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物は皆無であった。

SB23(図3-65)

桁行3間(4.1m), 梁行1間(1.8m), 面積7.9㎡の東西棟で, 棟方向はN-89°-Wである。柱穴間は桁行で1.1~1.6m, 梁行で1.8mで, 柱筋通りは良い。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し, 径16~31cm, 深さ8~36cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

SB24(図3-66)

桁行2間(5.2m), 梁行1間(2.4m), 面積12.5㎡の東西棟で, 棟方向はN-79°-Wである。柱穴間は桁行で2.0~3.2m, 梁行で2.4mで, 柱筋通り

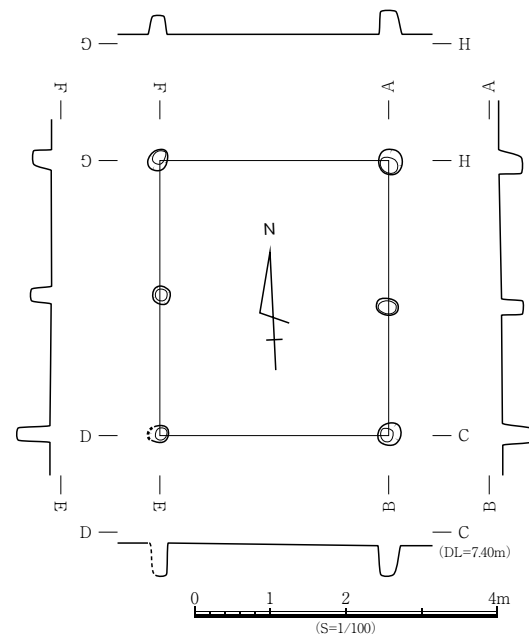


図3-63 SB21

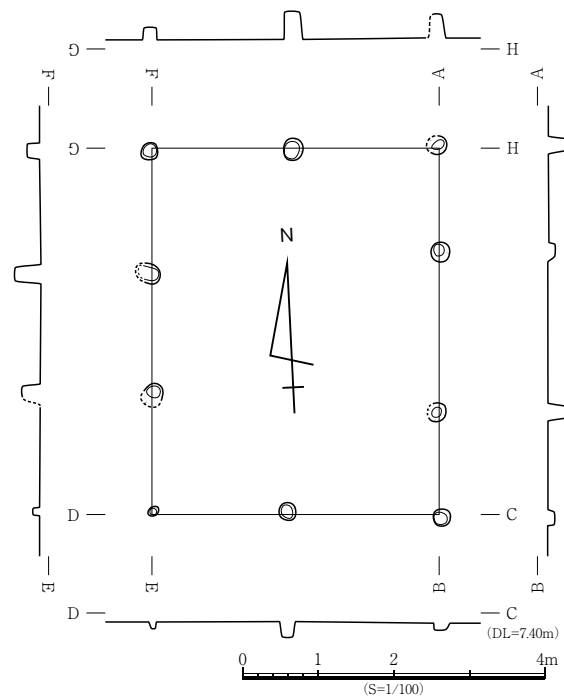


図3-64 SB22

は悪い。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径17～32cm、深さ7～31cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦質土器がみられた。

SB25(図3-67)

桁行3間(4.3m)、梁行1間(3.2m)、面積17.0㎡の南北棟で、棟方向はN-10°-Eである。柱穴間は桁行で1.6～1.9m、梁行で3.2mで、柱筋通りは良い。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径24～43cm、深さ5～56cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

② 柵列

SA11(図3-62)

調査区西部北側、SB20の東側で検出した南北堀跡(N-2°-E)である。2間(3.2m)を検出し、柱間寸法は1.6mで、柱穴は径18～27cmの円形及び楕円形である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、青磁がみられた。

SA12

調査区西部中央、SB25の南側で検出した東西堀跡(N-80°-W)である。5間(9.3m)を検出し、柱間寸法は1.3～2.4mで、柱穴は径25～33cmの円形及び楕円形である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SA13

調査区東部、SD46の西側で検出した南北堀跡(N-10°-E)で、調査区北側へ続く可能性が考えられる。6間(21.4m)を検出し、柱間寸法は2.4～5.0mで、柱穴は径21～78cmの円形及び楕円形である。埋土は褐色(7.5YR4/3)細粒砂質シルトで、出土遺物には弥生土器、土師質土器がみられた。

③ 土坑

SK122

調査区西部北側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、北側が調査区外へ続くため長軸、短軸は不明である。深さ11～47cmを測り、埋土は1層が灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト、2層が明褐色(7.5YR5/6)粗粒砂質シルトがブロック状に混じる灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト、3層がにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト、4層が黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト、5層がにぶい黄

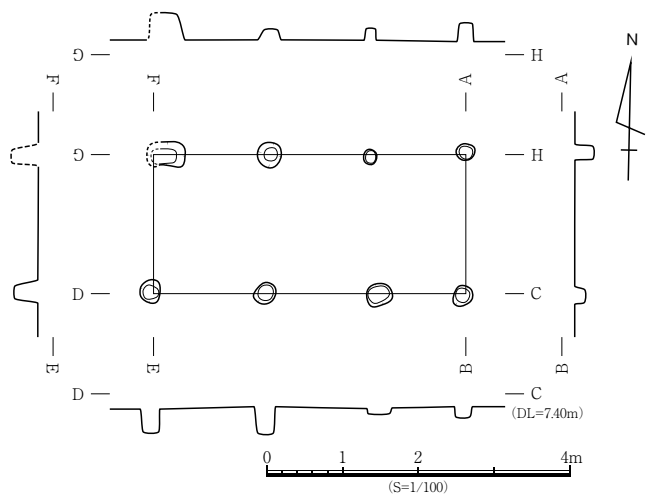


図3-65 SB23

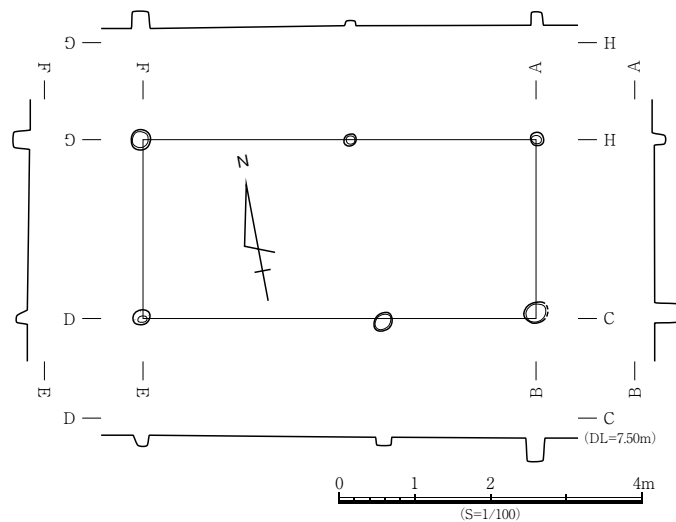


図3-66 SB24

褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト, 6層が黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物は皆無であった。

SK123

調査区西部北側に位置する土坑で, 平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸 1.4m, 短軸 0.8m, 深さ 20cm を測る。埋土は 1~2cm 大の小礫が混じる黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトで, 出土遺物は皆無であった。

SK124

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸 1.9m, 短軸 1.0m, 深さ 16~22cm を測る。埋土は 1層が暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト, 2層が黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトで, 出土遺物は皆無であった。

SK125

調査区西部北側に位置する土坑で, 平面形は不整形を呈し, 長軸 1.1m, 短軸 1.0m, 深さ 14cm を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトで, 出土遺物には須恵器, 土師質土器, 瓦質土器がみられた。

SK126(図3-68)

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は不整円形を呈し, 長軸 1.0m, 短軸 1.0m, 深さ 57cm を測る。埋土は 1層が 2~3cm 大の礫が混じる褐色(10YR4/6)シルト, 2層が暗褐色(10YR3/4)シルト, 3層が黒色(10YR1.7/1)シルト, 4層が暗褐色(7.5YR3/4)シルト, 5層が黒褐色(10YR2/3)シルトで, 出土遺物は皆無であった。

SK127

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は不整隅丸長方形を呈し, 長軸 2.4m, 短軸 0.9m, 深さ 12~16cm を測る。埋土は 5cm 大の礫が混じる黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトで, 出土遺物には瓦質土器がみられた。

SK128(図3-69)

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸 1.9m, 短軸 1.1m, 深さ 13~18cm を測る。埋土は 1~3cm 大の礫が混じる黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器, 瓦質土器, 青磁, 白磁がみられた。

429は青磁の碗である。

SK129(図3-69・70)

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は不整隅丸長方形を呈し, 長軸 2.3m, 短軸 1.5m, 深さ

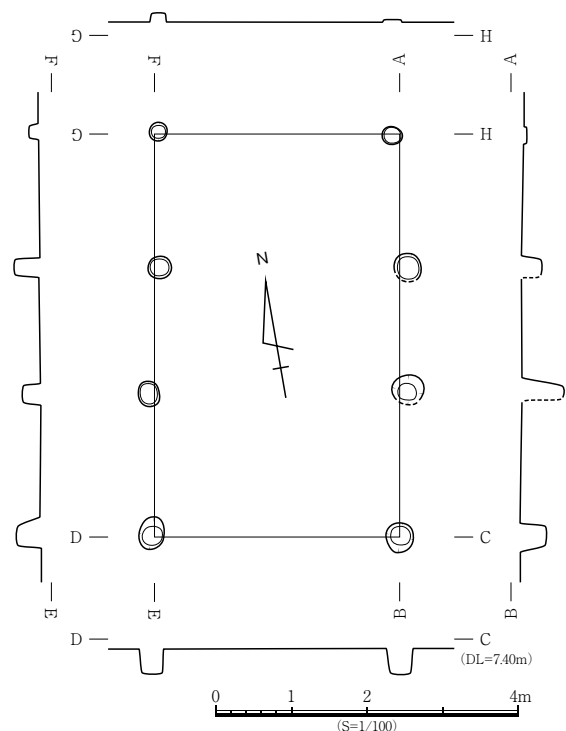


図3-67 SB25

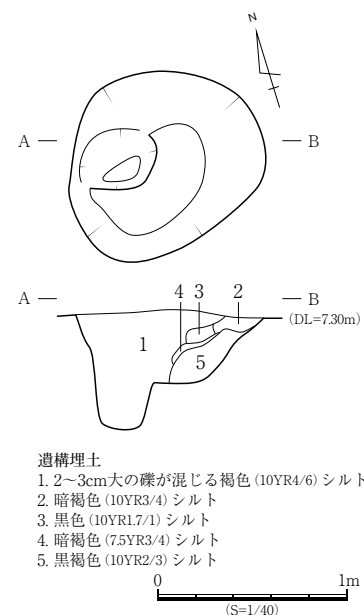


図3-68 SK126

- 遺構埋土
1. 2~3cm大の礫が混じる褐色(10YR4/6)シルト
 2. 暗褐色(10YR3/4)シルト
 3. 黒色(10YR1.7/1)シルト
 4. 暗褐色(7.5YR3/4)シルト
 5. 黒褐色(10YR2/3)シルト

33～42cmを測る。埋土は1層が褐灰色(7.5YR4/2)シルト, 2層が1～3cm大の礫が混じる黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルト, 3層が黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器, 金属製品がみられた。

430は金属製品の釘と考えられるものである。

SK130

調査区西部北側に位置する土坑で, 平面形は不整隅丸長方形を呈し, 長軸1.6m, 短軸0.9m, 深さ20cmを測る。埋土は0.5～1cm大の礫が混じる黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器, 土製品がみられた。

SK131

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は不整隅丸方形を呈し, 長軸1.3m, 短軸1.2m, 深さ37cmを測る。埋土は1層が0.5～1cm大の礫が混じる黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト, 2層が黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルト, 3層が暗褐色シルトのブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルト, 4層が3cm大の礫が混じる暗褐色(7.5YR3/4)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

SK132

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は円形を呈し, 径0.8m, 深さ20cmを測る。埋土は1層が褐色シルトのブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)シルト, 2層が暗褐色(7.5YR3/3)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

SK133(図3-71)

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は円形を呈し, 長軸0.9m, 短軸0.8m, 深さ24cmを測る。埋土は黒褐色シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

431・432は土師質土器の皿である。

SK134

調査区西部中央に位置する土坑で, 平面形は不整楕円形を呈し, 長軸1.8m, 短軸0.6m, 深さ11～13cmを測る。埋土は1～5cm大の礫と褐色シルトのブロックが混じる黒褐色(10YR3/2)シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

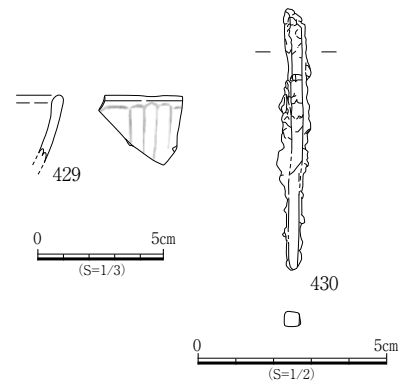


図3-69 SK128・129出土遺物実測図

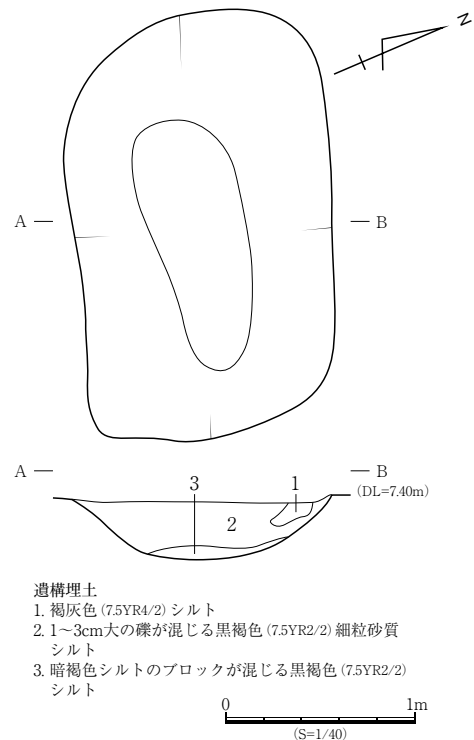


図3-70 SK129

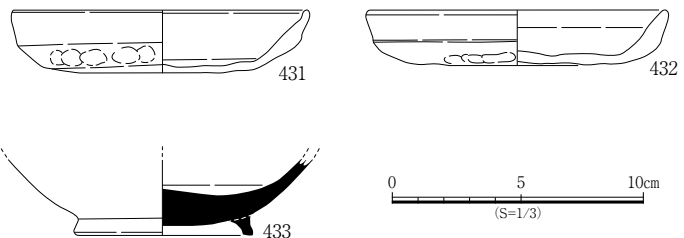


図3-71 SK133・138出土遺物実測図

SK135(図3-72)

調査区西部南側に位置する土坑で、SD42 に切られる。平面形は長方形を呈し、長軸2.9m、短軸1.1m、深さ58cmを測る。埋土は1層が1～5cm大の礫が多く混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルト、2層が1～5cm大の礫と褐色シルトのブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト、3層が0.5～10cm大の礫が混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトで、出土遺物には弥生土器、土師質土器がみられた。

SK136

調査区西部南側に位置する土坑で、南側をSD43 に切られ、平面形、長軸、短軸は不明である。深さは17cmを測り、埋土は黒褐色シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SK137

調査区中央部に位置する土坑で、平面形は不整隅丸長方形を呈し、長軸1.5m、短軸0.4m、深さ40cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SK138(図3-71)

調査区東部南側に位置する土坑で、南側は調査区外へ続き、長軸は不明である。平面形は隅丸長方形を呈し、短軸0.9m、深さ14～17cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には須恵器、土師質土器がみられた。

433は須恵器の椀である。

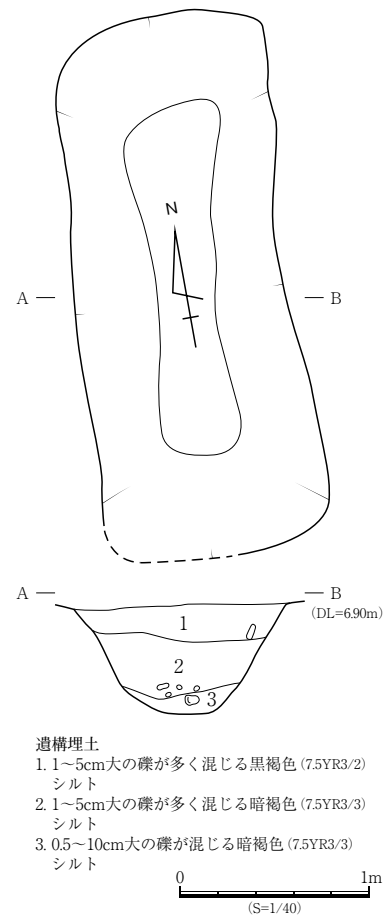


図3-72 SK135

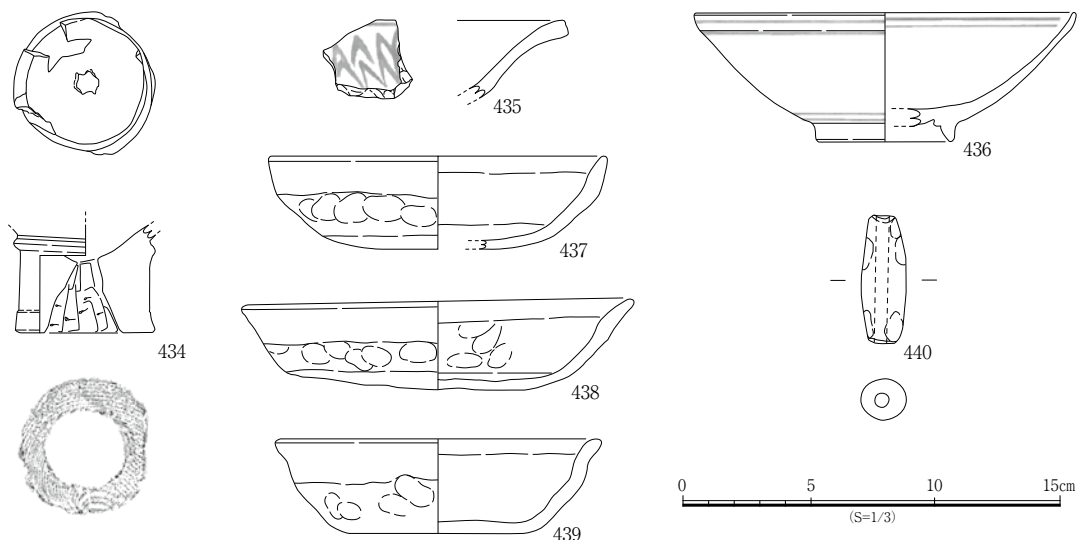


図3-73 SD39～41出土遺物実測図

SK139

調査区東部南側に位置する土坑で、南側は調査区外へ続き、長軸は不明である。平面形は隅丸長方形を呈し、短軸0.6m、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物は皆無であった。

SK140

調査区東部南側に位置する土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.0m、短軸0.7m、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

④ 溝

SD39(図3-73)

調査区西部に位置する溝で、確認延長30.8m、幅0.26～1.29m、深さ6～22cmを測り、北側は調査区外へ続き、南側はSD43に繋がる。埋土は0.5～1cm大の礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、出土遺物には須恵器、土師質土器、瓦質土器、備前焼、青磁、青花がみられた。

434は土師質土器の燭台、435は青磁の皿、436は青花の碗である。

SD40(図3-73)

調査区中央部に位置する溝で、確認延長16.2m、幅0.32～0.89m、深さ11～48cmを測る。北側は調査区外へ続き、南側はSD43とSE4に繋がる。埋土は1層が黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト、2層が明褐色(7.5YR5/6)粗粒砂質シルトのブロックが混じる黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂質シルト、3層がにぶい褐色(7.5YR5/4)細粒砂質シルト、4層が明赤褐色(5YR5/6)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦質土器、備前焼がみられた。

437・438は土師質土器の皿である。

SD41(図3-73・74)

調査区南部に位置する溝で、確認延長29.1m、幅0.67～0.95m、深さ39～47cmを測り、西側は調査区外へ続く。埋土は1層が褐色(7.5YR4/3)シルトで2層が黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。出土遺物には須恵器、土師質土器、瓦質土器、備前焼、土製品がみられた。

439は土師質土器の皿、440は土製品の土錘である。

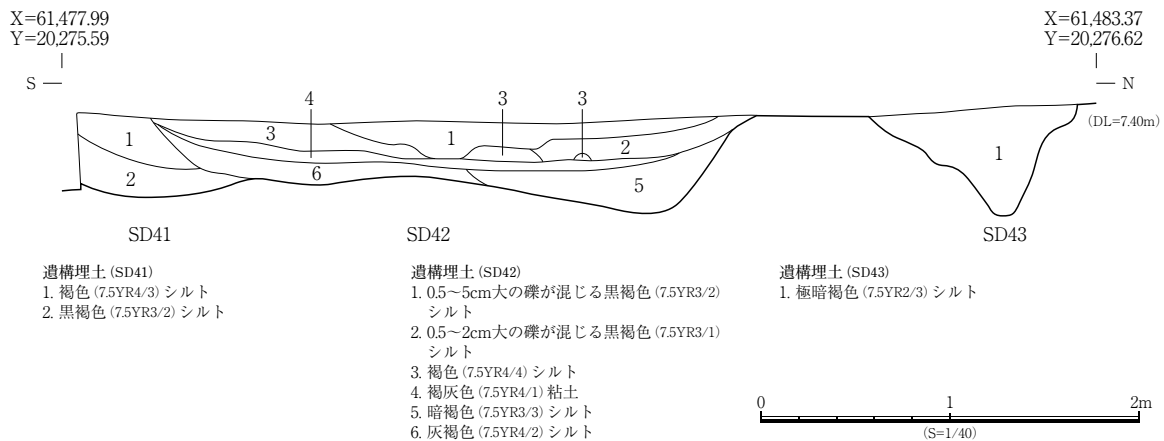


図3-74 SD41～43

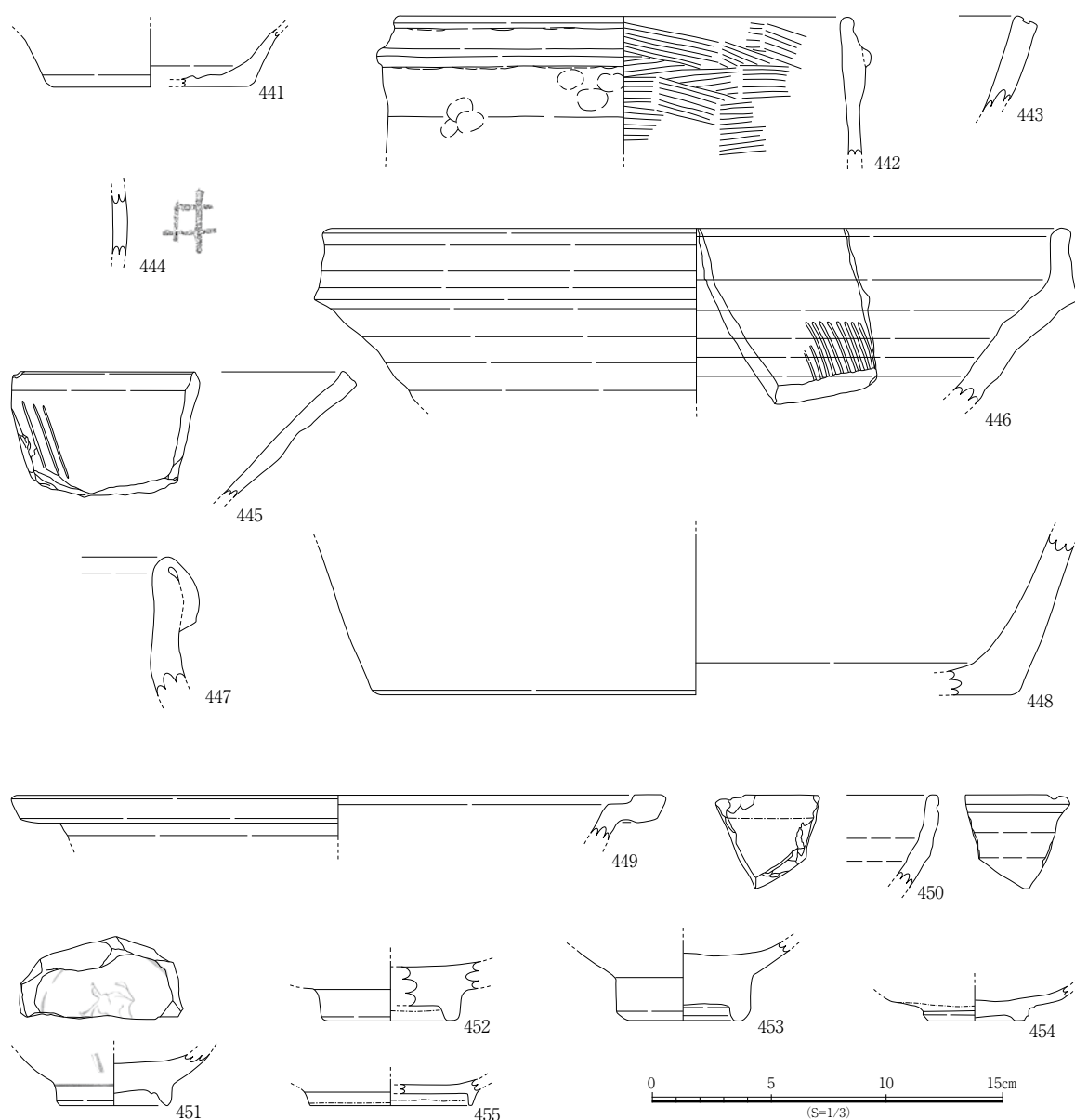


図3-75 SD42出土遺物実測図1

SD42(図3-74～76)

調査区南部に位置する溝で、確認延長 38.4m、幅 2.56～3.41m、深さ 37～47 cmを測り、西側はSD56、東側はSD46に繋がる。埋土は1層が0.5～5cm大の礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルト、2層が0.5～2cm大の礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト、3層が褐色(7.5YR4/4)シルト、4層が褐灰色(7.5YR4/1)粘土、5層が暗褐色(7.5YR3/3)シルト、6層が灰褐色(7.5YR4/2)シルトで、出土遺物には弥生土器、須恵器、土師質土器、東播系須恵器、瓦質土器、備前焼、瀬戸焼、青磁、白磁、石製品、鉄滓がみられた。

441～444は土師質土器で、441は杯、442～444は鍋、445は瓦質土器の播鉢である。446～448は備前焼で、446は播鉢、447・448は甕、449・450は瀬戸焼で、449は皿、450は鉢である。451～453は青磁の碗で、454・455は白磁の皿である。456は石製品の石臼、457は鉄滓である。

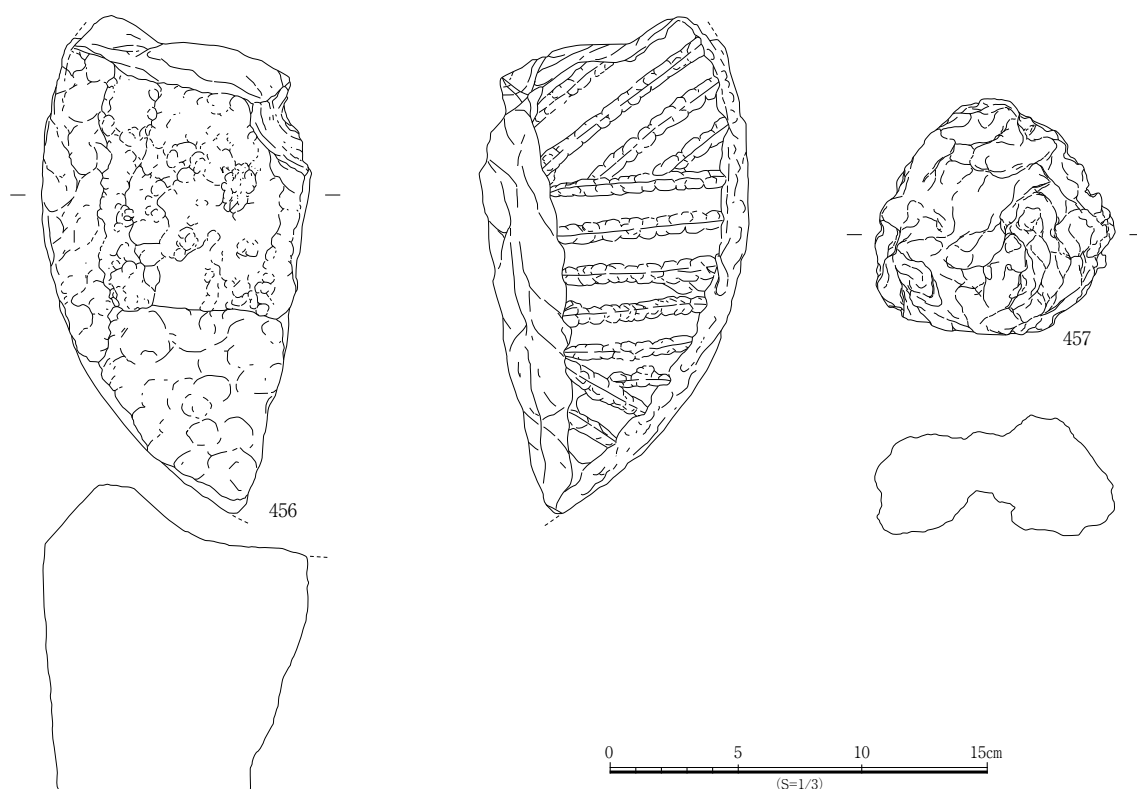


図3-76 SD42出土遺物実測図2

SD43(図3-74・77)

調査区南部に位置する溝で、確認延長 38.3m, 幅 0.65 ~ 1.24m, 深さ 22 ~ 55 cmを測り、西側は SD39・56, 東側はSD46に繋がる。埋土は極暗褐色 (7.5YR2/3) シルトで、出土遺物には須恵器, 土師質土器, 瓦質土器がみられた。

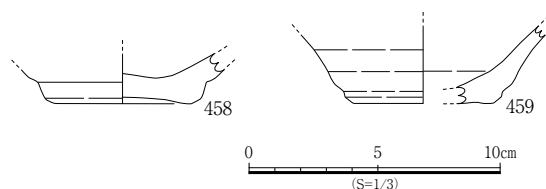


図3-77 SD43出土遺物実測図

458・459は土師質土器の杯である。

SD44

調査区中央部に位置する溝で、確認延長 24.1m, 幅 0.49 ~ 0.91m, 深さ 14 ~ 35cmを測り、北側は調査区外へ続く。埋土は黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器, 備前焼がみられた。

SD45

調査区中央部に位置する溝である。確認延長 9.9m, 幅 0.23 ~ 0.64m, 深さ 13 ~ 36 cmを測り、北側は調査区外へ続く。埋土は1層が黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト, 2層が明赤褐色 (5YR5/6) 細粒砂質シルトで出土遺物には土師質土器がみられた。

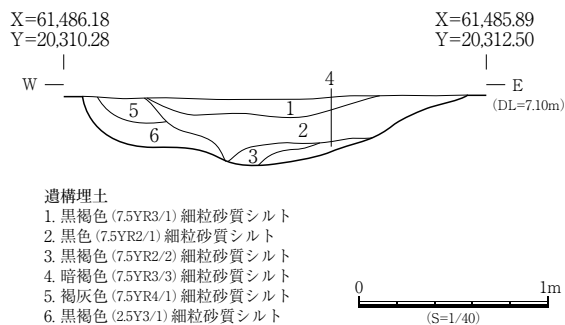


図3-78 SD46

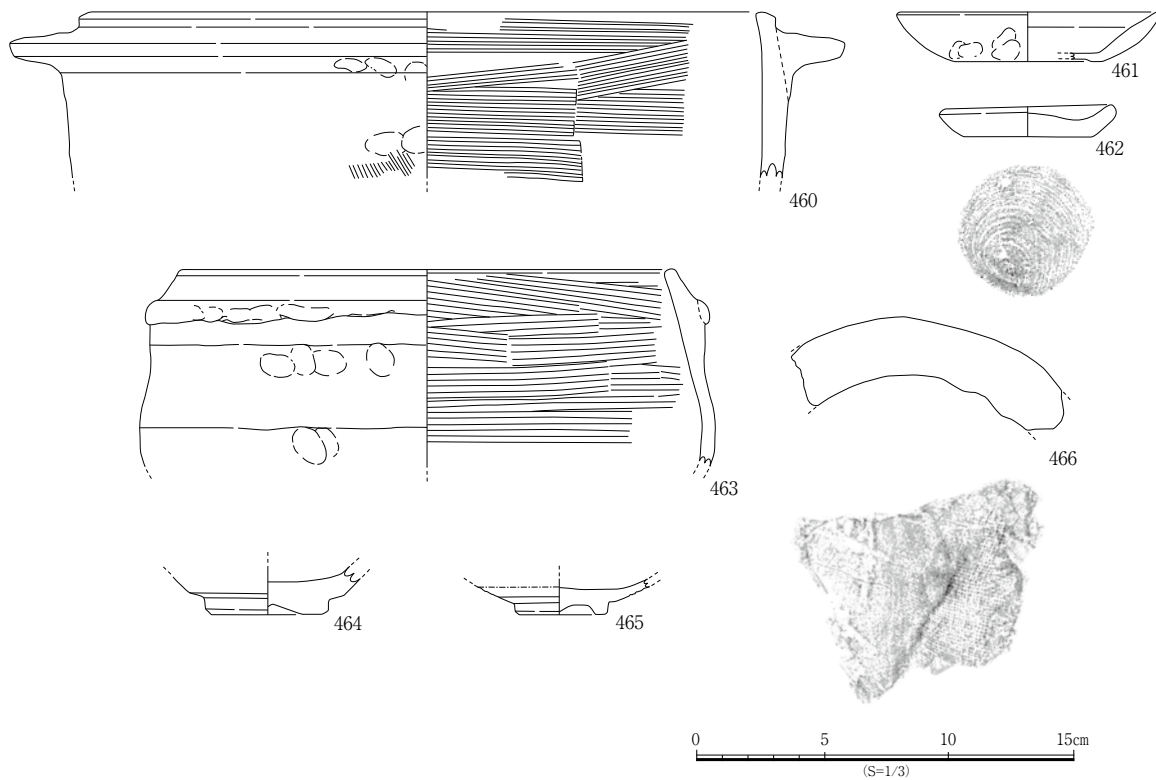


図3-79 SD46出土遺物実測図

SD46(図3-78・79)

調査区東部に位置する溝で、確認延長35.1m、幅1.32～2.07m、深さ23～51cmを測り、南北側とも調査区外へ続く。埋土は1層が黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト、2層が黒色(7.5YR2/1)細粒砂質シルト、3層が黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルト、4層が暗褐色(7.5YR3/3)細粒砂質シルト、5層が褐灰色(7.5YR4/1)細粒砂質シルト、6層が黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、瀬戸焼、青磁、白磁、瓦がみられた。

460は土師器の羽釜、461～463は土師質土器で、461は皿、462は小皿、463は鍋である。464は瀬戸焼の天目茶碗、465は白磁の皿、466は瓦の丸瓦である。

SD47(図3-80)

調査区東部に位置する溝で、確認延長29.5m、幅0.45～1.06m、深さ21～36cmを測り、南北側とも調査区外へ続き、調査区中央で途切れる。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトで、出土遺物には須恵器、土師質土器がみられた。

SD48(図3-80・81)

調査区東部に位置する溝で、確認延長34.8m、深さ14～20cmを測り、南北側と東側は調査区外へ続き、幅は不明である。埋

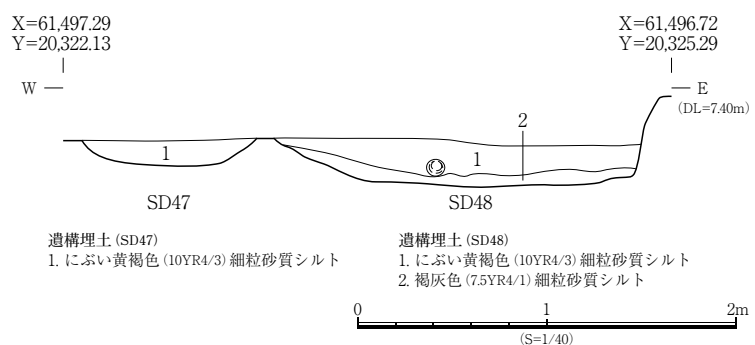


図3-80 SD47・48

土は1層がにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト, 2層が風化礫混じりの褐灰色(7.5YR4/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には須恵器, 土師質土器, 瓦質土器, 備前焼, 青磁, 瓦がみられた。

467は瓦の丸瓦である。

SD49

調査区東部に位置する溝で, 確認延長3.3m, 幅0.29~0.56m, 深さ5~8cmを測り, 東側は調査区外へ続く。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器, 土師質土器がみられた。

SD50

調査区東部に位置する溝で, 確認延長1.6m, 幅0.31~0.43m, 深さ3~7cmを測り, 東側は調査区外へ続く。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトで, 出土遺物には須恵器, 土師質土器がみられた。

SD51

調査区東部南側に位置する溝で, 確認延長6.4m, 幅0.44~0.67m, 深さ20~22cmを測り, 西側は調査区外へ続き, 東側はSD47・48に繋がる。埋土は1層が黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルト, 2層が明褐色(7.5YR5/6)細粒砂質シルト, 3層が黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

SD52

調査区東部南側に位置する溝で, 確認延長7.4m, 幅0.35~0.49m, 深さ17cmを測り, 西側は調査区外へ続き, 南側はSD47・48に繋がる。埋土は褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

SD53

調査区東部南側に位置する溝で, 確認延長4.5m, 幅0.19~0.42m, 深さ6~9cmを測り, 西側はSK138, 東側はSD47に繋がる。埋土は褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

SD54

調査区中央部南側に位置する溝で, 確認延長10.8m, 深さ18~22cmを測り, 東西側と北側は調査区外へ続き, 幅は不明である。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には土師質土器がみられた。

SD55

調査区中央部南側に位置する溝で, 確認延長3.8m, 幅0.21~0.31m,

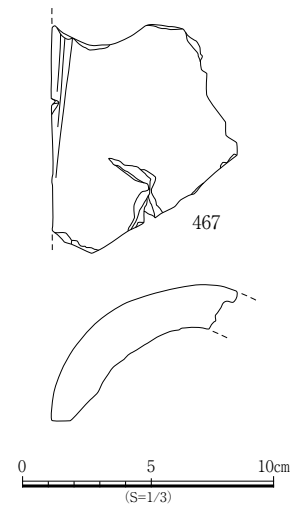


図3-81 SD48出土遺物実測図

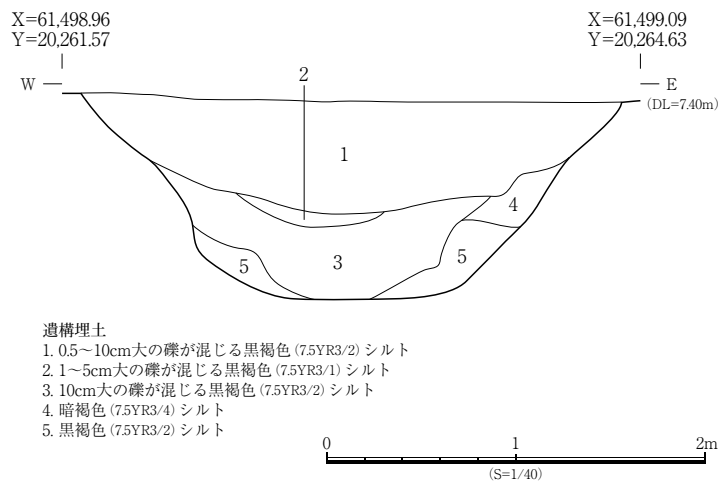


図3-82 SD56

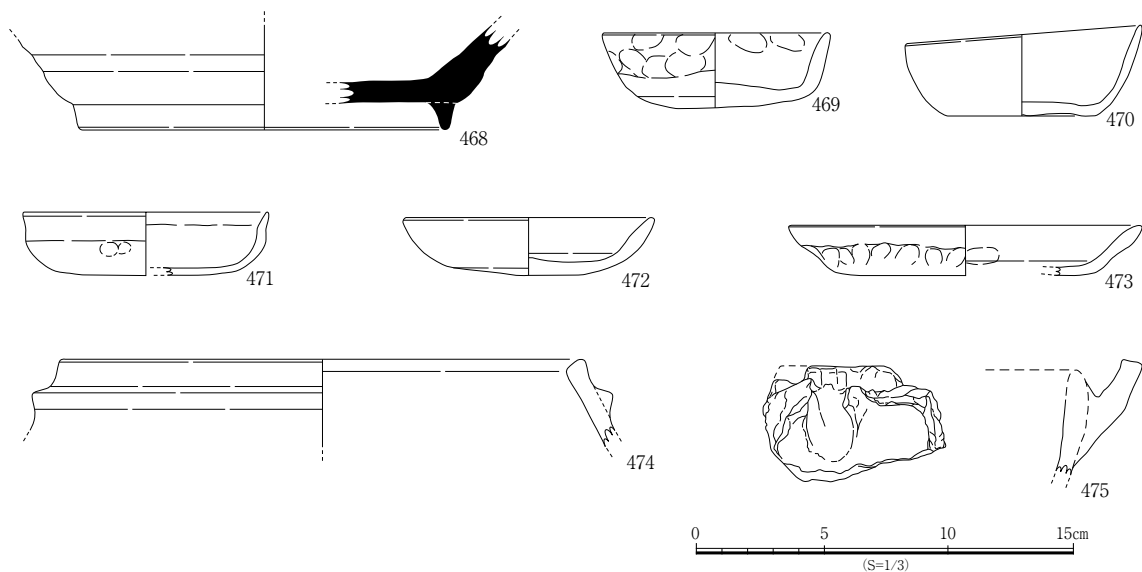


図3-83 SD56出土遺物実測図1

深さ18～44cmを測る。SD42に直行しており、埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで、出土遺物は皆無であった。

SD56(図3-82～85)

調査区西部に位置する溝で、確認延長35.6m、幅2.36～3.08m、深さ83～129cmを測り、南北側とも調査区外へ続く。埋土は1層が0.5～10cm大の礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルト、2層が1～5cm大の礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト、3層が10cm大の礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルト、4層が暗褐色(7.5YR3/4)シルト、5層が黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、出土遺物には弥生土器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、備前焼、瀬戸焼、青磁、白磁、瓦、土製品、金属製品、鉄滓がみられた。

468は須恵器の壺、469～480は土師質土器で、469～473は皿、474・475は鍋、476～480は茶釜である。481～484は備前焼で、481～483は播鉢、484は甕である。485～487は瀬戸焼で、485・486は天目茶碗、487は香炉と考えられるものである。488～490は青磁で、488・489は碗、490は皿である。491は白磁の皿、492・493は青花で、492は碗、493は皿である。494は土製品の土錘、495は金属製品の鑿である。

⑤ 柱穴

P65(図3-86)

調査区西部中央に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸32cm、短軸27cm、深さ32cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦質土器がみられた。

496は瀬戸焼の天目茶碗である。

P66(図3-86)

調査区西部北側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸31cm、短軸29cm、深さ36cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には白磁がみられた。

497は白磁の皿である。

P67(図3-86)

調査区西部北側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、P68に切られる。長軸38cm、短軸31cm、深さ63cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦質土器が

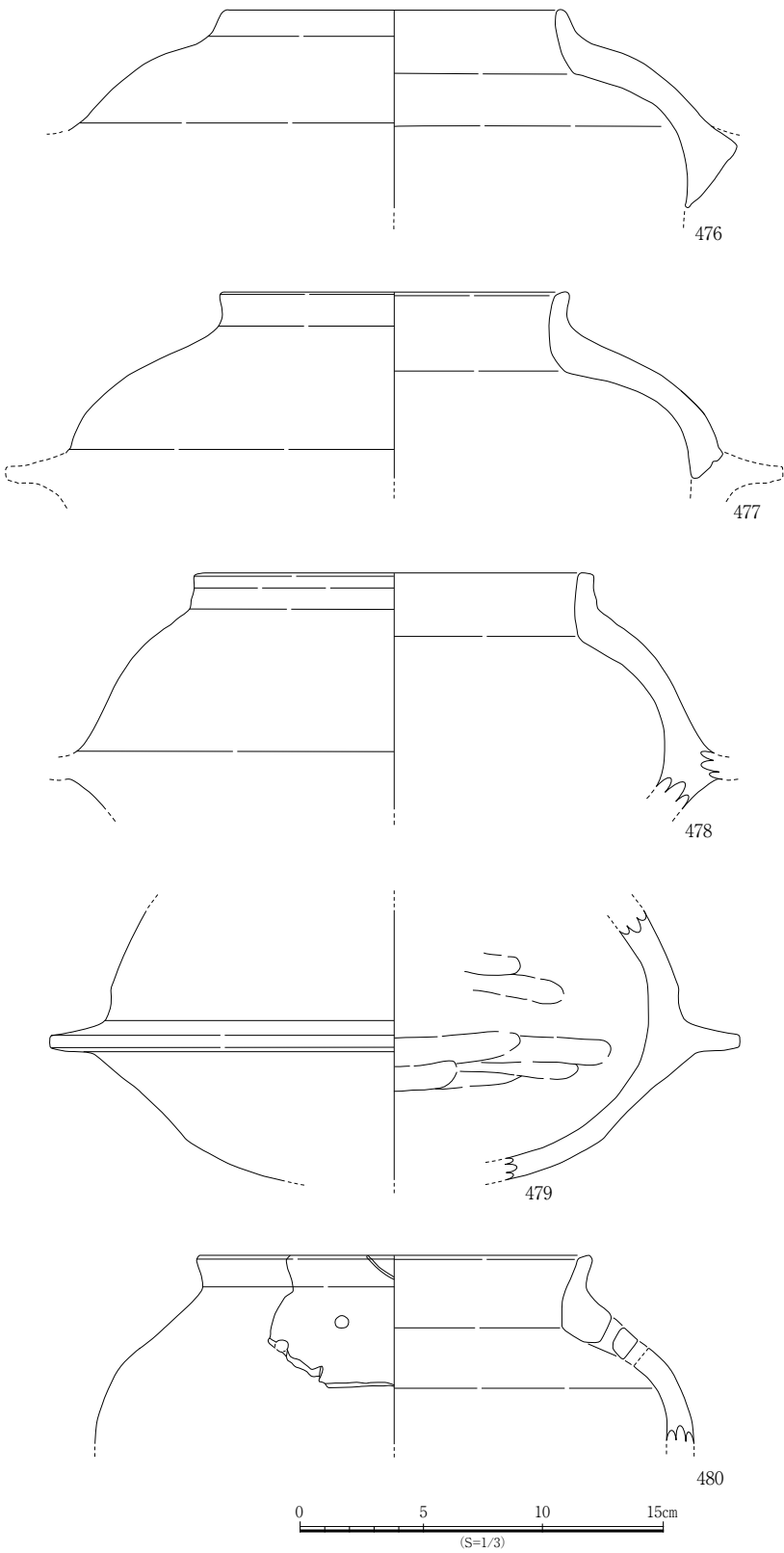


図3-84 SD56出土遺物実測図2

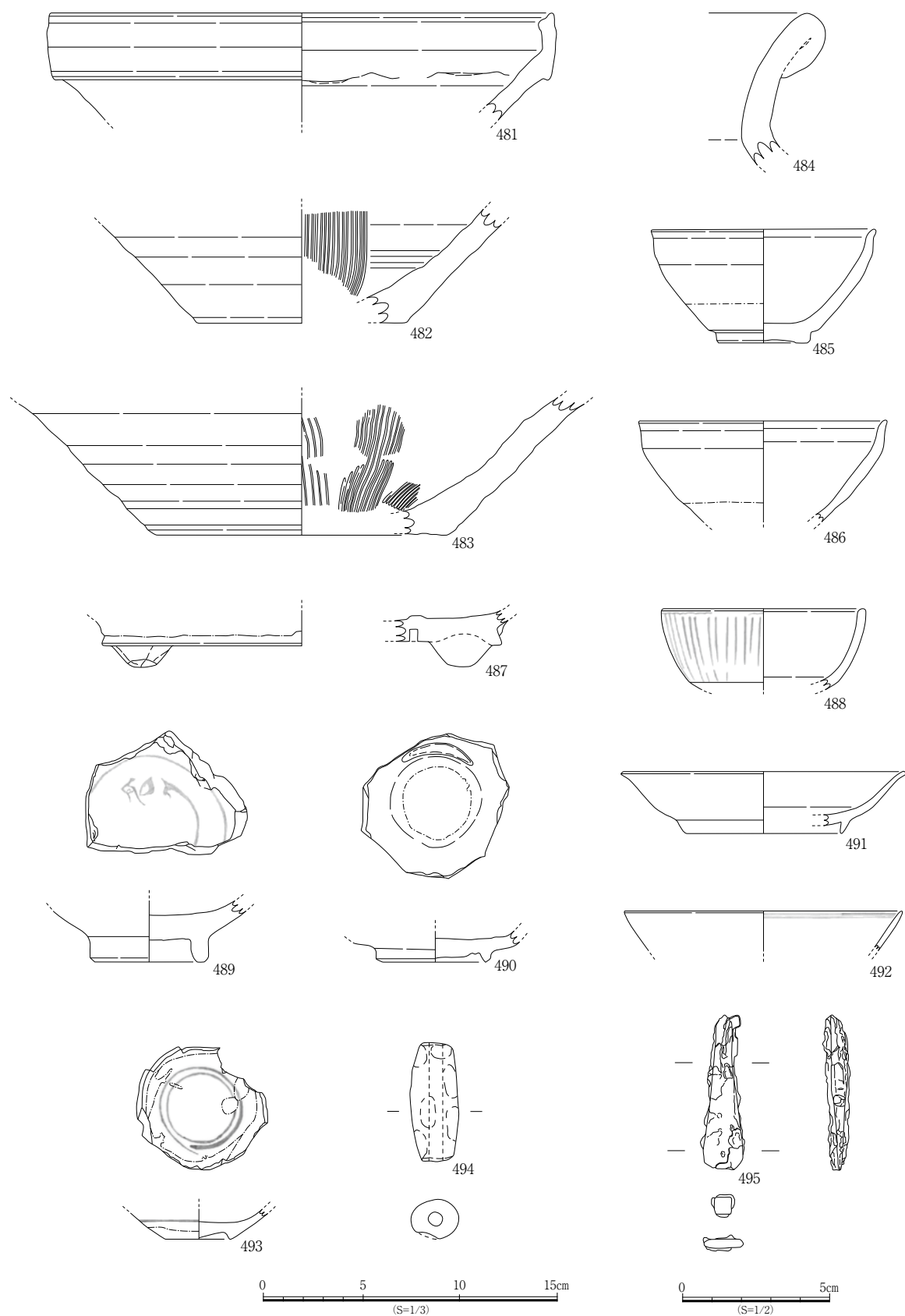


图3-85 SD56出土遺物実測図3

みられた。

498～502は土師質土器の皿である。

P68(図3-86)

調査区西部北側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、P67を切る。長軸33cm、短軸26cm、深さ22cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

503～505は土師質土器の皿である。

P69(図3-86)

調査区西部北側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、径27cm、深さ44cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には瓦質土器、白磁がみられた。

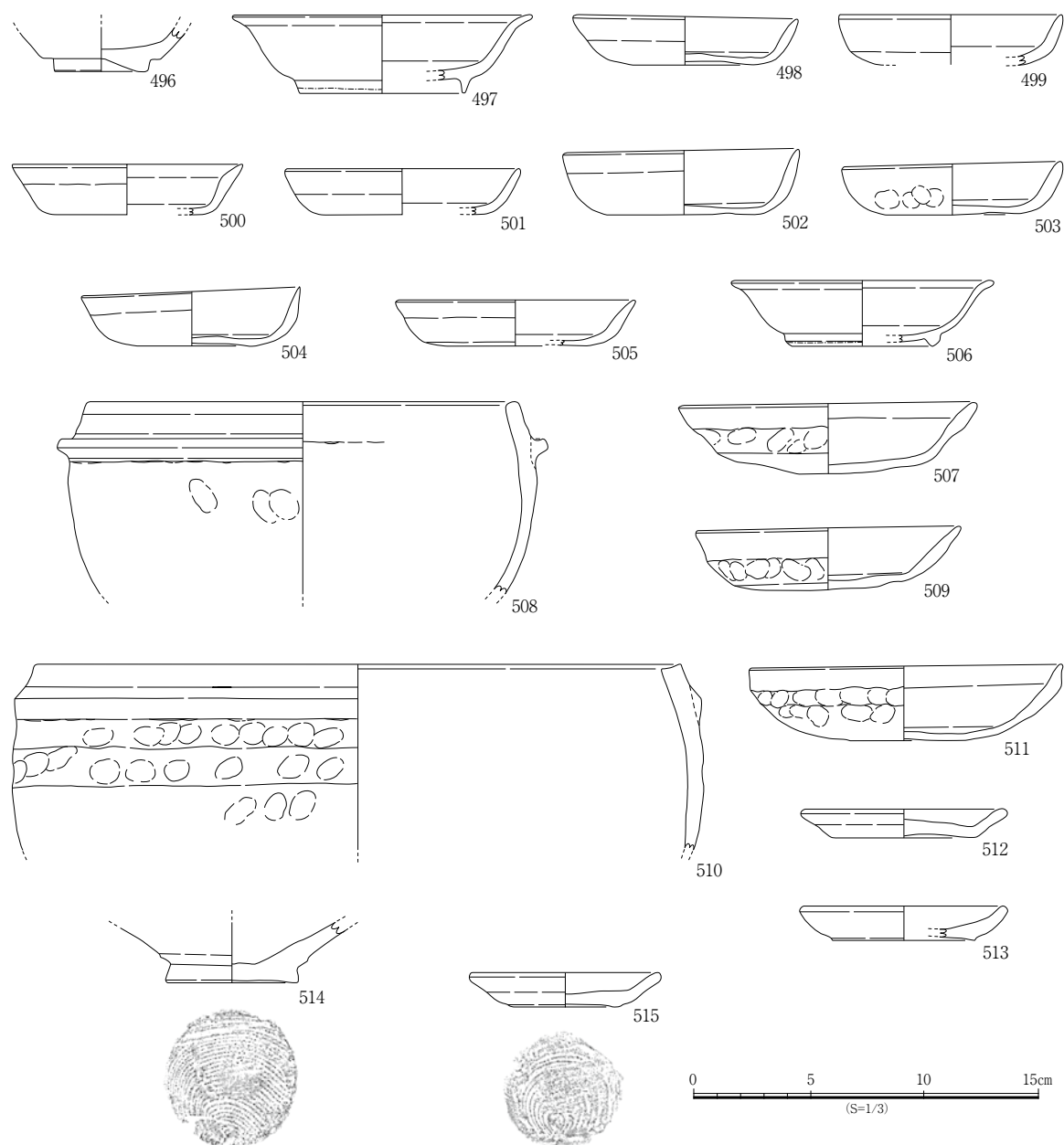


図3-86 柱穴出土遺物実測図

506は白磁の皿である。

P70(図3-86)

調査区西部中央に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸33cm、短軸25cm、深さ11cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

507は土師質土器の皿である。

P71(図3-86)

調査区西部北側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸49cm、短軸19cm、深さ31cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦質土器がみられた。

508は瓦質土器の鍋である。

P72(図3-86)

調査区西部北側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、径25cm、深さ29cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

509は土師質土器の皿である。

P73(図3-86)

調査区西部南側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、径21cm、深さ5cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦質土器がみられた。

510は瓦質土器の鍋である。

P74(図3-86)

調査区中央部北側に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、径37cm、深さ36cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

511は土師質土器の皿である。

P75(図3-86)

調査区中央部北側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸46cm、短軸35cm、深さ33cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

512は土師質土器の小皿である。

P76(図3-86)

調査区中央部に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸32cm、短軸25cm、深さ28cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

513は土師質土器の小皿である。

P77(図3-86)

調査区東部北側に位置する柱穴で、平面形は楕円形を呈し、長軸21cm、短軸18cm、深さ5cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

514は土師質土器の杯である。

P78(図3-86)

調査区東部中央に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、径19cm、深さ20cmを測る。埋土は褐色(7.5YR4/3)シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

515は土師質土器の小皿である。

⑥ 井戸

SE3(図3-87)

調査区西部に位置する井戸で、東西2.6m、南北2.4m、深さ0.7m以上を測る。素掘りの井戸跡で、2段に掘り込み、下段の掘り込み肩部には円礫を弧状に配する。埋土は1層が1～20cm大の礫が混じる褐灰色(7.5YR4/1)シルト、2層が黒褐色シルトのブロックが混じる褐灰色(7.5YR4/1)シルト、3層が黒褐色(10YR2/3)シルトで、遺物は弥生土器、須恵器、土師質土器、備前焼、青磁が出土している。

SE4(図3-88)

調査区中央部に位置する井戸である。西側は調査区外へ続き、東西幅は不明で、南北3.4m、深さ1.0m以上を測る。素掘りの井戸跡で、2段に掘り込む。埋土は褐色シルトのブロックが混じる黒褐色シルトで、遺物は土師質土器が出土している。

516は土師質土器の皿である。

⑦ 性格不明遺構

SX3

調査区西部北側に位置する性格不明遺構で、平面形は不整形円形を呈し、長軸1.9m、短軸1.6m、深さ12～24cmを測る。埋土は1層が1～5cm大の礫が混じる黒褐色(10YR2/3)細粒砂

質シルト、2層が暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦質土器がみられた。

SX4

調査区中央部北側に位置する性格不明遺構で、平面形は溝状を呈し、北側は調査区外へ続く。確認延長1.1m、幅0.4m、深さ15cmを測り、埋土は黄褐色(10YR5/8)粘土のブロックが少し混じるオリーブ黒色(5Y3/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SX5

調査区中央部北側に位置する性

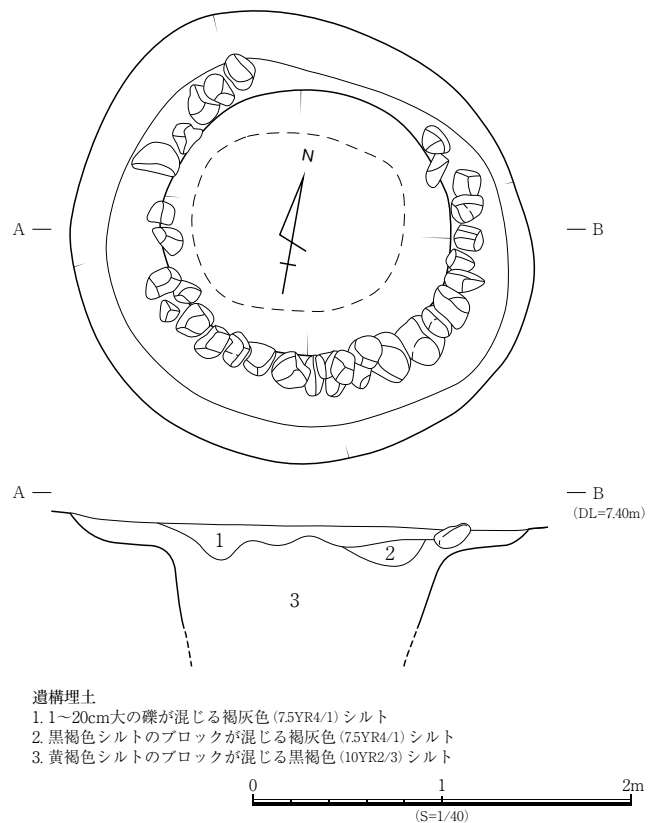


図3-87 SE3

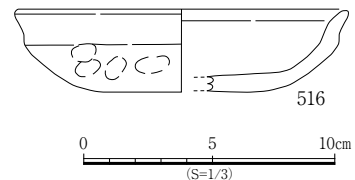


図3-88 SE4出土遺物実測図

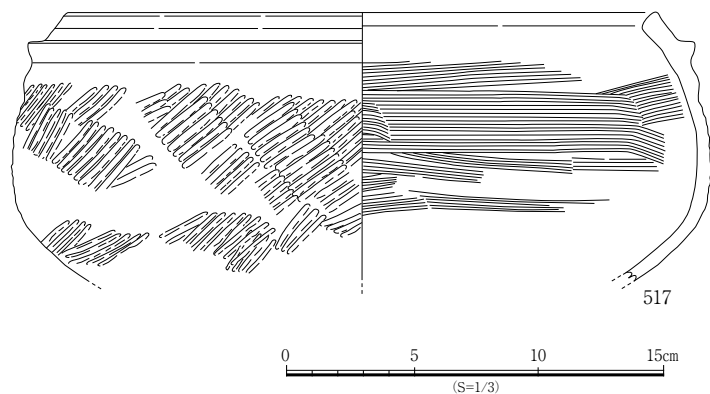


図3-89 SX6出土遺物実測図

格不明遺構で、平面形は溝状を呈し、確認延長6.4m、幅0.4～1.9m、深さ5～10cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/8)粘土のブロックが少し混じる褐色(7.5YR4/3)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

SX6(図3-89)

調査区中央部北側に位置する性格不明遺構で、平面形は不整形を呈し、確認延長1.3m、幅0.6～1.3m、深さ4～12cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

517は土師質土器の鍋である。

SX7

調査区中央部に位置する性格不明遺構で、平面形は溝状を呈し、確認延長6.6m、幅0.1～1.0m、深

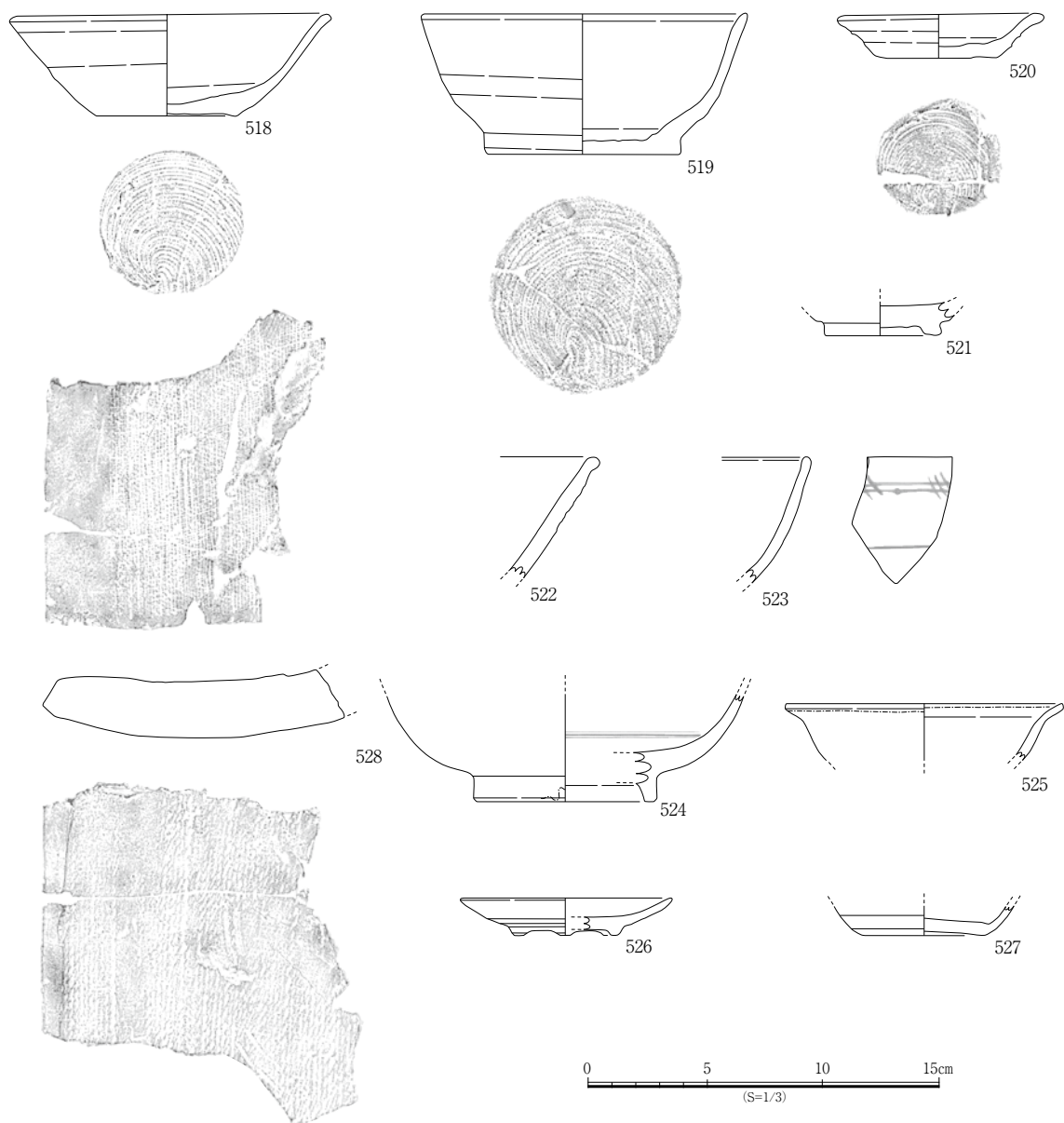


図3-90 遺物包含層等出土遺物実測図

さ6～26cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器、瓦器、土製品がみられた。

SX8

調査区中央部に位置する性格不明遺構で、平面形は溝状でT字形を呈し、確認延長7.6m、幅23～47m、深さ6～23cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器がみられた。

⑧ 遺物包含層等(図3-90)

本調査区の地勢は前述したように西から東に向けて緩やかに傾斜しており、調査区西側では遺物包含層の残存状態は良くない。

518～520は土師質土器で、518・519は杯、520は小皿である。521・522は瀬戸焼で、521は天目茶碗、522は鉢である。523・524は青磁の碗、525～527は白磁で、525は碗、526・527は皿である。528は瓦の平瓦である。

第Ⅳ章 ⅢB区

1. ⅢB-4区

(1) 調査区の概要と基本層序

① 調査区の概要

調査第ⅢB-4区は調査前は水田として利用されており、面積は1,914 m²である。調査区は中央を東西に流れる農業用用水路と、南北の水田畦畔によってⅢB-4-1～7の調査区に区切られている。遺構は調査区全体で検出されており、掘立柱建物跡10棟、柵列10列、土坑70基、溝70条、暗渠4条、井戸1基、多数の柱穴が確認された。

② 基本層序(図4-1・2)

調査区北壁で認められた基本層序は以下のとおりである。

ⅢB-4-1区

第Ⅰ層 小礫が多く混じる褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト層(耕作土)

第Ⅱ層 黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト層

第Ⅲ層 小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト層

第Ⅳ層 暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト層(地山)

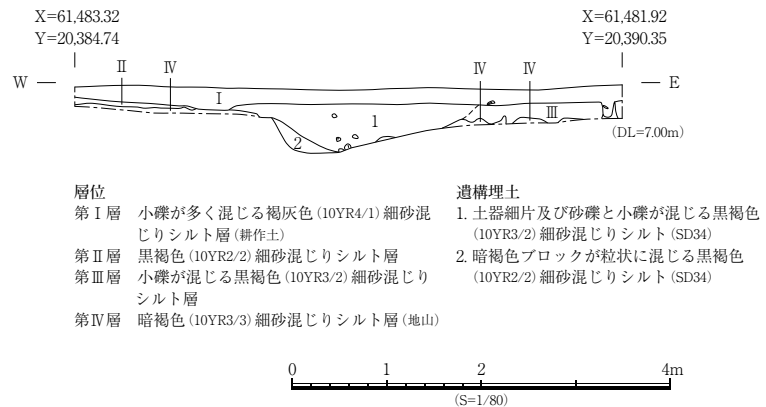


図4-1 ⅢB-4-1区北壁セクション図

ⅢB-4-2区

第Ⅰ層 褐灰色(10YR4/1)シルト層(耕作土)

第Ⅱ層 土器細片及び小礫と黄褐色(10YR5/6)ブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト層

第Ⅲ層 小礫が混じる褐色(10YR4/4)シルト層(地山)

ⅢB-4-3区

第Ⅰ層 褐灰色(10YR4/1)シルト層(耕作土)

第Ⅱ層 黒褐色(7.5YR3/1)シルト層

第Ⅲ層 土器細片及び暗褐色(7.5YR3/3)シルトが若干混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト層

第Ⅳ層 砂礫が混じる暗褐色(7.5YR3/3)細砂混じりシルト層(地山)

ⅢB-4-4区

第Ⅰ層 小礫が混じる褐灰色(10YR4/1)シルト層(耕作土)

第Ⅰ'層 灰褐色(7.5YR4/2)シルト層

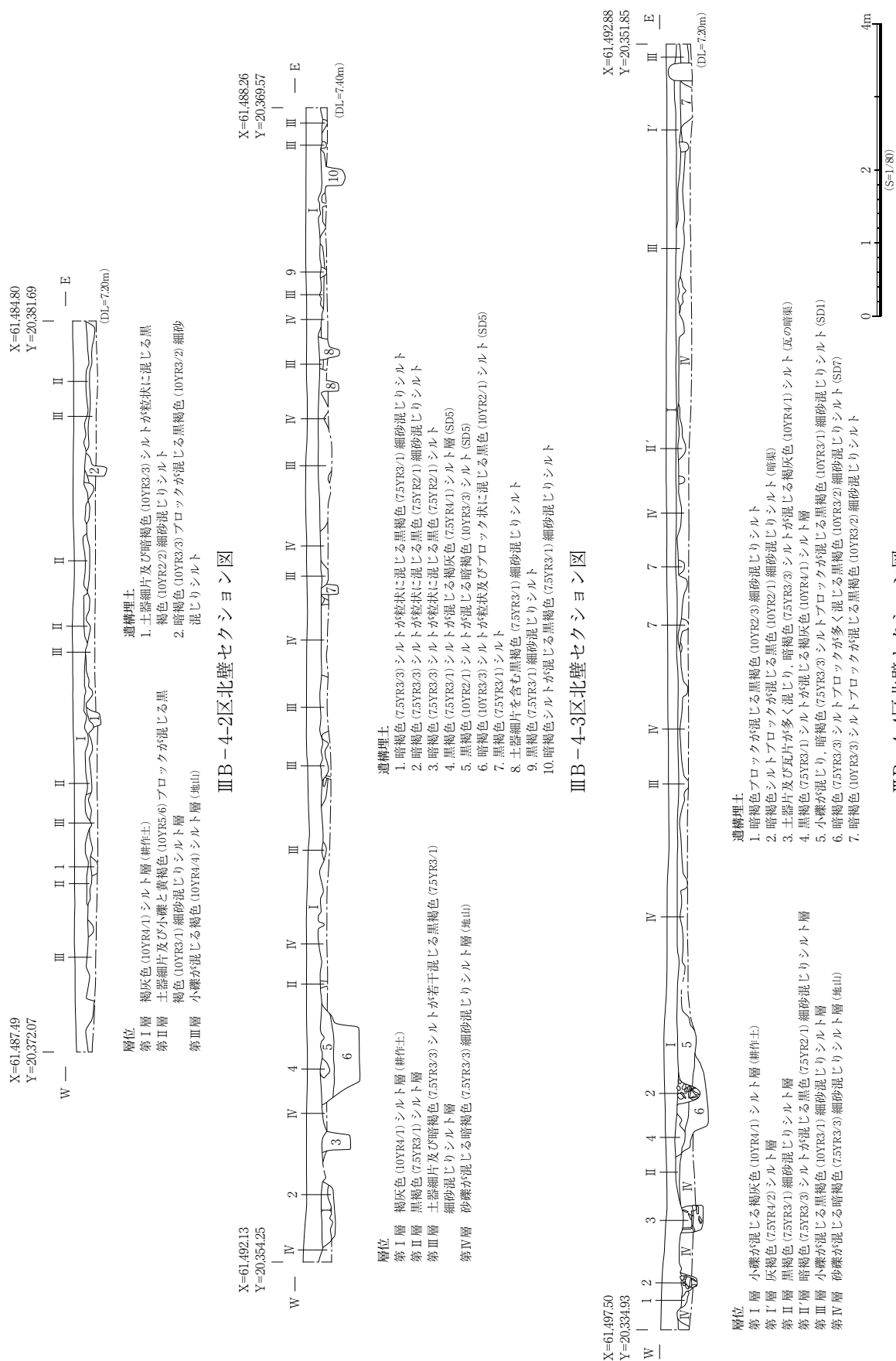


図4-2 調査区北壁セクション図

第Ⅱ層 黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト層

第Ⅱ'層 暗褐色(7.5YR3/3)シルトが混じる黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト層

第Ⅲ層 小礫が混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト層

第Ⅳ層 砂礫が混じる暗褐色(7.5YR3/3)細砂混じりシルト層(地山)

(2) 検出遺構と遺物

① 掘立柱建物跡

SB26(図4-3・4)

桁行2間(3.9m)、梁行1間(1.8m)の東西棟で方位はN-88°-Wである。柱穴間は平側で1.5~2.4m、妻側で1.7~1.8mで、柱筋道りはあまり良くない。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径25~40cm、深さ10~50cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は1の手づくね小皿、土師質土器、瓦質土器が出土している。

SB27(図4-5・6)

桁行1間以上(1.8m以上)、梁行2間(3.9m)の棟で方位はN-85°-Wである。柱穴間は平側で1.5~1.6m、妻側で1.8~2.2mで、柱筋道りはあまり良くない。柱穴の掘方は円形及び隅丸方形を呈し、径30~45cm、深さ25~45cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は2・3の手づくね皿、土師質土器、瓦質土器、鉄?が出土している。

SB28(図4-5・6)

桁行2間(3.5m)、梁行1間(1.6m)の東西棟で方位は真北である。柱穴間は平側で1.6~1.8m、妻側で1.6~1.7mで、柱筋道りはあまり良くない。柱穴の掘方は楕円形を呈し、径30~35cm、深さ15~50cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器、4の瓦質鍋、瓦質土器が出土している。

SB29(図4-7)

桁行3間(4.2m)、梁行1間(2.8m)の南北棟で方位はN-7°-Eである。柱穴間は平側で1.0~1.6m、妻側で2.8mで、柱筋道りはあまり良くない。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径20~35cm、深さ15~60cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物はみられない。

SB30(図4-8)

桁行2間以上(4.4m以上)、梁行1間以上の棟で方位はN-85°-Wである。柱穴間は平側で1.9~2.5mで、柱筋道りは良い。柱穴の掘方は円形を呈し、径20~35cm、深さ10~50cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物はみられない。

SB31(図4-8)

桁行2間(4.3m)、梁行1間(2.8m)の南北棟で方位はN-6°-Eである。柱穴間は平側で1.7~2.7m、妻側で2.8mで、柱筋道りはあまり良くない。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径30~35cm、深さ15~45cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器、瓦質土器が出土している。

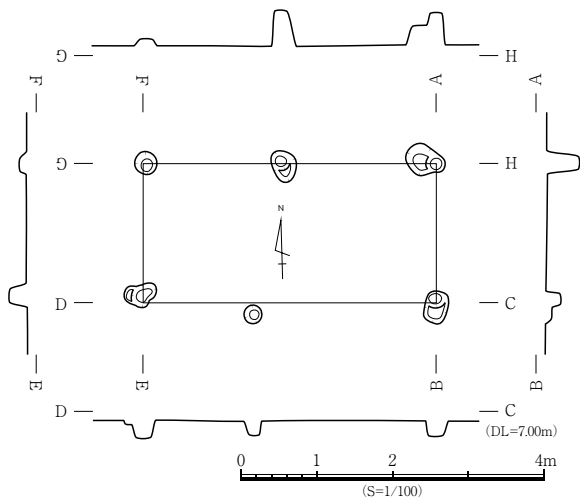


図4-3 SB26

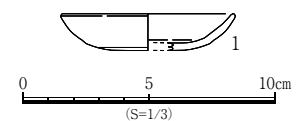


図4-4 SB26出土遺物実測図

SB32(図4-8)

桁行2間(3.3m), 梁行2間(2.6m)の東西棟で方位は真北である。柱穴間は平側で1.7~3.3m, 妻側で0.6~1.9mで, 柱筋道りはあまり良くない。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し, 径20~40cm, 深さ10~30cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで, 遺物は土師質土器, 瓦質土器が出土している。

SB33(図4-8・9)

桁行2間(4.2m), 梁行1間以上(1.6m以上)の棟で方位はN-87°-Wである。柱穴間は平側で1.1~1.6m, 妻側で2.0~2.1mで, 柱筋道りはあまり良くない。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し, 径30~40cm, 深さ20~40cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで, 遺物は須恵器, 5の手づくね皿, 土師質土器, 瓦質土器が出土している。

SB34(図4-10・11)

桁行2間(3.9m), 梁行1間(1.6m)の棟で方位はN-83°-Wである。柱穴間は平側で1.4m, 妻側で1.6mで, 柱筋道りはあまり良くない。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し, 径20~30cm, 深さ15~40cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで, 遺物は6の手づくね皿, 土師質土器が出土している。

SB35(図4-12)

桁行2間(2.0m), 梁行1間(1.2m)の南北棟で方位はN-10°-Eである。柱穴間は平側で0.7~1.4m, 妻側で1.2mで, 柱筋道りは良い。柱穴の掘方は楕円形を呈し, 径20~30cm, 深さ10~20cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで, 遺物はみられない。

② 柵列

SA11(図4-13)

調査区ⅢB-4-2SD29の東側に位置する。3穴, 2間分の柵列で

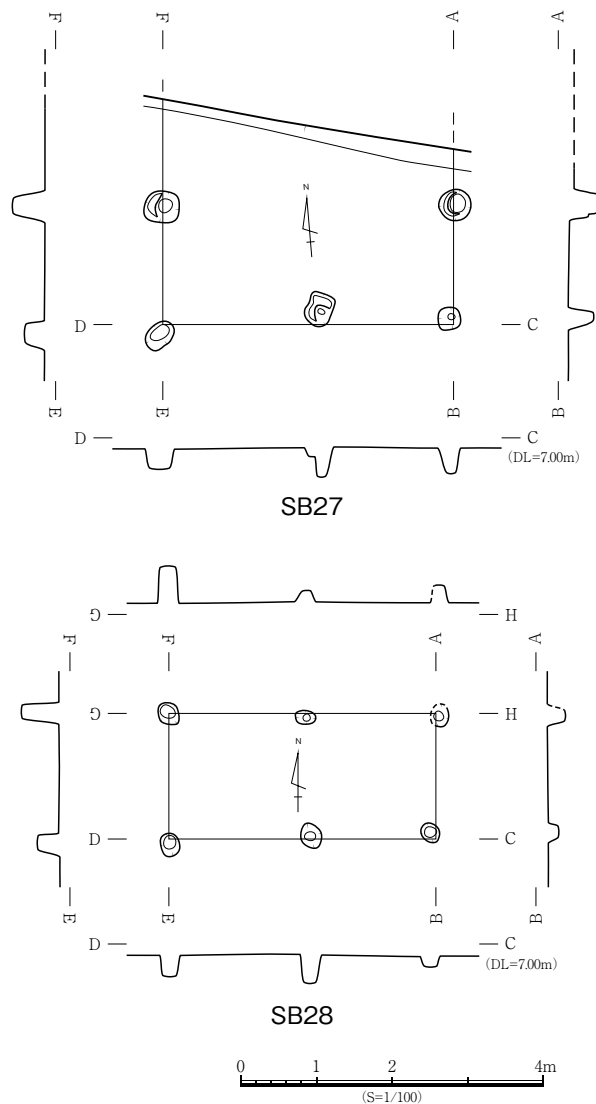


図4-5 SB27・28

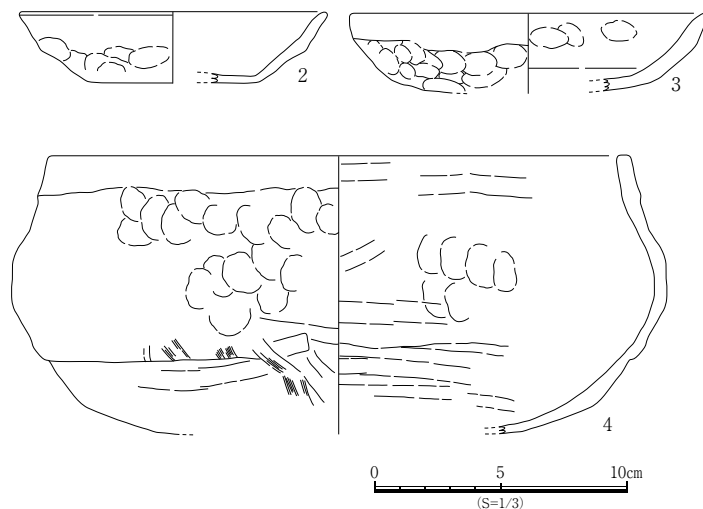


図4-6 SB27・28出土遺物実測図

ある。方位はN-2°-Eの方向を有する。柱穴間は1.6~1.8mで、掘方は楕円形を呈し、径20~40cm、深さ10~35cmを測る。遺物は土師質土器が出土している。

SA12(図4-13)

調査区ⅢB-4-2SD19の西側に位置する。3穴、2間分の柵列である。方位はN-5°-Eの方向を有する。柱穴間は1.4~1.7mで、掘方は円形及び楕円形を呈し、径20~25cm、深さ10~30cmを測る。遺物は土師質土器が出土している。

SA13(図4-13)

調査区ⅢB-4-3SD17の区画内に位置する。3穴、2間分の柵列である。方位はN-7°-Eの方向を有する。柱穴間は1.3~1.4mで、掘方は円形を呈し、径20~25cm、深さ15~30cmを測る。

SA14(図4-13)

調査区ⅢB-4-3SD5の西側に位置する。3穴、2間分の柵列である。方位はN-12°-Eの方向を有する。柱穴間は1.4~1.6mで、掘方は円形及び楕円形を呈し、径25~40cm、深さ20~30cmを測る。遺物は須恵器、土師質土器、瓦質土器が出土している。

SA15(図4-13)

調査区ⅢB-4-3SA14の西側に位置する。3穴、2間分の柵列である。方位はN-16°-Eの方向を有する。柱穴間は1.5~1.7mで、掘方は楕円形を呈し、径25~30cm、深さ20~25cmを測る。遺物は須恵器、土師質土器、鉄釘が出土している。

SA16(図4-13)

調査区ⅢB-4-4の北隅に位置する。3穴、2間分の柵列である。方位はN-84°-Wの方向を有する。柱穴間は1.8~1.9mで、掘方は円形を呈し、径20~25cm、深さ10~20cmを測る。遺物は土師質土器、鉄釘？が出土している。

SA17(図4-13)

調査区ⅢB-4-5SD33の北側に位置する。4穴、3間分の柵列である。方位はN-89°-Wの方向を有する。柱穴間は1.2~1.5mで、掘方は円形及び楕円形を呈し、径25~40cm、深さ5~45cmを測る。

SA18(図4-13)

調査区ⅢB-4-5の中央部に位置する。4穴、3間分の柵列である。方位はN-3°-Eの方向を有する。柱穴間は1.4~1.6mで、掘方は楕円形を呈し、径20~35cm、深さ10~25cmを測る。遺物は土師質土器が出土している。

SA19(図4-13)

調査区ⅢB-4-5SD56の東側に位置する。3穴、2間分の柵列である。方位はN-2°-Eの方向を有する。柱穴間は1.7~1.8mで、掘方は円形を呈し、径25cm、深さ20~40cmを測る。

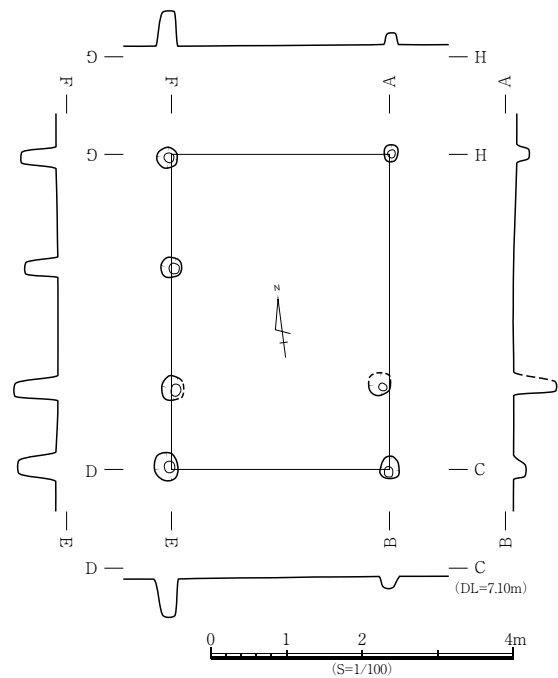


図4-7 SB29

1. ⅢB-4区 (2) 検出遺構と遺物

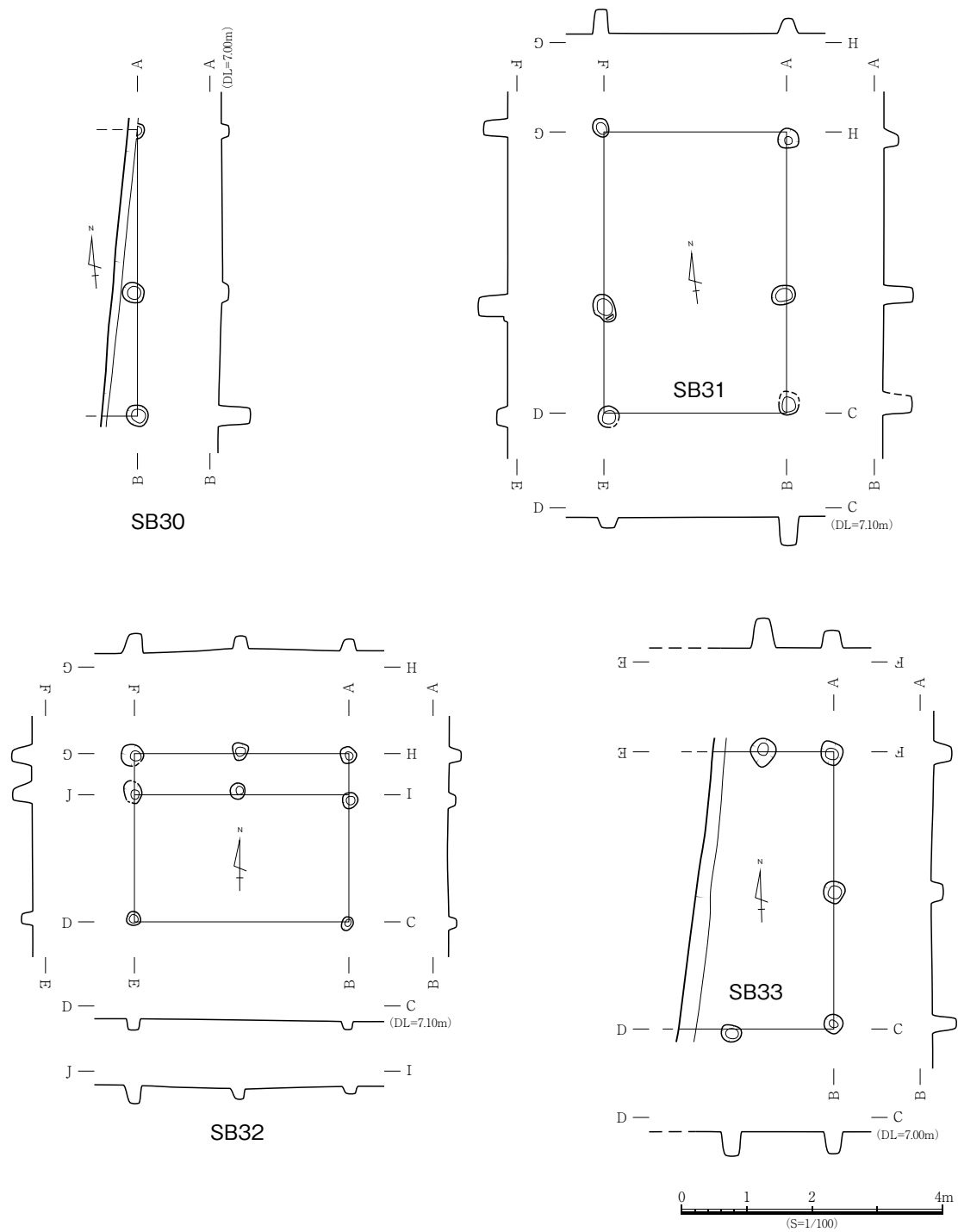


図4-8 SB30～33

SA20(図4-13)

調査区ⅢB-4-6SD48の東側に位置する。3穴、2間分の柵列である。方位はN-9°-Eの方向を有する。柱穴間は1.5～1.7mで、掘方は円形及び楕円形を呈し、径25～35cm、深さ5～30cmを測る。東西方向に続くピットが見られるので、SBの可能性も考えられる。

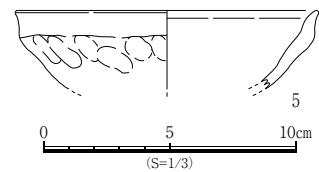


図4-9 SB33出土遺物実測図

③ 土坑

SK1

調査区ⅢB-4-4の北側に位置する土坑で、平面形は隅丸方形を呈し、長軸0.95 m、短軸0.94 m、深さ8.0 cmを測る。SB26のピットと切り合っており、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

SK2

調査区ⅢB-4-4の北側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸1.55 m、短軸0.95 m、深さ11.0 cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は須恵器、土師質土器、瓦質土器が出土している。

SK3

調査区ⅢB-4-3の北側に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸1.11 m、短軸1.04 m、深さ12.0 cmを測る。埋土は2 cm大の礫と褐灰色(10YR4/1)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器、瓦質土器が出土している。

SK4

調査区ⅢB-4-3の北側に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸0.96 m、短軸0.95 m、深さ5.0 cmを測る。埋土は褐灰色(10YR4/1)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)シルトで、遺物は炆器、土師質土器片が出土している。

SK5

調査区ⅢB-4-3の中央寄りに位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸0.82 m、短軸0.78 m、深さ4.0 cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

SK6

調査区ⅢB-4-3の中央寄りに位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸1.07 m、短軸0.90 m、深さ8.0 cmを測る。SD17を切っており、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器が出土している。

SK7

調査区ⅢB-4-3の北側に位置する土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸0.75 m、短軸0.62 m、深さ11.0 cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は青磁碗、土師質土器片が出土している。

SK8(図4-14)

調査区ⅢB-4-3の北側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.67 m、短軸1.48 m、深さ19.0 cmを測る。SB34のピットと切り合っており、埋土は暗褐色細砂混じりシルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器、瓦質土器が出土している。

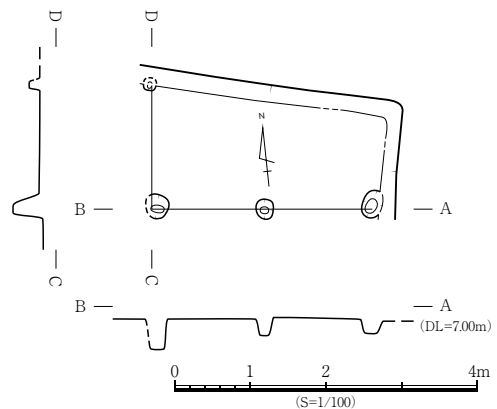


図4-10 SB34

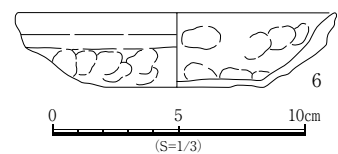


図4-11 SB34出土遺物実測図

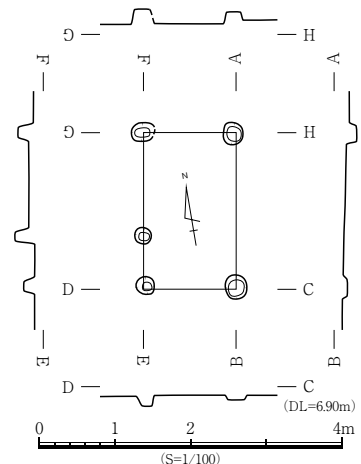


図4-12 SB35

1. ⅢB-4区 (2) 検出遺構と遺物

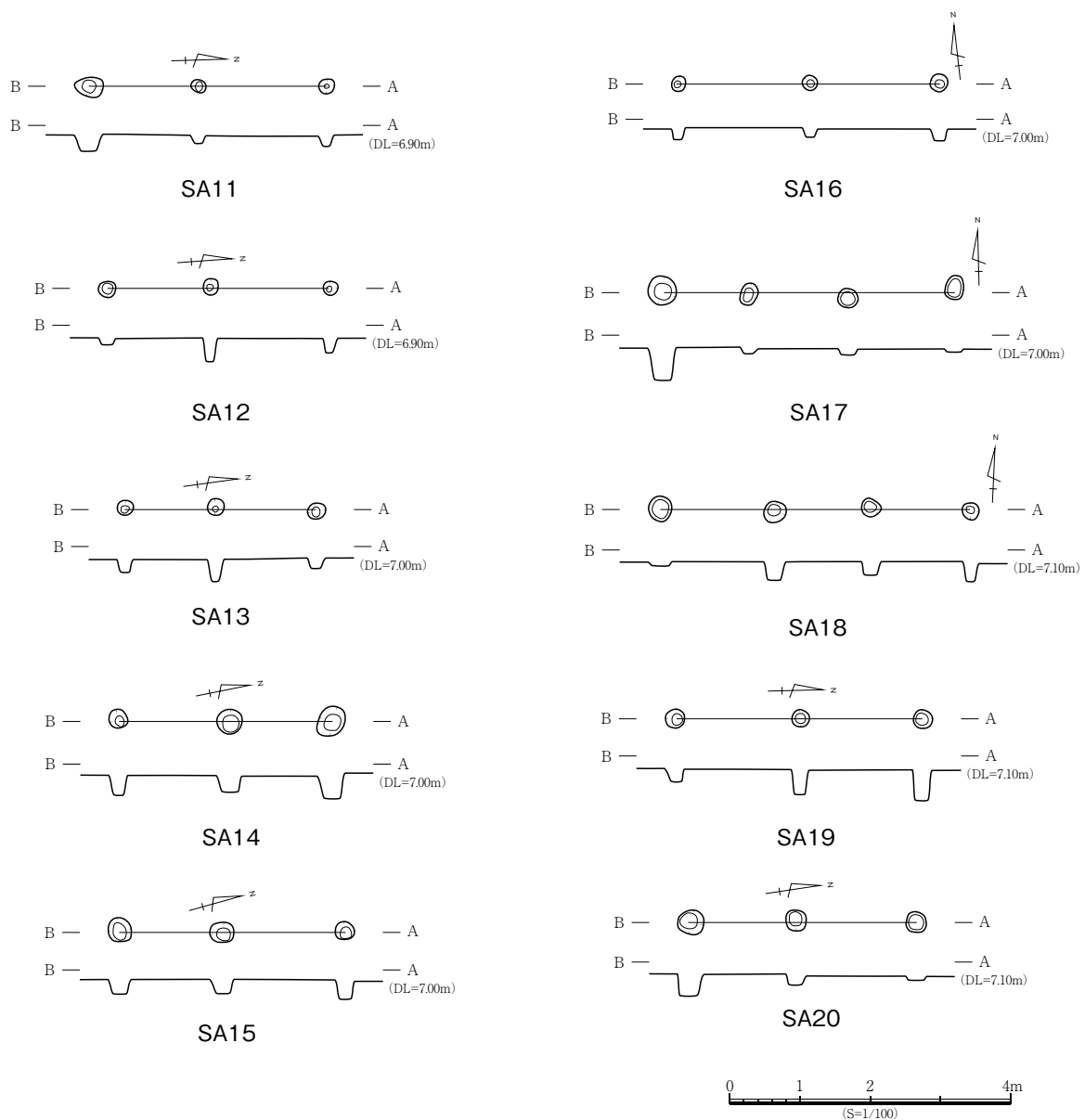


図4-13 SA11~20

SK9

調査区ⅢB-4-3区の北西側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸1.38 m、短軸0.95 m、深さ4.0cmを測る。調査区西壁に続き、SKでない可能性がある。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は須恵器甕、土師質土器片が出土している。

SK10(図4-14)

調査区ⅢB-4-3の南側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸0.91 m、短軸0.72 m、深さ27.5cmを測る。SD6の下より検出、SD6とピットに切られている。埋土は1層が黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト、2層が黒褐色シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト、3層が暗褐色シルトブロックが混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルトである。遺物は土師質土器片が出土している。

SK11(図4-14)

調査区ⅢB-4-4の中央に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸1.00m、短軸0.93m、深さ11.0cmを測る。ピットと切り合っており、埋土は明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトブロックを含む黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

SK12

調査区ⅢB-4-3の北側に位置する土坑で、平面形は不整長方形を呈し、長軸1.17m、短軸0.90m、深さ7.0cmを測る。SD17と切り合っている可能性があり、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

SK13

調査区ⅢB-4-3の北側に位置する土坑で、平面形は不整方形を呈し、長軸0.80m、短軸0.70m、深さ4.0cmを測る。SD17と切り合っており、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

SK14(図4-15)

調査区ⅢB-4-7の東寄りに位置する土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.43m、短軸0.98m、深さ6.0cmを測る。下層にはSD33があり、埋土は明黄褐色(10YR7/6)ハンダで、遺物はみられない。

SK15

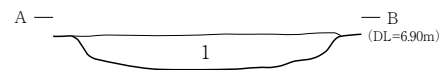
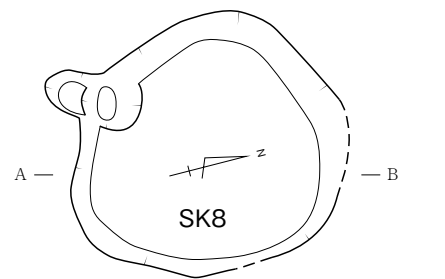
調査区ⅢB-4-2の中央に位置する土坑で、平面形は不整方形を呈し、長軸1.26m、短軸1.13m、深さ19.0cmを測る。SB35のピットと切り合っており、埋土は1層が10～15cm大の河原石が混じり、褐色(7.5YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト、2層が黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルトである。遺物は土師質土器、瓦質土器片が出土している。

SK16(図4-15)

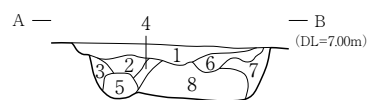
調査区ⅢB-4-7の中央に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.79m、深さ30.0cmを測る。SD32・39を切っており、埋土は橙色のハンダ粒が少量混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片、チャート、鉄釘が出土している。

SK17(図4-16・17)

調査区ⅢB-4-7の北西側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.35m、短軸1.08m、深さ37.0cmを測る。SD30を切る攪乱遺構で、SK18が

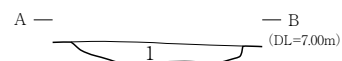
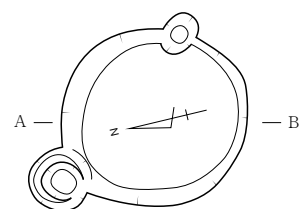


遺構埋土
1. 暗褐色シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト(SD6)
2. 黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルト(Pit)
3. 黒褐色シルトブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/3)細砂混じりシルト(Pit)
4. 黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(Pit)
5. 黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト(Pit)
6. 黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト(SK10)
7. 黒褐色シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト(SK10)
8. 暗褐色シルトブロックが混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト(SK10)

SK10



遺構埋土
1. 明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルトブロックを含む黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト

SK11

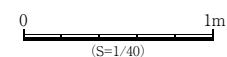


図4-14 SK8・10・11

隣接している。埋土は5cm大の礫が混じるにぶい黄褐色(10YR4/3)シルトで、遺物は瓦質土器、7の染付碗、平瓦、SK17・18埋土から8の軒丸瓦が出土している。

SK18(図4-17)

調査区ⅢB-4-7の北西側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.36m、短軸1.06m、深さ26.0cmを測る。SD30を切る攪乱遺構で、SK17が隣接している。埋土は地山ブロックが少量混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器片、9の丸瓦、10・11の平瓦が出土している。

SK19

調査区ⅢB-4-2の北側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.23m、短軸0.80m、深さ16.0cmを測る。SK20を切る二段堀で、埋土は1層が土器片及び褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト、2層が黒褐色(7.5YR3/1)シルトが粒状に混じる褐色(10YR4/4)シルトである。遺物は須恵器、土師質土器、瓦質土器片、河原石、鉄釘?が出土している。

SK20

調査区ⅢB-4-2の北側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸0.75m、短軸0.50m、深さ16.0cmを測る。SK19に切られており、埋土は褐色(7.5YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器、瓦質土器片が出土している。

SK21(図4-18・19)

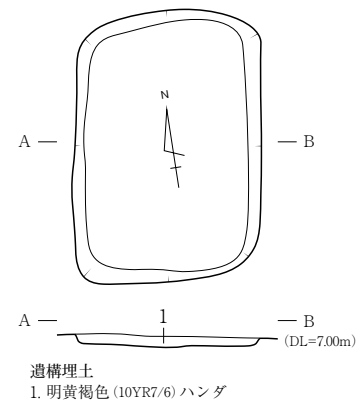
調査区ⅢB-4-2の北側に位置する土坑で、平面形は不整円形を呈し、長軸1.43m、短軸1.23m、深さ24.0cmを測る。ピットと切り合っており、埋土は土器片及び褐色(10YR4/4)シルトが粒状に混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は12・13の手づくね皿、土師質土器、瓦質土器、鉄釘?が出土している。

SK22

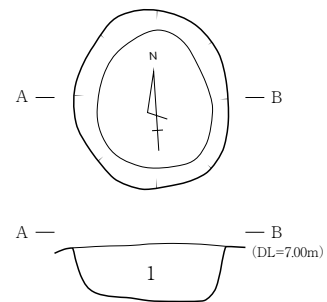
調査区ⅢB-4-4の南西隅に位置する土坑で、平面形は楕円形?を呈し、長軸1.41m、短軸1.22m、深さ41.0cmを測る。調査区西壁に続いており、埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器が出土している。

SK23

調査区ⅢB-4-2の西側に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸0.65m、短軸0.54m、深さ20.0cmを測る。SD19に切られており、SDの底より検出。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器片が出土している。



SK14



遺構埋土
1. 明黄褐色(10YR7/6)ハンダ

SK16

0 1m
(S=1/40)

図4-15 SK14・16

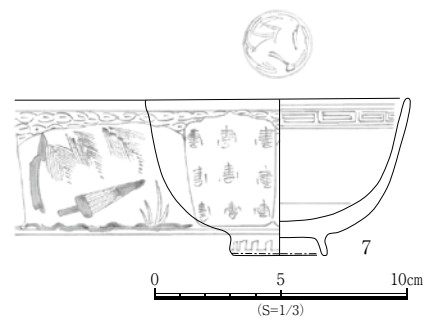


図4-16 SK17出土遺物実測図

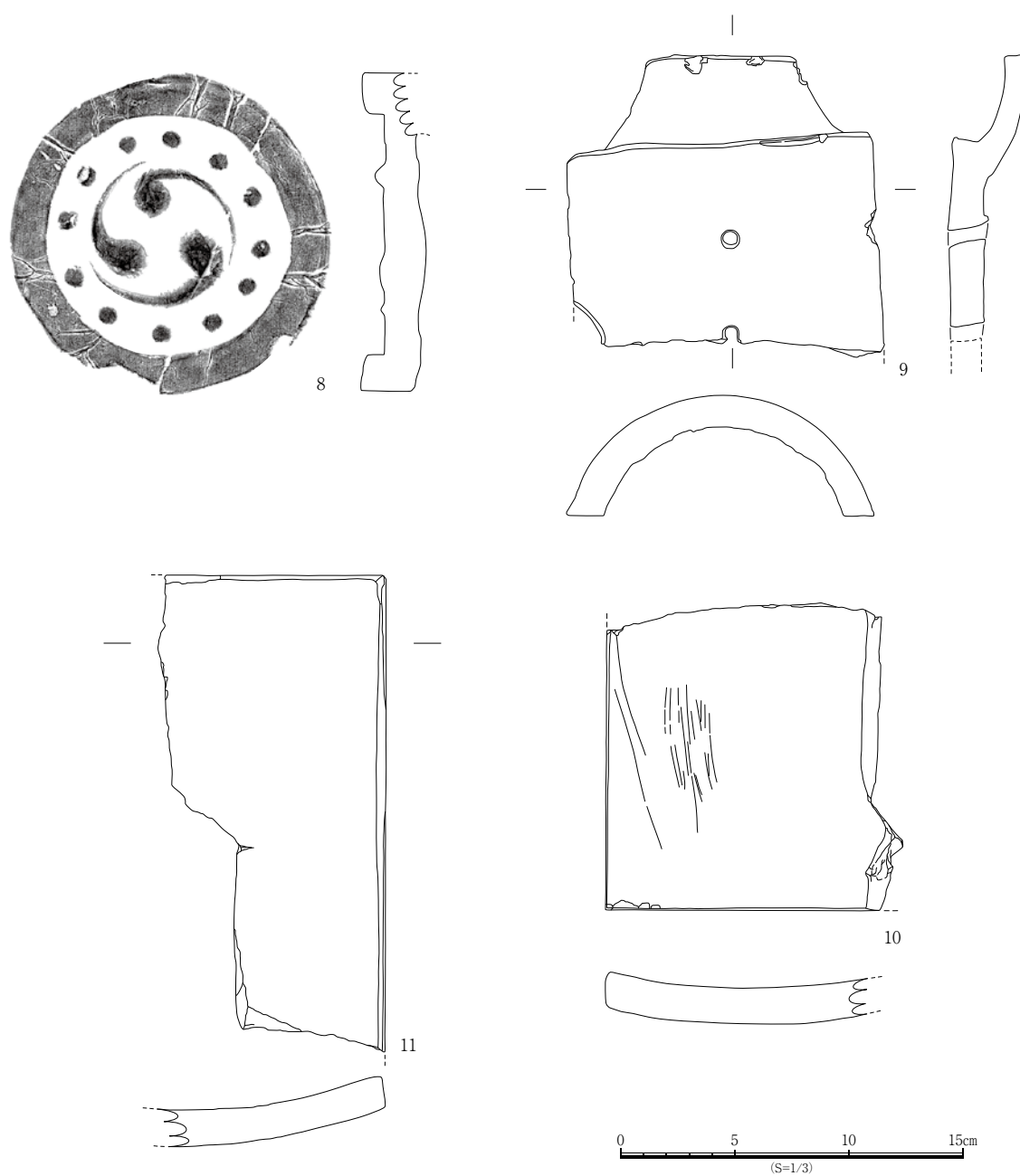


図4-17 SK17・18出土遺物実測図

SK24(図4-20)

調査区ⅢB-4-7の南東側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸2.96m、短軸2.02m、深さ15.0cmを測る。二段堀の可能性があり、埋土は1層が黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト、2層が暗褐色(10YR3/4)細砂混じりシルトである。遺物は土師質土器片、瓦質土器が出土している。

SK25(図4-21・22)

調査区ⅢB-4-7の東側に位置する土坑で、平面形は不整円形を呈し、長軸2.81m、短軸2.65m、深さ35.0cmを測る。SK28とSD37を切っており、埋土は1層が黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト、2層が暗褐色(7.5YR3/4)シルトが混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト、3層が黒褐色(7.5YR2/2)細

砂混じりシルトである。遺物は須恵器, 14の土師質鍋, 土師質土器が出土している。

SK26

調査区ⅢB-4-7の南東隅に位置する土坑で, 平面形は不明。長軸, 短軸共に不明で, 深さ8.0cmを測る。調査区外に続いており, 埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで, 遺物は土師質土器片, 瓦質土器が出土している。

SK27

調査区ⅢB-4-7の南東側に位置する土坑で, 平面形は楕円形を呈し, 長軸1.55m, 短軸1.21m, 深さ11.0cmを測る。調査区東壁に続いており, 埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで, 遺物は土師質土器, 瓦質土器片が出土している。

SK28(図4-21・23)

調査区ⅢB-4-7の東側に位置する土坑で, 平面形は不整円形を呈し, 長軸1.27m, 短軸0.96m, 深さ24.0cmを測る。SK25に切られており, 埋土は1層が暗褐色(7.5YR3/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト, 2層が暗褐色(7.5YR3/4)シルトが混じる黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトで, 遺物は土師質土器, 15の瓦質鍋が出土している。

SK29

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で, 平面形は不整楕円形を呈し, 長軸2.05m, 短軸1.16m, 深さ10.0cmを測る。ピットと切り合っており, 埋土は黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルトで, 遺物は土師質土器片, 瓦質土器が出土している。

SK30(図4-24)

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で, 平面形は円形を呈し, 長軸0.87m, 短軸0.84m, 深さ47.0cmを測る。埋土は1~7cm大の礫が数個混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルトで, 遺物は須恵器, 土師質土器, 瓦質土器が出土している。

SK31

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で, 平面形は円形を呈し, 長軸0.86m, 短軸0.76m, 深さ5.0cmを測る。ピットと切り合っており, 埋土は黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルトで, 遺物は土師質土器片, 瓦質土器が出土している。

SK32(図4-24)

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で, 平面形は円形を呈し, 長軸0.90m, 短軸0.86m, 深さ31.0cmを測る。埋土は2~6cm大の礫が数個混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで, 遺物は土師器, 土師質土器片, 瓦質土器片が出土している。

SK33

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で, 平面形は不整円形を呈し, 長軸0.95m, 短軸0.74m, 深さ20.0cmを測る。ピットと切り合っており, 埋土は1~3cm大の礫が数個混じる黒褐色(7.5YR2/2)

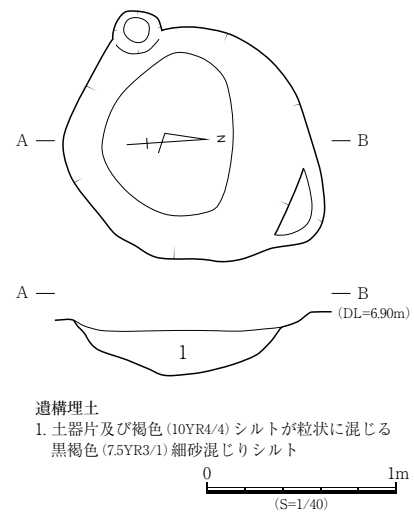


図4-18 SK21

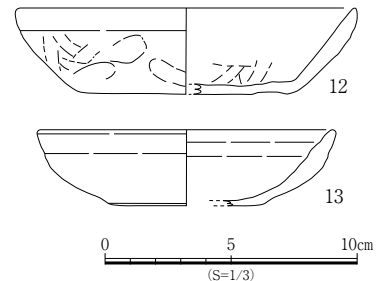


図4-19 SK21出土遺物実測図

細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片、河原石が出土している。

SK34(図4-24)

調査区ⅢB-4-5の南側に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸0.74m、短軸0.66m、深さ39.0cmを測る。埋土は明褐色細砂混じりシルトブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルトで、下層に1~6cm大の礫が帯状に入る。遺物は土師器片、土師質土器片、瓦質土器片が出土している。

SK35(図4-25)

調査区ⅢB-4-5の西端に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸2.21m、短軸は不明、深さ36.0cmを測る。調査区西壁に続いており、埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器、瓦質土器片、備前焼が出土している。

SK36

調査区ⅢB-4-5の南端に位置する土坑で、平面形は不明、長軸1.30m、短軸不明、深さ8.0cmを測る。調査区南壁に続いており、埋土は黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は須恵器、土師質土器片が出土している。

SK37

調査区ⅢB-4-5の西端に位置する土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸1.07m、短軸不明、深さ13.0cmを測る。調査区西壁に続いており、埋土は極暗褐色(7.5YR2/3)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

SK38

調査区ⅢB-4-6の西端に位置する土坑で、平面形は不明、長軸不明、短軸1.00m、深さ10.0cmを測る。調査区西壁に続き、SD47・SK41と繋がる可能性がある。埋土は褐色(7.5YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

SK39

調査区ⅢB-4-6の南側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.90m、短軸1.03m、深さ13.5cmを測る。SK70を切っており、埋土は褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器、瓦質土器片が出土している。

SK40(図4-26)

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸1.15m、短軸1.09m、深さ19.0cmを測る。ピットを切っており、埋土は黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

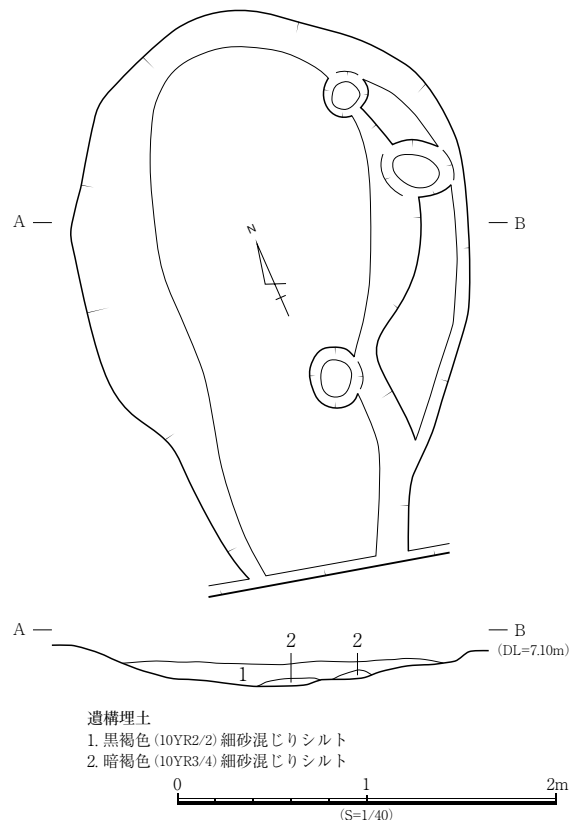


図4-20 SK24

SK41

調査区ⅢB-4-6の北側に位置する土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸3.14m、短軸0.78m、深さ13.0cmを測る。SD47・SK38と繋がる可能性がある。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は瓦質土器が出土している。

SK42(図4-27)

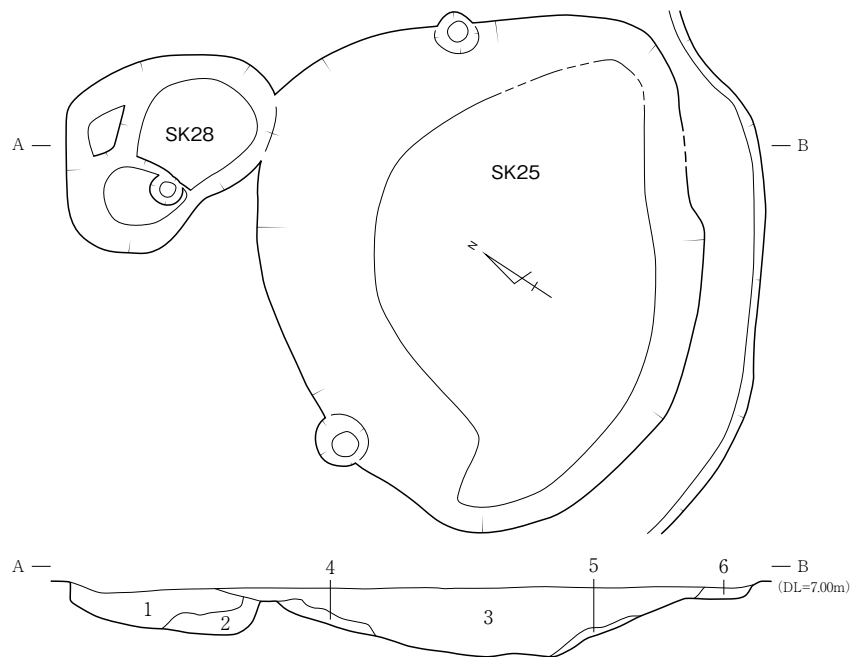
調査区ⅢB-4-5の中央に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸0.98m、短軸0.90m、深さ9.0cmを測る。ピットと切り合っており、埋土は黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片、土錘が出土している。

SK43(図4-28・29)

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で、平面形は方形を呈し、東西1.82m、南北1.67m、深さ53.0cmを測る。底面には瓦片が集中し、床直上には薄い砂層、SK44との連結式土坑と考えられる。埋土は1層が黄色(2.5Y8/6)ハンダ片及び炭化物が混じる黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト、2層が橙色(7.5YR6/8)ハンダ、3層が黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト及び炭化物が混じる橙色(7.5YR6/8)ハンダである。遺物は瓦質土器片、石製品、近世陶磁器、16の軒丸瓦、17の軒平左棧瓦が出土している。

SK44(図4-29)

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で、平面形は方形を呈し、東西1.50m、南北1.73m、深さ



遺構埋土

1. 暗褐色(7.5YR3/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト(SK28)
2. 暗褐色(7.5YR3/4)シルトが混じる黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト(SK28)
3. 黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト(SK25)
4. 暗褐色(7.5YR3/4)シルトが混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト(SK25)
5. 黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルト(SK25)
6. 暗褐色(7.5YR3/4)細砂混じりシルト(SD37)

図4-21 SK25・28

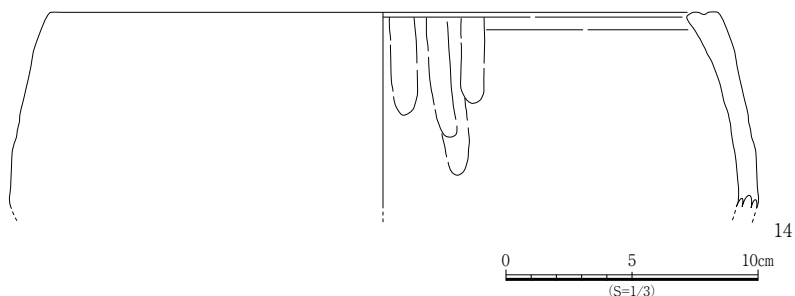


図4-22 SK25出土遺物実測図

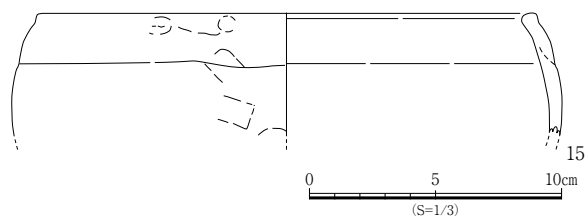


図4-23 SK28出土遺物実測図

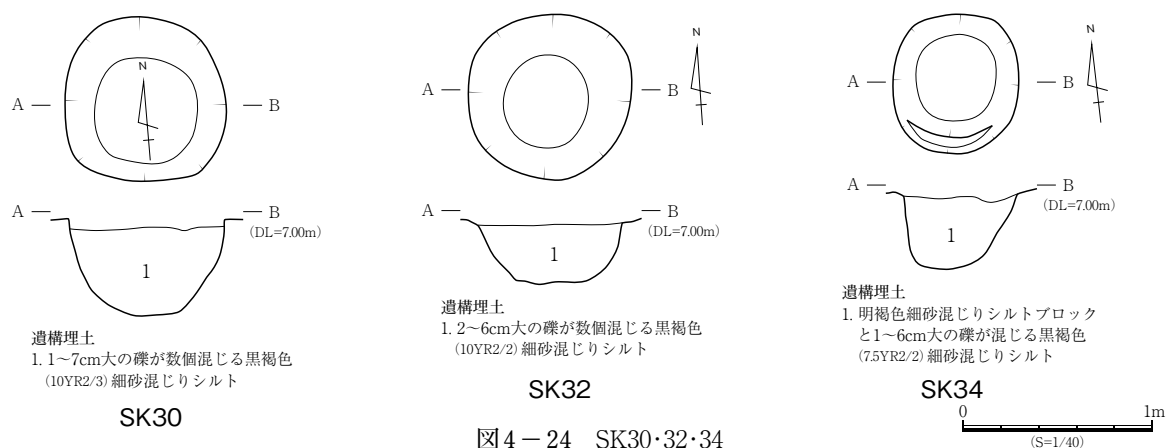


図4-24 SK30・32・34

53.0 ~ 56.0 cmを測る。SK43 との連結式土坑と
考えられる。埋土は1層が拳大の礫が少量混じ
る黄橙色(10YR8/6) 及び明黄褐色(10YR6/6) ハ
ンダ, 2層が明赤褐色(5YR5/8)ハンダ, 3層が砂
層である。遺物は瓦が出土している。

SK45

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で,
平面形は不整形方形を呈し, 長軸1.33 m, 短軸0.72
m, 深さ5.0 cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)
細砂混じりシルトで, 遺物は土師質土器片, 瓦
質土器片が出土している。

SK46(図4-29)

調査区ⅢB-4-5の中央に位置する土坑で,
平面形は円形を呈し, 長軸0.68 m, 短軸0.65 m,
深さ48.0 cmを測る。ピットと切り合っており,
埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで,
遺物は陶器片, 土師質土器片, 瓦質土器片が出
土している。

SK47(図4-29)

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で, 平面形は円形
を呈し, 長軸0.90 m, 短軸0.73 m, 深さ33.0cmを測る。埋土は褐
色細砂混じりシルトが混じる黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシル
トで, 下層に1~5 cm大の礫が帯状に入る。遺物は土師質土器,
瓦質土器片が出土している。

SK48(図4-29・30)

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で, 平面形は円形
を呈し, 長軸0.88 m, 短軸0.85 m, 深さ35.0cmを測る。SK68 と

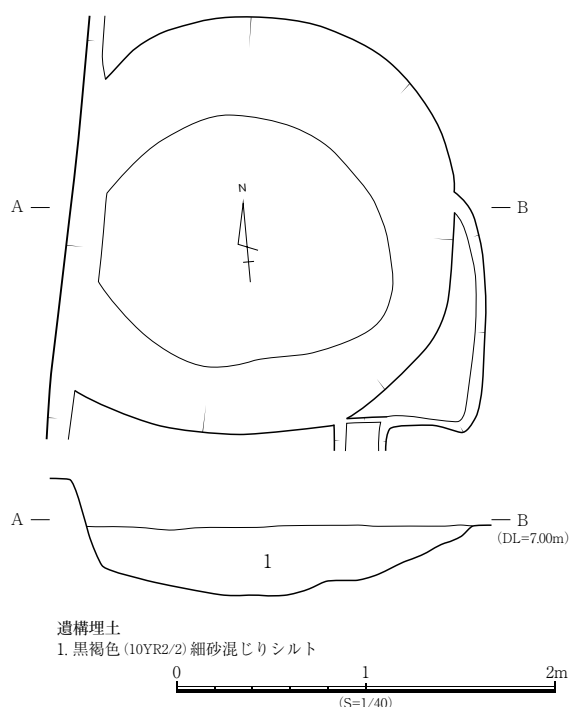


図4-25 SK35

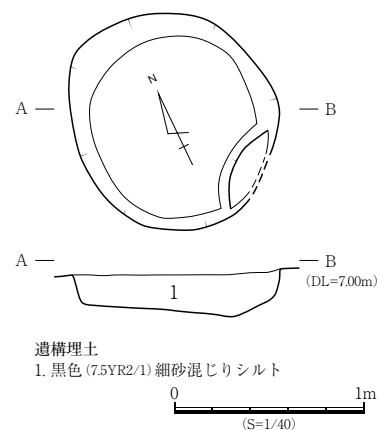


図4-26 SK40

隣接しており、埋土は1層が褐色細砂混じりシルトが混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト、2層が褐色細砂混じりシルトが混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルトである。遺物は土師質土器、18・19の土錘、SK48・68の埋土から20の東播系須恵器片口鉢が出土している。

SK49

調査区ⅢB-4-5の南側に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸1.41m、短軸1.12m、深さ20.0cmを測る。ピットと切り合っており、埋土は黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトで、遺物は備前焼、土師質土器、瓦質土器、鉄釘が出土している。

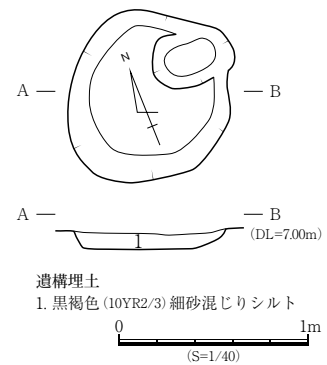


図4-27 SK42

SK50(図4-31)

調査区ⅢB-4-5の中央に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸1.05m、短軸0.85m、深さ15.0cmを測る。埋土は1～8cm大の礫が数個混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器、瓦質土器片が出土している。

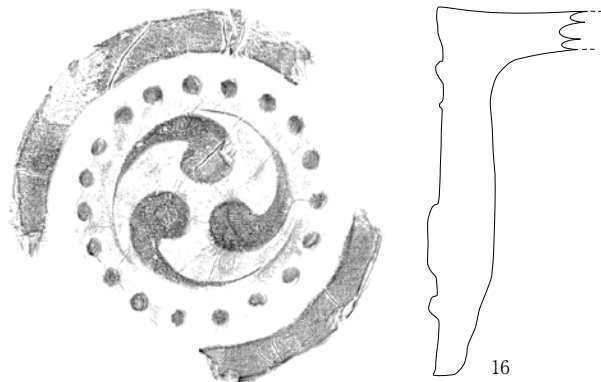
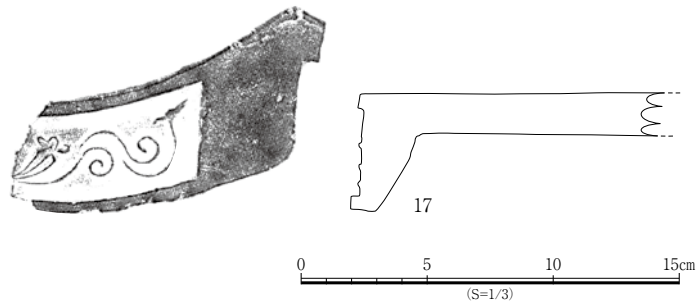


図4-28 SK43出土遺物実測図

SK51

調査区ⅢB-4-5の南側に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸1.06m、短軸0.86m、深さ15.0cmを測る。ピットと切り合っており、埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片が出土している。



SK52

調査区ⅢB-4-5の南側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸2.56m、短軸1.87m、深さ30.0cmを測る。ピットと切り合っており、埋土は褐色の極小ブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルトで、底に5～20cm大の礫が多く混じる。遺物は須恵器、備前焼、土師質土器、瓦質土器、鉄釘？が出土している。

SK53(図4-32)

調査区ⅢB-4-5の南側に位置する土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.35m、短軸0.84m、深さ22.0cmを測る。SD57と切り合っており、埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は土師器、21の土師質羽釜、土師質土器、22の瓦質羽釜、瓦質土器が出土している。

SK54(図4-33・34)

調査区ⅢB-4-5の中央に位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸1.43m、短軸1.08m、深さ20.0cmを測る。SK60・ピットと切り合っており、埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物

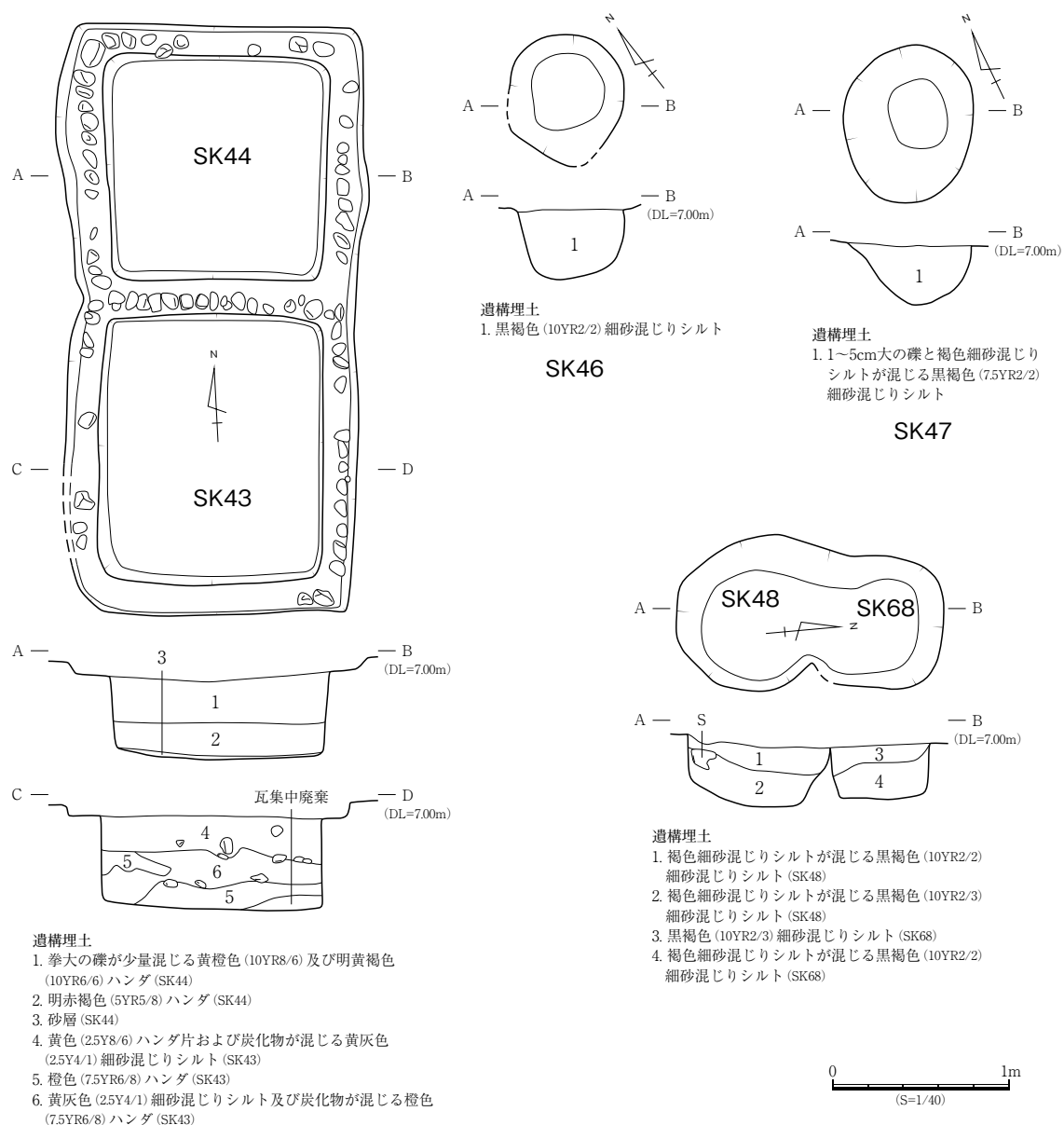


図4-29 SK43・44・46～48・68

はSK54・60の埋土から23の土師質皿が出土している。

SK55

調査区ⅢB-4-5の南端に位置する土坑で、平面形は円形？を呈し、長軸・短軸不明、深さ27.0cmを測る。調査区南壁に続き、埋土は地山ブロックを少量含む黒褐色 (7.5YR3/2) 細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

SK56 (図4-35)

調査区ⅢB-4-5の中央寄りに位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸不明、短軸0.80m、深さ19.0cmを測る。SKが切り合っている可能性がある。埋土はにぶ

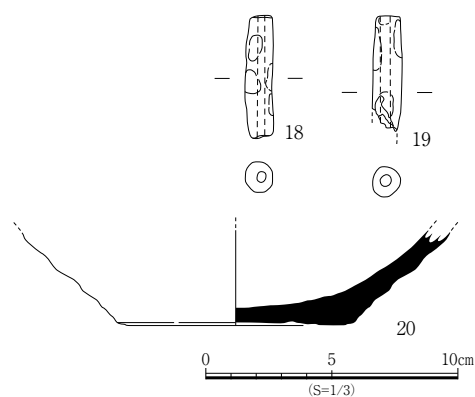


図4-30 SK48・68出土遺物実測図

い黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルトブロックが少量混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師器、土師質土器、瓦質土器が出土している。

SK57

調査区ⅢB-4-5の中央寄りに位置する土坑で、平面形は円形を呈し、長軸1.04m、短軸0.93m、深さ14.0cmを測る。埋土は1層が黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト、2層が黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。遺物は須恵器、土師質土器、瓦質土器片、焼石が出土している。

SK58

調査区ⅢB-4-5の北側に位置する土坑で、平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.48m、短軸0.54m、深さ26.0cmを測る。ピットと切り合っており、埋土は1層が黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルト、2層が暗褐色(7.5YR3/3)細砂混じりシルト、3層が黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルトである。遺物は土師質土器が出土している。

SK59(図4-36)

調査区ⅢB-4-6の西側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸0.57m、短軸0.45m、深さ3.0cmを測る。SD48に切られており、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は24の土師質土器皿が出土している。

SK60(図4-36)

調査区ⅢB-4-5の中央に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸1.50m、短軸1.13m、深さ6.0cmを測る。SK54と切り合っており、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は25の瓦質鍋が出土している。

SK61(図4-37)

調査区ⅢB-4-5の東側に位置する土坑で、平面形は不整円形を呈し、長軸1.63m、短軸0.70m、深さ40.0cmを測る。SD61を切っており、埋土は1層が3～10cm大の礫が多く混じる極暗褐色(7.5YR2/3)細砂混じりシルト、2層が極暗褐色(7.5YR2/3)細砂混じりシルトである。遺物は備前焼、土師質土器、瓦質土器、鉈、26の刀子が出土している。

SK62(図4-38)

調査区ⅢB-4-1の中央に位置する土坑で、平面形は不明、長軸・短軸不明、深さ15.0cmを測る。SDと切り合っており、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は27の摂津羽釜、土師質

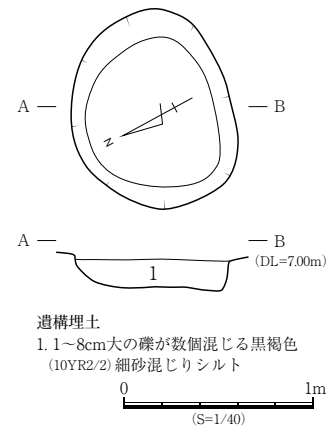


図4-31 SK50

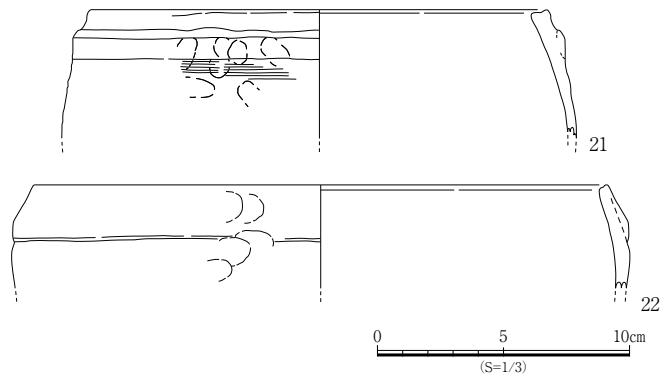


図4-32 SK53出土遺物実測図

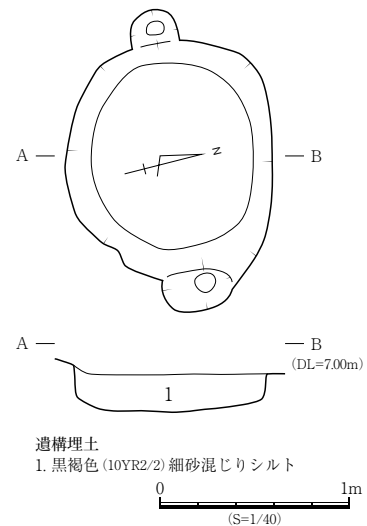


図4-33 SK54

土器片, 28の瓦質足付釜? が出土している。

SK63

調査区ⅢB-4-5の南側に位置する土坑で, 平面形は円形を呈し, 長軸0.75m, 短軸不明, 深さ47.0cmを測る。ピットと切り合っており, 埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルトで, 遺物は瓦器?, 土師質土器片が出土している。

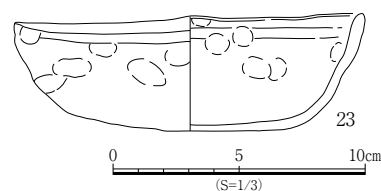


図4-34 SK54・60出土遺物実測図

SK64

調査区ⅢB-4-5の南側に位置する土坑で, 平面形は円形を呈し, 長軸 0.94 m, 短軸 0.75 m, 深さ 13.0 cmを測る。SK69と切り合っており, 埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルトで, 遺物は土師質土器, SK64・69の埋土から土師器, 磁器片, 瓦質土器片, 石製品が出土している。

SK65(図4-39)

調査区ⅢB-4-5の南側に位置する土坑で, 平面形は隅丸方形を呈し, 長軸1.02m, 短軸1.02m, 深さ8.0cmを測る。ピットと切り合っており, 埋土は1層が黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトが混じり, 黄色(2.5Y8/6)ハンダ片が少量混じるにぶい黄褐色(10YR5/3)細砂混じりシルト, 2層が黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。遺物は29の土師質小皿, 30の土師質土器羽釜, 土師質土器片, 31・32の瓦質羽釜, 瓦質土器, 焼石が出土している。

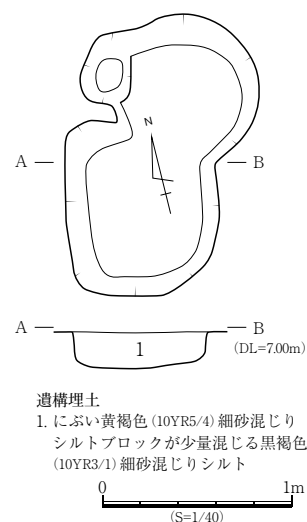


図4-35 SK56

SK66(図4-40)

調査区ⅢB-4-5の南東隅に位置する土坑で, 平面形は楕円形を呈し, 長軸不明, 短軸0.76m, 深さ8.0cmを測る。ピットと切り合っており, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで, 遺物は33の備前焼壺, 土師質土器, 34・35の瓦質鍋が出土している。

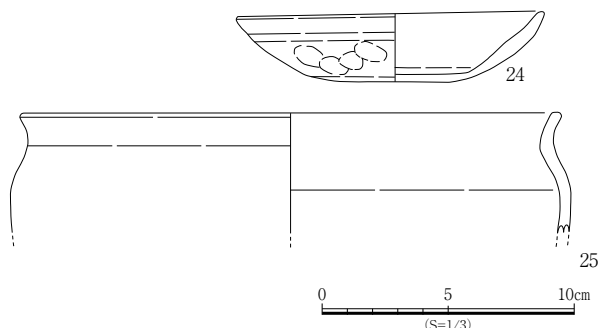


図4-36 SK59・60出土遺物実測図

SK67

調査区ⅢB-4-5の南東隅に位置する土坑で, 平面形は円形を呈し, 長軸0.55m, 短軸0.50m, 深さ6.0cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルトで, 遺物はみられない。

SK68(図4-29・30)

調査区ⅢB-4-5の西側に位置する土坑で, 平面形は円形? を呈し, 長軸不明, 短軸0.73m, 深さ38.0cmを測る。SK48と隣接しており, 埋土は1層が黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト, 2層が褐色細砂混じりシルトが混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトである。遺物はSK48・68の埋土から20の東播系須恵器片口鉢が出土している。

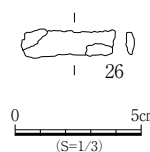


図4-37 SK61出土遺物実測図

SK69

調査区ⅢB-4-5の東側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸1.10m、短軸0.59m、深さ7.0cmを測る。SK64と切り合っており、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物はSK64・69の埋土から土師器、磁器片、瓦質土器片、石製品が出土している。

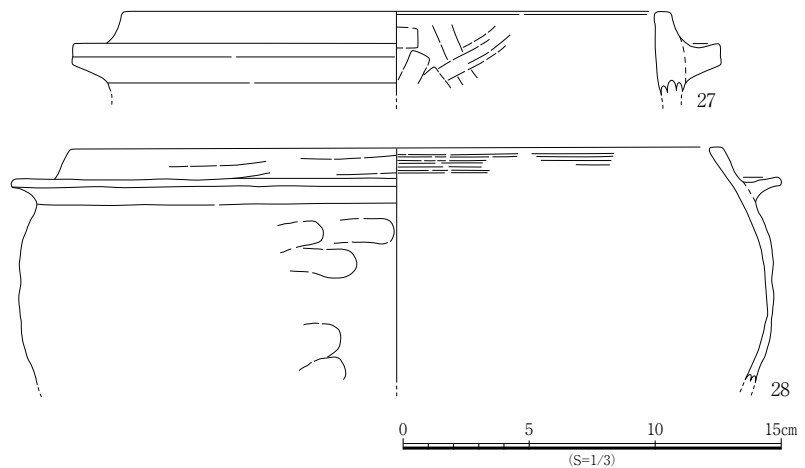


図4-38 SK62出土遺物実測図

SK70

調査区ⅢB-4-6の南側に位置する土坑で、平面形は不整形を呈し、長軸・短軸不明、深さ10.8cmを測る。SK39に切られており、埋土は1~2cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

④ 溝

SD1(図4-41)

調査区ⅢB-4-4の北端からL字状に東端へと延びる溝で、下面にSD3・7があり、北側は調査区外へ続き、東側はⅢB-4-3のSD6に繋がると考えられる。確認延長は26.0m、幅1.2~1.6m、深さ6.0~24.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は36の土師質土器杯が出土している。

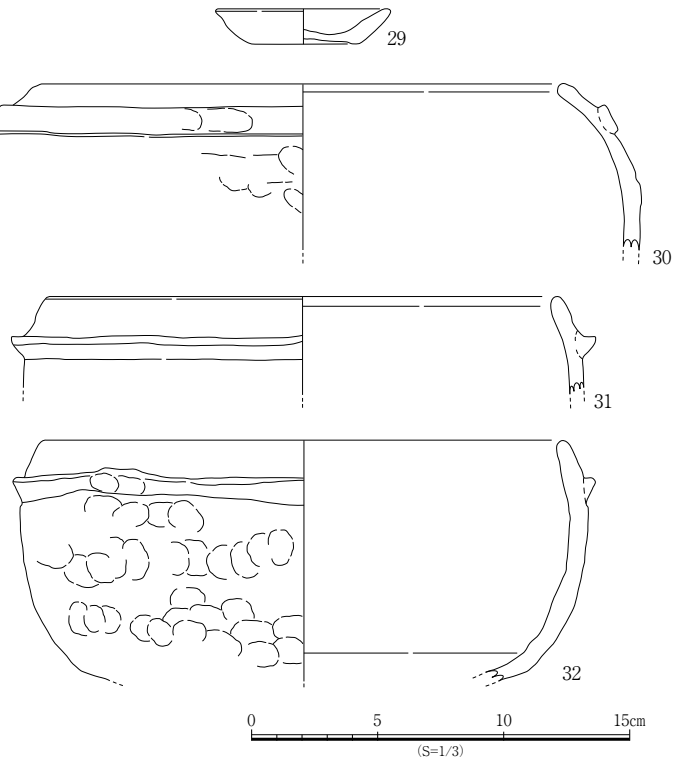


図4-39 SK65出土遺物実測図

SD2(図4-41)

調査区ⅢB-4-4の東西へと延びる溝で、確認延長は8.4m、幅0.7m、深さ24.0cmを測り、断面形態は舟底状~逆台形状を呈する。SD7・8と切り合っており、埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は37の土師質土器皿、38の土錘が出土している。

SD3

調査区ⅢB-4-4の東西へと延びる溝で、SD7に繋がる。確認延長は4.2m、幅0.6m、深さ10.0~15.0cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は

みられない。

SD4 (図4-42)

調査区ⅢB-4-4の調査区東壁に沿って南北へと延びる溝で、北側は調査区外へ続く。確認延長は12.4m、幅不明、深さ15.0cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は褐色(10YR4/4)細砂混じりシルトが混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は39の土師質土器杯、40の土師質土器皿が出土している。

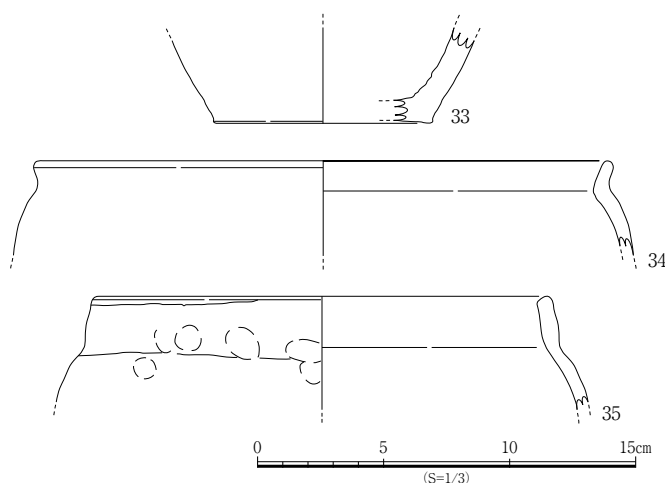


図4-40 SK66出土遺物実測図

SD5 (図4-43・45)

調査区ⅢB-4-3の南北へと延びる溝で、北側は調査区外へ続く。確認延長は16.3m、幅1.5m、深さ48.0～51.0cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は1層が黒色(10YR2/1)シルトが混じる暗褐色(10YR3/3)シルト、2層が黒褐色(10YR2/2)シルト、3層が黒褐色(10YR2/3)シルト、4層が黒色(10YR2/1)シルトである。遺物は上層から41の備前焼甕、42の土師質土器皿、中層から43の青磁碗、44の白磁皿、45の播磨型土師質鍋、46・47の土師質土器小皿、48～52土師質土器皿、53の砥石、底面から54の土師質土器杯、55の土師質土器小皿、各層から土師器、須恵器、白磁片、備前焼、陶器、土師質土器、瓦質土器、焼石、鉄製品？が出土している。

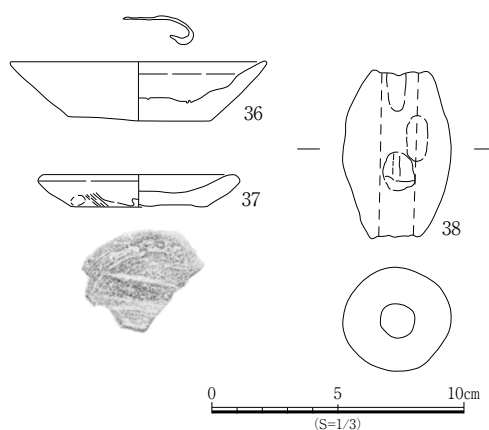


図4-41 SD1・2出土遺物実測図

SD6 (図4-44・45)

調査区ⅢB-4-3の東西へと延びる溝で、西側はⅢB-4-4のSD1と繋がり、東側は調査区間を南北へと延びる可能性がある。確認延長は15.8m、幅0.9m、深さ28.0cmを測り、断面形態は箱形を呈する。SD5を切っており、埋土は1層が黒褐色(10YR3/1)シルト、2層が黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。遺物は56の土師質土器皿、57の土師質羽釜、土師質土器、瓦質土器が出土し、SD6・10・11・15の検出面からは58の須恵器甕、青磁片、59の白磁皿、天目、備前焼、60の土師質土器皿、61の瓦質羽釜が出土している。

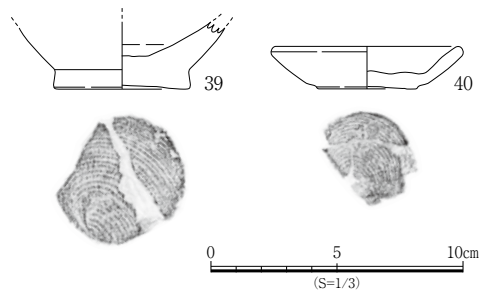


図4-42 SD4出土遺物実測図

SD7 (図4-46・47)

調査区ⅢB-4-4の北端からL字状に東端へと延びる溝で、上面にはSD1があり、北側は調査区外へ続き、東側はSD3へ繋がる。確認延長は19.5m、幅1.1m、深さ22.0cmを測り、断面形態は舟底状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は上層から62の土師質土器羽釜、中層

1. ⅢB-4区 (2) 検出遺構と遺物

から63の白磁碗, 64の瓦質鍋, 各層から須恵器, 備前焼, 土師質土器, 瓦質土器, 瓦?, 河原石, 金属製品? が出土している。

SD8(図4-47)

調査区ⅢB-4-4の東西へと延びる溝で, 西側はSD7と切り合っており, 東側はⅢB-4-3のSD10と繋がる。上面にSD1の埋土が流れ込んでいる。確認延長は12.5m, 幅1.9m, 深さ14.0cmを測り, 断面形態は浅い逆台形状を呈する。埋土は1層がにぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルトが混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト, 2層がにぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルトが混じる灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルトである。遺物は上層から65の瓦質鍋, 各層から土師器, 備前焼, 瀬戸焼, 土師質土器, 瓦質土器, 河原石が出土している。

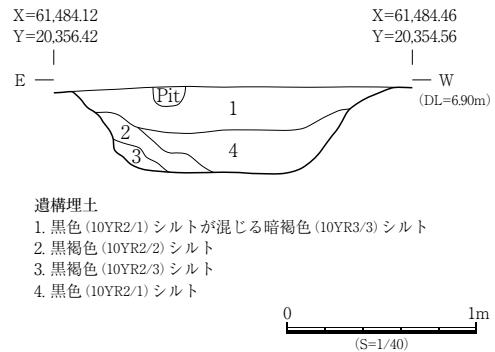


図4-43 SD5

SD9(図4-48)

調査区ⅢB-4-4の東西へと延びる溝で, 西側はSX1に切られており, 東側は調査区東壁へ続く。上面にSD1の埋土が流れ込んでいる。確認延長は10.5m, 幅0.5~1.5m, 深さ12.0~14.0cmを測り, 断面形態は浅い逆台形状を呈する。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトで, 遺物は須恵器, 陶器片, 土師質土器, 瓦質土器片が出土している。

SD10(図4-45・49・50)

調査区ⅢB-4-3のSD6と平行して東西へと延びる溝で, ⅢB-4-4のSD8に繋がる。確認延長は15.0m, 幅1.0m, 深さ20.0cmを測り, 断面形態は舟底状を呈する。埋土は1層が黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト, 2層が褐色シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)シルトである。遺物は中層から66の土師質小皿, 67の土師質皿, 各層から土師器片, 須恵器, 備前焼, 土師質土器, 瓦質土器が出土し, SD10・15の検出面からは68の瓦質足付釜, 69の瓦質羽釜が出土している。

SD11(図4-45・50)

調査区ⅢB-4-3・4の南壁に沿って東西へと延びる溝で, ⅢB-4-2のSD26に繋がる可能性がある。確認延長は26.5m, 幅不明, 深さ37.0cmを測り, 断面形態は逆台形状? を呈する。埋土は1層が土器片が混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト, 2層が褐色(7.5YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト, 遺物は須恵器, 備前焼, 70の土師質羽釜, 土師質土器, 瓦質土器, 砂岩, 金属製品? が出土している。

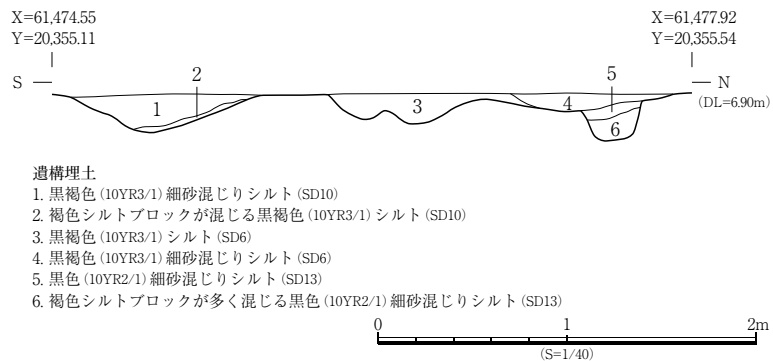


図4-44 SD6・10・13

SD12(図4-50)

調査区ⅢB-4-3の東西へと延びる溝で, 確認延長は3.3m, 幅0.8m, 深さ23.0~34.0cmを測り, 断面形態は逆台形を呈

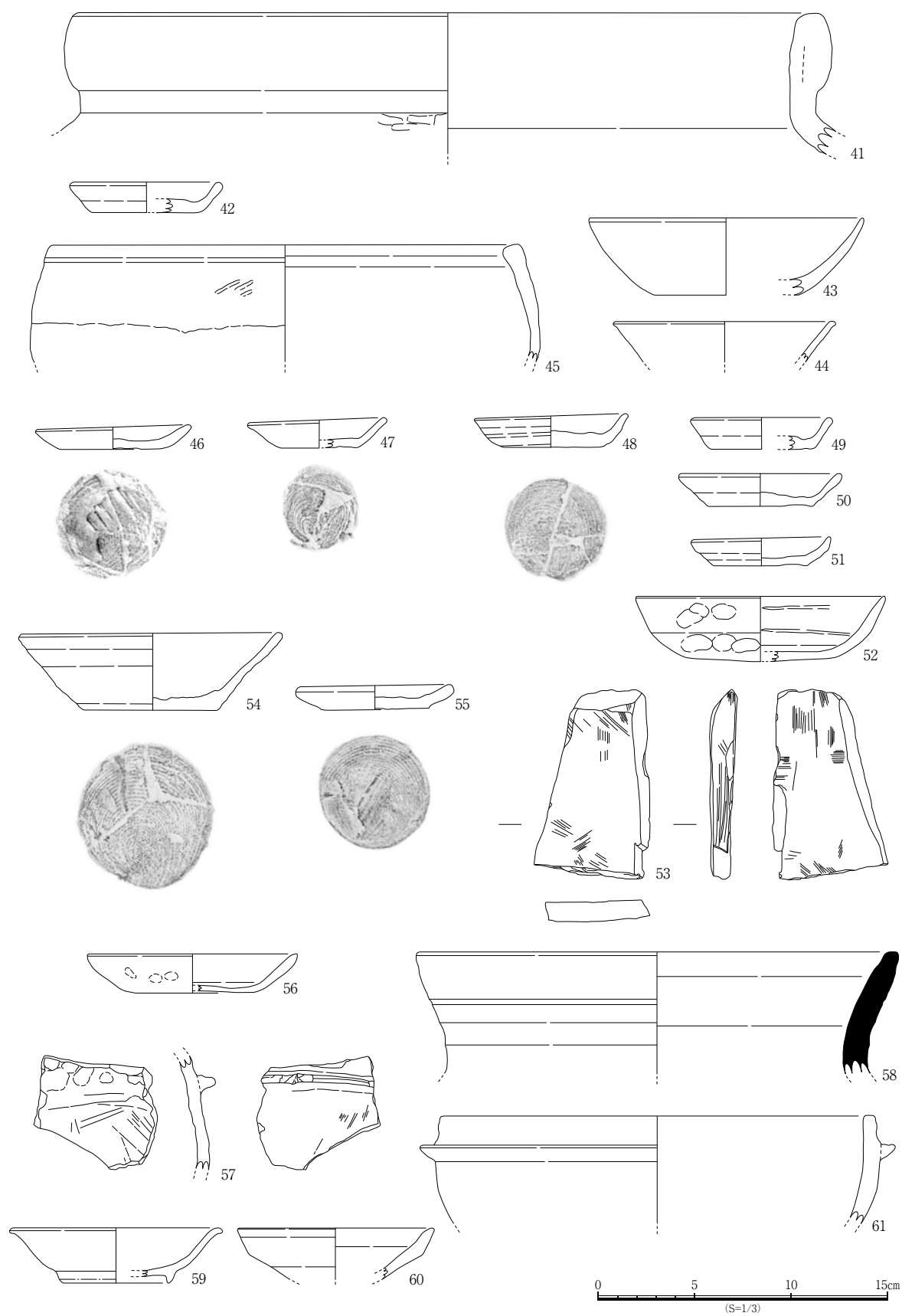


图4-45 SD5·6·10·11·15出土遗物实测图

する。土坑の可能性があり、埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで、遺物は土師質土器片、71の瓦質羽釜が出土している。

SD13(図4-44)

調査区ⅢB-4-3の東西へと延びる溝で、上面にはSD6があり、SD5に切られている。確認延長は4.9m、幅0.4m、深さ19.0cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は1層が黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト、2層が褐色シルトブロックが多く混じる黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトである。遺物は須恵器片、土師質土器片が出土している。

SD14

調査区ⅢB-4-3の南北へと延びる溝で、SD6に切られており、確認延長は10.4m、幅0.4m、深さ6.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は須恵器、土師質土器が出土している。

SD15(図4-45・50・51)

調査区ⅢB-4-3の東西へと延びる溝で、SD68と繋がる可能性があり、確認延長は7.5m、幅0.8m、深さ17.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師器、須恵器、土師質土器、72の瓦質足付釜、瓦質土器、瓦、73の砥石が出土している。

SD16(図4-52)

調査区ⅢB-4-3の東西へと延びる溝で、上面にSD6があり、調査区東壁に続く。確認延長は3.5m、幅0.6m、深さ15.0cmを測り、断面形態は舟底状を呈する。埋土は1cm大の礫が少量混じり、褐色(7.5YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、遺物は土師質土器、瓦質土器片が出土している。

SD17

調査区ⅢB-4-3の北端からL字状に東端へと延びる溝で、東側は調査区間を南北へ延びる可能性があり、非常に浅いが区画溝と考えられる。確認延長は13.5m、幅0.4m、深さ5.0～7.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

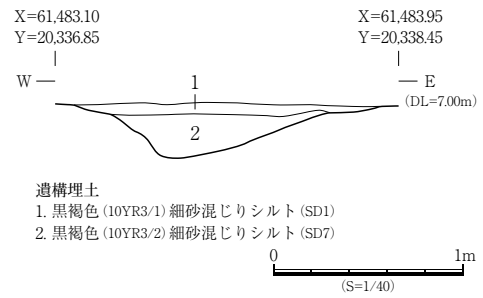


図4-46 SD7

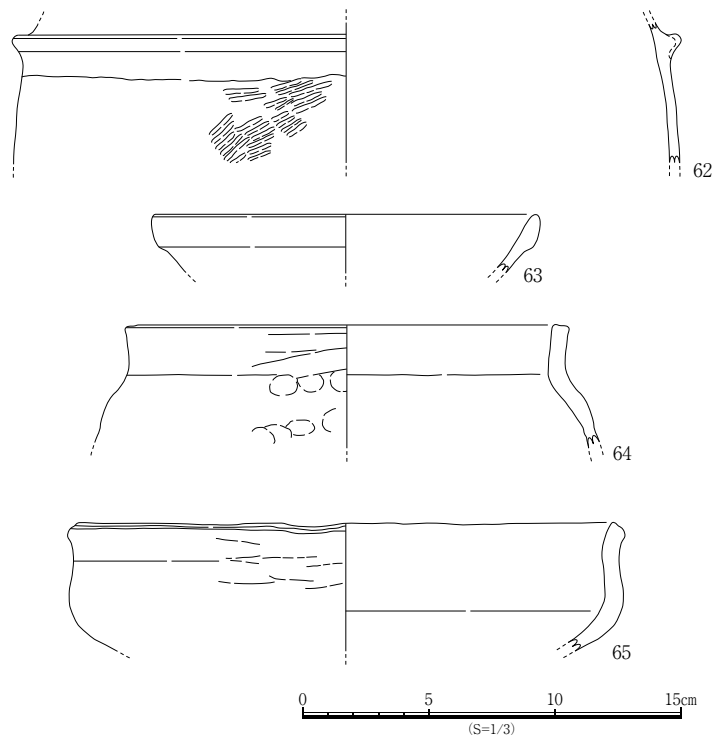


図4-47 SD7・8出土遺物実測図

SD18

調査区ⅢB-4-3の南北へと延びる溝で、SD6に切られている。確認延長は3.2m、幅0.3～0.4m、深さ6.0～8.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は褐色(7.5YR4/4)シルトが混じる黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

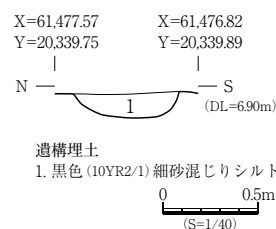


図4-48 SD9

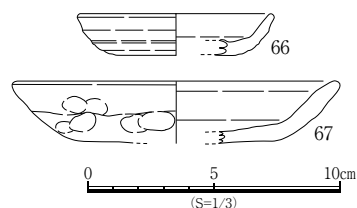


図4-49 SD10出土遺物実測図

SD19(図4-53・54)

調査区ⅢB-4-2の逆コの字状区画溝で、確認延長は11.0m、幅0.4～1.1m、深さ20.0～36.0cmを測り、断面形態はU字状を呈する。埋土は1層が褐色細砂混じりシルトブロックが多く混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト、2層が土器片と褐色細砂混じりシルトブロックが少量混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト、3層が黒褐色シルトブロックが混じる褐色(7.5YR4/4)シルト、4層が黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトである。遺物は上層で74・75の土師質土器皿、下層で76の土師質土器皿、77の播磨型土師質羽釜、各層から土師器、須恵器、備前焼、土師質土器、瓦質土器、鉄片が出土している。

SD20

調査区ⅢB-4-4の東西へと延びる溝で、SD11との新旧関係は不明。確認延長は1.8m、幅0.4m、深さ14.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器が出土している。

SD21(図4-55)

調査区ⅢB-4-4の南北へと延びる溝で、ⅢB-4-7のSD44と繋がればL字状の区画溝となる。確認延長は14.6m、幅0.5m、深さ7.0～13.0cmを測り、断面形態は浅い皿状～U字状を呈する。埋土はにぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルト(地山)が混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器が出土している。

SD22

調査区ⅢB-4-4の東西へと延びる溝で、暗渠2・4とSX1に切られる。確認延長は1.5m、幅0.4～0.5m、深さ12.0cmを測り、断面形態は浅い逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで、遺物は須恵器、土師質土器が出土している。

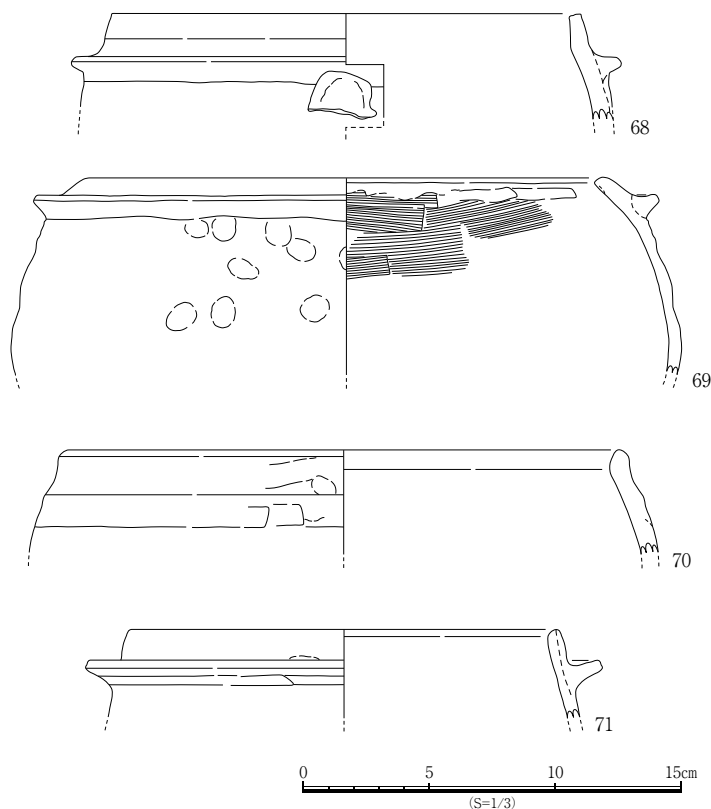


図4-50 SD10・15・11・12出土遺物実測図

SD23

調査区ⅢB-4-4の南側・西側共に調査区外へ延びる溝で、確認延長は5.0m、幅0.7～1.1m、深さ33.0～38.0cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は須恵器、備前焼、土師質土器、瓦質土器、河原石、金属片が出土している。

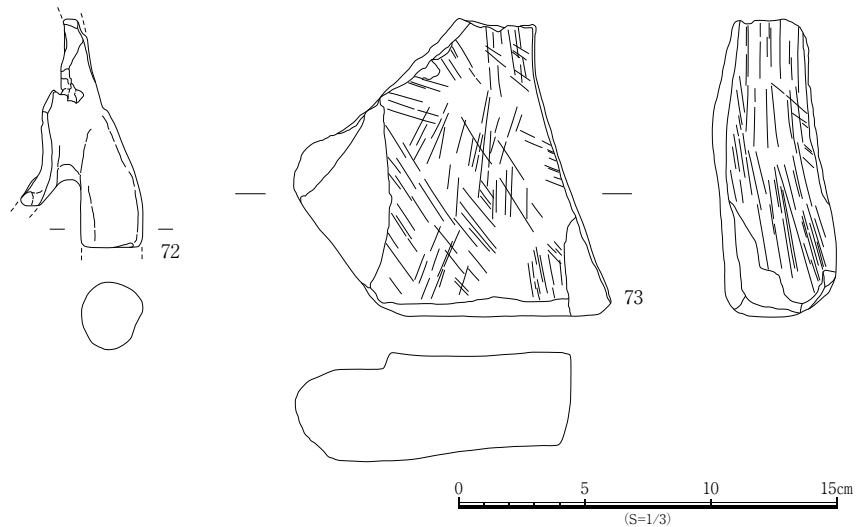


図4-51 SD15出土遺物実測図

SD24(図4-56・57)

調査区ⅢB-4-2の東西へと延びる溝で、SD68を切る。確認延長は7.9m、幅1.2m、深さ17.0cmを測り、断面形態は浅いU字状を呈する。埋土は土器片が混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は須恵器、78の炆器壺、79の土師質土器杯、土師質土器片、瓦質土器片が出土し、SD24～26の埋土からは土師器、須恵器、備前焼、炆器、80の土師質土器皿、81の瓦質土器鍋、石碑?、石臼、鉄片?が出土している。

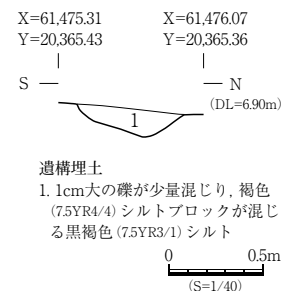


図4-52 SD16

SD25(図4-56・57)

調査区ⅢB-4-2の東西へと延びる溝で、確認延長は7.1m、幅1.7m、深さ22.0～25.0cmを測り、断面形態は扁平な箱形状を呈する。埋土は1層が1～5cm大の礫が少量混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト、2層が褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器が出土し、SD25・26埋土からは青磁片、白磁片、土師質土器が出土している。

SD26(図4-56・57・58)

調査区ⅢB-4-1・2の南壁に沿って東西へと延びる溝で、確認延長は20.0m、幅不明、深さ22.0cmを測り、断面形態は不明。埋土は1層が1～3cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト、2層が1cm大の小礫が多く混じり褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。遺物は須恵器片、備前焼、82の播磨型土師質羽釜、83の土師質茶釜、土師質土器片、瓦質土器が出土している。

SD27

調査区ⅢB-4-7の南北へと延びる溝で、SD28に切られる。確認延長は2.0m、幅不明、深さ6.0cmを測り、断面形態は浅い皿状を呈する。埋土は褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルトが上層に混じる黄褐色(10YR5/6)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片が出土し、SD27・28の埋土からは須恵器、土師質土器が出土している。

SD28

調査区ⅢB-4-7の南側・北側共に調査区外へと延びる溝で、SD27を切る。確認延長は15.3m、幅0.9m、深さ17.0cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は須恵器、陶器鉢、土師質土器が出土している。

SD29(図4-59)

調査区ⅢB-4-2の南北へと延びる溝で、北側は調査区外へ続く。確認延長は10.3m、幅0.3m、深さ22.0cmを測り、断面形態はU字状を呈する。埋土は5cm大の小礫が若干混じり暗褐色シルトブロックが混じる黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器片が出土している。

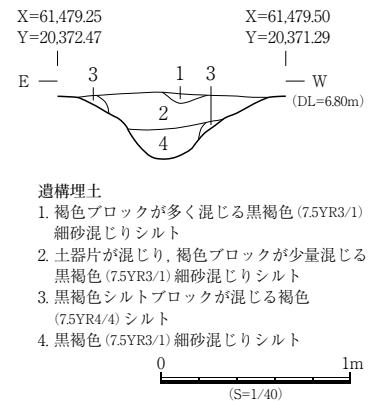


図4-53 SD19

SD30(図4-60)

調査区ⅢB-4-7の南北へと延びる溝で、北側は調査区外に続き、SK17・18・カクランに切られる。確認延長は15.0m、幅1.1m、深さ19.0cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器が出土している。

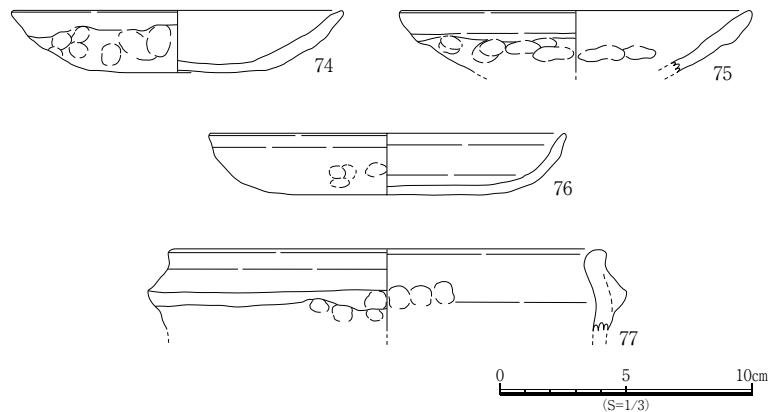


図4-54 SD19出土遺物実測図

SD31(図4-60)

調査区ⅢB-4-7の南北へと延びる溝で、SD45に繋がる。確認延長は13.2m、幅0.4m、深さ7.0cmを測り、断面形態は浅い逆台形状を呈する。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

SD32

調査区ⅢB-4-7の東端からL字状に南端へと延びる溝で、SD33に並走するがⅢB-4-6ではみられない。確認延長は21.7m、幅2.8～3.1m、深さ7.0cmを測り、断面形態は浅い皿状を呈する。埋土は暗褐色細砂混じりシルトで、遺物は須恵器、土師質土器、瓦質土器、石製品？が出土し、SD32・33・35の埋土からは須恵器、土師質土器片が出土している。

SD33(図4-61・62)

調査区ⅢB-4-5東壁から西の4-7へ続きL字状に南壁へと延びる溝で、確認延長は62.5m、幅0.7～1.7m、深さ30.0～46.0cmを測り、断面形態は舟底形を呈する。埋土はⅢB-4-5バンク1では0.5～5cm大の礫が少量混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト、ⅢB-4-5バンク2の1層が土器片が混じる灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト、2層が灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト、ⅢB-4-6バンクでは1～2cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト、ⅢB-4-7バンクでは2～4cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトである。遺物は上層で84の白磁碗、中層で85の播磨型土師質羽釜、86の瓦質播鉢、87の土鍾、下層で88の備前焼播鉢、各層で須恵器、土

師器, 磁器皿?, 青磁片, 89の白磁皿, 90の備前焼壺, 91の備前焼甕, 92の土師質羽釜, 土師質土器片, 瓦質土器, 瓦片, 93の土錘, 砥石?, 鉄釘?, 陶磁器が出土し, SD33・57埋土からは土師質土器片, 瓦質土器が出土している。

SD34(図4-63)

調査区ⅢB-4-1区の北壁からL字状に東壁へと延びる溝で, ⅢB3-NのSD34に繋がる区画溝と考えられる。確認延長は6.0m, 幅1.7m, 深さ35.0cmを測り, 断面形態はU字状を呈する。埋土は1層が1~5cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト, 2層が褐色(10YR4/4)シルトが粒状に混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトである。遺物は土師器, 須恵器片, 94の播磨型土師質羽釜, 土師質土器片, 軽石が出土している。

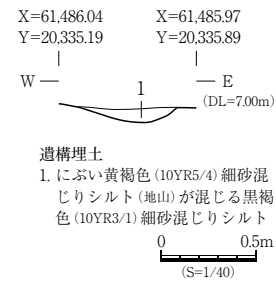


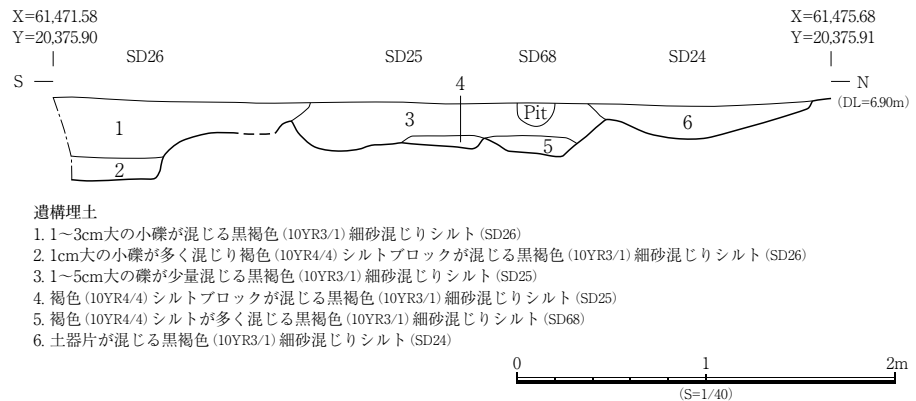
図4-55 SD21

SD35(図4-64)

調査区ⅢB-4-7の東西へと延びる溝で, SD37・38と切り合っている。確認延長は11.5m, 幅0.9m, 深さ7.0cmを測り, 断面形態は浅い逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで, 遺物は土師質土器片が出土している。

SD36(図4-64・65)

調査区ⅢB-4-7の南北へと延びる溝で, 北側はSD43~45と切り合っており, 南側は調査区外へと続く。確認延長は14.7m, 幅0.7m, 深さ24.0cmを測り, 断面形態はU字状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで, 遺物は95の土師質杯, 土師質土器片, 砥石, 金属片が出土している。



- 遺構埋土
1. 1~3cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト (SD26)
 2. 1cm大の小礫が多く混じり褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト (SD26)
 3. 1~5cm大の礫が少量混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト (SD25)
 4. 褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト (SD25)
 5. 褐色(10YR4/4)シルトが多く混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト (SD68)
 6. 土器片が混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト (SD24)

図4-56 SD24~26・68

SD37(図4-64・65)

調査区ⅢB-4-7の北壁東隅から逆L字状に南壁西隅へと延びる区画溝で,

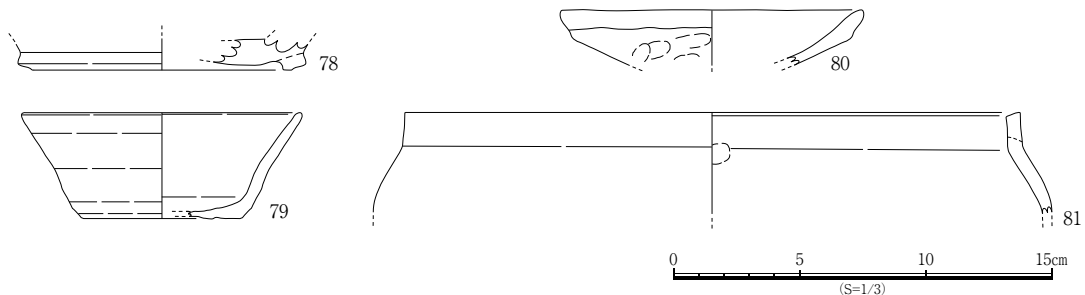


図4-57 SD24~26出土遺物実測図

SK25・SD33・36・47に切られる。確認延長は30.0 m、幅1.0 m、深さ29.0 cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は土師器、須恵器、白磁片、96の陶器播鉢、97・98土師質小皿、土師質土器片、瓦質土器が出土し、SD37・SK25の埋土から須恵器、土師質土器が出土している。

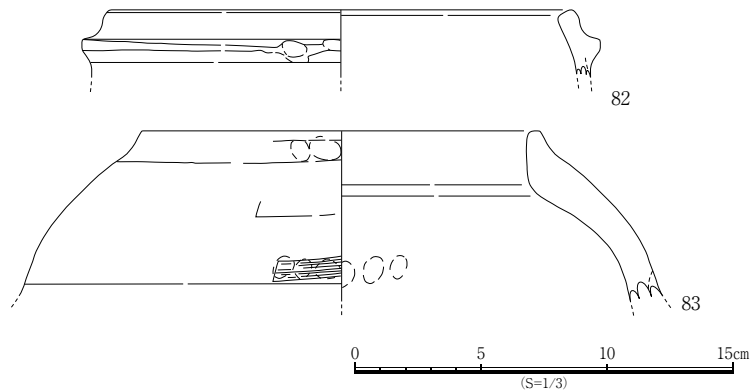


図4-58 SD26出土遺物実測図

SD38

調査区ⅢB-4-7の南北へと延びる溝で、SD33に切られている。確認延長は12.0 m、幅0.3～0.7 m、深さ26.0 cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師器、土師質土器片が出土している。

SD39(図4-66)

調査区ⅢB-4-7の南北へと延びる溝で、北側はSK16に切られ、南側は調査区外へ続く。確認延長は9.6 m、幅0.3 m、深さ8.0 cmを測り、断面形態は浅い逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで、遺物は99の土師質杯、土師質土器片が出土している。

SD40(図4-66)

調査区ⅢB-4-7の南北へと延びる溝で、確認延長は4.7 m、幅0.5～0.7 m、深さ10.0～17.0 cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は須恵器、100の土師質小皿、瓦質土器、砥石が出土している。

SD41(図4-67)

調査区ⅢB-4-7の東西へと延びる溝で、SK24に切られている。確認延長は5.8 m、幅0.4 m、深さ7.0 cmを測り、断面形態は浅い逆台形状を呈する。埋土は暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルトが混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

SD42(図4-67)

調査区ⅢB-4-1の南北へと延びる溝で、SD55を切り、南側は調査区外へ続く。確認延長は5.8 m、幅0.3 m、深さ24.0～27.0 cmを測り、断面形態はU字状～逆台形状を呈する。埋土は褐色シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は炆器、土師質土器、瓦質土器が出土している。

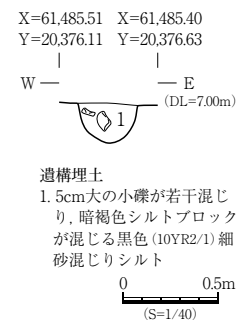


図4-59 SD29

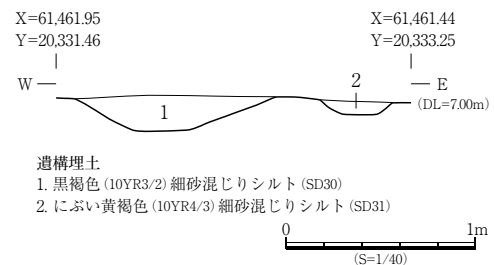
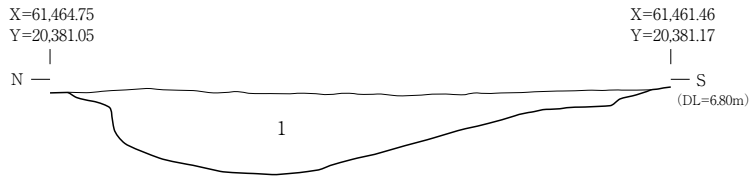


図4-60 SD30・31

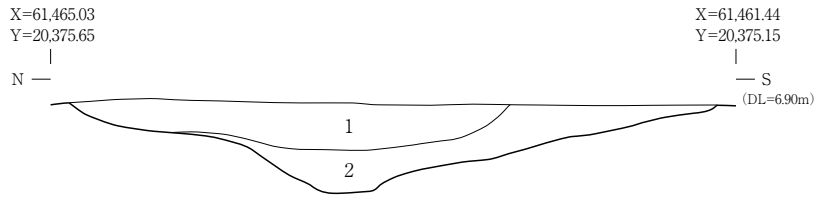
SD43(図4-67・68)

調査区ⅢB-4-7の東西へと延びる溝で、SD44と並走しているが新旧関係不明。確認延長は12.9m、幅0.3～0.4m、深さ10.0～17.0cmを測り、断面形態はU字状を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は101の土師質皿が出土し、SD43・47埋土からは弥生土器片、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器片が出土している。



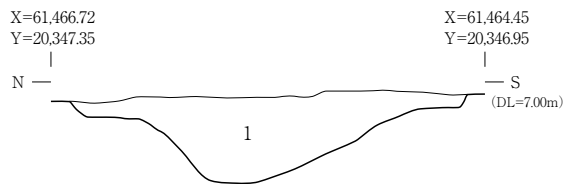
遺構埋土
1. 0.5～5cm大の礫が少量混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト

SD33 ⅢB-4-5区バンク1



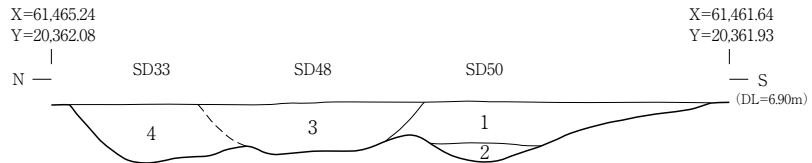
遺構埋土
1. 土器片が混じる灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
2. 灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト

SD33 ⅢB-4-5区バンク2



遺構埋土
1. 2～4cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト

SD33 ⅢB-4-7区バンク



遺構埋土
1. 1～3cm大の小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルト(SD50)
2. 黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(SD50)
3. 褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(SD48)
4. 1～2cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト(SD33)

SD33・SD48・SD50 ⅢB-4-6区バンク

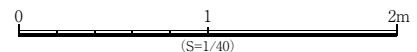


図4-61 SD33・48・50

SD44(図4-67)

調査区ⅢB-4-7の北壁西寄りからL字状に北壁東隅へと延びる溝で、SD21と繋がり、SD43と並走しているが新旧関係は不明である。確認延長は17.0m、幅0.4～0.5m、深さ14.0～21.0cmを測り、断面形態はU字状を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は須恵器、土師質土器片が出土している。

SD45(図4-67)

調査区ⅢB-4-7の東西へと延びる溝で、SD31・47と繋がる。確認延長は5.0m、幅0.5m、深さ6.0cmを測り、断面形態は浅い皿状を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

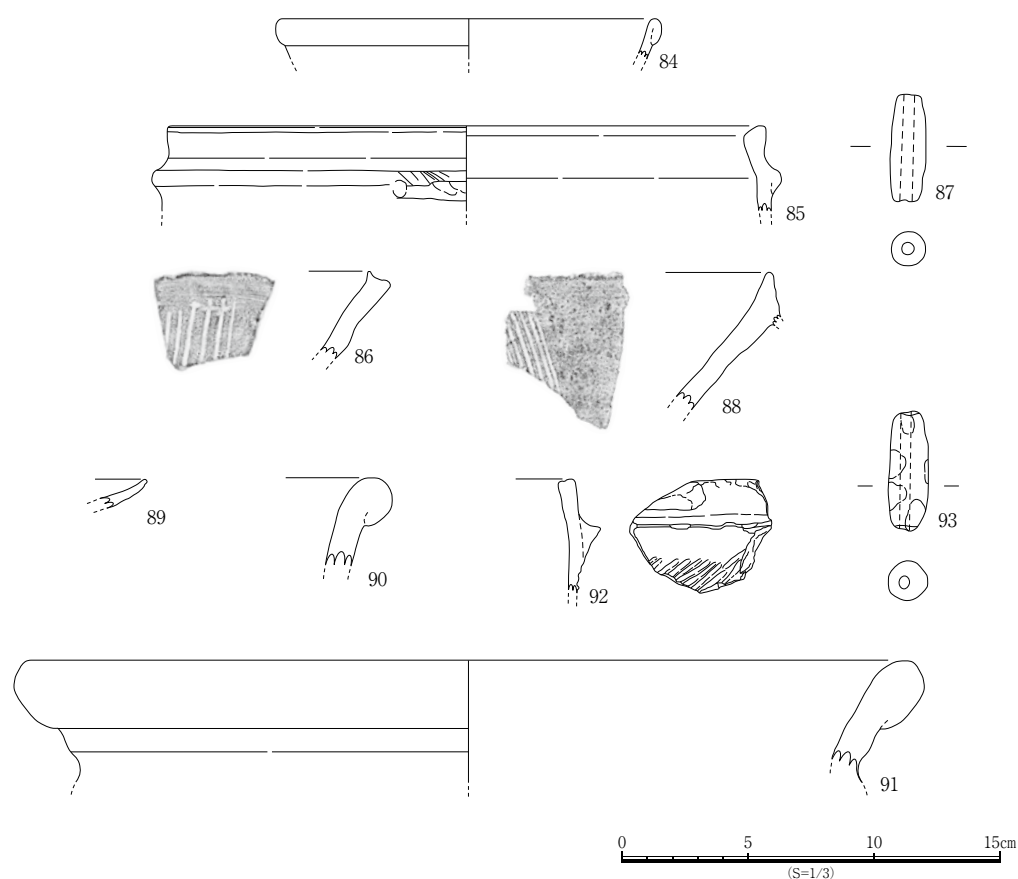


図4-62 SD33出土遺物実測図

SD46(図4-67)

調査区ⅢB-4-7の東西へと延びるが溝でない可能性もある。確認延長は3.5m, 幅0.5m, 深さ12.0cmを測り, 断面形態は皿状を呈する。埋土はハンダがブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)シルトで, 遺物は土師器, 須恵器, 土師質土器片が出土している。

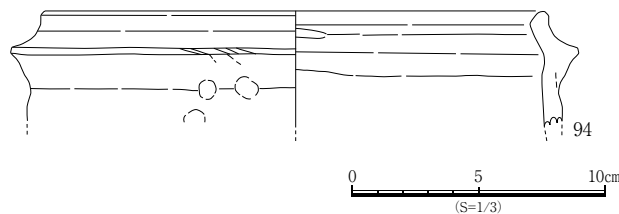


図4-63 SD34出土遺物実測図

SD47

調査区ⅢB-4-7の東西へと延びる溝で, SD45と繋がり, 東側は調査区外へ続く。確認延長は8.7m, 幅0.7~1.0m, 深さ9.0~11.0cmを測り, 断面形態は浅い皿状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで, 遺物は須恵器, 土師質土器片が出土している。

SD48(図4-61)

調査区ⅢB-4-6の東壁からL字状に南壁へと延びる区画溝で, SD33との切り合いが不明瞭, SD48が先行すると考えられ, SD50を切る。確認延長は17.0m, 幅1.0~1.2m, 深さ26.0cmを測り, 断面形態は逆台形状を呈する。埋土は褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで, 遺物は須恵器, 備前焼, 土師質土器, 瓦質土器, 土錘, 鉄釘が出土している。

1. ⅢB-4区 (2) 検出遺構と遺物

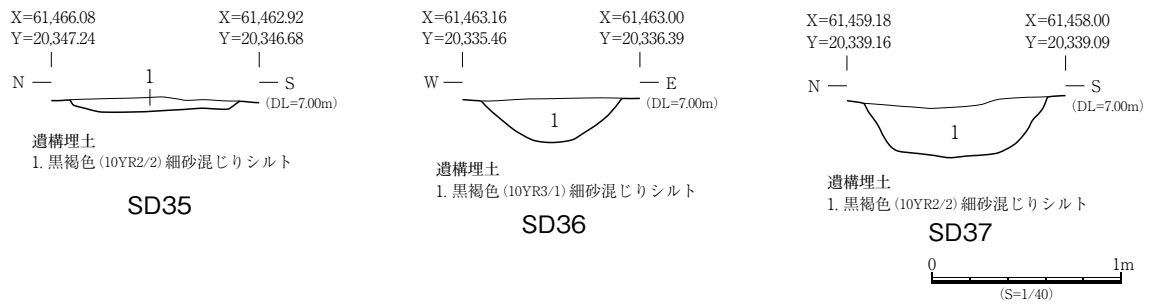


図4-64 SD35～37

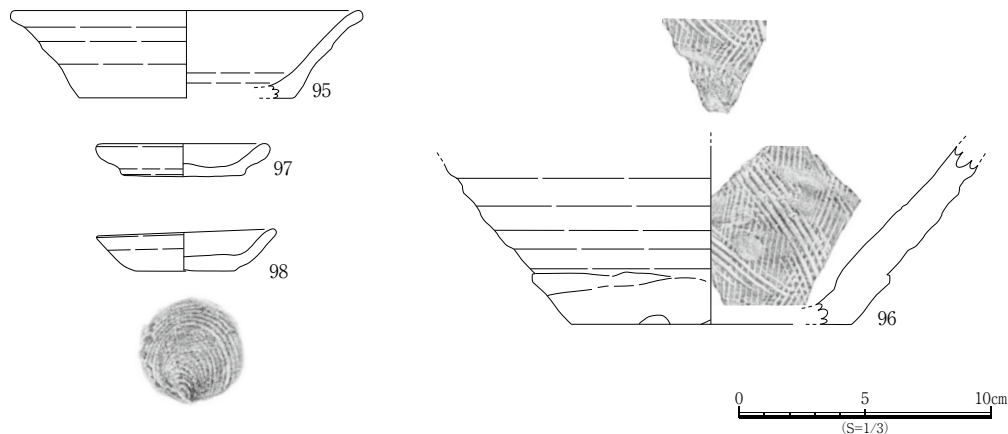


図4-65 SD36・37出土遺物実測図

SD49(図4-69)

調査区ⅢB-4-1の南北へと延びる溝で、確認延長は1.7 m、幅0.6 m、深さ24.0～32.0 cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。埋土は1層が黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト、2層が黒褐色(7.5YR3/2)シルトブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトである。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器が出土している。

SD50(図4-61)

調査区ⅢB-4-6の東西へと延びる溝で、SD48に切られる。確認延長は4.5 m、幅不明、深さ32.0 cmを測り、断面形態は浅いU字状を呈する。埋土は1層が1～3 cm大の小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルト、2層が黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトである。遺物は青磁片、備前焼、土師質土器片、瓦質土器、鉄釘が出土している。

SD51

調査区ⅢB-4-1の東西へと延びる溝で、SD70の下層。確認延長は2.0 m、幅0.6 m、深さ42.0 cmを測り、断面形態はU字状を呈する。埋土は褐色(10YR4/4)シルトが混じる黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器が出土している。

SD52(図4-69)

調査区ⅢB-4-1の東西へと延びる溝で、東側は複数の溝が切り合っており、西側はSD53を切って交差し調査区外へ続く。確認延長は1.7 m、幅0.4～0.5 m、深さ10.0 cmを測り、断面形態は舟底状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は土師質土器が出土している。

SD53(図4-69)

調査区ⅢB-4-1の東西へと延びる溝で、東側は複数の溝が切り合っており、西側はSD52に切られて交差し調査区外へ続く。確認延長は1.5m、幅0.5～0.7m、深さ14.0cmを測り、断面形態は浅い逆台形状を呈する。埋土は1層が黒褐色(10YR3/2)シルト、2層が褐色(10YR4/4)シルトが多く混じる黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器片が出土している。

SD54

調査区ⅢB-4-5の南北へと延びる溝で、SK35に切られ、南側は調査区外へ続く。確認延長は10.2m、幅0.2～0.3m、深さ5.0～8.0cmを測り、断面形態は浅い皿状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物はみられない。

SD55

調査区ⅢB-4-1の東西へと延びる溝で、ⅢB-4-2のSD68と繋がる可能性が考えられる。確認延長は3.0m、幅0.6～0.7m、深さ20.0～36.0cmを測り、断面形態は逆台形状?を呈する。埋土は褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は土師器、須恵器、陶器片、土師質土器、瓦質土器が出土している。

SD56

調査区ⅢB-4-5の南北へと延びる溝で、確認延長は5.0m、幅0.3m、深さ6.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

SD57(図4-69・70)

調査区ⅢB-4-5の南北へと延びる溝で、SD33に切られる。確認延長は23.5m、幅0.6～0.7m、深さ6.0～13.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトで、遺物は102の土師質土杯、103・104の瓦質土器羽釜が出土している。

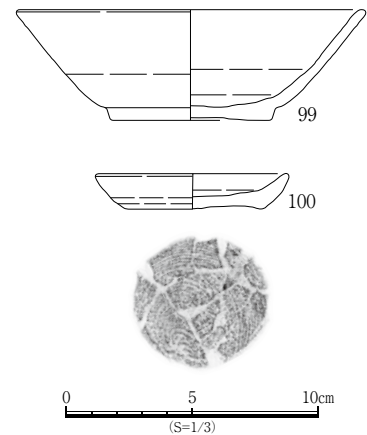


図4-66 SD39・40出土遺物実測図

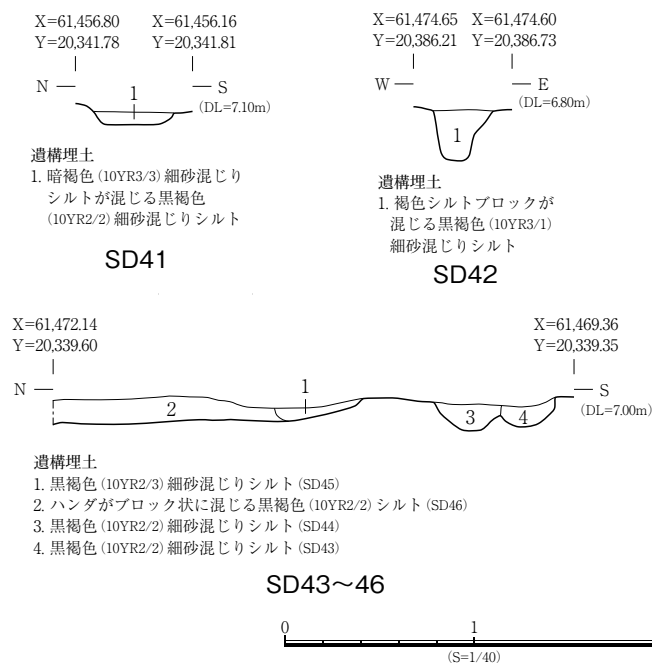


図4-67 SD41～46

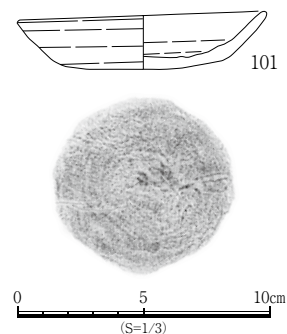


図4-68 SD43出土遺物実測図

1. ⅢB-4区 (2) 検出遺構と遺物

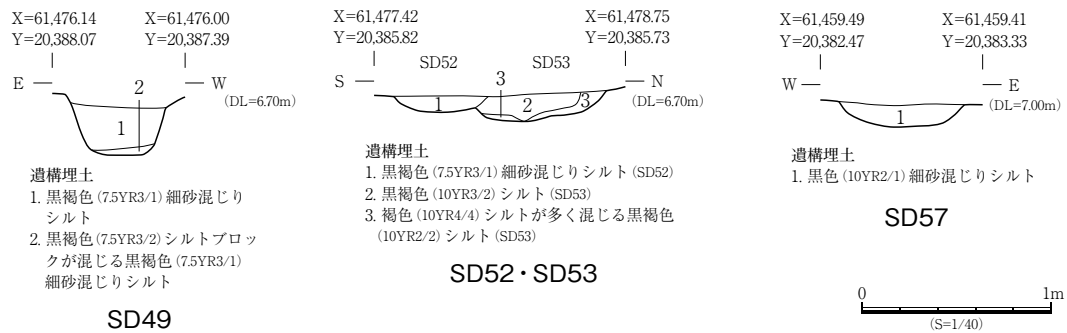


図4-69 SD49・52・53・57

SD58

調査区ⅢB-4-5の東西へと延びるが土坑の可能性はある。確認延長は2.2m, 幅1.0m, 深さ5.0～7.0cmを測り, 断面形態は浅い皿状を呈する。埋土は黒褐色 (7.5YR3/2) シルトで, 遺物はみられない。

SD59

調査区ⅢB-4-6の南北へと延びる溝で, 確認延長は5.4m, 幅0.3～0.4m, 深さ8.0cmを測り, 断面形態は浅い皿状を呈する。埋土は黒褐色 (10YR3/1) シルトで, 遺物はみられない。

SD60

調査区ⅢB-4-1の東西へと延びる溝で, SD34・70に切られる。確認延長は2.2m, 幅0.6m, 深さ13.0cmを測り, 断面形態は皿状?を呈する。埋土は黒褐色 (7.5YR3/2) シルトで, 遺物はみられない。

SD61 (図4-71)

調査区ⅢB-4-5の南北へと延びる溝で, SK61に切られ, SD33と新旧関係は不明である。南側は東に緩く曲がり調査区外へ続く。確認延長は18.2m, 幅0.8m, 深さ24.0～28.0cmを測り, 断面形態は舟底状から逆台形状を呈する。埋土は黒褐色 (10YR2/3) 細砂混じりシルトで, 遺物はみられない。

SD62

調査区ⅢB-4-5の東西へと延びる溝で, 確認延長は3.5m, 幅0.2m, 深さ4.0cmを測り, 断面形態は浅いU字状を呈する。埋土は黒褐色 (7.5YR3/1) 細砂混じりシルトで, 遺物は土師質土器片, 瓦質土器片が出土している。

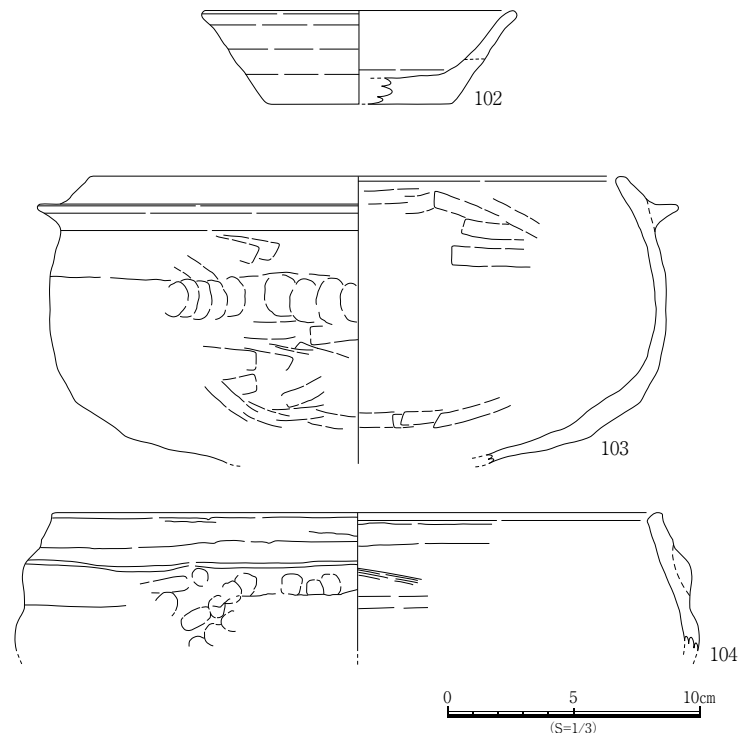


図4-70 SD57出土遺物実測図

SD63

調査区ⅢB-4-2の調査区東壁に沿って南北へと延びる溝で、確認延長は5.0m、幅不明、深さ23.0～28.0cmを測り、断面形態は不明である。埋土は褐色が混じる黒色(7.5YR1.7/1)細砂混じりシルトで、遺物は炆器、土師質土器、瓦質土器片が出土している。

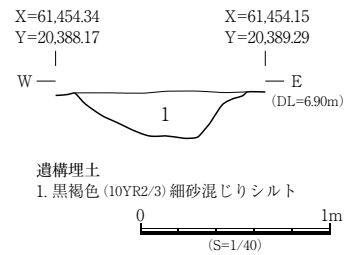


図4-71 SD61

SD64

調査区ⅢB-4-5の南北へ延びる溝で、ピットに切られる。確認延長は1.6m、幅0.5m、深さ5.0cmを測り、断面形態は浅い皿状を呈す。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物はみられない。

SD65(図4-72)

調査区ⅢB-4-5の東西へと延びる溝で、ⅢB-3区に繋がる可能性がある。確認延長は7.0m、幅0.7m、深さ6.0cmを測り、断面形態は浅い皿状を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

SD66

調査区ⅢB-4-5の東西へと延びる溝で、確認延長は2.7m、幅0.2m、深さ6.0cmを測り、断面形態は浅いU字状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物はみられない。

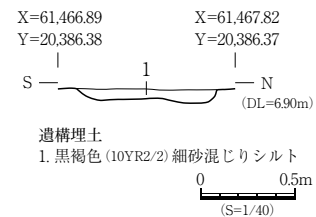


図4-72 SD65

SD67

調査区ⅢB-4-3の東西へと延びる溝で、ⅢB-4-2のSD69と繋がる可能性がある。確認延長は2.0m、幅0.7m、深さ12.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は土師質土器片、瓦質土器が出土している。

SD68

調査区ⅢB-4-2の東西へと延びる溝で、SD24に切れ、ⅢB-4-3のSD15に繋がる。確認延長は11.6m、幅0.5～0.7m、深さ12.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は褐色(10YR4/4)シルトが多く混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

SD69

調査区ⅢB-4-2の東西へと延びる溝で、ⅢB-4-3区のSD67に繋がる可能性がある。確認延長は4.0m、幅0.5m、深さ11.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物はみられない。

SD70(図4-73)

調査区ⅢB-4-1の東西へと延びる溝で、SD60を切っており、SD51の上層。確認延長は1.5m、幅0.9～1.4m、深さ20.0～24.0cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じり、5cm大の小礫が若干混じる黒褐色(10YR3/2)シルトで、遺物は105の東播系須恵器鉢が出土している。

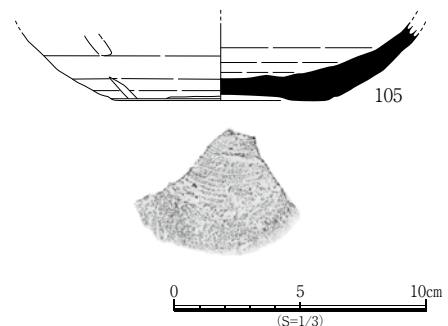


図4-73 SD70出土遺物実測図

⑤ 暗渠

暗渠1(図4-74・75・76)

調査区ⅢB-4-4の南北へと延びる溝で、北側は調査区外へ続き、南側は東西に走る暗渠に繋がる。暗渠2・3と同時期に利用されていたと考えられる。確認延長は13.1m、幅0.2m、深さ20.0～24.0cmを測り、断面形態は逆台形状の掘方をし、溝の両壁に石を立て、その上に蓋石を載せる。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで、遺物は陶器、土師質土器片、106の瓦質焼炉、瓦などが出土している。

暗渠2(図4-74・75・76)

調査区ⅢB-4-4の南北へと延びる溝で、北側は東西に走る暗渠に繋がり、南側は土管を通りSX1に繋がる。確認延長は5.0m、幅0.3m、深さ23.0cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。(暗渠1と同じ作り)。遺物は磁器、陶器、土師質土器、瓦質土器片、107・108の軒平瓦、鉄釘、ガラス片、109の土管などが出土している。

暗渠3(図4-74・75・76)

調査区ⅢB-4-4の南北へと延びる溝で、北側は調査区外へ続き、南側は東西に走る暗渠に繋が

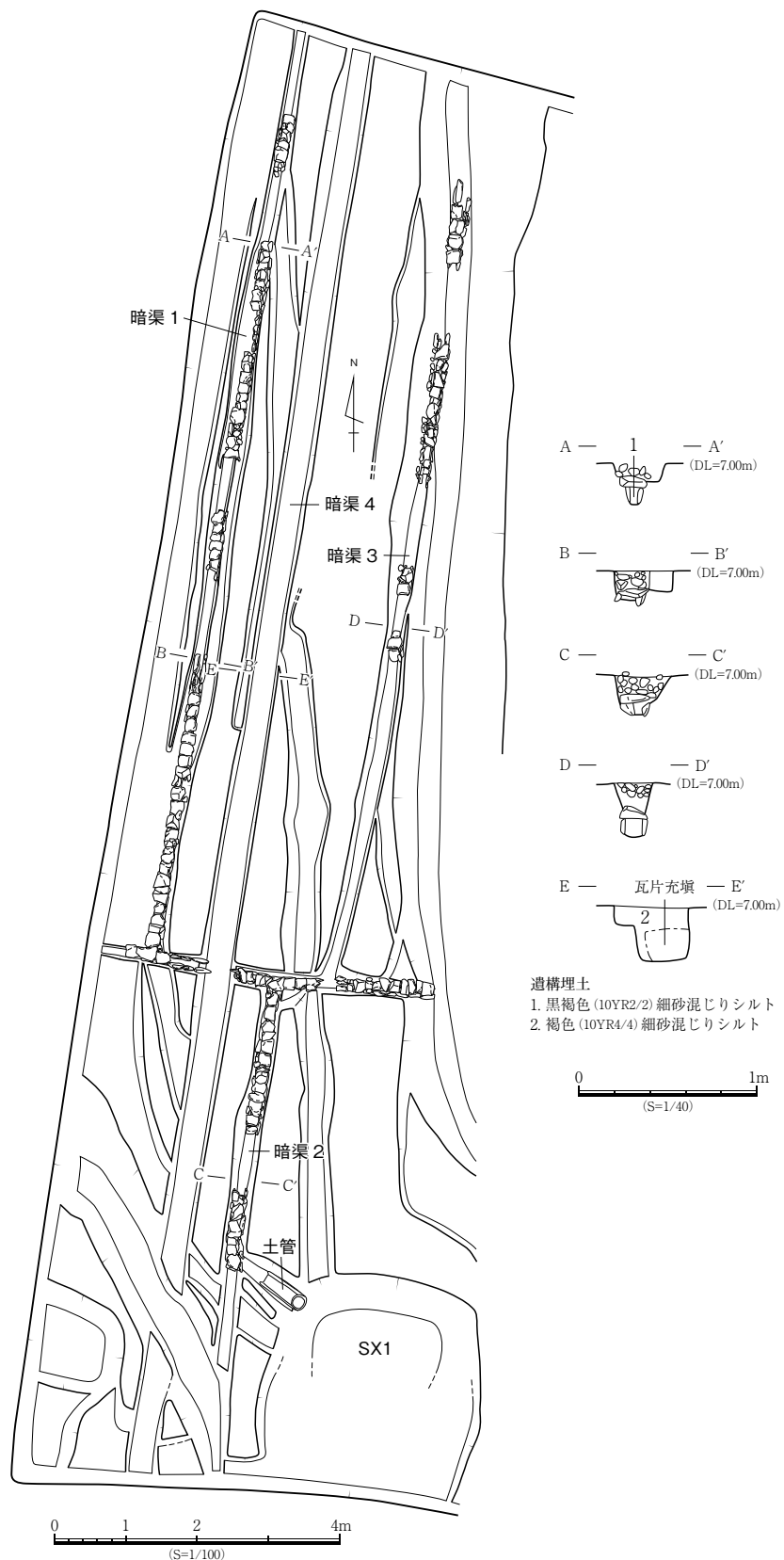


図4-74 暗渠1～4

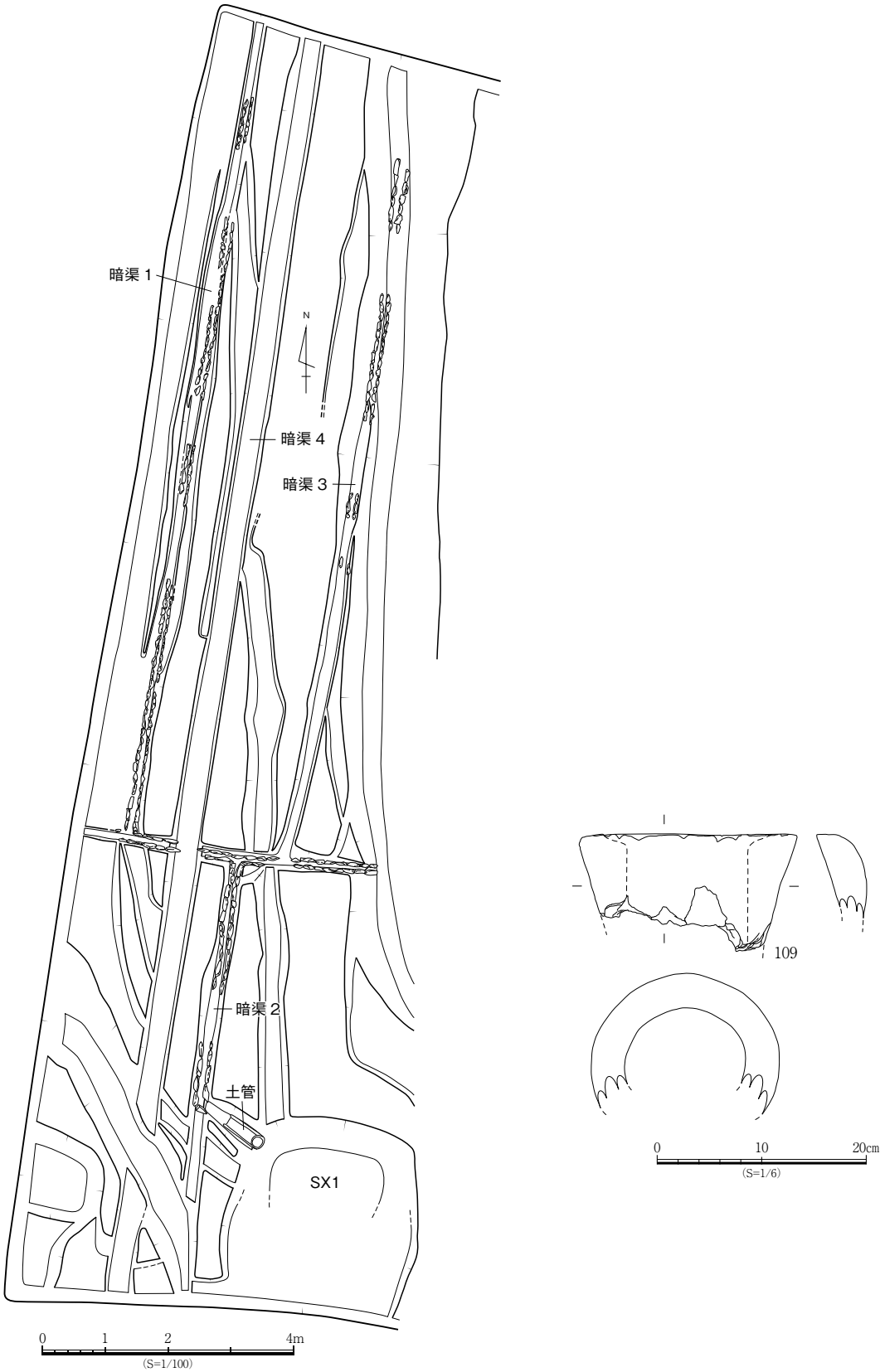


图4-75 暗渠1~4·暗渠2出土遗物实测图

1. ⅢB-4区 (2) 検出遺構と遺物

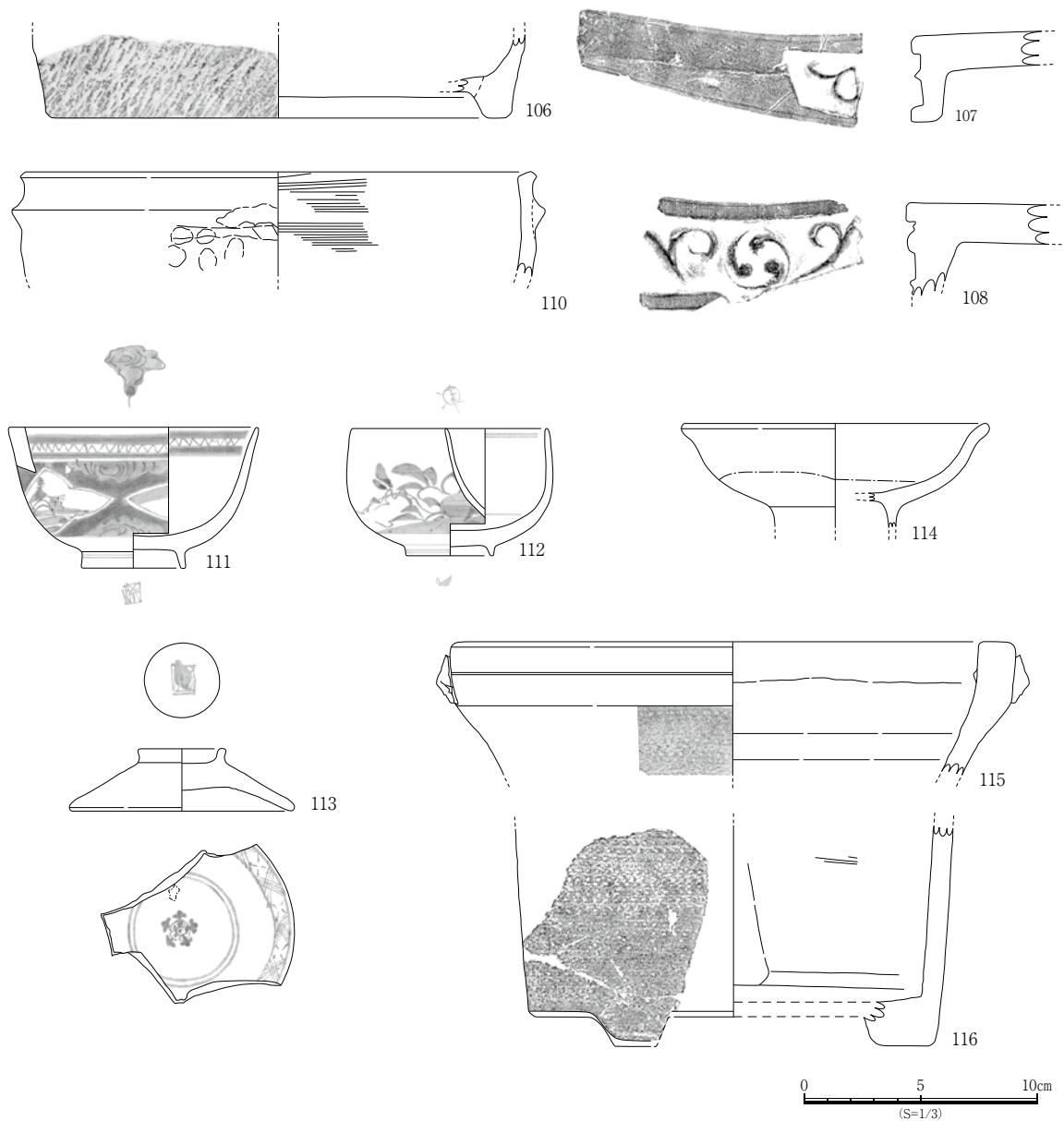


図4-76 暗渠1~4出土遺物実測図

る。確認延長は12.8m, 幅0.2~0.3m, 深さ22.0cmを測り, 断面形態は逆台形状を呈する。(暗渠1と同じ作り)。埋土は黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルトで, 遺物は磁器, 陶器, 土師質焙烙, 110の土師質羽釜, 111・112の染付碗, 113の青磁染付碗蓋, 114の陶器浅碗, 瓦などが出土している。

暗渠4 (図4-74・75・76・77・78・79)

調査区ⅢB-4-4の南北へと延びる溝で, 北側は調査区外へ続き, 南側はⅢB-4-7では暗渠が確認できなかったため, 調査区間で東西に曲がると考えられる。暗渠1~3とは利用された時代が違う。確認延長は24.0m, 幅0.4~0.5m, 深さ30.0cmを測り, 断面形態は方形状を呈する。(瓦を両壁と底・蓋に使用し水路を形成している様子が南端と北端の残存状態から窺える) 埋土は褐色(10YR4/4)細砂混じりシルトで, 遺物は須恵器, 磁器, 陶器, 115・116の土師質焜炉, 117の土師質焙烙, 118の染付皿,

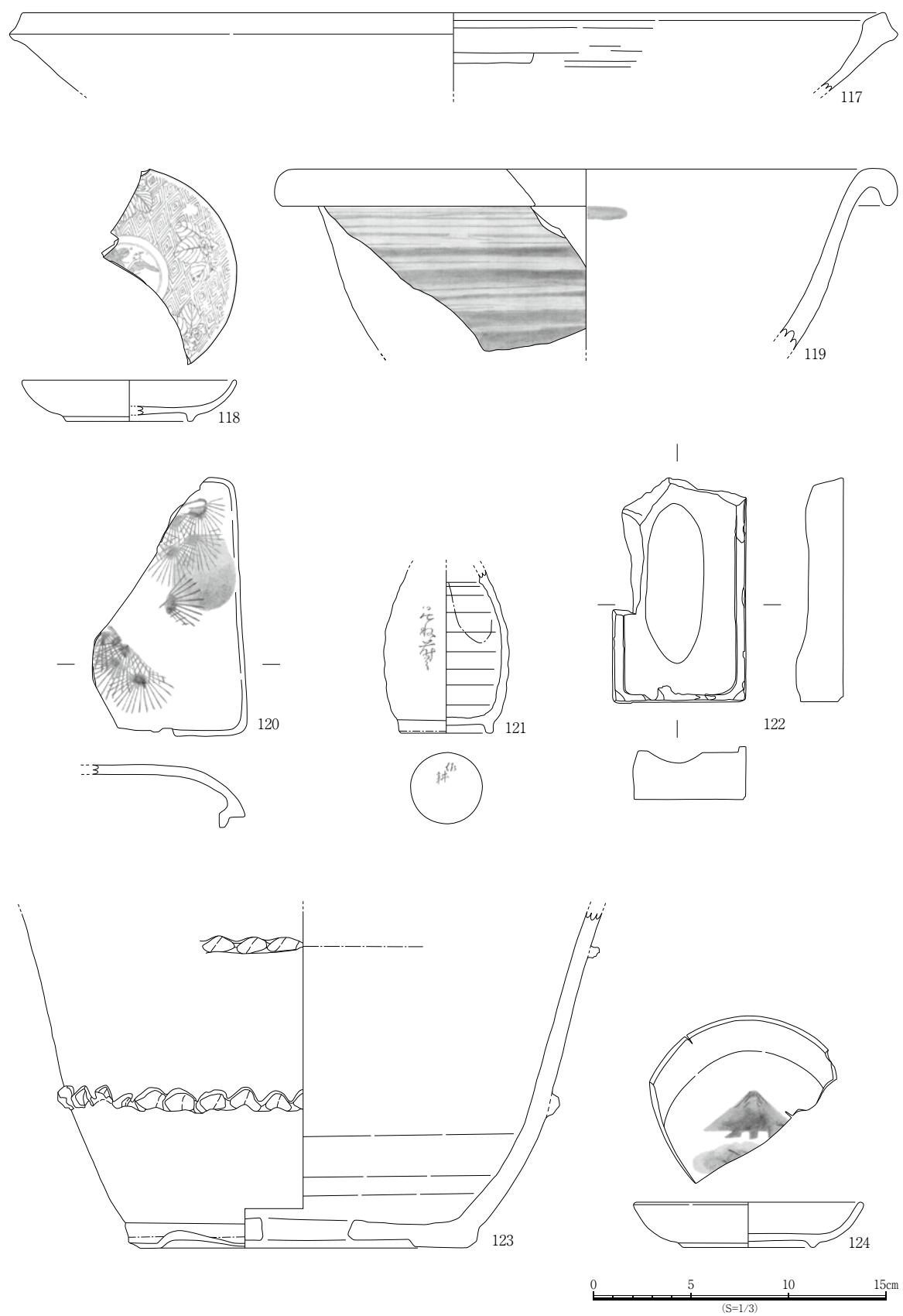


图4-77 暗渠4出土遗物实测图

1. ⅢB-4区 (2) 検出遺構と遺物



図4-78 暗渠4出土瓦銘拓本1

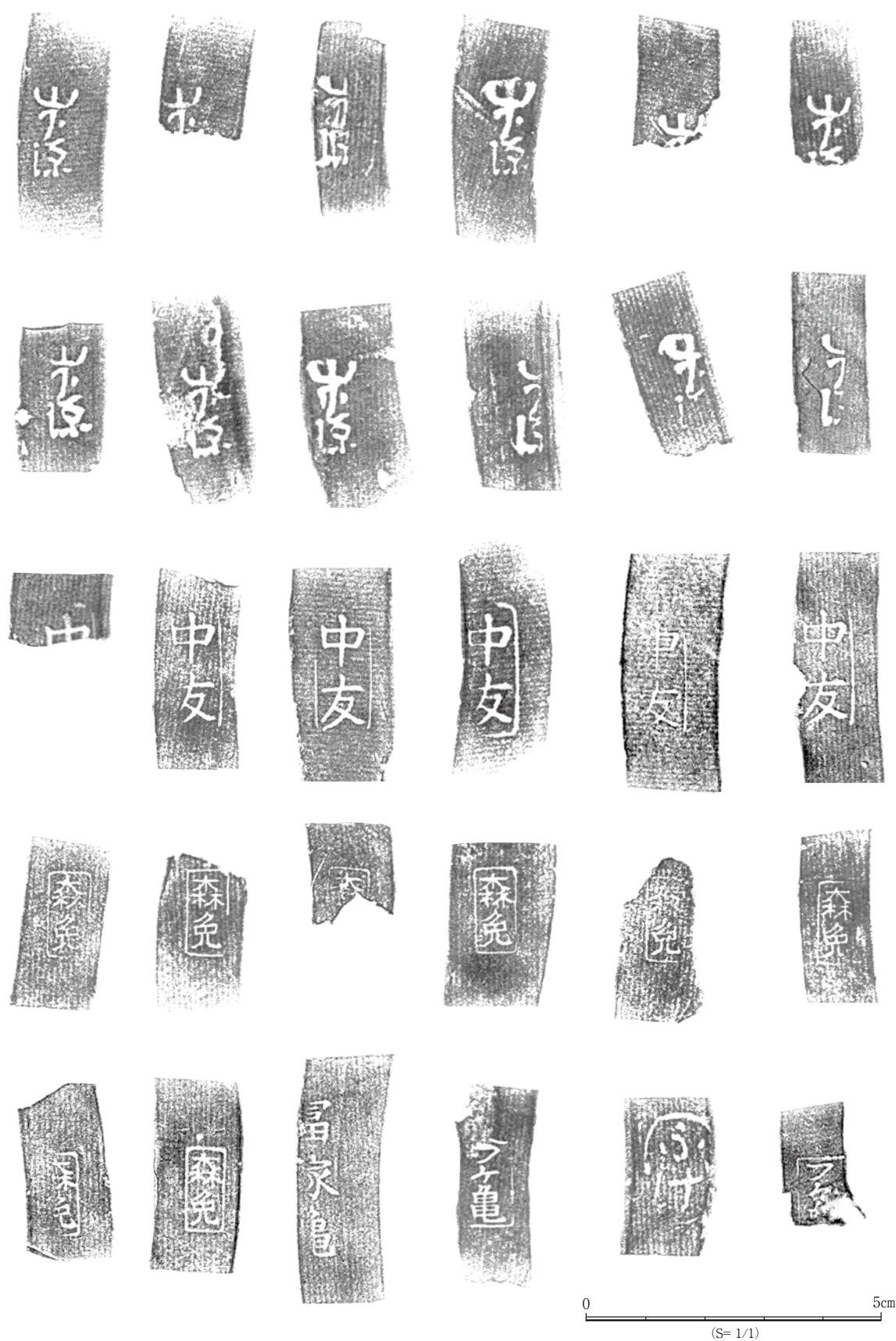


图4-79 暗渠4出土瓦铭拓本2

119の陶器鉢, 120の磁器蓋, 121の磁器徳利, 122の硯, 123の植木鉢, 124の陶器皿, 瓦, 鉄釘, 口金, ガラス片などが出土している。

⑥ 井戸

SE1(図4-80・81)

調査区ⅢB-4-2に位置する井戸で, 確認延長は東西2.9m, 南北3.1m, 深さ1.5m以上を測る。素掘りの井戸で, 1.5m程掘り下げた所で崩落の危険があったため掘削を中止した。埋土は1層が5~15cm大の河原石を多く含む黒褐色(7.5YR3/1)シルト, 2層が1~5cm大の小礫を多く含む黒褐色(7.5YR3/1)シルト, 3層が土器片及び1~3cm大の小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト, 4層が1~5cm大の小礫が多く混じり褐色(7.5YR4/4)シルトが混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト, 5層が土器片が混じる黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトである。遺物は土師器, 須恵器, 125の青磁碗, 126の白磁皿, 127の備前焼甕, 128の播磨型土師質羽釜, 土師質土器片, 129の瓦質鍋, 瓦質土器片, 金属片, 近世陶磁

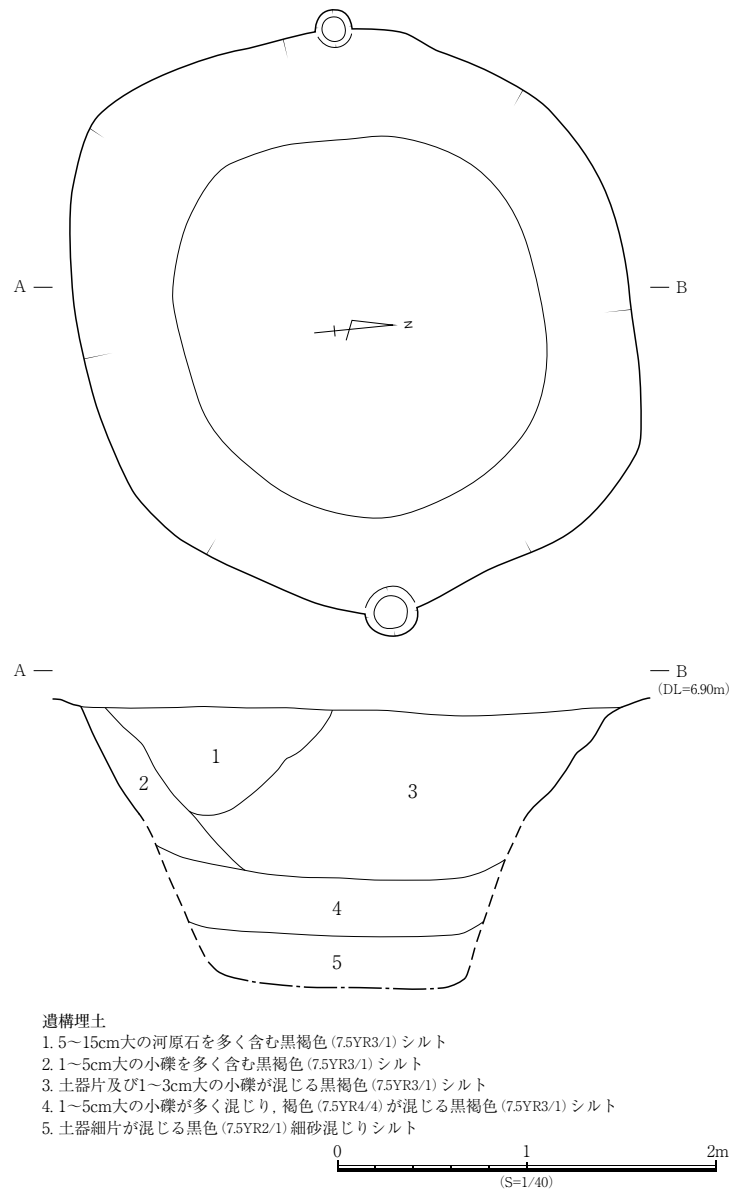


図4-80 SE1

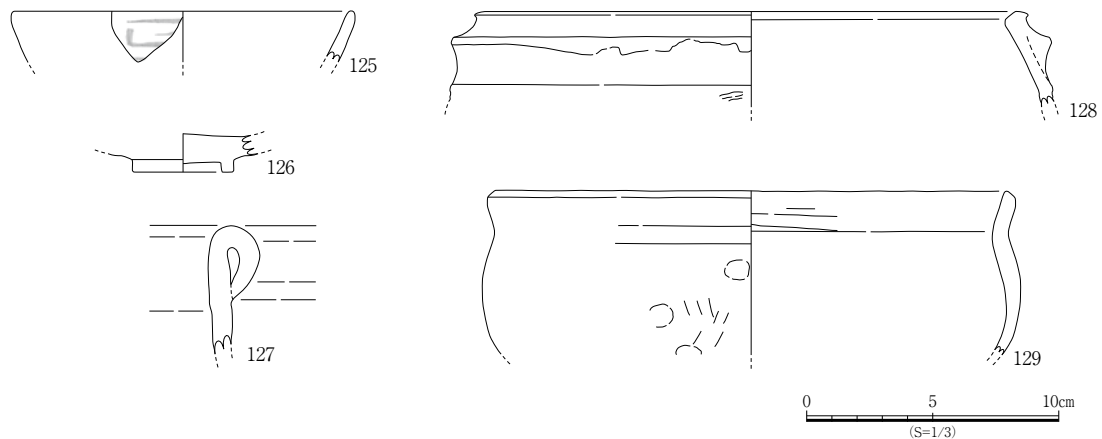


図4-81 SE1出土遺物実測図

器?などが出土している。

⑦ 柱穴

P1(図4-82)

調査区ⅢB-4-1に位置する柱穴で、平面形は不整形を呈し、長軸0.62m、短軸0.46m、深さ43.0cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は130の瓦質羽釜が出土している。

P2(図4-82)

調査区ⅢB-4-2に位置する柱穴で、平面形は不整形を呈し、長軸0.42m、短軸0.36m、深さ33.0cmを測る。埋土は土器片が多く混じる赤褐色(5YR4/8)シルトと明黄褐色(10YR6/8)シルトブロックが少量混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は131の青磁碗、132の炆器、133の土師質皿、土師質土器片、瓦質土器が出土している。

P3(図4-82)

調査区ⅢB-4-2に位置する柱穴で、平面形は隅丸方形?を呈し、長軸不明、短軸0.26m、深さ22.0cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで、遺物は134の土師質皿が出土している。

P4(図4-82)

調査区ⅢB-4-3に位置する柱穴で、平面形は不明、長軸・短軸不明、深さ16.0cmを測る。埋土は暗褐色シルトが混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は135の青磁碗が出土している。

P5(図4-82)

調査区ⅢB-4-3に位置する柱穴で、平面形は楕円形?を呈し、長軸不明、短軸0.22m、深さ52.0cmを測る。ピットと切り合っており、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで遺物は136の土師質羽釜が出土している。

P6(図4-82)

調査区ⅢB-4-5に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸不明、短軸0.32m、深さ18.0cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで遺物は137の青磁碗、備前焼、土師質土器片、瓦質土器片が

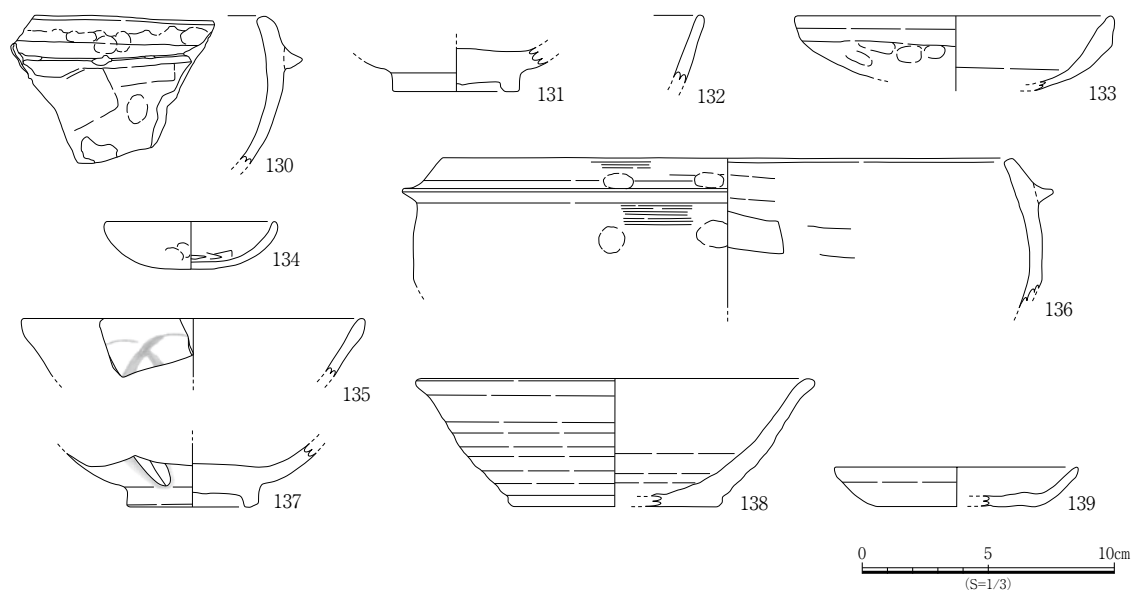


図4-82 P1~8出土遺物実測図

1.ⅢB-4区 (2) 検出遺構と遺物

土している。

P7(図4-82)

調査区ⅢB-4-5に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸0.34m、短軸0.32m、深さ39.0cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は138の土師質杯が出土している。

P8(図4-82)

調査区ⅢB-4-7に位置する柱穴で、平面形は円形を呈し、長軸0.28m、短軸0.26m、深さ21.0cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで、遺物は139の土師質土器皿が出土している。

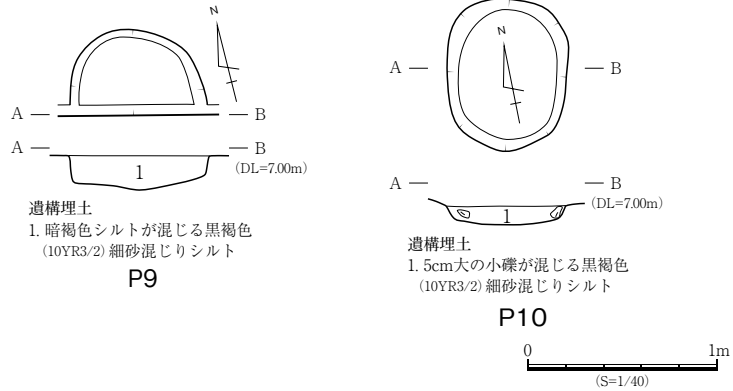


図4-83 P9・10

P9(図4-83)

調査区ⅢB-4-7に位置する柱穴で、P10と併せて掘立柱建物跡の柱穴の一つと考えられる。

平面形は楕円形？を呈し、長軸不明、短軸0.72m、深さ18.0cmを測る。埋土は暗褐色シルトが混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

P10(図4-83)

調査区ⅢB-4-7に位置する柱穴で、P9と併せて掘立柱建物跡の柱穴の一つと考えられる。平面形は楕円形を呈し、長軸0.80m、短軸0.62m、深さ10.0cmを測る。埋土は5cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物はみられない。

⑧ 性格不明遺構

SX1(図4-84)

調査区ⅢB-4-4の南西側に位置する性格不明遺構で、平面形は隅丸方形？を呈し、長軸不明、短軸3.2m、深さ66.0cm以上を測る。埋土は瓦礫が多く混じる。遺物は須恵器、140の土師質小皿、土師質土器片、瓦質土器、141～144の染付碗、染付片、磁器片、145の青磁香炉、青磁片、146の白磁紅皿、147の白磁湯呑み茶碗、148・149の備前焼播鉢、150の陶器播鉢、151～154の陶器、155の徳利、156の綾花皿、陶器片、瓦、鉄釘？、ガラス等が出土している。

SX2

調査区ⅢB-4-4の東側に位置する性格不明遺構で、平面形態は不整形を呈する。SD4に切られているため長軸・短軸共に不明、深さは9.0cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトで、遺物は須恵器、土師質土器、瓦質土器が出土している。

SX3

調査区ⅢB-4-3の北側に位置する性格不明遺構で、平面形態は楕円形？を呈し、北側は調査区外へ続く。長軸不明、短軸1.6m、深さは16.0cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルトで、遺物は染付、青磁片、備前焼、土師質土器片、瓦質土器片、石臼が出土している。

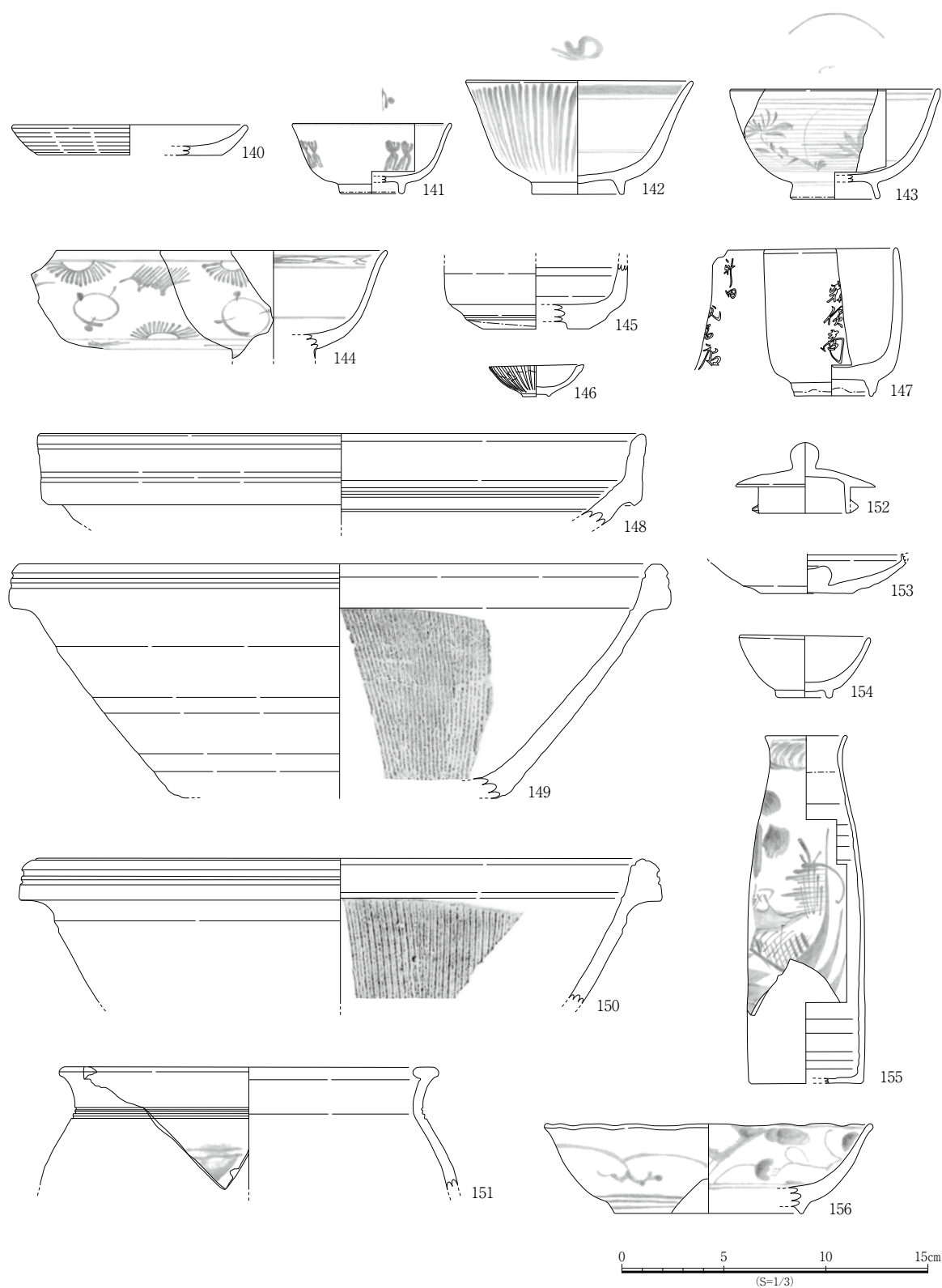


图4-84 SX1出土遺物実測図

2.ⅢB-3区

(1) 調査区の概要と基本層序

① 調査区の概要

ⅢB-4区の東側に隣接する調査区で、既存の水路を隔てた北側小区画も合わせて調査を実施した。調査面積は3,173㎡である。遺構は調査区全域で確認されており、検出された遺構は掘立柱建物跡23棟、柵列8列、土坑73基、溝31条、柱穴500個以上などである。溝は東側に位置する調査区ⅢB-2区に接続するものも確認されている。

② 基本層序

調査区で認められた基本層序は以下のとおりである。中央の畦を挟んで若干相違がみられるため、東西に分けて記載する。

調査区西部北壁

- 第Ⅰ層 小～中礫混じりの褐灰色シルト質中粒砂層(耕作土)
- 第Ⅱ層 細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/2)シルト
- 第Ⅲ層 黄褐色地山細碎石が混じる暗褐色(10YR3/4)シルト層

調査区東部北壁

- 第Ⅰ層 小礫を含む黄灰色(2.5Y4/1)シルト質細粒～中粒砂層(耕作土)
- 第Ⅱ層 細砂混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂層(床土)
- 第Ⅲ層 黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂(遺物包含層)
- 第Ⅳ層 におい黄褐色(10YR5/4)シルト質中粒～粗粒砂で風化礫が混じる
- 第Ⅴ層 灰黄褐色(10YR4/2)シルト質中粒砂層

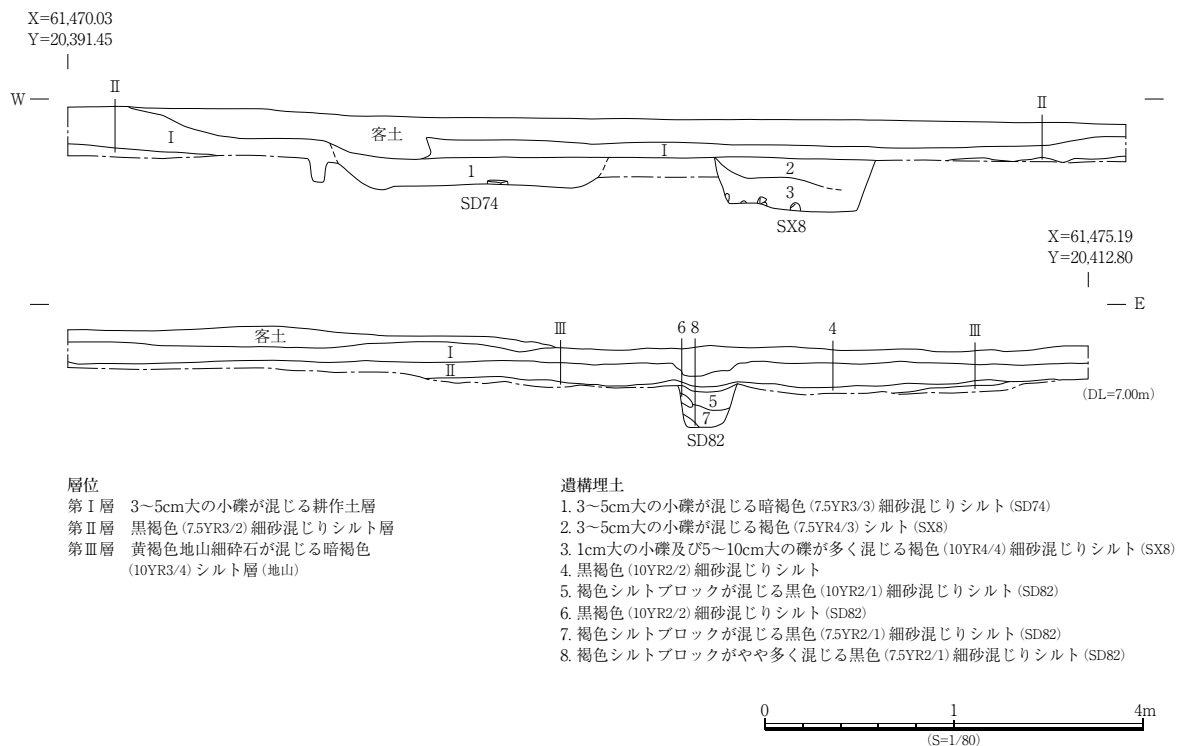


図4-85 調査区西部セクション図

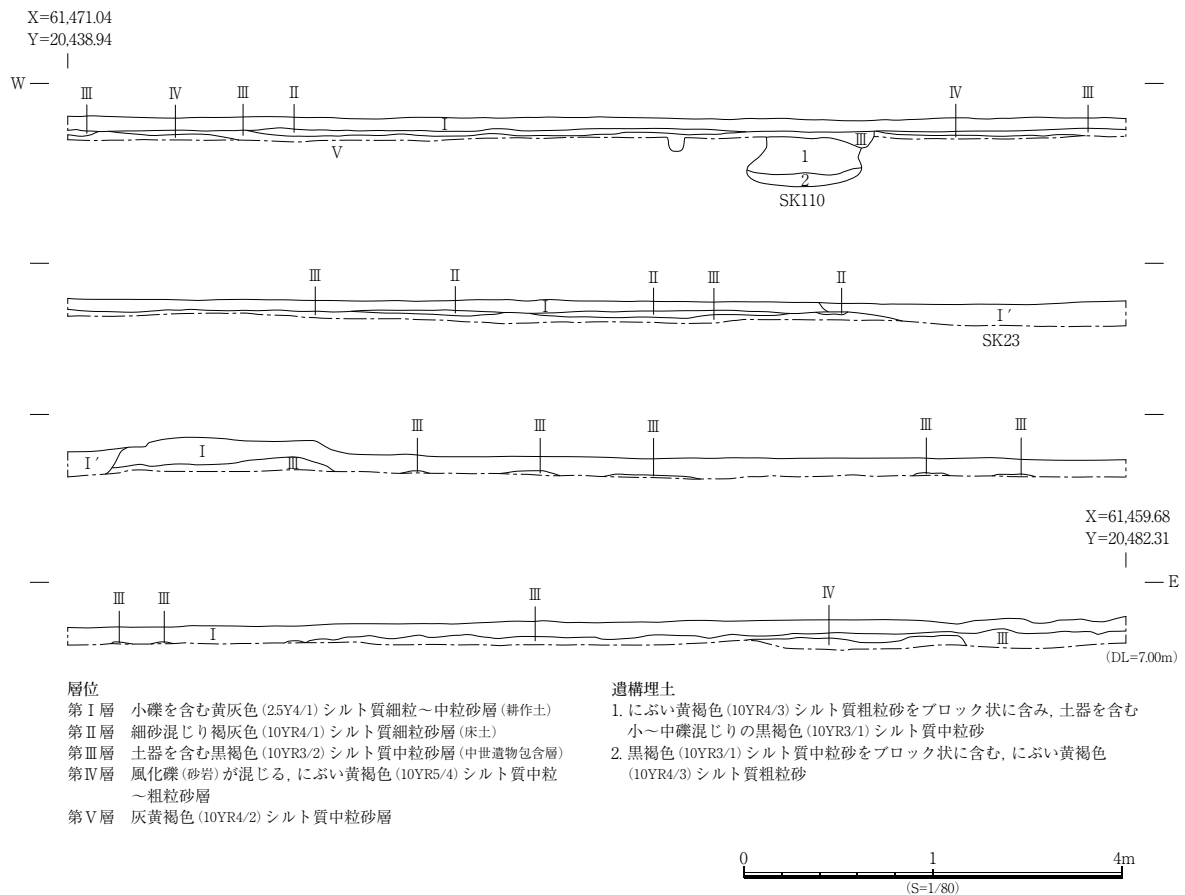


図4-86 調査区東部セクション図

(2) 検出遺構と遺物

① 掘立柱建物跡

SB36(図4-87)

調査区西部北側に位置する。桁行1間(2.4m)、梁行1間(2.3m)を測る南北棟の建物跡で、方位はN-87°-Wである。面積は7.44㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し、径は概ね25cm前後、深さは10～20cm前後を測る。柱間寸法は桁行2.4m、梁行2.2～2.3mで、北側は底の可能性も考えられる。柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は図示できるものはなかった。

SB37(図4-87)

調査区西部にあり、屋敷地を囲繞する溝SD72の北側に並行する建物跡である。桁行2間(5.0m)、梁行1間(2.1m)の東西棟で、方位はN-87°-Wである。面積は10.5㎡である。柱穴の掘方は概ね円形で、径はP1が約20cm、その他は30cm前後、深さは概ね25cm前後を測る。柱間寸法は桁行2.4～2.6m、梁行2.0～2.1mで、柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器の細片等が出土しているが、図示できるものはなかった。

SB38(図4-88)

調査区西部にあり、SB37と同じく屋敷地を囲繞する溝SD72に並行する建物跡である。北側と東

側に底付きの建物跡で、身舎部分は桁行2間(4m)、梁行1間(2.2m)の南北棟で、方位はN-3°-Eである。身舎の面積は8.36㎡である。庇の幅は約1mで、庇を含めた面積は16.3㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形を呈し、径は15~30cm、北側の庇として柱穴の径は15cm前後でそろっており、径の大きさから柵列の可能性もある。その他は25~30cm前後である。柱穴の深さは身舎側は20~30cm、庇は概ね10cm前後を測る。身舎の柱間寸法は桁行が1.8~2.0m、梁行は2.1~2.2m、庇の柱間寸法は桁行1.1~2.0m、梁行1.1~2.0mである。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器杯の底部片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SB39(図4-89)

調査区西部にあり、SB38の東隣に位置する。SB38と同じく屋敷地を圍繞する溝SD72に並行する建物跡である。桁行2間(4.1m)、梁行2間(3.8m)の南北棟で、方位はN-4°-Eである。面積は15.58㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形で、径はP6が概ね20cmで、その他は30cm前後を測る。柱穴の深さはP2は約15cm、P3・4は20cm、その他は概ね30cm前後である。柱間寸法は桁行1.95~2.1m、梁行1.8~1.9mである。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。P2・3・6から土師質土器片や瓦質土器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SB40(図4-90)

調査区西部にあり、SB37の南西約6.5mに位置する。桁行2間(6.4m)、梁行1間(1.9m)の東西棟で、方位はN-86°-Wである。面積は12.16㎡を測る。柱穴の掘方は円形から楕円形で、径はP2・3が概ね40cm、P4・5は50cm、P1・5は60cmを測る。柱穴の深さはP2・3は20cm、P4~6は概ね30cm、P1は40cmを測り、P1とP2には根石状の石が認められた。柱間寸法は桁行2.8~3.6m、梁行1.9mである。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトでピットからは土師質土器、瓦質土器、須恵器等の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SB41(図4-91)

調査区西部、屋敷地を圍繞する溝SD72内側に位置する。桁行2間(3.0m)、梁行1間(1.5m)の東西棟

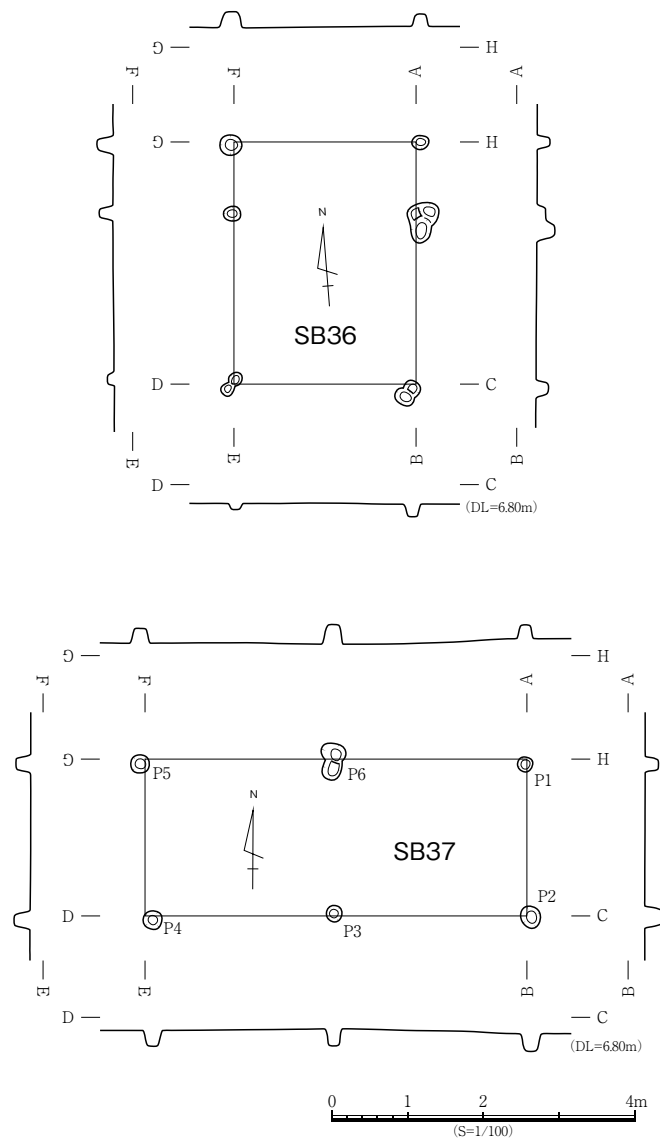


図4-87 SB36・37

で、方位はN - 75° - Wである。面積は4.5 m²である。柱穴の掘方は円形から楕円形で、径はP1は15cm, P4・6は約20cm, その他は30cm前後を測る。柱穴の深さはP2が約30cm, その他は概ね20cm前後を測る。柱間寸法は桁行1.35～1.6m, 梁行1.5mである。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、遺物はP1・2・3・5から土師質土器片が出土しているが図示できるものはなかった。

SB42(図4-91)

調査区西部, SB41の南側に位置する。桁行3間(4.0m), 梁行1間(1.8m)の東西棟で、方位はN - 82° - Wである。面積は7.2 m²である。柱穴の掘方は円形から楕円形状で、径はP1が約40cm, P2は約20cmで、その他は概ね30cm前後を測る。柱穴の深さはP7が約10cm, その他は概ね20～30cm前後である。柱間寸法は桁行1.0～1.5m, 梁行1.8mを測る。P7とP8の柱間は1.0mと狭い。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、遺物はP5以外の柱穴から土師質土器の細片や土師質土器鍋の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SB43(図4-92)

調査区西部, SB41の南側に位置する。桁行2間(3.4m), 梁行1間(1.4m)の東西棟で、方位はN - 82° - Wである。面積は4.76 m²である。柱穴の掘方は円形から楕円形状で、径はP1～3は約25cm, その他は概ね40cmを測る。柱穴の深さはP2が約20cm, P3・4は30cm, その他は50cm前後である。柱間寸法は桁行1.5～1.9m, 梁行1.3～1.4mを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、遺物は土師質土器の細片などが出土しているが、図示できるものはなかった。

SB44(図4-92)

調査区西部, SB40の南西約5.7mに位置する。屋敷地を囲繞する溝SD72内において検出された。桁行3間(5.6m), 梁行2間(3.7m)の南北棟で方位はN - 9° - Eである。面積は20.72

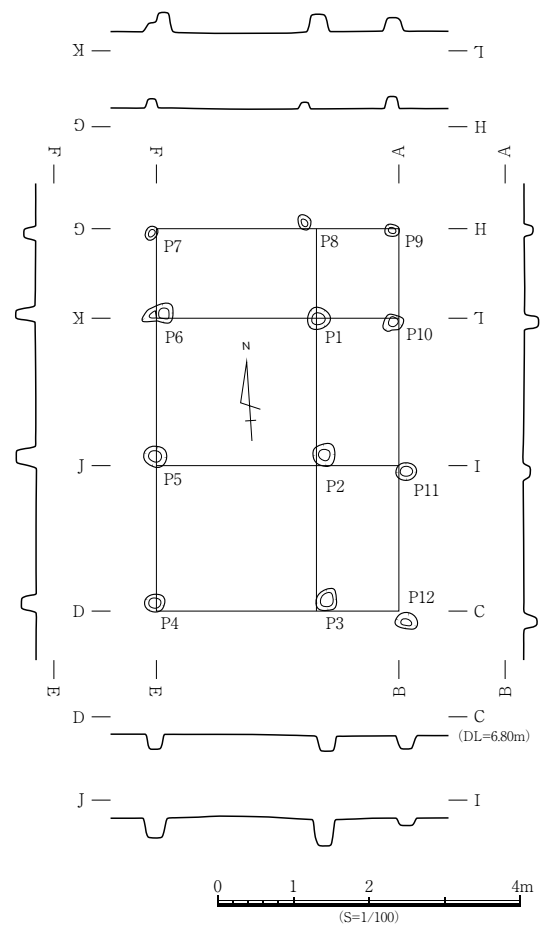


図4-88 SB38

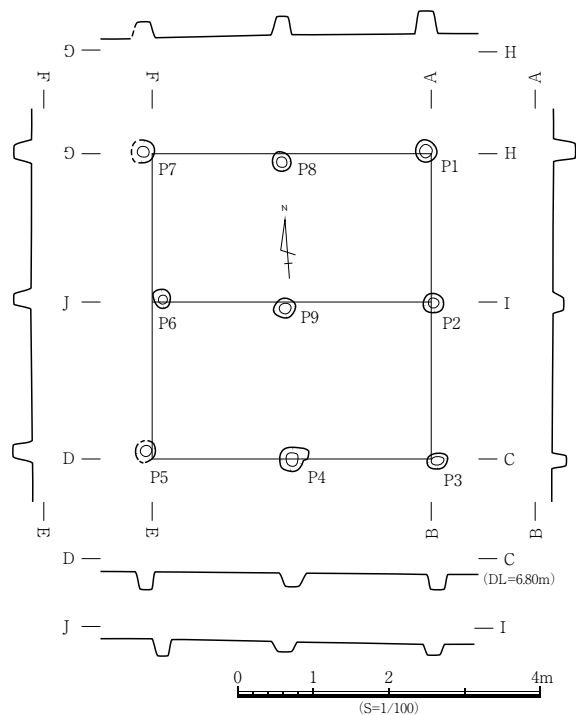


図4-89 SB39

m²を測る。柱穴の掘方は円形から楕円形状で、径は30～40 cm前後である。柱穴の深さはP4が概ね20 cm, P2は40 cm, その他は30 cm前後を測る。柱間寸法は桁行1.8～1.9 m, 梁行1.8～1.9 mである。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、遺物はP1から土師質土器や瓦質の細片, P2からは手づくね成形の土師器皿, 瓦質土器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SB45(図4-93)

調査区西部, SB39の南約4.2mに位置する。桁行2間(3.6m), 梁行1間(2m)の南北棟で、方位はN-3°-Eである。面積は7.2 m²を測る。柱穴の掘方はほぼ円形を呈し、径は20～30 cmを測る。柱穴の深さはP2は40 cm, その他は概ね20 cmである。柱間寸法は桁行1.5～2.0m, 梁行1.8～2.0mである。柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、遺物は確認できなかった。

SB46(図4-93)

調査区西部, SB38の南約9.4mに位置する。屋敷地を囲繞する溝SD72内側において検出された。桁行2間(5.1m), 梁行1間(3.1m)の東西棟で方位はN-88°-Wである。面積は15.81 m²である。柱穴の掘方は円形で、径は20～30 cmを測る。柱穴の深さはP2は約40 cm, P5は約10 cm, その他は概ね20 cm前後である。柱間寸法は桁行2.5～27m, 梁行3.0～3.1mを測る。

柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、P4以外の柱穴からは土師質土器片などが出土しているが、図示できるものはなかった。

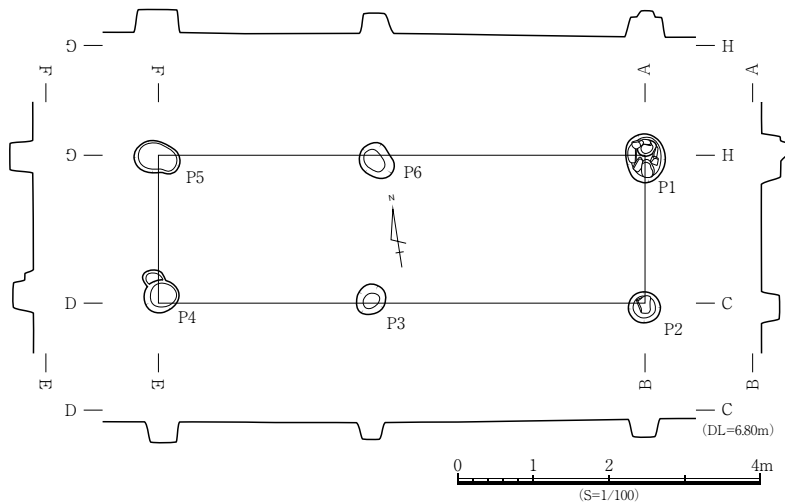


図4-90 SB40

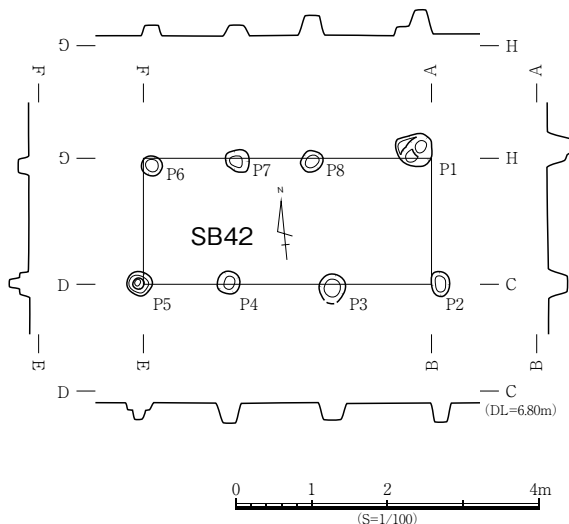
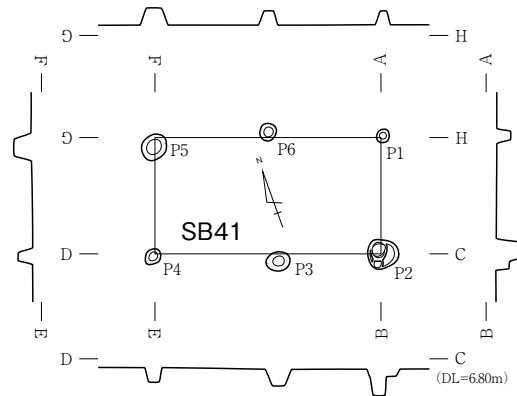


図4-91 SB41・42

SB47(図4-94)

調査区西部, SB37の西南約4.5mに位置する。屋敷地を囲繞する溝SD72内側において検出された。桁行2間(3.3m), 梁行1間(1.7m)の東西棟で方位はN-87°-Wである。面積は5.61㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形で、径はP1・3~6は概ね20cm, P2は50cmを測る。柱穴の深さはP3~5が15~20cm, P1・2・6は30~40cmである。柱間寸法は桁行1.5~1.8m, 梁行1.7mを測る。柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。

SB48(図4-95)

調査区東部, 北西に位置する。西側に底が付く建物跡で、身舎部分は桁行2間(3.6m), 梁行1間(2.6m)の南北棟で、方位はN-10°-Eである。建物の北東側は調査区北壁側に続くと考えられ、北東隅の柱穴は確認することはできなかった。身舎の面積は推定9.36㎡である。底の幅は約1mで、底を含めた面積は13.5㎡である。柱穴の掘方は円形状で、径は20~30cm, 深さはP3は約40cm, その他は30cm前後である。西側の底を構成する柱穴の径も20~30cm前後で、深さはP8が約40cm, その他は概ね30cmを測る。

身舎の柱間寸法は桁行1.7~1.9m, 梁行2.6m, 底の柱間寸法は桁行0.95m, 梁行1.8mである。柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、遺物は図示できるものなかった。

SB49(図4-95)

調査区東部にあり, SB48の南約6.0mに位置する。桁行2間(4.4m), 梁行1間(3.3m)の南北棟で、方位はN-11°-Eを示す。面積は14.52㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形で、径はP1が約10cm, その他は20~30cmを測る。柱穴の深さはP1は約10cm, その他は概ね30cm前後である。柱間寸法は梁行3.3m, 桁行2.0~2.4mを測り、柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。

遺物は土師質土器片が出土しているが、図示できるものなかった。

SB50(図4-96)

調査区東部にあり, SB49の南約2.2mに位置する。東側に底が付く建物跡で、身舎部分は桁行2間

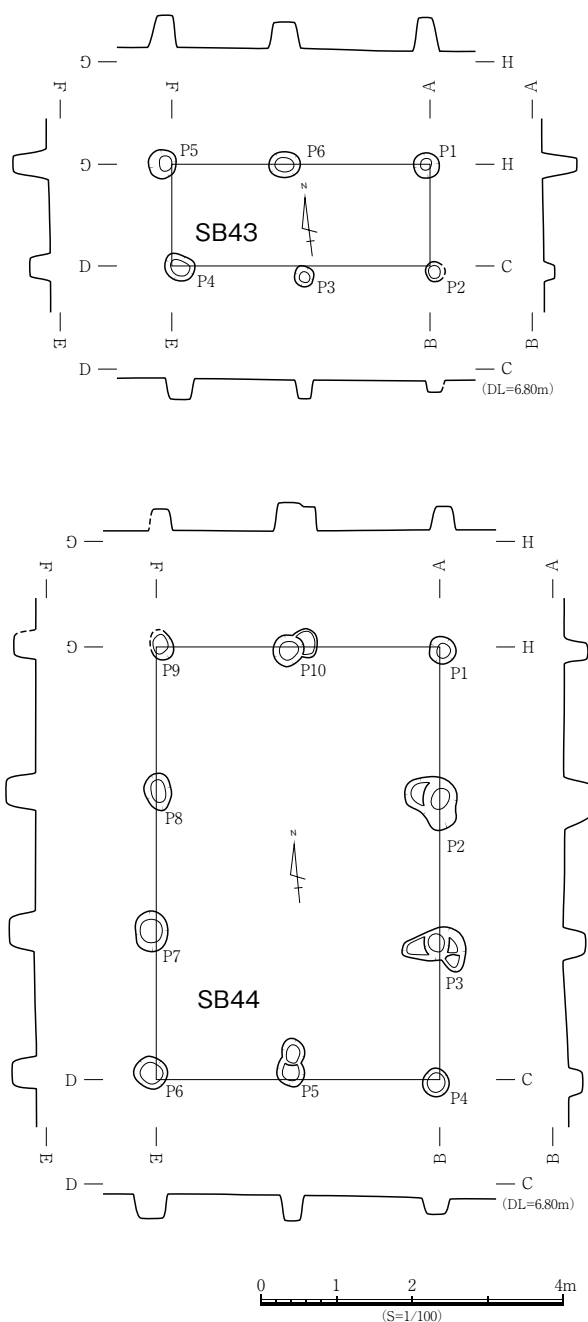


図4-92 SB43・44

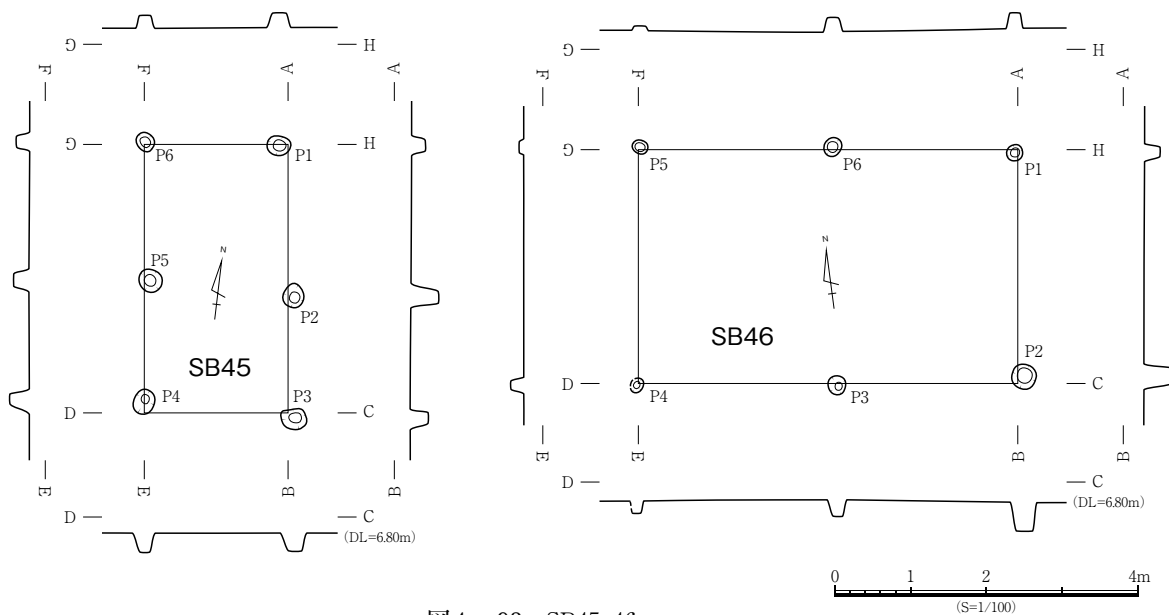


図4-93 SB45・46

(3.6m), 梁行2間(3.5m)の東西棟で, 方位は $N-80^{\circ}-W$ である。身舎の面積は 12.6 m^2 で, 底の幅は約1mで, 底を含めた面積は 15.84 m^2 である。柱穴の掘方は円形状で, 径は30cm前後を測り, 深さはP3とP5は約10cmであるが, その他は概ね30cm前後である。東側の底を構成する柱穴の径は30cm前後で, 深さは概ね30cmを測る。身舎の柱間寸法は桁行1.7~1.8m, 梁行1.7~1.9m, 底の柱間寸法は桁行0.9~1m, 梁行1.9mである。

柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで, 遺物は図示できるものはなかった。

SB51(図4-96)

調査区東部にあり, SB50の南約5.5mに位置する。

桁行3間(4.2m), 梁行1間(2.1m)の東西棟で, 方位は $N-87^{\circ}-W$ である。面積は 8.82 m^2 である。柱穴の掘方は円形から楕円形状で, 径はP6で約20cm, 他は30~40cmで, 深さはP6が約10cm, P5は約40cm, その他は概ね20cm前後である。柱間寸法は桁行1.2~1.6m, 梁行2.0~2.1mを測る。柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで, 遺物は殆どの柱穴から土師器片や土師質土器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SB52(図4-97・98)

調査区東部南西側にあり, SB51と切り合う。桁行2間(4.5m), 梁行2間(4.4m)の南北棟で方位は $N-6^{\circ}-E$ である。面積は 19.8 m^2 である。東側側柱中央のピットは確認できなかった。柱穴の掘方は円形状を呈し, 径は30cm前後で, 深さはP2が約40cm, その他は概ね30cm前後である。柱間寸法は桁行2.1

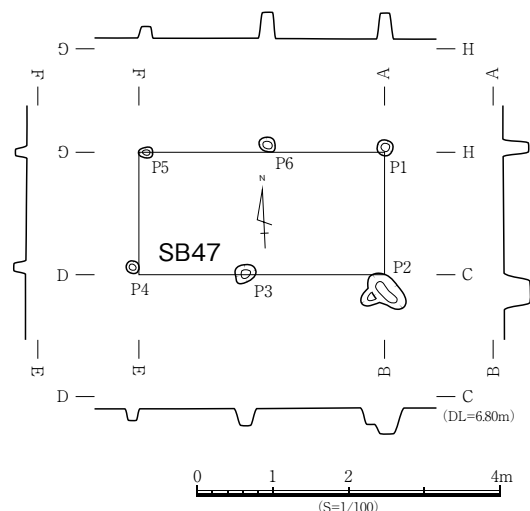


図4-94 SB47

～2.5m，梁行2.1～2.3mを測る。柱穴の埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで，遺物は殆どの柱穴から土師器片や土師質土器の細片が出土しているが，その内黒色土器碗(160)が図示できた。内面黒色処理し，ミガキ調整を施す。

SB53(図4-96)

調査区東部にあり，SB51の南1.5mに位置する。桁行1間以上(2.1m～)，梁行1間(1.8m)の東西棟である。建物を構成する西側柱穴については，攪乱のため検出できなかった。残存面積は3.78㎡である。柱穴の掘方は円形状で，径は概ね40cm前後である。深さはP3は約10cm，その他は概ね20cm前後を測る。P1～P3の底面には直径10～15cm大の石が確認された。根石の可能性も考えられる。柱間寸法は残存桁行2.0～2.1m，梁行1.8mを測り，埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器片がどの柱穴からも出土しているが，図示できるものはなかった。

SB54(図4-97)

調査区東部にあり，SB51の南約2.0mに位置する。桁行2間(3.4m)，梁行1間(2.3m)の東西棟で，方位はN-82°-Wである。SB52・53と切り合う。面積は7.82㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形状で，径は30～35cmを測る。深さはP6で約10cm，P1とP3は20cm前後，その他は概ね40cm前後を測る。柱間寸法は桁行1.4

～2.0m，梁行2.1～2.3mで，埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物はP6を除いた柱穴から土師器や土師質土器片等が出土しており，P4からは多数の土師質土器片が出土している。図示できた遺物は土師質土器皿(158・159)と土師器甕(157)である。158・159は底部外面に回転糸切り痕が認められる。口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整である。157は口縁部はくの字に外反し，内外面にはユビオサエと丁寧なナデ調整を施す。搬入品と考えられる。

SB55(図4-99・100)

調査区東部南西側にあり，SB51の南3.5mに位置する。桁行2間(4.3m)，梁行1間(2.5m)の東西棟で，方位はN-84°-Wである。SB53・54と切り合う。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し，径はP3

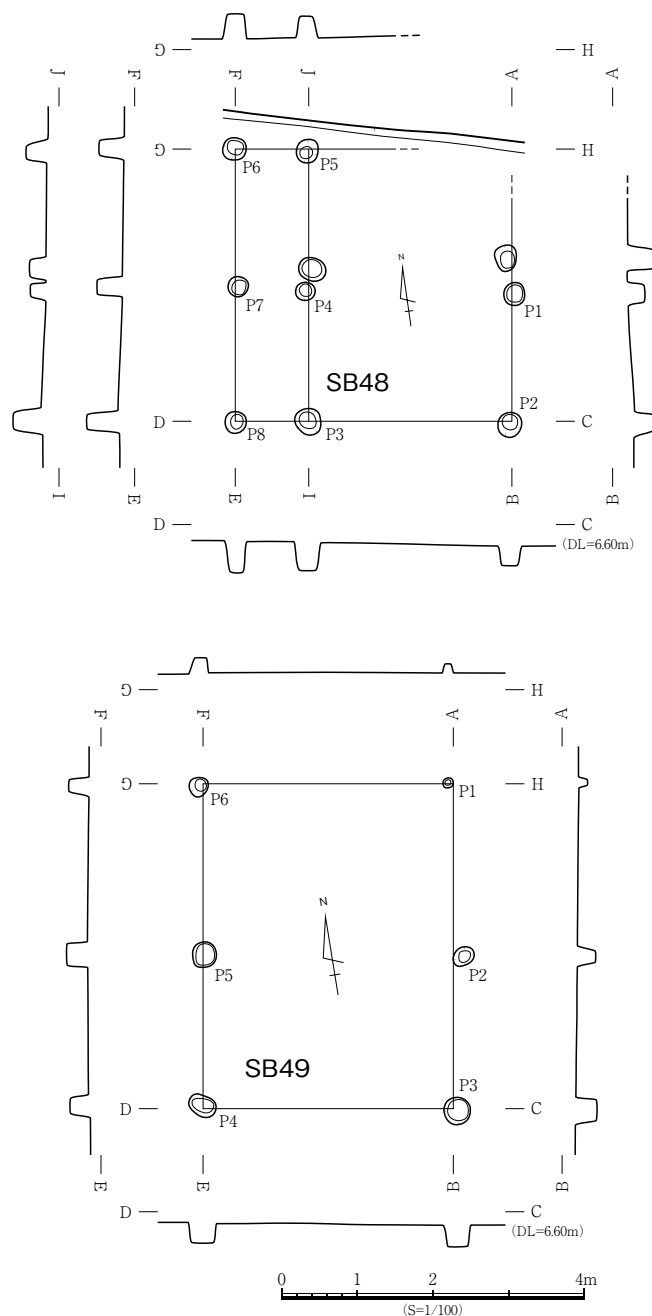


図4-95 SB48・49

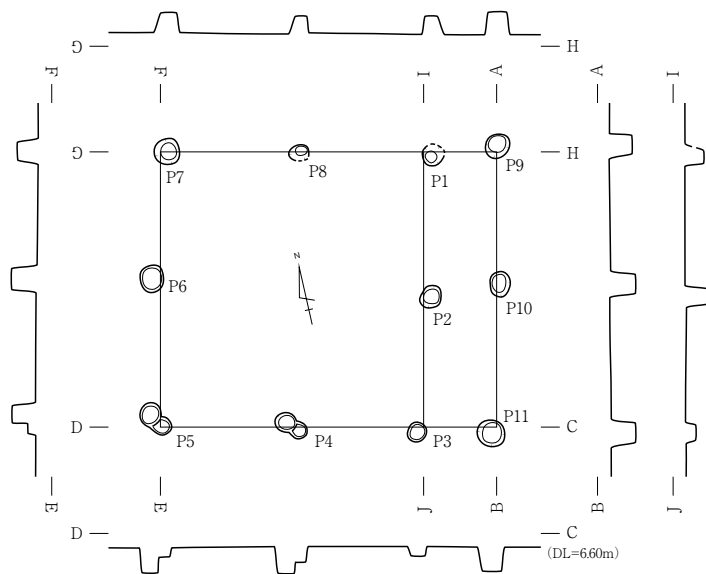
で50cm, 他の柱穴は40cm前後を測る。深さは概ね 30 cm前後である。柱間寸法は桁行1.8~2.4m, 梁行2.4~2.5mを測り, 埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物はP4を除いた柱穴埋土から土師器, 土師質土器片の他, P3からは黒色土器碗の口縁部片が出土している。図示できたものは土師質土器の皿(161・162)である。底部回転糸切り痕が残り, 体部から口縁部はナデ調整を施す。

SB56(図4-99)

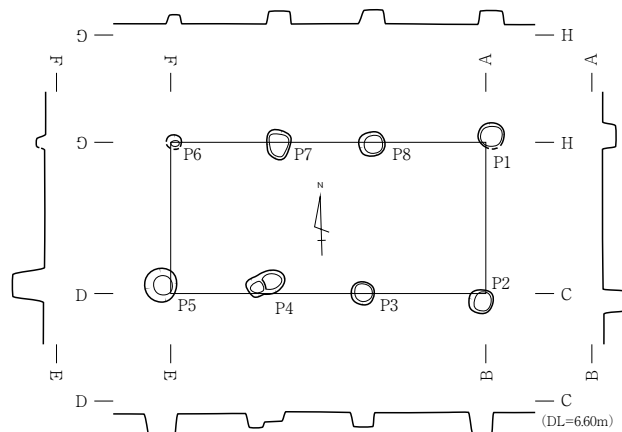
調査区東部南西隅に位置する。桁行2間(4.9m), 梁行2間(4.5m)の南北棟で, 方位はN-6°-Eである。SB57・58と切り合う。北側側柱の柱穴は後世の削平のため確認できなかった。面積は22.05㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形状で, 径は30~40cmを測る。柱穴の深さはP3・6が20cm, その他は概ね30cmを測る。柱間寸法は桁行2.2~2.6m, 梁行2.2~2.3mである。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SB57(図4-101)

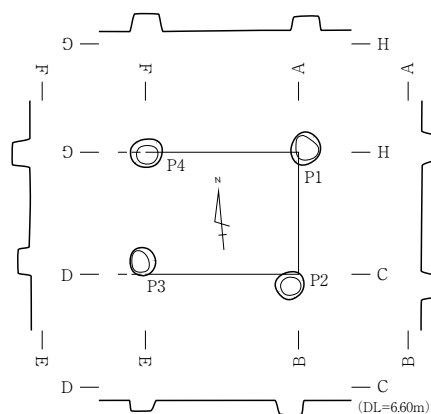
調査区東部西南側にあり, SB51の南側に位置する。桁行3間(5.8m), 梁行1間(1.9m)の東西棟で, 方位はN-4°-Eである。建物の北側側柱の一部は上面を攪乱のため削平されていた。SB58と切り合う。面積は約11㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈しており, 径はP4, P5は約40cm, 他は20~30cm前後である。柱間寸法は桁行1.7~2.0m, 梁行1.8~1.9mを測る。埋土は細砂混じりの



SB50



SB51



SB53

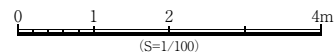


図4-96 SB50・51・53

黒褐色シルトで、遺物は土師質土器の細片が出土している。

SB58(図4-101)

調査区東部西南側にあり、SB51の南に位置する。桁行2間(4.4m)、梁行1間(2.3m)の東西棟で、方位はN-83°-Wである。建物の北側側柱は上面を攪乱のため削平されていた。SB57と切り合う。建物の南側側柱の西隅の柱穴(P4)は調査区南壁際で確認されており、それより梁行は拡張する可能性も考えられる。面積は約10.12㎡である。柱穴の掘方は円形状を呈しており、径は概ね30cm前後で、深さはP2・P3・P5で20cm前後、その他は30～40cm間を測る。柱間寸法は桁行2.1～2.2m、梁行2.2～2.3mである。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトで、遺物はP6以外の柱穴から土師質土器の細片が出土している。

② 柵列

SA24(図4-102)

調査区西部北側、SB38の東側に位置する南北塀跡(N-2°-E)である。3間(6m)を検出し、柱穴の掘方は円形状で、径は概ね25cmを測る。深さはP1が約40cm、P2・4は約10cm、P3は20cmを測る。柱間寸法は1.9～

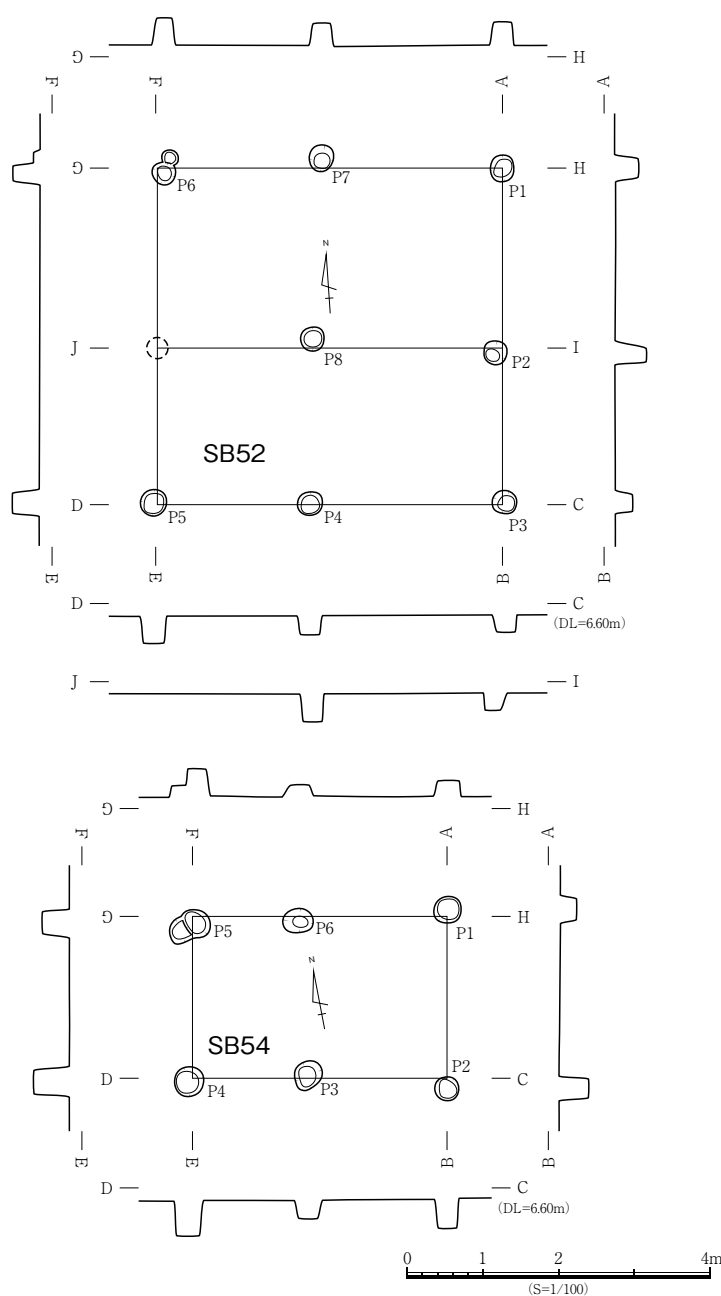


図4-97 SB52・54

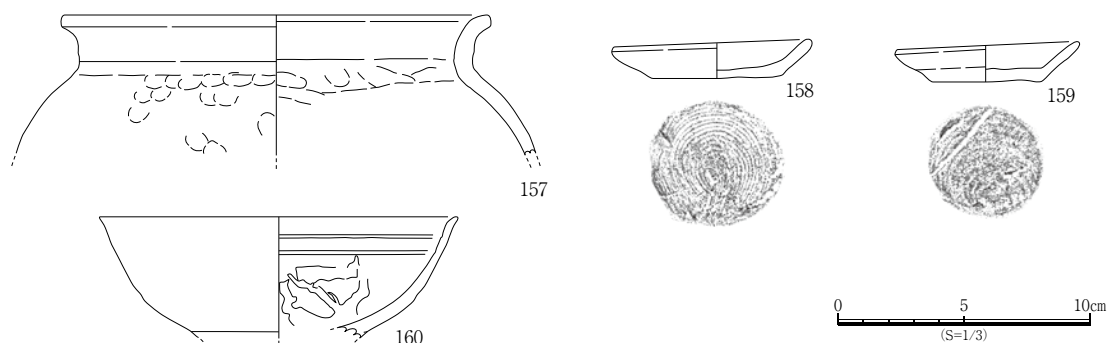


図4-98 SB52・54出土遺物実測図

2.1mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトで、遺物では土師質土器片が出土している。

SA25(図4-102)

調査区西部、東隅に位置する。屋敷地を区画する溝SD72-1の東側に並行して3間(5.8m)を確認した。柱穴の掘方は円形状を呈し、径はP1は約50cm、P2から4は概ね25cmである。深さは概ね10cm前後を測る。柱間寸法は1.8~2.1mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

SA26(図4-102)

調査区西部、南東隅に位置する。屋敷地を区画する溝SD72の東側に並行して3間(6.4m)を確認した。柱穴の掘方は円形状を呈し、径は25~35cmを測り、深さはP1・2・4で30cm前後、P3は概ね20cmを測る。柱間寸法は2.1~2.2mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

SA27(図4-102)

調査区東部西側にあり、SB50の南側に位置する東西堀跡である。3間(5.4m)を検出し、柱穴の掘方は円形から楕円形状で、径は概ね30cmを測る。柱穴の深さはP1・2で30cm、P3・4は概ね20cmを測る。柱間寸法は1.8mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

SA28(図4-102)

調査区東部中央にあり、調査区を縦断するSD90の西側に位置する。3間(6.3m)を検出し、柱穴の掘方は円形状を呈する。径は概ね20cmを測り、柱穴の深さは概ね20cmである。柱間寸法は1.7~2.6mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

SA29(図4-102)

調査区東部北東側にあり、区画溝SD94の北側に並行して位置する。3間(6.4m)を検出し、柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈する。径は30~40cmを測り、柱穴の深さはP3が20cm、P1・2・4は概ね

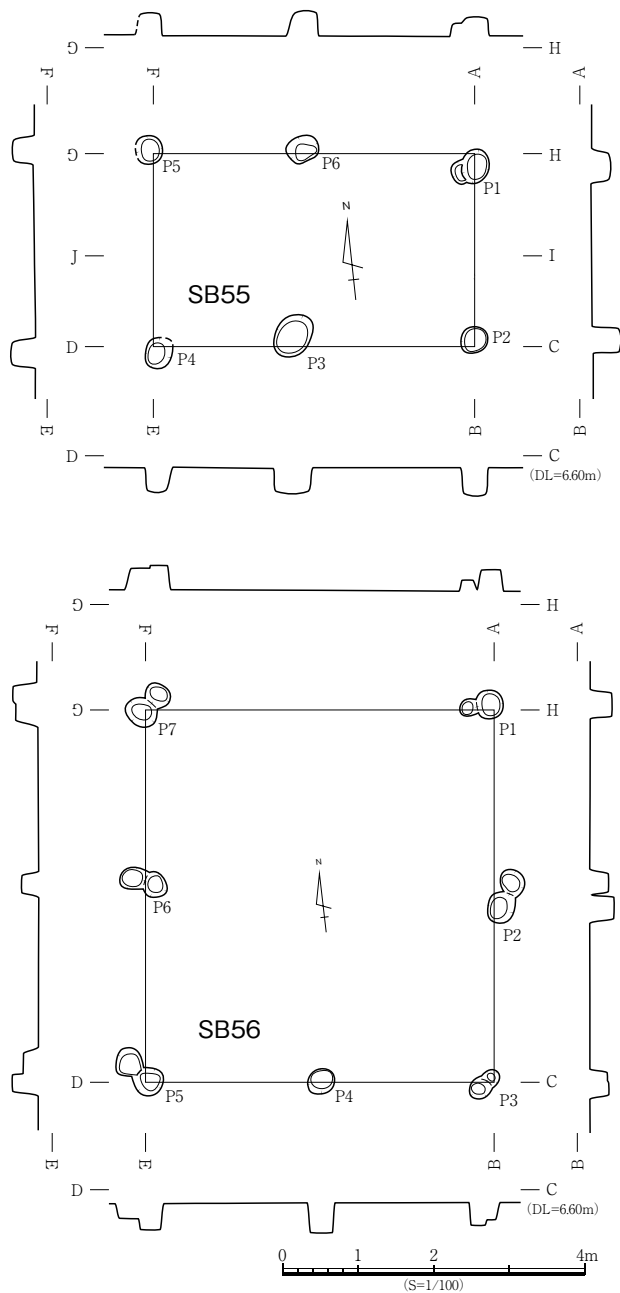


図4-99 SB55・56

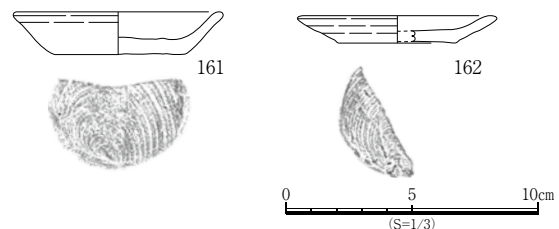


図4-100 SB55出土遺物実測図

30cmである。柱間寸法は2.0～2.3mを測り、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

SA30(図4-102)

調査区東部南側にあり、SD91の西側に並行して位置する。4間(6.4m)を検出した。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈する。径は20～35cmを測り、柱穴の深さはP1・3・5が約10cm、P2・4は概ね30cmである。柱間寸法は1.2～2.0mを測り、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

SA31(図4-102)

調査区東部中央にあり、SD90の西側に並行して位置する。3間(4.2m)を検出した。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈する。径は30～40cmを測り、柱穴の深さはP1・3・4が約25cm、P2は概ね40cmである。柱間寸法は1.1～1.4mを測り、埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

③ 土坑

土坑については主要なものについて具体的に記述するが、それ以外のものについては土坑一覧表にまとめた。

SK73(図4-103)

調査区西部、南西隅位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ約18cm、断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトで、褐色シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK76(図4-103)

調査区西部にあり、掘立柱建物跡SB47の南西約1.2mに位置する。平面形は円形で、直径0.85m、深さ約13cm、断面形は箱形を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトで、暗褐色(7.5YR4/4)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器、土師器釜の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK77(図4-103)

調査区西部にあり、掘立柱建物跡SB41の南東部に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸0.82m、短軸0.66m、深さ約17cm、断面形は扁平なU字状を呈する。埋土は1層:細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)

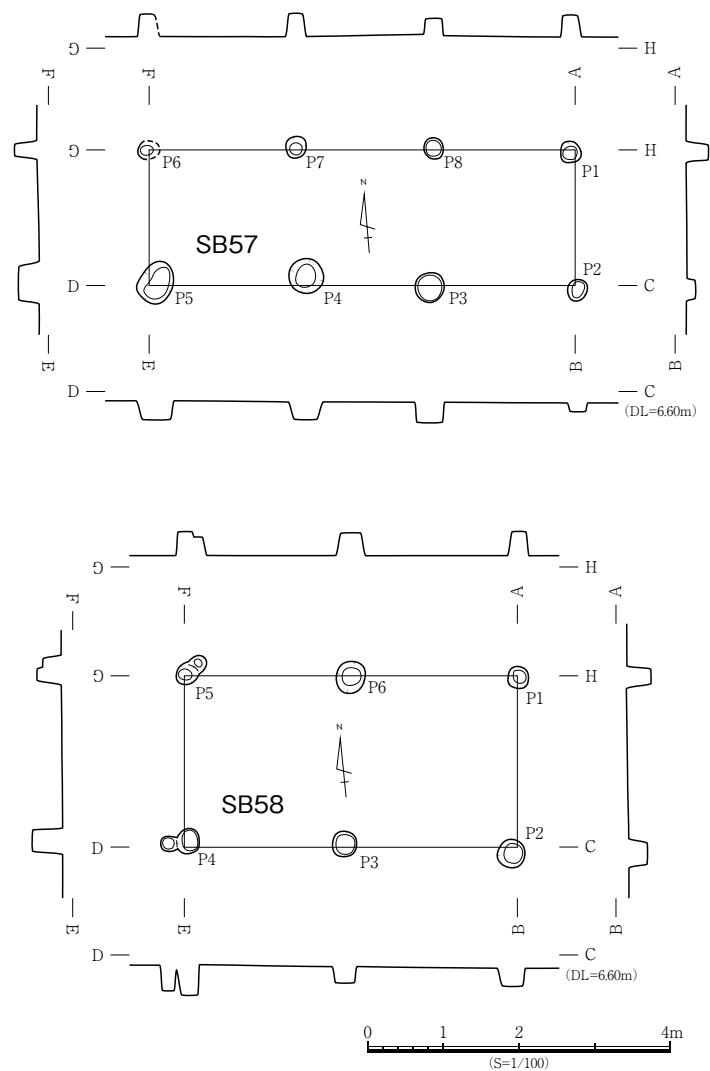


図4-101 SB57・58

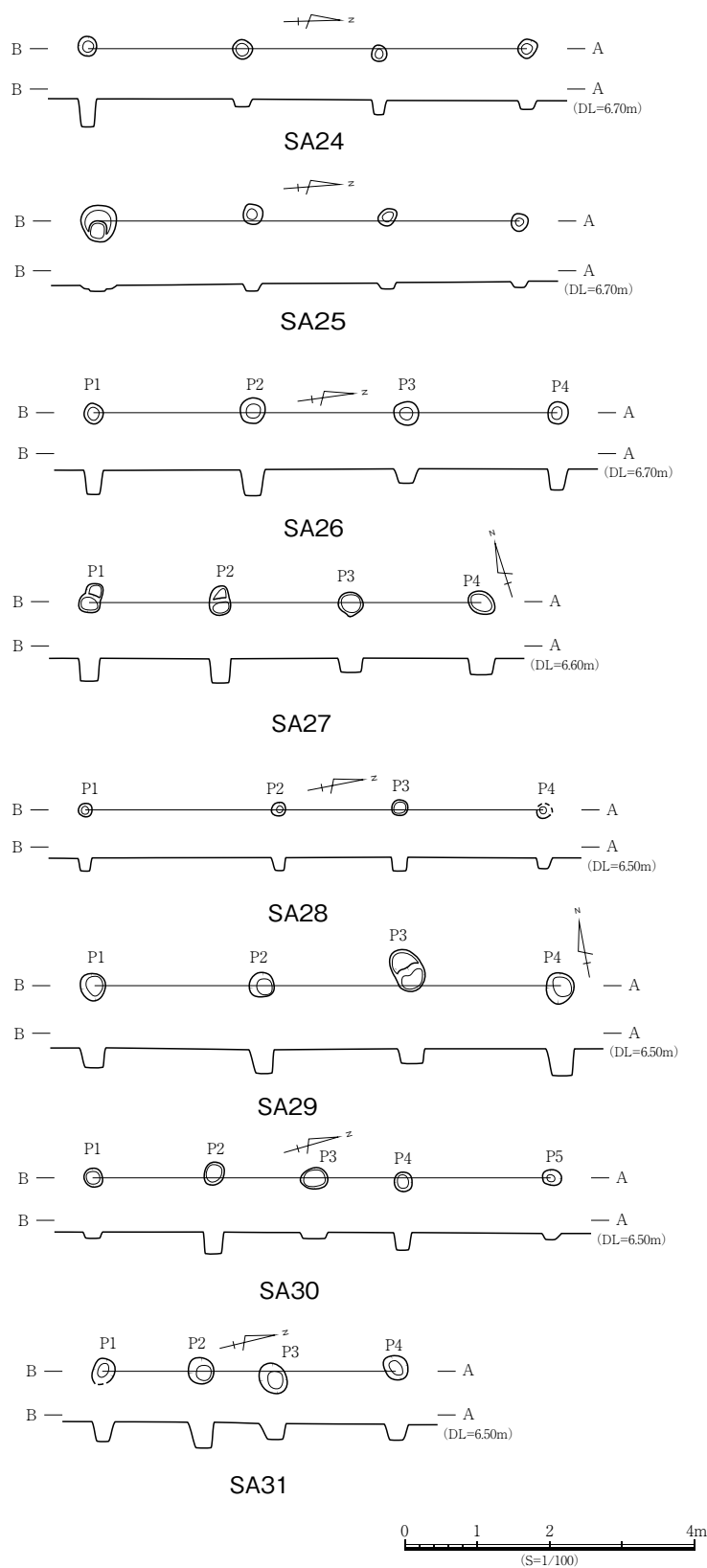


図4-102 SA24～31

シルトで5 cm大の礫を含む, 2層: 細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトに暗褐色(7.5YR3/4)シルトをブロック状に含む。遺物は手づくね成形の皿, 土師質土器の破片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK79(図4-103)

調査区西部にあり, 調査区中央を南北に縦断するSD82の西側約3.0mに位置する。上面ピットに切られている。平面形は円形状で, 長軸0.87m, 短軸0.76m, 深さは約12 cm, 断面形は箱形を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器の破片が出土している。

SK80(図4-103・104)

調査区西部, 中央部に位置する。平面形は楕円形で, 長軸2.15m, 短軸1.18m, 深さは約13 cmで, 断面形は皿状を呈する。上面ピットに切られる。埋土は1層: 細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルト, 2層: 黒褐色(7.5YR2/2)シルトに暗褐色シルトのブロックを含む。遺物は手づくね成形の皿, 土師質土器杯, 瓦質土器鍋, 須恵器甕などの破片が出土しており, その内瓦質土器釜(163・164)が図示できた。163は口縁下には断面三角形状の鐏が廻り, 鐏部分は強いユビオサエを施す。口縁部はナデ調整で胴部外面にはユビオサエとナデ調整を施す。外面には煤が付着する。164は口縁下粘土帯状の鐏を貼付し, 鐏側面はユビオサエとナデ調整を施す。外面にはユビオサエ, 内面は丁

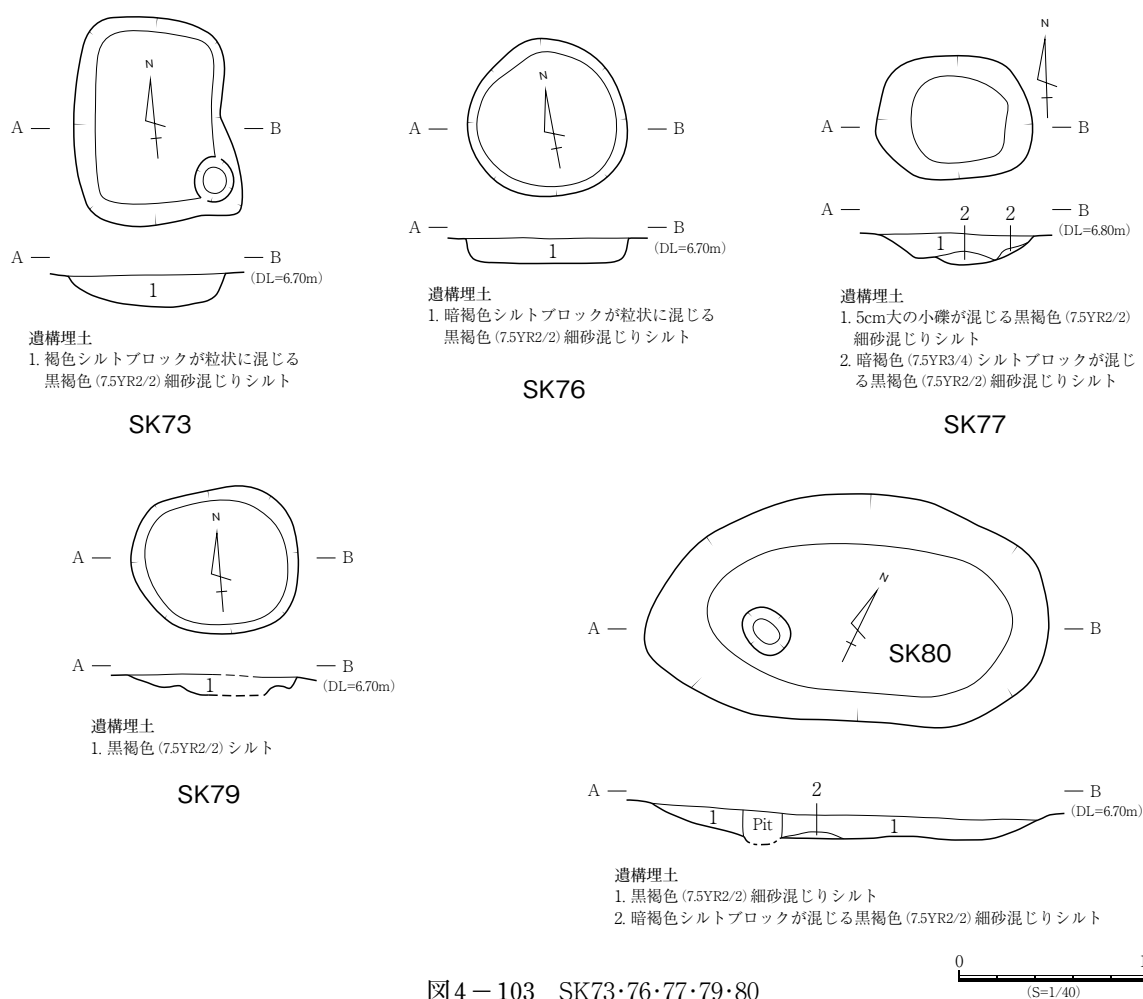


図4-103 SK73・76・77・79・80

寧なナデ調整を施す。外面には煤が付着する。

SK81(図4-105)

調査区西部にあり、SK80の東隣に位置する。調査区中央を縦断するSD82を切る。平面形は楕円形状を呈し、長軸0.86m、短軸0.79m、深さ約15cm、遺構の断面形は扁平なU字状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトに1cm大の小礫を含む。遺物は手づくね成形の皿、瓦質土器鍋、土師質土器の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK83(図4-105・106)

調査区西部、南西部に位置する。平面形は

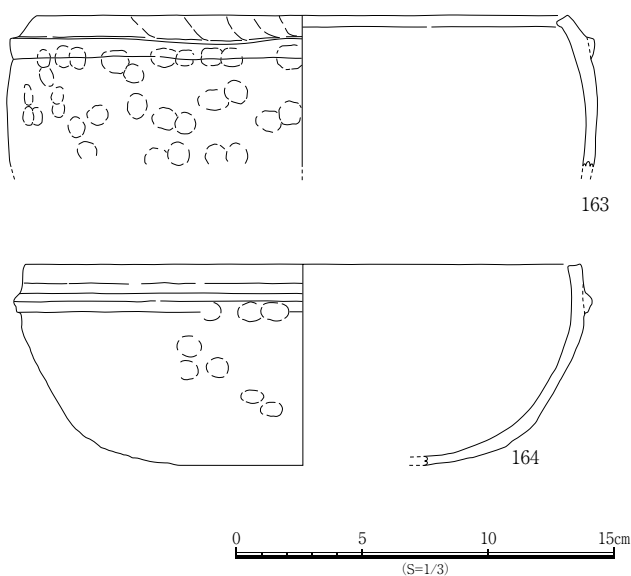


図4-104 SK80出土遺物実測図

不整形で、長軸1.12m、短軸1.05m、深さは約8cmで、遺構の断面形は箱状を呈する。掘立柱建物跡SB44の南側側柱によって切られている。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトで、手づくね成形の皿、瓦質土器鍋などの破片が出土しており、その内手づくね成形の土師器皿(165)を図示できた。体部内外面はユビオサエとナデ調整を施す。特に底部外面は丁寧なナデ調整を呈する。

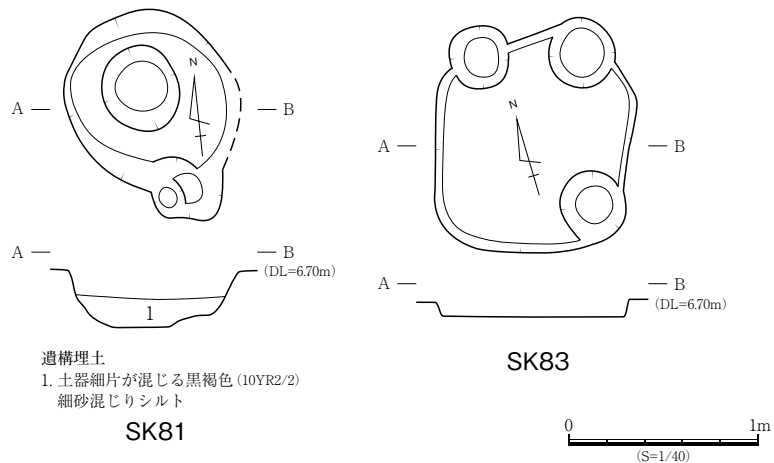


図4-105 SK81・83

SK85(図4-107)

調査区西部にあり、調査区中央を南北に縦断するSD82の西側に位置する。平面形は方形状を呈すると考えられるが、遺構の南側は調査区南壁にかかっており、調査区外に広がる可能性もある。残存長は長軸1.25m、短軸1.15m、深さは約12cmで、断面形は箱形を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトで、3cm大の小礫や褐色シルトのブロックを含む。遺物は土師質土器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

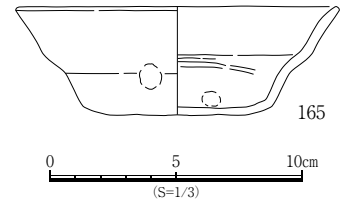


図4-106 SK83出土遺物実測図

SK86(図4-108)

調査区西部中央に位置する。平面形は不整楕円形状で、遺構の北側は隅丸状を呈し、東側面はSK87に切られる。長軸1.92m、短軸0.77m、深さは約27cm、遺構の断面形は逆台形状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトに褐色シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器杯や土師質土器鍋の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

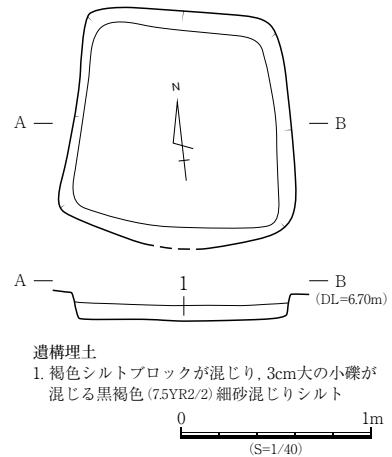


図4-107 SK85

SK87(図4-108)

調査区西部中央に位置する。平面形は不整長形状で、長軸1.73m、短軸1.05m、深さ約33cm、遺構の断面形は逆台形状を呈する。SK86を切る。埋土は1層:細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトで、土器片及び3cm大の小礫を含む、2層:黒褐色(7.5YR2/2)シルトに褐色シルトをブロック状に含む、3層:細砂混じりの暗褐色(7.5YR3/4)シルトである。遺物は土師質土器等が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK88

調査区西部、南西部に位置する。平面形は不整円形状をし、長軸0.89m、短軸0.76m、深さ20cmで土坑の断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトで土器片及び1cm大の

小礫を含む。遺物は手づくね成形の土師器皿，土師質土器，瓦質土器鍋の破片が出土しているが図示できるものはなかった。

SK89(図4-109・110)

調査区西部にあり，SK90の北西部に隣接する。平面形は楕円形状で，長軸0.95m，短軸0.76m，深さ約8cm，遺構の断面形は皿状で段状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器杯の口縁部破片や須恵器の破片などが出土しており，その内土師質土器杯(166)が図示できた。底部外面には回転糸切り痕が認められ，体部から口縁部は外上方に開いて伸びる。口唇部は丸くおさめ，内外面ともにナデ調整を施す。

SK91(図4-111・112)

調査区西部にあり，SK89の南側に隣接する。平面観察では2つの土坑の切り合いと思われたが，土層での観察では確認できなかったため，同じ遺構として記述する。平面形は不整楕円形状で，長軸1.30m，短軸1.15m，深さ約18cm，遺構の断面形は箱形で西壁側は段状を呈する。この西壁側から手づくね成形の皿がまともに出て出土した。埋土は1層：細砂混じりの黒褐色シルト(7.5YR2/2)に褐色ブロックを含む，2層：細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトに土器片を含む，3層：細砂混じりの黒色シルト(7.5YR2/1)である。遺物は手づくね成形の皿や瓦質土器が出土しており，その内手づくね成形の土師器皿(167~178)が図示できた。167~173はやや小振りの皿で，口径は概ね8~9cm大である。174~178は口径は13~15cm前後を測る。ともに口縁部は丁寧なヨコナデを施す。

SK92

調査区西部中央南端にあり，調査区中央を南北に縦断するSD82の東側に位置する。平面形は楕円形状を呈すると思われるが，遺構の南側は調査区北壁にかかっており，調査区外に伸びると思われる。残存長は長軸0.94m，短軸0.81mで，深さは約14cm，断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトで土器片を含む。遺物は土師質土器細片と瓦質土器鍋の破片が出土しているが，図示できるものはなかった。

SK93(図4-113)

調査区西部中央にあり，SB37の南約6.0mに位置する。平面形

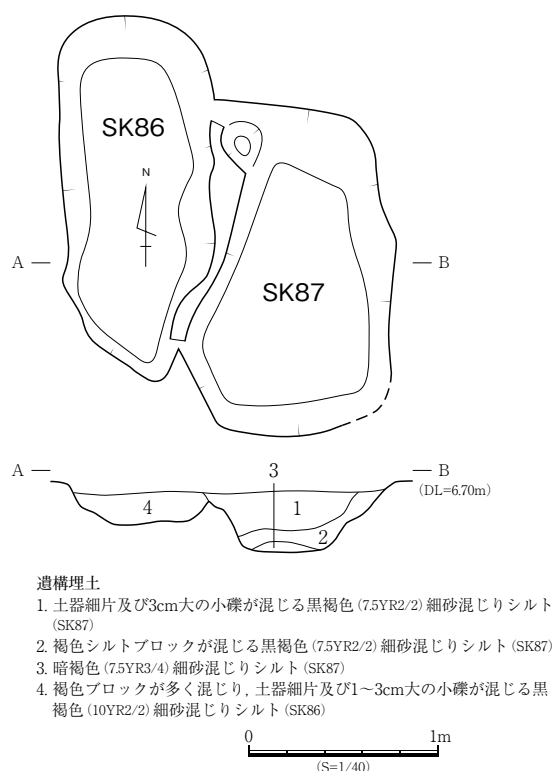


図4-108 SK86・87

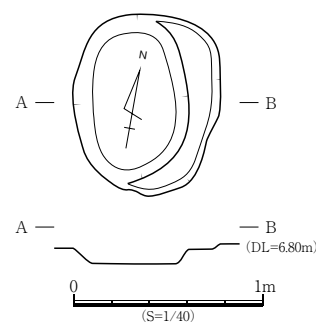


図4-109 SK89

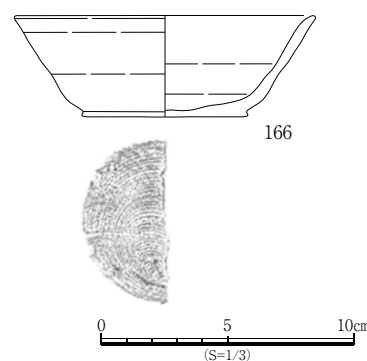


図4-110 SK89出土遺物実測図

は楕円形状を呈すると考えられるが、遺構の南側は調査区北壁にかかっており、調査区外に伸びると思われる。残存長は長軸 1.05m、短軸 0.78m で、深さは約 14cm、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトで、遺物は土師質土器の細片が出土している。

SK94(図4-113)

調査区西部のあり、調査区中央を南北に縦断するSD81の東側に位置する。平面形は不整円形で、直径約 66 cm、深さは約 16 cm で断面形は箱形を呈する。SK95と切り合う。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器片が出土してゐる。

SK95(図4-113)

調査区西部にあり、調査区中央を南北に縦断するSD81の東側に位置する。平面形は隅丸楕円形で、長軸 1.65m、短軸 0.75m、深さは約 12 cm で、断面形は箱状を呈する。SK94 と切り合う。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器、瓦質土器、須恵器、土師器の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK97(図4-113)

調査区西部にあり、掘立柱建物跡SB46の西側側柱に切られ、SK98に切られる土坑である。平面形は楕円形状で、長軸 1.75m、短軸 0.92m、深さ 14 cm、断面形は皿状を呈する。埋土は 1 層:黒褐色(7.5YR3/2)シルト、2 層:細砂混じりの暗褐色(7.5YR3/3)シルト、3 層:土器片を含む細砂混じりの黒

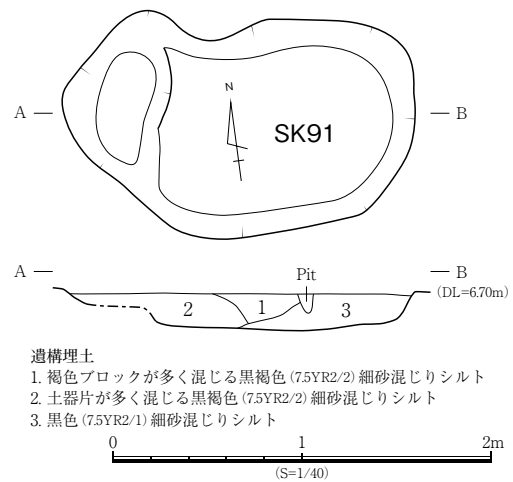


図4-111 SK91

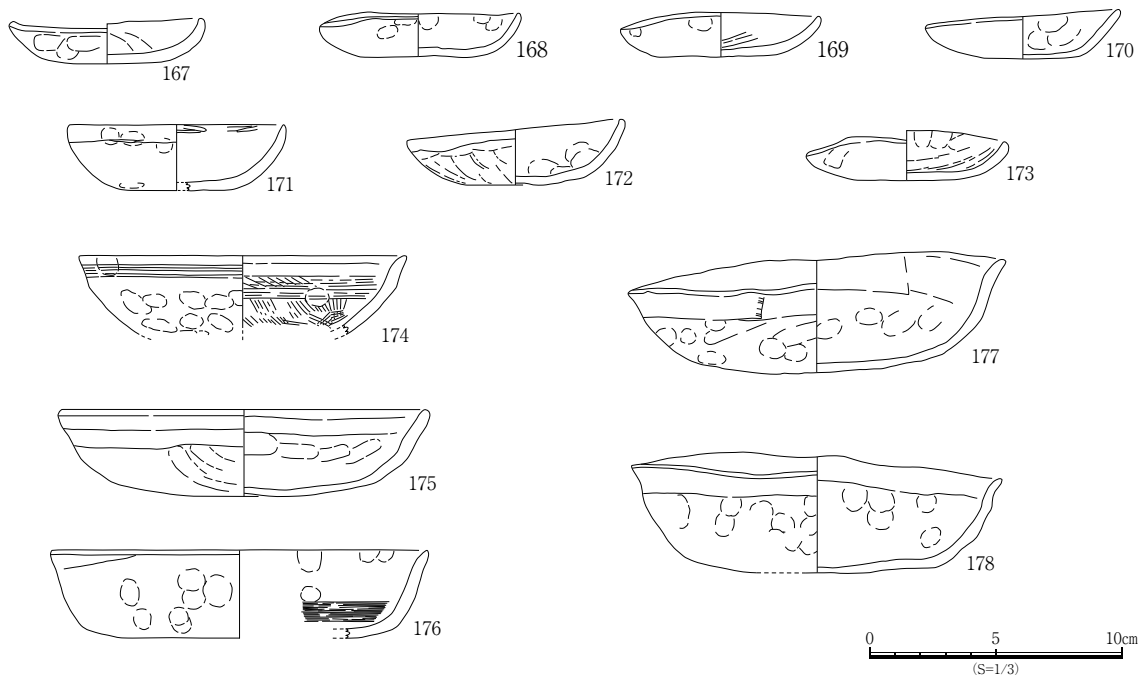


図4-112 SK91出土遺物実測図

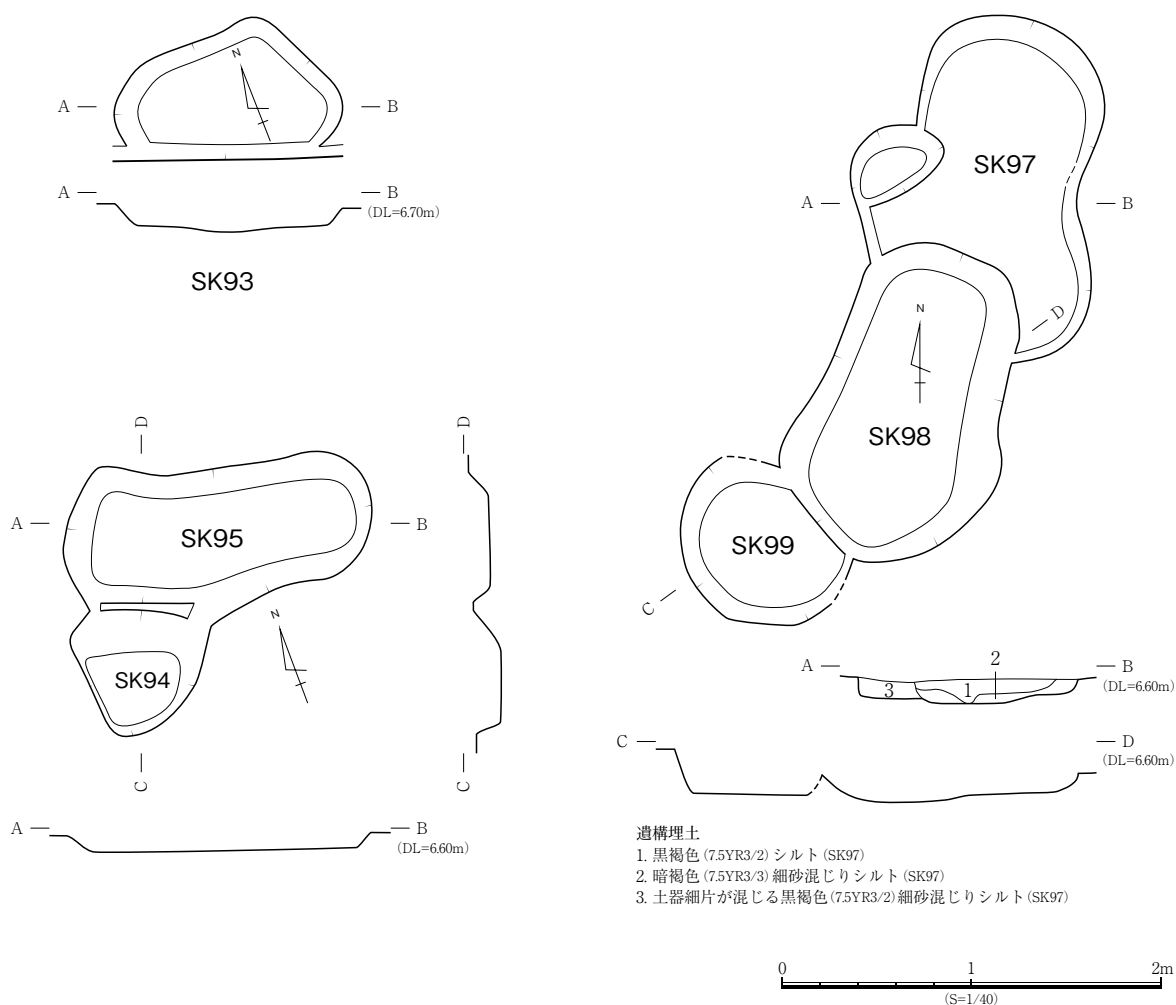


図4-113 SK93～95・97～99

褐色 (7.5YR3/2) シルトある。遺物は土師器甕, 土師質土器, 須恵器, 手づくね成形の土師器皿などの破片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK98(図4-113・114)

調査区西部にあり, 掘立柱建物跡SB46の西側側柱に切られる。またSK97を切る。平面形は不整楕円形で, 長軸 1.72m, 短軸 0.95m, 深さ 13cm, 断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒色 (10YR2/1) シルトで土器片を含む。遺物は土師質土器杯, 瓦質土器鍋, 須恵器などの破片が出土しており, その内土師質土器杯(179)が図示できた。底部外面には回転糸切り痕が残し, 内外面はナデ調整を施す。

SK99(図4-113)

調査区西部にあり, SK98に切られる。平面形は円形状で, 径は 0.96m, 深さは 25cm, 断面形は逆台形状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色 (10YR2/2) シルトで, 土師器甕, 土師質土器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

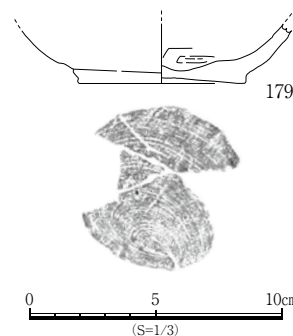
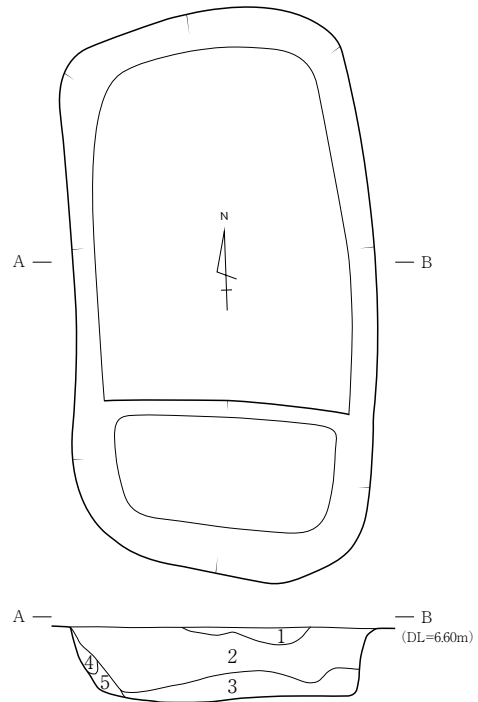


図4-114 SK98出土遺物実測図

SK100(図4-115・116)

調査区西部にあり、調査区中央部を南北に縦断するSD81の東約3.2mに位置する。平面形は隅丸長方形状で、長軸2.98m、短軸1.61m、深さ約39cm、断面形は箱形を呈する。遺構の南側は深さ48cmで、やや深くなっている。埋土は1層:細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルト、2層:黒色(10YR2/1)シルトに1~3cm大の礫が混じる。3層:黒褐色(10YR2/3)シルトに褐色シルトをブロック状を含む、4層:細砂混じりの黒色(10YR2/1)シルト、5層:細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器、瓦質土器鍋、備前焼甕、須恵器甕などの破片が出土しており、その中で瀬戸天目茶碗(180)と備前焼播鉢(181)が図示できた。180は口縁部で内外面には褐色と黒褐色釉を施釉する。181は端部は上方に拡張させており、IV期に属すると思われる。



遺構埋土

1. 1cm大の地山礫が混じる黒褐色(10YR2/2)細砂混じりシルト
2. 褐色シルトブロックが混じり、1~3cm大の小礫が混じる黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト
3. 褐色シルトブロック及び3cm大の小礫が多く混じる黒褐色(10YR2/3)細砂混じりシルト
4. 黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト
5. 黒褐色(7.5YR2/2)細砂混じりシルト

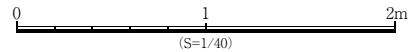


図4-115 SK100

SK101(図4-117)

調査区西部、中央部北側にあり、掘立柱建物跡SB38の西約3.0mに位置する。平面形は隅丸長方形状で、長軸2.04m、短軸0.82m、深さは約15cmで土坑の断面形は逆台形状を呈する。埋土は1層:黒褐色(7.5YR3/2)シルトに褐色シルトを含む。2層:細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。遺物は土師器の細片などが出土しているが、図示できるものはなかった。

SK105(図4-117)

調査区東部にあり、SB50の南西約3.0mに位置する。遺構の一部は攪乱により削平されているが、平面形は楕円形状で、長軸1.66m、短軸1.34m、深さは10cmを測る。遺構の断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで土器片を含む。遺物は土師質土器杯、手づくね成形の土師器皿、須恵器などの破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

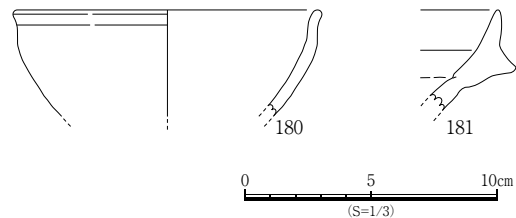


図4-116 SK100出土遺物実測図

SK106(図4-117)

調査区東部にあり、調査区の西壁に接する。遺構の一部は西側に延びると考えられる。残存平面形は楕円形状で長軸1.9m、短軸1.5m、深さは17cm、遺構の断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトでにぶい黄褐色(10YR5/4)シルトをブロック状を含む。遺物は土師質土器、須恵器などの破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK107(図4-118・119)

調査区東部にあり、SK106の南約1.6mに位置する。遺構の東側の一部は攪乱により削平されてい

る。推定平面形は円形状で、直径は約 1.3m を測る。深さは 28 cm で遺構の断面形は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色 (10YR3/2) シルトにぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトをブロック状に含む。遺物は青花皿 (183) と白磁 (182) が図示できた。また、手づくね成形の土師器皿や土師質土器の細片が出土している。183 は口縁部で、外反し外面には牡丹唐草文、内面見込みにも文様を確認できる。182 は白磁の杯で白濁色の釉を施釉する。口縁端部は輪花状を呈する。白磁 D 類に属する。

SK108

調査区東部にあり、SK106 の北東約 3.6m に位置する。遺構の西側は攪乱により削平されている。推定平面形は楕円形状で、南北 2.73m、東西 2.08m 以上を測る。深さは 8 cm で断面形は皿状を呈する。埋土は黒褐色 (10YR3/2) シルトで土器片を含む。遺物は手づくね成形の皿、土師質土器、瓦質土器の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK109 (図4-117・119)

調査区東部にあり、SK106 の北側に隣接する。遺構はSK106と同じく西側に伸びると考えられる。残存平面形は楕円形状で長軸 0.9m、短軸 0.55m、深さは 17 cm、遺構の断面形は皿状を呈する。埋土は黒褐色 (10YR3/2) シルトで遺物は土師質土器の細片などが出土しており、その内手づくね成形の

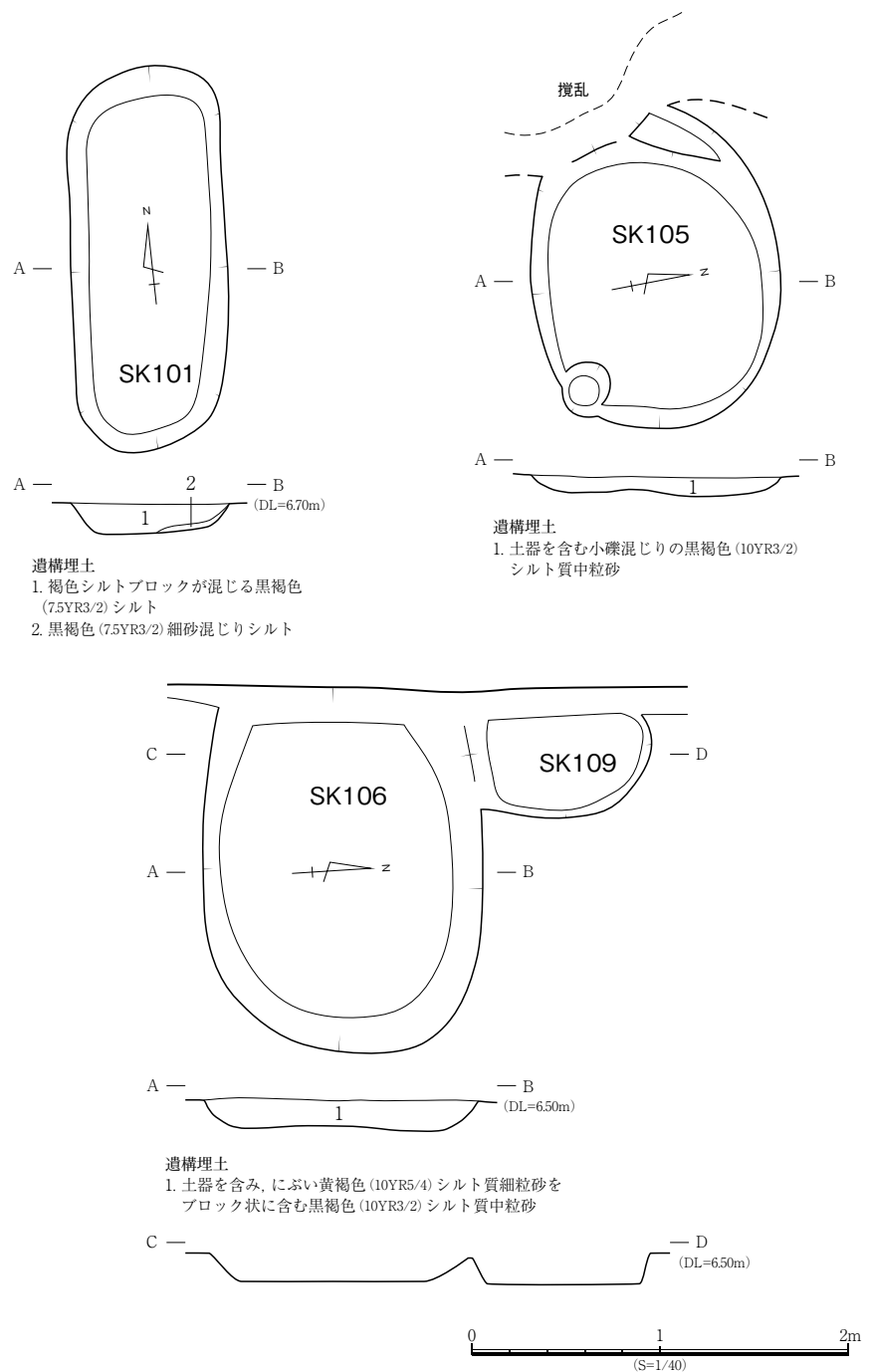


図4-117 SK101・105・106・109

土師器皿(184)を図示できた。184は手づくね成形で、底部外面には板状の圧痕が残る。体部内外面はユビオサエと丁寧なナデ調整を施す。

SK111(図4-120)

調査区東部にあり、SK105の東約2.6mに位置する。遺構の東はSK112に切られる。平面形は円形状で、直径は約0.9mを測る。深さは12cmで断面形は皿状を呈すると考えられる。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで、にぶい黄褐色(10YR5/4)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器杯の破片が出土している。

SK112(図4-120)

調査区東部にあり、SK105の東約3.4mに位置する。SK111を切る。平面形は円形状で、直径は約0.75mを測る。深さは12cmで断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで、にぶい黄褐色(10YR5/4)シルトと褐色シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器杯の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

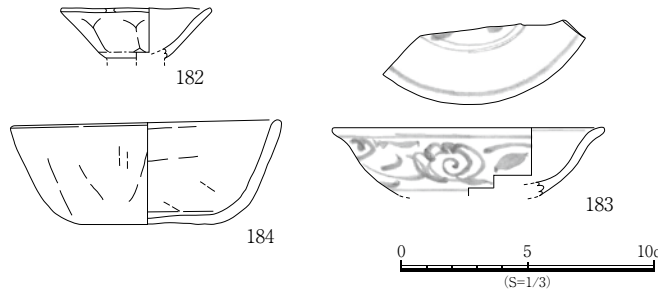


図4-118 SK107

SK113(図4-120)

調査区東部にあり、SK105の東約4.0mに位置する。平面形は不整円形で、直径は約0.84mを測る。深さは4cmで浅く、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで、にぶい黄褐色(10YR5/4)シルトと褐色シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器杯の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK116(図4-120)

調査区東部にあり、掘立柱建物跡SB48の南東約0.6mに位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.68m、短軸1.25m、深さ約28cmで、遺構の断面形は逆台形状を呈する。SK117を切る。埋土は1層：小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで灰黄褐色(10YR6/2)シルトを下層でブロック状に含む、2層：小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器、瓦質土器釜、須恵器甕の破片等が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK117(図4-120)

調査区東部にあり、掘立柱建物跡SB48の南東約1.0mに位置する。SK116に切られる。平面形は楕円形状を呈すると思われ、残存長軸2.38m、短軸1.11m、深さ約13cmで、遺構の断面形は皿状を呈する。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで灰黄褐色(10YR6/2)シルトを少量含む。遺物は土師器杯、甕、須恵器甕の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK118(図4-120)

調査区東部にあり、SK116の北東1.0mに位置する。平面形は不整楕円形状で、長軸2.51m、短軸

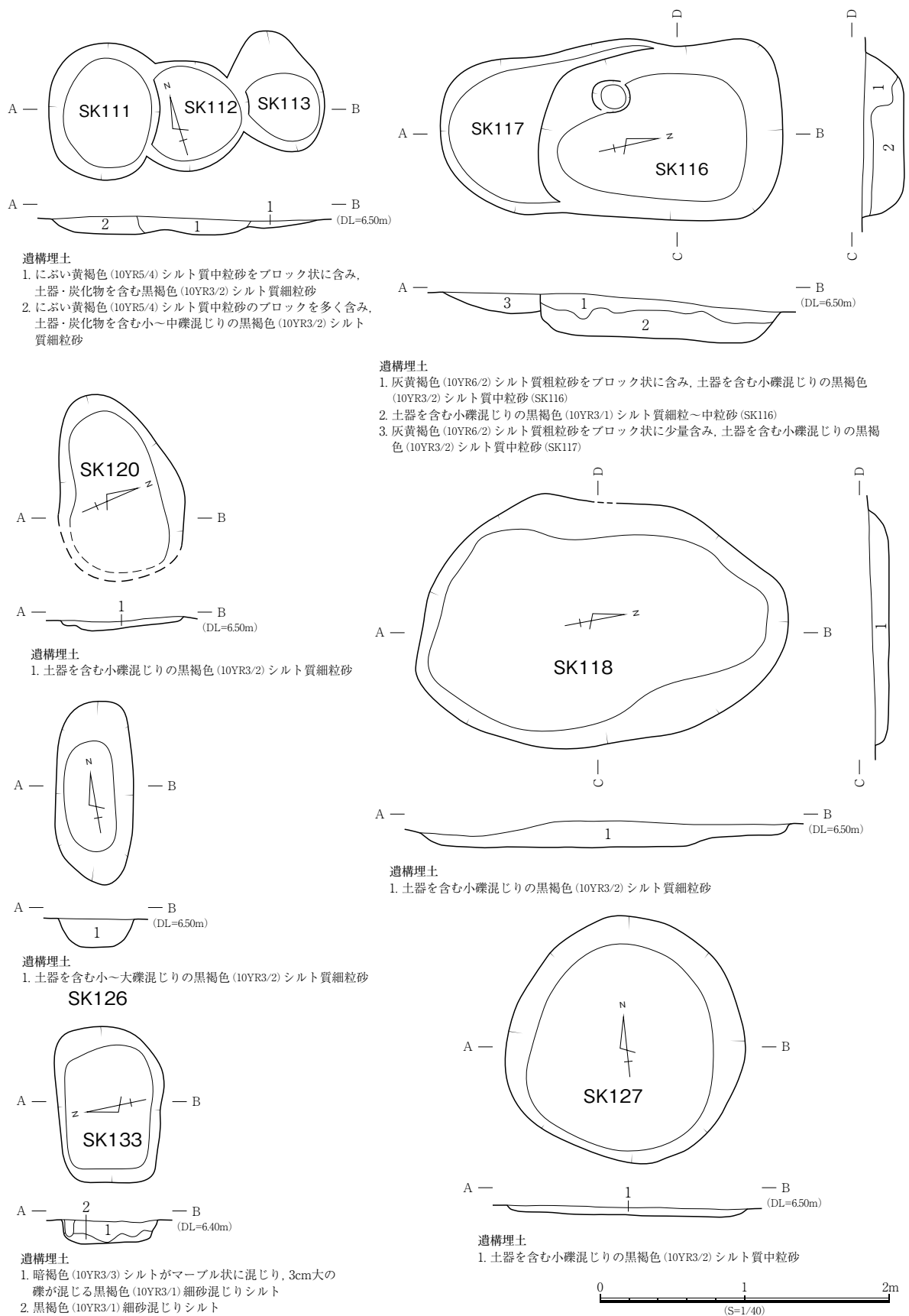


図4-120 SK111～113・116～118・120・126・127・133

1.73m, 深さ約13~18cmを測る。遺構の断面形は皿状を呈する。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで土器片を含む。遺物は土師器甕の破片などが出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK120(図4-120・121)

調査区東部にあり, SK117の南約2.0mに位置する。平面形は不整楕円形で, 長軸1.71m, 短軸0.91m, 深さは約5cmと浅く, 断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで土器片を含む。遺物は手づくね成形の皿, 土師器, 須恵器の破片などが出土しており, その内土師質土器釜

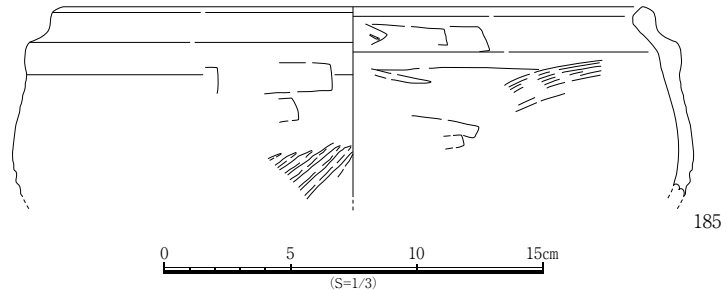


図4-121 SK120出土遺物実測図

(185)が図示できた。胴部は叩き成形で, 口縁下外面には断面三角形の鍔が廻る。口縁部内外面はヘラ削りとナデ調整を施し, 体部内面にはハケ調整とナデ調整がみられる。

SK126(図4-120)

調査区東部にあり, 掘立柱建物跡SB49の北東約2.8mに位置する。平面形は楕円形状で, 長軸1.25m, 短軸0.53m, 深さは約6cm, 遺構の断面形は浅い皿状を呈する。埋土は小~大礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで, 土器片を含む。遺物は円盤状高台を呈する須恵器と土師質土器の破片などが出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK127(図4-120)

調査区東部にあり, 掘立柱建物跡SB50の東約5.0mに位置する。SD88を切る。平面形は円形で, 直径約1.70m, 深さ約6cm, 断面形は皿状を呈する。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで, 土器片を含む。遺物は土師器甕, 土師質杯の破片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK133(図4-120)

調査区東部, 調査区南東部を逆L字状に囲繞し, ⅢB-2区につながる区画溝SD97内にあり, SK136の東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸1.07m, 短軸0.75m, 深さは約16cm, 断面形は箱形を呈する。埋土は1層:小礫を含む黒褐色(10YR3/1)シルト, 2層:細砂混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトである。遺物は土師器の破片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK134(図4-122・123)

調査区東部, 南東隅に位置する。平面形は隅丸方形で, 長軸1.73m, 短軸1.40m, 深さ約35cm, 断面形は逆台形状を呈する。埋土は1層:黒色(10YR2/1)シルトで土器片と炭化物を含む, 2層:黒褐色(10YR2/2)シルトに暗褐色から褐色ブロックを粒状に含む。遺構の北壁側では検出面より約20cm掘り下げた段階で, 土師器甕(197)が口縁部を上に向けた状態で出土し, その周辺からは土師器杯片を多く確認した。

図示できた遺物は土師器皿(186), 土師器杯(187~193), 黒色土器碗(194)土師器甕(195~197), 須恵器甕(198)である。186は底部外面には回転ヘラ切り痕が残る。体部~口縁部内外面はナデ調整を施す。187~189も同じく底部外面には回転ヘラ切り痕残り, 体部から口縁部にかけて外上方に開く。内外面はナデ調整を施す。189は口縁端部は外反する。底部外面には板状の圧痕がみられる。190は

外面に煤が付着している。192は底部には高台が付くと考えられる。外面には煤が付着する。193は口縁部は外方に大きく開き、体部途中で段状を呈する。194は内面黒色処理し、内外面はヘラミガキ調整を施す。器壁は薄い。195は長胴甕で口縁部は外反し、端部は上方に伸びる。外面には叩き目が残る。197は胴部は球胴状を呈し、口縁部は外反して端部は上方に伸びる。頸部外面にはハケ調整、胴部には叩き目が残る。内面はヘラケズリとナデ調整を施す。196は口縁部は「く」の字で端部は平坦面を呈する。外面にはハケ調整を施す。

SK136(図4-124)

調査区東部、調査区南東部を逆L字状に囲繞し、ⅢB-2区につながる区画溝SD97内に位置する。SK137に切られる。平面形は円形で、径は約86cm、深さは約16cm、断面形は箱状を呈すると考えられる。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトである。遺物は土師質土器杯の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK137(図4-124・125)

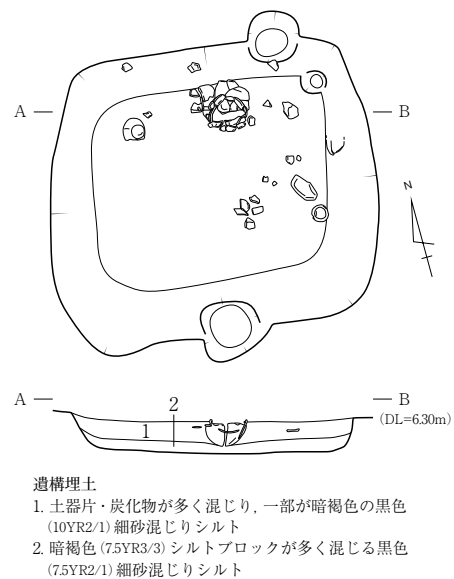
調査区東部、調査区南東部を逆L字状に囲繞し、ⅢB-2区につながる区画溝SD97内に位置する。SK136を切る。平面形は円形で、径は約0.9m、深さ約30cm、断面形は逆台形状を呈する。埋土は小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)シルトで、暗褐色シルトを含む。遺物は手づくね成形の皿、土師質土器杯の破片などが出土しており、その内手づくね成形の皿(199)を図示できた。手づくね成形で内外面ユビオサエとナデ調整を施し、底部外面には板状の圧痕が残る。口縁部から底部にかけ煤が付着する。

SK139(図4-124)

調査区東部にあり、調査区北東部をL字状に囲繞し、ⅢB-2区につながる溝SD94の西約1.2mに位置する。平面形は円形で、径は約1m、深さ10cm、断面形は皿状を呈する。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトである。遺物は土師質土器、須恵器の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK140(図4-124)

調査区東部にあり、SK139の北東に位置する。調査区北東部をL字状に囲繞し、ⅢB-2区につながる溝SD94に切られる。残存径は南北1.55m、東西0.78m、深さ19cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトで土器片を含む。遺物は土師器甕、杯の破片などが出土しているが、図示で



遺物出土状況図

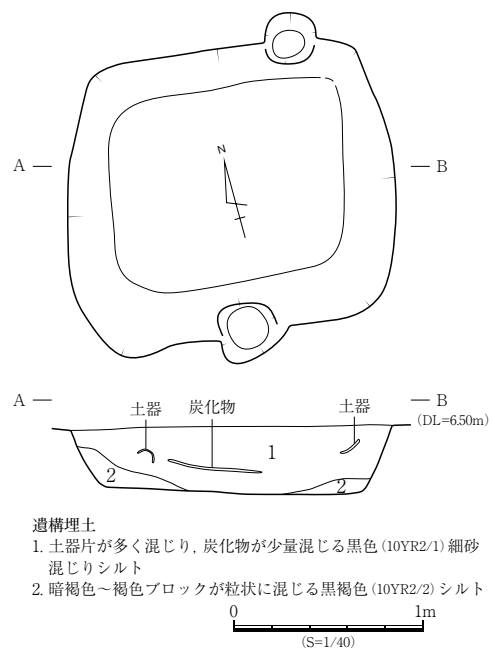


図4-122 SK134

2. III B - 3区 (2) 検出遺構と遺物

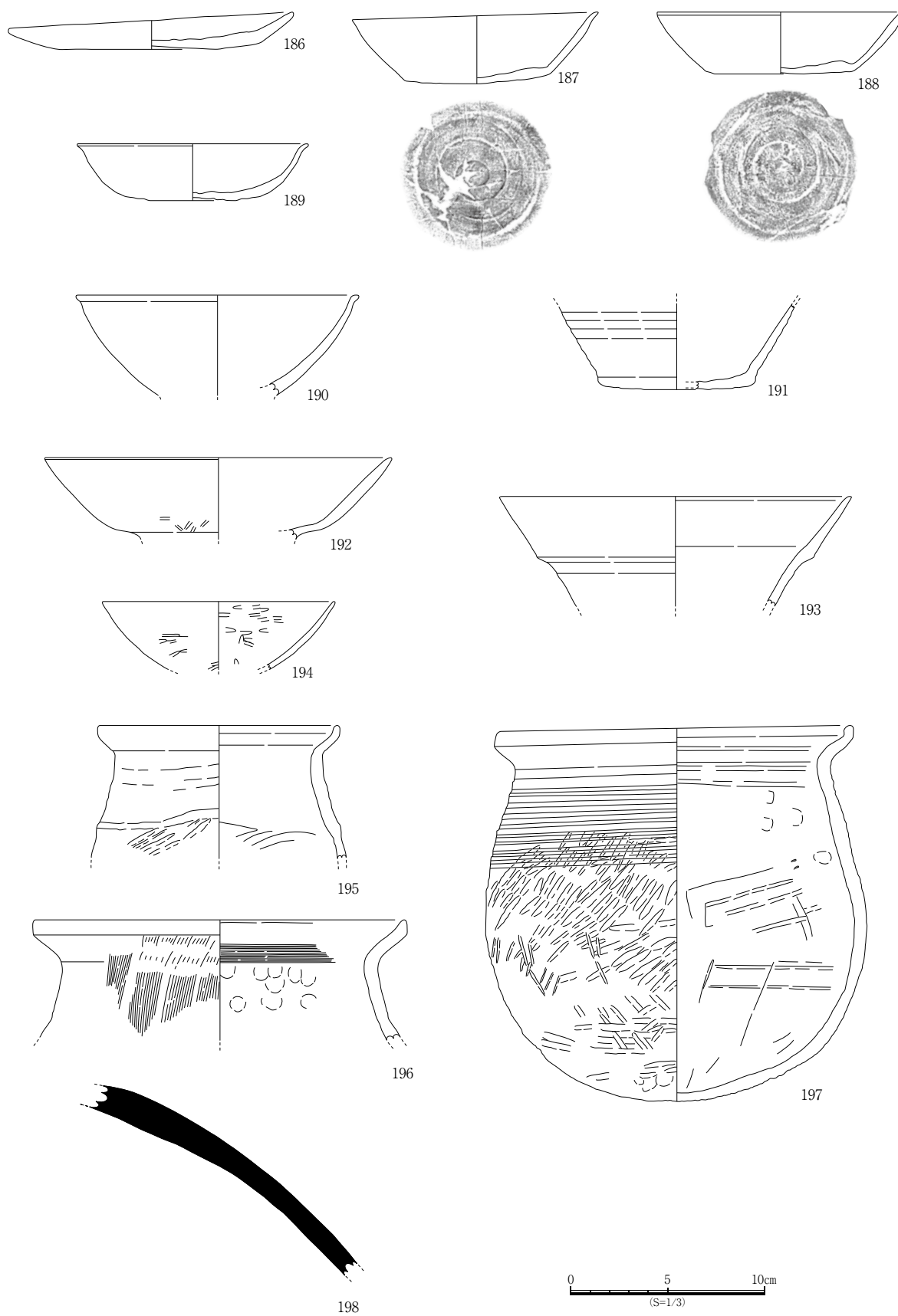


図4-123 SK134出土遺物実測図

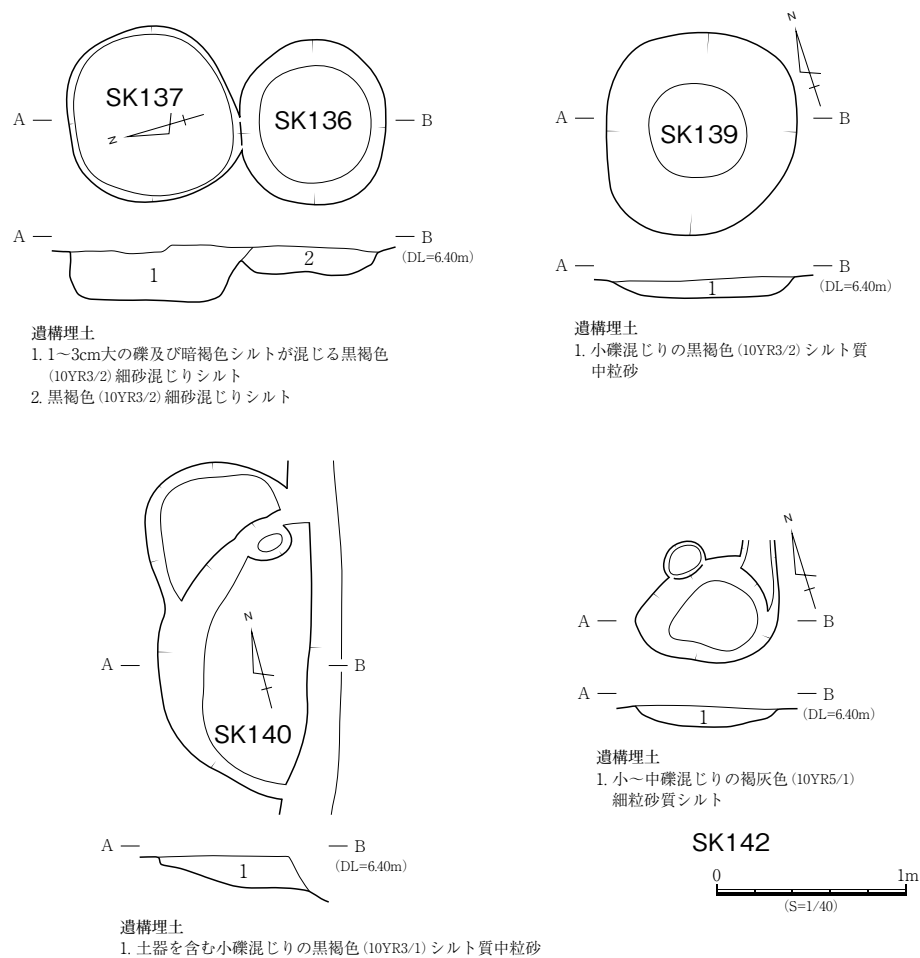


図4-124 SK136・137・139・140・142

きるものはなかった。

SK141

調査区東部にあり，調査区北東部をL字状に囲繞し，ⅢB-2区につながる溝SD95とSD96の間に位置する。SD104を切る。平面形は不整形で径は長軸1.1m，短軸0.87m，深さは約11cm，断面形は皿状を呈する。埋土は中礫混じりの褐灰色シルトである。遺物は陶器，須恵器，土師器の細片が出土しているが，図示できるものはなかった。

SK142(図4-124・125)

調査区東部にあり，調査区北東部をL字状に囲繞し，ⅢB-2区につながる溝SD95とSD96の間に位置する。SD95を切る。平面形は不整円形で径は長軸0.75m，短軸0.55m，深さは約10cm，断面形は皿状を呈する。埋土は中礫混

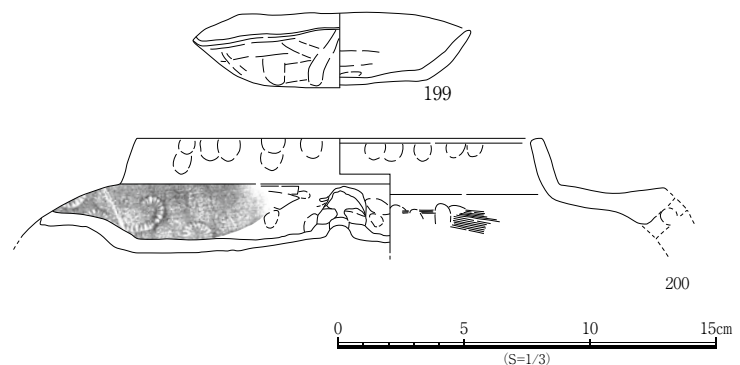


図4-125 SK137・142出土遺物実測図

じりの褐灰色(10YR5/1)シルトである。遺物は瓦質土器の釜(200)が図示できた。口縁部は内傾して伸び口唇部は丸くおさめる。側面には把手を貼付しており、ヨコ方向と内側に穿孔を施している。口縁部内外面にはユビオサエ、ナデ調整を施し、頸部外面には貝状の押し型文様がみられる。内面はハケ調整とナデによる調整を施す。

④ 溝

SD34(図4-126・127)

調査区西北部の小区画に位置する。西側に隣接するIII B - 4 区のSD34 に繋がる東西溝である。南側に並走する溝SD51を切る。確認延長は約11m、幅1.0～1.3m、深さは概ね50cm前後を測り、掘方は2段状を呈する。断面形は舟底状である。埋土は1層:黒褐色(7.5YR3/1)シルトで3cm大の小礫と土器片を含む。2層:細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。遺物は手づくね成形の皿(201)、青磁皿(206)、青磁碗(204)、青花皿(202・203)、土師質土器羽釜(205)、製塩土器(207)が図示できた。201は手づくね成形で、内外面は丁寧なナデ調整が施される。206は内面に菊花紋、外面にもヘラによる文様を呈する。204は口縁部外面には雷文帯、内面には陽刻文がみられる。202は外面には唐草文がみられる。205は口縁下に断面三角形の鏝が巡り、貼付部分は強いナデ調整を施す。外面には煤が付着している。遺物からは15世紀代と考えられる。

SD51(図4-126・128)

調査区西北部の小区画に位置する。西側に隣接するIII B - 4 区のSD51 に繋がる東西溝である。北側の並走する溝SD34に切られる。確認延長は約7.4m、幅1.0～1.16m、深さは75～90cmを測り、溝の東側は一段落ち込み状になる。断面形はU字状を呈する。埋

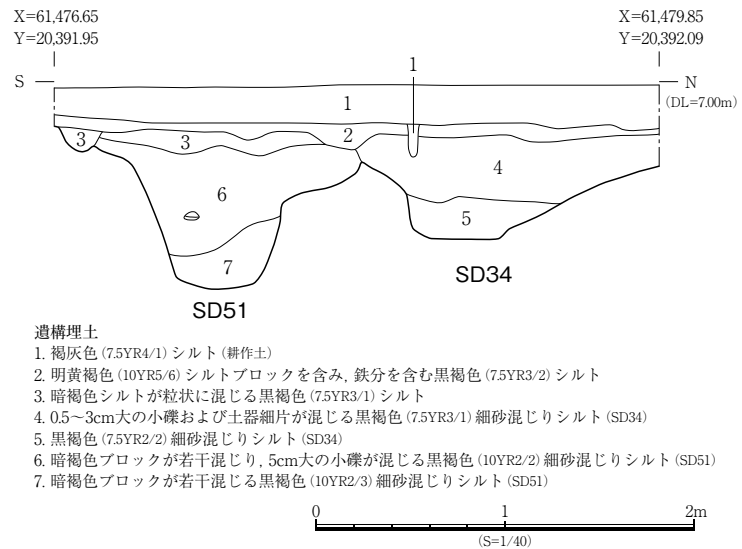


図4-126 SD34・51

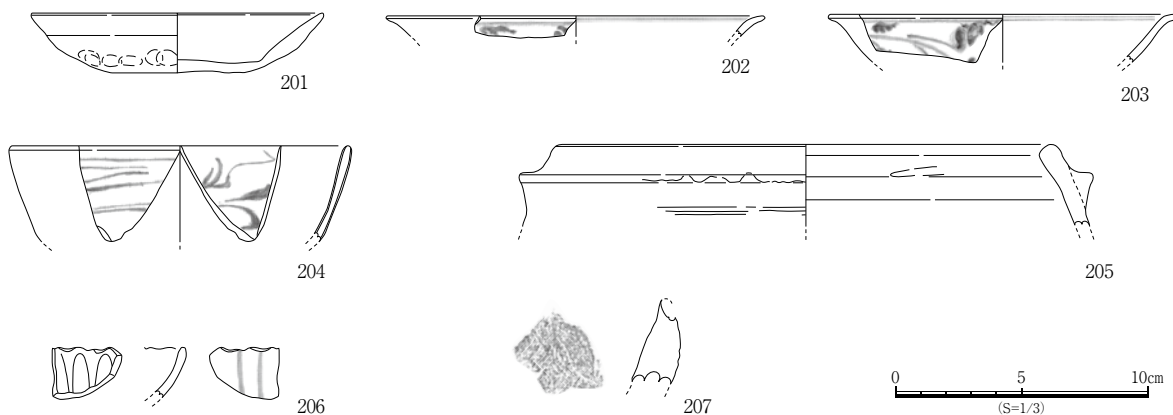


図4-127 SD34出土遺物実測図

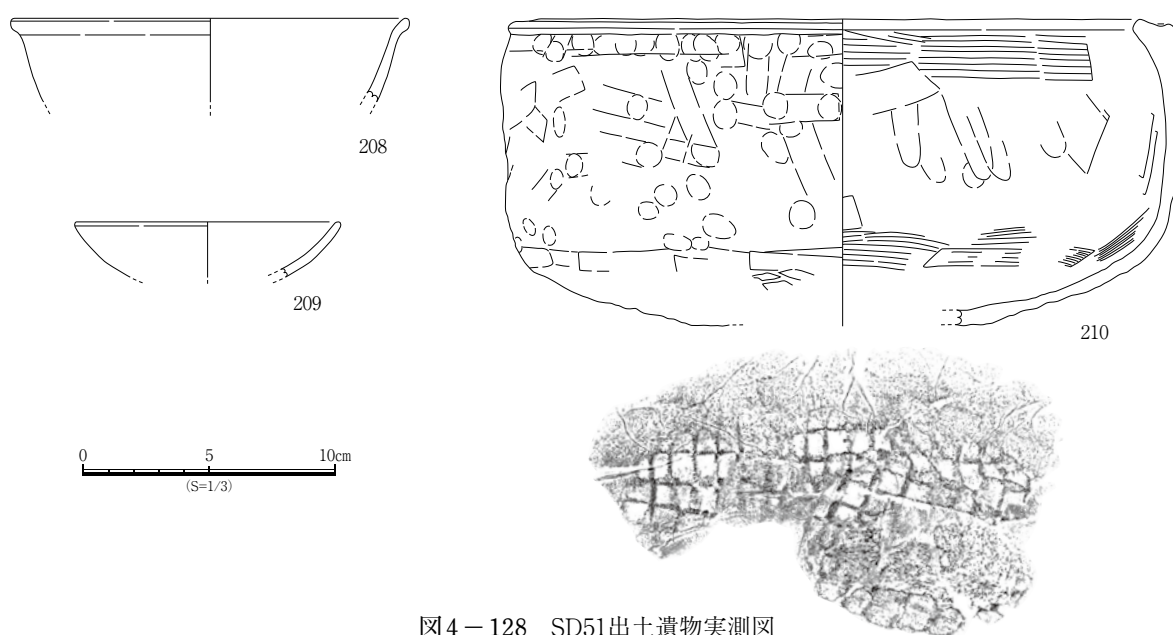


図4-128 SD51出土遺物実測図

土は1層:黒褐色(10YR2/2)シルトで5cm大の小礫を含む。2層:黒褐色(10YR2/3)シルトに暗褐色ブロックを含む。遺物は白磁皿(209), 青磁碗(208), 土師質土器鍋(210)である。209は白濁色の釉を施釉する。白磁D類に属する。208は内外面無文の碗である。210は口縁端部を摘み出し, 外面には格子状の叩き目残り, 全面に煤が付着する。内面はハケ調整とユビオサエ, 丁寧なナデ調整を施す。

SD71

調査区西部, 南西隅に位置する。確認延長は南北方向に約4.8m, 幅60~70cm, 深さ約10cmを測り, 南側は調査区外に続く。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器, 瓦質土器, 備前焼が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD72(図4-129・130)

調査区西部にあり, 屋敷地を方形状に囲むと考えられる溝である。溝の南部は調査区外であり, 遺構のプランは確認することはできなかった。確認延長は溝の西側は調査区南部から北方向に約22m延びて東側に曲がり, 約31m延びて南方向に曲がる。南方向には約33.5m延び, 調査区外に出ている。幅1.2~2.3m, 深さ24~42cm, 断面形は舟底状を呈する。埋土は1層:細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルト, 2層:極暗褐色(7.5YR2/3)シルトである。

遺物は土師質土器の細片が多く出土しており, 瓦質土器, 須恵器, 国内産陶器などもみられる。その内白磁碗(211), 瀬戸天目茶碗(212~214), 備前焼播鉢(215), 瓦質土器鍋(216・217), 土師質土器釜(218・219), 土師質土器鍋(220), 金属製品(221)が図示できた。211は口縁部で端部はやや玉縁状を呈するⅣ類に属する。212は天目茶碗の口縁部で, 端部はやや外反する。213・214は削り出し高台を呈し, 214は高台脇の上部にはケズリを施す。215は口縁部は上方に拡張し, 端部は平坦面を呈する。216・217はともに外面にはユビオサエが顕著に残る。218は口縁下に扁平な鐙が巡り, 胴部外面には叩き目が残る。219は口縁下には断面三角形の鐙が巡り, 内面にはハケ調整を施す。外面には煤が付着する。220は口縁端部は内傾する。胴部外面には格子状の叩き目残り, 内面には横方向のハケ調整を施す。

SD72 - 1 (図4-134)

調査区西部の東端にあり、SD72の東側に位置する。SD72と同じく屋敷地を区画する溝と考えられる。SD72の北東部とSD77の北東部に接するが新旧関係については不明である。確認延長は東西に約3mで南方向に折れて、南北方向に約32m延びる。南側については、調査区外に続くためプラン確認できなかった。幅は0.40～1.2m、深さ約20cm、断面形は舟底状を呈する。埋土は1層：細砂混

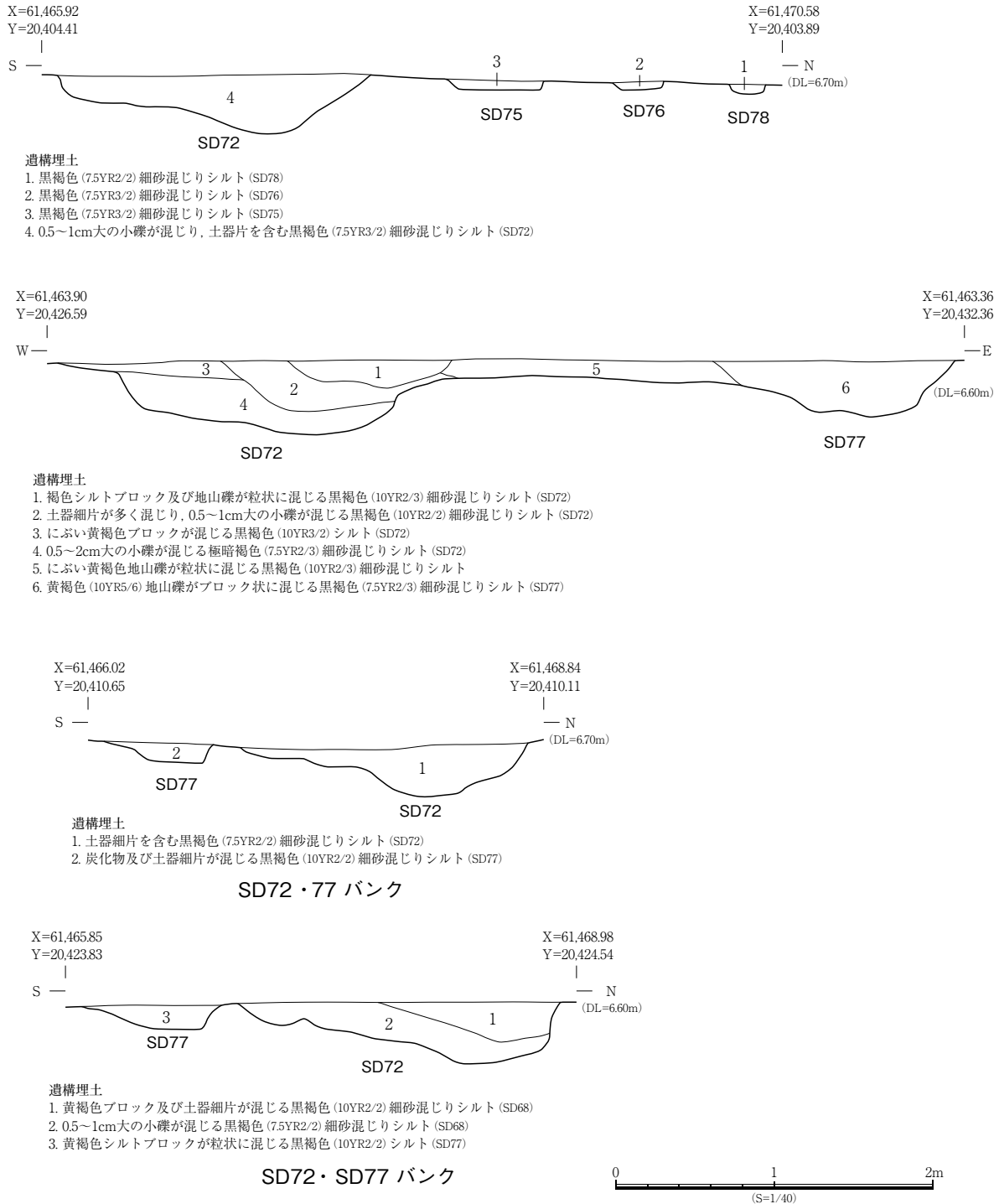


図4-129 SD72・75～78

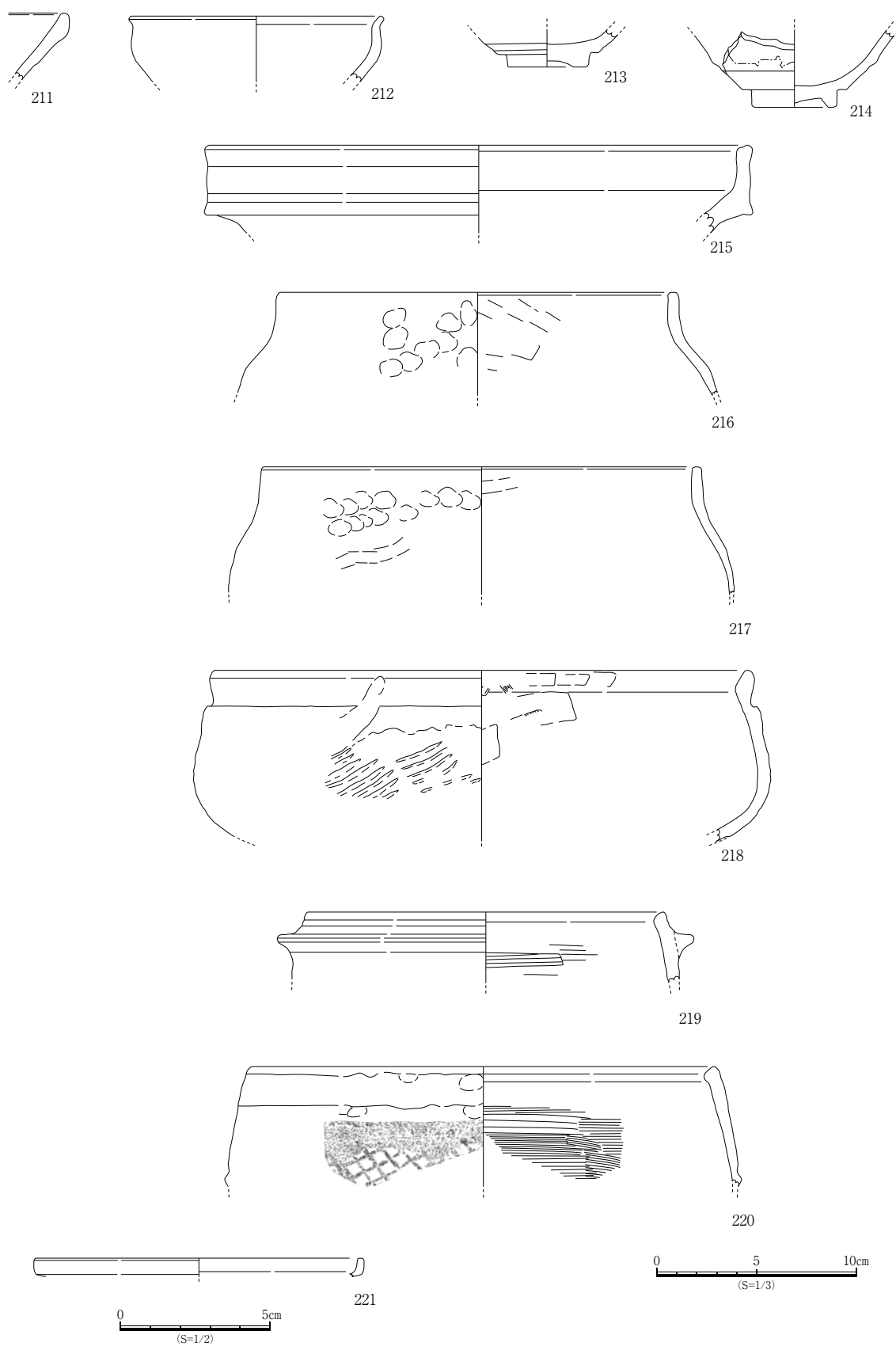


图4-130 SD72出土遺物実測図

じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルト, 2層:黒褐色(7.5YR2/2)シルトに褐色シルトをブロック状に含む, 3層:黒褐色(10YR2/2)シルトで褐色シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており, その他青磁, 瓦質土器, 須恵器, 国内産陶器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD73(図4-131)

調査区西北部の小区画に位置する。西側に隣接する調査区III B - 4区に伸びると考えられる東西溝である。確認延長は約3.8m, 幅約40cm, 深さ約20cm, 断面形は逆台形状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は瓦質土器鉢(222)である。口縁部から体部内外面はユビオサエによる調整が顕著である。

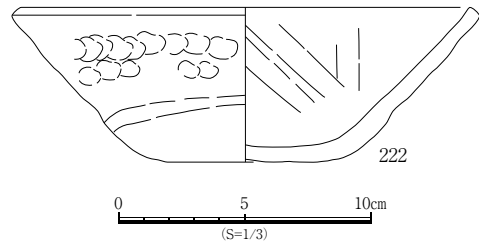


図4-131 SD73出土遺物実測図

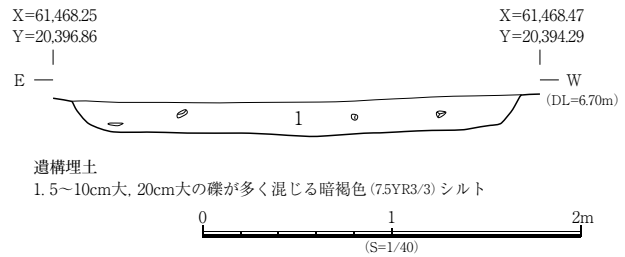


図4-132 SD74

SD74(図4-132・133)

調査区西部, 北西隅に位置する。確認延長は南北方向に約14m, 幅0.9~2.2m, 深さ18cmを測り, 北側は調査区外に続く。断面形は逆台形状を呈する。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトで5~10cm, 20cm大の礫を多く含む。遺物は土師質細片, 土師質土器鍋, 瓦

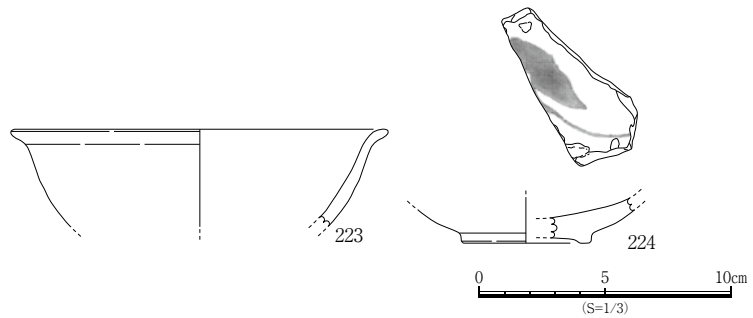


図4-133 SD74出土遺物実測図

質土器鍋, 瓦などの細片が出土しているがその内青磁碗(223)と近世陶器(224)が図示できた。223は口縁部が外反する碗である。224は内面見込みに鉄釉が施される唐津焼の皿と考えられる。

SD74-1

調査区西部にあり, SD74の西側に位置する溝である。確認延長は南北に約6m, 幅0.7~1.1m, 深さは約8cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器, 瓦質土器, 近世陶磁器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD75(図4-129)

調査区西部にあり, SD72の北側に位置する溝である。調査区西部中央を南北に縦断するSD82を切る。同じく調査区を縦断するSD81との新旧関係は不明である。確認延長は東西に約25m, 幅0.6~1m, 深さ約6cmを測り, 断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており, 須恵器や弥生土器の細片もみられた。溝の東と西端は途中で確認できなくなった。

SD76(図4-129)

調査区西部にあり, SD75の北側に位置する。確認延長は東西に約6m, 幅約40cm, 深さ5cmを測り,

断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。遺物は土師質土器, 瓦質土器, 須恵器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD77(図4-134・135)

調査区西部にあり, SD72の南側に位置する。SD72と同じく屋敷地を方形状に区画した溝と考えられる。遺構の南東部については調査区外にあり, プランは確認することはできなかった。確認延長は溝の西側は南から北方向に約14.2m延びて東側に曲がり, さらに約30m延びて南方向に屈曲し約31mを確認することができた。幅0.5~1.2m, 深さ12~15cmを測り, 断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトで褐色シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており, 須恵器や瓦質土器, 黒色土器碗の細片もみられた。その内土師質土器皿(225), 手づくね成形の土師器皿(227), 瀬戸天目茶碗(228), 瀬戸皿(226)が図示できた。225は底部外面には回転糸切り痕が残し, 口縁部内外面はナデ調整を施す。227は手づくね成形で内外面はユビオサエと丁寧なナデ調整を施す。228は底部で削り出し高台を呈し, 高台以外は黄褐色の釉を施釉する。226は口縁部端反で, 底部は削り出し高台を呈する。外面は回転ケズリを施す。226・228は瀬戸焼と考えられるものである。

SD78(図4-129)

調査区西部にあり, SD76の北側に位置する。確認延長は東西に約10.6m, 幅40~55cm, 深さ約6cm, 断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。SD76に接しているが, 新旧関係は不明である。遺物は手づくね成形の皿, 土師質土器の細片が少量出土している。

SD79(図4-136)

調査区西部, 東側にあり, SD72に接する溝である。確認延長は約5m, 幅50~60cm, 深さ6.0cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで, 遺物は土師質土器, 手づくね成形の土師器皿, 瓦質土器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

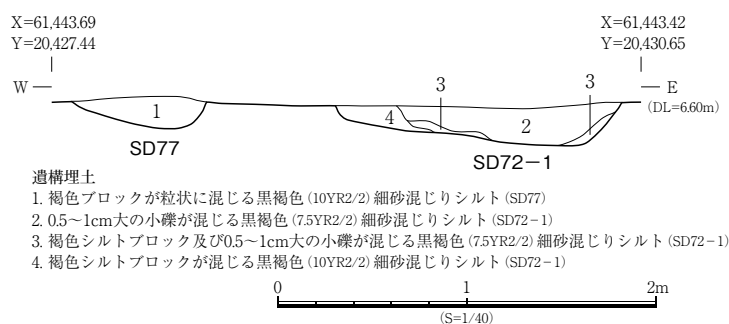


図4-134 SD72-1・77

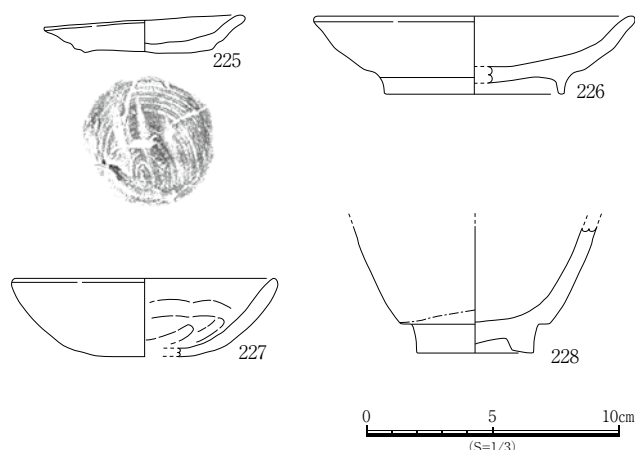


図4-135 SD77出土遺物実測図

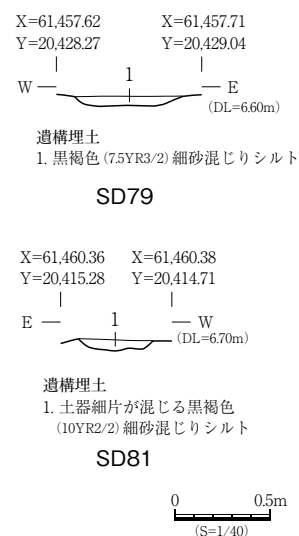


図4-136 SD79・81

SD80

調査区西部の北東側, SD72 の北側に位置する。確認延長は南北に約 4.8m, 幅 50 ~ 80 cm, 深さ 11 cm を測り, 断面形は皿状を呈する。溝の南側は SD72 に接するが, 新旧関係は不明である。また遺構の北側は調査区外に続く。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器細片が数点出土しているが図示できるものはなかった。

SD81 (図4-136・137)

調査区西部中央にあり, 調査区中央部を南北に縦断する溝である。溝の南側と北側は調査区外に続くため全体のプランは確認することはできなかった。溝の北側は SD77・72・75 と接している。確認延長は約 37m, 幅 0.60 ~ 1.10m, 深さ約 6cm, 断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色 (10YR2/2) シルトで土器片を含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており, その他青磁碗, 瓦器, 須恵器などの細片が出土している。また, 溝の中央部では土師質土器皿 (230) と刀子 (233) が出土している。その他図示できたのは土師質土器皿 (229), 土師質土器杯 (231・232) である。229・230 はともに底部外面回転糸切り痕が残し, 内外面ナデ調整を施す。231・232 は底部外面回転糸切り痕が残し, 口縁部内外面ともにナデ調整を施す。232 の底部内面は摩耗している。233 はほぼ完形を呈し, 全長 31.2cm, 全幅 2.7cm, 全厚 7mm を測り, 木片が一部付着していた。

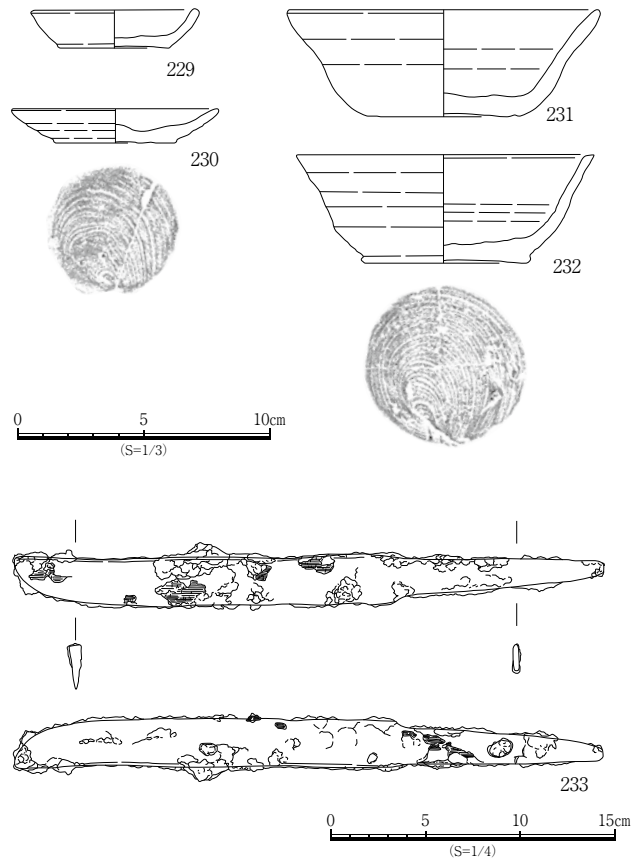


図4-137 SD81出土遺物実測図

SD82 (図4-138・139)

調査区西部の中央にあり, 調査区を南北に縦断する溝である。溝の南側と北側は調査区外に続くため全体のプランは確認することはできなかったが, 東側に位置する SD81 とほぼ同一方向である。北側は SD77・72・75 と接する。確認延長は約 34m, 幅 0.80 ~ 1.1m, 深さ約 55 cm を測り, 断面形は逆台形から, 扁平な U 字状を呈する。埋土は 1 層: 細砂混じりの黒色 (7.5YR2/1) シルトで褐色シルトブロックを含む, 2 層: 細砂混じりの黒褐色 (7.5YR2/2) シルト, 3 層: 細砂混じりの黒褐色 (7.5YR2/3) シルト, 4 層: 黒褐色

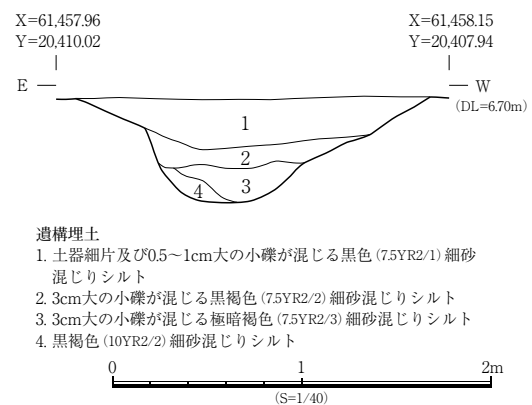


図4-138 SD82

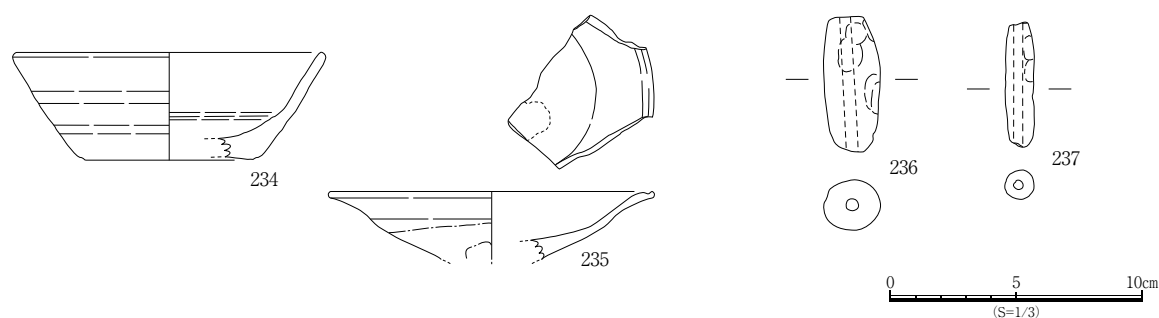


図4-139 SD82・84・88出土遺物実測図

(10YR2/2)シルトに0.5～1cm大の小礫と褐色シルトブロックを含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており、瓦器や白磁、瓦質土器、須恵器片もみられる。図示できたものは土師質土器杯(234)と近世陶器(235)である。234は底部外面は回転糸切り痕が残る、内外面はナデ調整を施す。235は内面見込みに胎土目痕が残る。唐津系の皿と考えられる。上面土坑からの混入と思われる。

SD84(図4-139)

調査区北部小区画内に位置する。確認延長は南北方向に約4.6m、幅2.5cm、深さ8～15cmを測る。北側は調査区外に続く。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトで拳大の礫が多く出土した。遺物は土師質土器等出土してしており、その内土鍾(237)が図示できた。

SD85(図4-140)

調査区東部中央に位置する。確認延長は約13.4m、幅1.4～1.8m、深さ24cmを測り、断面形は舟底状を呈する。遺構の北側は調査区外に続き、途中SD86とSD90が接する。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト)で小～中礫と土器片を含む。遺物は土師質土器片等が出土しているが、図示できるものはなかった。

SD88(図4-139・140)

調査区東部中央に位置する。調査区を中央部にかけて縦断する溝で、確認延長は約21m、幅1.06から1.4m、深さは約25cmを測り断面形は皿状を呈する。埋土は1層：細砂混じりの黒褐色シルト(7.5YR3/2)で小礫を含む。調査区南から約6.0m地点では南西部に約6.0m、幅約6.8m、深さ8cmを測る溝を確認しており、SD88に付属した遺構の可能性も考えられる。遺物は土師質土器片などが出土しており、その内土鍾(236)が図示できた。

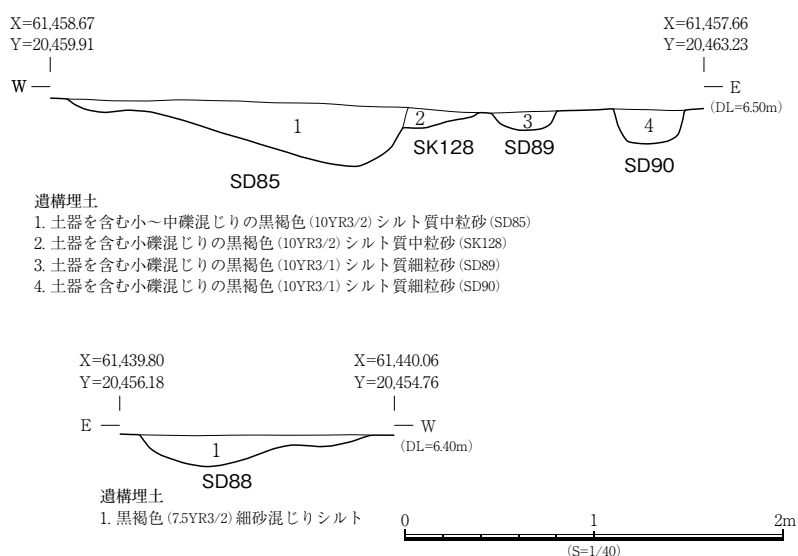


図4-140 SD85・88・89・90

SD89(図4-140)

調査区東部中央にあり、調査区を縦断する溝である。確認延長は約11m、幅約40cm、深さ10cmを測り、断面形は皿状を呈する。溝の北側はSD85、南側はSD90に接する。新旧関係は不明である。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト中粒砂に土器片を含む。遺物は土師器碗・杯・甕、土師質土器の細片などが出土しているが、図示できるものはなかった。

SD90(図4-140・141)

調査区東部中央にあり、調査区を縦断する溝である。前述したSD89に並走し、途中で接する溝である。確認延長は23.4m、幅36～90cm、深さ約18～20cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。溝の北側は調査区外に伸び、南側は途中でSD91とSD93、SD106に接し、調査区外に続くと考えられる。SD91に切られている。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト中粒砂で土器片を含む。遺物は土師質土器の細片の他、土師器甕、須恵器甕などが出土しているが、図示できるものはなかった。

SD91(図4-141・142・143)

調査区東部中央にあり、調査区を縦断する溝である。遺構の北側と南側は調査区外に続き、中央から南よりにおいてSD90と接している。SD90を切る。確認延長は約40m、幅0.8～1.75m、深さ約32cmを測り、断面形は舟底状を呈する。遺構のほぼ中央には埋土より拳大の円礫や角礫が集中して出土した箇所がみられた。埋土は1層:細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで1～15cm大の礫を含む(円礫や角礫状の石を多く含む)、2層:細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/3)シルトで1cm大の小礫を含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており、その他瓦質土器、須恵器、国内産陶器、青磁、白磁なども確認できた。

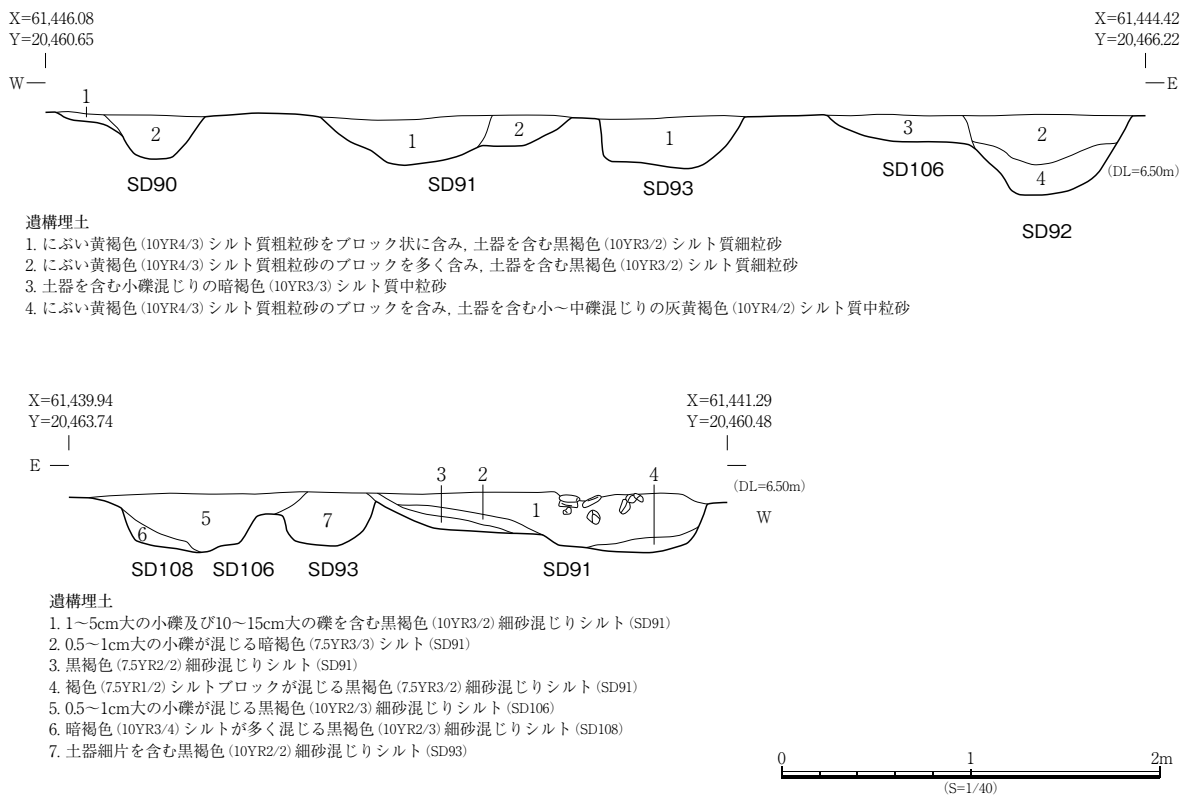


図4-141 SD90～93・106・108

その内図示できたものは、青磁皿(238)、備前焼擂鉢(240・241)、甕(243)、常滑焼甕(242)・壺(244)、須恵器器台(239)、甕(245)、石製品の砥石(246・247)、石臼(248)である。238は内面には丸鑿状工具による菊の印刻文がなされる。240は口縁部は上方に拡張し、端部は平坦面を呈する。241も同じく口縁部を上方に拡張し、端部は丸くおさめる。内面には8条の条痕がみられる。241はSD95出土の破片と接合されている。243は口縁部のみであるが、玉縁状を呈する甕である。242は常滑焼の甕の口縁部で、縁部は頸部上端にやや密着している。244は壺の口縁部と考えられるもので、縁部は密着してい

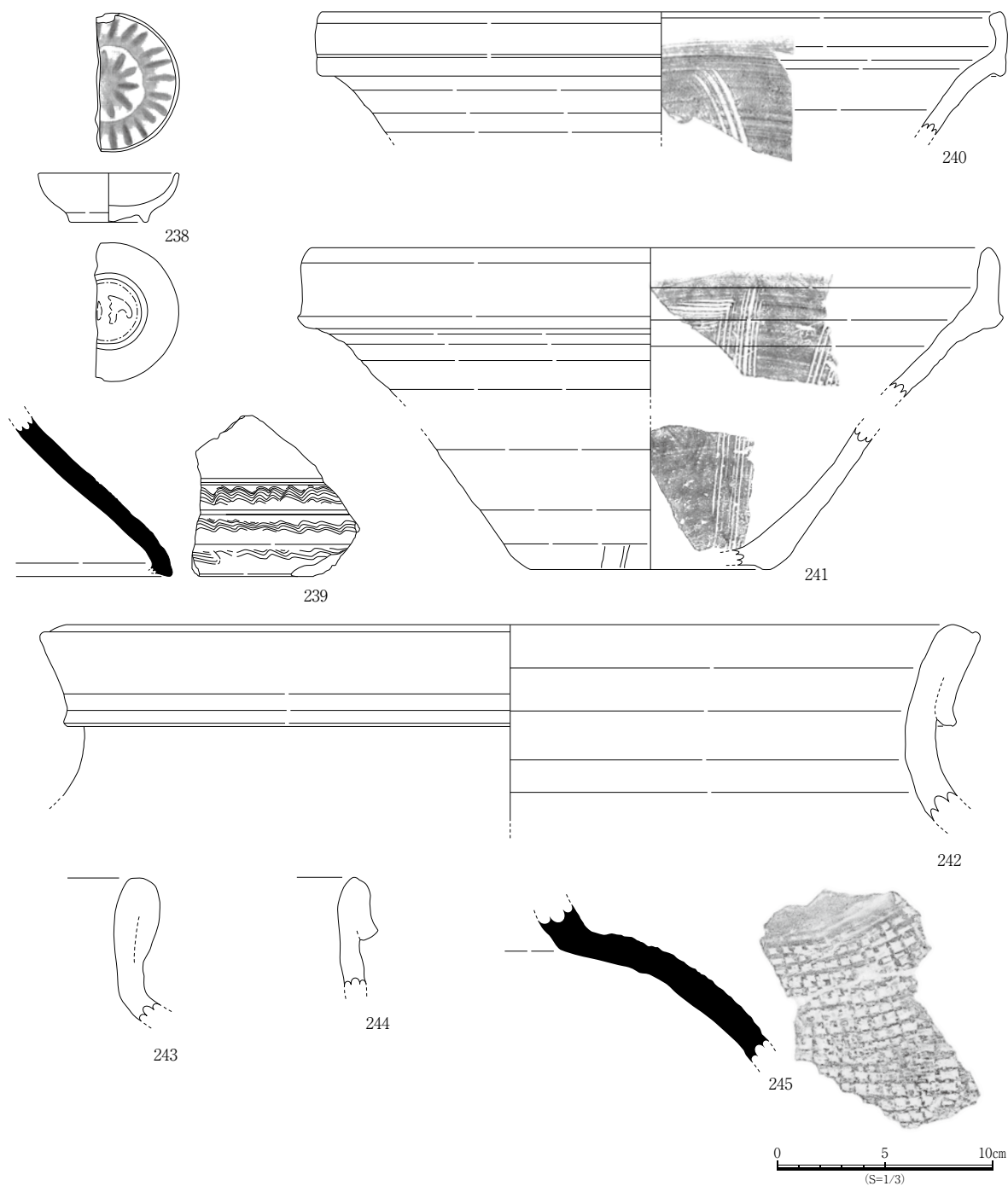


図4-142 SD91出土遺物実測図1

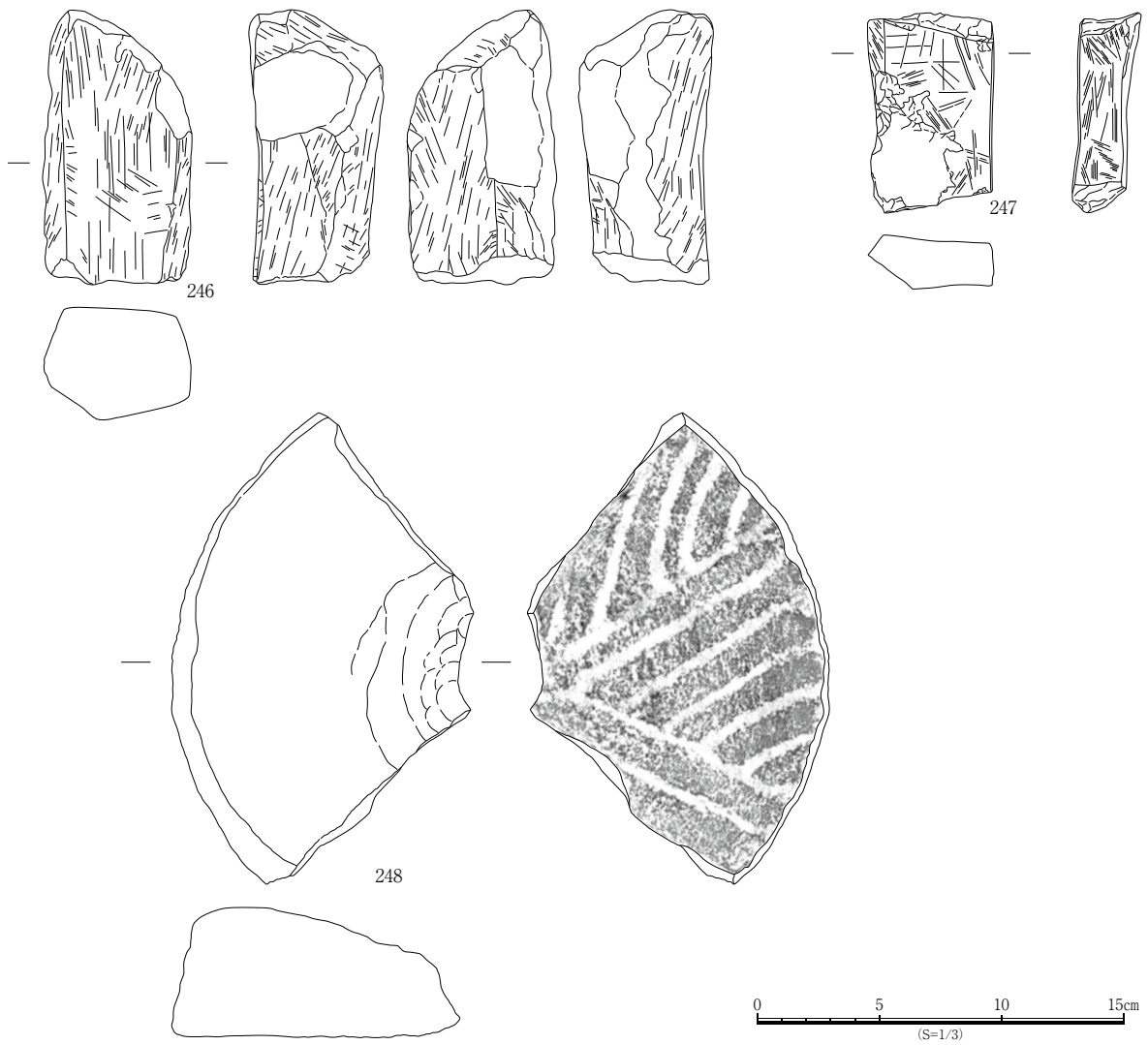


図4-143 SD91出土遺物実測図2

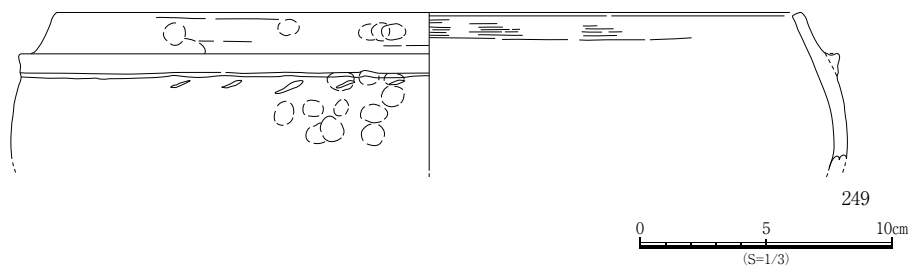


図4-144 SD92出土遺物実測図

る。239 は器台の脚裾部と考えられ、外面の沈線間には波状文を施す。245 は甕の頸部から胴部であるが、外面には凹凸の強い格子状の叩き目痕が施される。246 は断面六角形状で六面に使用痕がみられる。247 は二面に使用痕がみられる。

SD92(図4-141・142)

調査区東部に位置し、SD91 の東約2.5m に位置する。確認延長は南北方向に約20m、幅1.0～1.3m、

深さ約 30 cmを測り、断面形は扁平なU字状を呈する。遺構の南端部はSD106と接し、北側は調査区外に続くためプランは確認できていない。埋土は1層:黒褐色(10YR3/2)シルト細粒砂でにぶい黄褐色(10YR4/3)シルトブロックを含む、2層:灰黄褐色(10YR4/2)シルトで、小～中礫・土器を含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土している他、瓦質土器の鍋・釜、須恵器、国内産陶器などの細片もみられる。その内瓦質土器釜(249)が図示できた。口縁下断面三角形の鏝が廻る。鏝貼付部分は丁寧なナデ調整。外面にユビオサエ、ナデ調整。内面は丁寧なナデ調整を施す。

SD93(図4-141)

調査区東部に位置し、SD91の東隣に位置する。確認延長は南北方向に約38m、幅60～70cm、深さ約20～25cm、断面形が逆台形状を呈する。遺構の北側と南側は調査区外に続くためプラン確認できていない。溝の北側はや

や東側にふっている。遺構の中央から南側ではSD90とSD91に接している。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトににぶい黄褐色(10YR4/3)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器の細片が多く、その他は瓦質土器、須恵器の細片が出土している。SD91の図4-142で掲載している須恵器甕(245)が図示できた。

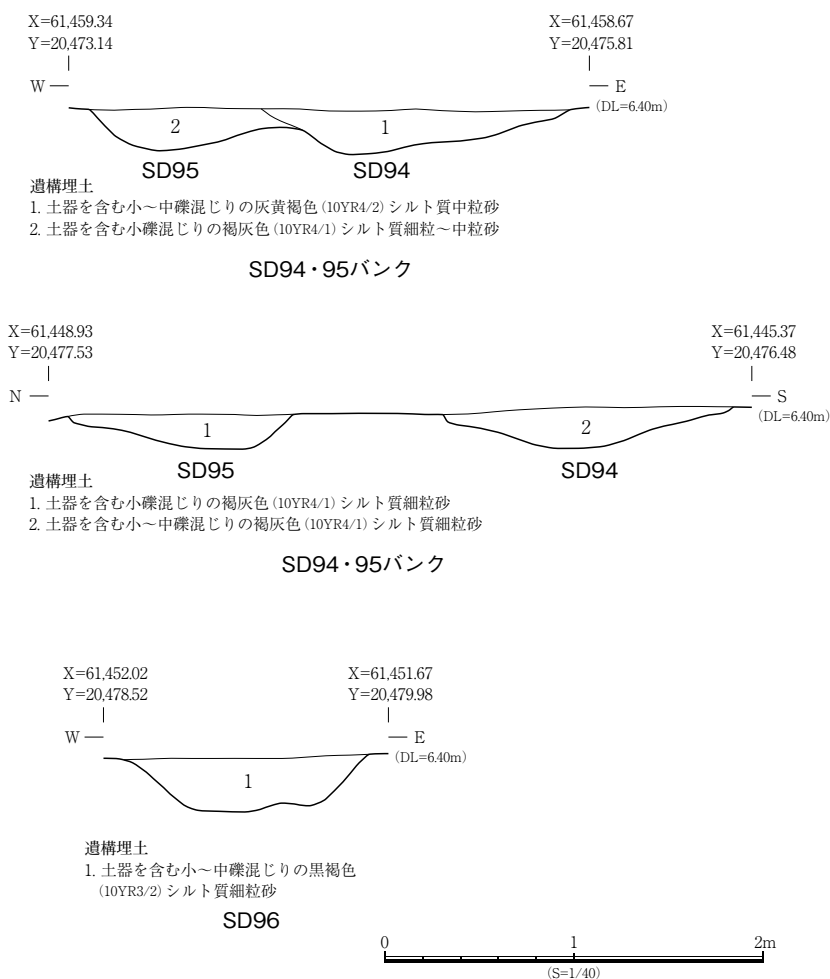


図4-145 SD94～96

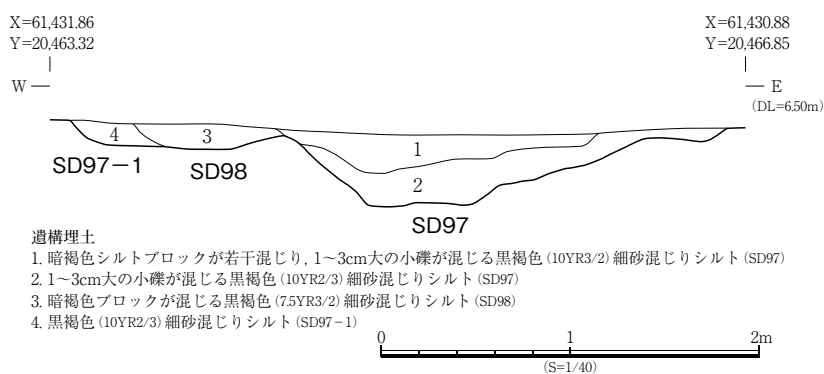


図4-146 SD97・98

SD94(図4-145・218)

調査区東部SD92の約2.5mに位置する。確認延長は南北方向に約13.6m延びて東側に屈曲し約8mほど伸びて調査区外に続く。遺構の東側には調査区ⅢB-2区が隣接しており、ⅢB-2区SD94に繋がる。遺構の北側も調査区外に続くためプランは確認できなかったが、ⅢB-2区の状況からは屋敷を方形状に圍繞する溝と考えられる。幅は約1.2～2.0m、深さ約20cm、断面形は舟底状を呈する。埋土は褐灰色(10YR4/1)シルトで小～中礫と土器を含む。遺物は土師質土器や貿易陶磁器等が出土している。詳細についてはⅢB-2区SD94において述べる。

SD95(図4-145・218)

調査区東部にあり、SD96の西方約1.0mに位置する。確認延長は約16mを測り、遺構の北側と東側は調査区外に続く。北側から東側には緩やかに曲がり、延びる。東側はSD94と同じく隣接する調査区ⅢB-2区に繋がると考えられる。幅は約1～2m、深さは約20cmを測り、断面形は舟底状を呈する。埋土は褐灰色(10YR4/1)シルトで小礫と土器を含む。詳細についてはⅢB-2区SD95において述べる。

SD96(図4-145・217)

調査区東部、北東隅に位置する。確認延長は南北方向に約9.4mで、南側で東方向に折れ約1m延び、調査区外に続く。遺構の東側は隣接するⅢB-2区のSD96に繋がると考えられる。確認延長は約9mを測る。幅0.9～1m、深さ約20～30cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトで小～中礫及び土器を含む。遺物は土師質土器、須恵器、青磁片が出土している。

SD97(図4-146)

調査区東部南東、SD94の南側約2.0mに位置する。確認延長は東西に約8mあり、さらに西側に折れたあと南方向に約20m延びて調査区外に続く。遺構の東西方向は隣接するⅢB-2区のSD97に続く。ⅢB-2区の状況も合わせると屋敷を方形状に圍繞する溝と考えられる。幅1.6～2m、深さ約40cm、断面形は舟底状を呈する。埋土は1層:黒褐色(10YR3/2)シルトに小礫及び暗褐色シルトをブロック状に含む、2層:黒褐色(10YR2/3)シルトに小礫を含む。詳細についてはⅢB-2区において述べる。

SD98(図4-146)

調査区東部、南東側に位置する。確認延長は南北に約14m、幅約70cm、深さ13cmを測り、断面形は皿状を呈する。遺構の北側はSD97、南側はSD97-1と接しており、SD97に切られる。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトに暗褐色シルトをブロックで含む。遺物は土師質土器の他瓦質土器や須恵器の細片が出土しているが図示できるものはなかった。

SD106(図4-141)

調査区東部、中央に位置する。確認延長は南北に約23m、幅約0.8～0.9m、深さ16cmを測り、断面形はU字状を呈する。遺構の北側はSD92と接しており、SD92に切られる。埋土は小礫を含む黒褐色(10YR3/3)シルトである。遺物は土師質土器の他瓦質土器や須恵器の細片が出土しているが図示できるものはなかった。

SD107

調査区東部、南東側に位置する。確認延長は南北に約5.4m、幅約1.0m、深さ30cmを測り、断面形はU字状を呈する。遺構の北側はSD106と接しており、切り合い関係は不明である。SD89あるいは

SD90に接続する可能性も考えられる。埋土は小礫を含む黒褐色(10YR2/3)シルトである。遺物は土師質土器の他瓦質土器や須恵器の細片が出土しているが図示できるものはなかった。

SD108

調査区東部, 南東側に位置する。SD107に並行する溝である。確認延長は南北に約5.4m, 幅約1.0m, 深さ30cmを測り, 断面形はU字状を呈する。遺構の北側はSD106と接しており, 切り合い関係は不明である。SD90に接続する可能性も考えられる。埋土は小礫を含む黒褐色(10YR2/3)シルトである。遺物は土師質土器の他瓦質土器や須恵器の細片が出土しているが図示できるものはなかった。

⑤ 柱穴

調査区では掘立柱建物跡や柵列に属さない柱穴が600個以上検出されている。調査区西部ではSD72, SD77に囲まれた方形状の区画を中心に分布している。調査区東部では調査区中央部を南北に縦断するSD88, SD85の西側を中心に分布, また, ⅢB-2区に続くSD97に囲まれた区画内にも分布している。これらの柱穴はその殆どから遺物が出土しており, その大半は土師質土器杯の細片である。これら柱穴は復元しえなかった掘立柱建物跡や柵列などに属するものも存在すると考えられる。

P11(図4-147)

調査区西部にあり, 掘立柱建物跡SB47の北東部約1.6mに位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね25cm, 深さ30cmを測る。埋土は黒褐色シルトである。遺物は土師器碗(250)が出土している。底部外面には断面方形状の高台を貼付しており, 内面にはヘラミガキ調整を施す。

P12(図4-147)

調査区西部にあり, 掘立柱建物跡SB40の西側に位置する。平面形は円形状を呈し, 他の柱穴に切られる。径は概ね25cmで, 深さは15cmを測る。埋土は黒褐色シルトである。遺物は土師質土器杯(251)で内外面は摩耗しているが, 内面の一部には煤が付着する。

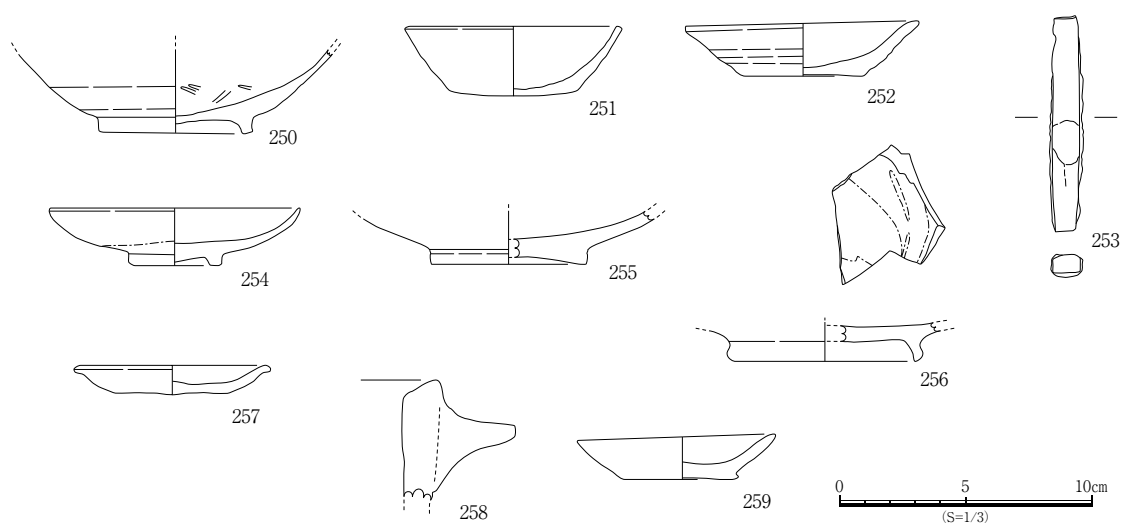


図4-147 P11~18出土遺物実測図

P13(図4-147)

調査区西部にあり、掘立柱建物跡SB44の北側に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね20cm、深さは15cmを測る。埋土は黒褐色シルトである。遺物は金属製品(253)で形状は釘状を呈する。

P14(図4-147)

調査区西部にあり、掘立柱建物跡SB39の北方向に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね70cm、深さは24cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(252)が出土している。

P15(図4-147)

調査区西部の北側にあり、調査区中央部を南北に縦断するSD81と切り合う。平面形は楕円形状を呈し長軸60cm、短軸40cm、深さ約10cmを測る。埋土は黒褐色シルトである。遺物は白磁皿(254)が出土している。削り出し高台を呈し、高台部分は露胎である。白濁色の釉を施釉している。白磁D類に属する。

P16(図4-147)

調査区西部の南西隅に位置する。屋敷を圍繞するSD72-1の東にあり、P17と隣接する。平面形は円形状を呈し、径は概ね35cm、深さ20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒色シルトである。遺物は緑釉陶器皿(255)と灰釉陶器皿(256)が出土している。255は底部円盤状の削り出し高台で、高台脇まで施釉される。256は断面三日月状の高台を呈し、内底面には重ね焼き痕が残る。

P17(図4-147)

調査区西部の南東隅に位置する。屋敷を圍繞するSD72-1の東にある。平面形は楕円形状を呈し、長軸60cm、短軸40cm、深さ約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(257)と土師質土器羽釜(258)である。257は底部外面には回転糸切り痕が残し、内外面はナデ調整を施す。258は口縁端部は内傾し、口縁下には断面方形の鐙が廻り、接合部は丁寧になでる。内面はヘラケズリとナデ調整を施す。

P18(図4-147)

調査区西部の南西側にあり、P17と同じく屋敷を圍繞するSD72-1の東に位置する。平面形は楕円形状を呈し、長軸40cm、短軸30cm、深さ20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(259)が出土している。底部外面は回転糸切り痕が残し、口縁部内外面は丁寧なナデ調整を施す。

P19(図4-148)

調査区東部、南西側に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね20cm、深さは15cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器皿(260)が出土している。底部外面には回転ヘラ切り痕が認められ、口唇部は丸くおさめる。内外面ナデ調整である。

P20(図4-148)

調査区東部の南西側にあり、P19の南方約5.0mに位置する。平面形は円形状を呈し、径は30cm、深さ25cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(261)と土師器高杯の脚部(262)が出土している。261は底部は柱状高台を呈し、外面には回転糸切り痕が認められる。口縁部は外方に大きく開き、口唇部は丸くおさめる。体部から口縁部内外面はナデ調整を施す。精緻な胎土である。262は脚部片と考えられ、内外面は丁寧なナデ調整を施す。精緻な胎土である。

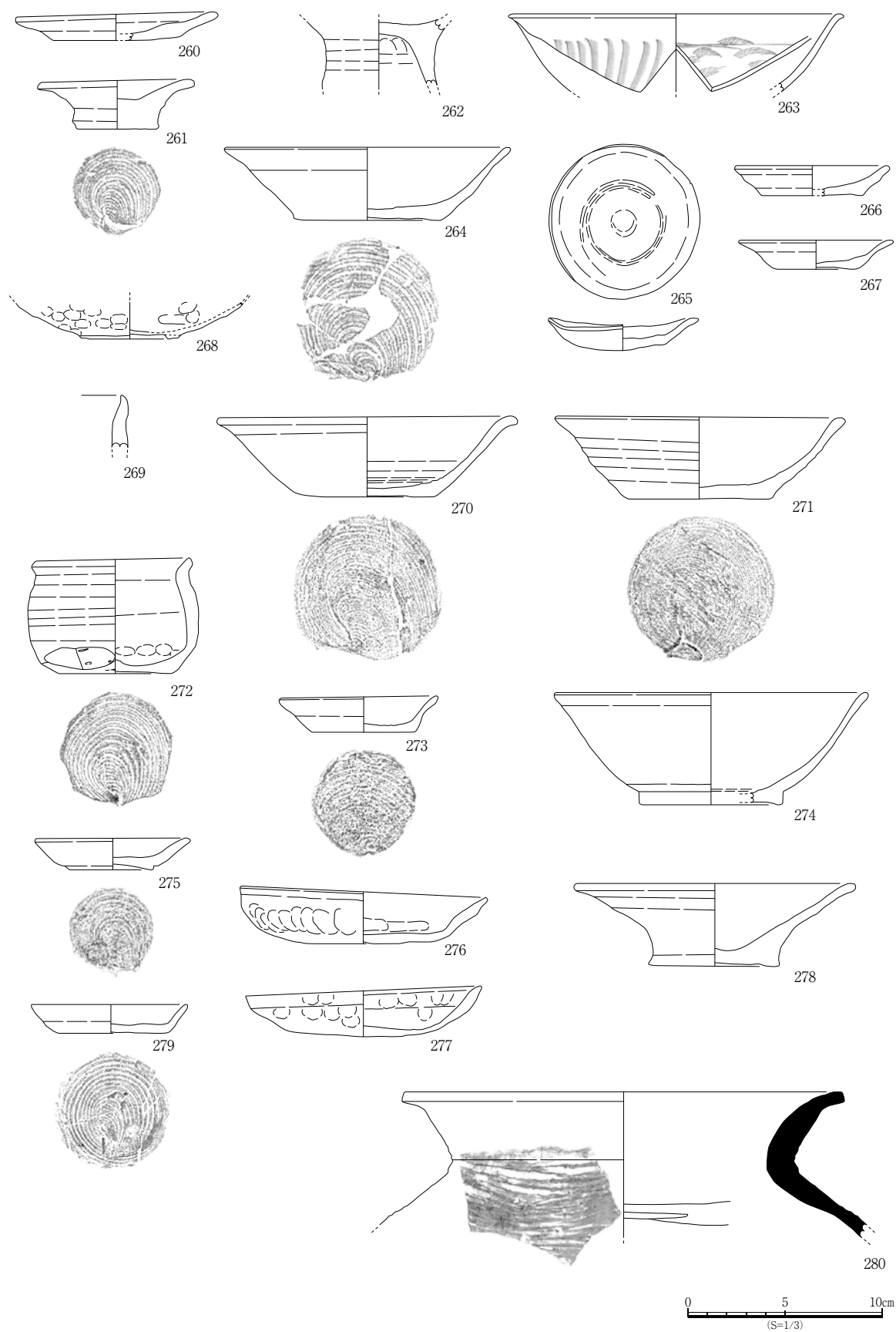


图4-148 P19~32出土遺物実測図

P21 (図4-148)

調査区東部, 南西側にあり, P20の東方約5.2mに位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね25cm, 深さは約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は白磁碗(263)が出土している。口縁部は端反りで, 内外面には櫛描きの文様がみられる。白磁のV-4類に属する。

P22 (図4-148)

調査区東部, 南西側にあり, P21の南約2.0mに位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね30cm, 深さは25cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器杯(264)が出土している。底部外面には回転糸切り痕が認められ, 体部から口縁部は斜め上方に伸び, 口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整である。

P23 (図4-148)

調査区東部, 南西側にあり, SB55のP4と切り合う。平面形は円形状を呈し, 径は概ね30cm, 深さは約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(265・266)が出土している。265は底部外面には回転糸切り痕が認められ, 体部から口縁部は斜め上方に伸び口唇部は丸くおさめる。体部から口縁部はやや内傾している。内外面はナデ調整である。266も底部外面は回転糸切り痕が認められ, 体部から口縁部は斜め上方に伸びて口唇部は丸くおさめる。体部内外面はナデ調整である。

P24 (図4-148)

調査区東部, 南西側にあり, SB54のP5と切り合う。径は概ね30cm, 深さは約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(267)が出土している。底部外面には回転糸切り痕が認められ, 体部から口縁部は斜め上方に伸び, 口唇部は丸くおさめる。体部内外面は摩耗している。

P25 (図4-148)

調査区東部, 南西側に位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね40cm, 深さは約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は瓦器碗(268)と製塩土器(269)が出土している。268は

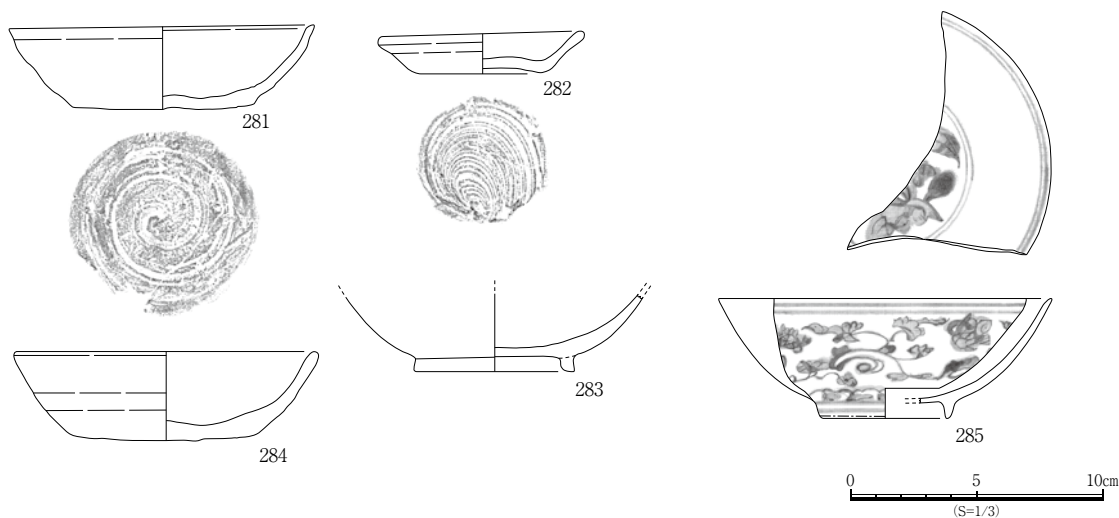


図4-149 P33~37出土遺物実測図

底部外面には断面長方形の幅広の高台を貼付し、貼付部分は丁寧になでる。外面はユビオサエ、内面は一部剥離している。269は口縁部の一部が残存している。内面には布目痕が認められる。

P26(図4-148)

調査区東部、南西側にあり、P23の南東約2.0mに位置する。平面形は楕円形状を呈し、径は長軸60cm、短軸40cm、深さは約30cmを測る。他のピットとの切り合いがみられた。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(273)と土師質土器杯(270・271)が出土している。273は底部外面には回転糸切り痕が認められ、体部から口縁部は斜め上方に伸び、口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整である。270は底部外面は回転糸切り痕が認められる。体部から口縁部は斜め上方に大きく開き、外反する。口唇部は丸くおさめる。底部内面にはロクロ目が残る。271も同じく底部外面には回転糸切り痕が認められる。体部から口縁部は斜め上方に大きく開き、口唇部はやや外反する。内外面はナデ調整で、内底部にはハケ調整がみられる。

P27(図4-148)

調査区東部、南西側にあり、P26の南東約0.8mに位置する。平面形は楕円形状を呈し、径は長軸50cm、短軸30cm、深さは約25cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器小壺(272)が図示できた。口縁部を下にした状態で出土している。272は底部外面は回転糸切り痕が認められ、体部はやや内湾して上方に伸び、口縁部は短く伸びて外反する。口唇部はナデにより平坦面を呈する。底部から体部への立ち上がり部分はへう状の工具で削りを巡らし、面取り状をなす。体部から口縁部の内外面はナデ調整、底部内面はユビオサエとナデ調整を施す。外面は全体に煤が付着している。

P28(図4-148)

調査区東部、南西側に位置し、P29と隣接する。平面形は円形状を呈し、径は概ね30cm、深さは約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器杯(274)が図示できた。底部は円盤状高台を呈し、外面には糸切り痕が一部残る。体部から口縁部にかけやや内湾して伸び、口縁部にいたる。口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整を施す。外面は黒色化がみられる。

P29(図4-148)

調査区東部、南西側にあり、P28の南側に隣接する。平面形は円形状を呈し、径は概ね20cm、深さは約30cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器皿(276・277)が図示できた。276は手づくね成形で、底部外面は丁寧なナデ調整、口縁部は強くナデ調整を施し、段状を呈する。277も手づくね成形で底部外面は丁寧なナデ調整、口縁部内外面は強いナデ調整を施す。精緻された胎土である。

P30(図4-148)

調査区東部、南西側にあり、SD88の西方に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね40cm、深さは約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(275)、土師質土器杯(278)が図示できた。275は底部外面は回転糸切り痕が認められ、体部から口縁部にかけ斜め上方に伸び口縁部にいたる。口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整である。278は底部は円盤状高台状を呈し、外面は回転糸切り痕が認められる。体部から口縁部は外上方に大きく開き、口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整を施す。精選された胎土をもつ。

P31(図4-148)

調査区東部,南西側にあり, P30 の南約 1.2m に位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね 30 cm, 深さは約 20 cm を測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(279)が図示できた。底部外面は回転糸切り痕が認められ, 体部から口縁部にかけ斜め上方に直線的に伸び口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整である。

P32(図4-148)

調査区東部,南西側にあり, P30 の南東側に位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね 20 cm, 深さは約 15 cm を測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は須恵器甕(280)が図示できた。口縁部は「く」の字状に外反し, 口唇部は平坦面を呈する。外面には叩き目が認められ, 頸部内面にはヘラケズリにより調整を施す。

P33(図4-149)

調査区東部,南側にあり, SD88 の西方に位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね 30 cm, 深さは約 20 cm を測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器杯(281)が図示できた。底部外面はヘラ切り痕が認められ, 体部から口縁部にかけやや内湾しながら伸びる。口唇部はナデにより平坦面を呈する。

P34(図4-149)

調査区東部,南側にあり, SD88 の東側に位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね 30 cm, 深さは約 25 cm を測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器皿(282)が図示できた。底部外面は回転糸切り痕が認められ, 体部から口縁部にかけやや斜め上方に伸び口唇部は丸くおさめる。体部内外面はナデ調整を施す。

P35(図4-149)

調査区東部,北西側にあり, 平面形は円形状を呈し, 径は概ね 25 cm, 深さは約 20 cm を測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器碗(283)が図示できた。断面台形状の高台を持ち貼付部分は丁寧なナデ調整を施す。

P36(図4-149)

調査区東部,北東側に位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね 20 cm, 深さは約 20 cm を測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器杯(284)が図示できた。底部外面は回転ヘラ切り痕が残る。

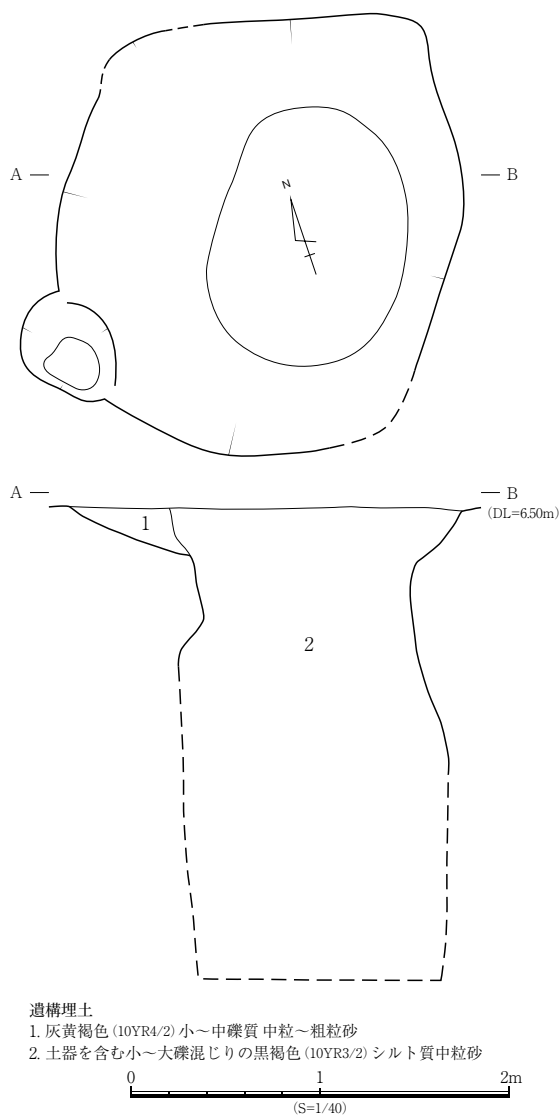


図4-150 SE2

P37(図4-149)

調査区東部,北東側に位置する。平面形は円形状を呈し, 径は概ね 15 cm, 深さは約 25 cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は青花碗(285)が図示できた。外面に唐草・芭蕉葉文, 内面見込みには文様がみられる。透明度の高い釉である。

⑥ 井戸

SE2(図4-150)

調査区東部中央に位置する。素掘りの井戸で検出面での大きさは長軸2.6m, 短軸2.4mの不整形を呈する。検出面より25cm程度掘り下げると, 直径約1.1mの概ね円形となる。深さは検出面から約1.0mまで下げることができたが, 壁面の崩落が危惧されたことから, それより下層については機械掘削を併用し確認を実施した。

遺構の埋土は1層は小～中礫を含む灰黄褐色(10YR4/2)シルト, 2層は土器片及び小～大礫を含む黒褐色(10YR3/2)シルトである。遺物は土師質土器の細片などが出土しているが, 図示できるものはなかった。

⑦ 包含層出土遺物(図4-151)

包含層出土の遺物で図示できたものは, 土師質土器碗(286・289)と白磁碗(287), 土師質土器杯(288), 瓦器碗(290), 土師質土器皿(291・292)である。287の白磁碗は遺構検出面からのもので, 口縁部は玉縁状を呈する。286は土師質土器の碗で, 断面方形状の高台を貼付する。体部から口縁部にかけてやや外方に開き伸びる。口縁部は外反する。内外面はナデ調整を施す。289も同じく碗である。断面方形状の高台を貼付し, 内外面には丁寧なナデ調整を施す。288は土師質土器の杯である底部外面には回転糸切り痕が残し, 体部から口縁部にかけて大きく開く。内外面はナデ調整を施す。290は底部のみの出土である。底部断面逆台形状の高台がつく。291は底部外面は回転糸切り痕が認められる。体部から口縁部は斜め上方に伸び, 口縁部は回転ナデ調整を施す。292も同様に体部から口縁部にかけて斜め上方に伸びる。端部は丸くおさめる。内外面にはナデ調整を施す。

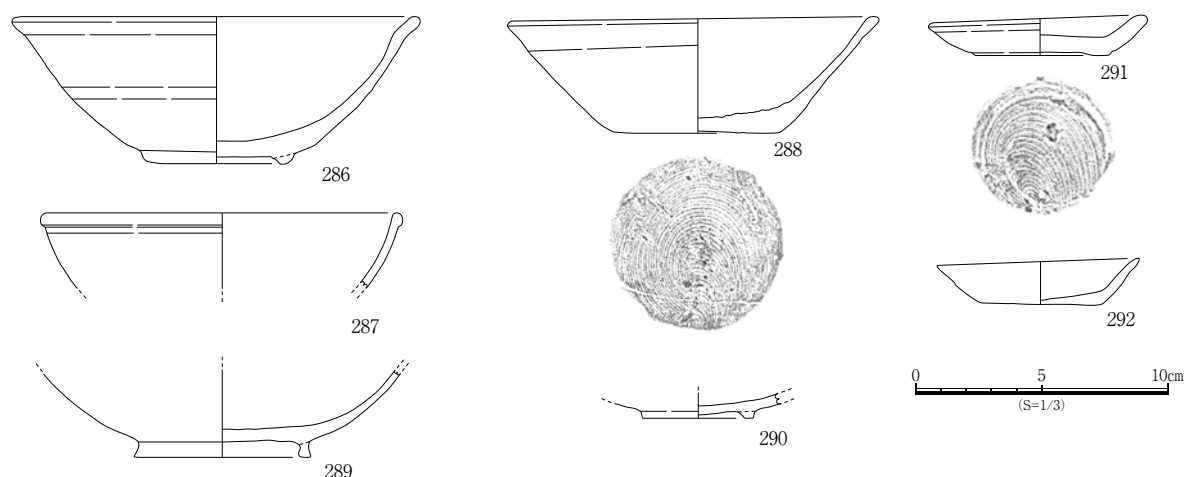


図4-151 包含層出土遺物実測図

3. ⅢB-2区

(1) 調査区の概要と基本層序

① 調査区の概要

県道30号香北赤岡線に隣接する調査区で、平成22年度に調査を実施したⅢB-1区の西側に位置する。調査面積は2,410㎡である。弥生時代終末から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、中世、近世に至る遺構と遺物を確認した。遺構は調査区全域で確認されており、検出された遺構は竪穴建物跡8軒、掘立柱建物跡27棟、柵列6列、土坑90基、溝53条、柱穴1,000個以上などである。溝は東側に位置する調査区ⅢB-3区に接続するものも確認されている。竪穴建物跡はⅢB-2区から東側の調査区において多数検出されている。

② 基本層序

調査区北壁で認められた基本層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層 細砂混じりの褐灰色(10YR5/1)シルト層(耕作土)

第Ⅱ層 細砂混じりのにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト層(地山)

第Ⅲ層 第Ⅰ層及び第Ⅱ層が混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト層(攪乱)

(2) 検出遺構と遺物

① 竪穴建物跡

ST1(図4-153・154)

ST1は調査区北東部で検出した竪穴建物跡である。長軸3.7m、短軸3.0mの平面形は隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは約16cmであり、埋土は黒褐色細粒砂混じりシルトである。床面で中央ピット(ST1_P1)、貯蔵穴(ST1_SK1)を検出し、支柱穴は検出していない。中央ピットは床面の中央部で検出した。長軸0.64m、短軸0.58mの不整形を呈する。床面からの深さは約7cmであり、埋土は炭化物を少量含んだ黒褐色細砂混じりシルトである。貯蔵穴は床面の北西隅で検出した。直径0.6mの円形で床面からの深さは約25cmである。埋土は黒褐色細砂混じりシルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺・甕・高杯、ミニチュア土器、叩石である。293は壺である。外面はナデ調整であり、ハケメ状にみえる部分がある。内面はヨコハケ調整である。頸部外面には粘土紐接合痕跡が認められる。294は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部は丸くおさめる。外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施したと推測される。口縁部内面にはハケ調整を施し、頸部には工具の静止痕が認められる。295は壺である。口縁部は大きく外反し、口縁端部をわずかにつまみ上げる。口縁部外面は縦方向のハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。体部内外面ともハケ調整である。体部内面には粘土紐接合痕跡が認められる。296は壺である。扁球形を呈する。外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。外面には煤が付着する。297は壺である。外面は細かなハケ調整であり、一部にはミガキ調整を施す。内面はナデ調整であり、ハケメ状を呈する部分、砂粒の移動痕跡が認められる部分がある。298は甕である。口縁部は屈曲の弱い「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部まで全面に叩き目が認められる。口縁部内面はハケ調整であり、体部内面はナデ調整である。底部は丸底である。外底面には不定方向の叩き目が見られ、端部を叩くことで丸底としている。299は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き目が認められ、叩き目の方向から、底部、体部下半部、上半部の3分割で施されている。口縁部は叩き調整後、ハケ調整を施す。底部は丸底であり、外底面には叩き目がみられる。内面は全面、ハケ調整であ

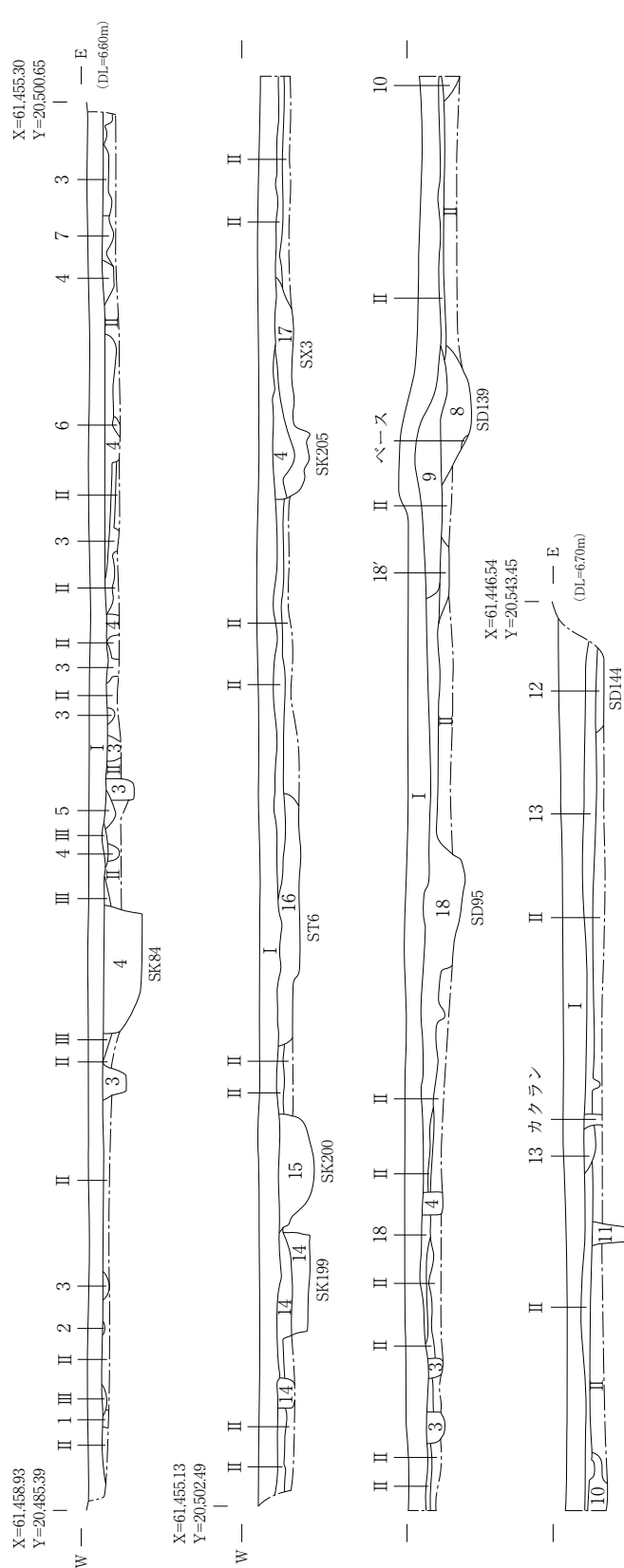


図4-152 調査区北壁セクション図

- 遺構埋土
- 炭化物が少量混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト
 - 黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
 - 明黄褐色(10YR6/6)細砂混じりシルト(地山)をブロック状に含む黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
 - 黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
 - 第I層が混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
 - にぶい黄褐色(10YR4/3)が混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト
 - 第II層が混じる褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト
 - 黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト
 - 土器片を含む灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
 - 黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト
 - 黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト
 - 黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルト
 - 下層に褐色(7.5YR4/4)が混じる黒褐色(7.5YR3/2)細砂混じりシルト
 - 風化礫が少量混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト
 - 風化礫が少量混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
 - 黒色(10YR2/1)細砂混じりシルトブロックを含み、風化礫が少量混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
 - 褐色(10YR4/6)細砂混じりシルト(地山)ブロックを少量含み、風化礫が少量混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
 - 暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト
 - 黒褐色(10YR3/1)及び黄褐色(10YR5/6)細砂混じりシルトがブロック状に混じる暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト
- 層位
- 第I層 褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルト層(非作土)
- 第II層 明黄褐色(10YR7/6-6/6)の腐った風化礫が上層に集中する、にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂混じりシルト層(地山)
- 第III層 第I層及び第II層が混じる黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト層(雑乱)
- 0 1 2 3 4m
(S=1/80)

3.ⅢB-2区 (2) 検出遺構と遺物

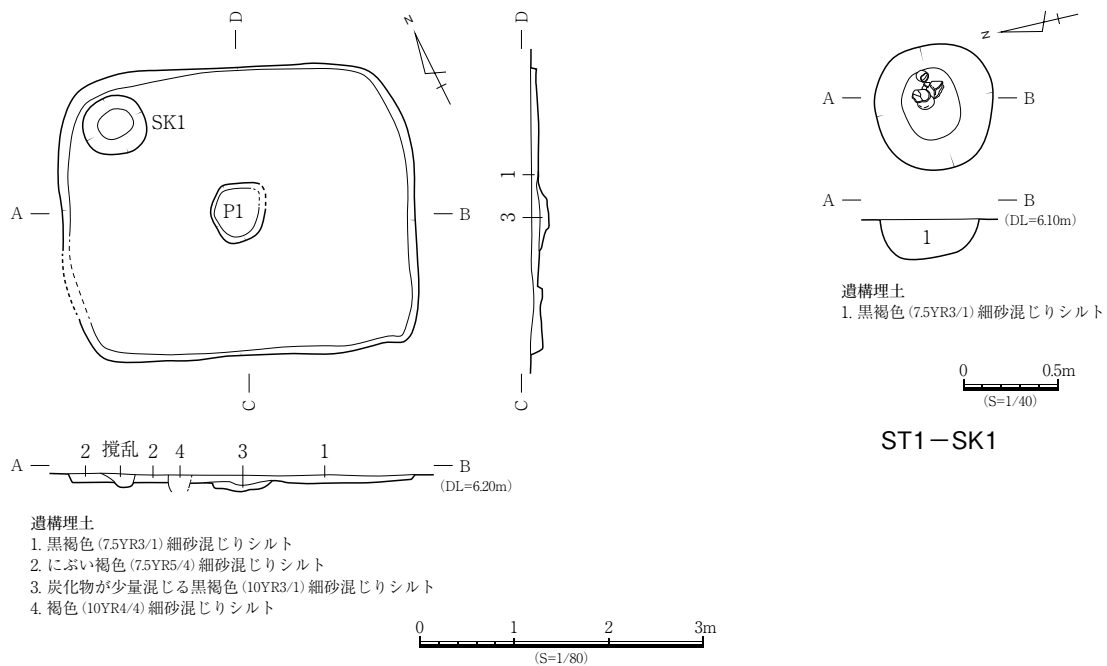


図4-153 ST1

る。上半部はハケ調整後ナデ調整である。300は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は尖らせる。外面は口縁部まで叩き調整である。体部中位付近は方向の異なる叩き調整を重ねる。口縁部外面は指頭による成形のため、叩き目はつぶれている。内面はハケ調整を基本とするが、ナデ調整、ケズリ調整も部分的に施され、やや統一性がない。303は鉢である。口唇部は面取りされ、凹面状を呈する。口縁端部はわずかに外方へ引っ張り出す。口縁部外面はヨコハケ調整であり、体部はナデ調整である。内面はハケ調整後、ミガキ調整である。口縁端部までミガキ調整が及ばずハケメがみられる。煤が付着する。高杯の可能性ある。304は高杯である。杯部は丸みを持ってひろがり、口縁部は緩やかにひろがる。口唇部には面取りを施す。杯部外面はケズリ調整後ミガキ調整である。内面はハケ調整後ミガキ調整である。307は高杯である。裾部は内湾気味の「ハ」の字状を呈し、端部は丸くおさめる。脚部と裾部の境に円孔を3ヶ所穿つ。外面はミガキ調整である。脚部内面はケズリ調整、裾部内面はハケ調整である。308はミニチュア土器である。手づくね成形であり、指頭圧痕が多くみられる。ほぼ完存である。309は砂岩製の叩石である。扁平な円形の川原石を使用している。側面に弱い敲打痕跡がみられる程度である。

ST2(図4-155～157)

ST2は調査区北東部で検出したベッド状遺構を伴う竪穴建物跡である。西はSD5に切られる。一辺約5.3mの隅丸方形を呈すると考えられる。ベッド状遺構は、にぶい黄褐色細砂混じりシルトで構築されていた。低床面から約10cm高い。ベッド状遺構は東側で一部検出できなかったが、本来は四周に巡っていたと推測される。遺構検出面から低床面までの深さは約14cmであり、主な埋土は黒褐色細砂混じりシルトと灰黄褐色細砂混じりシルトが混ざる土層、黒色細砂混じりシルトである。床面でピット6基、土坑1基を検出した。ST1_P1は中央ピットである。床面の中央部で検出した。直径約0.7mの円形であり、床面からの深さは約16cmである。埋土は炭化物を少量含む黒褐色細砂混じりシルトである。

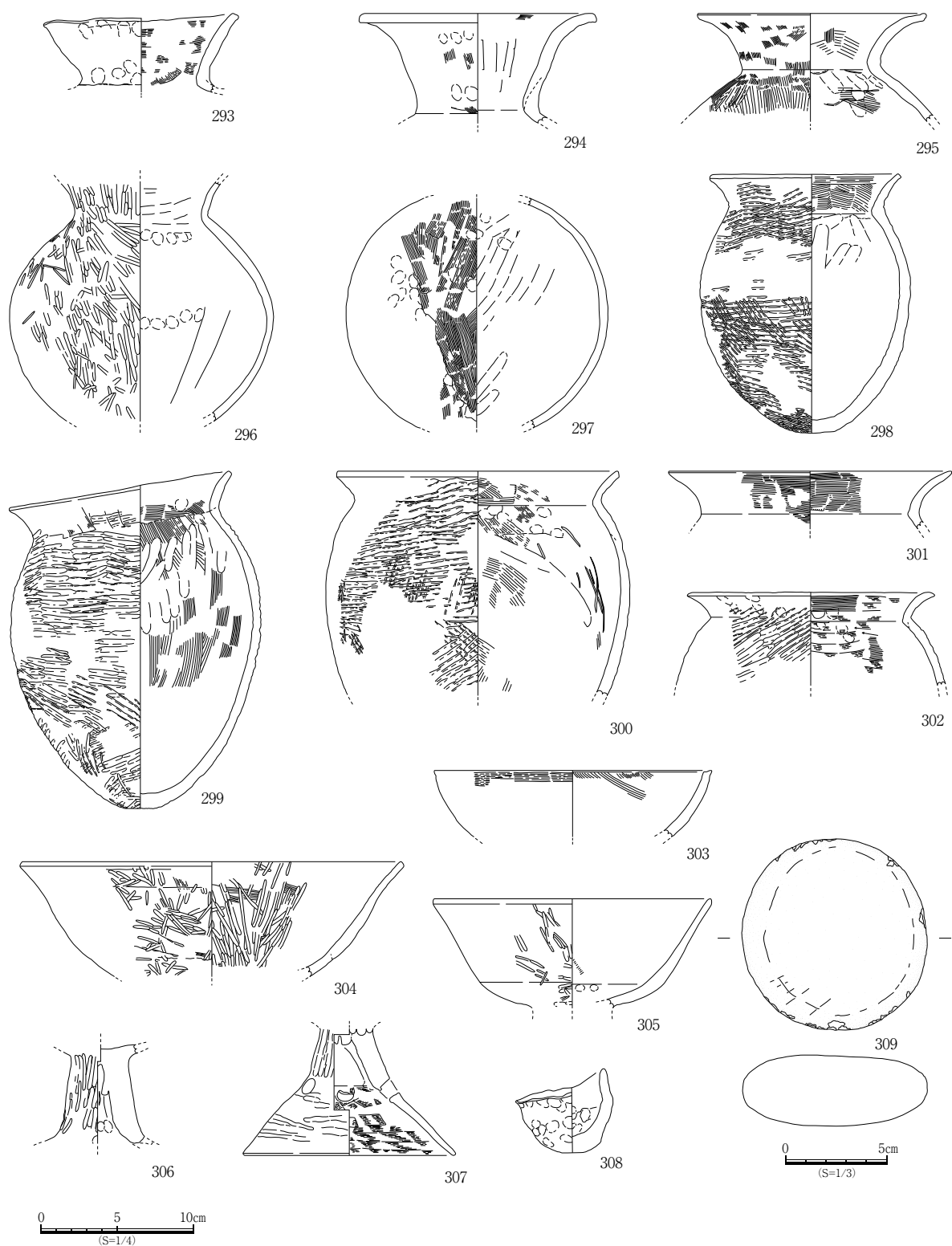


图4-154 ST1出土遺物実測図

3.ⅢB-2区 (2) 検出遺構と遺物

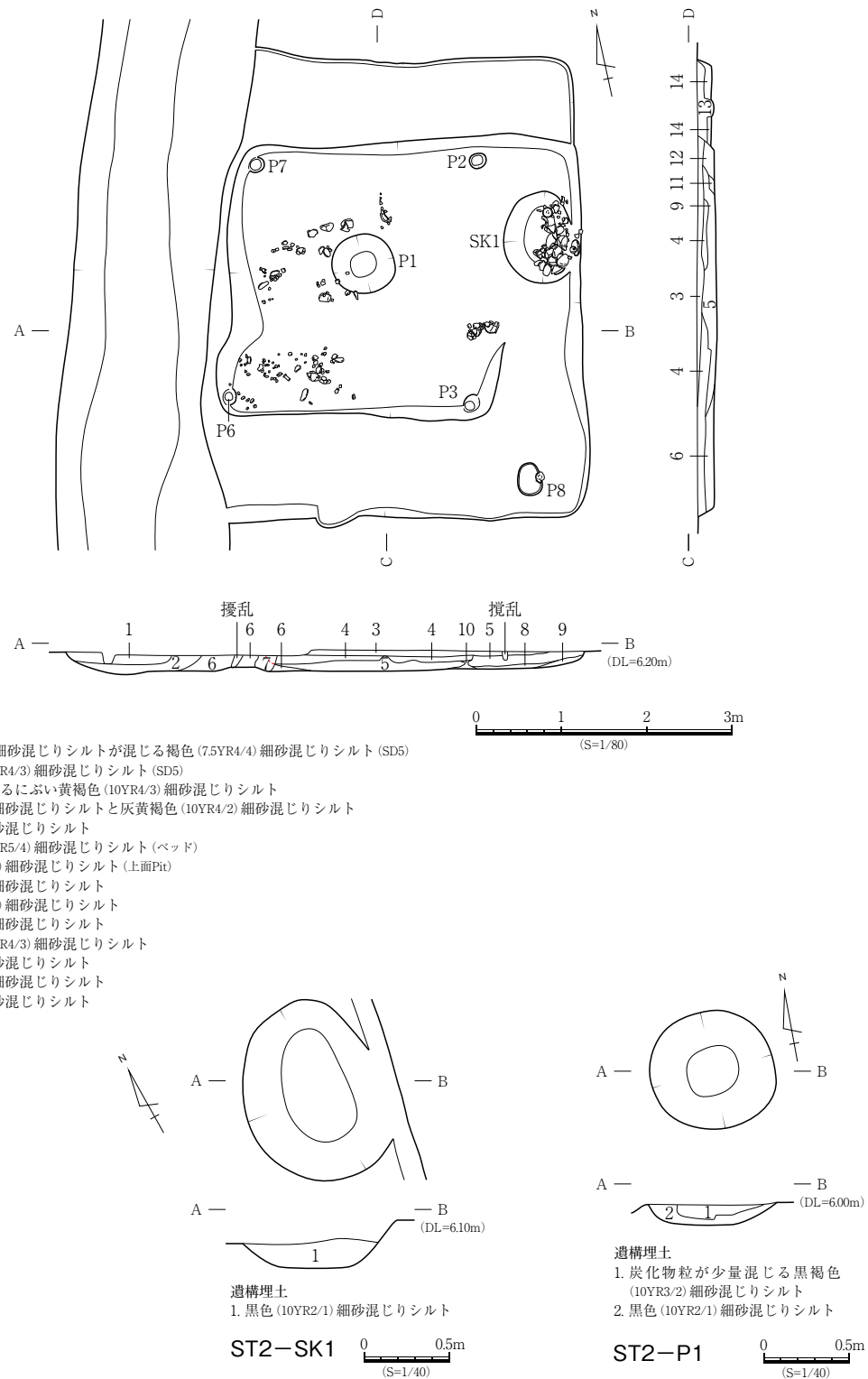


図4-155 ST2

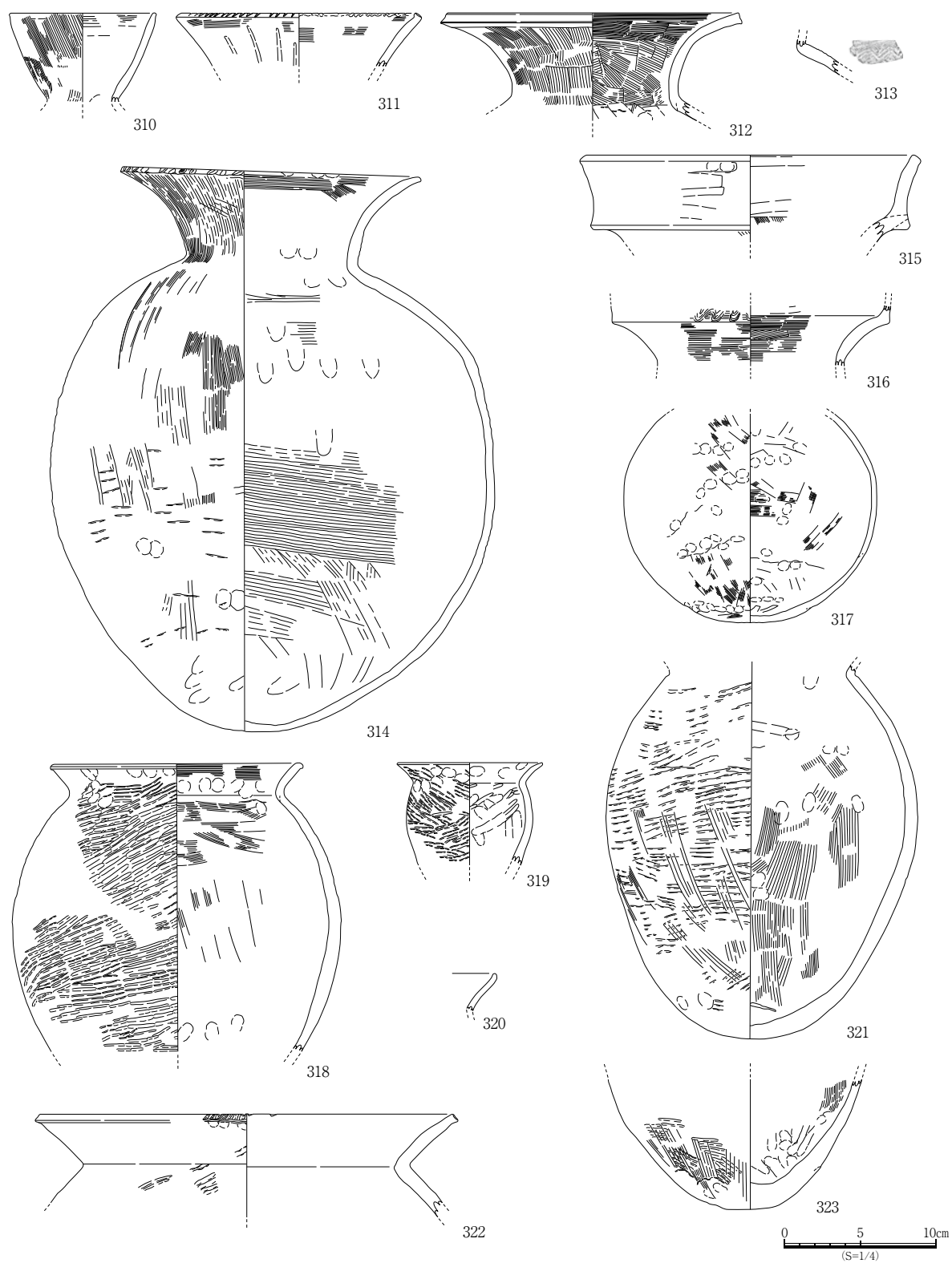


图4-156 ST2出土遺物実測図1

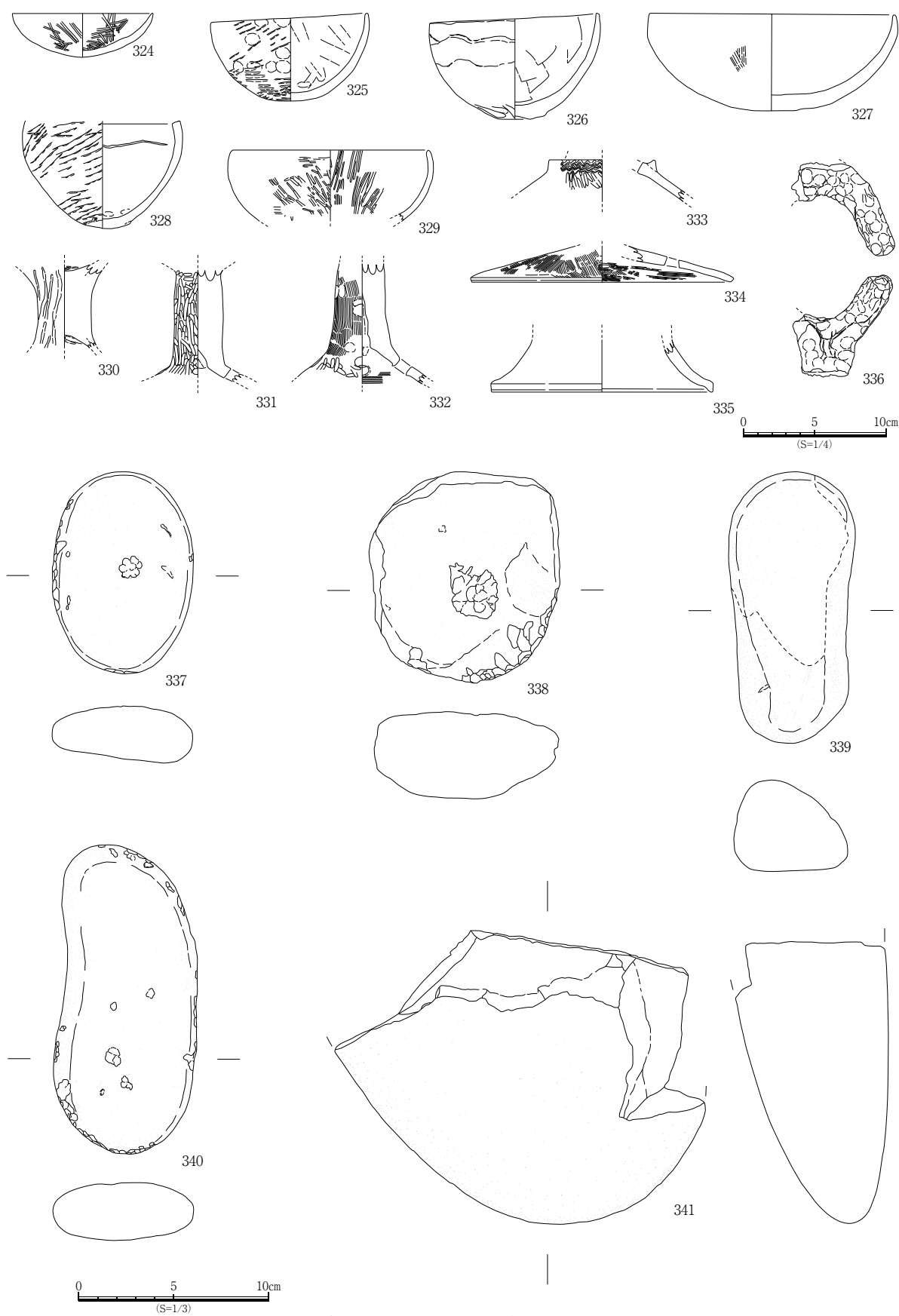


図4-157 ST2出土遺物実測図2

りシルト、黒色細砂混じりシルトである。主柱穴は低床部の四隅で検出した、ST2_P2, ST2_P3, ST2_P6, ST2_P7である。直径約20cmの円形で床面からの深さは29cmから41cmである。ST2_SK1は東壁に接して検出した土坑である。長軸約1m, 短軸約0.8mの楕円形を呈し、床面からの深さは約15cmである。埋土は黒色細砂混じりシルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺・甕・高杯・支脚、叩石、焼石、台石である。310は壺である。口縁部は内湾気味であり、口唇部は尖らせる。外面はハケ調整後ミガキ調整である。内面はナデ調整であり、口縁端部にはヨコハケ調整を施す。内外面の色調は橙色である。311は壺である。口縁部は直線的にひろがり、口唇部には刻目を施す。外面には縦方向の調整痕が認められ、口縁部はヨコハケ調整である。内面はヨコハケ調整である。312は壺である。口縁部は大きくひろがる。口唇部に強いヨコナデ調整を施し、凹面状を呈する。内外面ともハケ調整である。313は壺である。肩部の破片であり、櫛描波状文を描く。314は壺である。体部は球形を呈し、口縁部は大きくひらく。口唇部には刻目を施す。丸底である。体部外面の下半部は叩き調整後ハケ調整を施し、上半部にはハケ調整を施す。口縁部はハケ調整である。体部内面の上半部はヨコハケ調整であり、下半部はハケ調整後ナデ調整を施す。315は二重口縁壺である。二次口縁は外反し、口唇部には面取りを施す。内外面ともナデ調整であり、一部ミガキ状を呈する。316は複合口縁壺である。二次口縁外面には櫛描波状文を施す。内外面ともヨコハケ調整である。317は壺である。扁球形を呈し、丸底である。内外面ともナデ調整・ハケ調整である。内外面に粘土紐接合痕跡が認められ、幅約2cmの粘土紐を積上げていると推測される。318は甕である。体部は球形を呈する。口縁部は「く」の字状に外反し、端部は丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き調整を3分割で施す。口縁部は叩き調整後、ヨコナデ調整を施す。内面の最大径部以下はハケ調整後ナデ調整である。最大径部以上はヨコハケ調整である。319は小型の甕である。口縁部は体部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はナデ調整であり、一部はミガキ状を呈する。320は甕である。内外面ともヨコナデ調整であり、端部をつまみ上げる。搬入品と考えられる。321は甕である。中位がやや張った長胴形であり、丸底である。外面は叩き調整であり、下半部は叩き調整後粗いハケ調整、底部付近は叩き調整後ナデ調整である。内面肩部はナデ調整、肩部以下はハケ調整である。322は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施し、口唇部全面に刻目を入れる。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。324は皿状の鉢である。外面は若干凹凸がある。内外面ともミガキ調整である。325は鉢である。丸底であり、半球形を呈する。外面は叩き調整後ナデ調整である。被熱により変色する。ほぼ完存である。326は半球形を呈した鉢である。底端部に強いナデ調整・ケズリ調整を施すことで丸底化する。外底面はわずかに凹む。外面はナデ調整、内面は工具ナデ調整である。外面には粘土紐接合痕跡が認められる。ほぼ完存である。327は鉢である。口径が大きく、器高は低い形態である。丸底である。磨耗のため調整等の観察は困難である。329は高杯である。口縁部は丸みを持って立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。外面はミガキ調整、内面はナデ調整後ミガキ調整である。331は高杯である。脚柱部は中実であり、外面はミガキ調整を施す。裾部に4ヶ所、円孔を穿つ。煤が付着する。332は高杯の脚部である。円孔を4ヶ所、穿つ。脚柱部外面はタテハケ調整であり、裾部はミガキ調整である。裾部内面はハケ調整である。333は高杯の裾部である。外面に櫛描波状文を施した突帯を貼付する。また、円孔を穿つ。外面はミガキ調整である。外面の色調は橙色である。334は高杯の裾部である。大きくひらき、端部は丸くおさめる。内外面ともハケ調整である。裾部に円孔を穿つ。337は砂岩製の叩石である。楕円

形の扁平な川原石を使用する。中央と側面の一部に敲打痕跡が認められる。338は砂岩の叩石である。中央部に敲打痕跡が認められる。側面は風化しており、敲打によるものかは不明である。341は砂岩製の台石である。平滑な面があり、砥石として使用か。欠損する。被熱により変色し、煤が付着する。

ST3(図4-158)

ST3は調査区の南東隅で検出した竪穴建物跡である。中世のピットによって切られる。東西約4.7m、南北4.0m以上の隅丸方形状を呈する。検出面から床面までの深さは約16cmであり、埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトと黒褐色(7.5YR3/1)シルトに暗褐色(7.5YR3/3)シルトをブロック状に含む土層である。床面の南東部には焼土を伴うSK1が位置している。埋土は細砂混じりの黒色シルトに赤褐色の粘土質シルトを粒状に含む。遺構の北部のほぼ中央にはカマドが作りつけられていた。カマドの平面形は不整形を呈する。遺物の出土量は少ない。

図示できたのは、弥生土器甕、土師器甕、青磁碗、金属製品である。342は土師器の甕の口縁部で、口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整を施す。343は弥生土器の甕で口縁部である。口唇部は摘みだしている。外面はハケとナデ調整を施す。344は甕の底部である。外面には叩き目調整が認められ、内面はナデ調整を施す。342は土師器の甕で口縁部で、口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ調整を施す。346は青磁の口縁部である。端反状で内面には3条の界線がみられる。345と346は上面遺構からの流れ込みと考えられる。

ST4(図4-159・160)

ST4は調査区の北東部で検出したベッド状遺構を伴う竪穴建物跡である。長軸6.7m、短軸6.0mの隅丸長方形を呈する。ベッド状遺構は西側、南側で検出した。ベッド上面近くまで削平されていた。ベッド上面、床面でピットを14基検出したが、ST4に伴わないものも含んでいると考えられる。主柱穴、中央ピットはともに判然としない。

図示した出土遺物は弥生土器の壺・甕・鉢・高杯、ミニチュア土器、石包丁、叩石である。348は壺である。口縁部は内湾し、口唇部は平坦面を成す。口縁部外面はヨコナデ調整である。口縁部内面は粗いハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。肩部外面は粗いハケ調整である。349は大型壺の底部である。内底面には指頭圧痕が明瞭にみられる。外面は叩き調整後、タテハケ調整を疎らに施す。外底面はナデ調整で仕上げる。350は甕である。頸部まで叩き調整で作り、口縁部は粘土紐を接合し、ヨコナデ調整で仕上げる。351は小型の鉢である。体部から口縁部にかけて直線的にのびる。底部は丸みを持った平底である。外面は叩き調整後、ナデ調整である。352は鉢である。底部径は大きく、器高は低い。口縁部は直立気味にのび、口唇部は丸くおさめる。内外面ともハケ調整・ナデ調整で仕上げる。形態的には珍しく、製作途上の可能性もある。353は高杯である。杯底面は円形に凹む。内外面ともミガキ調整である。354・355は高杯の脚部である。脚柱部はともに中実であり、最終調整はミガキ調整である。355の裾部内面はハケ調整である。356は高杯の裾部である。外面に櫛描波状文を施した突帯を貼付する。また、裾部に円孔を穿つ。外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。外面の色調は橙色である。359はミニチュア土器である。内外面ともナデ調整により比較的丁寧に仕上げられている。360は鉢形のミニチュア土器である。手づくね成形である。被熱により変色する。ほぼ完存である。361は砂岩製の打製石包丁である。表面は主要な剥離面を残し、裏面は自然面である。片刃である。短辺には紐掛け用の抉りを入れるが、一辺は欠損している。362は砂岩製の打製石包丁である。表面は主要な剥離面を残し、裏面は自然面である。背部は敲打により整形し、短辺は「ハ」の字状に加工し、

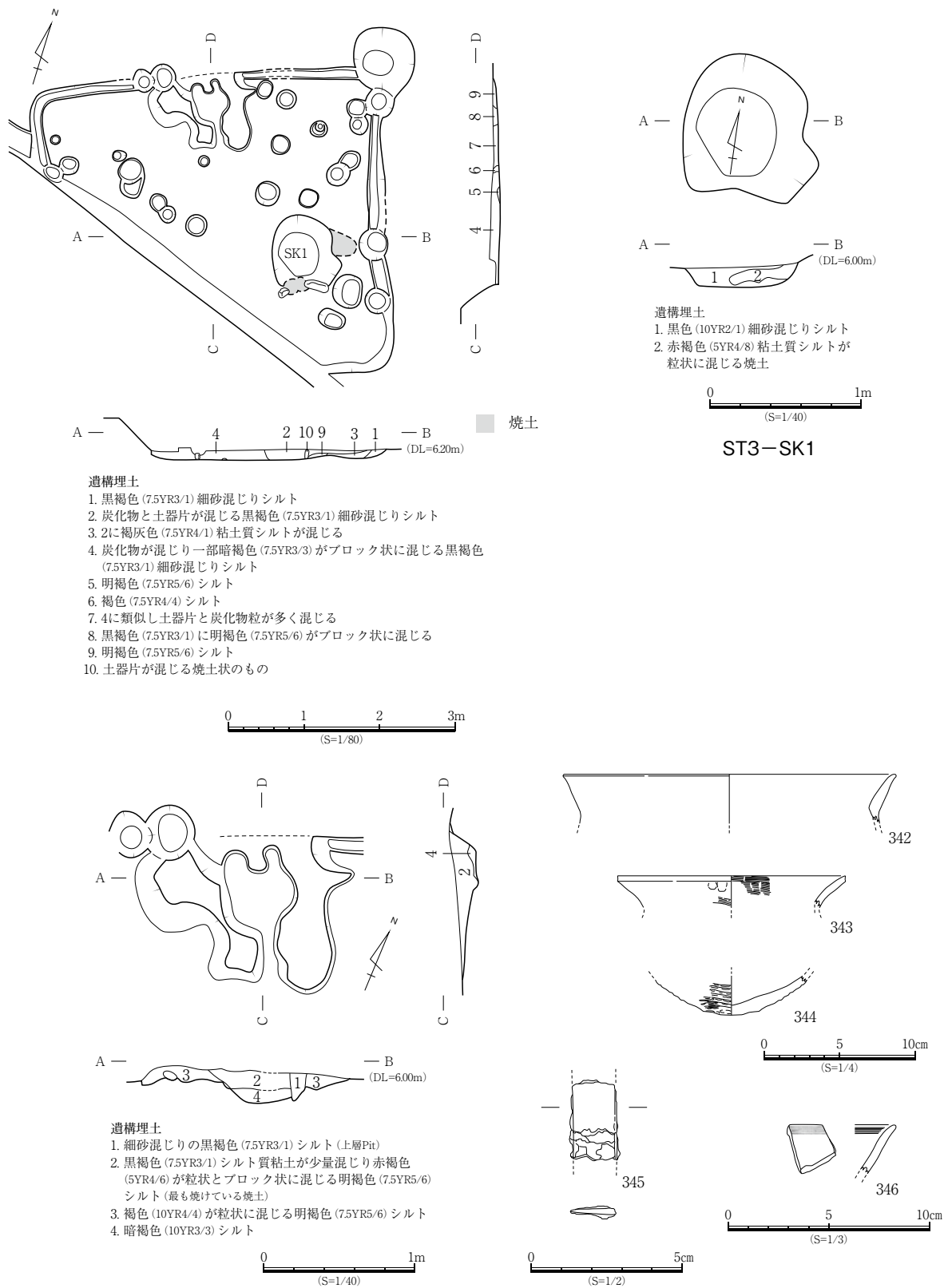


図4-158 ST3 出土遺物実測図

紐掛け用の袂を入れる。片刃であり、刃部付近の厚みは急に薄くなる。刃部の一部は欠損する。363は砂岩製の叩石である。平面形は隅丸台形を呈する。長辺側は強い敲打により、欠損し変形する。他に短辺、側面、中央部に敲打痕跡が認められる。また、被熱し変色する。

ST5(図4-161~163)

ST5は調査区の北東部で検出したベッド状遺構を伴う竪穴建物跡である。SD139・140、試掘坑に切られる。一辺約5.4mの隅丸方形を呈すると推測される。ベッドは幅0.8m、低床面からの高さは約10cmである。ベッド状遺構は黒色シルトと褐色シルトで構築されていた。低床面で中央ピット、柱穴、焼土跡を検出した。中央ピットは低床

面のやや南寄りで検出した。長軸約1.3m、短軸約0.6mの楕円形であり、西部は方形を呈する。低床面からの深さは約20cmであり、埋土は黒色細砂混じりシルトである。長軸方向は竪穴建物の軸方向と一致していない。中央ピットの北側には長軸約0.7m、短軸約0.5mの範囲で床面が焼けており、複合型の燃焼施設と考えられる。また、中央ピットの南側には焼土がやや盛り上がっている部分が認められた。床面四隅のST5_P2、ST5_P5、ST5_P11、ST5_P12が支柱穴と考えられる。遺構北西部において完形の甕など多くの遺物が出土した。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺・甕・鉢・高杯・支脚、粘土塊、ミニチュア土器、石包丁、叩石である。365は直口壺である。口唇部は尖らせる。内外面ともハケ調整後、ミガキ調整を施す。366は壺である。口縁部は大きく外反し、口唇部はヨコナデ調整により平坦面となる。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。367は壺である。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整である。頸部外面には粘土紐接合痕跡が認められる。368は壺である。口縁部は大きくひらき、ヨコナデ調整により口唇部は面取りし、下端を引っ張り出す。外面はタテハケ調整である。内面はハケ調整・ナデ調整である。369は壺の体部片である。外面は叩き調整後、ナデ調整である。上胴部には櫛描波状文を施す。370は壺の体部である。外面はミガキ調整後、櫛描波状文を描く。371は甕である。体部は最大径部を中位に持つ長胴形である。底部はほぼ丸底である。口縁部は「く」の字状を呈する。体部外面は右下が

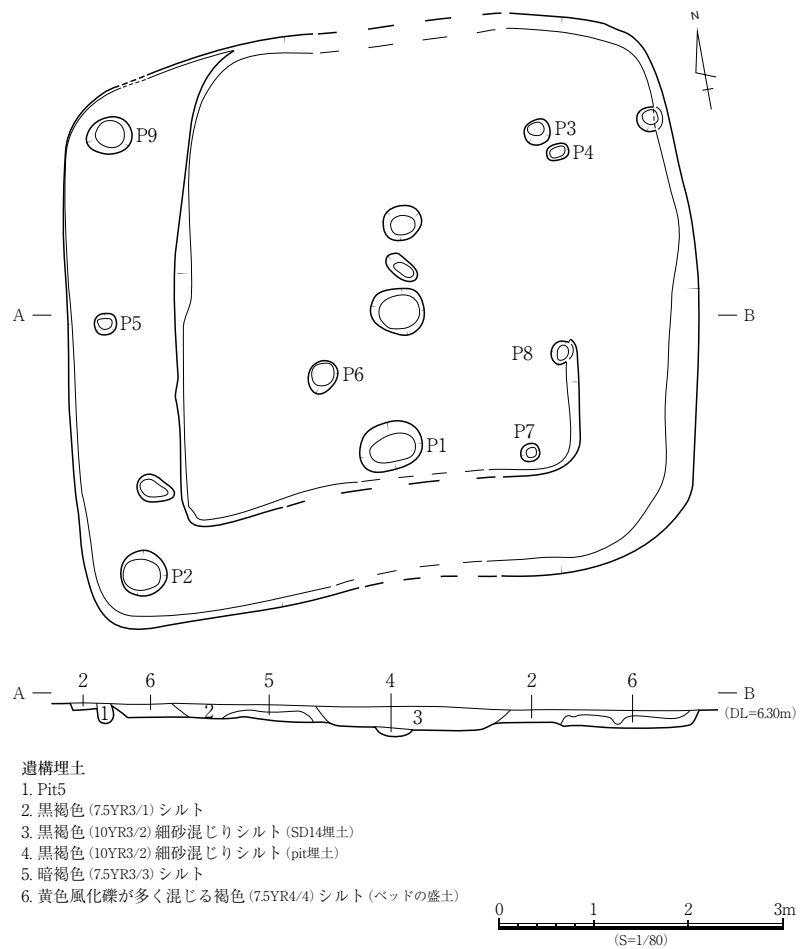


図4-159 ST4

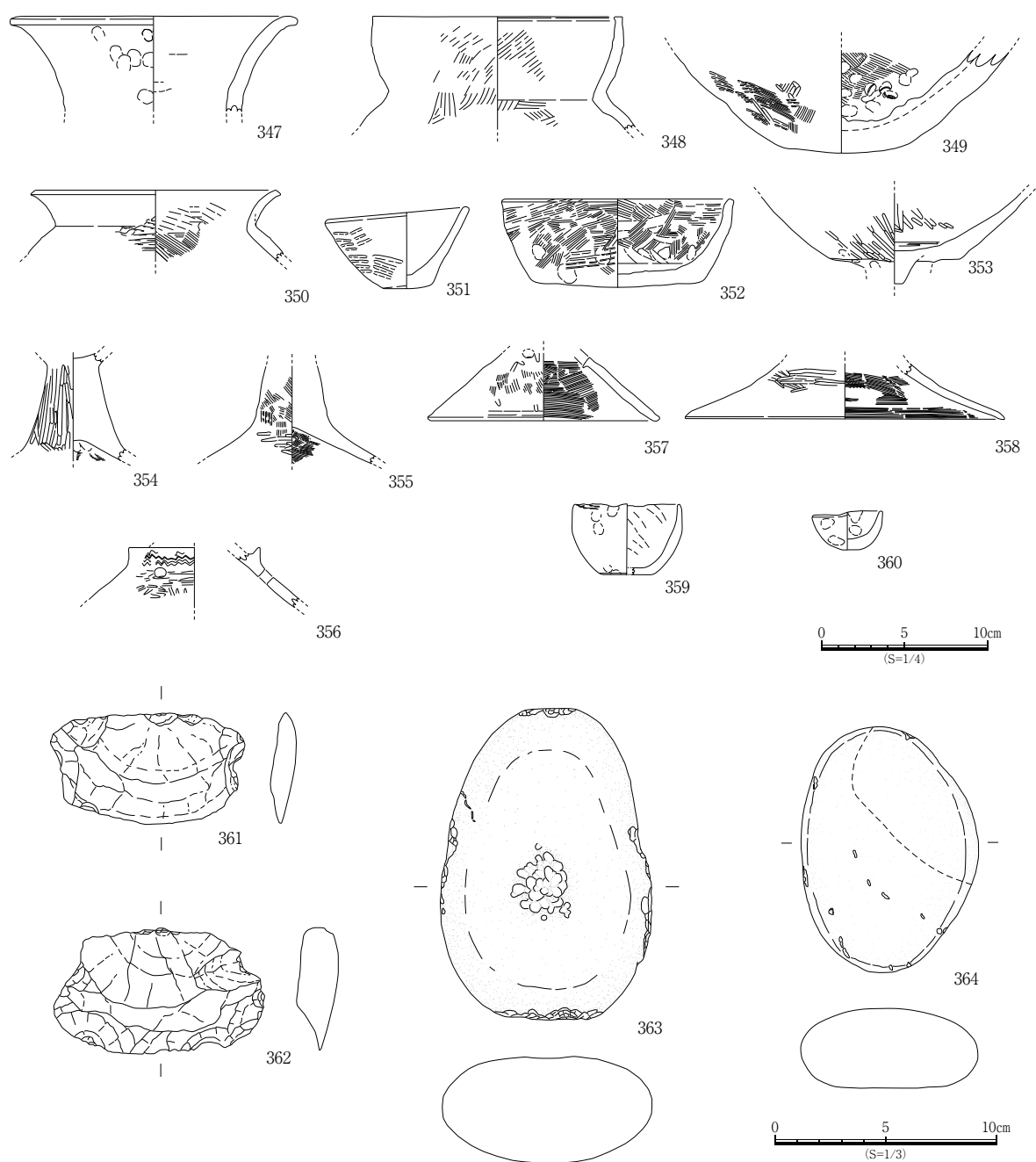


図4-160 ST4出土遺物実測図

り方向の叩き調整後、ハケ調整を施す。下半部にはハケ調整を密に施す。口縁部は叩き調整後、ナデ調整を施しており、叩き目は殆ど見られない。外底面はナデ調整で丸底化する。部分によって底部と体部の境がわずかに残る。口縁部内面はハケ調整、体部はナデ調整である。372は甕である。体部は中位に最大径を持ち、やや張る。口縁部は「く」の字状を呈する。外面は口縁部まで叩き調整を施し、下半部にはタテハケ調整を加える。口縁部は叩き調整後、指頭により整形する。口頸部内面・体部下半部はハケ調整、上半部はナデ調整である。374は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。外面は叩き調整であり、下半部にはタテハケ調整を加える。口縁部の叩き目は上半部から

の一連のものである。内面はナデ調整である。375は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部にヨコナデ調整を施し、端部を丸くおさめる。外面は叩き調整後、ナデ調整である。口縁部内面・体部はハケ調整であり、肩部はケズリ調整である。376は甕である。口縁部は叩き調整後、指頭により「く」の字状に屈曲させる。外面は叩き調整後、粗いタテハケ調整を疎らに施す。口縁部内面は粗いハケ調整、体部は縦方向のナデ調整である。肩部内面には粘土紐接合痕跡が認められ、器壁は厚い。379は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、内湾気味である。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整である。体部は叩き調整後、ハケ調整である。内面はハケ調整である。383は高杯である。杯部は半球形を呈し、口唇部は丸くおさめる。外面はミガキ調整、内面はハケ調整後ミガキ調整を施す。色調は橙色を呈する。搬入品か。384は鉢である。底部は丸みを持った平底でやや突出する。外端部の一部はナデにより丸底化させようとする。外面は叩き調整後、ナデ調整である。上半部には亀裂が多く認められる。内面はハケ調整である。器壁は厚い。385は鉢である。半球形を呈する。やや深い。外底面に強いナデ調整を施し、丸底化する。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部は叩き目を丁寧に消す。内面はハケ調整・ナデ調整である。386は鉢である。半球形を呈する。底部はハケ調整・ナデ調整により丸底化する。内外面ともハケ調整を施す。口縁部外面のハケ調整の及んでいない部分には亀裂がみられる。387は鉢である。外面下半部は方向の異なる叩き調整を重ねる。上半部の最終調整はヨコハケ調整である。ヨコハケ調整の及んでいない口縁部には亀裂がみられる。外底部を縦方向に叩き調整を施し、丸底化する。内面はハケ調整であり、底面には指頭圧痕が認められる。388は鉢である。口縁部は短く外反し、口唇部は丸くおさめる。内面はハケ調整である。389は鉢である。口縁部は短く外反させ、端部は丸くおさめる。外底面に強いナデ調整を施すことで丸底化する。外面は叩き調整後、ナデ調整である。上半部の方が丁寧にナデ消す。内面はナデ調整・ハケ調整である。391は高杯である。脚柱部は中実である。裾部に円孔を穿

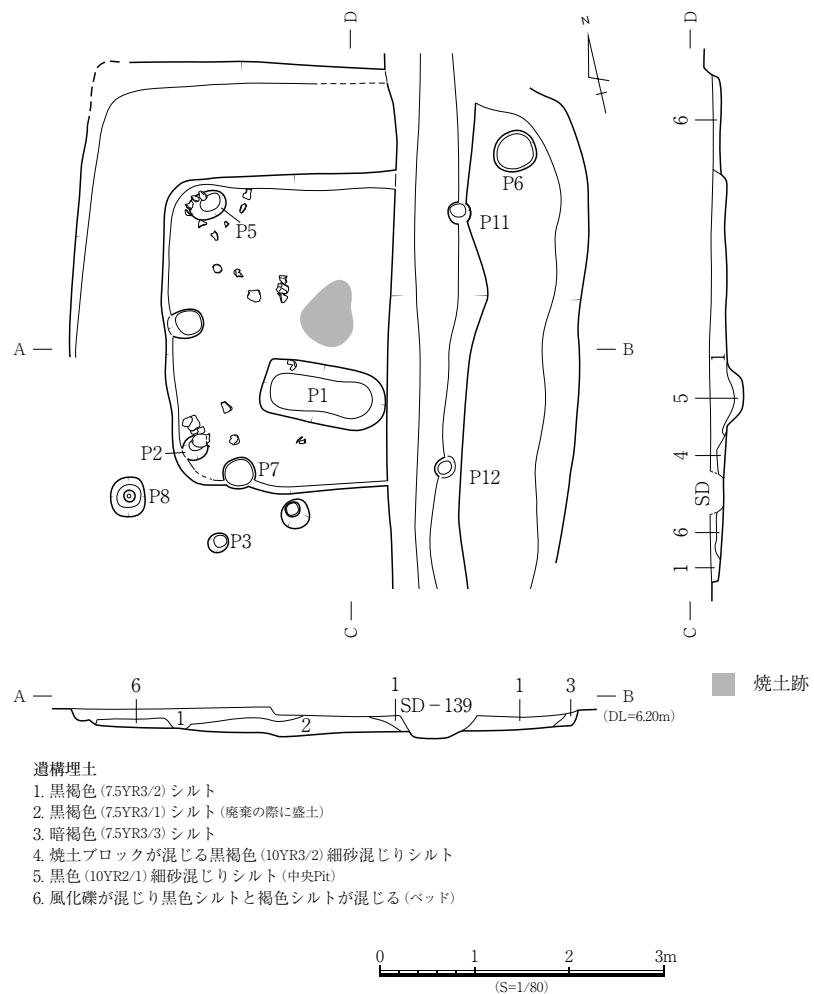


図4-161 ST5

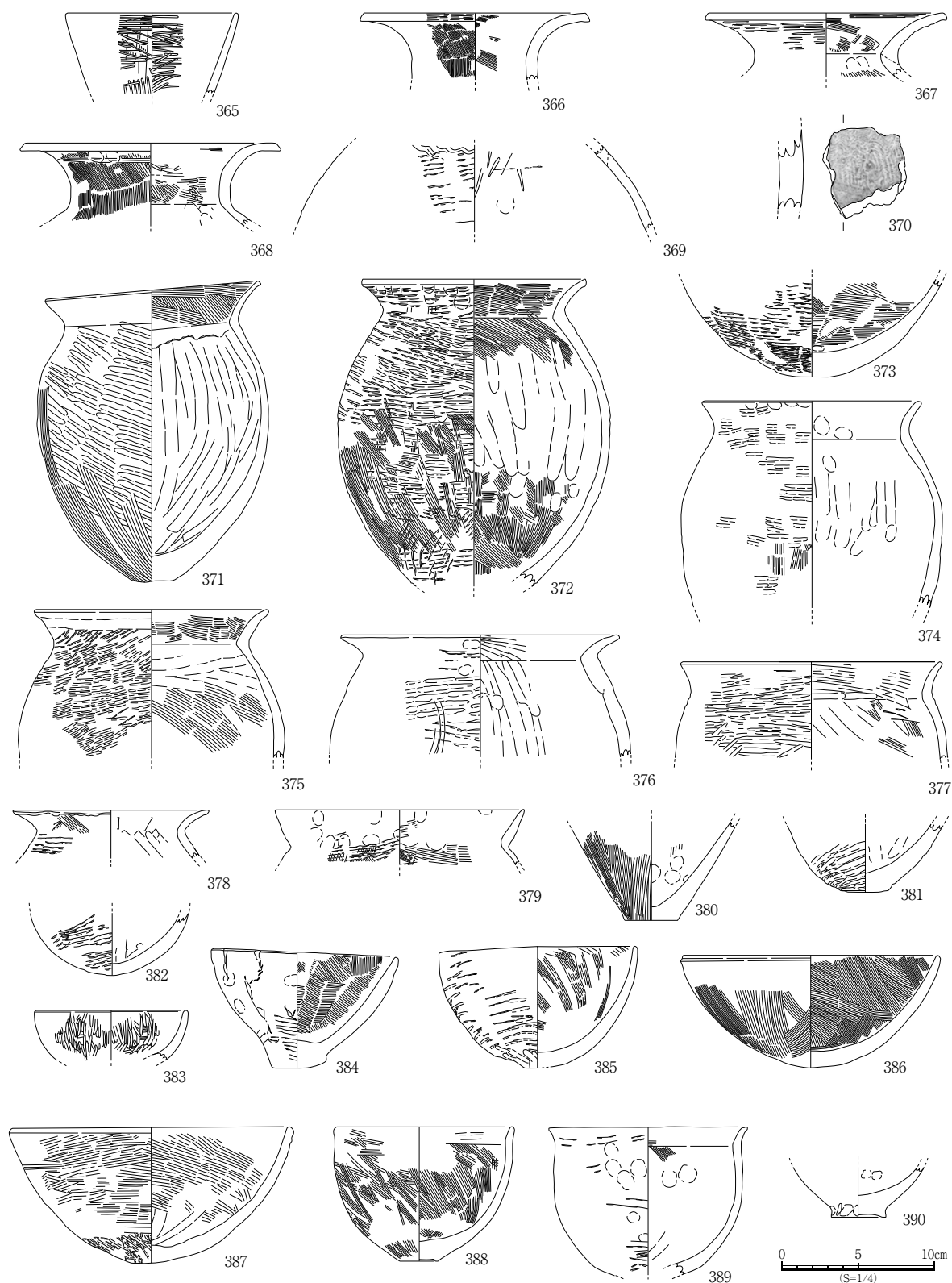


图4-162 ST5出土遗物实测图1

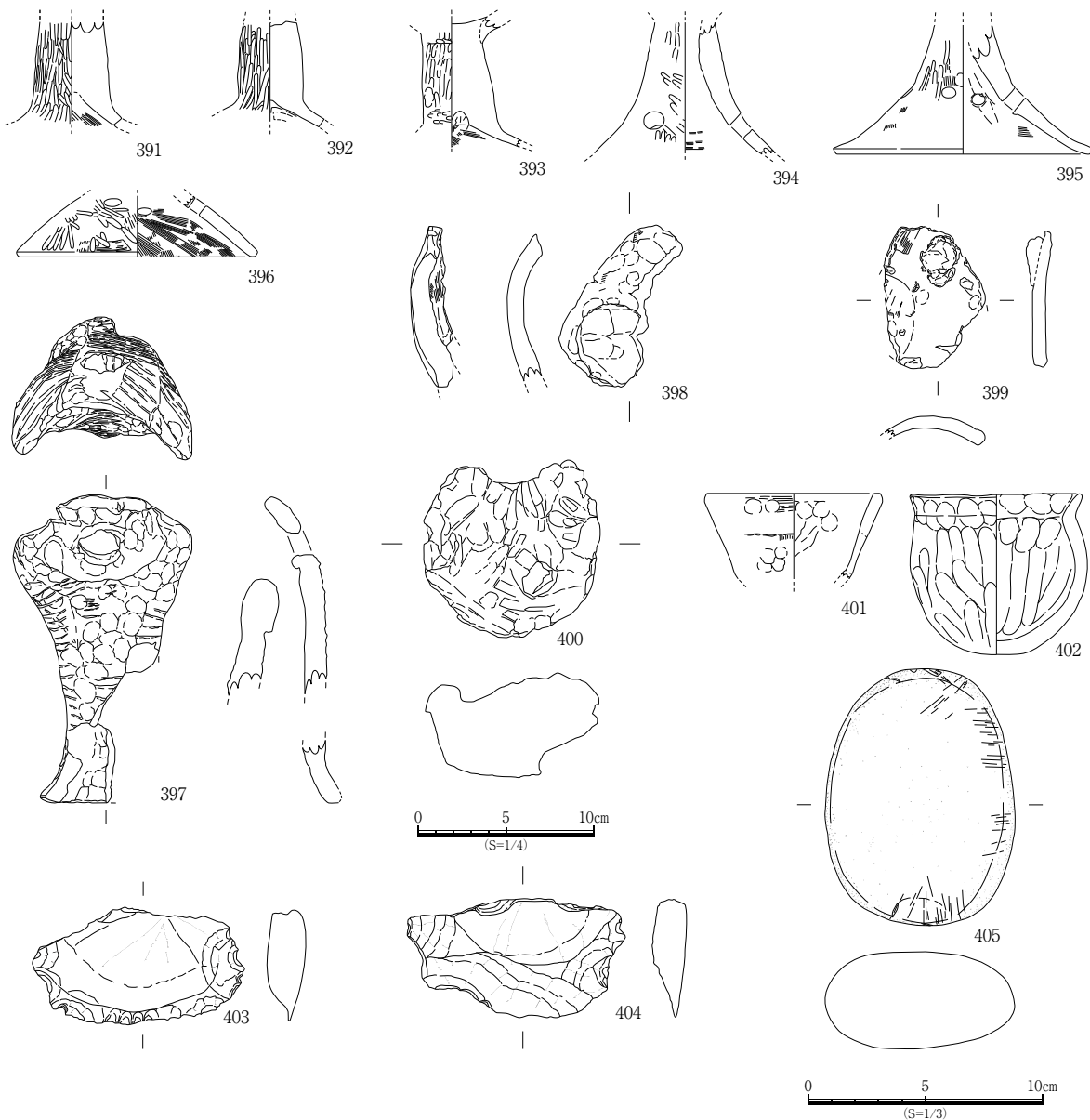


図4-163 ST5出土遺物実測図2

つ。外面はミガキ調整である。裾部内面はハケ調整・ナデ調整である。392は高杯である。脚柱部は中実である。裾部には円孔を穿つ。外面はミガキ調整である。393は高杯である。脚柱部は中実である。外面・杯部内面はミガキ調整、裾部内面はハケ調整である。394は高杯である。脚部から裾部にかけてラッパ状にひろがる。中空である。裾部に円孔を穿つ。外面はミガキ調整である。395は高杯である。脚部は「ハ」の字状を呈する。2孔1対の円孔を穿つ。対面配置か。外面はハケ調整後、ミガキ調整である。裾部内面は粗いハケ調整である。397は土製支脚である。中空の筒を作り、上端部の約半分を内側に折り込み、両端を支点とするために指状に成形する。背部に不整楕円形の穴をやや雑に穿つ。裾部は指頭によりわずかにひろげ、安定度を増す。外面は叩き調整であり、支点を作るために折り込んだ部分、裾部の叩き目は消える。側面等は被熱により変色する。398・399は粘土板である。398は均質な湾曲具合を示し、凸面にはナデ調整が施され、凹面はハケメがみられる。399は粘土板が歪

にねじれる。両面ともナデ調整を施す。粘土塊が付着したまま焼成されている。400は粘土塊である。全面に指の圧痕が認められる。粘土の塊を握って付いた痕跡と考えられる。398・399は厚み・形状から土器製作のための粘土帯(パーツ)、400は生素地が焼成されてしまったものと推測される。402はミニチュア土器である。丸底であり、体部は球形を呈する。口縁部は指頭により短く外反させ、口唇部は尖らせる。内外面ともナデ調整である。ほぼ完存である。403は砂岩製の打製石包丁である。表面は主要な剥離面を大きく残し、裏面は自然面である。背部は敲打により整形する。刃部付近は急に薄くなり、片刃である。両端には紐掛け用の抉りを入れる。404は砂岩製の打製石包丁である。表面は主要な剥離面を大きく残し、裏面は自然面である。背部は敲打により整形する。刃部にむかって薄くなる。片刃である。両端には紐掛け用の抉りを入れる。刃部の一部は欠損する。被熱により変色する。405は砂岩製の叩石である。上下端、中央部に弱い敲打痕跡が認められる。また、側面には線状の敲打痕跡が認められる。

ST6(図4-164・165)

ST6は調査区の中央北部で検出した竪穴建物跡である。SK31に切られる。東西約4.9m、南北4.8m以上の隅丸長方形を呈する。検出面から床面までの深さは約20cmであり、にぶい黄褐色細砂混じりシルトと黒色細砂混じりシルトが混じった土層、オリブ褐色細砂混じりシルトである。床面の中央部(トーン部)は非常に堅い貼床であった。カマドは北西部に作りつけられていた。特異な例である。平面形は馬蹄形を呈する。ST6からの遺物の出土量は少ない。

図示した出土遺物は、須恵器の杯蓋・杯身、土師器の甕、鉄鏃である。406は須恵器の杯蓋である。天井部は丸みを帯び、口縁部内面にはかえりを持つ。天井部外面は回転ケズリ調整、口縁部外面及び内面は回転ナデ調整である。口径は13.6cmである。外面には自然釉が付着する。407は須恵器の杯蓋である。内外面とも回転ナデ調整であり、口縁部内面は凹面状を呈する。408は須恵器の杯身である。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。体部は内外面とも回転ナデ調整である。410は土師器の甕である。偏球形の体部から口縁部は大きくひらく。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。411は方頭形の鉄鏃である。鏃身の断面形は長方形、茎の断面形は方形を呈する。茎の一部が欠損する。

ST7(図4-166)

ST7は調査区の東部で検出したベッド状遺構を伴う竪穴建物跡である。SD139に切られる。ベッド状遺構は北と南に設けられ、幅約1m、低床面からの高さは19cmである。低床面、ベッド上で土坑、ピットを検出した。ST7_P2は中央ピットと考えられる。床面の中央に位置する。直径約0.5mの円形である。床面からの深さは21cmであり、埋土は黒褐色シルト、黒色シルトである。ST7_P1は東壁際の貯蔵穴である。直径0.8mの不整円形であり、床面からの深さは28cmである。埋土は黒色シルトである。甕(415)が正位からやや斜めに置かれていたと推測される。また、ST7_P1と東壁までの間の床面は焼けていた。ピットを18基検出したが支柱穴は判然としない。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺・甕・鉢である。412は壺である。口縁部は緩やかに外反する。口唇部は平坦面を成す部分と丸くおさめる部分がある。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面は粗いハケ調整である。414は二重口縁壺である。二次口縁は直線的にひらき口唇部には面取りを施す。内外面とも粗いハケ調整である。415は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。体部の中位はやや張り、球形を指向する。底部はほぼ丸

3.ⅢB-2区 (2) 検出遺構と遺物

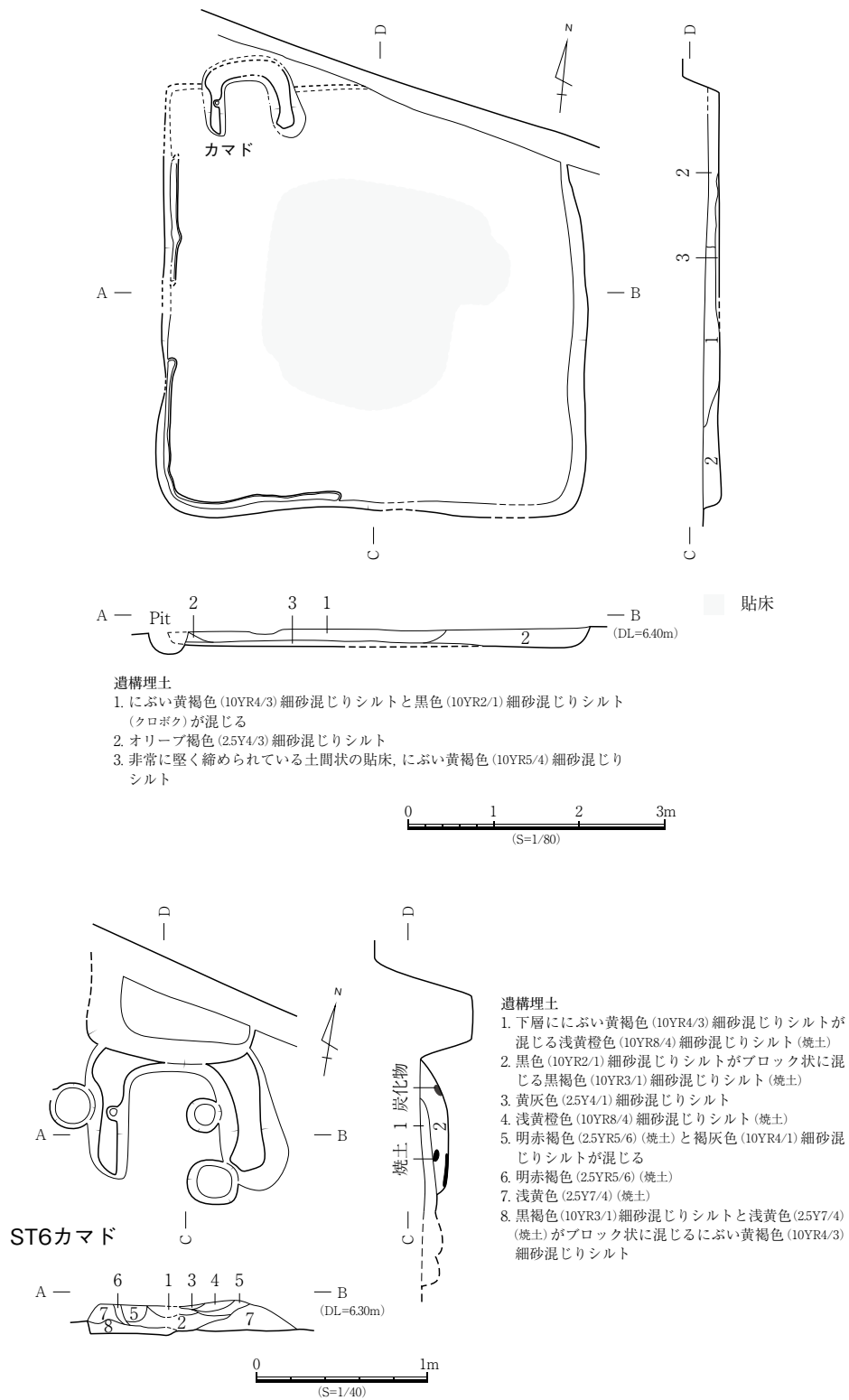


図4-164 ST6

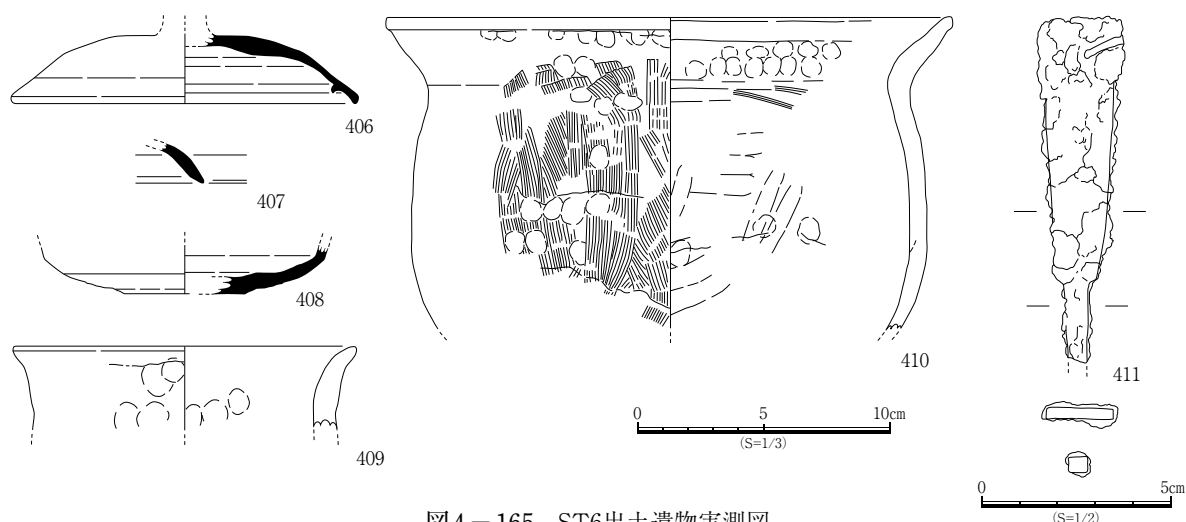


図4-165 ST6出土遺物実測図

底である。外面は叩き調整後、体部中位にタテハケ調整を施す。叩き調整は3分割で施す。内面は口縁部から肩部はハケ調整であり、上胴部はハケ調整後ナデ調整、下半部にはナデ調整を施す。416は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、やや長めである。口縁部は叩き調整後ハケ調整を施す。内面は粗いハケ調整である。418は皿状を呈した鉢である。手づくね成形であり、指頭圧痕が顕著である。器壁は厚い。419は皿状を呈した鉢である。丸底である。内外面ともナデ調整で仕上げる。外底面には何かの圧痕が認められる。420は鉢である。底部は丸みを帯びた大きめの平底である。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。明瞭な亀裂が多くみられる。内面はナデ調整であり、内底面には工具の静止痕跡が認められる。口縁部を指頭によりひろげる。421は鉢である。やや深い形態である。底部は平らな部分が残るものの丸底を指向する。一部の底端部はナデ調整により底部と体部の境は消され、完全な丸底状を呈する。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、底部付近には特に強く施される。器壁はやや厚い。423は鉢である。やや深い形態である。底部は突出し平らな部分が残るものの丸底を指向する。一部の底端部はナデ調整により底部と体部の境をつぶす。外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はハケ調整後、ナデ調整である。424は鉢である。底部は丸みを帯びた大きめの平底である。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整である。また、内底面には工具の静止痕跡が認められる。425は鉢である。口唇部は尖らせる。底部は端部に強いナデ調整を施し、ほぼ丸底にする。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、下半部にナデ調整を施す。427は鉢である。口径は大きく浅いタイプである。底端部をナデ調整によりつぶすことで丸底とするが、底部の輪郭は明瞭に残る。内外面ともナデ調整を施す。428は鉢である。口径は大きく浅いタイプである。内外面ともナデ調整を施す。器壁は厚い。429は体部片である。内面に赤色顔料が付着している。外面には煤が付着する。

ST8(図4-167・168)

調査区の中央部南側において検出したベット状遺構を伴う竪穴建物跡である。遺構の西側の一部はSX23によって切られる。一辺約3.8mの隅丸方形を呈すると推測される。ベットは、東側と西側に設けられていたと考えられるが、西側の一部は確認することはできなかった。東側は幅約1m、西側は幅約0.8m、床面からの高さは約6～9cmを測る。床面、ベット上においてピットを検出した。

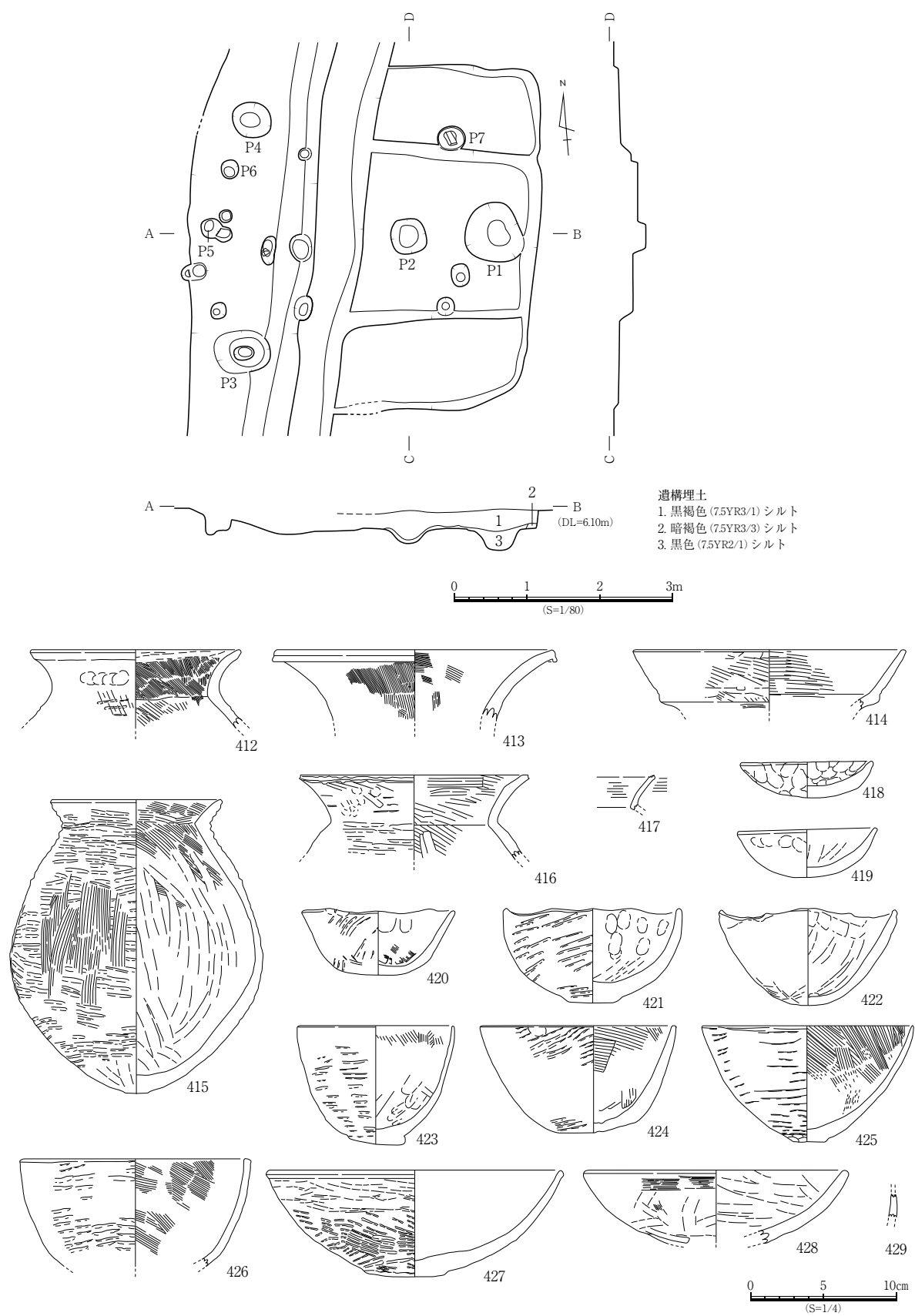


図4-166 ST7 出土遺物実測図

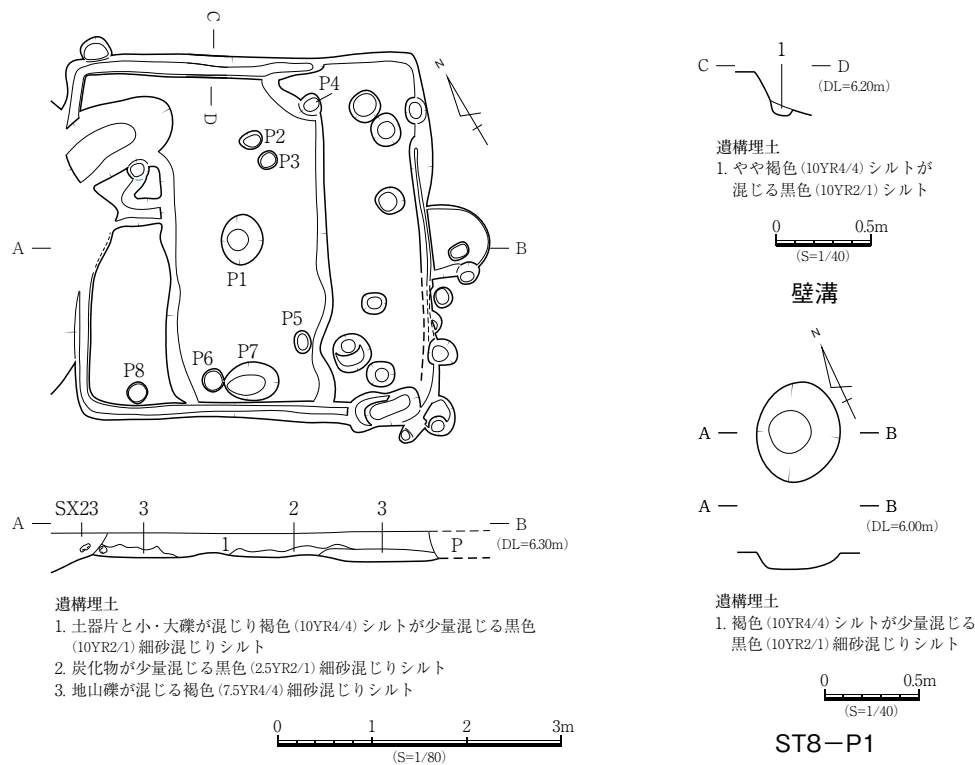


図4-167 ST8

ST8_P1 は中央ピットと考えられる。床面の中央に位置する。直径約 0.5m の円形状を呈する。床面からの深さは 9 cm であり、埋土は黒色(10YR2/1)シルトに褐色(10YR4/4)シルトを含む。ピットを 13 基検出したが主柱穴は判然としない。図示した出土遺物は弥生土器壺、甕、鉢、高杯、石製品、金属製品である。430 は弥生土器の壺である。口縁部は大きく開き、口唇部は摘み出す。内外面ともにハケとナデ調整を施す。431 は壺で、口縁端部は上方に伸びて口唇部は丸くおさめる。外面は頸部まで叩き目調整が認められる。内面はハケ調整で、頸部内面はへら状工具によるナデ調整がみられる。432 は壺の底部で平底を呈する。外面は叩き目調整の後ハケ調整を施す。内面はヘラケズリとユビナデがみられる。433 は甕である。口縁部は「く」の字状で、口唇部はやや丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き目が認められ、内面はハケ調整、胴部にはヘラケズリを施す。外面には煤が付着する。434 は鉢で、やや内湾し深い。外面は叩き目が全面に認められ、叩き目の後ナデ調整を施す。内面は口縁部はハケ調整で底部にかけてユビナデが認められる。435 は鉢でやや内湾する。摩耗しており調整は不明瞭であるが、内面にはハケ調整が認められる。436 と 437 は高杯である。436 は杯部から脚部の一部である。外面はヘラケズリと細かいミガキ調整が施される。杯部内面にもミガキが認められる。437 は裾部で段状を呈し、端部は丸くおさめる。3ヶ所の穿孔がなされる。外面はナデとミガキ調整、内面はていねいなナデ調整が施される。441 は砂岩製の打製石包丁である。表面は自然面で、裏面は剝離面を呈し、両側面には挟りをもつ。439・440 は鉄鏝で共に有茎式である。

② 掘立柱建物跡

SB59(図4-169)

調査区中央北側に位置する桁行 2 間(5.2m)、梁行 2 間(3.85m)を測る総柱を呈する建物跡である。方

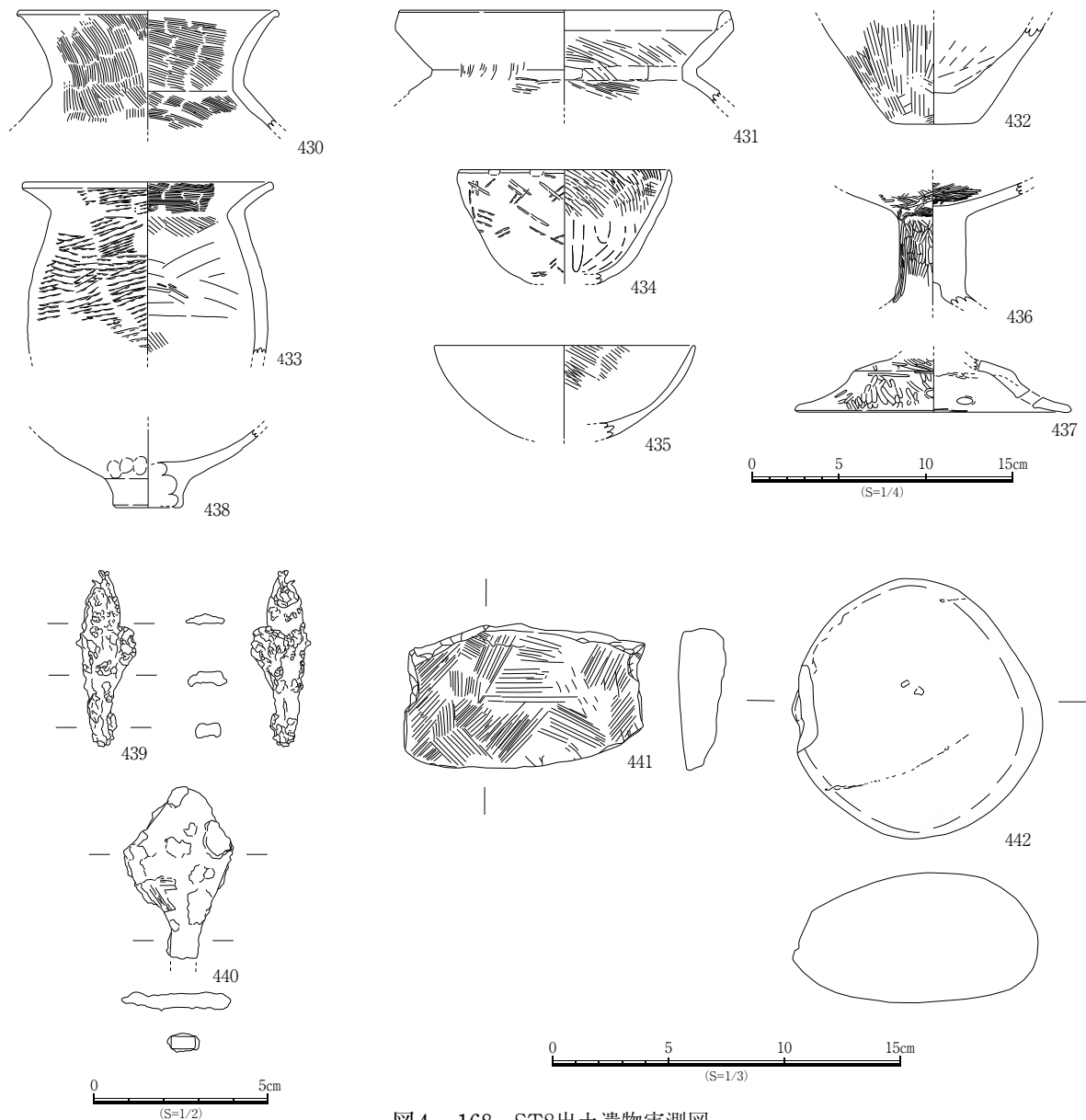


図4-168 ST8出土遺物実測図

位はN-4°-Eを示す。南西隅の柱穴はSD94に切られており確認することはできなかった。面積は約20㎡(推定)である。柱穴掘方は円形から隅丸方形形状を呈し、径はP1・2・7・8・6は約65cm, P3・5は約50cmで深さはP1・P2が50cm前後,その他は10~20cm前後を測る。柱間寸法は桁行1.7~2.2m, 梁行2.5m,柱穴埋土は黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトと黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師器細片などが出土している。

SB60(図4-170)

調査区中央部南端隅に位置する。建物跡の北側を2間分(4.95m)を検出した。柱穴の掘方は隅丸方形形状を呈し、径は0.9~1m, 深さはP1・3は50cm, P2は60cmを測る。柱間寸法は2.15~2.8mである。埋土は黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルトに褐色シルトが混じる。P3の底面からは石包丁の破片が出土している。

SB61(図4-171・172)

調査区の北東隅に位置する。桁行2間(5.6m)、梁行1間(2.4m)の東西棟建物跡で方位はN-80°-Wである。調査区東側を縦断するSD139・140に並行している。面積は13.44㎡である。柱穴掘方は円形から楕円形を呈し、径は30～40cm、深さは30～40cm前後を測る。柱間寸法は桁行で2.7～2.9m、梁行は2.4m、柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルトである。遺物は手づくね成形の土師器皿(443)が出土している。内外面はユビオサエとナデ調整を施す。

SB62(図4-171・172)

調査区の東端中央部に位置する桁行3間(4.75m)、梁行1間(4.15m)の南北棟建物跡で方位はN-8°-Eである。調査区東側を縦断するSD139・140に並行しており、SB63・64と切り合い関係がみられる。東側隅から2ヶ所目の柱穴は検出することはできなかった。面積は19.47㎡で、柱穴の掘方は円形から楕円形を呈し、径は30～40cmを測る。柱穴の深さは25～35cmである。柱間寸法は桁行が1.9～2.2m、梁行は1.5～2.65m、柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトである。遺物は土師器椀(444)が出土している。体部から口縁部にかけて内湾し、外反する。内面はヘラミガキとナデ調整を施す。

SB63(図4-173)

調査区東端中央部に位置する桁行2間(4.75m)、梁行2間(4.0m)の南北棟の建物跡で東側に底が付く。方位はN-6°-Eで、面積は19.0㎡、底分を入れると23.75㎡である。調査区東側を縦断するSD139・140に概ね並行している。SB62と切り合う。

柱穴の掘方は円形から楕円形を呈し、径は20～30cm、深さは30cm前後である。柱間寸法は桁行が2.1～2.65m、梁行は1.7～2.3mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片な

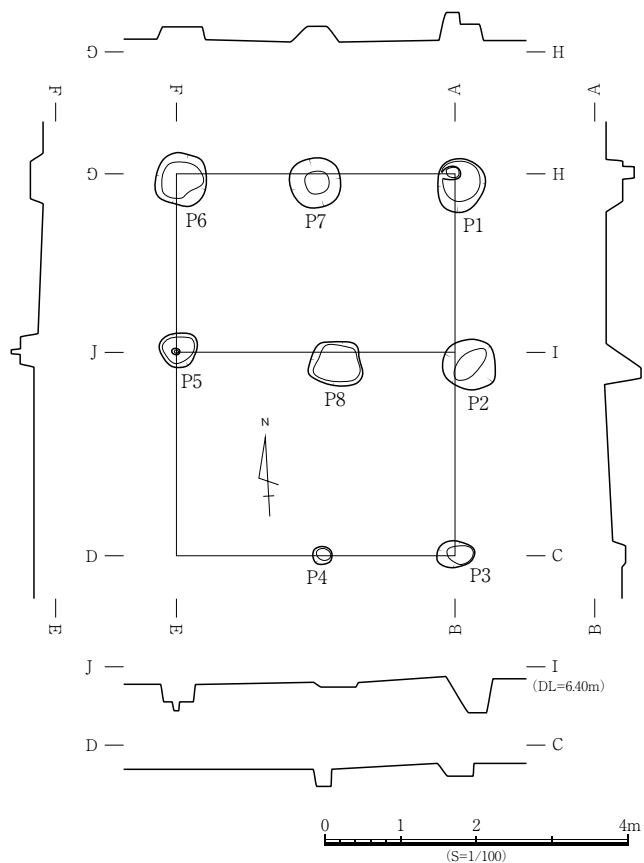
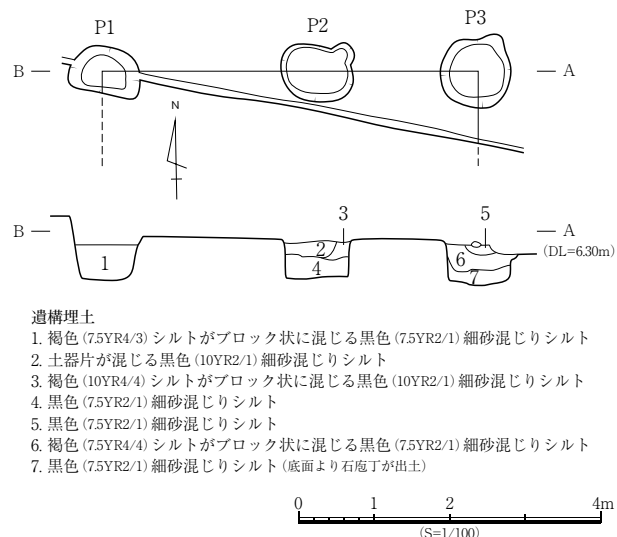


図4-169 SB59



遺構埋土

1. 褐色(7.5YR4/3)シルトがブロック状に混じる黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト
2. 土器片が混じる黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト
3. 褐色(10YR4/4)シルトがブロック状に混じる黒色(10YR2/1)細砂混じりシルト
4. 黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト
5. 黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト
6. 褐色(7.5YR4/4)シルトがブロック状に混じる黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト
7. 黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト(底面より石庵丁が出土)

図4-170 SB60

どが出土している。

SB64(図4-173)

調査区東端中央部に位置する桁行2間(4.5m)、梁行1間(2.45m)の東西棟の建物跡である。方位はN-80°-Wで、面積は約11㎡である。調査区東側を縦断するSD139・140に並行しており、SB62の南側に位置しSB62と切り合う。建物跡を構成する東南隅の柱穴はSD151により切られ、確認できなかった。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径は25～35cmを測る。柱穴の深さは概ね20cm前後を測り、最も深い柱穴で35cmである。柱間寸法は桁行が2.2～2.3m、梁行は2.45mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB65(図4-173)

調査区南東部にあり、SB64の南に位置する。桁行2間(2.95m)、梁行1間(1.6m)の東西棟の建物跡である。方位はN-86°-Wで、面積は4.72㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形を呈し、径は小さなもので20cm、他は35cm前後を測る。深さはP1が約20cm、P3は40cmで他は概ね30cm前後である。柱間寸法は桁行は1.25～1.7m、梁行は1.6mである。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB66(図4-173)

調査区南東部にあり、SB65の東側に位置する。桁行1間(2.6m)、梁行1間(1.3m)の東西棟建物跡である。方位はN-87°-Wで面積は3.38㎡である。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し、径は25～30cm、柱穴の深さは概ね25cm前後である。柱間寸法は桁行

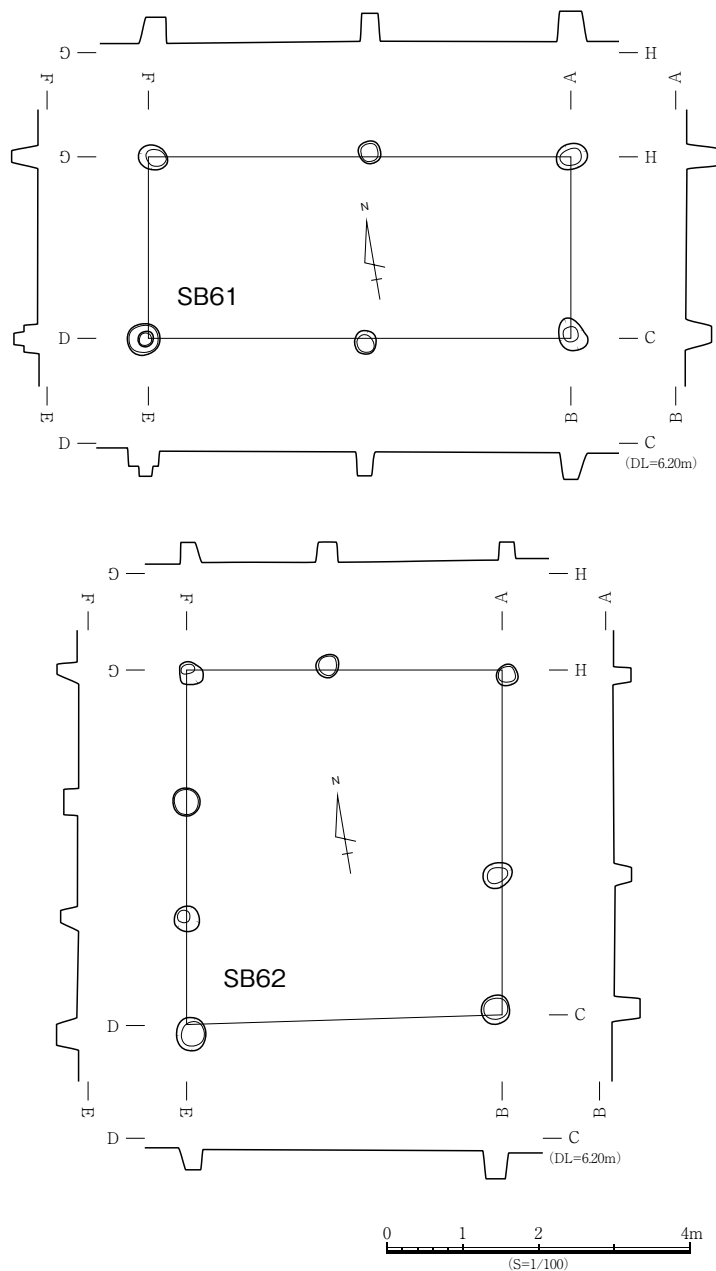


図4-171 SB61・62

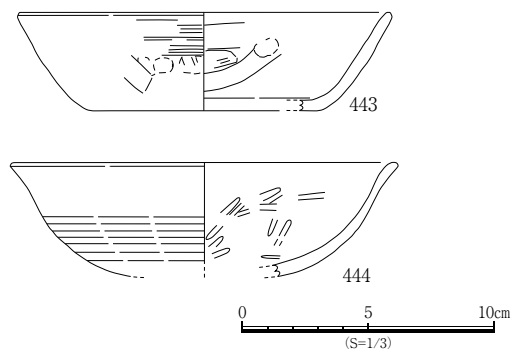


図4-172 SB61・62出土遺物実測図

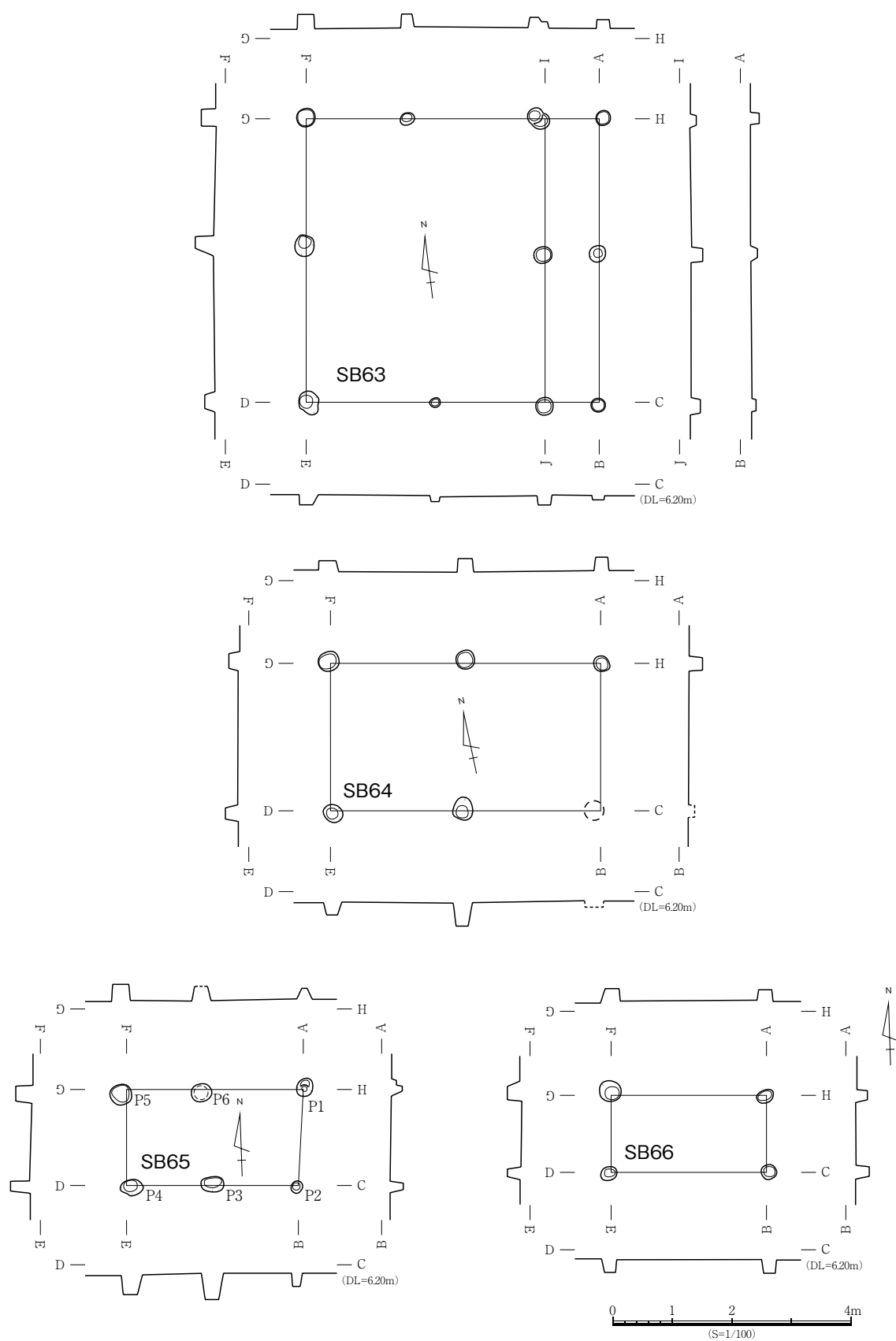


图4-173 SB63~66

が2.6m, 梁行は1.3mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB67(図4-174)

調査区南東部にあり, SB64 の南に位置する。桁行 2 間(3.3m), 梁行 2 間(2.05m)の東西棟建物跡である。方位はN-89°-Wで, 面積は6.76㎡である。柱穴の掘方は概ね円形を呈し, 径はP5・6で約20cm, 他は40cm前後で, 柱穴の深さはP4が約45cm, 他は10~20cmを測る。柱間寸法は桁行1.6~1.7m, 梁行は2.0~2.05mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB68(図4-174)

調査区南東部にあり, SB67 の東に位置する。桁行 2 間(3.7m), 梁行 1 間(2.4m)の東西棟で方位はN-80°-Wである。面積は8.8㎡である。調査区東側を縦断するSD139・140に並行している。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し, 径はP6で約20cm, P5が40cm他の柱穴は概ね30cm前後を測る。柱

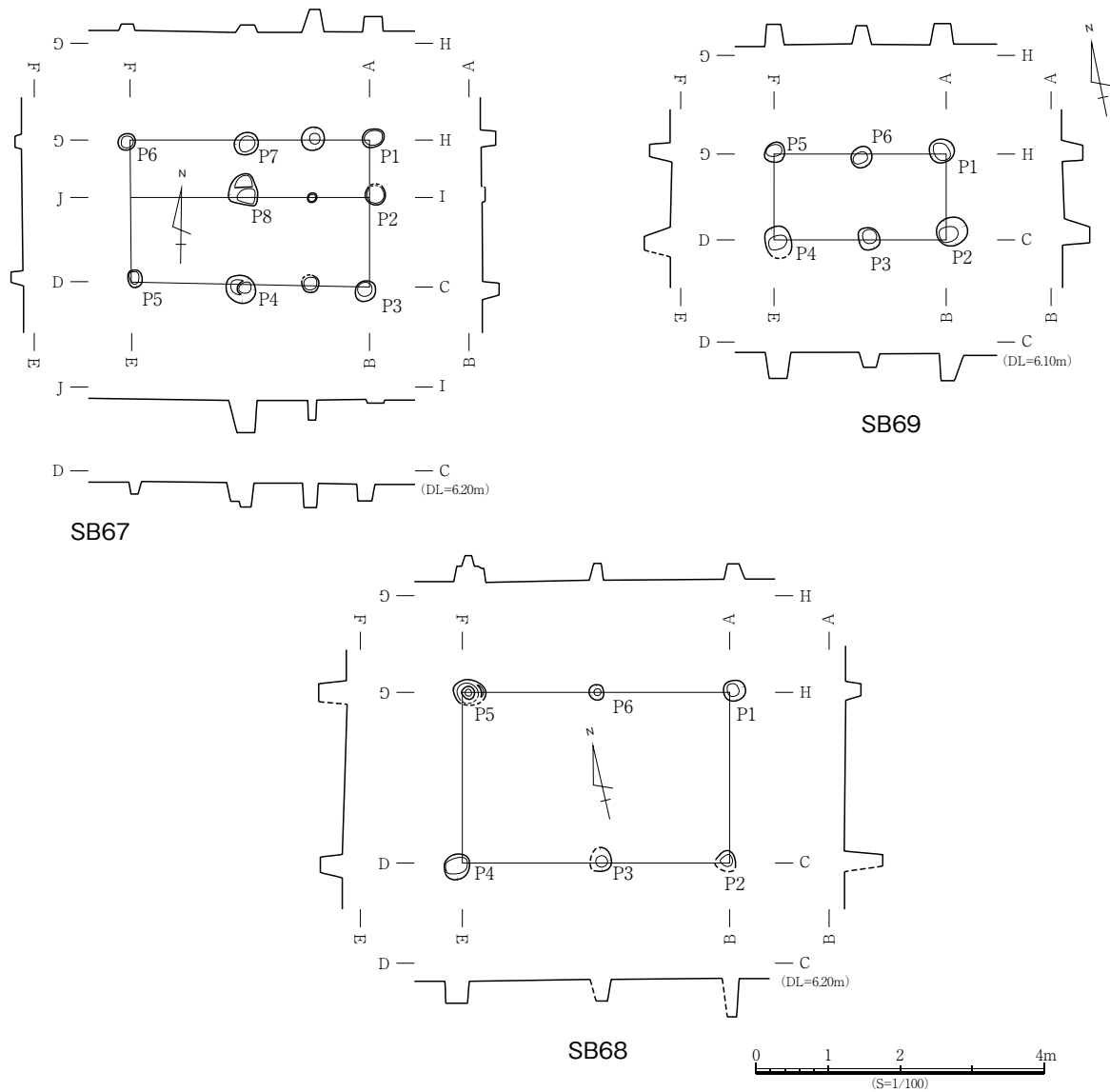


図4-174 SB67~69

穴の深さはP2が約50cm, P1で20cm, 他は概ね30cm前後である。柱間寸法は桁行1.8～1.9m, 梁行は2.35～2.4mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB69(図4-174)

調査区南東部にあり, SB62の南に位置する。桁行2間(2.4m), 梁行1間(1.2m)の東西棟の建物跡で方位はN-79°-Wである。面積は2.88㎡である。調査区東側を縦断するSD139・140に並行している。柱穴の掘方は概ね円形状を呈し, 径は25～40cmを測る。柱穴の深さはP1が約25cmで他の柱穴は概ね40cm前後である。柱間寸法は桁行1.1～1.3m, 梁行1.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

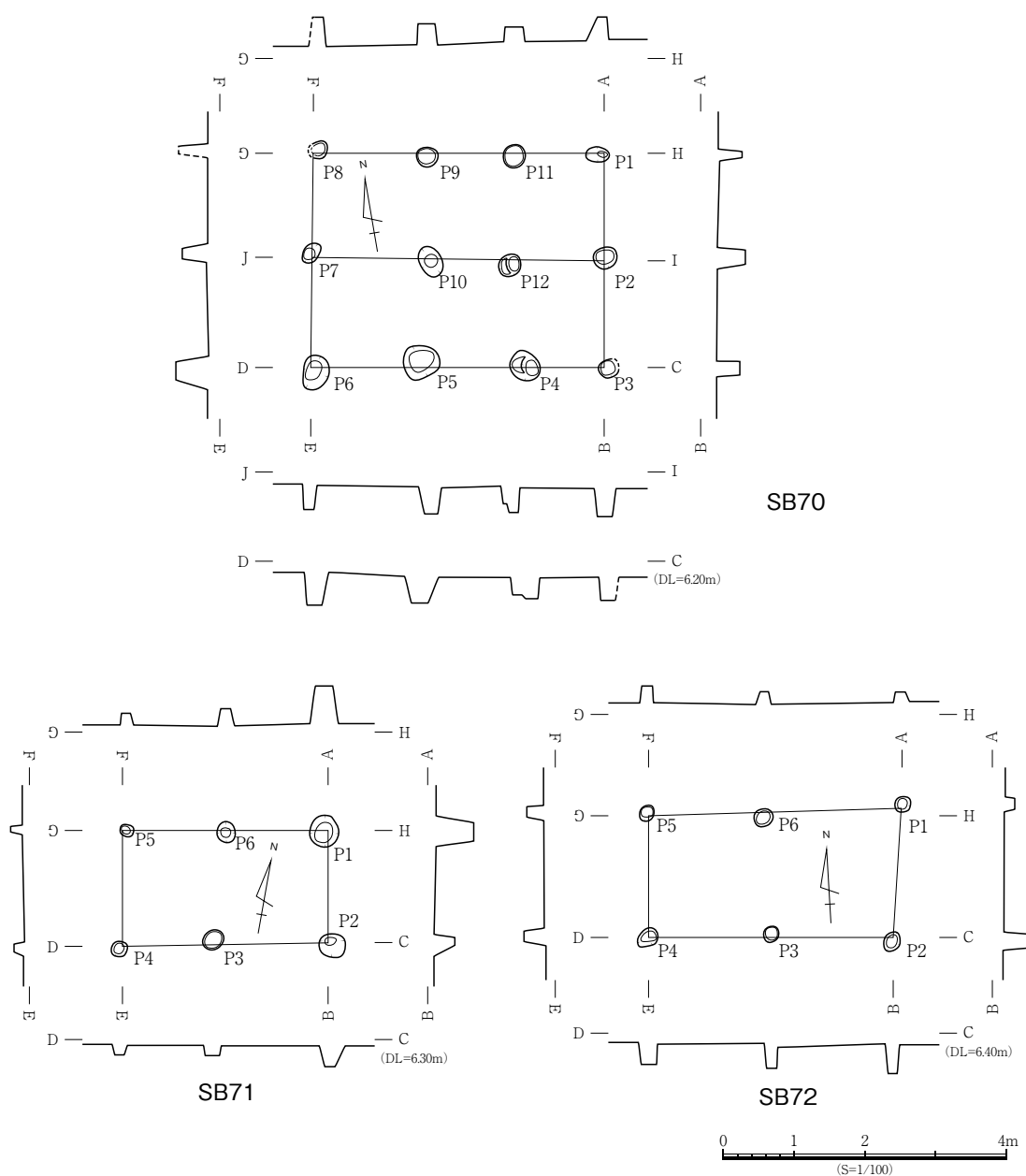


図4-175 SB70～72

SB70(図4-175)

調査区南東部にあり，SB62の南西，SB69の西に位置する。桁行3間(4.10m)，梁行2間(3.0m)の東西棟の総柱建物跡である。方位はN-79°-Wで，面積は12.3㎡である。調査区東側を縦断するSD139・140に並行している。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し，径はP3・7が25cm，P5は約50cmで他は概ね30cm前後を測る。深さはP11で約20cm，P6では45cm，他の柱穴は概ね30cm前後である。柱間寸法は桁行1.2～1.6m，梁行1.45～1.55mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB71(図4-175)

調査区中央部北側に位置する。桁行2間(2.9m)，梁行1間(2.1m)の東西棟で，方位はN-79°-Wである。面積は6.09㎡である。柱穴の掘方は概ね円形状を呈し，径はP4・5で約20cm，P1は40cmで他は概ね30cm前後を測る。深さはP1で約50cm，P2は約30cm，他は概ね20cm前後を測る。柱間寸法は桁行1.3～1.6m，梁行2.1mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB72(図4-175)

調査区中央部北側にありSB71の南西に位置する。桁行2間(3.5m)，梁行1間(1.8m)の東西棟で，方位はN-82°-Wである。面積は6.3㎡である。柱穴の掘方は概ね円形を呈し，径は30cm前後を測る。柱穴の深さはP1で約15cm，P2が40cm，他は概ね30cm前後である。柱間寸法は桁行1.6～1.9m，梁行1.7～1.8mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片が出土している。

SB73(図4-176)

調査区中央部南側に位置する。桁行2間(2.65m)，梁行1間(2.05m)の東西棟で，方位はN-85°-Wである。面積は約5.4㎡である。調査区中央南端から中央部を縦横断するSD97に概ね並行している。

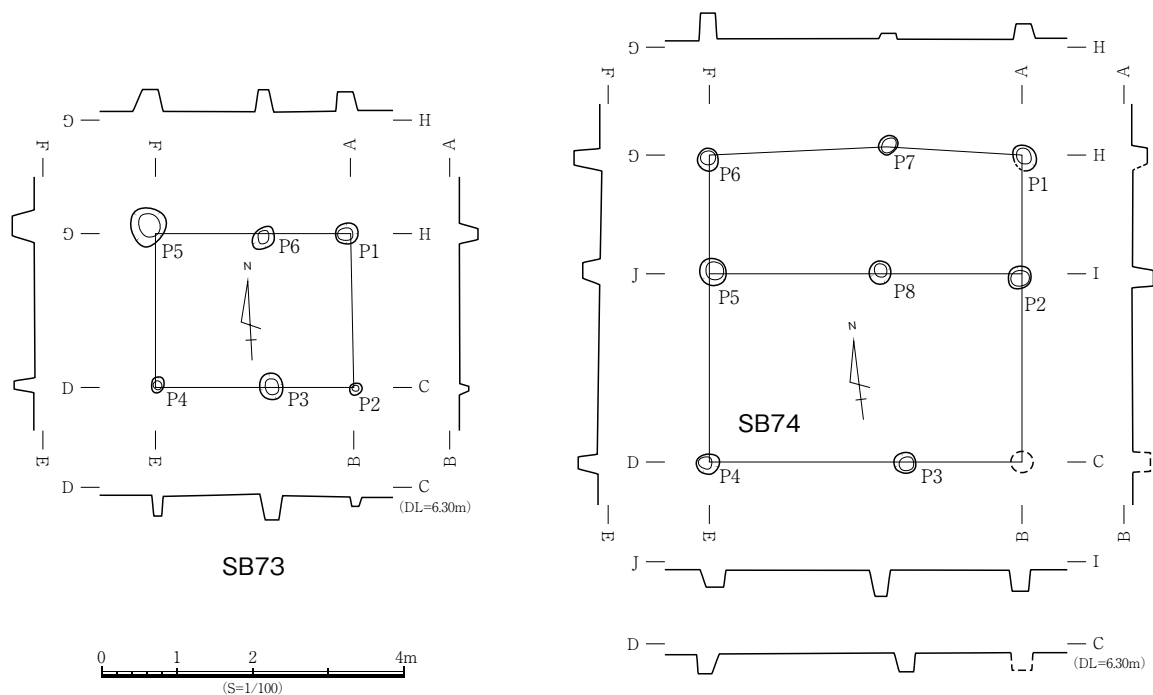


図4-176 SB73・74

柱穴の掘方は円形状を呈し、径はP2・4で約15cm、P5は約40cmを測り、他は概ね30cm前後である。柱穴の深さはP2が約10cmと浅いが、他は30cm前後である。柱間寸法は桁行1.1～1.55m、梁行2.05mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB74(図4-176)

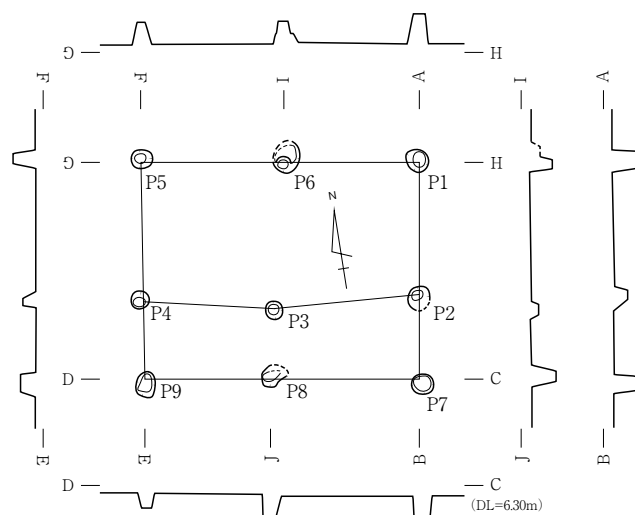
調査区中央部南側にあり、SB73の南に位置する。桁行2間(4.15m)、梁行2間(4.0m)の南北棟で方位はN-6°-Eである。面積は16.4㎡である。調査区中央南端から中央部を縦横断するSD97に概ね並行している。南東隅の柱穴については確認できなかった。柱穴の掘方は円形状を呈し、径は概ね30cm前後を測る。深さはP8で約10cm、他は20～30cm前後である。柱間寸法は桁行1.55～2.4m、梁行1.55～2.4mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB75(図4-177)

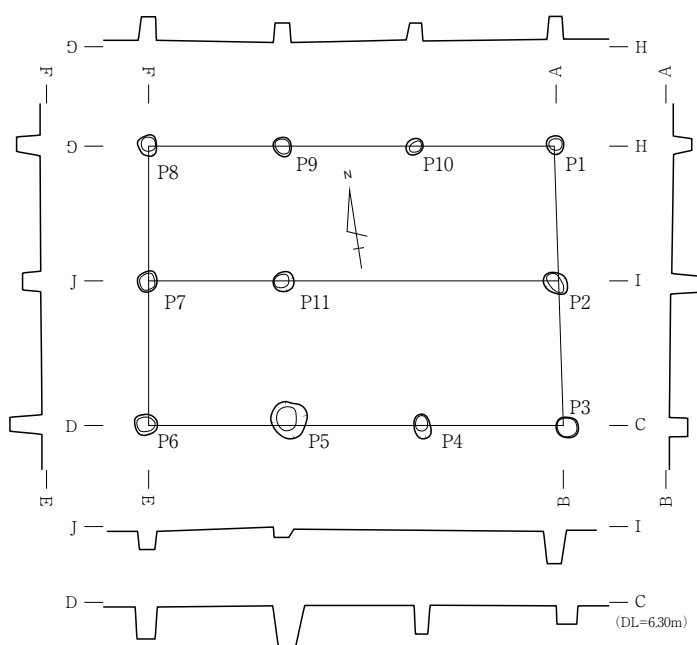
調査区中央部南側にあり、SB74の西に位置する。桁行2間(3.7m)、梁行1間(1.85m)の東西棟の建物跡で南側に庇が付く。方位はN-81°-Wで、面積は6.84㎡である。庇分を入れると10.7㎡を測る。調査区中央南端から中央部を縦横断するSD97に概ね並行している。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し、径は20～30cm前後を測る。深さはP2で約10cm、P1は約40cm、他は30cm前後である。柱間寸法は桁行1.75～1.9m、梁行1.8mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで、遺物は土師質土器片などが出土している。

SB76(図4-177)

調査区中央部南側にあり、SB75の北西に位置する。桁行3



SB75



SB76

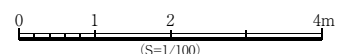


図4-177 SB75・76

間(5.45m), 梁行2間(3.65m)の東西棟で, 方位はN - 81° - Wである。面積は19.89 m²である。調査区中央南端から中央部を縦横断するSD97に概ね並行している。調査区南西部を縦断するSD114を切る。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し, 径はP5で約50cm, その他は概ね20~30cmを測る。柱穴の深さはP11で約10cm, P2・6は約40cm, P5は約60cmと深い, 他は概ね30cm前後を測る。柱間寸法は桁行1.7~1.85m, 梁行1.75~1.9mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB77(図4-178)

調査区中央部南側にあり, SB76の南に位置する。桁行2間(5.5m), 梁行1間(1.9m)の東西棟で, 方位はN - 82° - Wである。面積は10.45 m²である。調査区中央南端から中央部を縦横断するSD97に概ね並行している。SB76と同じく調査区南西部を縦断するSD114を切る。柱穴の掘方は円形状を呈し, 径は20~30cmを測る。柱穴の深さはP3とP6で10cm前後, P4は約40cm, 他は概ね30cm前後である。柱間寸法は桁行2.7~2.8m, 梁行1.87~1.9mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB78(図4-178)

調査区中央部南端にあり, SB77の南に位置する。桁行推定2間(2.9m), 梁行推定1間(1.85m)の東西棟と考えられる建物跡である。建物を構成する南側の柱穴については確認できなかった。調査区中央南端から中央部を縦横断するSD97に概ね並行している。柱穴の掘方は円形状を呈し, 径は20~30cmを測る。柱穴の深さはP4が約15cm, 他は概ね25cm前後である。柱間寸法は桁行1.3~1.6m, 梁行1.85mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB79(図4-179)

調査区南西隅に位置する。桁行2間(3.3m), 梁行1間(2.5m)の南北棟で, 方位はN - 6° - Eである。面積は8.25 m²である。SB80と重複している。柱穴の掘方は円形状を呈し, 径は30cm前後を測り, 深さは概ね20~30cm間である。柱間寸法は桁行1.6~1.7m, 梁行2.4~2.5mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

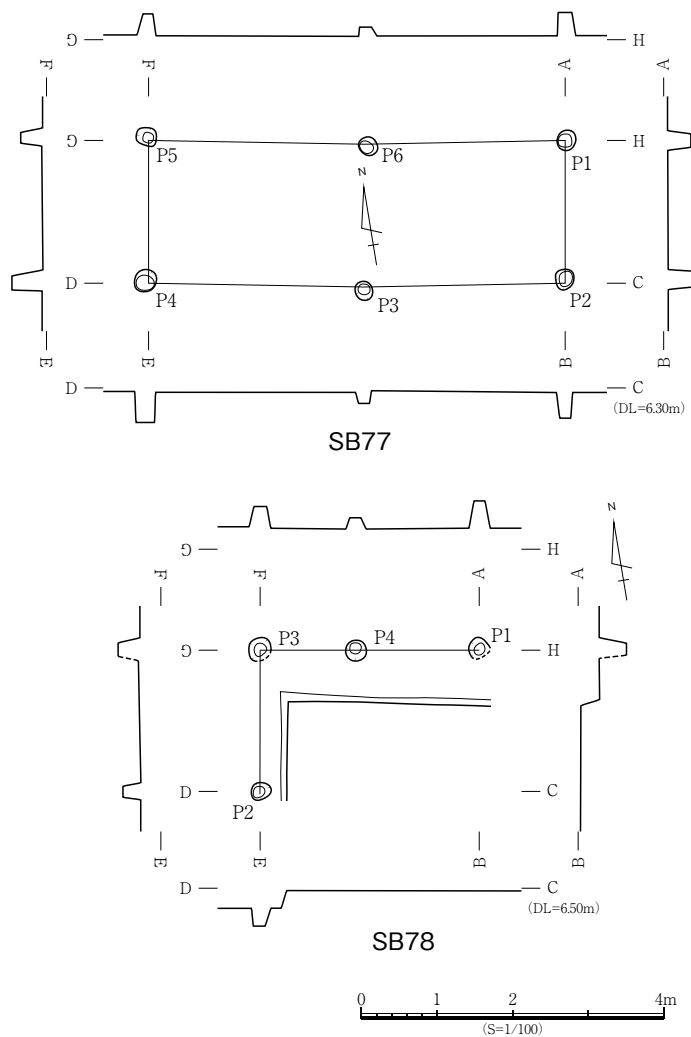
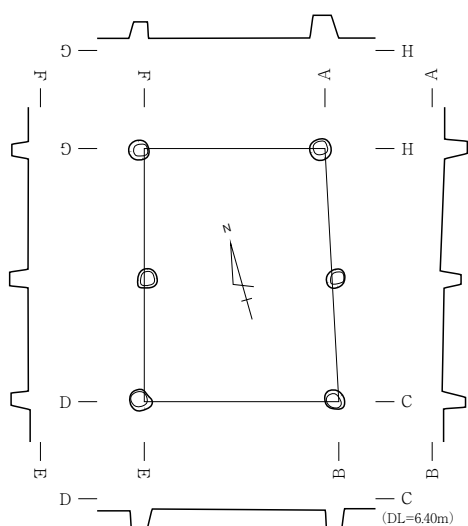


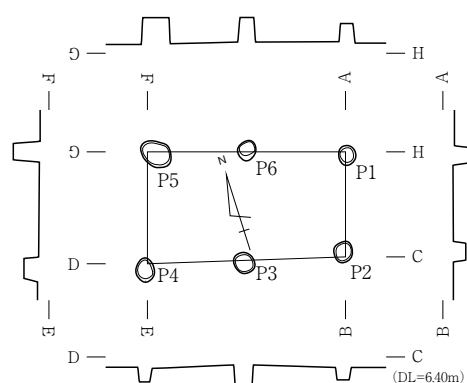
図4-178 SB77・78

SB80(図4-179)

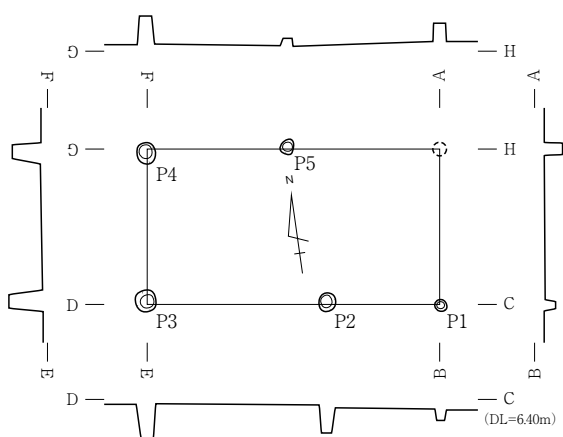
調査区南西隅に位置する。桁行2間(2.6m), 梁行1間(1.5m)の東西棟で, N-80°-Wである。面積は3.9㎡である。SB79と重複している。柱穴の掘方は円形状から楕円形状を呈し, 径はP5は約40cm, 他は概ね20cm前後である。柱穴の深さはP5で約40cm, その他は概ね20~30cm間である。柱間寸法は桁行1.3m, 梁行1.4~1.5mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。



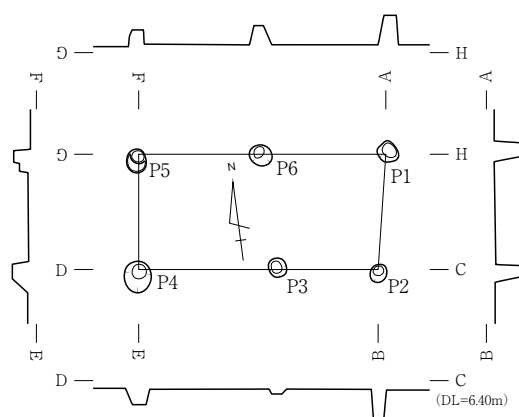
SB79



SB80



SB81



SB82

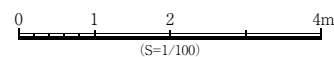


図4-179 SB79~82

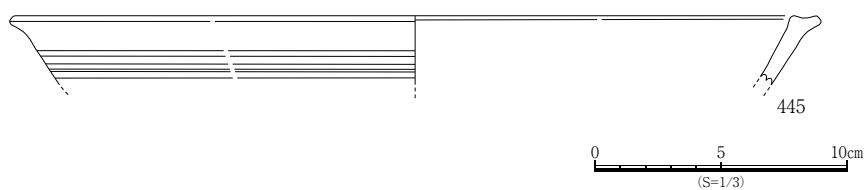


図4-180 SB82出土遺物実測図

SB81 (図4-179)

調査区北西隅に位置する。桁行2間(3.85m)、梁行1間(2.1m)の東西棟で方位はN-81°-Wである。建物を構成する北東隅の柱穴は確認できなかった。面積は8.08㎡(推定)である。調査区中央北端から中央部北側を縦横断する区画溝SD94・95に概ね並行している。柱穴の掘方は円形状を呈し、径はP1・5で約15cm、その他は概ね30cm前後を測る。柱穴の深さは同じくP1・5で15cm前後、P3・4は40cm前後である。柱間寸法は桁行1.55～2.3m、梁行2.0～2.1mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB82 (図4-179・180)

調査区北西部にあり、SB81の南約3.2mに位置する。桁行2間(3.3m)、梁行1間(1.5m)の東西棟で方位はN-83°-Wである。面積は4.95㎡である。SB81と同じく調査区中央北端から中央部北側を縦

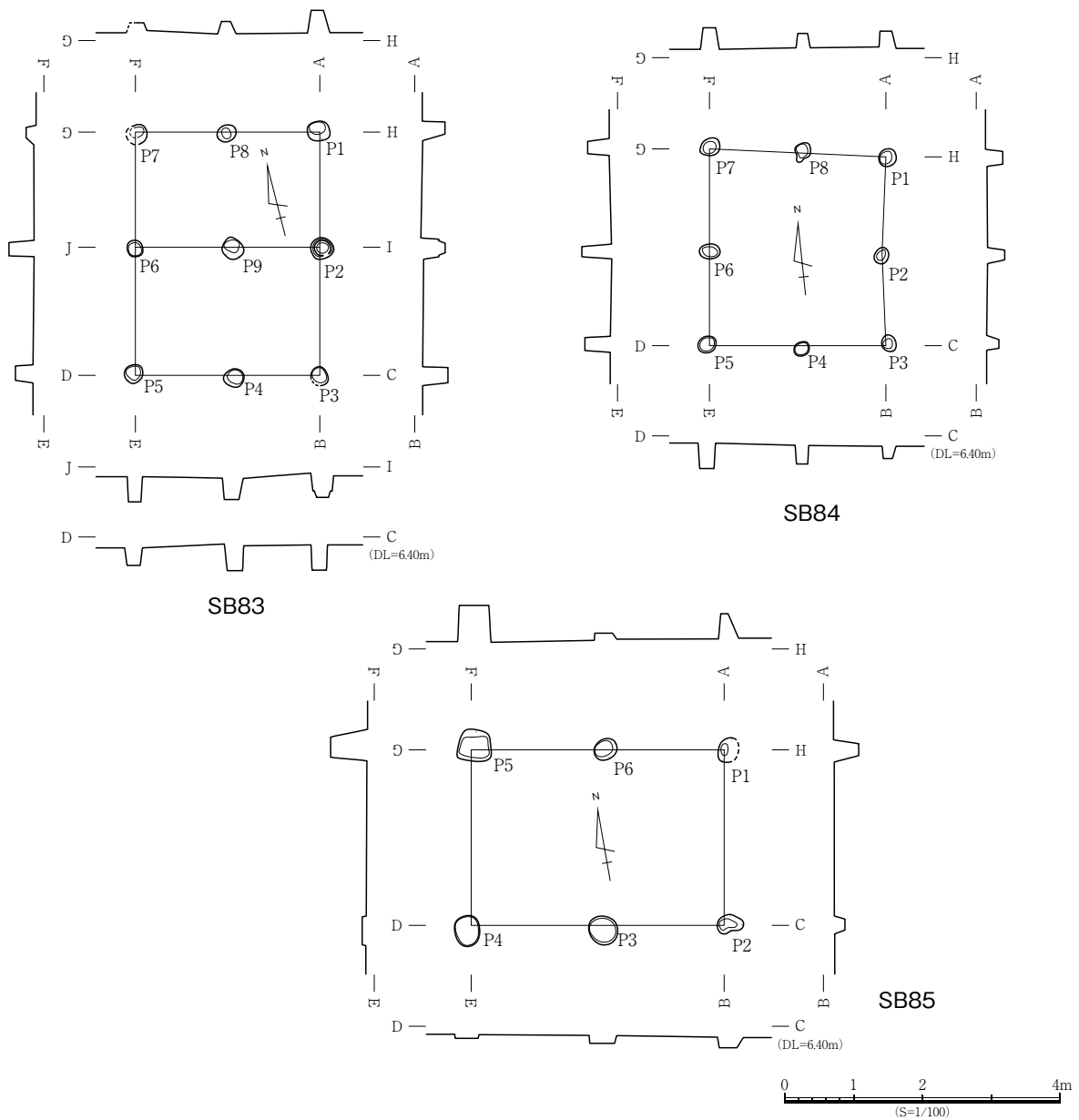


図4-181 SB83～85

横断する区画溝SD94・95に概ね並行している。柱穴の掘方は円形状を呈し、径は20～30cm、柱穴の深さはP3で約10cm、P1とP2は約40cm、その他は概ね20cm前後を測る。柱間寸法は桁行1.35～1.8m、梁行1.5mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで瀬戸大皿あるいは深皿(445)が図示できた。口縁端部はヨコ方向に肥厚させる内外面は回転ナデ調整を施す。

SB83(図4-181)

調査区北西部にあり、SB81の東に位置する。桁行2間(3.05m)、梁行2間(2.65m)の南北棟で方位はN-14°-Eである。面積は8.08㎡である。SB81と同じく調査区中央北端から中央部北側を縦横断する区画溝SD94・95に概ね並行している。柱穴の掘方は円形状を呈し、径は20～30cm、柱穴の深さはP7は10cm前後、その他は30～40cm間を測る。柱間寸法は桁行1.6～1.8m、梁行1.2～1.4mである。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB84(図4-181)

調査区北西部にあり、SB83の東に位置する。桁行2間(2.9m)、梁行2間(2.6m)の南北棟で方位はN-6°-Eである。面積は7.54㎡である。SB83と同じく調査区中央北端から中央部北側を縦横断する区画溝SD94・95に概ね並行している。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し、径は20～30cm前後を測り、深さはP3・8で20cm前後、P5・6は約40cm、他は概ね30cm前後である。柱間寸法は桁行1.4～1.5m、梁行1.2～1.4mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SB85(図4-181)

調査区北西部にあり、SB84の南約1.0mに位置する。桁行2間(3.65m)、梁行1間(2.52m)の東西棟で方位はN-82°-Wである。面積約9.2㎡である。SB84と同じく調査区中央北端から中央部北側を縦横断する区画溝SD94・95に概ね並行している。SK160を切る建物跡である。柱穴の掘方は円形から隅丸方形形状を呈し、径はP3・5が45cm前後、その他は概ね30cm前後を測る。深さはP2・3とP4・6は15cm前後、P5は約50cmと深い。柱間寸法は桁行1.75～1.9m、梁行2.5～2.52mを測る。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

③ 柵列

SA32(図4-182)

調査区の北東部に位置する。調査区東端を縦断するSD144の西側に並行し3個の柱穴が並んでいる。柱穴の掘方は円形を呈し、径は概ね20cm前後である。深さはP1・3で10cm前後、P2は概ね30cmを測る。柱間寸法は1.9～2.0mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SA33(図4-182)

調査区の北東部にあり、SA32の西側に位置する。南北方向に4個の柱穴が並ぶ。柱穴の掘方は円形を呈し、径はP1が約40cm、その他は30cm前後である。深さはP4で10cm、P1は約40cm、その他は30cm前後を測る。柱間寸法は2.4～2.6mで総延長は7.5mに及ぶ。柱穴の埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SA34(図4-182)

調査区の北東部にあり、SA33の西側に位置する。概ね東西方向の柵列で4個の柱穴が並ぶ。柱穴の掘方はほぼ円形を呈し、径は20cm前後を測る。深さはP1・2で10cm前後、P3・4は20cm前後である。

柱間寸法はP1-P2は1.8m, P2-P3は1.6m, P3-P4は2.2mを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SA35(図4-182)

調査区の中央部南側に位置し, SB74の北約1.2mにほぼ方位を同じくして3個の柱穴が並ぶ。SB74に付随する柵列であると考えられる。柱穴の掘方はほぼ円形を呈し, 径は15~30cm, 深さはP1・2で20cm前後, P3で30cmを測る。柱間寸法は2.1~2.2mで総延長は4.3mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SA36(図4-182)

調査区中央部南端に位置する。SK229を切る。概ね東西方向の柵列で4個の柱穴が並ぶ。柱穴の掘方はほぼ円形を呈し, 径はP3で35cm, その他は概ね20cm前後である。深さはP4で約35cm, 他は概ね20cm前後を測る。柱間寸法は1.9~2.1mで総延長は6mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SA37(図4-182)

調査区中央部南端にあり, SA36の南に位置する。SD118を切る東西方向の柵列で4個の柱穴が並ぶ。柱穴の掘方はほぼ円形を呈し, 径は20~30cm内で, 深さはP3で約10cm, P2は35cm, 他は概ね20cmを測る。柱間寸法は1.95~2.2mで総延長は6.3mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

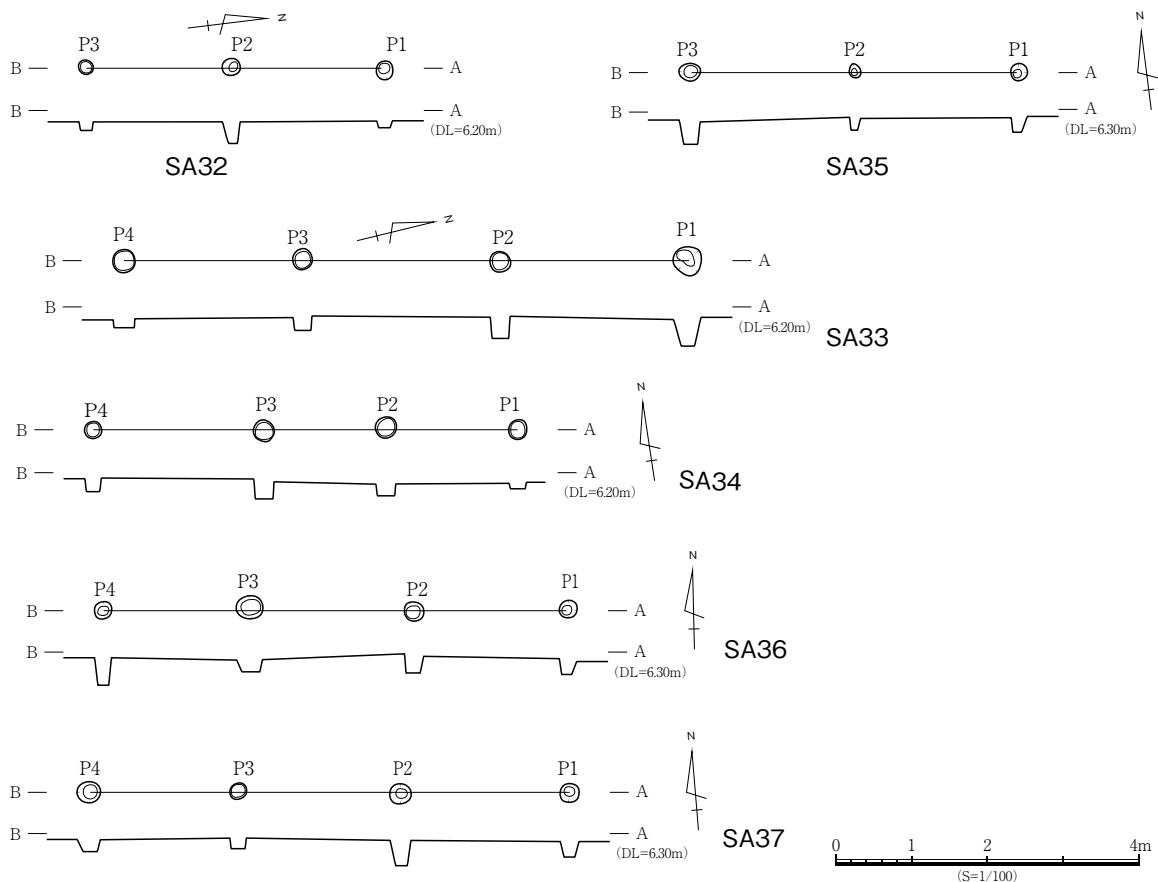


図4-182 SA32~37

④ 土坑

土坑は主要なものについて具体的に記述するが、それ以外のものについては土坑一覧表にまとめた。

SK145(図4-183・184)

調査区北西隅に位置する。平面形は上面の遺構等の切り合いにより不整形形状を呈するが、本来は方形状の土坑と考えられる。長軸 1.66m，短軸 1.55m，深さは約 20 cmで，断面形は逆台形状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトで炭化物を少量含む。遺物は土坑の南側床面より土師器皿(446)，土師器杯(447・448)，黒色土器碗(452)，また埋土からは土師器杯(449・450)，黒色土器碗(451)，土師器羽釜(453)が出土している。446の底部外面は回転ヘラ切りで内外面はナデ調整で仕上げられている。底部外面には板状の圧痕が残る。447～

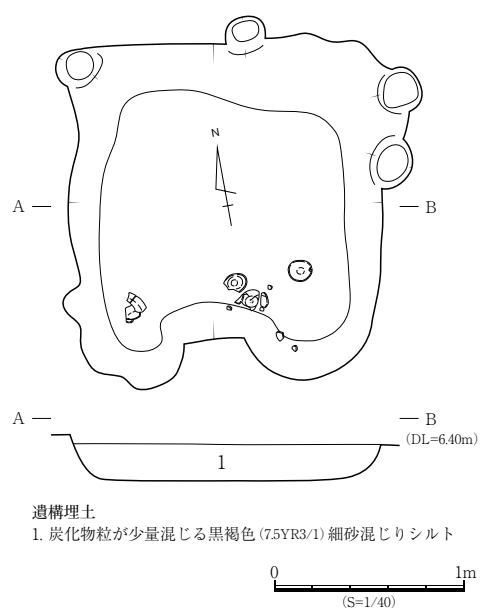


図4-183 SK145

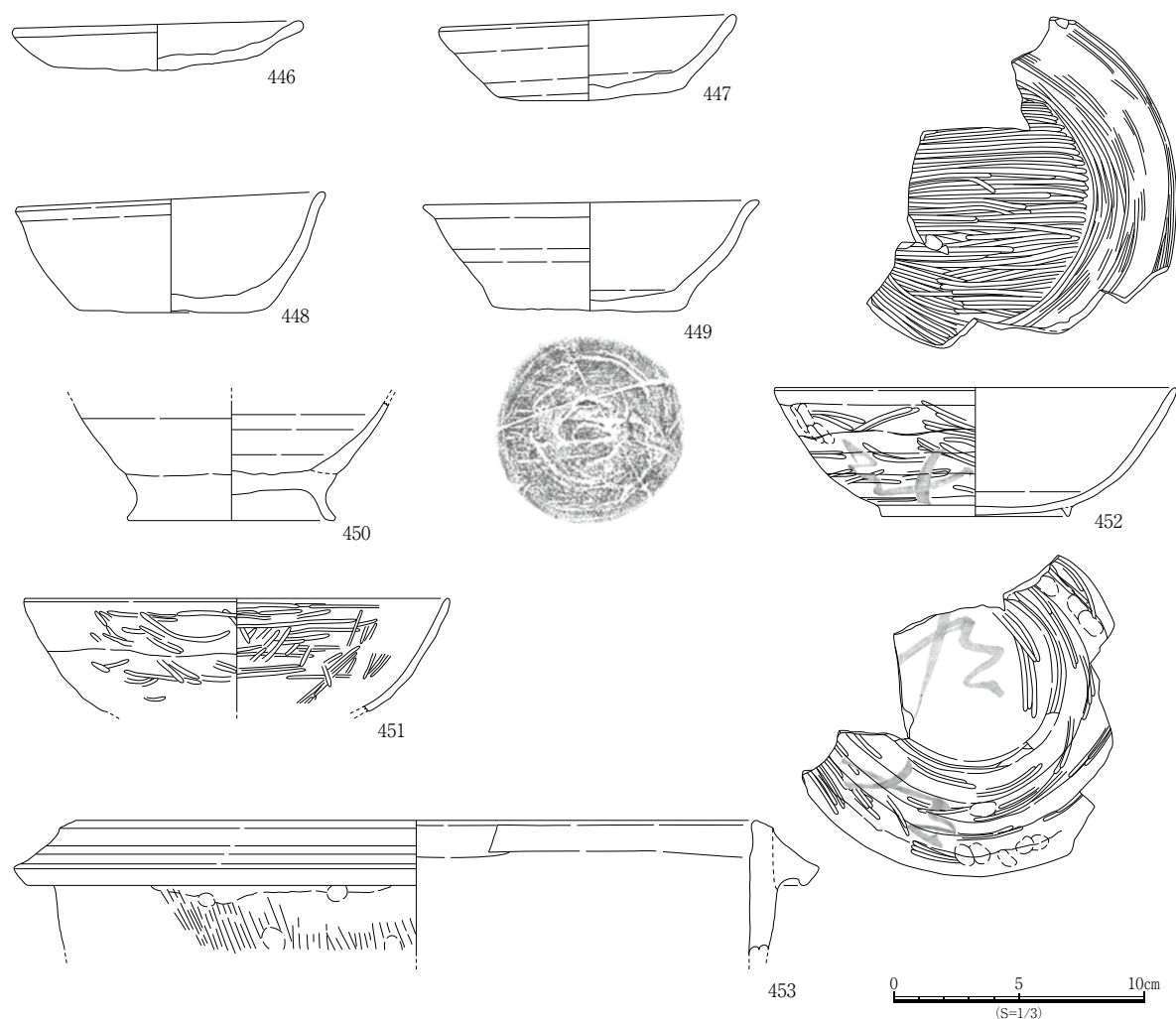


図4-184 SK145出土遺物実測図

449 も同様に底部は回転ヘラ切りで内外面には丁寧なナデ調整を施す。450は底部に高台を貼付し、内外面ナデ調整を施す。451・452は黒色土器で内面内黒の碗である。ともに内外面には丁寧なヘラミガキ調整を施す。452は外面と高台内面に墨書が施されている。胎土等からは搬入品と考えられる。453は口縁部が出土しており、口縁下外面には断面長方形の鏝が廻る。鏝部分は丁寧なナデ調整を施し、頸部外面にはハケ調整、内面はナデ調整を施す。

SK151(図4-185)

調査区北西部に位置する。平面形は不整楕円形状を呈し、3基の土坑が切り合っているが、土層観察では明確な切り合いは確認できなかった。遺構の断面形は舟底状を呈する。埋土は1層：細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトで明黄褐色(10YR6/6)シルトブロックを含む、2層：細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器などの細片が出土しているが図示できるものはなかった。

SK155(図4-186・187)

調査区北西部に位置する。遺構の南側はSK156と接するが、土層観察では明確な切り合いを確認することができなかった。SK155と156の上面はSD128によって切られている。SK155は確認長南北で1.5m以上、東西で1.45mで、深さは約24cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトに炭化物と土器細片及び褐灰色(10YR4/1)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器杯(454)と瓦質土器鍋(455)が図示できた。

SK156・166(図4-186・188・189)

調査区北西部に位置する。SK156の北側はSK155と接するが、土層観察では明確な切り合いを確認することができなかった。遺構の南側はSK166と接している。SK166との土層観察では明確な切り合いが認められず、掘り下げを行いながらの確認であった。SK156は平面形は不整形で、確認長は南北で1.9m、東西で1.65mを測る。深さは約20cmで、断面形は箱状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトに土器細片を含む。SK166は平面形は不整形で、確認長は南北1.75m以上、東西1.45m、深さは約10cmを測る。遺構の断面形は皿状を呈する。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトに炭化物を含む。遺物は土師器皿(456)、土師器杯(457・458・461・463・464)、黒色土器碗(459・460・465)、土師器甕(462)が図

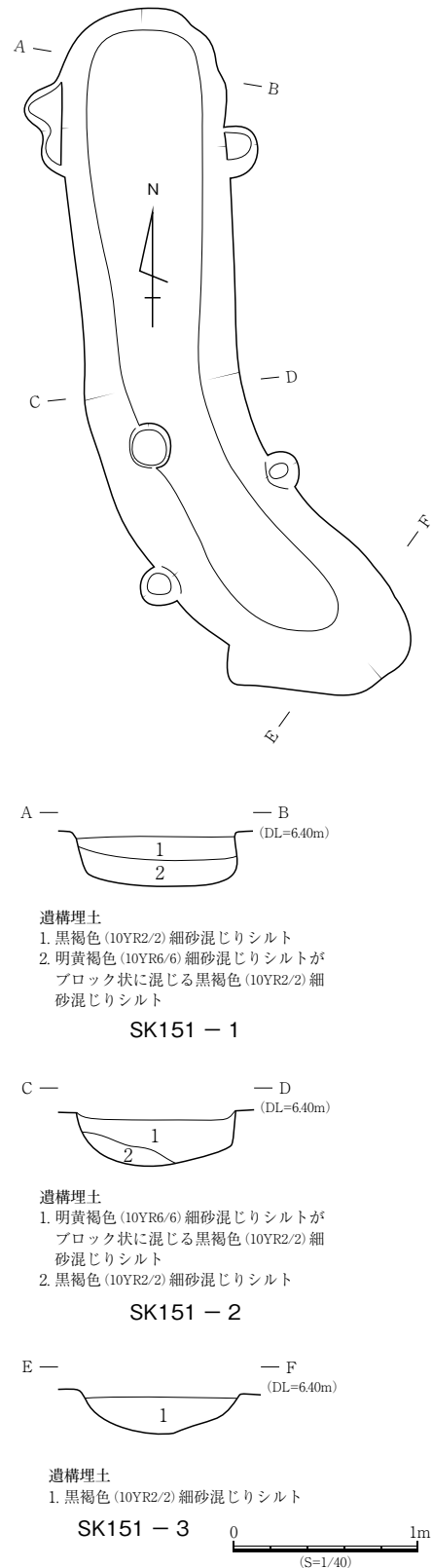


図4-185 SK151-1・2・3

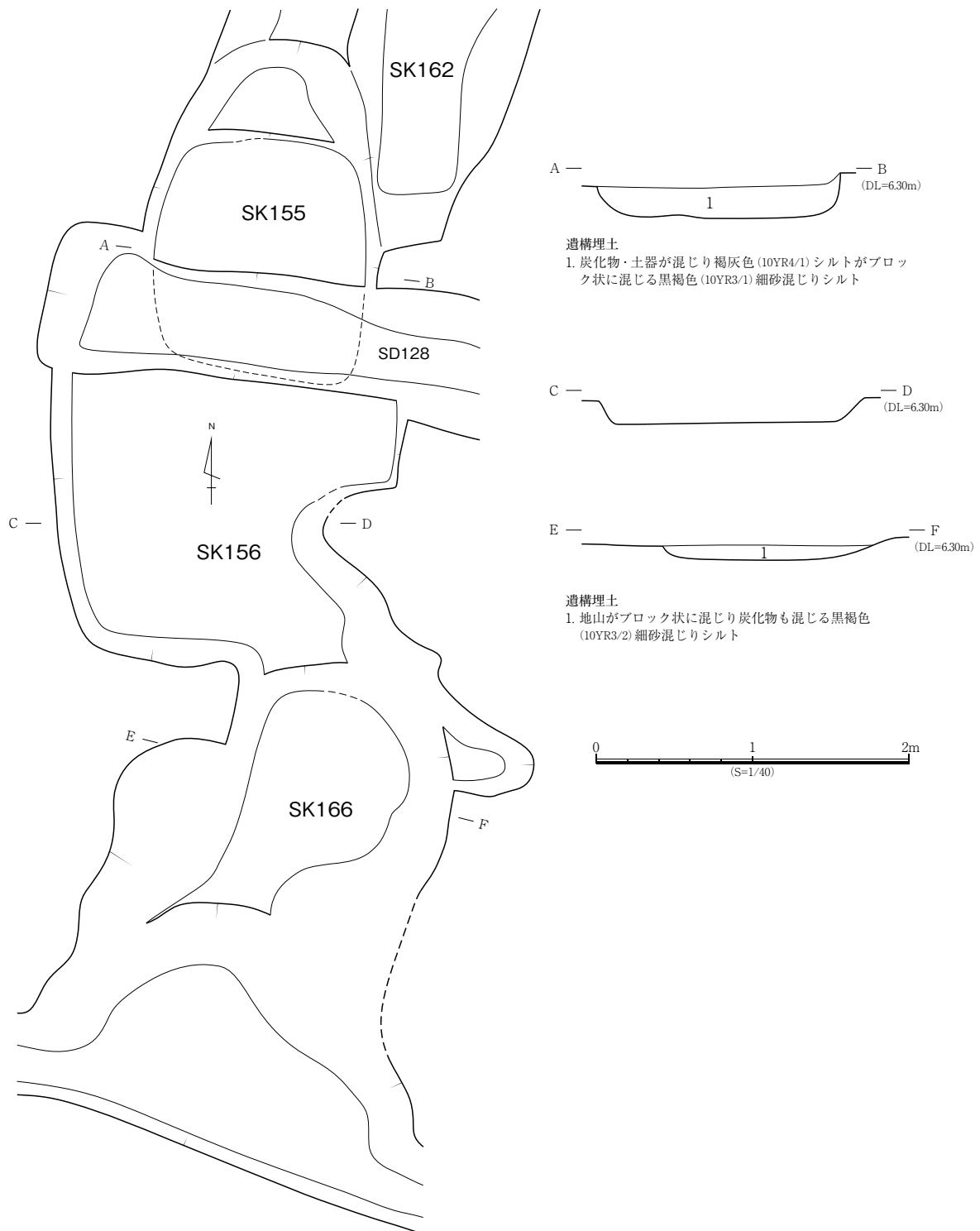


図4-186 SK155・156・166

示できた。456は底部外面には回転ヘラ切り痕が認められ、口縁部は外上方に開き口唇部は丸くおさめる。457は断面ハの字状の高台が付き、口縁部にかけてはやや内湾する。463は底部外面回転ヘラ切り痕が残る。内外面ナデ調整。内面は丁寧なナデ調整を施す。459は内面黒色処理し、内面並行のヘラミガキを施す。器壁は薄い。460は内面黒色処理し、底部外面に断面三角形状の高台を貼付する。

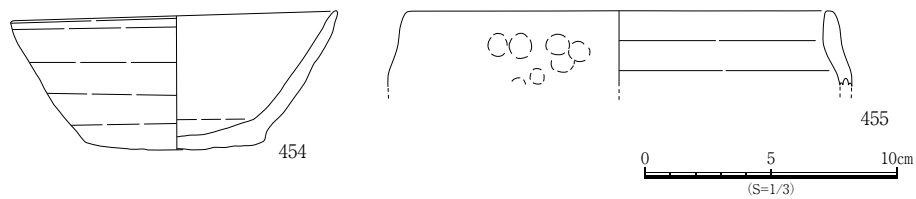


図4-187 SK155出土遺物実測図

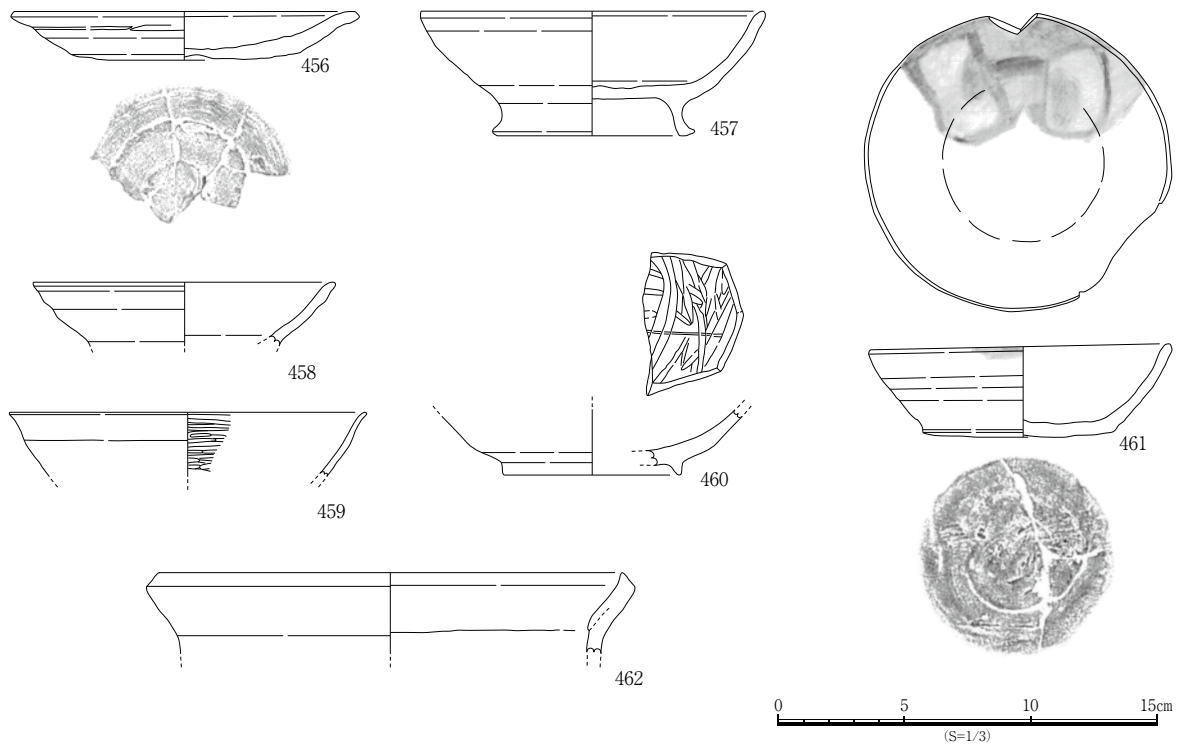


図4-188 SK156・166出土遺物実測図1

内面ヘラミガキを施す。461は底部外面には回転ヘラ切り痕が認められる。体部から口縁部は外上方に開き、口唇部は丸くおさめる。口唇部外面から体部内面にかけて煤が付着している。462は長胴甕の口縁部で外上方にハの字状に開き、口唇部は平坦面を呈する。465は断面三角形状の高台を貼付。内面にはヘラミガキを施す。

SK157(図4-190・191)

調査区北西部にあり、SK145より東約8.2mに位置する土坑で、遺構上面はSD128に切られる。平面形は方形を呈し、長軸1.55m、短軸1.28m、深さは約32cmで断面形は箱形を呈する。埋土は細砂混じりの黒色シルトに褐灰色シルトを含む。遺物は土坑の北側床面より土師器甕(468)、また、埋土からは土師器皿(466)、土師器杯(467)が出土してい

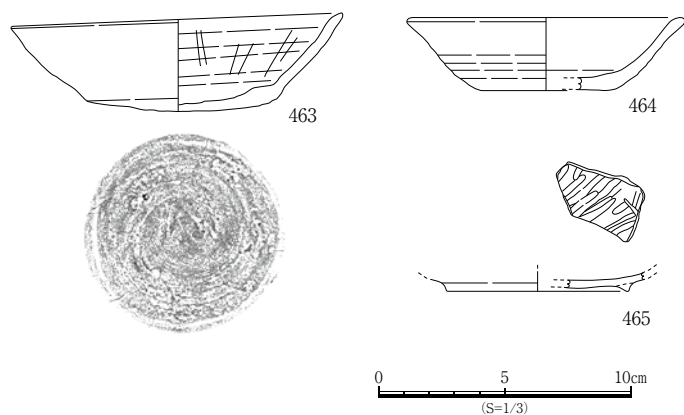


図4-189 SK166出土遺物実測図2

る。466は底部回転ヘラ切りで、口縁端部はやや外反する。内外面はナデ調整を施す。467も同じく底部回転ヘラ切りで、体部から口縁部にかけ開き、内外面はナデ調整を施す。468は長胴の甕で、口縁部はくの字状を呈する。口縁部内外面に丁寧なナデ調整、頸部から胴部外面には細かいハケ調整、胴部内面はヘラケズリとナデ調整を施す。胴部外面には煤が付着する。

SK158・159(図4-190・192)

調査区の北西部にあり、SK157の北方に位置する。SB84に切られる。2つの土坑が切り合っていたが、新旧関係については不明である。SK158の平面形は楕円形状を呈し、長軸2.0m、短軸1.3m、深さは約20cmで、断面形は舟底状を呈する。SK159は径が約1.1mを測る円形状を呈する土坑と思われる。深さは15cm前後を測り、断面形は浅い舟底状を呈する。埋土は共に細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物はSK158の上面から緑釉陶器(469)と瓦質土器(470)が出土している。469は皿の底部で蛇ノ目高台を呈する。470は瓦質土器の播鉢で、内面には5条単位の条痕をみとめる。また口縁部は片口状で、内外面がユビオサエとナデ調整が施される。

SK170(図4-193)

調査区南西部にあり、SK171の北西約2.5mに位置する。掘立柱建物跡SB79・80に切られる。平面形は隅丸方形形状を呈し、長軸1.25m、短軸1.1m、深さは概ね10cmを測る。土坑の断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトに褐色シルトを含む。遺物は土師器の細片などが出土している。

SK171(図4-193・194)

調査区南西部にあり、SK172の北東に位置する。上面の中世ピットに切られる。平面形は概ね隅丸方形形状を呈し、長軸1.43m、短軸1.28m、深さは16cmを測る。断面形は箱形を呈する。埋土は1層：細砂混じりの黒褐色シルトに土器細片を含む、2層：暗褐色シルトに褐色シルトブロックを含む。遺物では土師器片などが出土しており、土師器杯(471・472)、黒色土器碗(473)が図示できた。471は底部

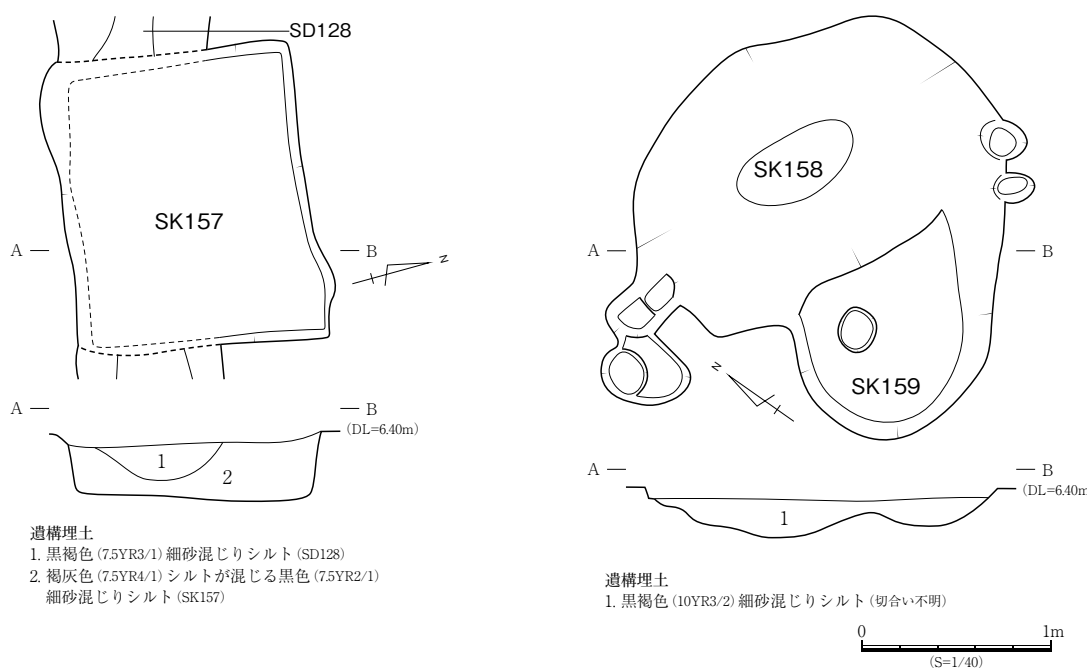


図4-190 SK157～159・SD128

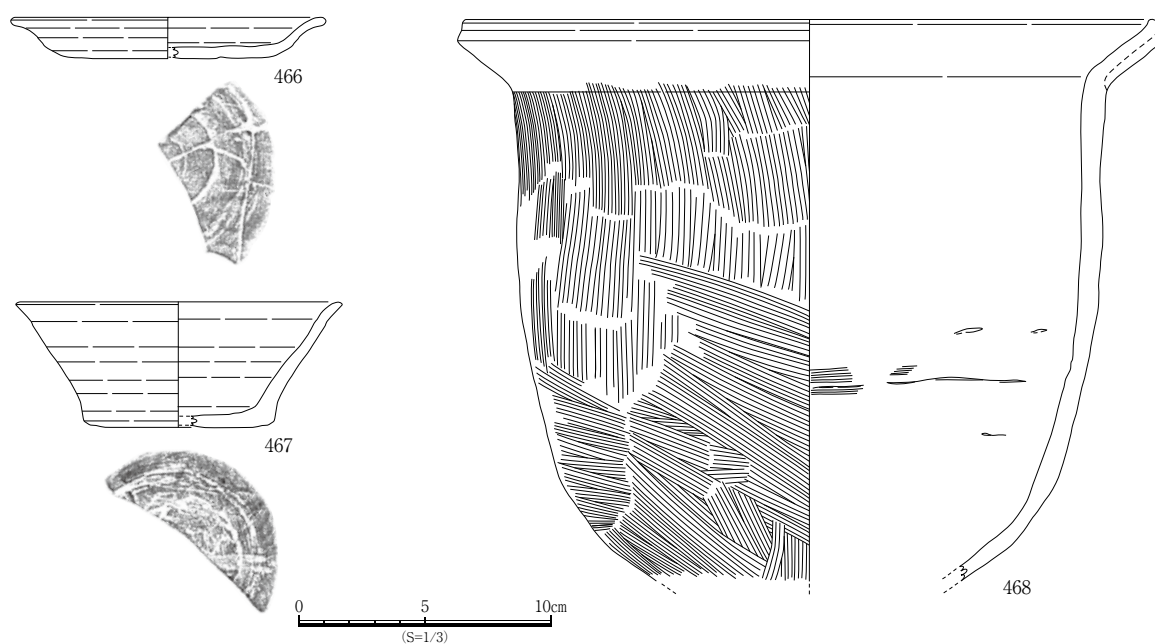


図4-191 SK157出土遺物実測図

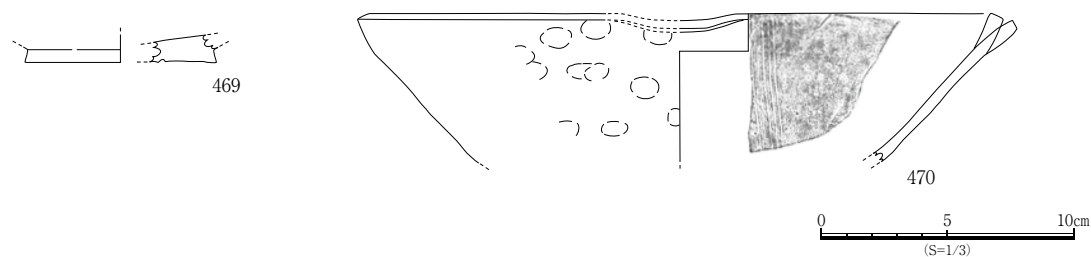


図4-192 SK158出土遺物実測図

は回転ヘラ切りで、口縁部内外面は丁寧なナデ調整を施す。口縁端部外面と内面の一部に煤が付く。472は底部外面に高台が剥離した痕跡が残る。体部から口縁部は直線的に開く。内外面はナデ調整を施す。473は黒色土器碗で内面黒色処理し、口縁端部内面には一条の沈線がみられる。内面には丁寧な平行のヘラミガキを施す。底部には断面三角形の高台を貼付する。外面下半はユビオサエと粘土帯接合痕が残る。

SK172(図4-193・195)

調査区南西部にあり、SK171の南西に位置する土坑で、調査区南西隅を横断するSD113を切り、上面の中世ピットに切られる。平面形は隅丸方形を呈し、長軸1.65m、短軸1.55m、深さは約30cmで断面形は箱状を呈する。埋土は細砂混じりの黒色シルトに土器細片や炭化物を含む。遺物は土師器杯(474～478)と黒色土器碗(479)が出土している。474・475は底部切り離しは摩耗のため不明であるが、477・478は底部回転ヘラ切りで、内外面はナデ調整を施す。479は内面黒色処理をし、丁寧なヘラミガキを施す。底部外面には断面三角形の高台を貼付し、丁寧なナデ調整をする。器壁は薄く、搬入品と考えられる。

SK173(図4-196)

調査区南西部にあり、SK174の北約6.0mに位置する。平面形は概ね円形状で、遺構の南側には30

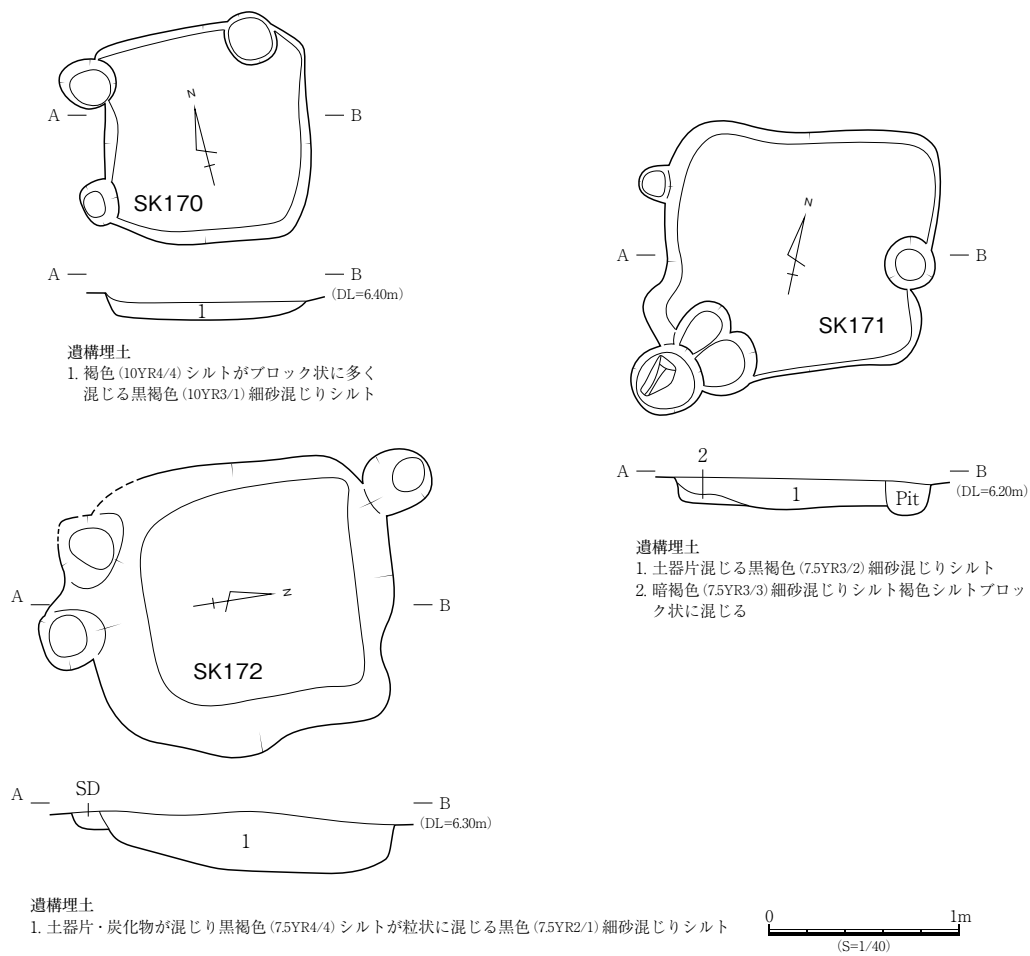


図4-193 SK170~172

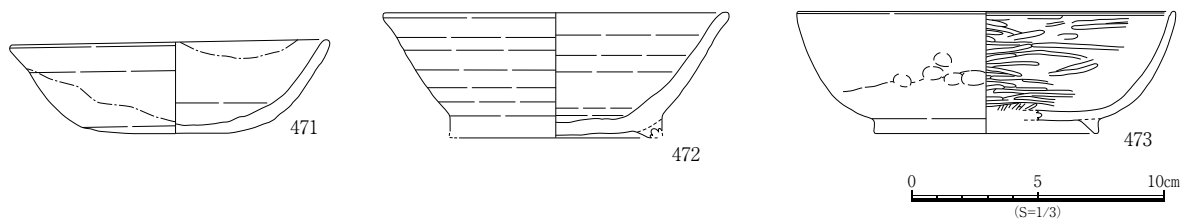


図4-194 SK171出土遺物実測図

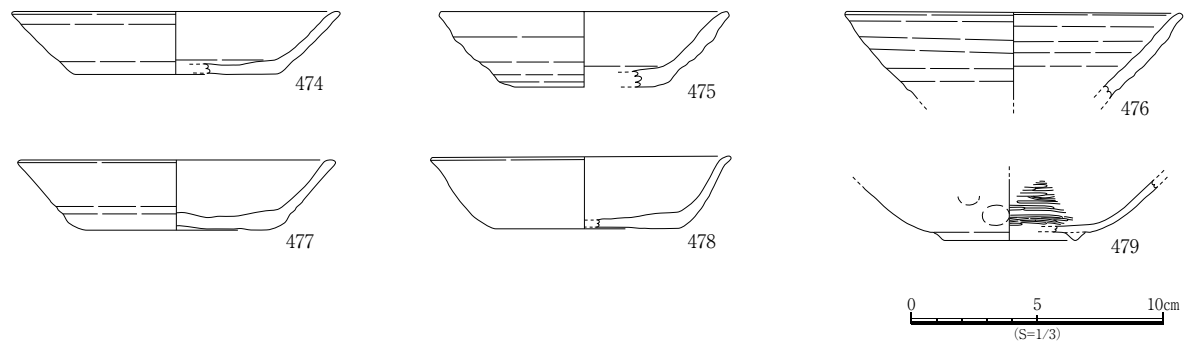


図4-195 SK172出土遺物実測図

cm大の石が2石位置していた。径は1.9m前後で、深さは35cm前後を測り、断面形はU字状を呈する。埋土は1層：細砂混じりの黒褐色シルト、2層：黒褐色シルトに褐色シルトをブロック状に含む。遺物では土師質土器片等は出土しているが、図示できるものはなかった。

SK174(図4-196)

調査区南西部にあり、SK172の南東約3.8mに位置する。遺構は南側の一部は調査区南壁にかかっており、調査区外に続くと考えられる土坑である。調査区南西隅を横断するSD113を切る。平面形は概ね円形と考えられ、現存長軸2.75m、短軸2.55m、深さは25～46cmを測り、断面形は舟底状を呈すると推定される。埋土は1層：細砂混じりの黒褐色シルト、2層：褐色シルトがブロック状に混じる黒褐色シルト、3層：黒褐色粘質シルトである。遺物には土師質土器、瓦質土器鍋、須恵器などの細片が出土しており、その内青磁碗口縁部(480)、土師質土器釜(481)が図示できた。480は口縁部はやや外反しており、内面には印刻の文様の一部が確認できる。481は把手部分に1cmの穿孔を施す。側面はユビオサエ、ユビナデ調整を施す。内面は丁寧なナデ調整がみられる。

SK175(図4-198・199)

調査区中央部南側にあり、調査区南西部を縦断するSD114に隣接する。遺構の南側は調査区南壁に接しており調査区外に伸びると考えられる。平面形は楕円形状で、長軸0.85m、短軸0.60m、深さ約29cm、断面形は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色シルトで、

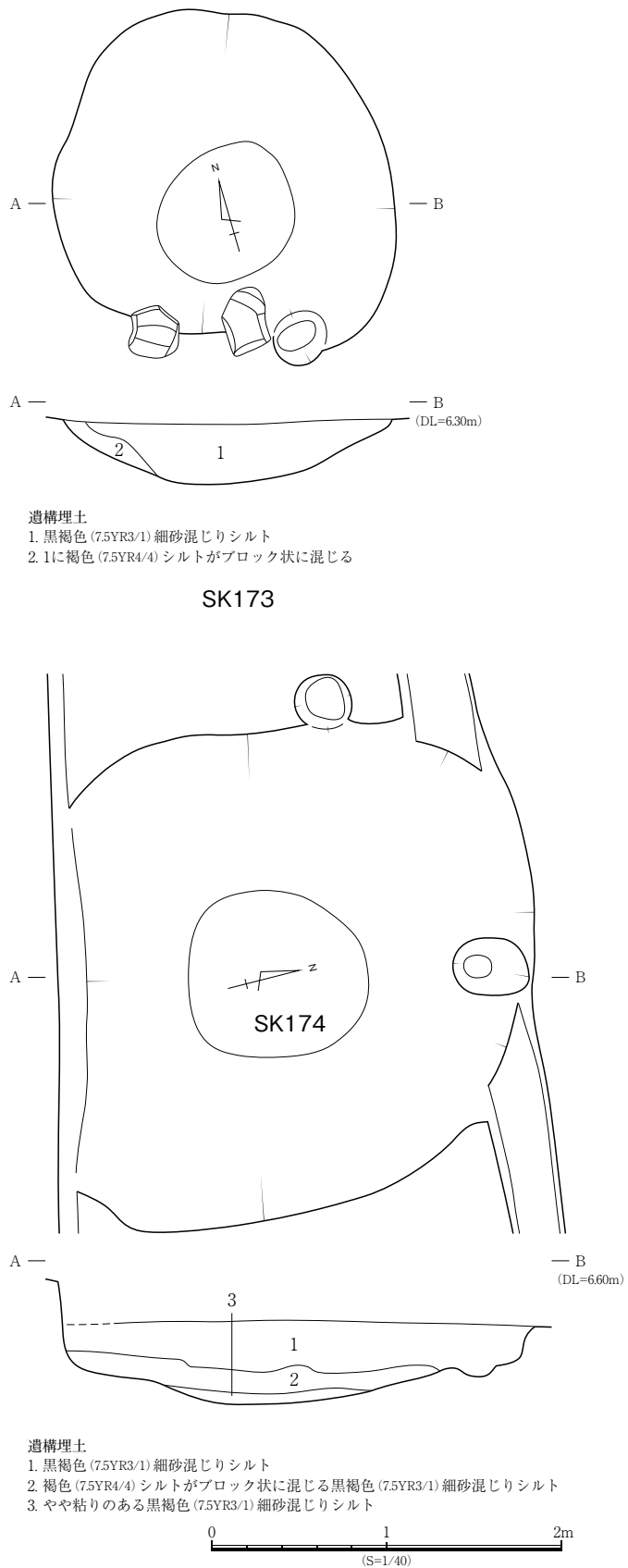


図4-196 SK173・174

遺物は土師質土器、瓦質土器、須恵器甕、土師器甕の破片が出土しており、その内瓦質土器鍋(483)を図示できた。483は口縁部はやや直立する。内外面はユビオサエとナデ調整を施す。

SK177(図4-198・199)

調査区南西部に位置する。遺構の東側はSK178と切り合い、上面の中世ピットに切られる。

平面形は隅丸形状で、長軸1.03m、短軸0.92m、深さ約19cm、遺構の断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒色シルトに褐色シルトを粒状に含むである。遺物は土師器杯、甕などの破片が出土しており、その内、土師器皿(482)と移動式竈(484)を図示できた。482は体部から底部にかけ煤が付着しており、内外面はナデ調整を施す。484は竈の一部である。外面はハケとナデ調整を施し、内面はユビオサエとナデ調整を施す。

SK178(図4-198)

調査区南西部に位置し、前述したSK177と切り合う。上面は中世ピットによって切られる。平面形からはSK177とは別の土坑との切り合いがみられるが、埋土等では認識できなかった。南北1.0m～1.35m、東西1.60m、深さは約8cmと浅く、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒色シルトである。遺物は土師器杯、甕、須恵器などの細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

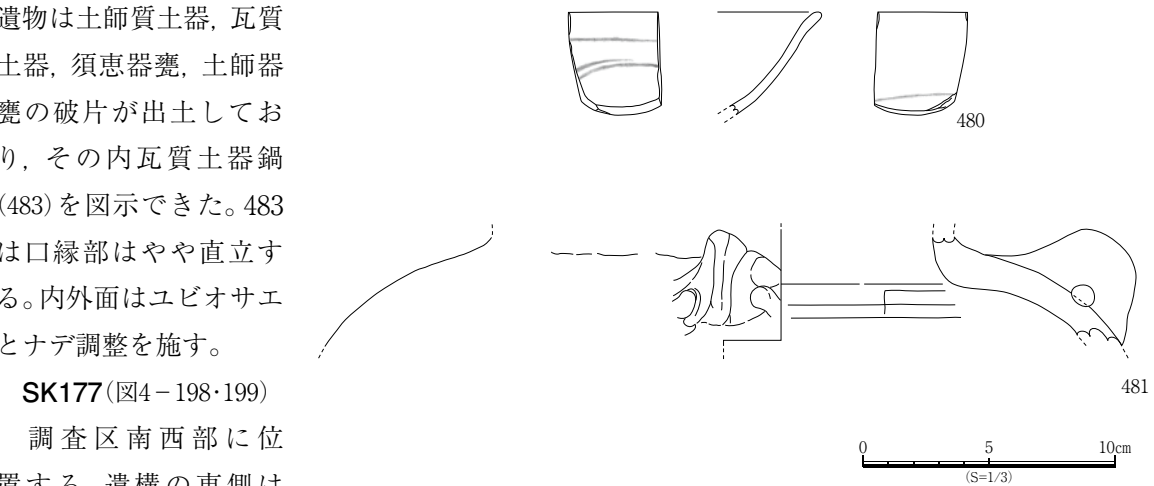


図4-197 SK174出土遺物実測図

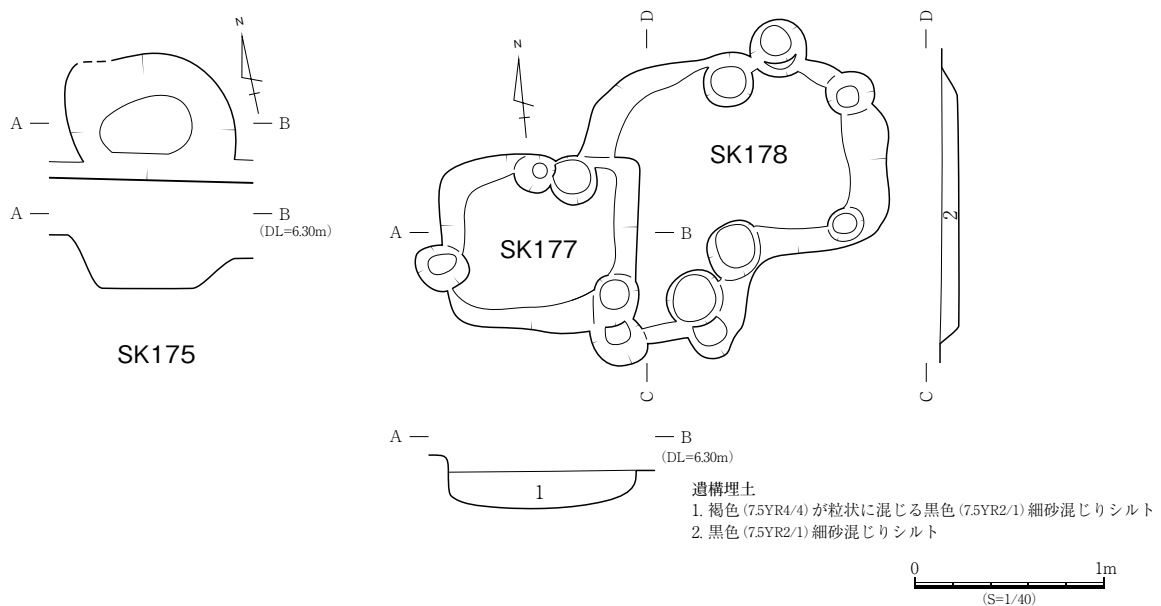


図4-198 SK175・177・178

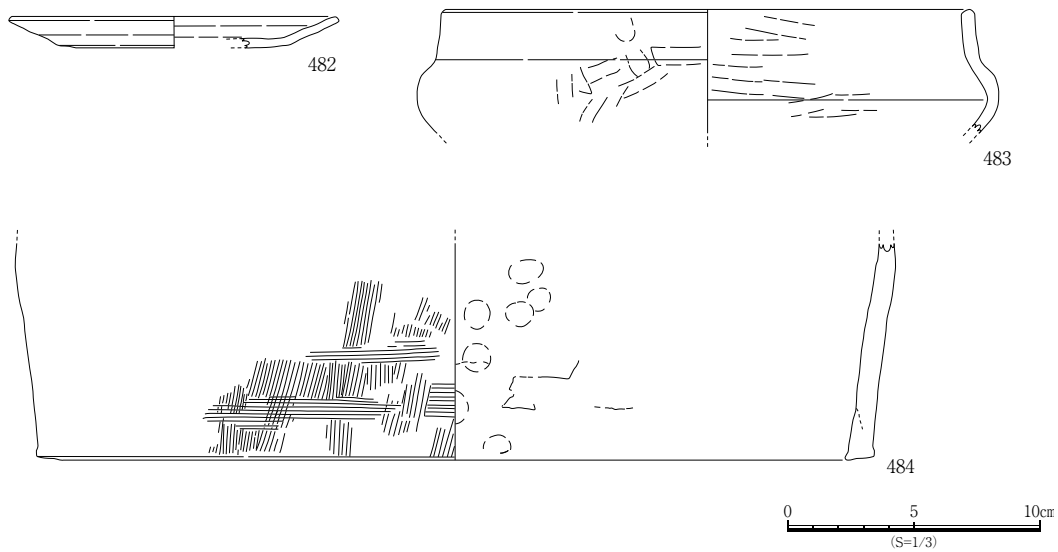


図4-199 SK175・177出土遺物実測図

SK179(図4-200・201)

調査区中央部にあり、SX23の北西約2.2mに位置する。上面はピットによって切られ、調査区中央部南側を縦断するSD118に切られる。平面形は不整楕円形で、長軸0.82m、短軸約0.60m、深さは約26cmである。埋土は細砂混じりの黒色シルトである。遺物は土師器杯、須恵器甕、黒色土器碗などの破片が出土している。

その内土師器皿(485～487)、土師器碗(488)、土師質土器釜(489・490)が図示できた。485の内面は黒色化しており、内外面なナデ調整を施す。486は底部外面は回転ヘラ切り痕が残し、口縁部から体部内外面は丁寧なナデ調整を施す。487は摩耗が著しく調整は不明瞭である。488は底部外面には断面三角形の高台を貼付し、内面はヘラミガキを施す。489は口縁下断面方形の鐳が廻り、口縁端部は拡張させる。外面はユビオサエとナデ調整、内面にも丁寧なナデ調整を施す。490は口縁下断面三角形の鐳が廻り、鐳の貼付部分は丁寧なナデ調整を施す。また、鐳の下半はヘラケズリとナデ調整をし、口縁端部は拡張させている。外面はユビオサエとナデ調整、内面にも丁寧なナデ調整を施す。

SK183(図4-200)

調査区中央部南側に位置する。平面形は楕円形状で長軸1.93m、短軸0.84m、深さ約10cm、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトに褐色シルトブロックを含む。遺物は土師質土器、瓦質土器、須恵器、弥生土器の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK185(図4-200・202)

調査区中央部南にあり、SB74の南東約1.0mに位置する。南から中央部を縦横断するSD97に切られる。平面形は隅丸方形で、径は概ね90cm前後、深さは6cmと浅い。埋土は細砂混じりの黒色シルトに褐灰色シルトをブロック状に含む。遺物で土師器甕(491)が図示できた。口縁部はくの字状に外反し、端部は上方に伸びる。外面にはハケ調整を施す。

SK189(図4-203)

調査区中央南側に位置する。調査区南側を横断するSD122を切る土坑である。平面形は楕円形状で、長軸2.53m、短軸1.2m、深さは33cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒

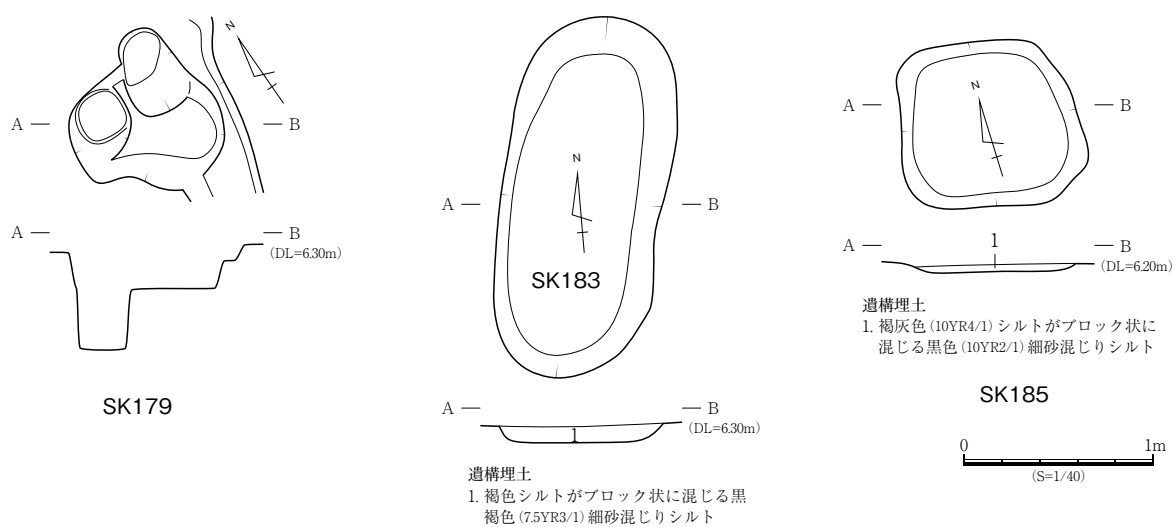


図4-200 SK179・183・185

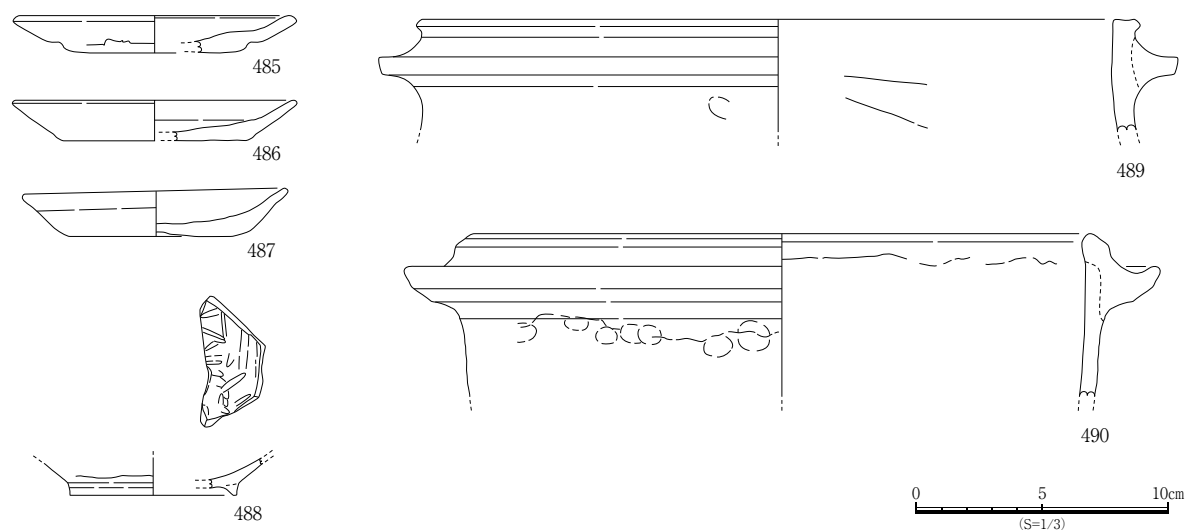


図4-201 SK179出土遺物実測図

褐色(7.5YR3/2)シルトで土器片と炭化物を含む。遺物は土師質土器片等が出土しているが、図示できるものはなかった。

SK190(図4-203)

調査区中央部南側にあり、SK191の南東約1.4mに位置する。掘立柱建物跡SB75に切られる。平面形は不整楕円形で、長軸1.1m、短

軸0.7m、深さ約10cm、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器、土師器甕、須恵器甕の破片などが出土しているが、図示できるものはなかった。

SK191(図4-203)

調査区中央南側に位置する。平面形は不整円形で、上面ピットに切られる。径は約0.94m、深さ29

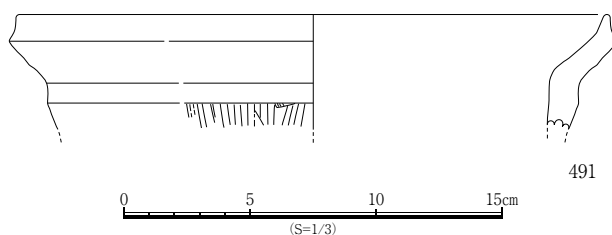


図4-202 SK185出土遺物実測図

cm, 遺構の断面形はU字形を呈する。埋土は1層: 細砂混じりの黒褐色シルト, 2層: 黒褐色(7.5YR3/1)シルトににぶい黄褐色シルトをブロック状に含む。遺物は手づくね成形の皿, 瓦質土器鍋, 須恵器甕, 土師器などの破片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK192(図4-203)

調査区中央部南側に位置する。平面形は楕円形状で長軸0.78m, 短軸0.55m, 深さ22cm, 断面形はU字状を呈する。埋土は1層: 細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトに褐色シルトをブロック状に含む, 2層: 黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器, 須恵器甕の破片などが出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK193(図4-203)

調査区中央部南側にあり, SB75の西約3.0mに位置する。南側に位置するSK229と北側のSD119を切る溝状の土坑である。平面形は隅丸長形状で, 長軸3.42m, 短軸0.70m, 深さは22cmを測る。遺構の断面形はU字状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトに黄褐色土を含む。遺物では土師質土器片等が出土したが, 図

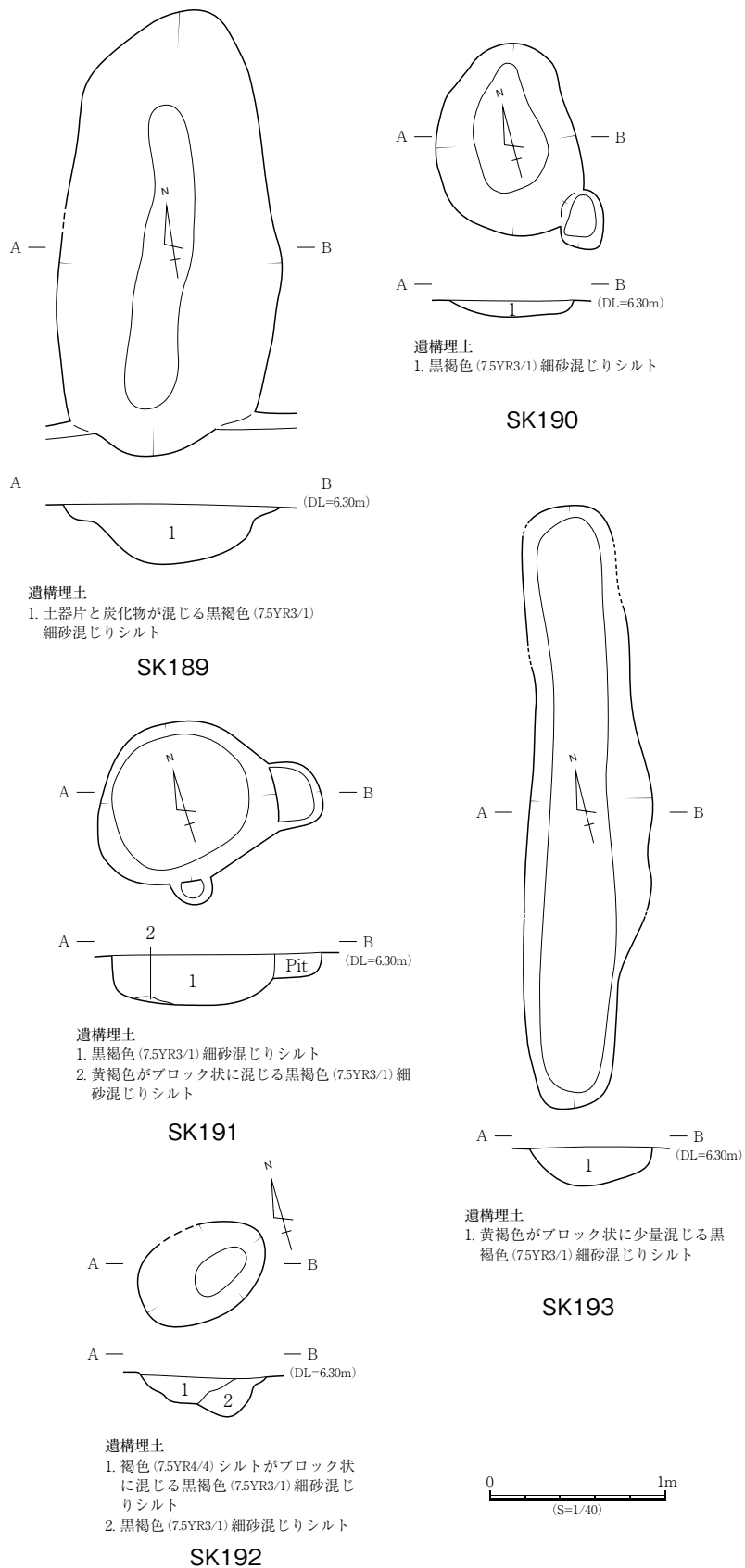
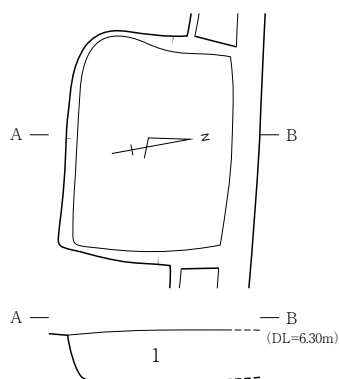


図4-203 SK189~193

示できるものはなかった。

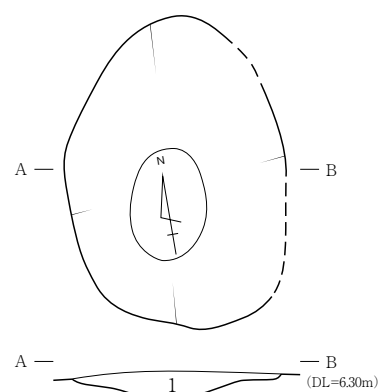
SK199(図4-204・205)

調査区中央部北端に位置する。遺構の北側は調査区北壁にかかっており、調査区外に続くと考えられる土坑である。平面形は方形を呈すると考えられ、現存長軸1.22m、短軸0.87m、深さは27cmを測り、断面形は箱形になると推定される。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトに炭化物と風化礫を含む。遺物には土師器片が多数出土しており、須恵器甕の細片もみられた。その内、土師器皿(492)、土師器杯(493・495)、土師器甕(497・498)、黒色土器碗(494)、緑釉陶器(496)が図示できた。492は底部は回転ヘラ切りで、内外面はナデ調整を施す。493も同じく底部回転ヘラ切りを呈し、内外面はナデ調整を施す。口縁端部はやや外反する。ともに精選された胎土である。497・498はともに胴部は長胴状の甕と考えられる。497は口縁部くの字状を呈し、端部は上方に拡張する。頸部外面にはタテ方向のハケ調整、内面には横方向のハケ調整、内外面ともに丁寧なナデ調整を施す。494は内面黒色処理をしており、底部にはやや厚みのある高台を貼付する。高台の両側面はナデ調整で仕上げる。496は底部のみであるが、小型の壺の底部と考えられる。内底部には回転ナデ調整を施す。



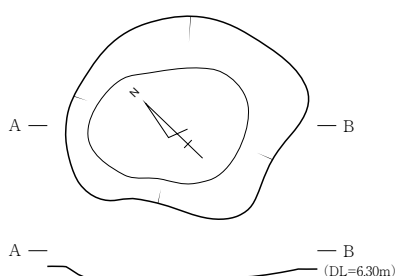
遺構埋土
1. 炭化物と風化礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト

SK199

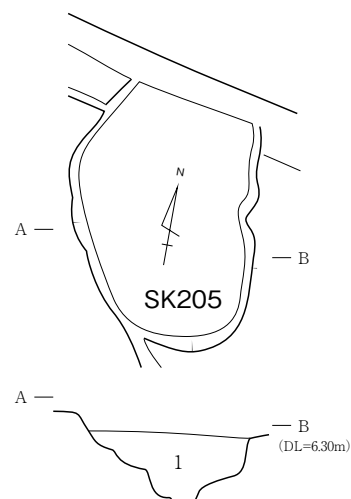


遺構埋土
1. 炭化物粒が混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト

SK203



SK204



遺構埋土
1. 黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト

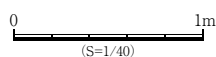


図4-204 SK199・203~205

SK203(図4-204・206)

調査区中央部北側にあり、SB59の北東部に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.55m、短軸1.17m、深さは約15cmを測り、遺構断面は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトに少量の炭化物を含む。遺物では土師質土器、土師器甕、須恵器等が出土しており、白磁碗(499)が図示できた。口縁部は玉縁状を呈する碗である。白磁Ⅳ類に属する。

SK204(図4-204・206)

調査区中央部北側にあり、SK203の北東約1.0m

に位置する。平面形は不整楕円形状で、長軸1.30m、短軸0.7m、深さ32cmで、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、炭化物を少量含む。遺物は土師器、須恵器甕の破片などが出土しており、その内土師器杯(500)が図示できた。底部外面は回転ヘラ切り痕が残り、内外面は丁寧なナデ調整を施す。

SK205(図4-204・206)

調査区中央部北側にあり、SK204の北東約7.0mに位置する。遺構の北側は調査区北壁にかかっており、調査区外に伸びるものと考えられる。上面はピットに切られる。平面形は不整長方形形状で、残存長軸1.3m、短軸0.9m、深さ35cm、断面形は舟底状である。遺物は土師質土器、土師器甕、須恵器などの破片が出土しており、その内土師質土器釜(501)、土錘(502)が図示できた。501は断面方形形状の鍔が廻り、鍔下部はユビオサエを施す。内面はナデ調整を施す。

SK210(図4-207・208)

調査区中央部北端に位置する。遺構の北側は調査区北壁にかかっており、調査区外に続くと考えられる土坑である。上面中世ピットにより切られている。平面形は楕円形状を呈すると思われる、現存長軸1.9m、短軸1.4m、深さは約24cmで断面形は箱状になると推定される。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトに炭化物を含む。遺物は土師器の細片などが出土しており、土師器杯(503・504)、土師器甕

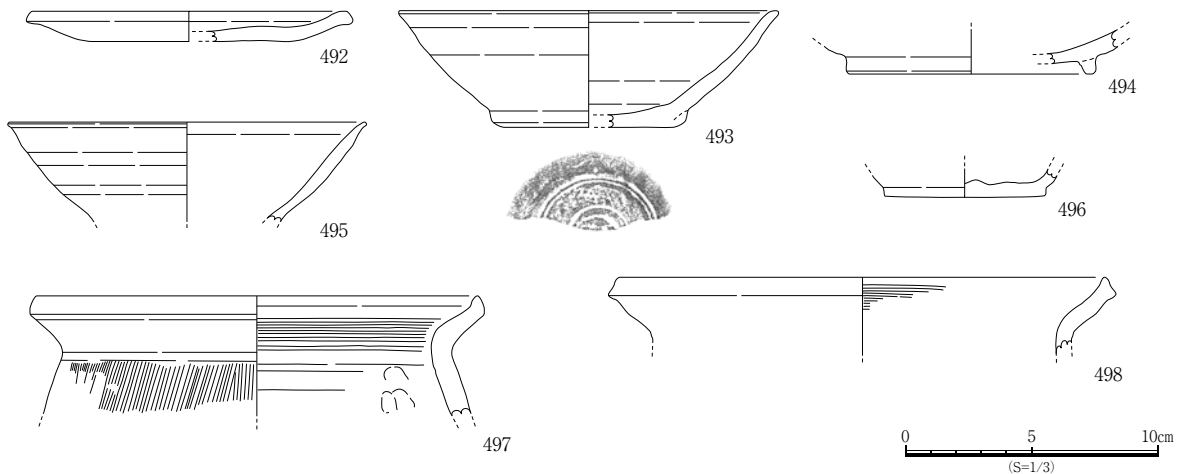


図4-205 SK199出土遺物実測図

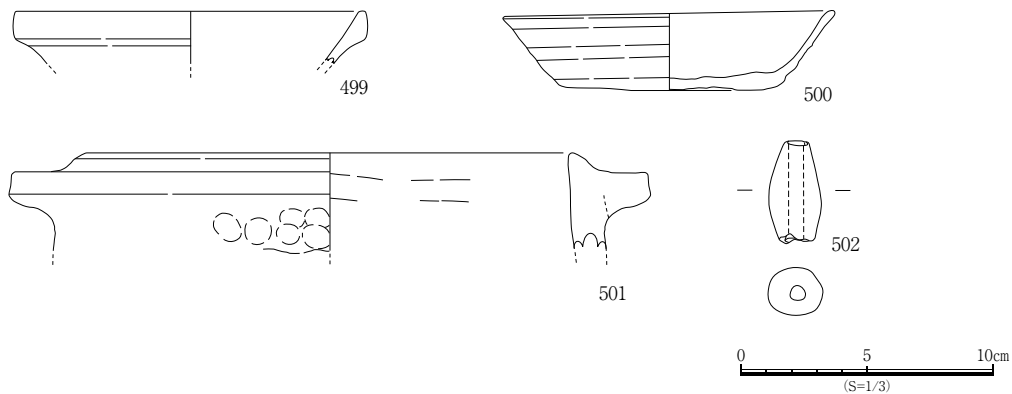


図4-206 SK203~205出土遺物実測図

(505～507)が図示できた。503・504とも口縁部はやや外反し、底部外面は回転ヘラ切りで、内外面はナデ調整を施す。精選された胎土である。505は器壁は薄い作りで、口縁部は大きく開き、端部は上方に拡張する。内外面ともに丁寧なナデ調整を施し、外面にはハケ調整もみられる。506は口縁部から頸部外面はナデとハケ調整、内面には丁寧なナデ調整を施す。内面の一部には煤が付く。507は口縁部がくの字状で、内外面はナデとハケ調整を施す。胴部は長胴状を呈すると考えられる。

SK219(図4-209)

調査区南東部にあり、SK220の北西約1.0mに位置する。遺構の東側と上面は近代遺構と掘立柱建物跡SB68の西側側柱によって切られる。平面形は不整楕円形状で、長軸1.95m、短軸1.1m、深さ約14cm、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。図示できる遺物はなかった。

SK220(図4-209・210)

調査区南東隅にあり、SK219の南東約1.0mに位置する。遺構の北東部と上面は近代遺構と中世ピットによって切られる。平面形は不整形状で、長軸1.4m、短軸1.2m、深さ約9cm、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで、遺物は土師質土器片などが出土しており、その内白磁皿(508)と青磁皿(509)を図示できた。508は口縁部は外反する。内外面無文である。509は削り出し高台を呈し、内面見込みは蛇ノ目釉剥ぎがみられる。

SK222(図4-209・210)

調査区南東隅に位置する。遺構の掘方の一部を確認している。深さは約16cmで、調査区外に伸び

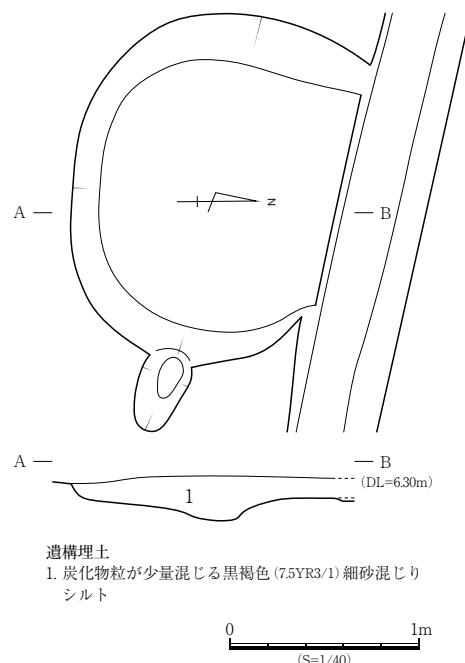


図4-207 SK219

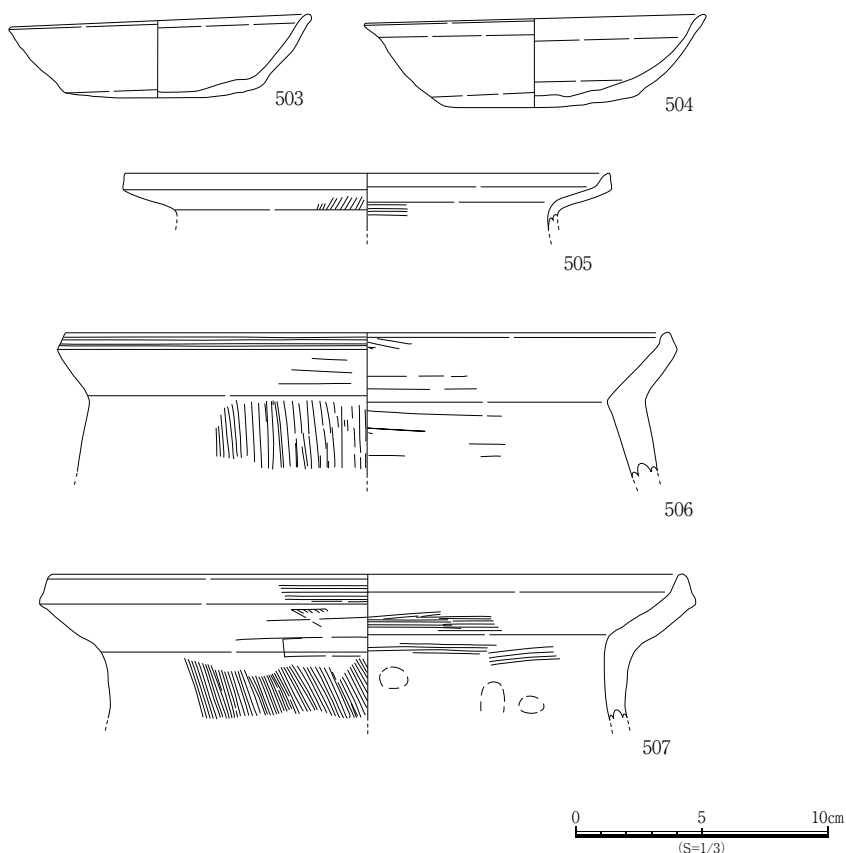


図4-208 SK219出土遺物実測図

3.ⅢB-2区 (2) 検出遺構と遺物

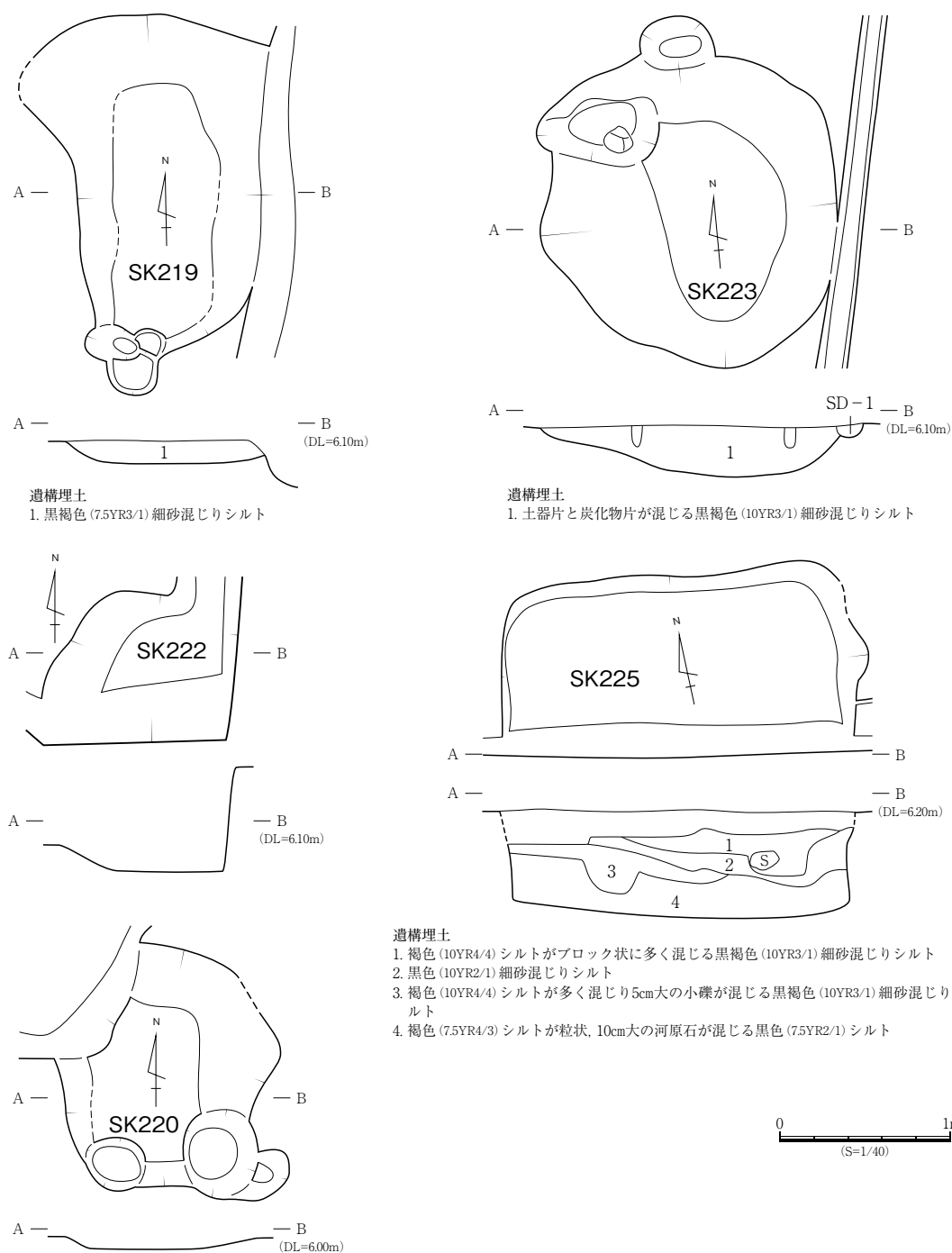


図4-209 SK219・220・222・223・225

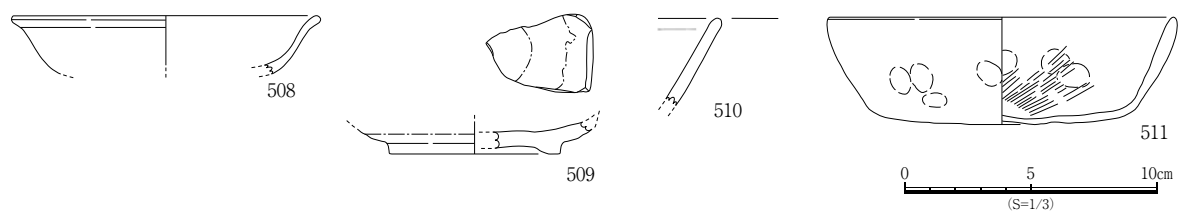


図4-210 SK220・222出土遺物実測図

と考えられる。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器, 土師器甕, 青磁片などが出土しており, その内手づくね成形の皿(511)と青磁碗(510)が図示できた。511は内外面ユビオサエとナデ調整を施し, 体部から底部内面にかけハケ調整がみられるものである。510は口縁部内面には一条の界線が廻る。貫入が入る。

SK223(図4-209)

調査区南東部にあり, SB70の西方約1.0mに位置する。遺構の東側一部はSD151に切られ, 北側は上面ピットに切られる。平面形は概ね円形状で, 長軸は約1.9m, 短軸1.75m, 深さは約30cmを測る。断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトに土器細片と炭化物を含む。遺物は土師質土器片, 瓦質土器, 備前焼, 白磁などの細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK224(図4-211・212)

調査区南東部に位置する土坑である。遺構の北西部は上面の近代遺構と, SD148によって切られ, 中央部は上面の中世ピットにより切られている。平面形は隅丸長形状を呈すると考えられ, 残存長軸2.56m, 短軸は約0.8m, 深さは約45cmを測る。断面形は箱形に近い形状が推定される。1層: 細砂混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト, 2層: 黒色(10YR2/1)シルト, 3層: 細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトに暗褐色(10YR3/3)シルトと土器片, 小礫を含む。4層: 3層の黒褐色(10YR2/2)シルトに褐色粒を含む。遺物は遺構の南側において床面より5cm程上より土師器杯(512)と須恵器杯(513)が出土した。ほぼ完形を呈している。さらに須恵器杯身(514)を図示することができた。また, 埋土の洗浄を実施した結果, ガラス玉(515)を確認した。

512は内面には放射線状のヘラミガキ, 内底面にも螺旋状のヘラミガキを施す。体部外面下半にはユビオサエとナデ調整, 底部はヘラ削りがみられる。513は口縁部は内外面に丁寧なナデ調整を施し, 口縁部はやや直立する。口縁部の一部は焼成時の歪みがみられる。514は口縁部外面に断面三角形の受部が斜め上方に付く。底部外面はヘラケズリ, 内外面は回転ナデ調整を施す。

SK225(図4-209・213)

調査区南東部に位置する。遺構の南側は調査区南壁にかかってお

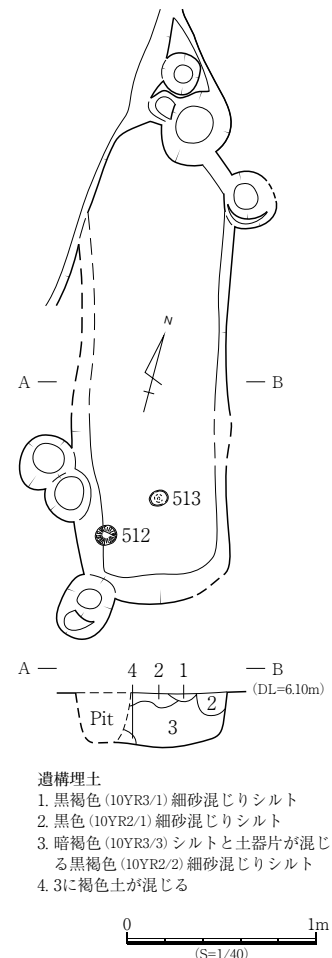


図4-211 SK224

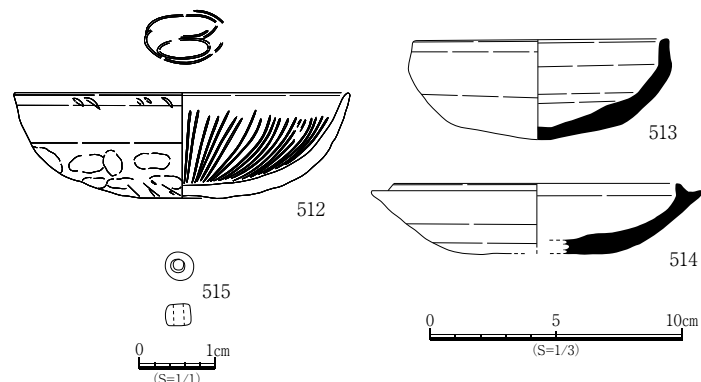


図4-212 SK224出土遺物実測図

り、調査区外に続くと考えられる土坑である。平面形は残存形から隅丸方形状を呈すると考えられ、残存径は長軸2.08m、短軸0.87m、深さは約50cmを測る。断面形は箱形を呈する。埋土は、1層：細砂混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトに褐色(10YR4/4)シルトを含む、2層：細砂混じりの黒色(10YR2/1)シルト、3層：細砂混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトに褐色(10YR4/4)シルトと5cm大の小礫を含む、4層：黒色(10YR2/1)シルトに褐色(10YR4/4)シルトと河原石を含む。

遺物は土師器片などが出土しており、土師器杯(516・518)、黒色土器碗(517)、竈片(520)が図示できた。516は摩耗のため調整は不明瞭であるが、薄い器壁である。518は杯の口縁部で、内外面ナデ調整を施す。外面には煤が付着する。517は口縁部で、内面には黒色処理をし、内外面はヘラミガキを施す。器壁は薄く、搬入品と考えられる。519は口縁端部は外反し、内外面はナデ調整を施す。520は移動式竈の把手部分と思われ、ユビナデによる調整がみられる。

SK229(図4-214～216)

調査区中央部南側に位置する。平面形は隅丸方形状を呈すると思われるが、遺構の南部はSD122、北部はSK193とSK194、中央部は上面の中世ピットによって切られている。長軸2.97m、短軸約2.7m、深さは約8cmと浅く、断面形は皿状を呈する。埋土は1層：細砂混じりの黒色シルト(7.5YR2/1)で褐色(7.5YR4/3)シルトを粒状に含む。2層：褐色(7.5YR4/4)シルトに黒褐色(7.5YR3/1)シルトを含む。

図示した出土遺物は弥生土器の壺、甕、鉢、高杯である。526は口縁部は斜め上方に伸び、端部は丸くおさめる。胴部は球胴状を呈する壺である。外面には叩き目残り、外面にはハケ調整を施す。内面はハケとナデ調整である。523は壺で外面には一部叩き目残り、ハケ調整を施す。内面はハケとナデ調整である。521は口縁部は大きく開く。内外面にはユビオサエとナデ調整がみられる。522は口縁部外面はユビオサエとハケ調整、内面にはヨコ方向のハケ調整を施す。524は口縁部はやや外反する壺で、外面には叩き目痕が残り、ハケ調整を施す。内面はナデ調整を施し、頸部には粘土紐接合痕が認められる。525は壺である。胴部は球胴状を呈し、口縁部は斜め上方に開きのびる。口唇部は丸くおさめる。外面にはハケ調整、内面はナデ調整、頸部下には粘土紐接合痕が認められる。529は甕で、口縁部は「く」の字状を呈する。外面は口縁部まで叩き目が認められる。内面はハケとナデ調整が施される。533は小型の甕で口縁部は外上方に短く伸び端部は丸くおさめる。外面は口縁部に叩き目残り、胴部は格子状の叩き目を施す。内面は縦方向のユビナデが顕著である。530は甕で口縁部は「く」の字に屈曲する。外面には縦方向の細かいハケ調整、内面には斜位方向のハケとナデ調整が

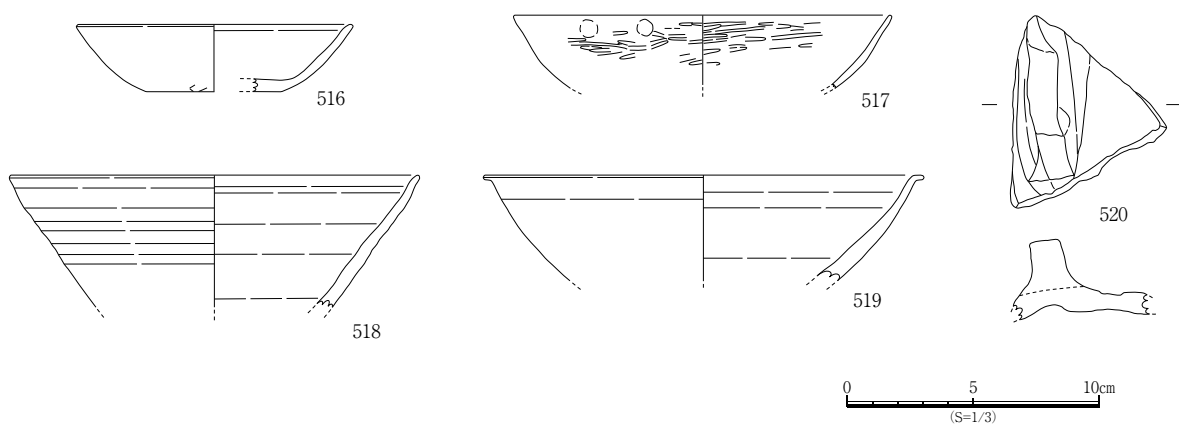


図4-213 SK225出土遺物実測図

施される。532は甕で、口縁部は「く」の字状で端部は平坦面を呈する。外面は口縁部まで叩き目を施す。内面は斜位方向のハケとナデ調整を施す。534は甕の胴部から底部である。外面は叩き目とナデ調整を施す。内面はナデ調整と一部ハケメ状の単位が認められる。外面には一部煤が吸着している。531は甕で、口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部まで叩き目が認められ、頸部はユビオサエを施す。内面は口縁部から頸部途中まで細かいハケ調整、胴部にはヘラケズリ状の調整を施す。頸部内面には粘土紐接合痕が認められる。527は甕で口縁部は「く」の字状で、口唇部は丸くおさめる。胴部外面は頸部まで叩き目が認められ、口縁部外面にはハケとナデ調整を施す。口縁部内面はハケ調整、頸部から胴部はナデ調整を施す。528は甕である。口縁部は「く」の字状で、口唇部はナデにより平坦面を呈する。外面は口縁部まで叩き目調整が認められる。内面は細かいハケ調整を施す。535は小型の甕で、口縁部はくの字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。外面は頸部まで叩き調整が認められ、その後ハケ調整を施す。内面はハケとナデ調整を施す。頸部内面には粘土紐接合痕が認められる。536は鉢で、平底状を呈する。口唇部は平坦面をなす。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。537は鉢で、底部は平底状である。外面には一部叩き目が認められるが、摩耗のため不明瞭である。538はミニチュア土器である。外面はユビオサエが顕著で、ナデ調整を施す。内面はユビオサエとハケ調整が認められる。539は高杯である。杯部と脚部が途中欠損している。脚部には孔径7mmの穿孔が認められる。杯部から脚部外面にはミガキ調整を施し、杯部内面はミガキ調整とナデ調整である。脚部内面にはハケ調整を施す。540は高杯の脚部で、外面にはミガキ調整が施され、裾部内面にはハケ調整を施す。541は高杯の脚部で、端部は平坦面を呈する。穿孔が認められる。外面はハケとミガキ調整を施し、内面はハケとナデ調整である。542は支脚の一部と考えられ、手づくね成形である。外面はユビオサエが顕著である。

⑤ 溝

SD94(図4-217・218)

調査区中央部北側に位置する。SD95の南側に並走する区画溝である。遺構の東側はSD95と接し、切り合うが新旧

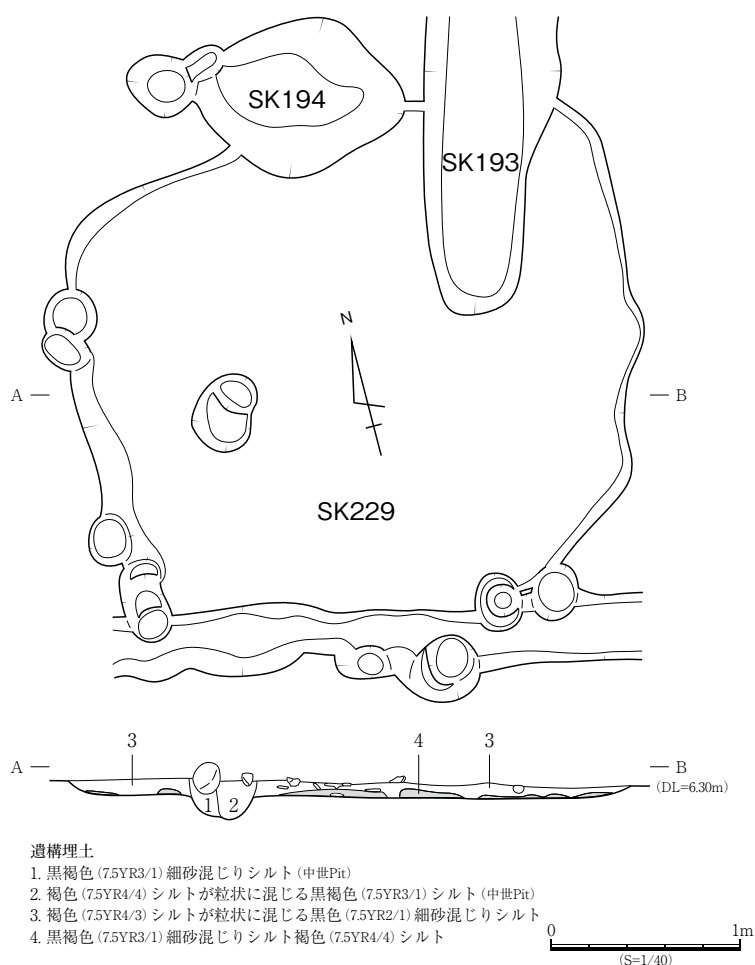


図4-214 SK229

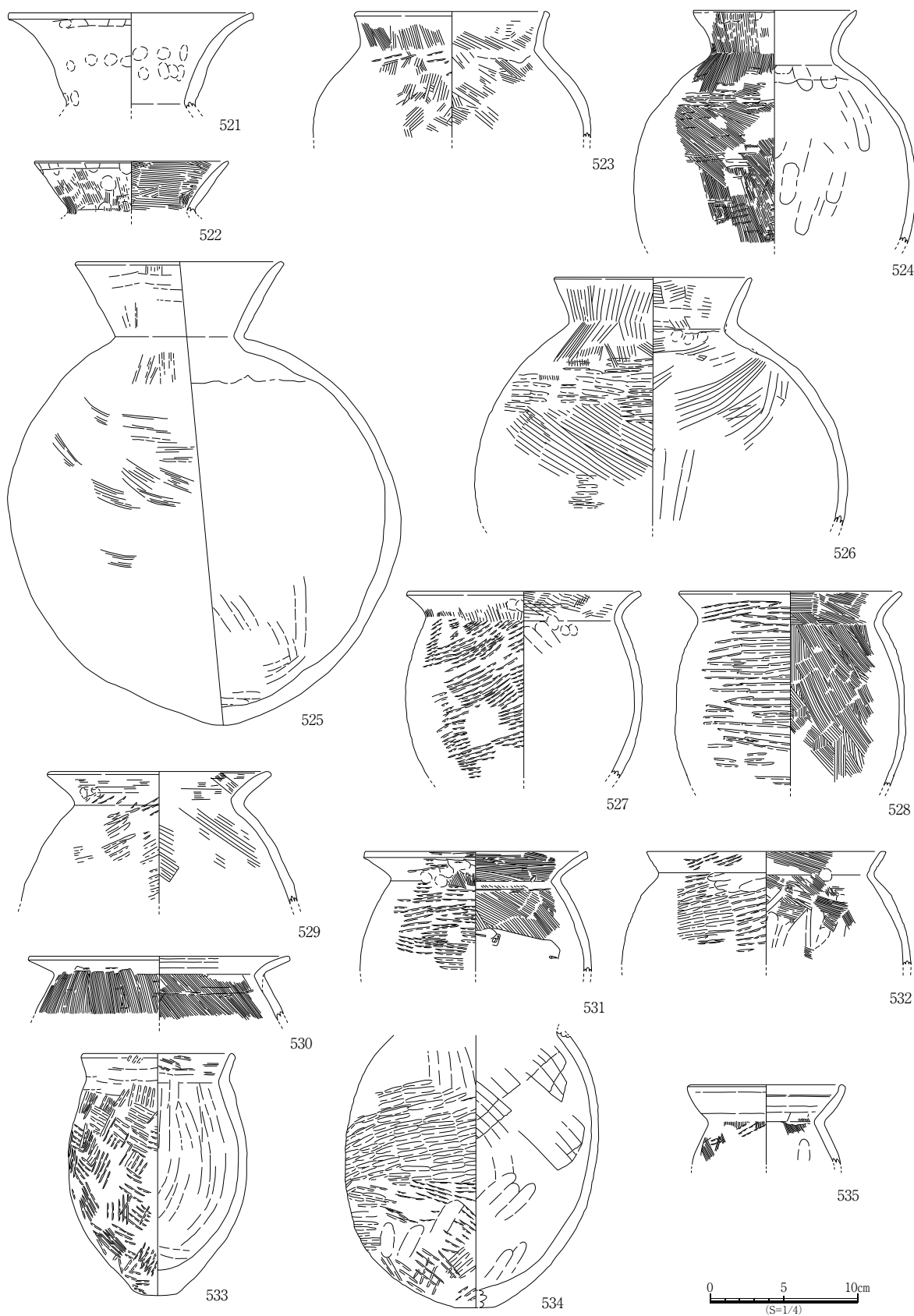


図4-215 SK229出土遺物実測図1

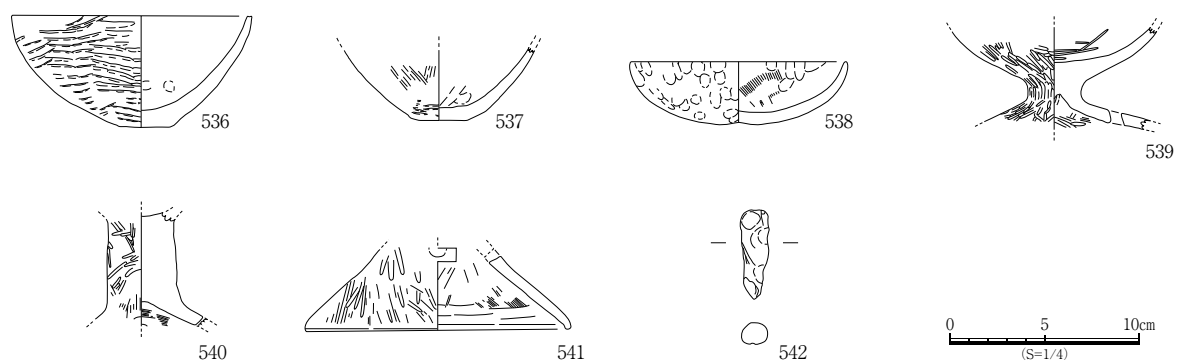


図4-216 SK229出土遺物実測図2

関係は不明である。遺構の北側は調査区外に続いており、プランを確認することはできなかった。南側に接するSD125を切る。確認延長は溝の東側はSD95と接しており、北から南方向については不明である。東西方向の確認延長は約39mを測り、西側に隣接するⅢB-3区SD94に接続する。ⅢB-3区SD94と合わせると東西の確認延長は約39mを測り、さらに北側に折れ15m延びる。幅は0.8~1.6m、深さ約20cmを測り、断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの灰黄褐色(10YR4/2)に炭化物を少量含む。遺物は土師質土器の細片の他、須恵器や瓦質土器、青磁、国内産陶器などが出土している。その内図示できたものは、炆器壺(543)、緑釉陶器皿(544)、東播系須恵器鉢(546)である。546は鉢の口縁部で、口唇部はやや肥厚する。内外面はナデ調整を施す。

SD95(図4-217・218)

調査区中央部北側に位置する。屋敷地を区画したと考えられる溝である。遺構の北側は調査区外にあり、プランを確認することはできなかった。竪穴建物跡ST4を切る。確認延長は溝の東側は北から南方向に約8.8m延びて西側に曲がり、さらに約38m延びて西側に隣接するⅢB-3区SD95に接続する。ⅢB-3区と合わせると東西の確認延長は約47mを測り、北側に折れる。幅は1.8~3.2m、深さ15~60cmを測り、断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトで土器片を含む黒褐色(7.5YR3/1)シルトに褐灰色(7.5YR4/1)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており、須恵器や瓦質土器、青磁、白磁、国内産陶器、近世陶磁器なども出土している。溝の下層から底面では土師質土器片の他青磁、国内産陶器、瓦質土器が確認できた。SD95出土遺物の殆どはⅢB-2区からの出土である。その内手づくね土器(545)、青磁(547~549)、青花(550・551)、土師質土器鍋(552)、土師質土器羽釜(554)、瓦質土器釜(553)が図示できた。547は内湾する無文の碗で、高台外面まで施釉する。548は皿で、口縁部は外反し、外面には篋描き蓮弁文が認められる。549は碗である。口縁部は内湾し、外面には線描きの文様が認められる。550は青花皿である。口縁部は外反し、外面には牡丹の文様がみられる。551は青花皿の底部である。断面三角形の高台で、砂目がみられる。内面見込みには松と思われる文様がみられ、高台見込みには文字が認められる。552は鍋の口縁部である。口唇部はナデ調整が施され、浅い凹状を呈する。外面にはユビオサエ、内面にはヘラケズリとナデ調整がみられる。554は釜の口縁部である。口唇部は外反し、丸くおさめる。口縁部側面には断面三角形の鍰が貼付される。内面にはハケ調整がみられる。553は瓦質土器の釜である。口縁部は内傾し、口唇部は平坦面を呈する。外面には貝文様のスタンプが認められる。内面はハケ調整を施す。

3.ⅢB-2区 (2) 検出遺構と遺物

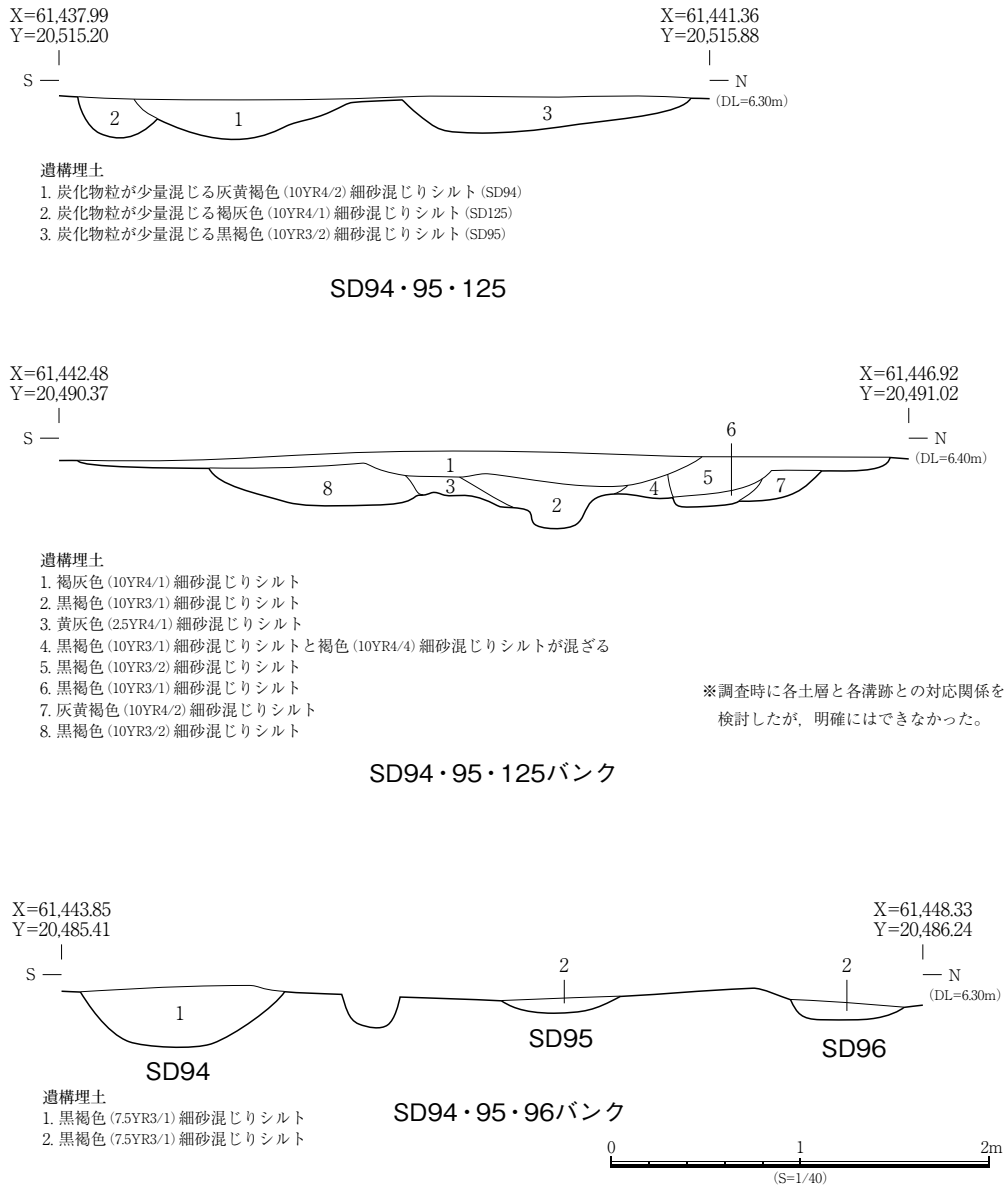


図4-217 SD94・95・125

SD97(図4-219～223)

調査区中央部南側に位置する。屋敷地を区画したと考えられる溝である。遺構の南側と西側は調査区外にあり、プランは確認することはできなかった。確認延長は溝の東側は南から北方向に約11.6m延びて西側に曲がり、さらに約39m延びて西側に隣接するⅢB-3区SD97に接続する。ⅢB-3区と合わせると東西の確認延長は約47mを測り、南側に折れる。幅は1.8～3.2m、深さ15～60cmを測り、断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで土器片を含む黒褐色(7.5YR3/1)シルトに褐灰色(7.5YR4/1)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており、須恵器や瓦質土器、青磁、白磁、国内産陶器、近世陶磁器なども出土している。溝の下層から底面では土師質土器片の他青磁、国内産陶器、瓦質土器が確認できた。SD97出土遺物の殆

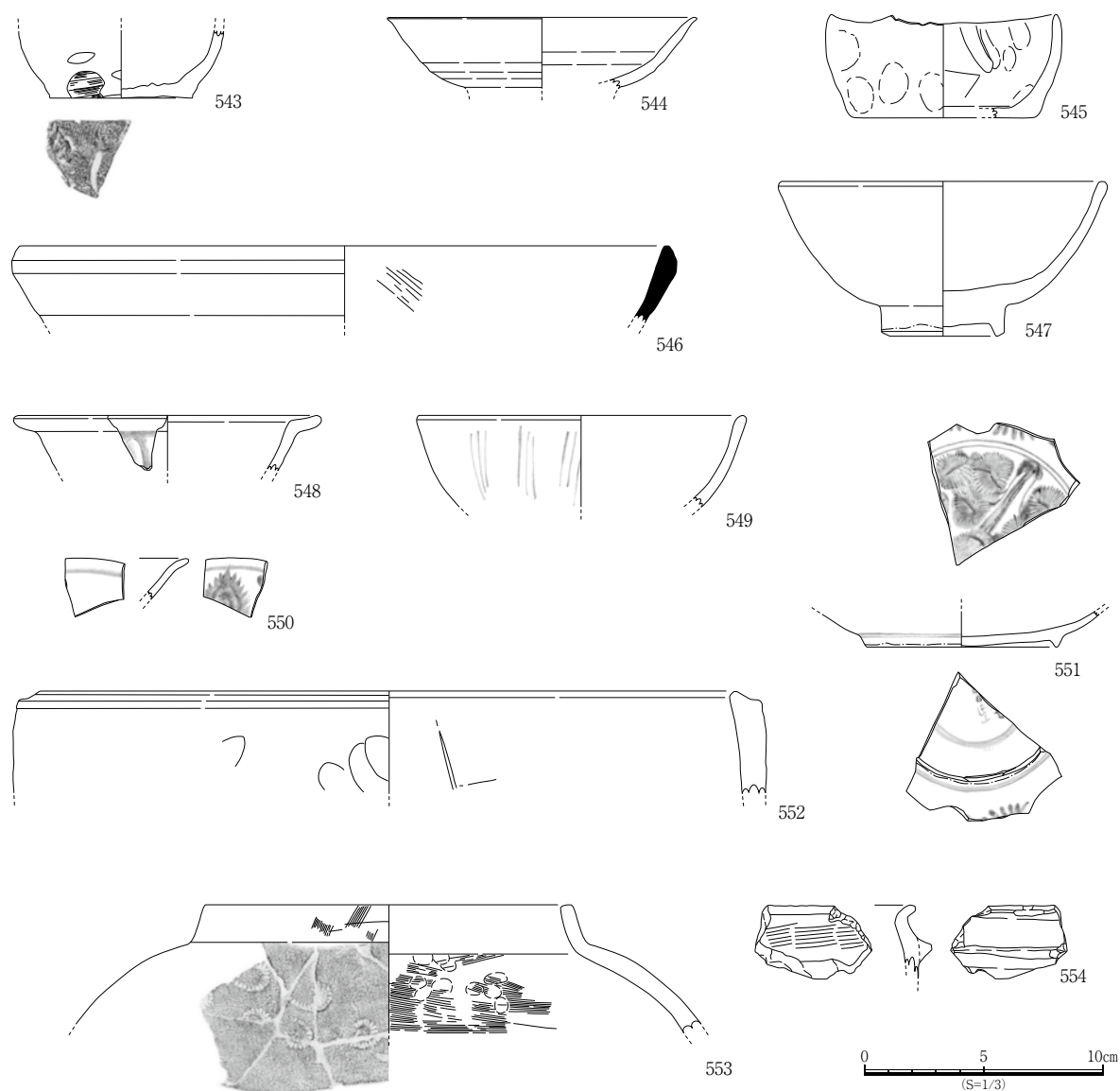


図4-218 SD94・95出土遺物実測図

どはⅢB-2区からの出土である。

その内図示できたものは、青磁(555～565)、白磁(566～570)、炝器壺(571)、瀬戸(572～577)、備前焼播鉢(578・579・581)、瓦質土器播鉢(580)、瓦質土器鍋(582～584・588)、土師質土器鍋(585～587)、土師質土器羽釜(589～591)、常滑焼(592・593・598)、備前焼(594・595・599・601・602)である。555は稜花皿の口縁部で下層から出土している。口唇部には抉りがみられる。556は皿で口縁部は横方向に外反する。外面にはヘラ描きの蓮弁文が施される。557は碗の底部である。高台畳付まで施釉され、外面にはヘラ描きの蓮弁文がみられる。560は碗である。内面見込みには花文様の印刻文がみられる。558は碗である。内面見込みには印刻文が認められる。559は碗である。無文で口縁部は外反する。564・565は盤と考えられる。564は外面には陽刻文が施される。565は口縁部は上方に伸び、口唇部は平坦面を呈する。被熱を受けた可能性がみられる。566は白磁の皿である。口縁部は外反しており、体部途中まで施釉する。567も皿である。口縁部は内湾し、口唇部はやや平坦である。569は皿の底部である。削

り出し高台で、内面には白濁色の釉がかかる。高台は露胎である。568は陶器質の胎土に乳白色の釉がかかり、高台は露胎である。570は断面三角形の高台をもつ。高台付け部分は釉をかきとる。571は壺の口縁部である。外反し、口唇部は丸くおさめる。572は天目茶碗の体部と考えられる。内面と体部途中まで褐色釉がかかる。573と575は卸皿と考えられる。575は口縁部の一部に片口状の歪みがみられる。576・577は大皿または深皿の口縁部と考えられる。口唇部は横方向に拡張している。577は口唇部が顕著である。578・579・581は備前焼の擂鉢である。578は口縁端部を上下に肥厚させる。内面には7条の条線がみられる。579は内面には12条単位の条線が認められる。581は口縁端部は上方に拡張し、口縁部内側には屈曲部をもつ。内外面はナデ調整を施す。580は瓦質土器の擂鉢である。口縁端部は平坦面をなし、体部外面にはユビオサエとナデ調整を施す。内面には数条の条線が確認できる。582～584は瓦質土器の鍋である。口縁部は直立して上方に伸び、口唇部は平坦面を呈する。外面はユビオサエとナデ調整、内面にもナデ調整を施す。582の底部外面には煤が付着する。584は口縁部は内傾して伸び口唇部は平坦面を呈する。硬質な胎土である。588は口縁部は外反し、口唇部は平坦面を呈

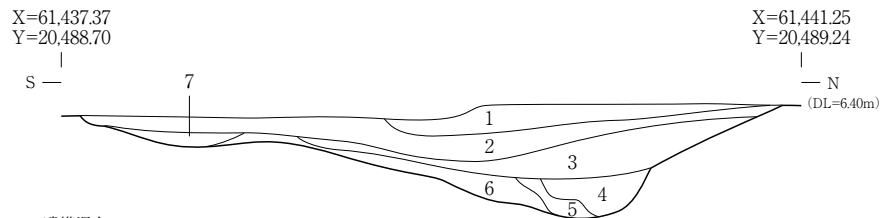
する。口縁部内面にはハケ調整が施され、体部にはユビオサエとナデ調整施される。下半部には煤が付着する。585～587は鍋で口縁部はやや内傾する。口唇部はナデ調整により浅い凹状を呈する。外面はユビオサエとナデ調整、底部外面には格子状の叩き目痕が認められる。内面はナデ調整が施される。586・587は口唇部はナデによる段状を呈する。外面には煤が付着する。589～591は羽釜で589は口縁部下に断面三角形の鍔が付く。口唇部は内傾し、平坦面を呈する。外面は体部途中



遺構埋土

1. 下層が礫混じりとなる土器片が混じる黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト(SD97)
2. 黒褐色(7.5YR3/2)シルト(SD138)

SD97・138



遺構埋土

1. 褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト
2. 灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
3. 黄灰色(2.5Y4/1)細砂混じりシルト
4. 褐灰色(10YR4/1)細砂混じりシルト
5. 地山の黄褐色(10YR5/6)細砂混じり粘土が混じる灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
6. 灰黄褐色(10YR4/2)細砂混じりシルト
7. 均質な暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルト

SD97バンク



遺構埋土

1. 黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
2. 褐灰色(7.5YR4/1)シルトがブロック状に混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト

SD97バンク

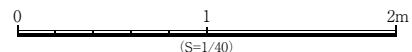


図4-219 SD97・138

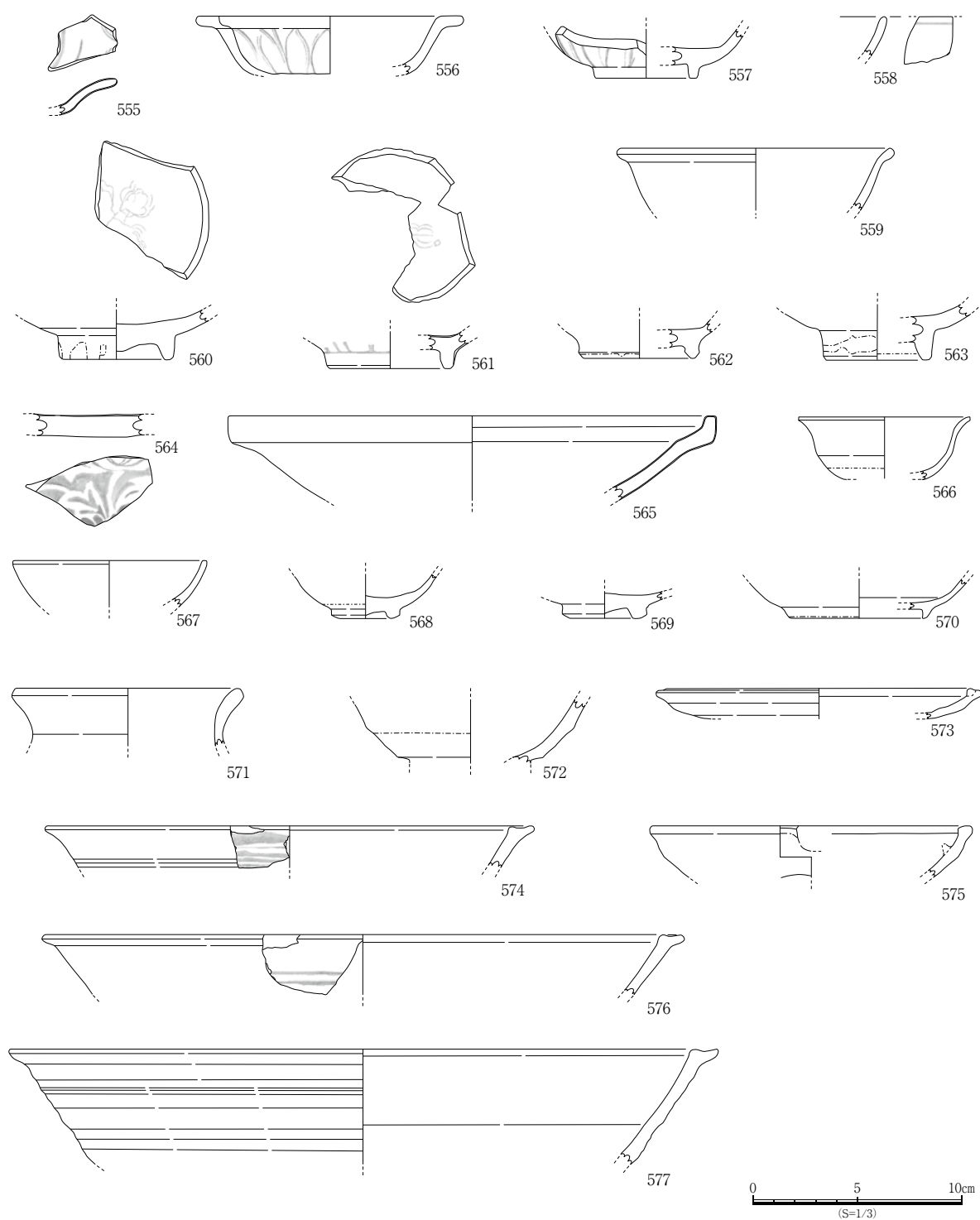


図4-220 SD97出土遺物実測図1

まで叩き目痕が認められ、内面にはヘラケズリとナデ調整が施される。590は口縁部下に断面三角形の鐙が付く。口唇部は内傾し、平坦面を呈する。外面は体部途中まで叩き目痕が認められ、内面にはハケとナデ調整が施される。591は断面長方形の鐙が付く。内面はヘラケズリとナデ調整、外面には煤が付着する。592は壺あるいは甕の口縁部である。口縁端部は欠損。口縁縁体部が密着する。

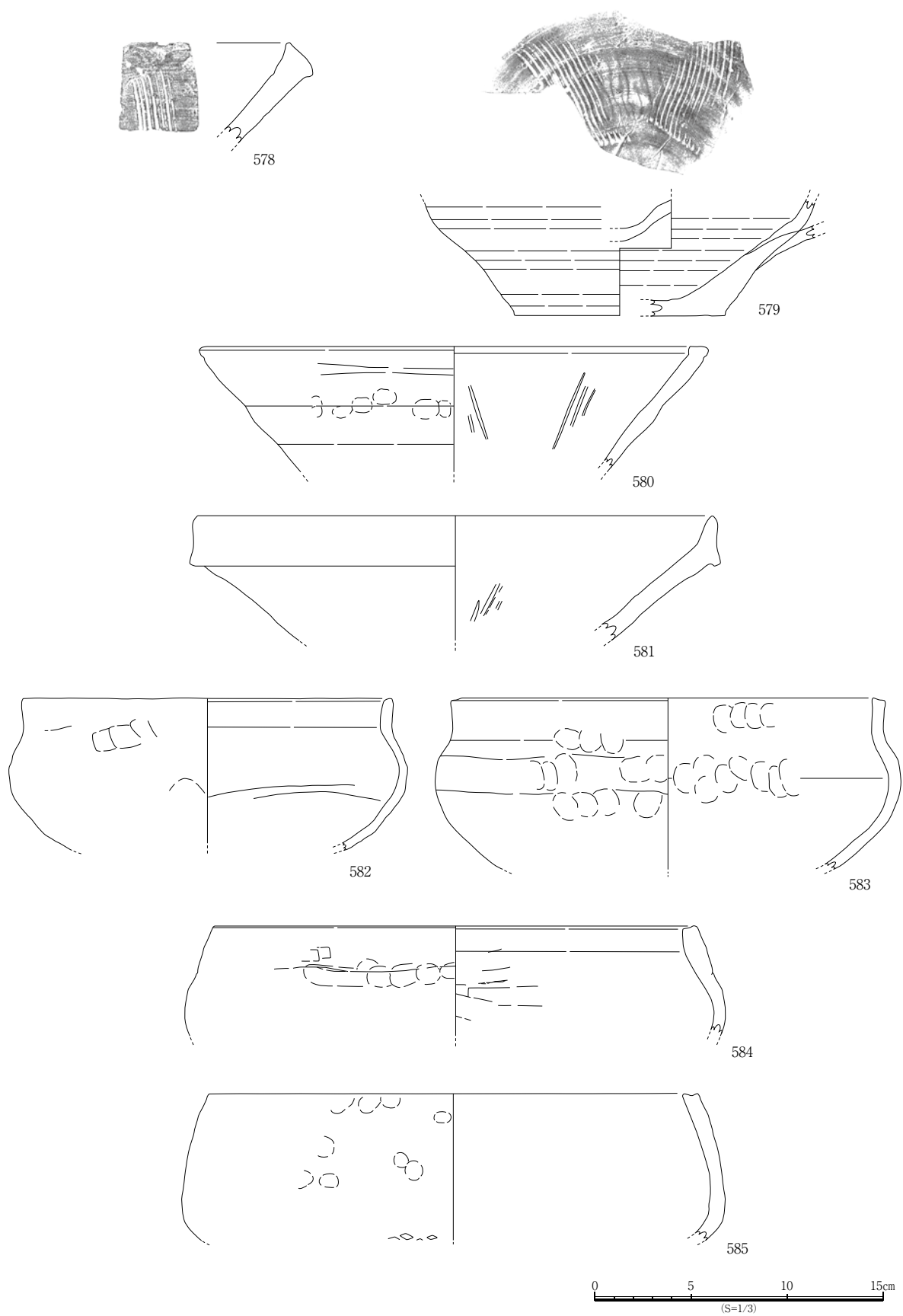


図4-221 SD97出土遺物実測図2

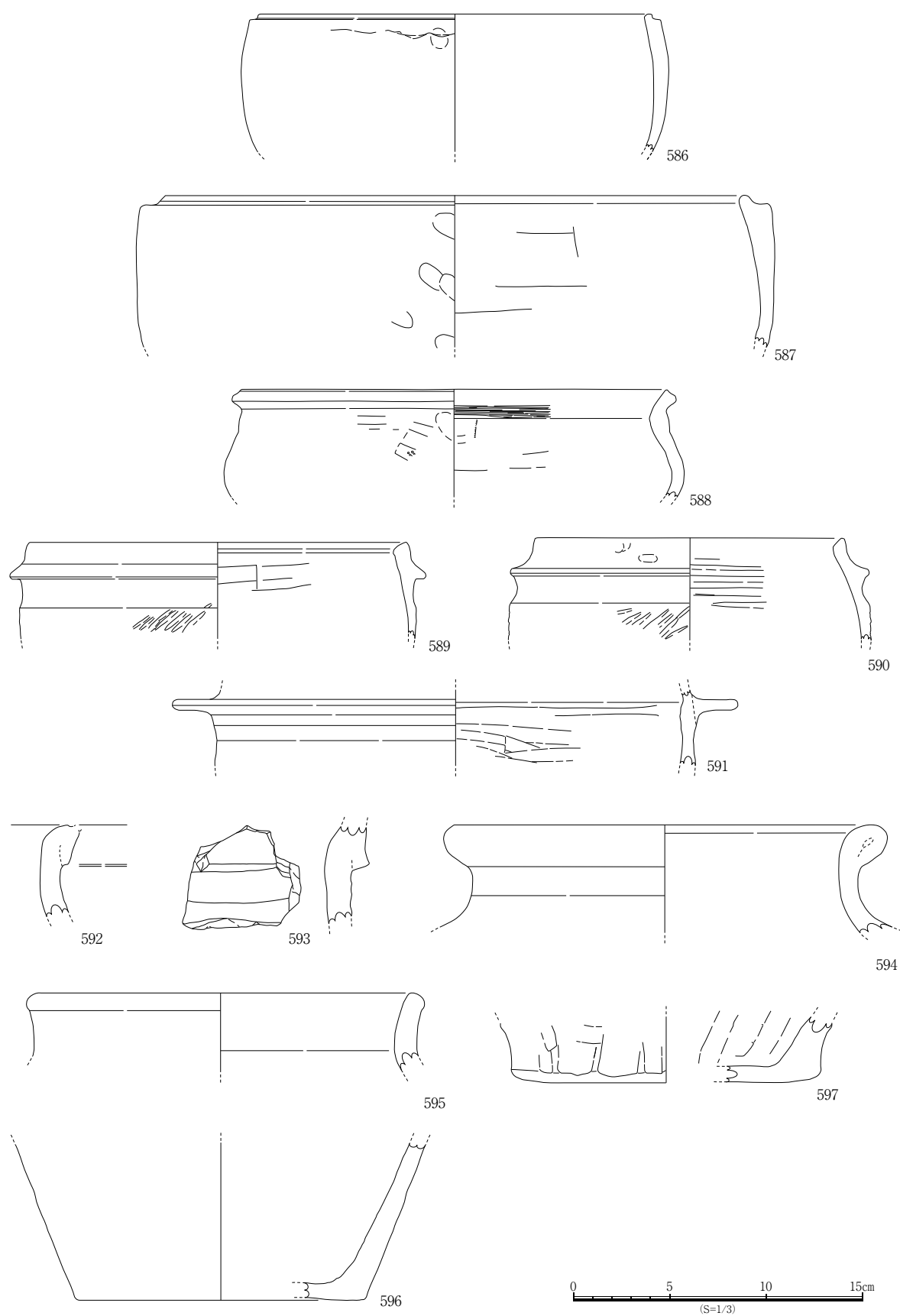


图4-222 SD97出土遗物实测图3

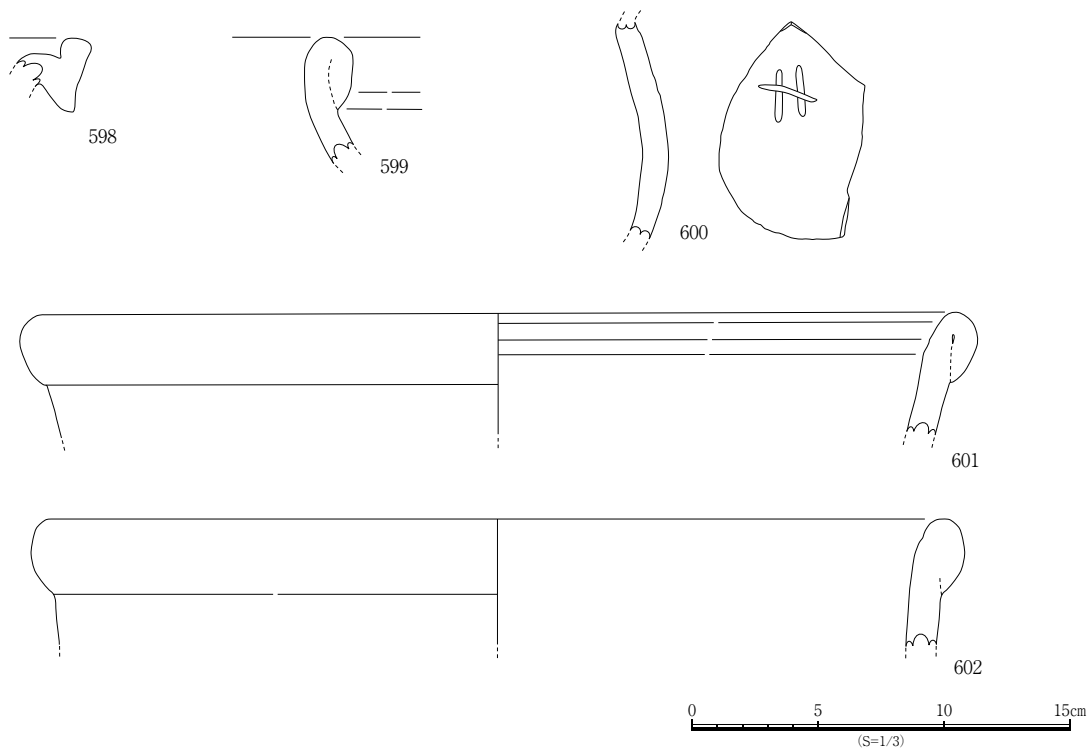


図4-223 SD97出土遺物実測図4

593 は常滑焼の壺の口縁部と考えられる。口縁縁体部が密着する。594・595 は備前焼の壺である。口縁部は玉縁状を呈し、内外面はナデ調整を施す。595は口縁部は斜め上方に伸び、端部は肥厚させる。597 は壺の底部である。外面はケズリ調整、内面にはユビナデによる調整を施す。596 は壺の底部である。外面には一部自然釉がかかる。597 は外面にケズリが施される。596・597 は胎土などから東海系の可能性が考えられる。598 は常滑焼の甕の口縁部である。断面はN字状を呈し、外面には自然釉がかかる。600は壺或は甕の体部片で外面にはヘラ描きの記号が認められる。599・601・602は備前焼甕の口縁部である。端部は玉縁状を呈し、内外面はナデ調整を施す。

SD113(図4-225)

調査区南西隅に位置する。確認延長は東西に約17.4m、幅25～40cm、深さ約8cmを測り、断面形は皿状を呈する。調査区南西隅を横断する溝で、遺構の西側は調査区外に続くと考えられる。SK172とSK174、周辺のピットによって切られている。埋土は細砂混じりの黒色(7.5YR2/1)シルトに褐色(10YR4/4)シルトをブロック状に含む。遺物は土師器や黒色土器の細片が出土しており、その内土師器杯(603・604)、黒色土器碗(605)、土師器甕(606)が図示できた。603は底部片で外面には回転ヘラ切りが残り、内外面はナデ調整を施す。内面には煤が付着する。604は底部に断面長方形の高台を貼付する。高台内外面はナデ調整、外面には化粧土がかかる。605は黒色土器碗の底部で、外面には断面三角形の高台を貼付する。内面は黒色処理し、ヘラミガキを施す。606は甕の口縁部片である。端部は上方に伸び、口唇部は平坦面を呈する。外面はナデ調整で内面はハケ調整を施す。

SD114(図4-224・225)

調査区南西部に位置する。確認延長は南北に14.4m, 幅30～35cm, 深さ9～15cmを測り, 断面形は箱形状から逆台形を呈する。周辺のピットによって切られる。埋土は細砂混じりの黒色(7.5YR2/1)シルトで褐色(7.5YR4/4)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器, 須恵器, 瓦質土器, 弥生土器などの細片が出土しており, その内瓦質土器鍋(607～609)が図示できた。607は口縁部は直立して上方に伸び, 口唇部はナデにより段状をなす。外面はユビオサエとナデ調整, 内面は丁寧なナデ調整を施す。底部から胴部外面には煤が付着する。608は口唇部は丸くおさめる。口縁下外面はユビオサエと強めのナデ調整を施す。外面は煤が付着する。609は口縁部はやや外方に開き, 口唇部はナデにより平坦面を呈する。内外面はユビオサエとナデ調整を施す。底部から口縁部外面まで煤が付着する。

SD116(図4-224)

調査区中央南部にあり, SD117とSD114, 118に接する。確認延長は東西に約10.3m, 幅25～70cm, 深さ6～15cmを測り, 断面形は皿状から逆台形を呈する。SD117を切る。SD118との新旧関係は不明である。埋土は細砂混じりの黒色(7.5YR2/1)シルトである。遺物は土師質土器細片, 瓦質土器, 須恵器, 弥生土器などが出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD117

調査区中央南部にあり, SD119の北方約1.0mに位置する。確認延長は南北に約5m, 幅40～55cm, 深さ約12cmを測り, 断面形は逆台形状を呈する。遺構の南部はSD116と接し, 北端部はピットによって切られる。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は弥生土器の細片が出土している。

SD118(図4-224)

調査区中央南部にあり, 調査区南西部を縦断するSD114の東方約8.0mに位置する。確認延長は南北に約12m, 幅25～35cm, 深さ8～16cmを測り, 断面形は逆台形状を呈する。遺構の中央部は

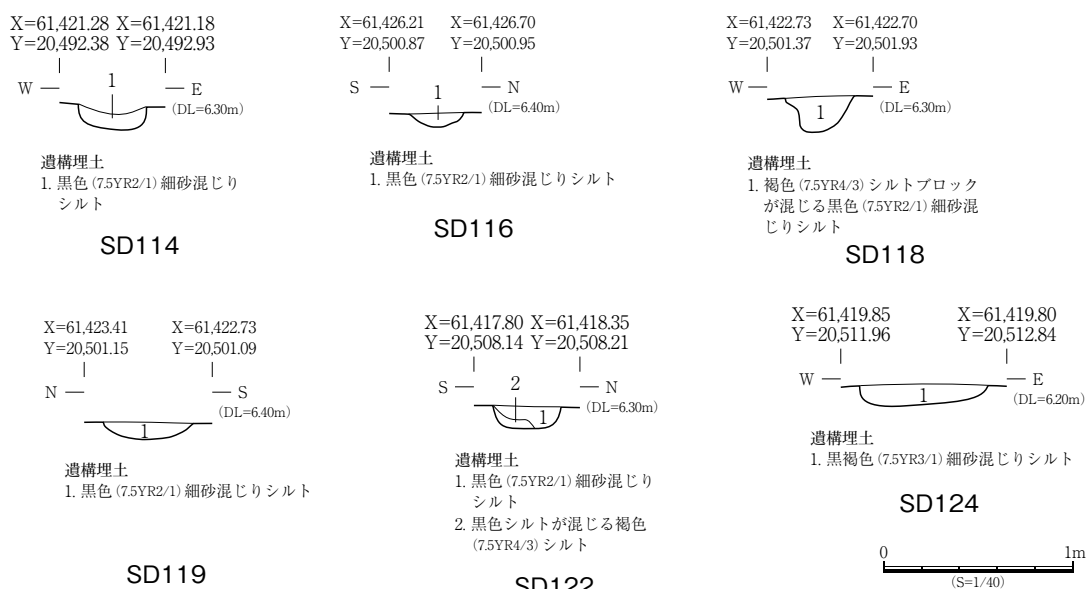


図4-224 SD114・116・118・119・122・124

3.ⅢB-2区 (2) 検出遺構と遺物

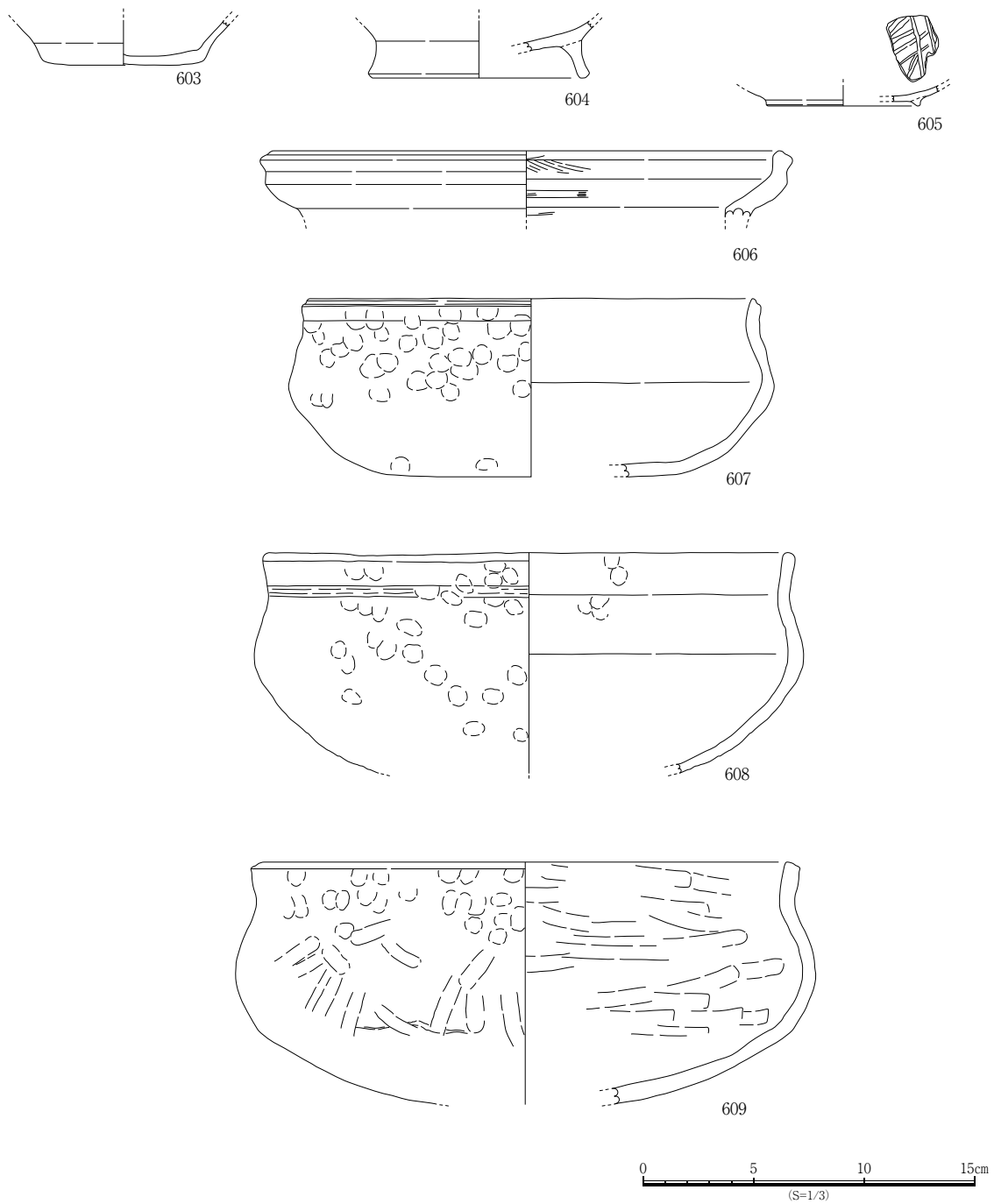


図4-225 SD113・114出土遺物実測図

SD119とSD116, 北部はSD120とSK179に接し, SD116・119との新旧関係は不明であるが, SK179には切られる。また, 周辺のピットによって切られている。埋土は細砂混じりの黒色(7.5YR2/1)シルトで褐色(7.5YR4/3)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器, 土師器, 弥生土器などの細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD119(図4-224)

調査区中央南部にあり, SD122の北方約3.8mに位置する。確認延長は東西約7m, 幅50～70cm,

深さ約6cm, 断面形は皿状を呈する。遺構の中央部はSD118と接し, 東端部はSK193によって切られ, 遺構全体は周辺のピットに切られている。埋土は細砂混じりの黒色(7.5YR2/1)シルトである。遺物は弥生土器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD120(図4-226)

調査区中央南部にあり, 調査区中欧南部を縦断するSD118に接する溝である。確認延長は東西3.05m, 幅20~35cm, 深さ6~14cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトで, 遺物は土師器甕(610)が出土している。口縁部のみであるが, 口唇部は上方に少しつまみ上げる。内外面はハケ調整とナデ調整を施す。

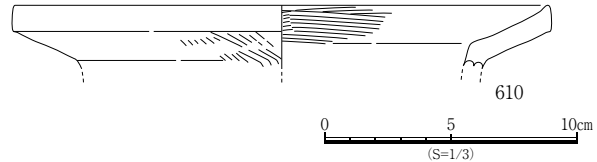


図4-226 SD120出土遺物実測図

SD122(図4-224)

調査区中央南端に位置する。確認延長は東西に約15.6m, 幅35~40cm, 深さ8~14cmを測り, 浅いU字状を呈する。遺構の西端はSK177・178, 中央部はSK229, 東端はSD124に接する。SK229を切り, SD124に切られる。また多数のピットに切られている。埋土は1層: 細砂混じりの黒色(7.5YR2/1)シルト, 2層: にぶい黄褐色(10YR4/3)シルトをブロック状に含む。遺物は土師器細片の他, 弥生土器や須恵器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。このSD122の西方向の延長線上にはSD113が位置しており, 形状や埋土などから同一の溝であった可能性も考えられる。

SD124(図4-227・228)

調査区中央部に位置する。調査区を南北に縦断する溝で, SD94・95・97に接し, これらの溝に切られる。確認延長は約36m, 幅約60~80cm, 深さ9~19cm, 断面形は箱形状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器, 瓦質土器, 須恵器, 国内産陶器, 弥生土器などが出土しており, その内緑釉陶器皿(611)と土師器甕(612)が図示できた。611はケズリ出し高台を持つ。612は甕の口縁部である。口唇部は丸くおさめ, 外面はハケとナデ調整, 内面もナデ調整を施す。内面には煤が付着する。

SD125(図4-229)

調査区中央部北側に位置する。SD95と94の南側より検出した溝である。確認延長は南北に約7.4m延びて西側に折れ, 約5m伸びる。SD94に切られるため途中で遺構は消滅するが, さらに約2.3m西側において延長約7.0mを検出している。屋敷地を区画する溝と思われるが, そのプランは途中で確認できていない。幅は0.4~0.5m, 深さ約20cmを測り, 断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの灰黄褐色(10YR4/2)に炭化物を少量含む。遺物は土師質土器の細片の他, 須恵器や瓦質土器, 青磁, 国内産陶器などが出土している。図示できたものは, 土師質土器皿(613)と黒色土器碗(614)である。613は体部から口縁部は外上方に開き口唇部は丸くおさめる。614は碗の口縁部で内面は黒色処理をし, 内外面にはヘラミガキによる調整が認められる。

SD128(図4-190)

調査区中央部北側から北西部にかけて検出した。SK155・156・157をきる。確認延長は東西に7.2m, 幅0.6~0.8m, 深さ10~15cmを測り, 断面形はU字状を呈する。調査区内の既存畦を挟んで東側に溝の延長を確認できたが, 途中で途切れている。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)土である。遺物は土師質土器の細片や底部外面に回転ヘラ切り痕が認められる杯が出土している。

3.ⅢB-2区 (2) 検出遺構と遺物

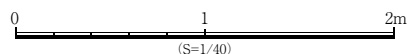
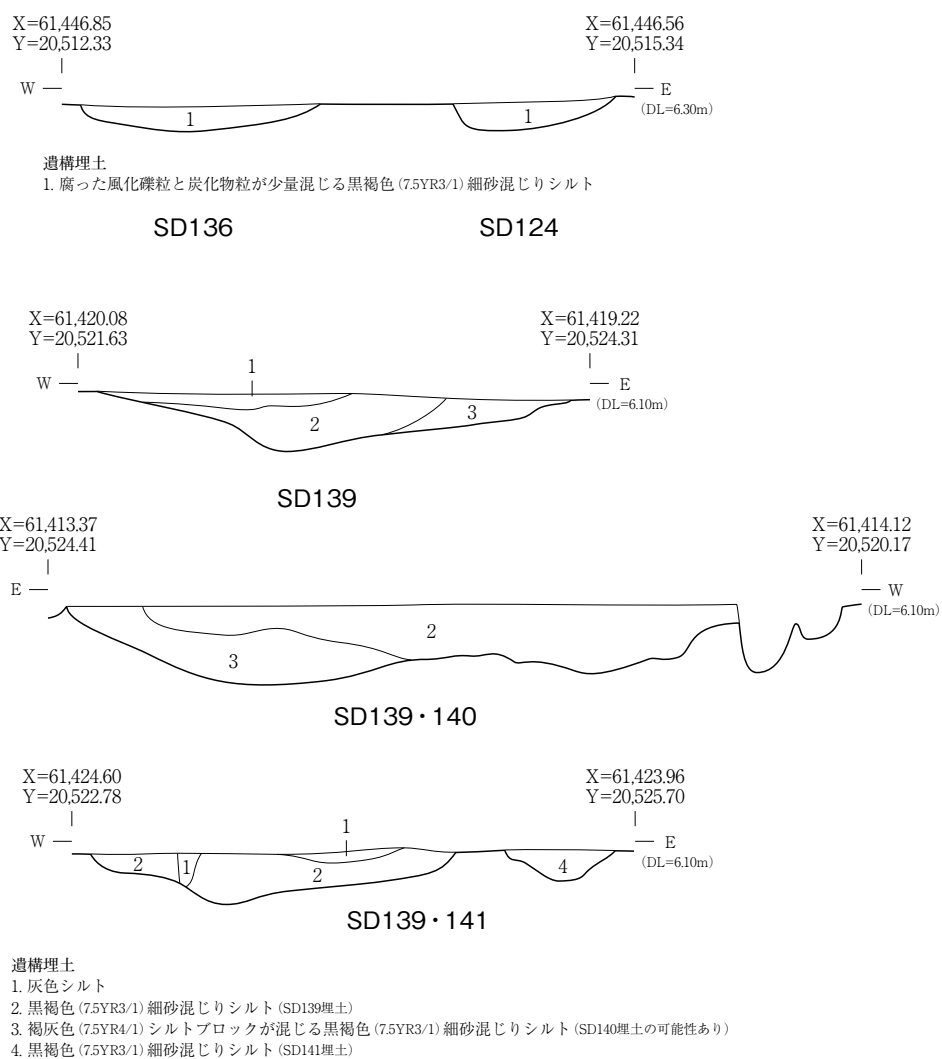


図4-227 SD124・136・139・140・141

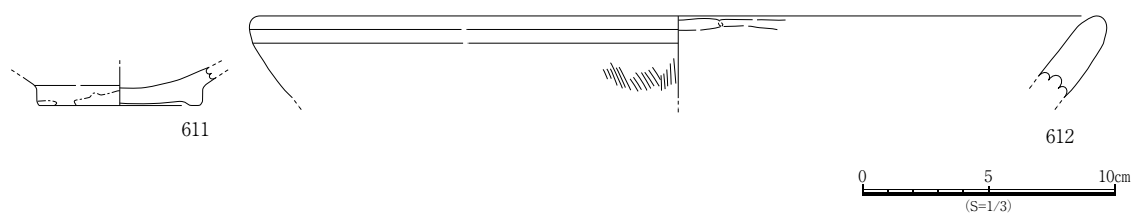


図4-228 SD124出土遺物実測図

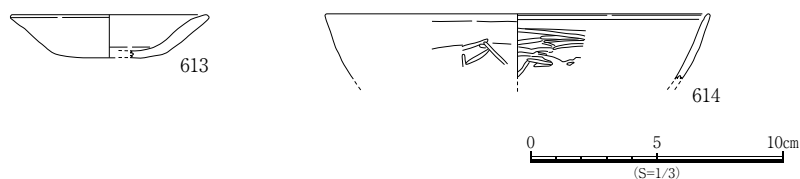


図4-229 SD125出土遺物実測図

SD136 (図4-227・230)

調査区中央北部にあり, SD124の西方約1.0mに位置する。確認延長は南北約7.2m, 幅1.15~1.35m, 深さ10~15cmを測り, 断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトに風化礫粒と炭化物を少量含む。遺物は土師質土器, 須恵器, 黒色土器, 瓦質土器, 土師器が出土しており, その内白磁皿(615), 須恵器壺(616), 炆器(617), 土師器甕(618), 土師器羽釜(619)が図示できた。615は口縁端部は端反りを呈し, 器壁は薄い。616は口縁部は短く上方に伸び, 端部は内傾する。頸部内面には格子状の叩き目が認められる。617は底部で内外面は回転ナデ調整, 内定部にはユビオサエを施す。618は口縁部はくの字状を呈し, 口唇部は上方に拡張させる。内外面はハケとナデ調整を施す。619は鋳部分は丁寧なナデ, 口唇部は平坦面を呈する。

SD137 (図4-231)

調査区中央南側に位置する。SD97の東内側にそって並走する溝である。確認延長は南北に約13m伸びて西方向に曲がりさらに約4m伸びるが途中で途切れる。幅は0.8~1.1m, 深さは6~11cmを測り断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器片などが出土しており, その緑釉陶器皿(620), 瓦質土器摺鉢(621)と瓦質土器鍋(622)が図示できた。621

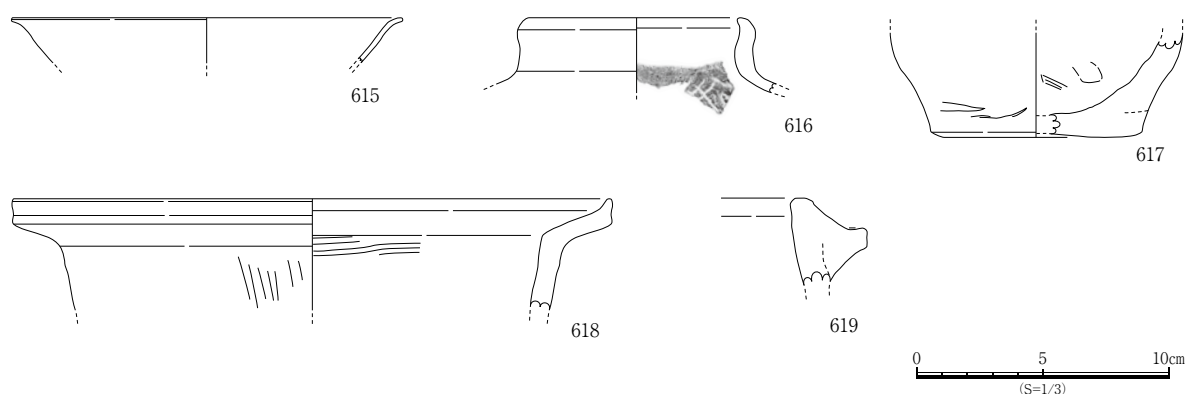


図4-230 SD136出土遺物実測図

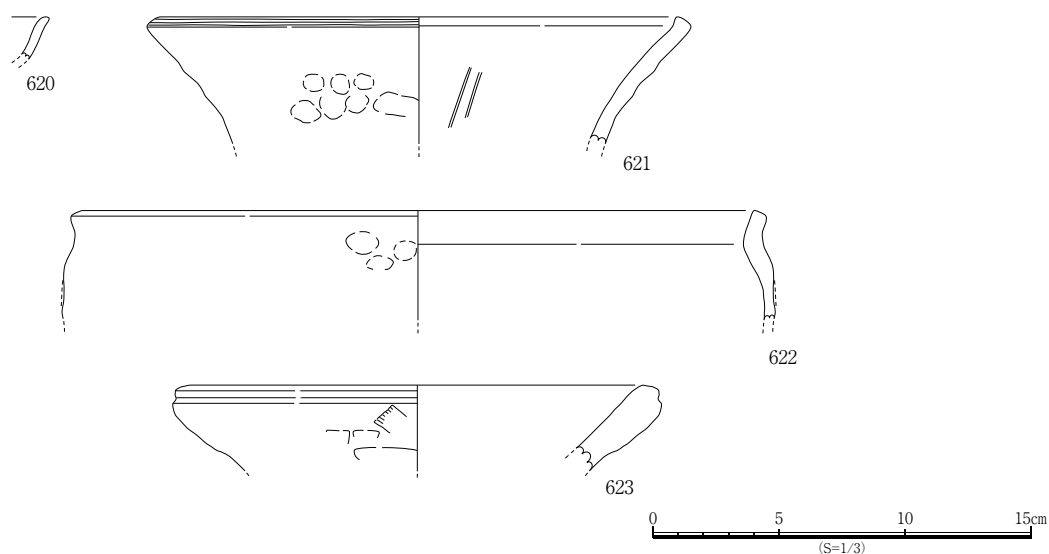


図4-231 SD137・138出土遺物実測図

は口縁部は外上方に開き端部は平坦面を呈する。外面はユビオサエが顕著で、内面には2条の条線が残る。622は口縁部は直立して短く伸び端部は平坦面を呈する。外面はユビオサエとナデ調整を施す。

SD138(図4-231)

調査区東部にあり、区画溝SD97の東側に位置する。確認延長は南北に約11.6m、幅50～55cm、深さ15～28cmを測り、断面形はU字状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。遺構は竪穴建物跡ST5を切り、SD97と同様に西側に曲がると考えられる。遺物は手づくね成形の土師器皿、土師質土器、瓦質土器、須恵器、弥生土器の細片が出土している。図示できたのは土師器甕(623)である。長胴甕の口縁部で、口唇部は平坦面を呈しナデ調整を施す。

SD139・140(図4-227・232)

調査区東部に位置する。調査区を縦断する溝で竪穴建物跡ST2、ST5、ST7を切る。検出時は1条の溝として検出したが、掘削を進めるなかで断面形態等から複数の溝跡が重複している可能性が認められたため、新たにSD番号を付した。確認延長は南北に39mを測り、南北とも調査区外に続く。幅は2.0～3.6m、深さは約24～42cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトと黒褐色(7.5YR3/1)シルトに褐灰色(7.5YR4/1)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており、弥生土器や瓦質土器、須恵器、青磁、国内産陶器などの細片も出土している。形になるものは少なく図示できたのは須恵器鉢(624)、瓦質土器鍋(625)、土師質土器釜(626)、チャートの剥片(627)である。624は口唇部は肥厚し、玉縁状を呈する。625は口縁部は直立して伸び、口唇部は強くナデ調整を施し、平坦面を呈する。内外面はナデ調整を施す。626は口縁下に粘土帯を巡らす。外面は叩き目残り、内面はハケとナデ調整を施す。627は上部に打痕が残る。

SD144(図4-233)

調査区北東隅に位置する。確認延長は南北約18.0m、幅80cm以上、深さ約25cmを測る。遺構掘方の西側部分のみの検出であるため、全体のプランについては不明である。埋土は1層：灰褐色(7.5YR4/2)シルト、2層：黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。遺物は土師質土器、瓦質土器、須恵器、国内産陶器、土師器碗などの細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

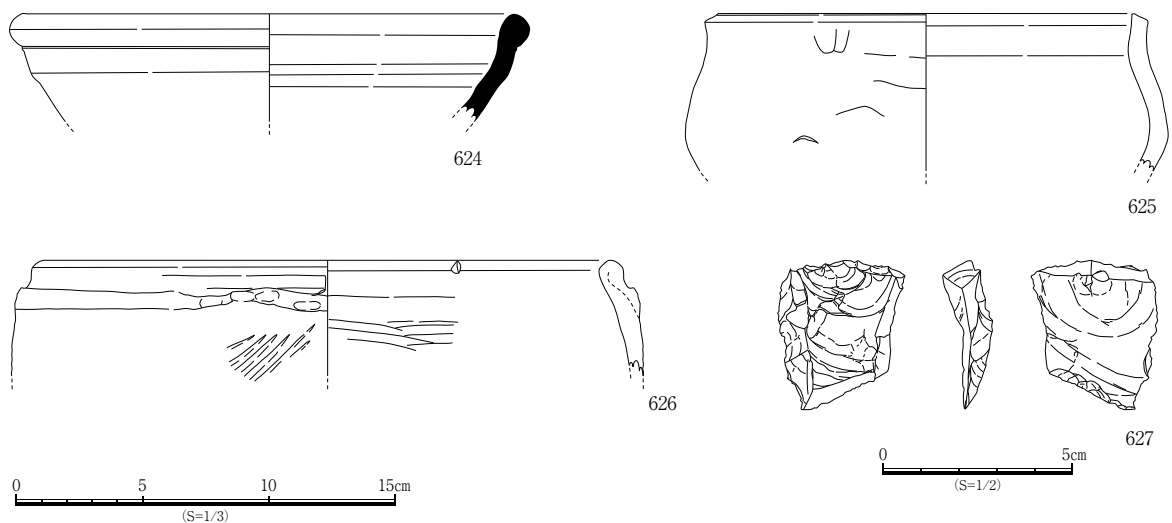


図4-232 SD139・140出土遺物実測図

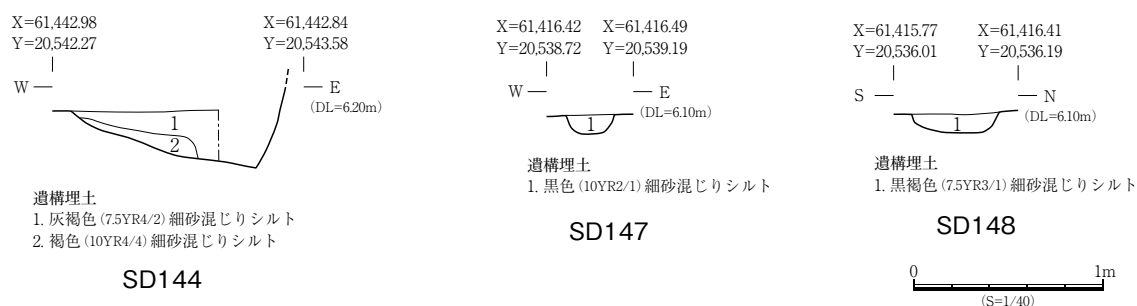


図4-233 SD144・147・148

SD147(図4-233)

調査区南東隅に位置する。確認延長は南北方向に約9.5m, 幅25~45cm, 深さ10~12cmを測る。遺構の南側は東西溝のSD148に接する。新旧関係は不明である。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトに黄褐色(10YR5/6)シルトをブロック状に含む。遺物は土師質土器細片と瓦器, 須恵器, 弥生土器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD148(図4-233)

調査区南東部にあり, SD147の南側に位置する。確認延長は東西に約4.8m, 幅約40cm, 深さ10cmを測る。遺構は中世ピットによって切られ, SK224を切る。東部はSD147に接するが, 新旧関係については不明である。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器, 瓦質土器, 弥生土器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

⑥ 柱穴

調査区では掘立柱建物跡や柵列に属さない柱穴が1,000個以上検出されている。調査裏全面において検出しているが, 特に南側に多く分布している。SD97 囲まれた区画とSD139・140の南西側を中心に分布している。これらの柱穴はその殆どから遺物が出土しており, その大半は土師質土器杯の細片である。これら柱穴は復元し得なかった掘立柱建物跡や柵列などに属するものも存在すると考えられる。

P38(図4-234)

調査区中央部北側, 北側から中央部にかけて圍繞する区画溝SD94・95の南方約0.8mに位置する。区画溝SD95・94と同じく圍繞すると考えられるSD125を切る。平面形は楕円形状で, 長軸0.65m, 短軸0.48m, 深さ約24cm, 断面形は逆台形状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は手づくね成形の皿(628~631)が出土している。628, 629, 631は手づくね成形で, 内外面はユビオサエとナデ調整, 口縁部は強いナデ調整によりやや外反する。630は内外面ユビオサエ, ナデ調整を施し, 口縁端部は平坦面を呈する。

P39(図4-234)

調査区北西部に位置する柱穴でSK158の南に位置する。平面形は楕円形状を呈し, 径は概ね20cm, 深さ約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器甕(634)が図示できた。長胴甕の口縁部でくの字状を呈し, 端部は上方に拡張する。外面はハケとナデ調整を施し, 内面はユビオサエとナデ調整がみられる。

P40(図4-234)

調査区南西部に位置する柱穴でSD113を切る。平面形は円形状を呈し、径は概ね30cm、深さ約20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は手づくね皿(632)が図示できた。手づくね成形で外面はユビオサエ、ナデ調整、内面は丁寧なナデ調整を施し、口縁部内外面は強いナデ調整を施す。

P41(図4-234)

調査区南西部にあり、柱穴でSD114の東側に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね20cm、深さ約45cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は青磁碗(633)が図示できた。口縁部はやや端反りで内面には陽刻文を施す。

P42(図4-235)

調査区中央部南側に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね30cm、深さは38cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は打製石包丁(653)が出土している。片刃で自然面を残す。側面は挟りがみられる。

P43(図4-234)

調査区北西部に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね20cm、深さは12cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は手づくね成形の皿(638)が図示できた。口縁部内外面は強いナデ調整を施す。

P44(図4-234)

調査区中央部北端に位置する。ST6のカマド上面を切る。平面形は円形状で径は概ね30cm、深さは20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器の皿(635)が図示できた。底部外面は回転ヘラ切り痕が残し、体部から口縁部は上方に開く。内外面はナデ調整を施す。

P45(図4-234)

調査区中央部にあり、SD94とSD97の間に位置する。平面形は楕円形状で径は概ね25cm、深さは10cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器の皿(636・637)が図示できた。ともに底部外面は回転糸切り痕が残し、体部から口縁部は上方に開く。内外面はナデ調整を施す。底部外面には板状の圧痕がみられる。

P46(図4-235)

調査区中央部南側にあり、ST8の南東隅と接する。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は弥生土器鉢(652)が図示できた。台付き鉢で外面はヘラミガキとハケ調整が施される。内面は丁寧なナデ調整である。

P47(図4-234)

調査区中央北側に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね30cm、深さは47cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器皿(639)が図示できた。底部外面に回転ヘラ切り痕と板状の圧痕がみられる。体部から口縁部は横方向に開く。

P48(図4-234)

調査区東部中央に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね15cm、深さは30cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は石製品叩石(648)が図示できた。砂岩性で両面に使用痕がみられる。

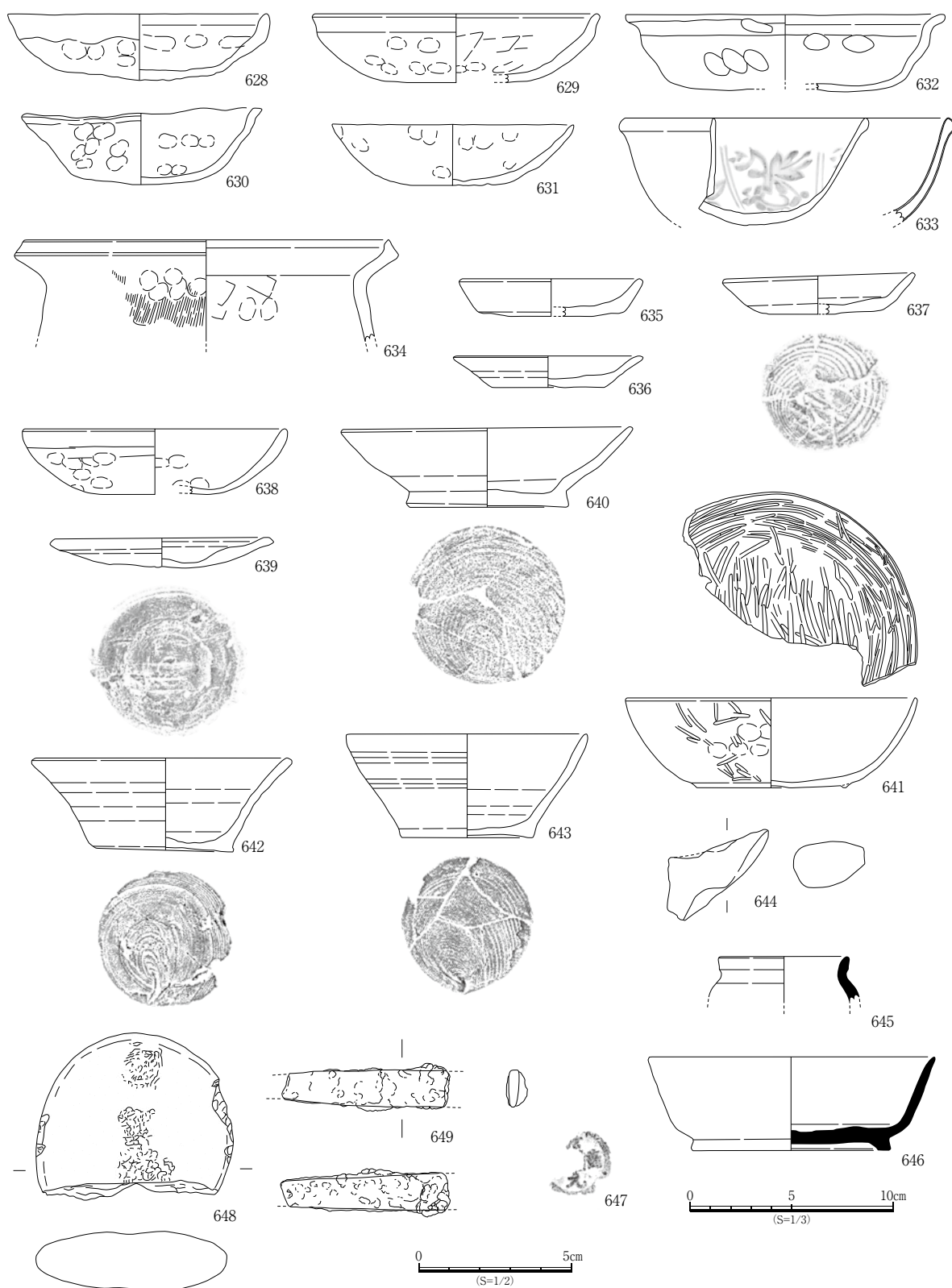


図4-234 ピット出土遺物実測図1

P49(図4-234)

調査区東部中央に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね25cm、深さは30cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は金属製品の刀子(649)が図示できた。

P50(図4-234)

調査区東部中央に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね20cm、深さは30cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は黒色土器碗(641)が図示できた。内面黒色処理し、断面三角形状の高台を貼付する。体部から口縁部にかけて内湾して伸びる。外面はヘラミガキとナデ調整、内面はヘラミガキを施す。

P51(図4-234)

調査区東部中央に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね20cmを測る。深さは29cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師器杯(640)が図示できた。底部は円盤状高台で回転糸切り痕が残る。体部から口縁部は外上方に開く。内外面はナデ調整を施す。

P52(図4-235)

調査区東部中央に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね30cm、測る。深さは30cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は備前焼播鉢(650)が図示できた。口縁端部は上方に拡張する。内面には9条の条痕が確認できる。

P53(図4-234)

調査区北東部に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね25cm、深さは19cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は甑の把手(644)が図示できた。

P54(図4-234)

調査区中央南東隅に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね20cm、深さは15cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は須恵器壺(645)が図示できた。小型の短頸壺で口縁部は直立して短く伸びる。内外面は回転ナデ調整を施す。

P55図4-234)

調査区中央南東隅に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね20cmを測る。深さは11cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器杯(642)が図示できた。底部外面には回転糸切り痕が残る、体部から口縁部は斜め上方に伸びる。

P56(図4-235)

調査区東部南側に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね25cm、深さは14cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は石製品石臼(654)が図示できた。上臼の一部で下部には細かい削りが施される。

P57(図4-235)

調査区東部南側に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね25cm、深さは9cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は651が図示できた。焜炉の一部と考えられるもので口縁端部は平坦面を呈し、外面にはハケ調整、内面にはナデ調整を施す。

P58(図4-234)

調査区南東隅あり、ST3の北東隅を切る。平面形は円形状を呈し径は概ね30cm、深さは15cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は土師質土器杯(643)が図示できた。底部外面には回

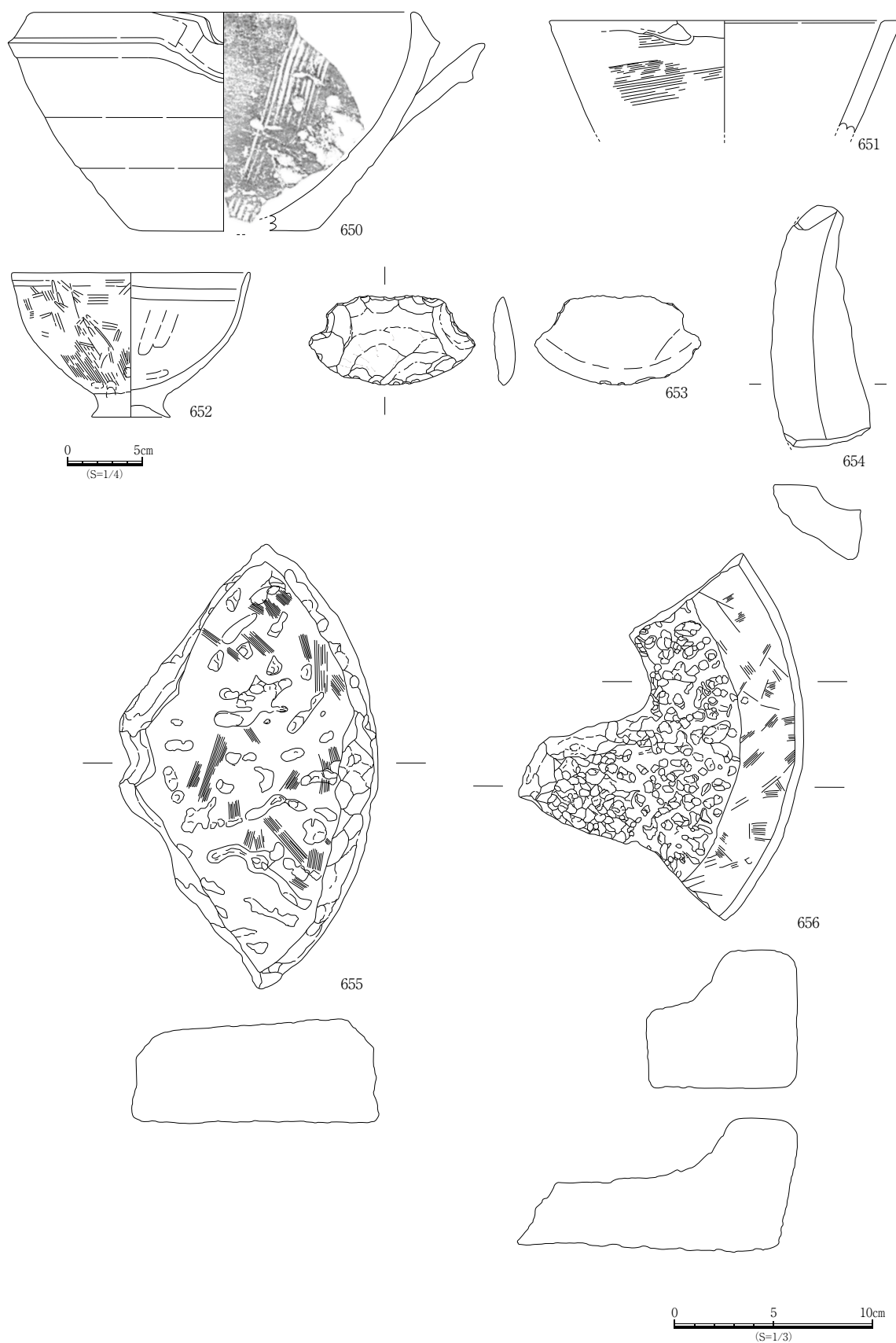


図4-235 ピット出土遺物実測図2

転系切り痕と切り離しの際の段差痕がみられる。体部から口縁部は斜め上方に伸びる。内外面は回転ナデ調整を施す

P59(図4-234)

調査区南東隅に位置する。平面形は円形状を呈し径は概ね18cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は須恵器杯(646)が図示できた。断面方形形状の高台を持ち、体部から口縁部は直線的に伸びる。底部内面はヨコ方向のナデ調整がみられる。

P60(図4-235)

調査区中央南端に位置する。遺構の約1/2は調査区外に伸びる。平面形は円形状を呈すると推測される。残存長は概ね29cm、深さは20cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物では石製品の石臼(655・656)が図示できた。

P61(図4-234)

調査区南東部に位置する。平面形は円形状を呈すると推測されるがSD151によって切られる。残存長は概ね25cm、深さは29cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。遺物は古銭(647)が図示できた。残存状態はよくなく、「元」が読み取れる。

⑦ 井戸

SE3(図4-236)

調査区中央北側にあり、調査区北側から中央部を縦横断するSD95の北側に位置する。遺構の西側は仮設用の畦(水路)があるため確認できなかった。平面形は円形から楕円形状を呈すると推定され、約10cm掘り下げると、長軸1.6m、短軸約1.2mを測る掘方を確認した。素掘りを呈し、約1m下まで掘り下げたが、それより下層は湧水のため確認することはできなかった。埋土は1層：細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで3cm大の円礫を含む、2層：黒褐色(7.5YR3/1)砂礫層である。

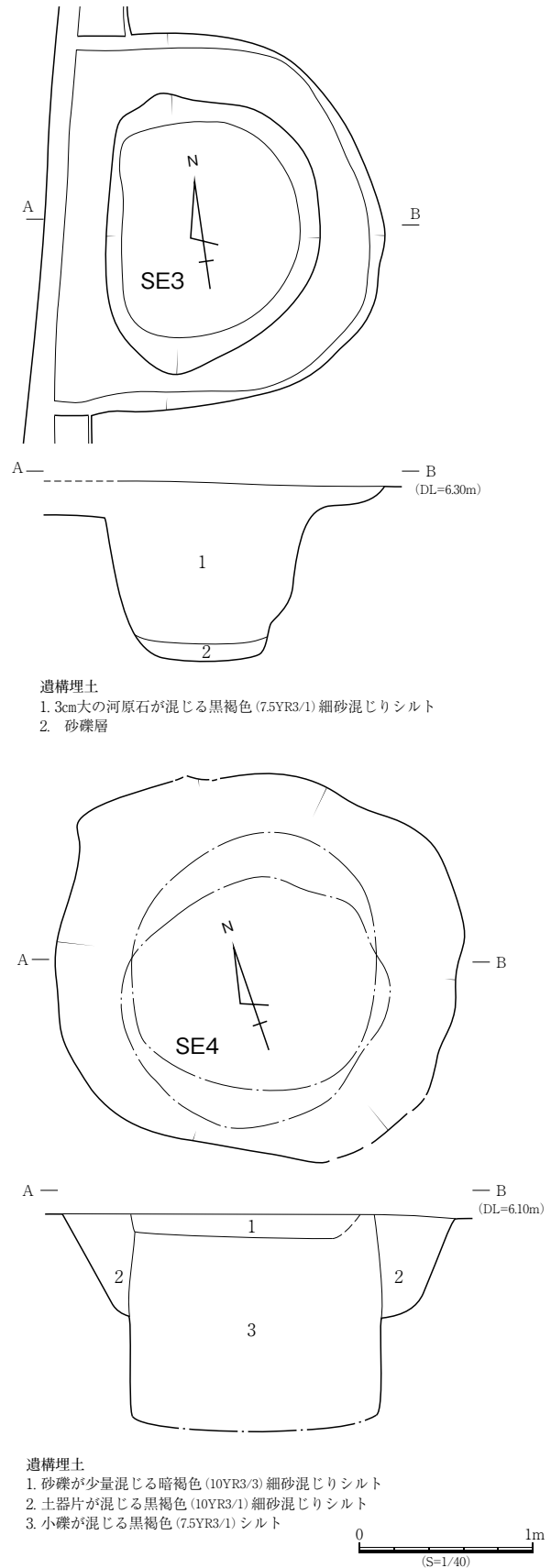


図4-236 SE3・4

SE4(図4-236)

調査区南東隅に位置する。素堀の井戸で検出面での大きさは長軸2.3m, 短軸2.1mの不整円形を呈する。上面はSK221によって切られている。検出面より60m掘り下げると、直径1.4mの概ね円形となる。遺構の深さは検出面から約1.2m下まで掘削したが、壁面の崩落が危惧されたことから、それより下層については機械掘削を併用し下層確認を実施した。遺構の埋土は土器片及び小～大礫を含む黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。遺物は土師質土器の細片などが出土しているが、図示できるものはなかった。

⑧ 性格不明遺構

調査区において4基の性格不明遺構を確認した。ここでは主要なものについて述べる。

SX23(図4-237・238)

調査区の中央部南側において検出した。ST8の西壁と接し、ST8を切る。平面形は不整円形で、長軸3.7m, 短軸3.2mを測る。深さは約60cmで断面形は播鉢状を呈する。遺構の埋土は1層：細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/1)シルトで土器片を含む。2層：黒褐色(7.5YR3/1)シルトに暗褐色(7.5YR3/4)粘質土をブロック状に含む。遺物は土師質土器片や弥生土器片が出土しており、その内青磁皿(657)が図示できた。657は稜花皿の口縁部で、口唇部には挟りがみられる。

⑨ 包含層出土遺物(図4-239)

包含層出土の遺物で図示できたものは、弥生土器甕(658・659), 青磁碗(660), 瀬戸天目碗(661), 土師器碗(662), 瓦質土器摺鉢(663)である。658は口縁部は「く」の字状で、口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き目が認められ、胴部にはハケ調整が施される。内面はハケとナデ調整がみられる。内面には粘土紐接合痕が認められる。659は甕の胴部から底部である。外面には叩き目が認められ、ハ

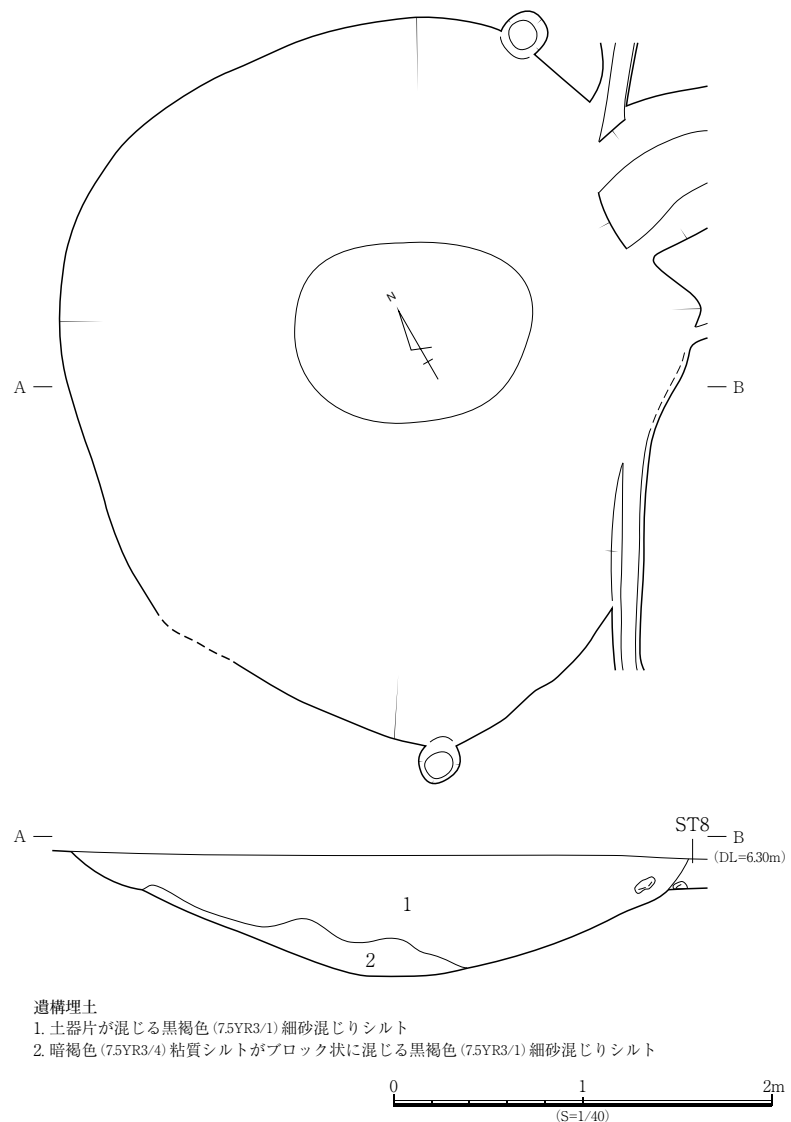


図4-237 SX23

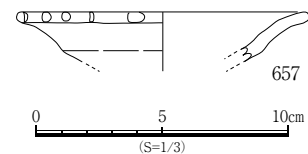


図4-238 SX23出土遺物実測図

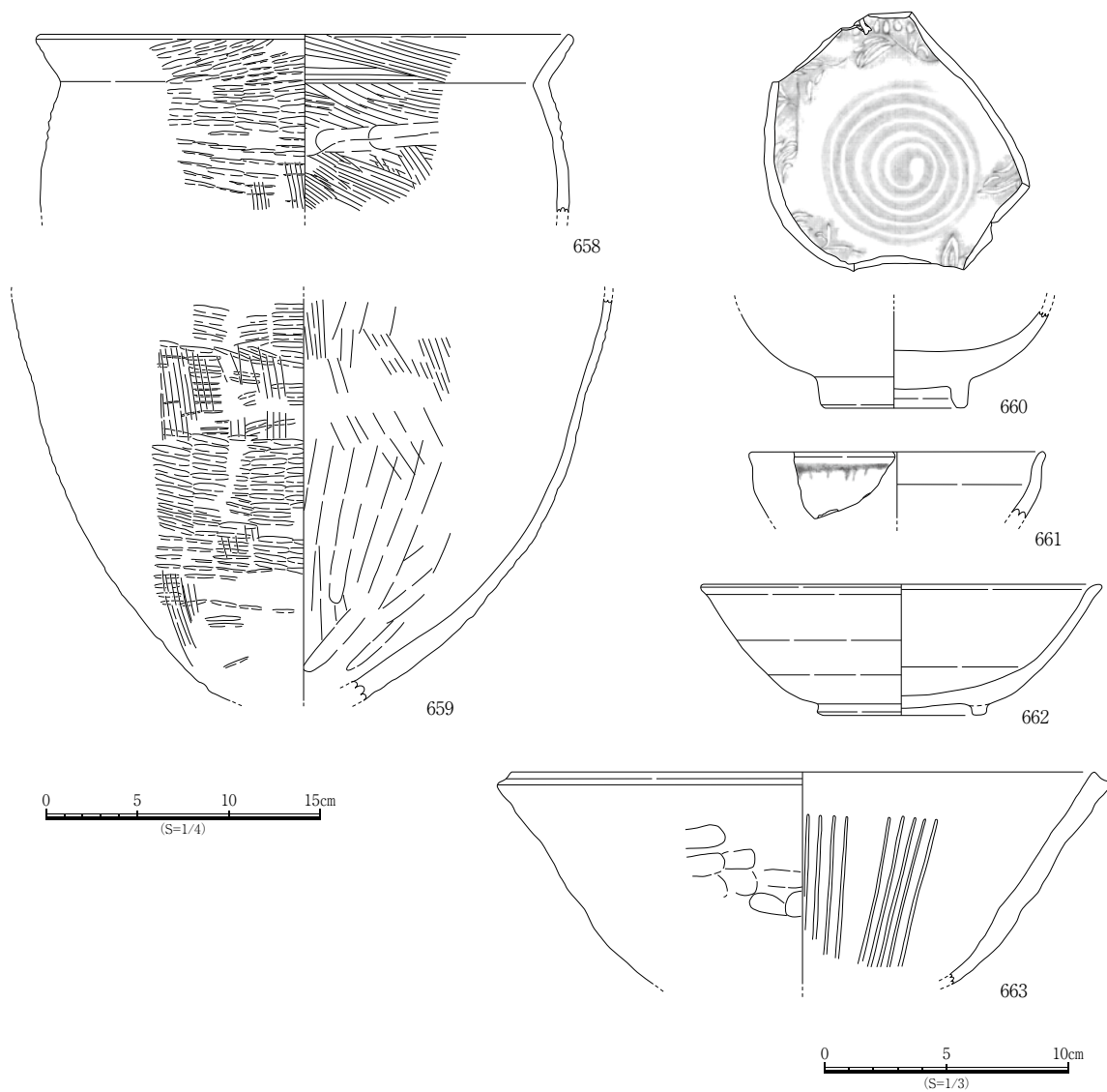


図4-239 包含層出土遺物実測図

ケとナデ調整が施される。内面はハケとユビナデによる調整がみられる。底部に近いほど強くナデを施す。660は高台内面まで施釉し、内面見込みには渦状、体部内面にも印刻文がみられる。661は口縁部片で褐色釉がかかる。662は断面方形状の高台を貼付する。体部から口縁部にかけて内湾し、端部は外反する。内外面はナデ調整を施す。663は瓦質の摺鉢で体部は外方に開き口縁端部は平坦面を呈する。外面はユビオサエとナデによる調整、内面には5条単位の条痕がみられる。

4. ⅢB－1区

(1) 調査区の概要と基本層序

① 調査区の概要

県道30号香北赤岡線に隣接する調査区で、ⅢB区の東端に位置する。発掘調査は平成22年度に実施された。調査面積は706㎡である。調査区内には住宅地の造成盛土があり、家屋の基礎部が残存していたが、遺構の残存状況は良く弥生時代終末から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、中世、近世に至る遺構と遺物を確認した。遺構は調査区全域で確認されており、検出された遺構は竪穴建物跡9軒、掘立柱建物跡4棟、柵列2列、土坑13基、溝10条、柱穴200個以上などである。

② 基本層序(図4-240)

調査区北壁で認められた基本層序は以下のとおりである。

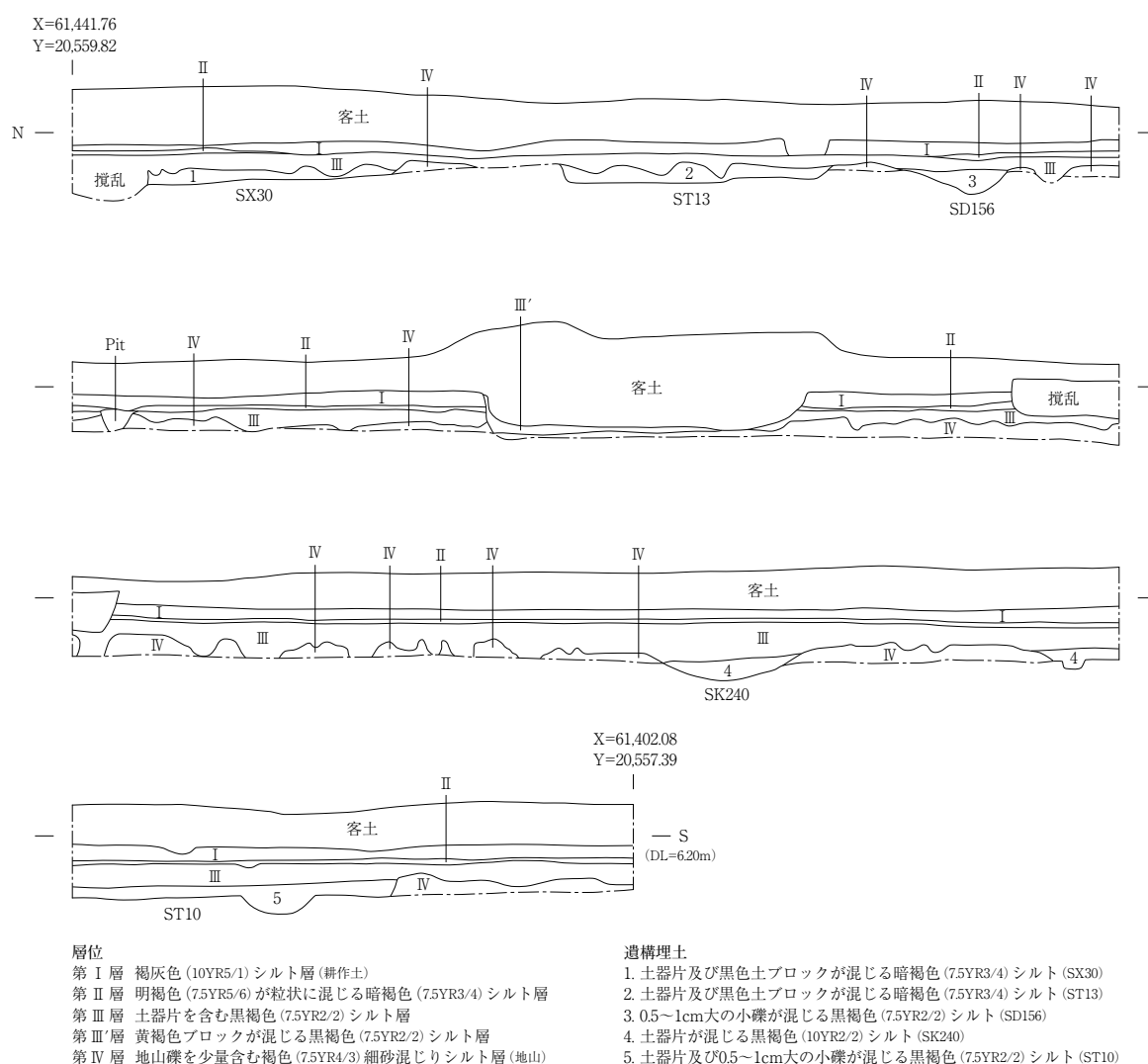


図4-240 調査区東壁セクション図

第Ⅰ層 小～中礫混じりの褐灰色(10YR5/1)シルト層(耕作土)

第Ⅱ層 明褐色が粒状に混じる暗褐色(7.5YR3/4)シルト質中粒砂層

第Ⅲ層 土器片を含む小～中礫混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルト層

第Ⅲ'層 黄褐色ブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト層

第Ⅳ層 地山礫少量含む褐色(7.5YR4/3)細砂混じりシルト層(地山)

(2) 検出遺構と遺物

① 竪穴建物跡

ST9(図4-241)

ST9は調査区の南東隅において検出した竪穴建物跡で、北西部のみを確認した。南北1.95m以上、東西3.5m以上を測り、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約10cmであり、埋土は黒褐色細粒混じりシルトに1～3cm大の小礫及び土器片を含む。北壁側からは壁溝の一部を検出した。調査区南壁に接して楕円形状のピットを確認したが、遺構に伴うものかは不明である。支柱穴などは検出できなかった。

出土遺物では図示できるものはなかった。

ST10(図4-242・243)

調査区南東部にあり、ST9の北側約1.0mにおいて検出した竪穴建物跡である。

遺構の西側半分を確認した。南北約4.5m、東西2.7m以上を測り、平面形は隅丸方形形状を呈すると考えられる。検出面からの深さは約16cmであり、埋土は1～5cm大の小礫を含む黒褐色(7.5YR3/2)シルトと細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。床面ではピット16基を検出した。ST10に伴わないものも含んでいると考えられる。P1は中央ピットである。床面の中央よりやや南側において検出した。長軸90cm以上、短軸75cmを測る楕円形状を呈すると考えられるもので、床面からの深さは18～35cmで、中央が落ち込む。埋土は小礫や土器細片を含む黒色(7.5YR2/1)シルトと黒褐色(10YR2/3)シルトである。支柱穴は3基を検出した。ST10_P2, ST10_P3, ST10_P4である。直径は概ね30cmを測る円形で床面からの深さは10cm前後である。

図示できた遺物は弥生土器壺、甕、鉢、土製品、鉄製品、石製品等である。664は壺である。口縁部は上方に直立して伸び、口唇部はやや平坦面に近い。外面は頸部まで叩き目調整が認められ、ナデとハケ調整が施される。内面は細かいハケ調整と丁寧なナデ調整が施される。665は壺の口縁部で、「く」の字状に外反し、端部は丸くおさめる。外面は頸部まで叩き目が認められる。内面はハケとナデ調整を施す。666は壺の体部から底部で、外面には叩き目が認められ、ハケとナデ調整を施す。内面は細かいハケ調整である。667も体部から底部にかけて残存している。外面はハケ、ミガキ調整が認めら

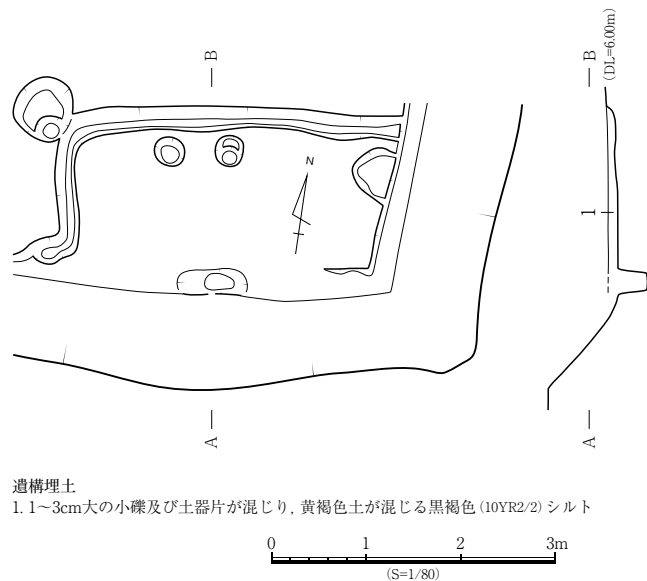


図4-241 ST9

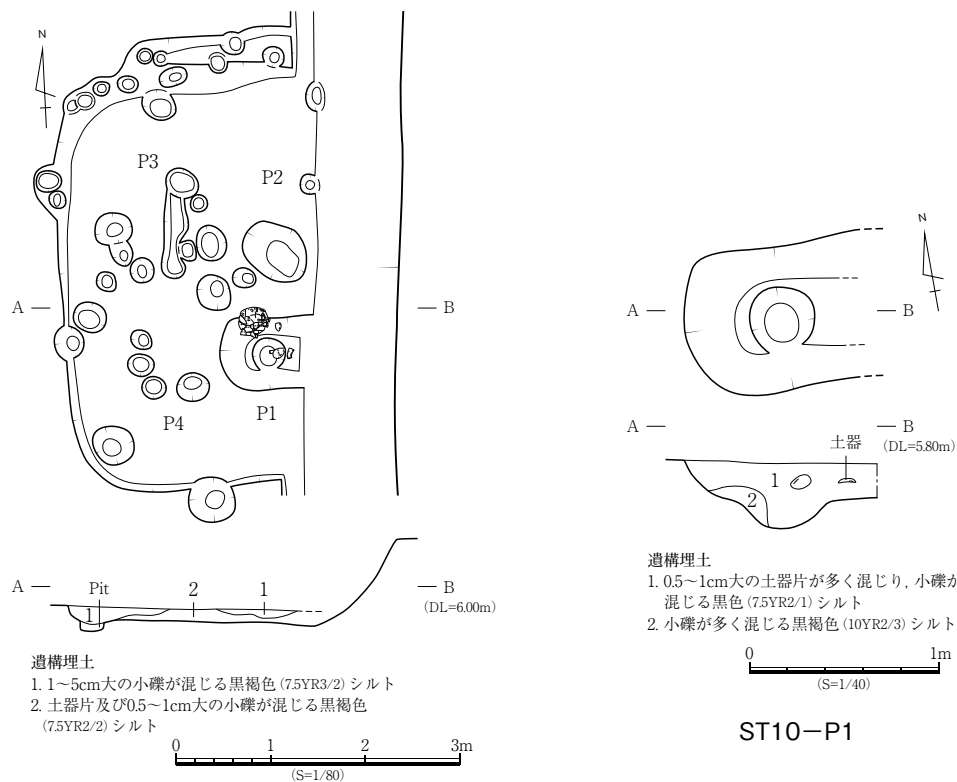


図4-242 ST10

れ、内面にはハケ調整が施される。668は口縁部は外反し、口唇部は丸くおさめる。胴部は球胴状を呈し底部は丸底である。外面は頸部まで叩き目が認められ、ハケとナデ調整を施す。内面はハケ調整、内底部はナデ調整である。669は壺の口縁部である。外上方に直線的に伸び、口唇部は丸くおさめる。外面はハケ調整とヘラミガキ調整を施す。内面は摩耗しているため、不明瞭である。670は甕で口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。外面は頸部まで叩き目が認められ、ハケとナデ調整を施す。内面はハケとナデ調整である。器壁は薄い。671も口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面をなし、やや摘み出す。外面は口縁部間で叩き目が認められ、胴部にはハケ調整、頸部にはユビオサエが残る。内面は細かい斜位方向と縦方向のハケ調整を施す。672は甕の頸部から胴部である。外面は叩き目が認められ、ハケ調整が施される。内面は頸部はハケ調整、胴部はユビナデが認められる。673は鉢である。口唇部は丸くおさめる。外面は底部近くに叩き目調整が認められ、他はナデ調整を施す。内面はナデ調整である。674は鉢の口縁部である。口唇部は平坦面を呈する。外面は下半に叩き目が薄く残り、口縁部は強いナデ調整を施す。内面は摩耗している。676は土製品の土玉で床面より出土している。ほぼ中央に孔径4mmの穿孔を施す。677は支脚である。手づくね成形で、中空、上部はハの字状に開き端部は平坦面を呈する。外面はユビナデ、ユビオサエが顕著で一部ハケ調整を施す。内面はユビオサエとハケ調整である。675は移動式かまどの一部と考えられる。外面はハケとナデ調整、一部ヘラミガキが施される。内面はハケとユビナデ調整が認められる。上面からの流れ込みと考えられる。678は鉄鏝である。有茎式である。679は楕円状を呈した石で、両側面は挟り状を呈する。石錘の可能性が考えられる。

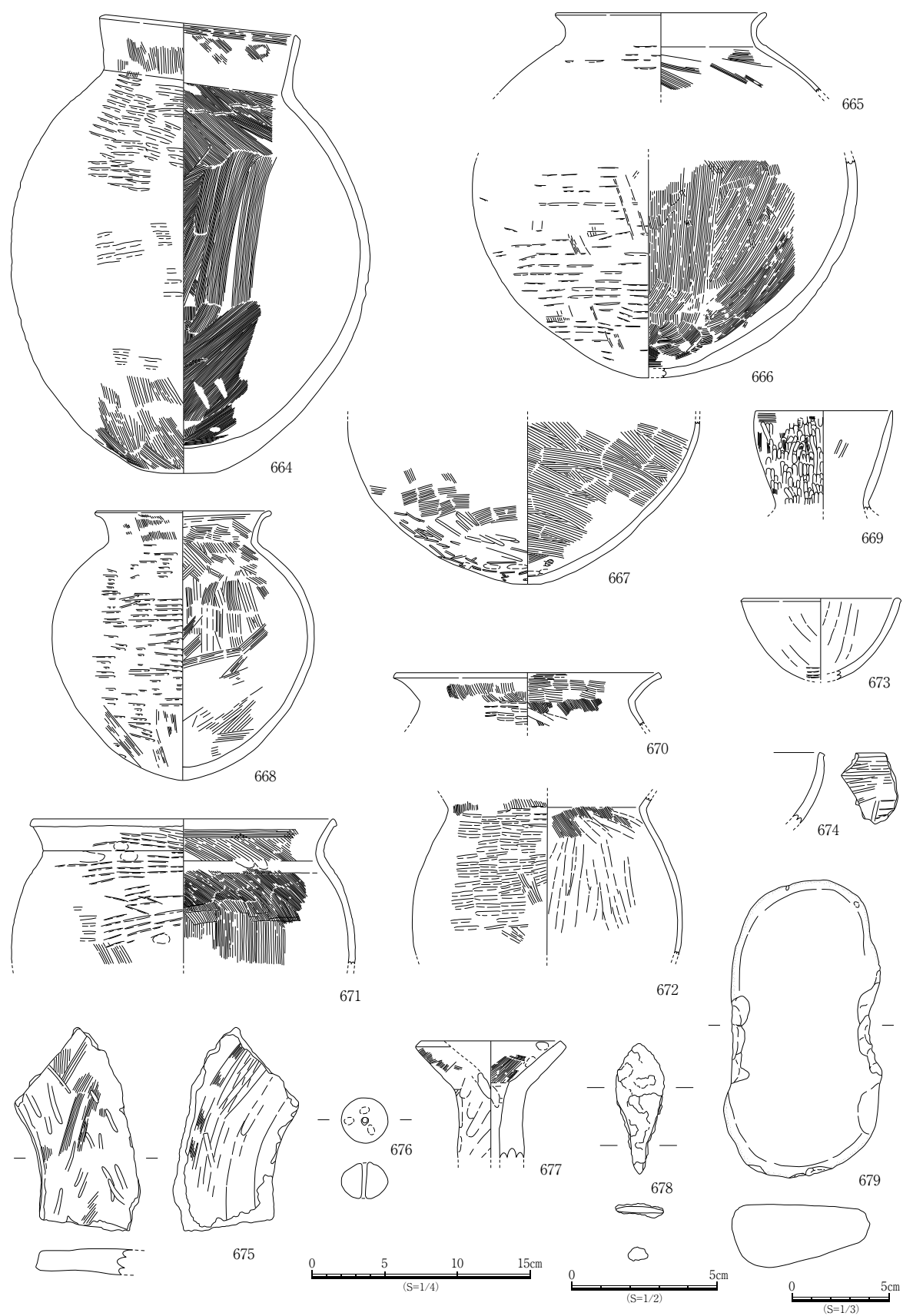


図4-243 ST10出土遺物実測図

ST11(図4-244・245)

調査区西南部隅より検出した竪穴建物跡である。遺構の西側は攪乱のため検出することはできなかった。北側はSK247によって切られている。南北4.8m, 東西3.8m以上を測り, 平面形は隅丸方形状を呈する。竪穴建物跡の南側にはベッド状の高まりを伴う。遺構検出面から床面までの深さは約28~36cmであり, 主な埋土は細砂混じりの極暗褐色(7.5YR2/3)シルトと小礫を含む黒褐色(7.5YR2/2)シルト, 黒色(7.5YR2/1)シルトが混ざる土層である。床面ではピット3基を検出した。SK1は長軸約1m, 短軸0.45mを測る楕円形状を呈する。床面検出面からの深さは約15cmであり, 埋土は5~10cm大の小礫を含む黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。

図示できた遺物は弥生土器壺, 甕, 鉢, 高杯, 石製品, 須恵器杯である。須恵器杯は北側に接したSK247からの出土である。680は壺の口縁部で端部は剥離している。外面はハケ調整, 内面はハケとナデ調整を施す。681は甕である。口縁部は「く」の字状で, 口唇部は平坦面を呈する。頸部まで叩き目が認められ, 口縁部はナデ調整を施す。内面はハケ調整である。682は甕である。口縁部は「く」の

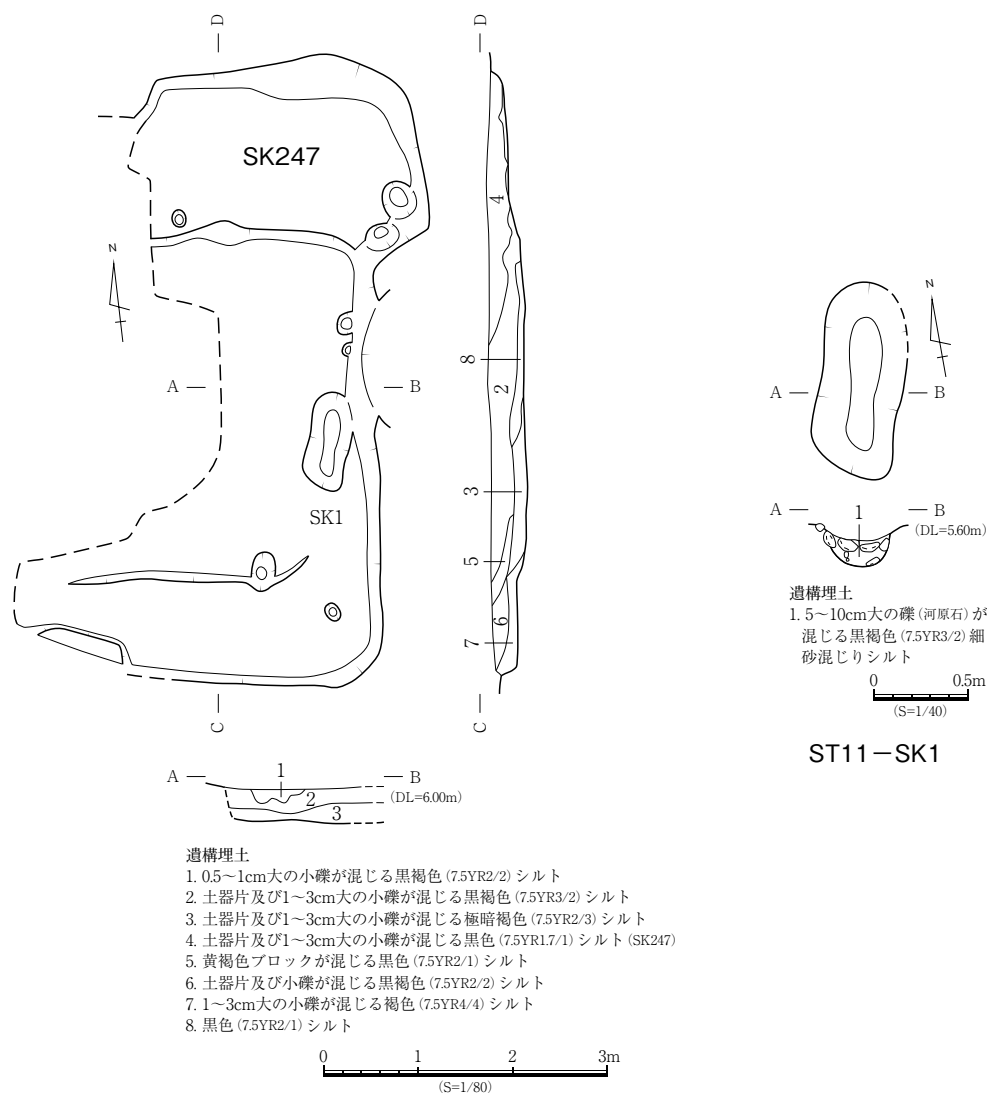


図4-244 ST11 SK247

字状で、口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き目が認められ、ハケ調整を施す。内面はハケ調整とユビナデである。683は鉢である。口唇部は平坦面を呈する。外面は全面に叩き目が認められ、底部はナデ調整を施す。内面はヘラミガキ、下部内面にはヘラケズリとナデ調整を施す。686は鉢である。底部は凸状で、口唇部は丸くおさめる。外面は底部はヘラケズリとナデ調整、口縁部は強いナデ調整を施す。内面はナデ調整である。684は鉢である。底部は平底で、口唇部は丸くおさめる。外面は全面に叩き目が認められ、体部はヘラケズリとナデ調整である。内面はハケとナデ調整、内底部はユビナデを施す。687は鉢である。平底であり、口唇部は丸くおさめる。外面はユビオサエとナデ調整を施す。底部外面にはユビオサエが顕著である。内面はハケとナデ調整である。685は鉢である。ST11_SK1より出土している。底部は平底で、口唇部は平坦面を呈する。外面はナデ調整を施し、内面はハケ調整である。688はミニチュア土器である。頸部で屈曲し、口縁部は外上方に短く伸びる。内外面にはユビオサエ、ユビナデ調整を施す。689は脚付き鉢の底部と考えられる、脚部との接合部はユビオサエを施し、内面はユビナデが認められる。690は脚付き鉢と考えられる。外面は脚部はヘ

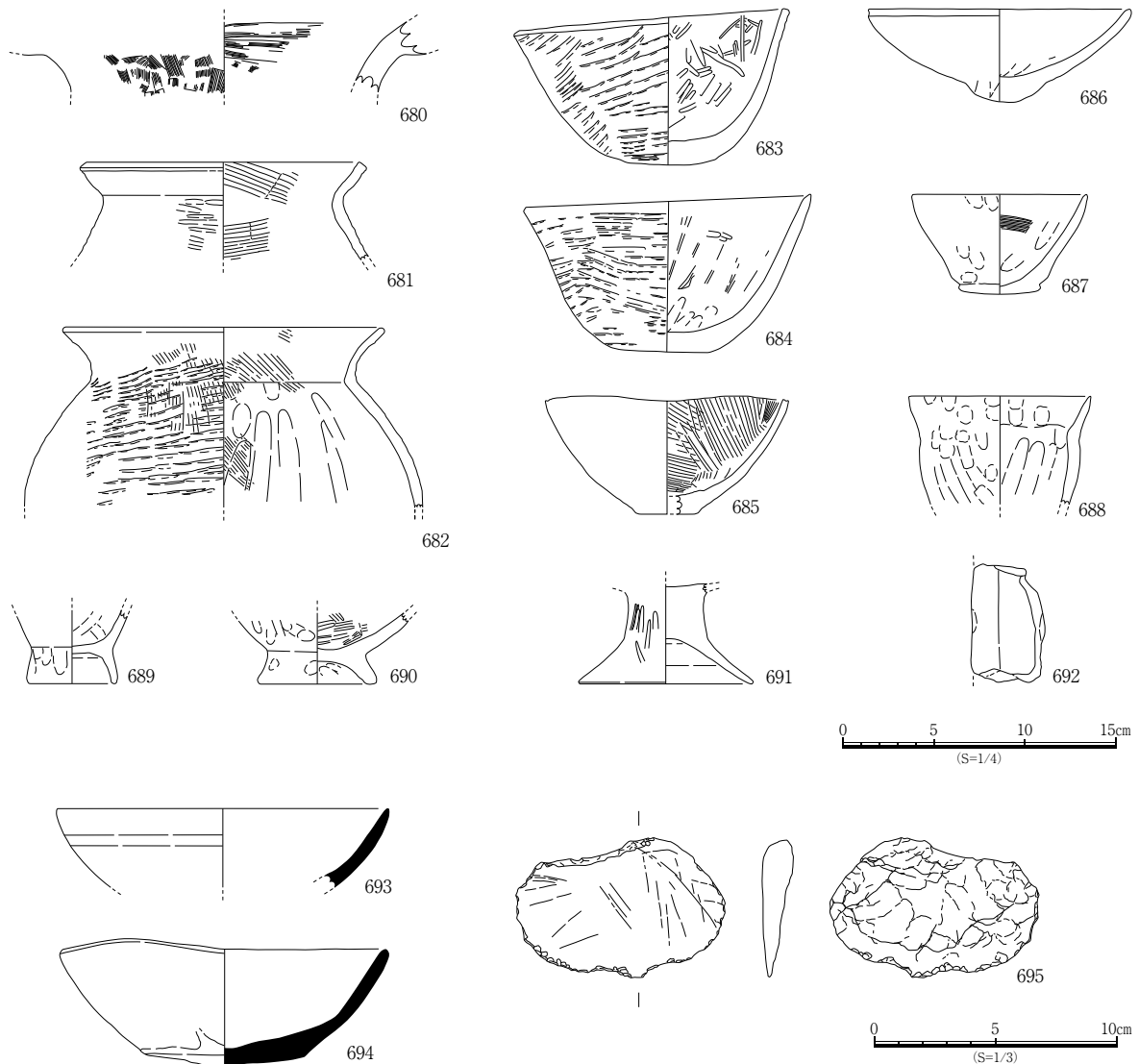


図4-245 ST11 SK247出土遺物実測図

ラケズリとユビナデ調整を施す。内面は細かいヘラミガキが認められる。691は高杯の脚部である。外面はヘラ磨きとナデ調整を施す。692は支脚の一部と考えられる。693は須恵器杯の口縁部で、口唇部は丸くおさめる。内外面は回転ナデ調整を施す。694は須恵器の杯である。平底で、体部から口縁部は外方状に伸び、口唇部は丸くおさめる。内外面は回転ナデ調整を施す。内底部は中央部はやや凹み、口縁部には歪みがみられる。695は砂岩製の打製石包丁と考えられる。片面は自然面を残す。側面には挟りなどはみられず、未成品の可能性も考えられるものである。

ST12(図4-246・247)

調査区の中央北部において検出した竪穴建物跡である。中央部を南北方向にSD156によって切られる。北東部から北西部及び、西壁については明確な肩部を検出することはできなかった。南北に約3.9m以上、東西約4.8m(推定)を測り、平面形は隅丸方形状を呈する。検出面から床面までの深さは約10cmであり、埋土は細砂混じりの暗褐色(7.5YR3/3)シルトに3cm大の小礫と土器片を含むである。床面ではピット9基を確認した。ST12に伴わないものも含んでいると考えられる。主柱穴は3基を検出した。ST12_P1, ST12_P2, ST12_P3である。直径は概ね20cm前後を測る円形で床面からの深さは39cm～55cmである。

図示できた遺物は弥生土器壺、甕、高杯、鉢などである。696は壺の口縁部である。口縁部は大きく開き、口唇部は平坦面を呈する。口唇部から口縁部外面はナデ調整と縦方向のハケ調整を施す。内面はナデ調整である。697は壺の底部で、平底を呈する。外面はタテ方向のハケ調整、内底面にはユビナデにより調整が認められる。696と同一個体と考えられる。698は甕の口縁部から胴部である。口縁部は「く」の字状で、口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き目が認められる。内面は口縁部はヨコ方向と斜位方向のハケ調整、頸部から胴部は縦方向のハケ調整を施す。699は甕である。口縁部は「く」の字状で、口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き目が認められる。内面は口縁部から頸部にかけて斜位方向のハケとユビナデによる調整を施し、胴部には縦方向のハケ調整がみられる。700は甕である。底部から頸部まで残存する。外面は叩き目が頸部まで認められ、ハケ調整を施す。内面はハケとナデ調整である。胴部内面には粘土紐接合痕が認められる。701は甕である。胴部は球胴状を呈し、口縁部は「く」の字状で口唇部はナデ調整によりやや平坦面を呈する。口縁部は一部歪みがみられる。外面は頸部まで叩き目が認められ、ハケ調整を施す。底部外面はヘラケズリを施す。口縁部は縦方向のハケ調整とユビオサエが認められる。内面は口縁部はヨコ方向のハケ調整、頸部から底部にかけては

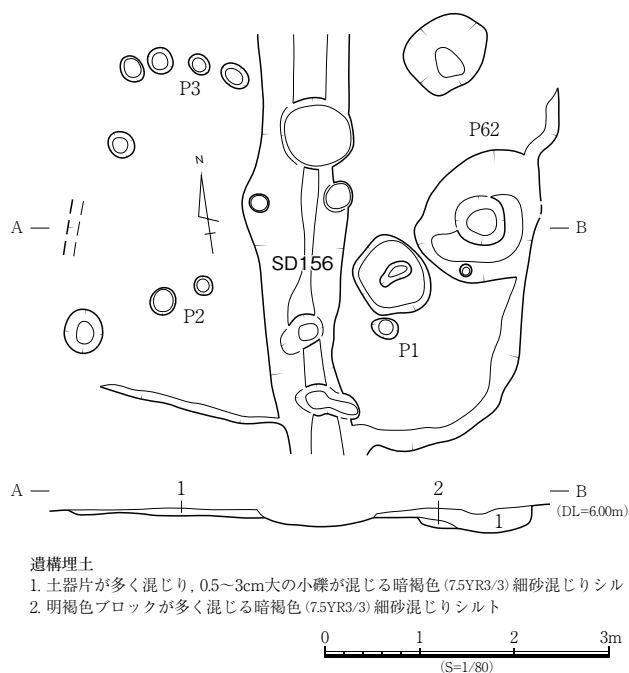


図4-246 ST12

4. III B - 1 区 (2) 検出遺構と遺物

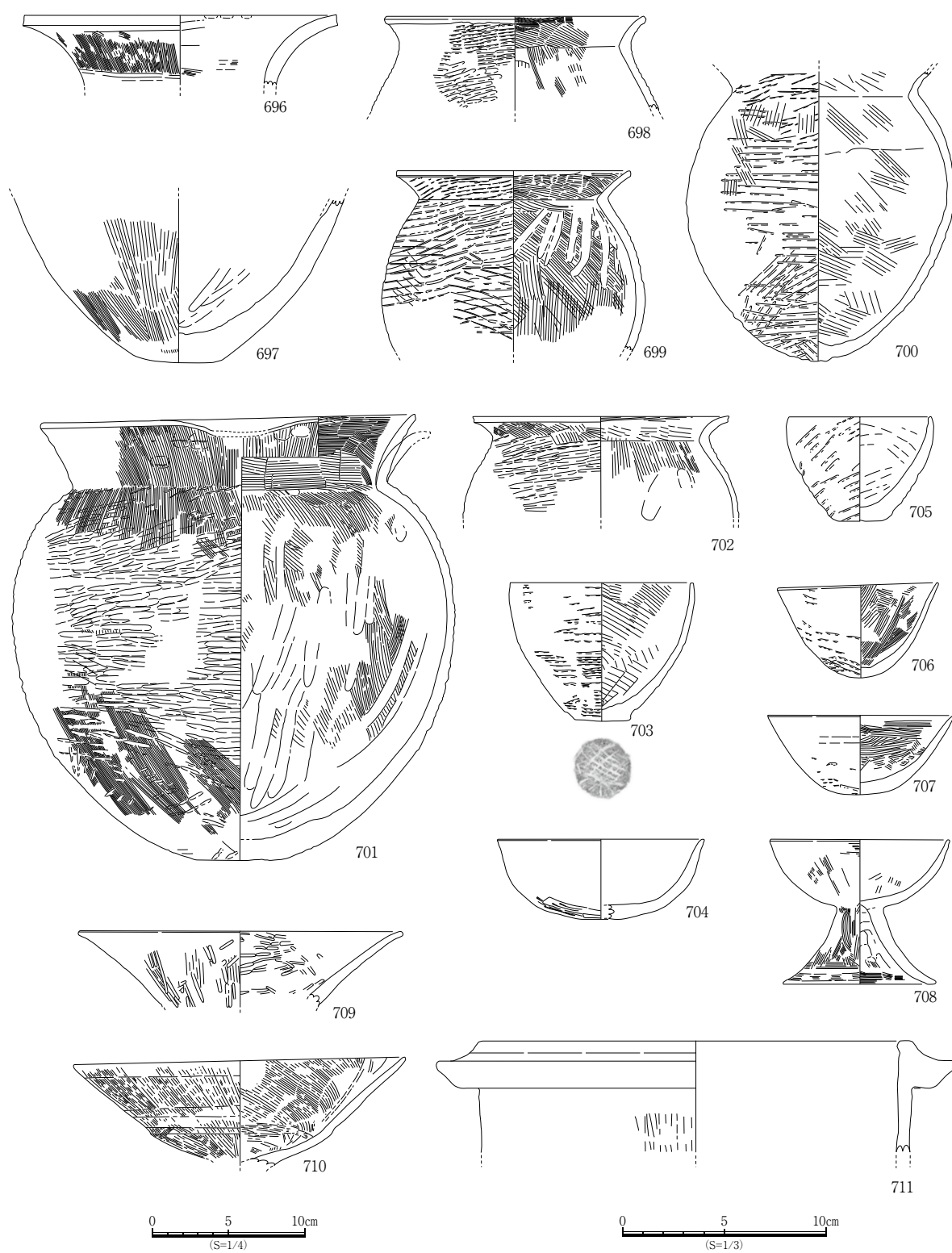


図4-247 ST12出土遺物実測図

ハケとユビナデによる調整が施されている。702 も甕である。口縁部は「く」の字状で、口唇部は浅い凹面を呈する。外面は口縁部途中まで叩き目が認められ、口縁部外面にはハケ調整を施す。内面は口縁部から頸部はハケ調整、胴部はナデ調整である。705 は鉢である。平底で口縁部はやや内湾する。外面は全体に叩き目が認められ、内面はハケ調整と思われる単位が確認できる。内底部はユビナデを施す。703 は鉢である。底部は平底で、口縁部はやや内湾する。外面は全面に叩き目が認められ、底部は格子叩き目が残る。内面は斜位方向のハケ調整を施す。706 は鉢である。底部は丸みを持ち、口縁部は外上方に開く。口唇部は丸くおさめる。外面は全面に叩き目が認められ、口唇部はナデ調整を施す。内面はヨコ方向と縦方向のハケ調整である。707 は鉢である。口縁部は外上方に開き、口唇部は丸くおさめる。外面は底部には叩き目が認められ、口縁部は叩き目の後ナデ調整を施す。内面は口縁部から底部近くまでヨコ方向と斜位方向のハケを施し、内底部はナデ調整である。704 は鉢である。外面は底部はヘラケズリ、口縁部はナデ調整を施す。内面は摩耗のため調整等是不明瞭である。708 は高杯である。杯部は内湾するタイプで、口唇部は丸くおさめる。外面はハケとナデ調整を施す。内面はナデ調整である。脚部はハの字状に開き裾端部は平坦面を呈する。外面は縦方向のハケ調整で、裾部はナデ調整を施す。内面はヘラケズリとユビナデ、裾部内面はハケ調整である。709 は高杯の杯部口縁部である。外方に開き、口唇部は丸くおさめる。外面はハケ調整とミガキが認められる。内面はヘラミガキが施される。710 は高杯の杯部である。口縁部は外上方に開き、途中段部を持つ。口唇部は丸くおさめる。外面は縦方向のハケ調整で、段部はヨコ方向のナデ調整を施す。内面は斜位方向と縦方向のハケ調整が内底部までみられる。711 は土師質土器の羽釜である。口唇部は平坦面を呈し、鋳が廻る。外面は鋳部分はナデ調整を施し、胴部はタテ方向のハケ調整が認められる。内面は口縁部はヘラケズリとナデ調整を施す。搬入品と考えられるもので、上面遺構からの流れ込みである。

ST13(図4-248~250)

調査区北東部にあり、ST12の北側に隣接する竪穴建物跡である。ST12と同じく中央部をSD156によって切られ、南東部の壁側も同遺構に切られている。また、調査前は家屋が建っており、それに伴う部分的な掘削を受けていた。遺構の北東部は調査区外に続くと考えられる。長軸 4.75m 以上、短軸 4.45m を測り、平面形は隅丸方形状を呈する。四隅にはベツト状遺構を伴う。遺構検出面から床面までの深さは約 16 ~ 23 cm であり、主な埋土は極暗褐色(7.5YR2/3)シルトと暗褐色細砂混じりシルトに明黄色ブロックを含む土層である。低床面でピットと土坑1基を検出

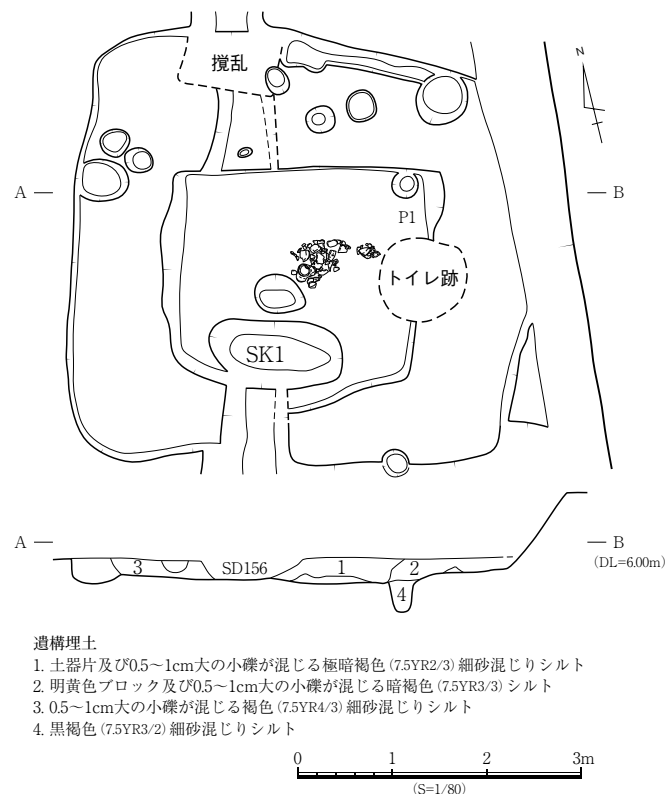


図4-248 ST13

した。SK1 は中央ピットと考えられる土坑で、床面の中央南部において確認した。長軸 1.4m, 短軸 0.74m の楕円形であり、床面からの深さは約 10cm である。埋土は黒褐色シルトである。支柱穴は低床部の北東隅で 1 基(P1)を検出した。直径約 30cm の円形で低床面からの深さは 32cm である。

図示できた遺物は弥生土器壺, 甕, 鉢, 高杯, ミニチュア土器などである。712 は壺の口縁部である。複合口縁で、口唇部には刻目が認められる。外面はヘラミガキとナデ調整を施す。内面はナデ調整である。713 も壺の口縁部である。口縁部は上方に短く開き、口唇部は丸くおさめる。外面は縦方向のハケ調整が認められ、内面は口縁部はハケとナデ調整、頸部はユビナデである。714 は壺の口縁部である。口縁部は外反気味に開き、口唇部は平坦面をなし、浅い刻目が認められる。外面は上部はヘラミガキとナデ調整、頸部近くはハケ調整を施す。内面はハケとナデ調整である。715 は広口壺で、口縁部は外反し口唇部は平坦面を呈する。外面は細かいハケとナデ調整が認められる。内面は口縁部はナデ調整、頸部から胴部はハケとユビナデにより調整が認められる。716 は壺の胴部から底部である。外面は叩き目が認められ、ハケとナデ調整を施す。内面はハケとユビナデによる調整である。胴部外面には煤が付着する。717 は壺の胴部から底部で、丸底状を呈する。外面は叩き目が認められ、縦方向のハケ調整を施す。内面はハケ調整で、底部近くはユビナデがみられる。718 は壺の胴部から底部と考えられる。底部は丸底で、器壁は薄い。外面はタテ方向のハケ調整を施し、内面は底部近くはヘラケズリ、胴部にはユビオサエとナデ調整が認められる。721 は甕である。口縁部はくの字状に外反し、口唇部は丸くおさめる。外面は摩耗のため調整等は不明瞭であるが、頸部には一部ヘラケズリによる調整が認められる。内面は口縁部はナデ調整、胴部はユビオサエとハケ調整がみられる。719 は甕である。口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部まで叩き目が認められる。胴部下半は摩耗している。内面は口縁部はヨコ方向のハケ調整、頸部から胴部にかけてはユビオサエとナデ調整を施す。720 は甕である。口縁部は「く」の字状に強く外反し、口唇部は丸くおさめる。外面は胴部上半まで叩き目が認められ、頸部から口縁部はナデ調整を施す。内面はナデ調整である。722 は甕である。口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。外面は頸部より下半は摩耗しているが、口縁部には叩き目が認められる。口縁部内面は細かいハケ調整、頸部内面にはナデ調整を施す。723 は甕である。口縁部は「く」の字状で口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き目が認められ、ハケ調整を施す。内面では口縁部はハケ調整、頸部はヘラケズリにより調整がみられる。724 は甕の口縁部片である。口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。内外面はナデ調整である。725 は鉢である。外面には叩き目が認められ、ナデにより調整を施す。内底部にはヘラ状のナデ調整がみられる。726 は鉢の底部である。底部外面まで叩き目が認められる。内面はユビナデを施す。727 は鉢である。底部は欠損している。口縁部は内湾し、口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部間で叩き目が認められ、ハケ調整を施す。内面は斜位方向のハケとナデによる調整を施す。728 は鉢の口縁部で底部は欠損している。口唇部は丸くおさめる。外面は摩耗のため調整は不明瞭であるが、一部叩き目が認められる。内面はハケとヘラミガキによる調整を施す。729 は鉢である。口縁部は外上方に伸び、口唇部は丸くおさめる。外面は全面に叩き目が認められ、内面にはハケ調整と内底面にはユビナデによる調整がみられる。730 は鉢である。口縁部は外上方に伸び、口唇部は丸くおさめる。外面にはハケによる調整、内面にはユビオサエとナデ調整がみられる。733 は高杯の脚部と考えられる。外面はヘラミガキと端部にはナデ調整を施す。内面はナデ調整である。732 は高杯の脚部である。杯部は欠損している。外面はヘラ状のケズリとヘラミガキによる調整、内面にはハケ調整とユビオ

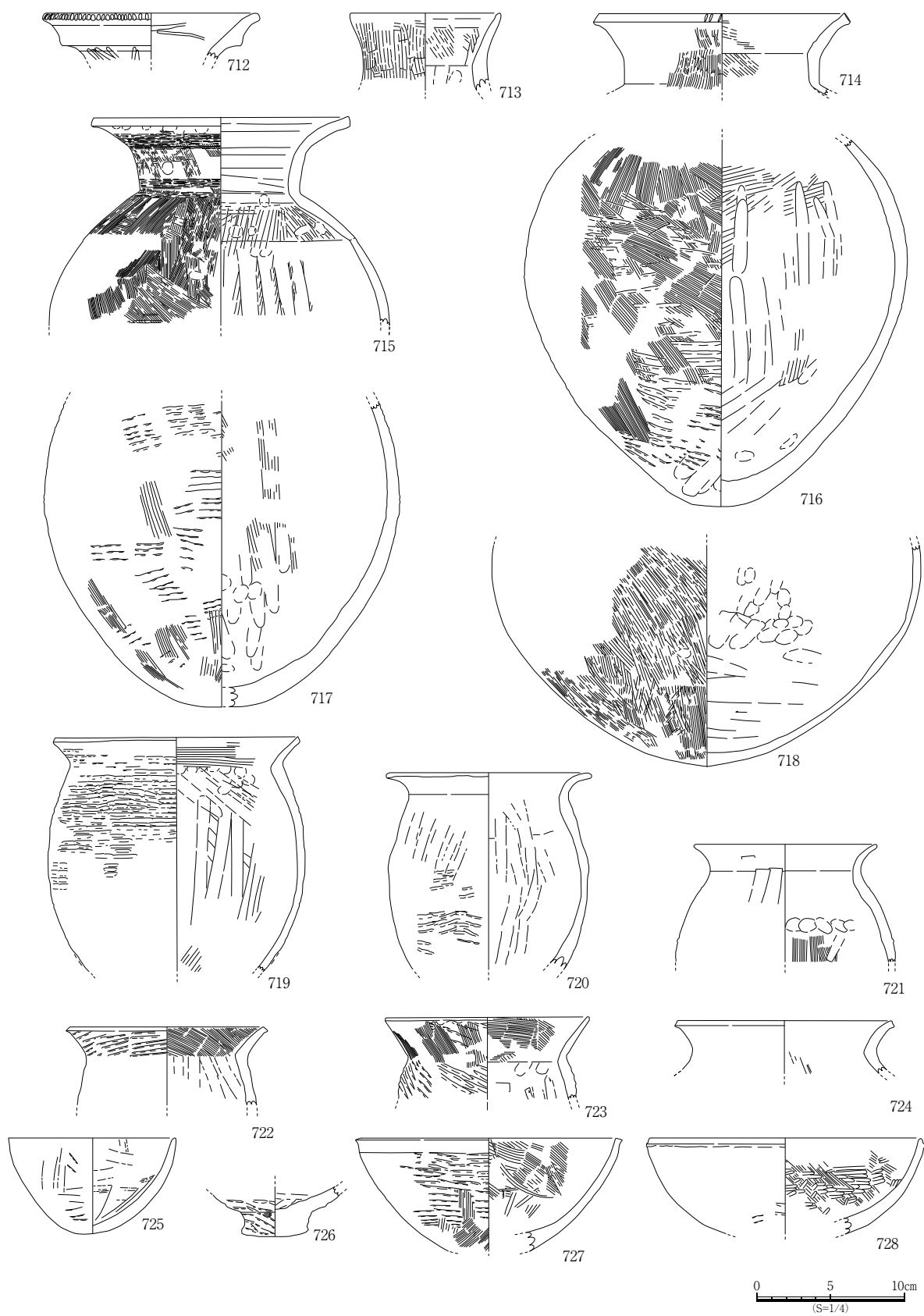


图4-249 ST13出土遺物実測図1

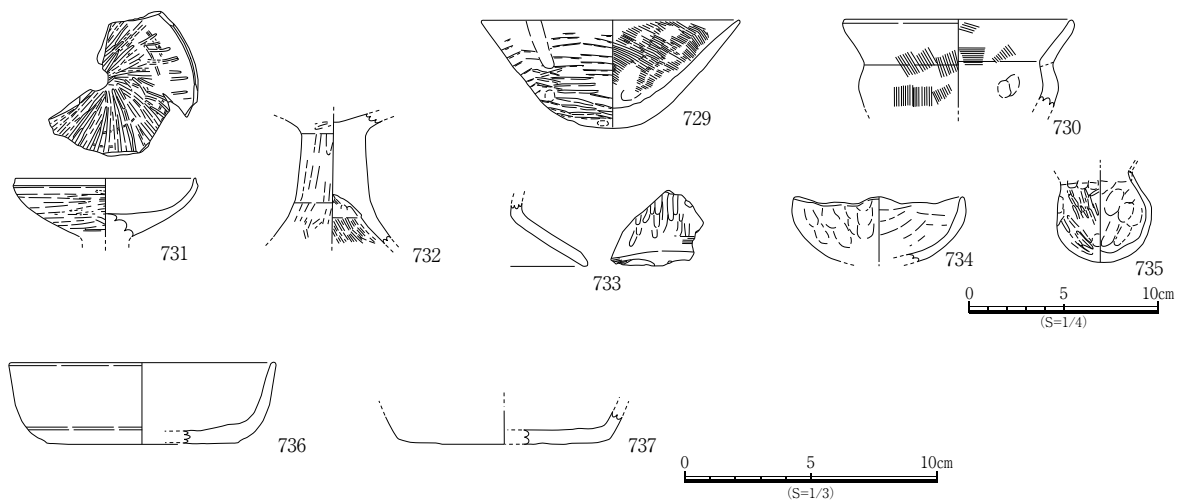


図4-250 ST13出土遺物実測図2

サエによる調整である。731 は高杯の杯部と考えられる。口縁部は内湾して伸び、口唇部は丸くおさめる。側面はナデ調整。外面は平行状のヘラミガキによる調整、内面は内底面から口縁部にむかい放射線状のヘラミガキによる調整を施す。734・735 はミニチュア土器である。734 は鉢状を呈し、内外面はユビオサエとユビナデが顕著である。735 は口縁部は欠損している。外面はユビオサエとヘラミガキによる調整が認められる。内面はユビオサエとユビナデ調整である。736 は土師器の杯である。底部外面には回転ヘラ切り痕が認められる。口縁部は直立気味で口唇部は丸くおさめる。内外にはナデ調整を施す。737 は古瀬戸と考えられるもので、内面には自然釉がかかる。ともに上面遺構からの流れ込みと考えられる。

ST14(図4-251・252)

調査区中央部西側において検出した竪穴建物跡である。調査区西部を南北に縦断するSD154に接し、南側には竪穴建物跡ST18が隣接する。遺構の南西部は攪乱をうけ、北部はSK245にきられる。長軸4.9m、短軸4.3mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。南北と西側にはベット状遺構を伴う。遺構検出面から高床面までの深さは約6～15cmであり、低床面までは約19cmを測る。主な埋土は黒褐色シルトに黄褐色(10YR5/6)ブロッ

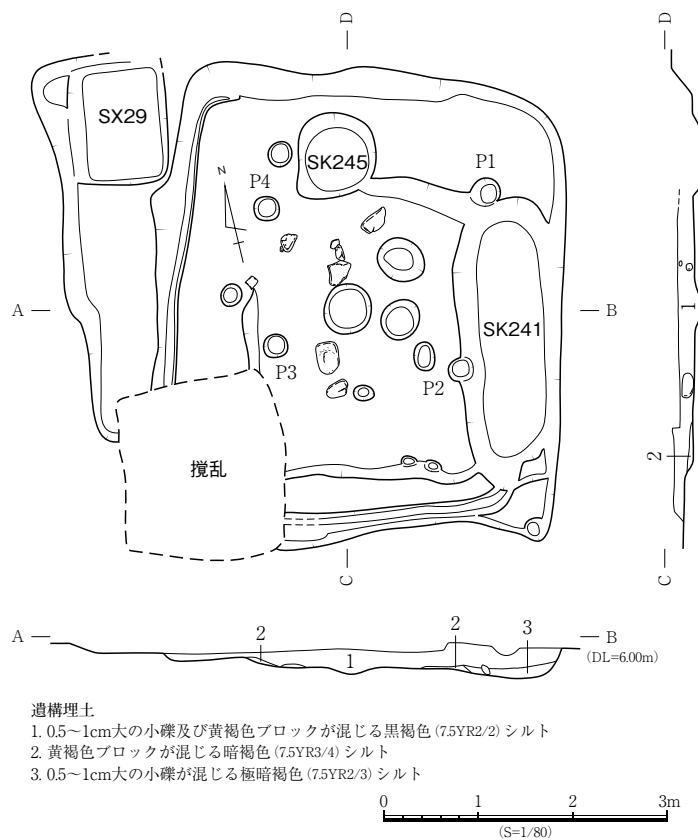


図4-251 ST14

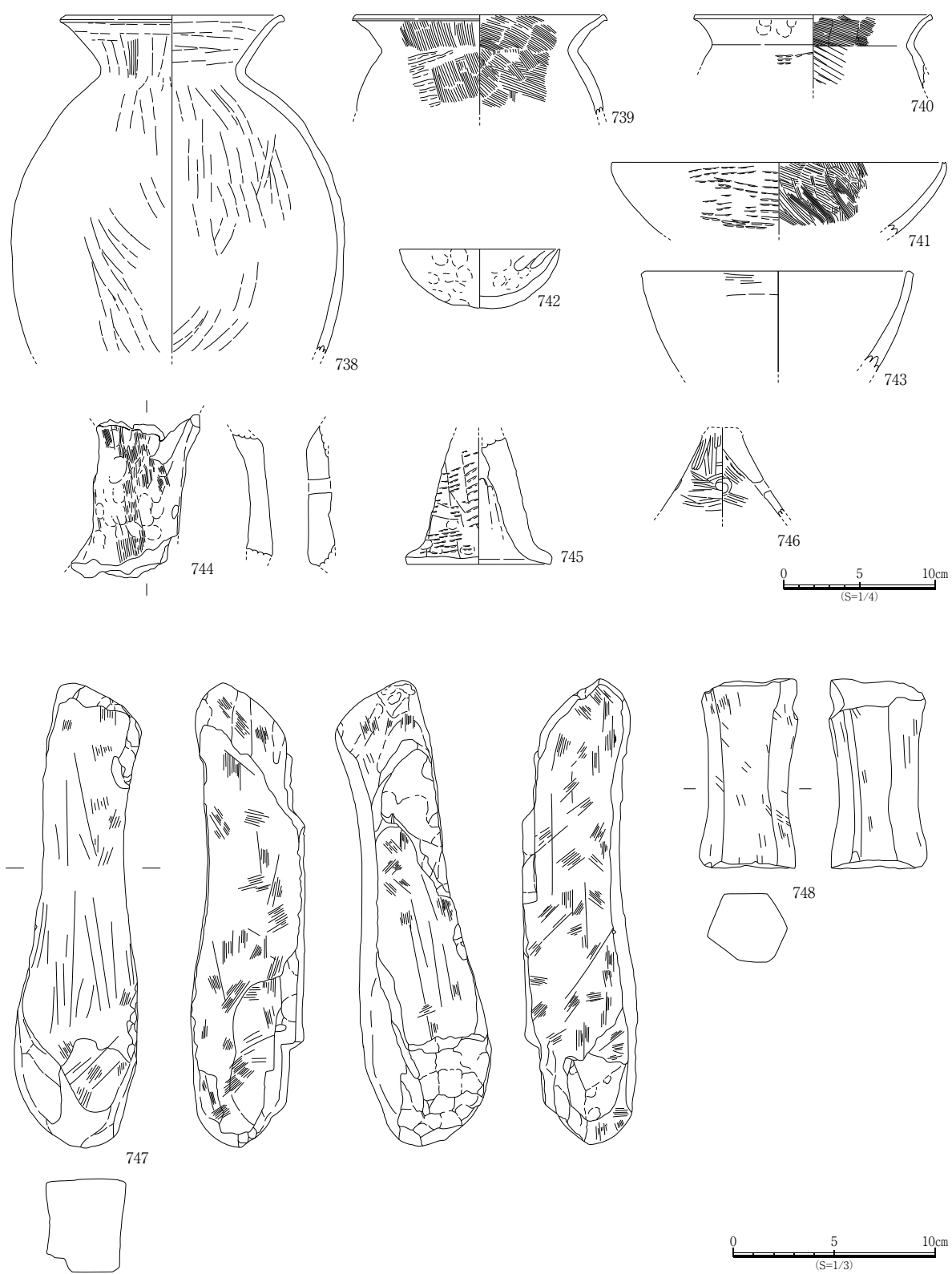


图4—252 ST14出土遺物実測図

クを含む土層である。床面でピット7基と土坑1基を検出した。SK241は平面形は楕円形状で長軸約3m, 短軸約1m, 深さ約10cmを測る。埋土は小礫が混じる極暗褐色(7.5YR2/3)シルトである。土層観察では新旧関係が不明であったため、上面遺構の可能性も考えられる土坑である。主柱穴は低床面より3基(P2~4)とベット状遺構より1基(P1)を確認した。直径20~25cmの円形で、床面からの深さは約18~43cmである。

図示できた遺物は弥生土器甕, 鉢, 高杯, 支脚, 石製品である。738は壺である。口縁部は「ハ」の字状に大きく開く。口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部から頸部はハケとナデ調整, 胴部はナデ調整, 内面はナデ調整を施す。739は甕である。口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。外面は頸部まで叩き目が認められ、口縁部から頸部には縦方向のハケ調整を施す。内面にもハケ調整がみられる。740は甕である。口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。外面は頸部まで叩き目が認められ、ナデ調整を施す。内面はハケの調整である。外面には一部煤が付着する。741は鉢である。口唇部は強いナデ調整により凹状を呈する。外面は叩き目が残り、内面はハケによる調整を施す。742は鉢で、内外面ともにユビナデとユビオサエによる調整である。743は鉢の口縁部である。口唇部は平坦面を呈する。内外面ともにナデ調整である。746は高杯の脚部片である。杯部は欠損している。3カ所に穿孔を施す。外面はヘラミガキとナデ調整, 内面にはハケとナデによる調整を施す。胎土等から搬入品と考えられる。744・745は支脚である。744は中空で、側面には孔径9~13mmを測る穿孔を施す。外面にはユビオサエが残り、縦方向のハケ調整が認められる。745は外面は叩き目が認められ、ヘラケズリとユビオサエを施す。内面はユビナデである。747は砂岩製の砥石である。四面に使用痕が認められる。748も砂岩製の砥石である。六面に使用痕が認められ、中央部はやや凹んでいる。

ST16(図4-253・254)

調査区北西部において検出した竪穴建物跡である。調査区中央部を縦断するSD155とSD161に切られており、遺構の東側については確認できていないが埋土からはSX31と同一遺構の可能性がある。北西隅はST17と接する。長軸4.1m, 短軸2.2m以上を測り、平面形は隅丸方形状を呈すると考えられる。遺構検出面から床面までの深さは約20cmであり、埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトで、5~10cm大の礫を含む。北部には焼土を含む黄褐色土(カマドか)を検出したが、SD155によって切られ、詳細等は不明である。床面からは柱穴を3基検出したが主柱穴は判然としない。

図示できた遺物は須恵器蓋, 高杯, 甕, 土師器甕である。749は甕である。750は杯身蓋である。天井部のつまみ部分は宝珠形を呈する。口縁部内面には断面三角形状のかえりが付く。天井部外面には2条の沈線が巡る。751は須恵器の脚部である。裾端部はナデにより凹状を呈する。内外面は摩耗のため調整は不明瞭である。752は高杯の脚部である。杯部は欠損している。内外面は回転ナデ調整を施す。753・754は甌の口縁部と考えられる。口縁部は外上方に開く。口唇部は丸くおさめる。外面はナデ調整, 内面にはヘラケズリの調整がみられる。

ST17(図4-255・256)

調査区北西隅において検出した竪穴建物跡である。南北3.6m以上, 東西4.7mを測り、北側は調査区外に続く。南壁はST16に切られており、南西部は試掘坑が確認された。平面形は多角形状を呈すると考えられる。遺構検出面から床面までの深さは概ね20cmである。主な埋土は小礫を多く含む暗褐色(7.5YR3/3)シルトと細砂混じりの黒褐色(7.5YR2/2)シルトの土層である。床面からは柱穴7基を

検出した。ST17_P1は主柱穴と考えられるピットで、直径は概ね20～30cmを測る円形で床面からの深さは23～28cmである。

図示できた遺物は弥生土器壺、甕、鉢、高杯、支脚である。755は壺である。口縁部は外上方に大きく開き、外反する。口唇部は平坦面を呈し、一部は下方につまみ出す。外面はハケとナデ調整、頸部にはヘラミガキが認められる。内面はハケとナデ調整である。756は壺である。口縁部は「ハ」の字状に開き、外反する。口唇部は肥厚させる。外面はハケ調整を施し、内面は摩耗しているが、ユビオサエが認められる。757は壺である。口唇部は平坦面を呈し、外面には刻目を施す。外面はハケとナデ調整、内面はハケにより調整を施す。758は壺である。口縁部は斜め上方に伸び、口唇部は丸くおさめる、頸部内面にはユビオサエが残る。口縁部内外面は摩耗している。759は甕である。口縁部は斜め上方に緩やかに伸びて口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部まで叩き目が認められユビオサエを施す。内面は斜め方向のハケとナデによる調整がみられる。761は鉢の底部と考えられる。底部内面にはヘラケズリを施す。762も鉢の底部と考えられ、平底で内外面にはユビナデがみられる。760は甕の頸部から胴部である。外面は叩き目が頸部まで認められ、ハケ調整を施す。胴部内面には強いユビナデを施す。763は鉢である。底部から口縁部にかけて内湾気味に伸びる。外面は叩き目が残りナデ調整を施す。内面は摩耗している。外面には煤が付着する。764は底部から口縁部は内湾して伸び、口唇部は丸くおさめる。外面はユビオサエ、内面にはヘラ状の工具によるナデ調整がみられる。765は小型の鉢である。底部

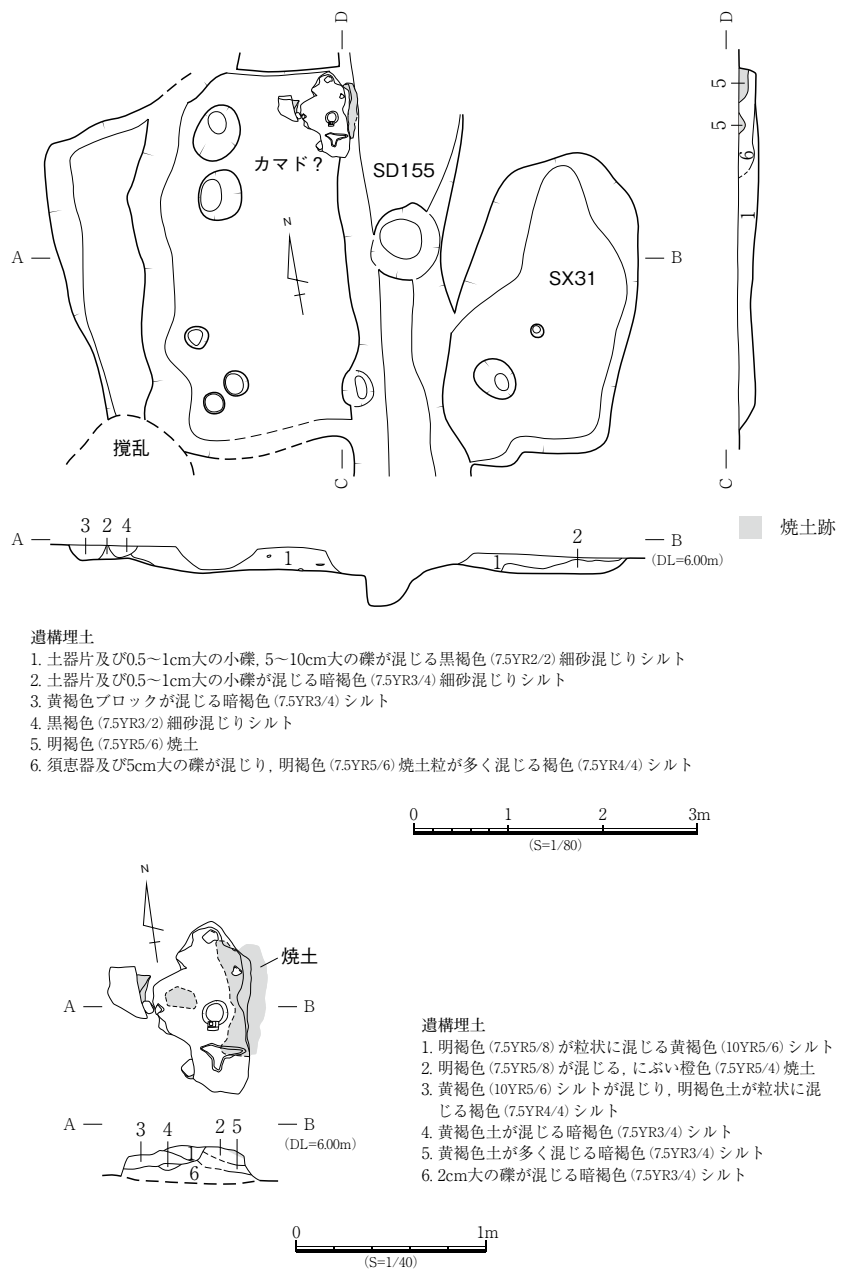


図4-253 ST16

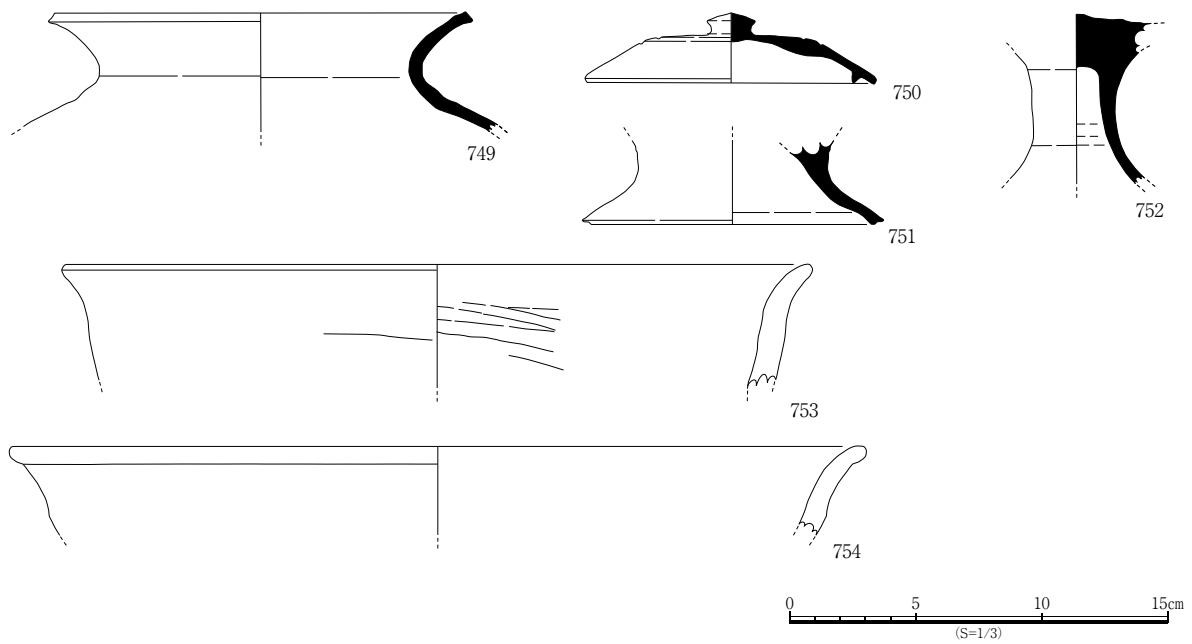


図4-254 ST16出土遺物実測図

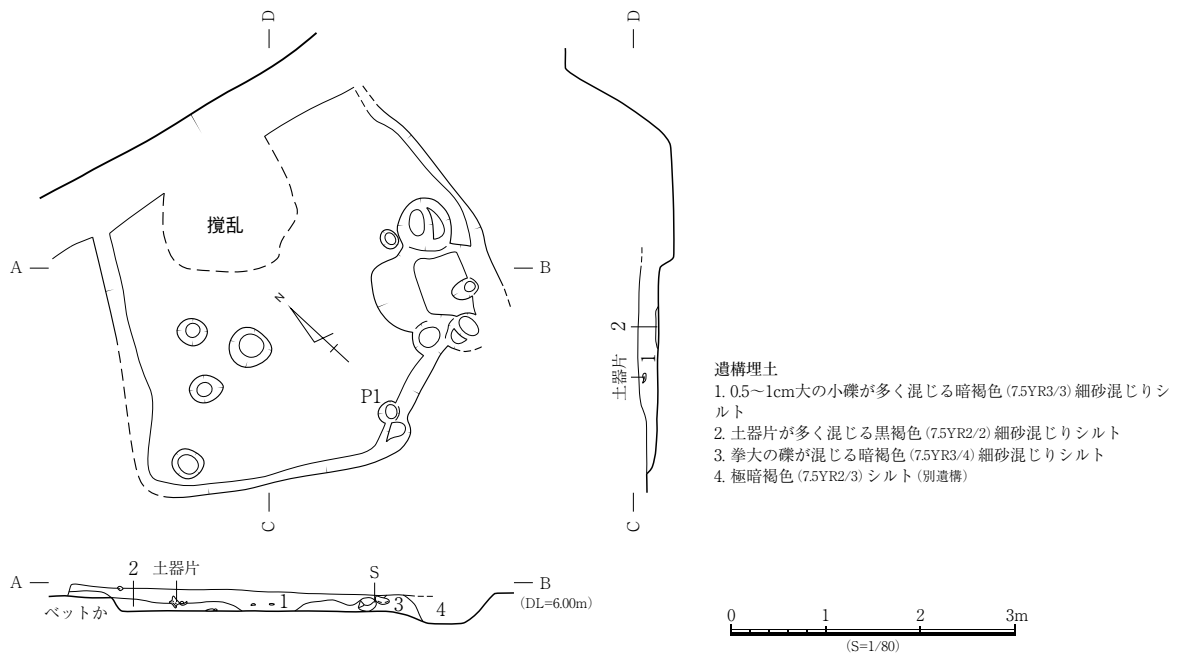


図4-255 ST17

は平底で、体部は斜め上方に伸び、口唇部は丸くおさめる。外面はユビオサエとナデによる調整、内面にはハケとナデ調整がみられる。766 は鉢である。外面はユビオサエとナデ、内面は底部はヘラケズリ、体部から口縁部はナデ調整を施す。口縁部から底部外面には煤が付着する。767 は脚付鉢である。口縁部は欠損している。脚部分は「ハ」の字状に開き、鉢との接合部はユビオサエが残る。外面はハケとナデ調整、内面はハケとユビナデによる調整がみられる。768 は高杯の脚部である。外面はハケとヘラミガキ、内面はハケによる調整がみられる。769 はミニチュア土器である。外面には叩き目、

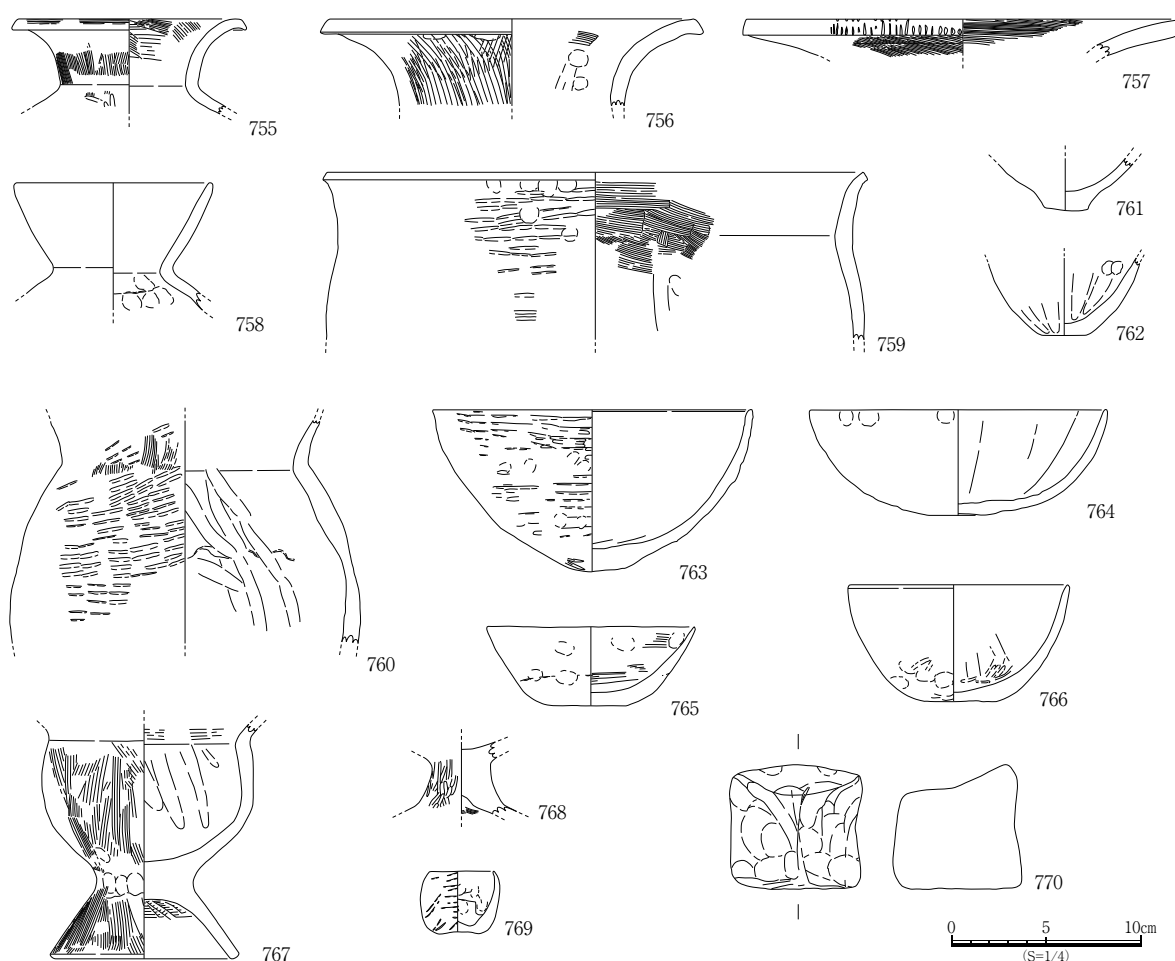


図4-256 ST17出土遺物実測図

内面にはユビオサエが認められる。770は支脚である。柱状を呈し、上部は内傾して中央部は凹む。外面はユビオサエとユビナデによる調整を施す。

ST18(図4-257・258)

調査区中央西部において検出した竪穴建物跡である。遺構の東側はSB89に切られている。一辺約4.9mを測り、平面形は隅丸方形形状を呈する。南西部隅にはベット状遺構を伴う。遺構検出面から床面までの深さは約25～30cmであり、主な埋土は1～2cm大の小礫が混じる暗褐色(7.5YR3/4)シルトである。床面でピット7基を検出した。ST18_P1は中央ピットと考えられるもので、床面の中央部よりやや南で検出した。長軸1.3m、短軸0.46mの楕円形状を呈し、床面からの深さは約17cmである。埋土は細砂混じりの黒褐色シルトである。主柱穴は床面で4基検出した。ST18_P2、ST18_P3、ST18_P4、ST18_P5である。直径約25～30cmの円形で床面からの深さは12～32cmである。

図示できた遺物は、弥生土器壺、甕、鉢、高杯、石製品である。771は壺である。複合口縁状を呈し、外面には波状の文様が認められる。内面は一部ハケ調整が確認できるが摩耗が著しい。772は甕である。口縁部は「く」の字状で口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部まで叩き目が認められ、内面はハケによる調整がみられる。773は甕である。口縁部は「く」の字状で口唇部は平坦面を呈する。胴部はやや丸みをおびて底部にいたる。外面は底部から口縁部まで叩き目が認められ、内面はユビオサエ、ユ

4. III B - 1 区 (2) 検出遺構と遺物

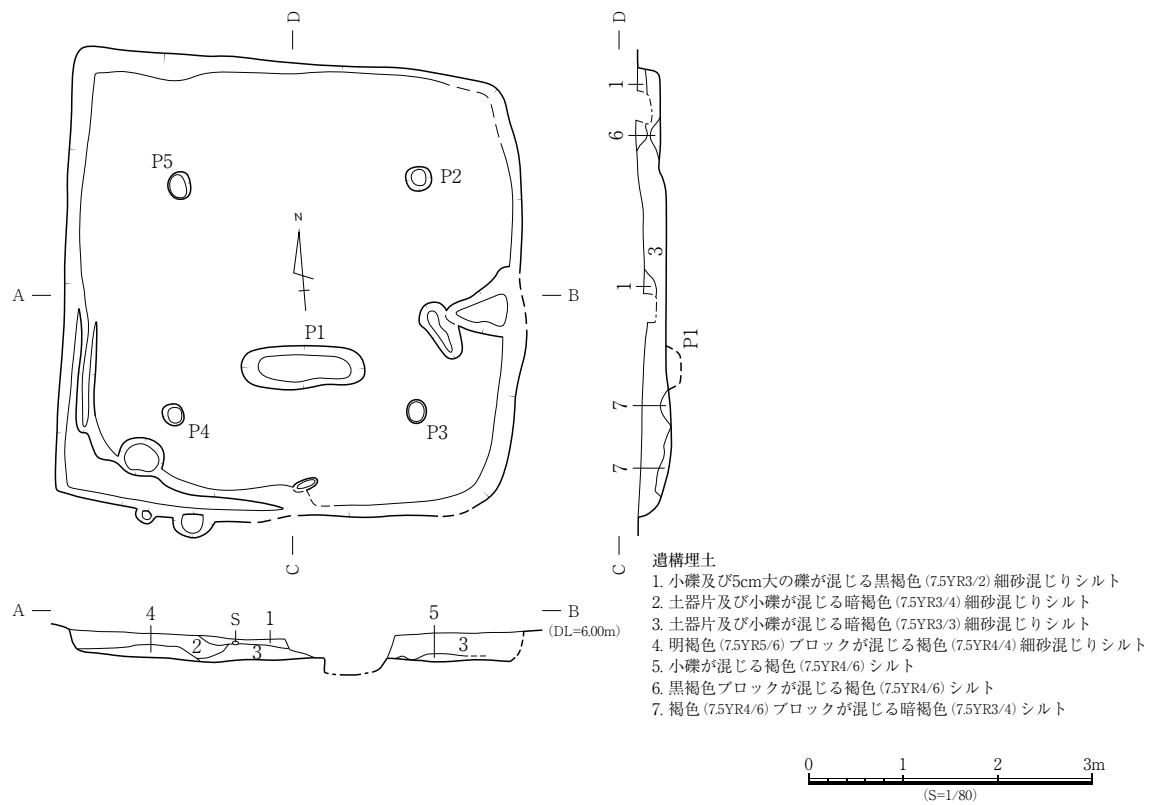


図4-257 ST18

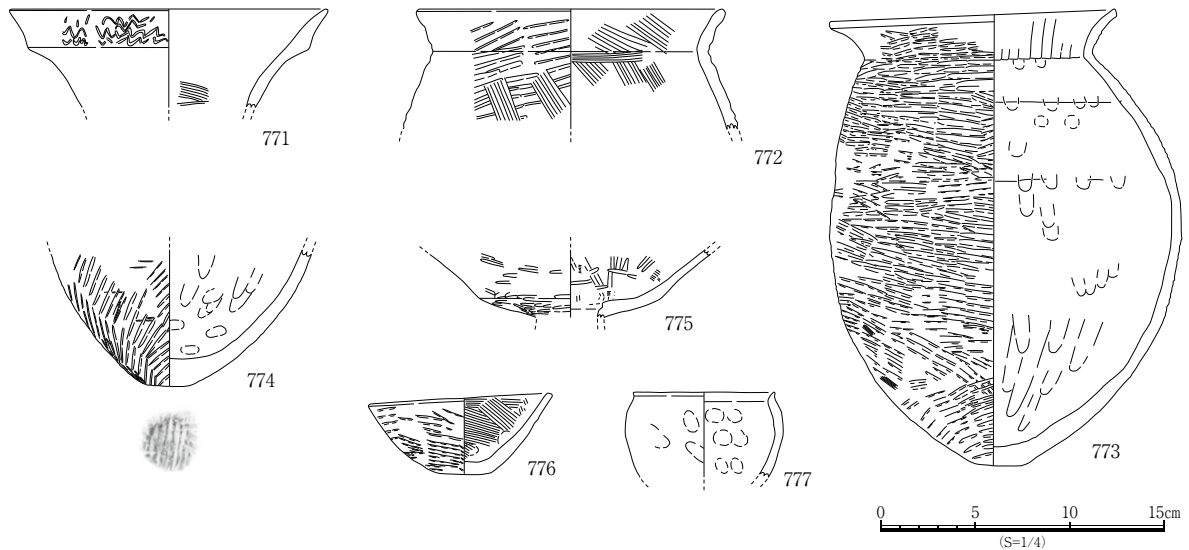


図4-258 ST18出土遺物実測図

ビナデが施される。胴部内面には粘土紐接合痕が認められる。774 は甕の底部である。外面は底部にまで叩き目が認められる。内面はユビオサエ、ナデ調整である。775 は高杯の杯部である。外面はハケ調整とヘラミガキ、内面にもヘラミガキが施される。776 は鉢である。底部は平底で、口唇部は平坦面を呈する。外面は叩き目、内面はハケ、底部にはユビオサエを施す。777 はミニチュア土器である。内外面はユビオサエとユビナデが顕著である。

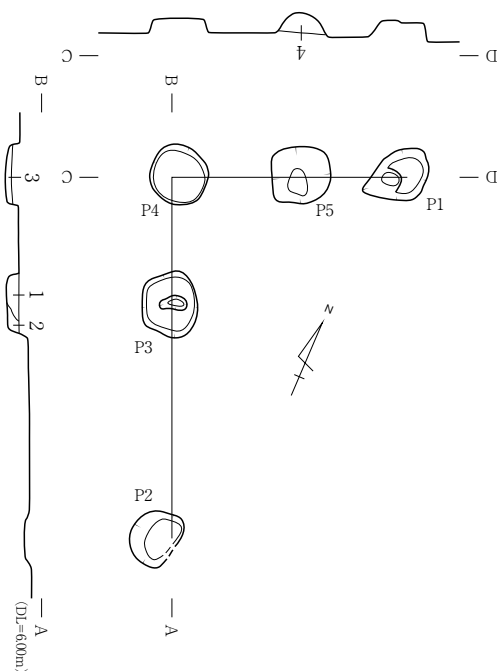
② 掘立柱建物跡

SB86(図4-259)

調査区北東部において検出した掘立柱建物跡である。桁行1間(2.8m以上), 梁行2間(2.7m以上)の南北棟と考えられる。調査区を縦断するSD151に切られているため, 西側側柱は確認することができなかった。柱穴の掘方は概ね円形で, 径は概ね70cm前後, 深さは20~30cmを測る。柱間寸法は桁行2.8m, 梁行1.3~1.4mで, 柱穴の埋土は小礫を含む黒褐色(10YR2/1)シルトである。遺物は土師質土器の細片等が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SB87(図4-259)

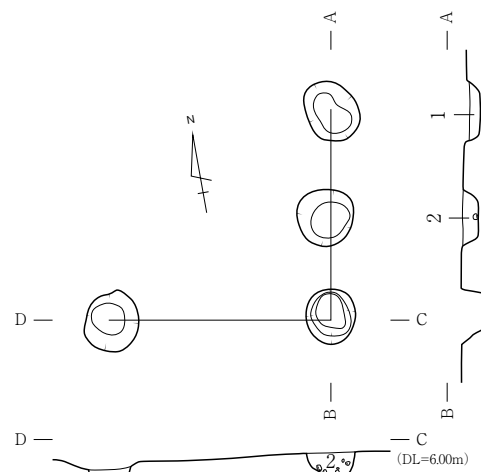
調査区北東部において検出した掘立柱建物跡である。SB86の南東約8.0mに位置する。SD156に切れ, ST12を切る。桁行2間(4.6m), 梁行2間(3.1m)の南北棟と考えられる。建物の東側側柱の一部は調査区外のため確認できなかった。柱穴の掘方は円形から不整形で径は80cm前後, 深さはP2が約10cm, P1・3・4が20cm, P5は概ね30cmを測る。柱間寸法は桁行1.6~3.0m, 梁行は1.5~1.6mで, 柱穴の埋土は黄褐色ブロックを含む黒色(10YR2/1)シルトと黄褐色ブロックを含む黒褐色



遺構埋土

1. 黒色(7.5YR2/1)シルト
2. 黄褐色ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト
3. 土器片及び黄褐色ブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/1)シルト
4. 黄褐色土がブロック状に混じる黒色(10YR2/1)シルト

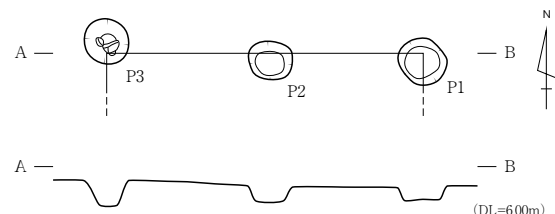
SB87



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/1)シルト
2. 1~5cm大の礫を含む黒褐色(10YR2/1)細砂混じりシルト
3. 土器片及び0.5~3cm大の小礫を含む黒褐色(7.5YR3/2)シルト

SB86



SB88

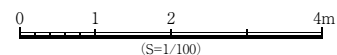
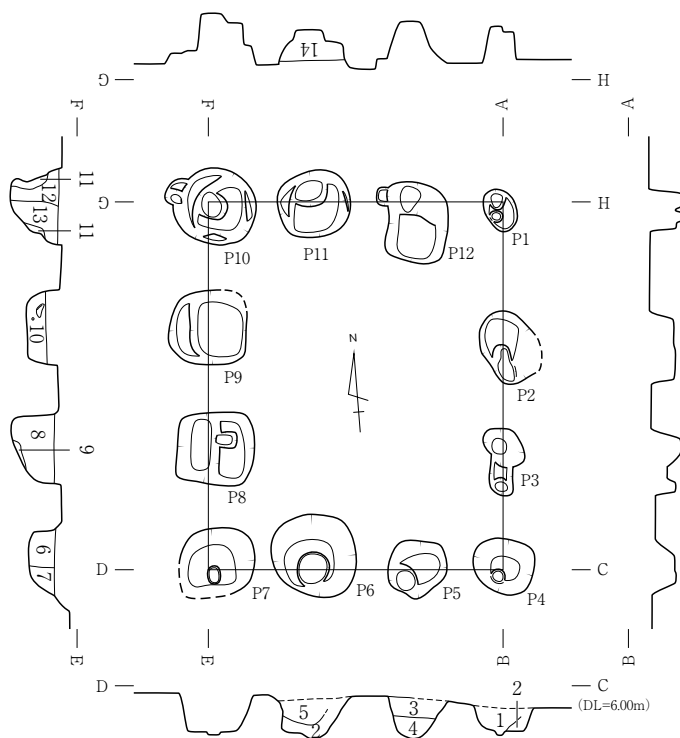


図4-259 SB86~88



遺構埋土

1. 黄色ブロックが混じる黒褐色 (10YR2/3) 細砂混じりシルト
2. 黄色ブロックが多く混じる黒褐色 (10YR2/3) 細砂混じりシルト
3. 黄色ブロック及び黒色ブロックが混じる黒褐色 (10YR2/3) 細砂混じりシルト
4. 黄色ブロックが混じる黒褐色 (10YR2/2) シルト
5. 黄褐色ブロックが混じる黒褐色 (10YR2/1) 細砂混じりシルト
6. 黄色ブロックが多く混じる黒褐色 (10YR2/2) シルト
7. 土器片及び黄色ブロックが混じる黒褐色 (10YR2/2) シルト
8. 土器片及び黄色ブロックが多く混じり、1~5cm大の小礫が混じる黒褐色 (7.5YR2/2) 細砂混じりシルト
9. 黄色ブロックが混じる黒色 (7.5YR2/1) シルト
10. 黄褐色ブロック及び土器片が多く混じり、3~10cm大の小礫が混じる黒褐色 (10YR2/1) シルト
11. 黒色ブロックが混じる暗褐色 (7.5YR3/4) シルト
12. 黄色ブロックが粒状に混じり、土器片が混じる黒褐色 (7.5YR2/2) シルト
13. 黄色ブロックが粒状に混じり、土器片及び3cm大の小礫が混じる黒色 (7.5YR1.7/1) 細砂混じりシルト
14. 黄色ブロックが多く混じり、土器片が混じる黒色 (10YR2/1) シルト

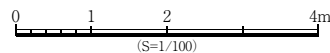


図4-260 SB89

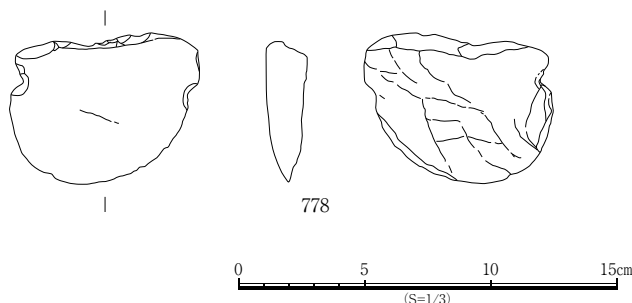


図4-261 SB89出土遺物実測図

(7.5YR2/1) シルトである。遺物は土師質土器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SB88(図4-259)

調査区南東隅において検出した掘立柱建物跡である。北側側柱を検出したのみで、南側側柱は調査区外に続くと考えられる。桁行2間(4.2m)で、柱穴の掘方は円形状で、径は概ね60cm、深さはP1・2は約20cm、P3は35cmである。柱間寸法は2.1mを測り、埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は図示できるものはなかった。

SB89(図4-260・261)

調査区中央西部において検出した掘立柱建物跡である。桁行3間(4.9m)、梁行3間(3.9m)の南北棟で方位はN-4°-Eである。面積は19.11㎡を測る。建物の東側側柱はSD155に切られたため、底面のみの検出であった。柱穴の掘方は隅丸方形、円形状で、径は概ね1m前後、深さはP9は40cm、P5・6・7・11は約50cm、P8・12は60cm、P10は約70cmを測る。柱間寸法は桁行1.5~1.7m、梁行1.1~1.4mで、柱穴の埋土は黄色から黄褐色ブロックを含んだ細砂混じりの黒褐色(10YR2/3)シルト及び黄褐色ブロックを多く含んだ黒色(10YR2/1)シルトである。遺物は弥生土器、須恵器杯蓋、

土師器甕の破片が出土している。図示できたものは打製石包丁(778)である。砂岩製で片面には自然面を残す。

③ 柵列

SA38(図4-262)

調査区の中央東に位置する。SA39の東側約1.5mに位置する。柱穴の掘方は円形を呈し、径は20～30cm前後である。深さはP1は20cm前後、P2・3は30cm前後を測る。柱間寸法は1.5mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

SA39(図4-262)

調査区の中央に位置する。調査区中央を縦断するSD155の東側に並行し4個の柱穴が並んでいる。柱穴の掘方は円形を呈し、径は概ね20cm前後である。深さはP1は20cm前後、P2～4は10cm前後を測る。柱間寸法は0.7～1.3mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトで遺物は土師質土器片などが出土している。

④ 土坑

土坑については主要なものについて具体的に記述するが、それ以外のものについては土坑計測表9にまとめた。

SK238(図4-263・264)

調査区南西部より検出した。ST11の北東側に位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.7m、短軸1.3m、深さは約25cmを測り、断面形は箱形を呈する。埋土は小礫と黄褐色ブロックを含む黒褐色(7.5YR2/2)シルトと黒色(7.5YR2/1)シルトである。床面からは直径約14cmを測るピット1基と溝状の落ち込みを確認した。遺物は弥生土器、土師質土器、瓦質土器などの細片が出土しており、その内支脚(779)が図示できた。

SK239(図4-265)

調査区南西部より検出した。平面形は隅丸長形状で長軸2.3m、短軸0.95m、深さは約10cmを測り、断面形は皿状を呈する。遺構の南西部はピットに切られる。埋土は小礫をと黄褐色土ブロックを含む黒褐色(10YR3/2)シルトである。遺物は土師質土器片及び弥生土器片などが出土したが、図示できるものはなかった。

SK240(図4-265)

調査区南東部、調査南壁近くより検出した。遺構の東側は調査区外に続く。平面形は円形状を呈すると推測され、

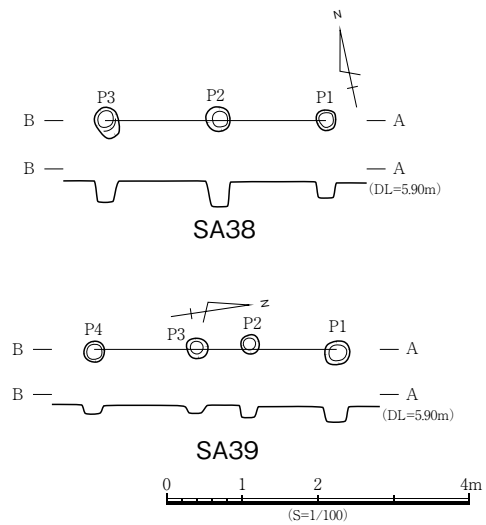


図4-262 SA38・39

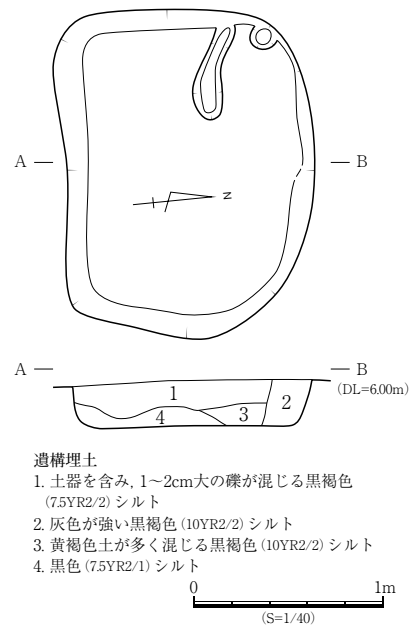


図4-263 SK238

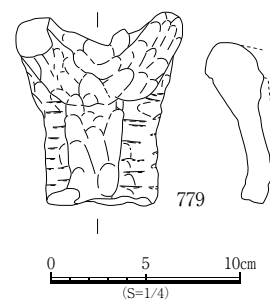


図4-264 SK238出土遺物実測図

長軸 1.65m, 短軸 0.9m 以上, 深さ約 25cm を測る。埋土は黒褐色 (7.5YR3/2) シルトである。遺物は土師質土器の細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SK242(図4-265)

調査区中央部より検出した。調査区を縦断する SD155 の東方に位置し, SX28 に接する。平面形は隅丸長形状で, 長軸 1.75m, 短軸 0.65m, 深さ約 18cm を測り, 断面形は逆台形状を呈する。埋土は小礫を含む黒褐色 (10YR2/2) シルトと暗褐色 (10YR3/3) シルトである。遺物は弥生土器の細片が出土している。

SK243(図4-265)

調査区中央北部において検出した。調査区を縦断する SD155 の東方に位置する。平面形は不整形円形で, 径は約 1.18m, 深さ 18cm を測り, 断面形は舟底状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色 (10YR2/3) シルトである。遺物は土師質土器, 須恵器, 瓦器碗, 弥生土器の細片が出土しているが図示

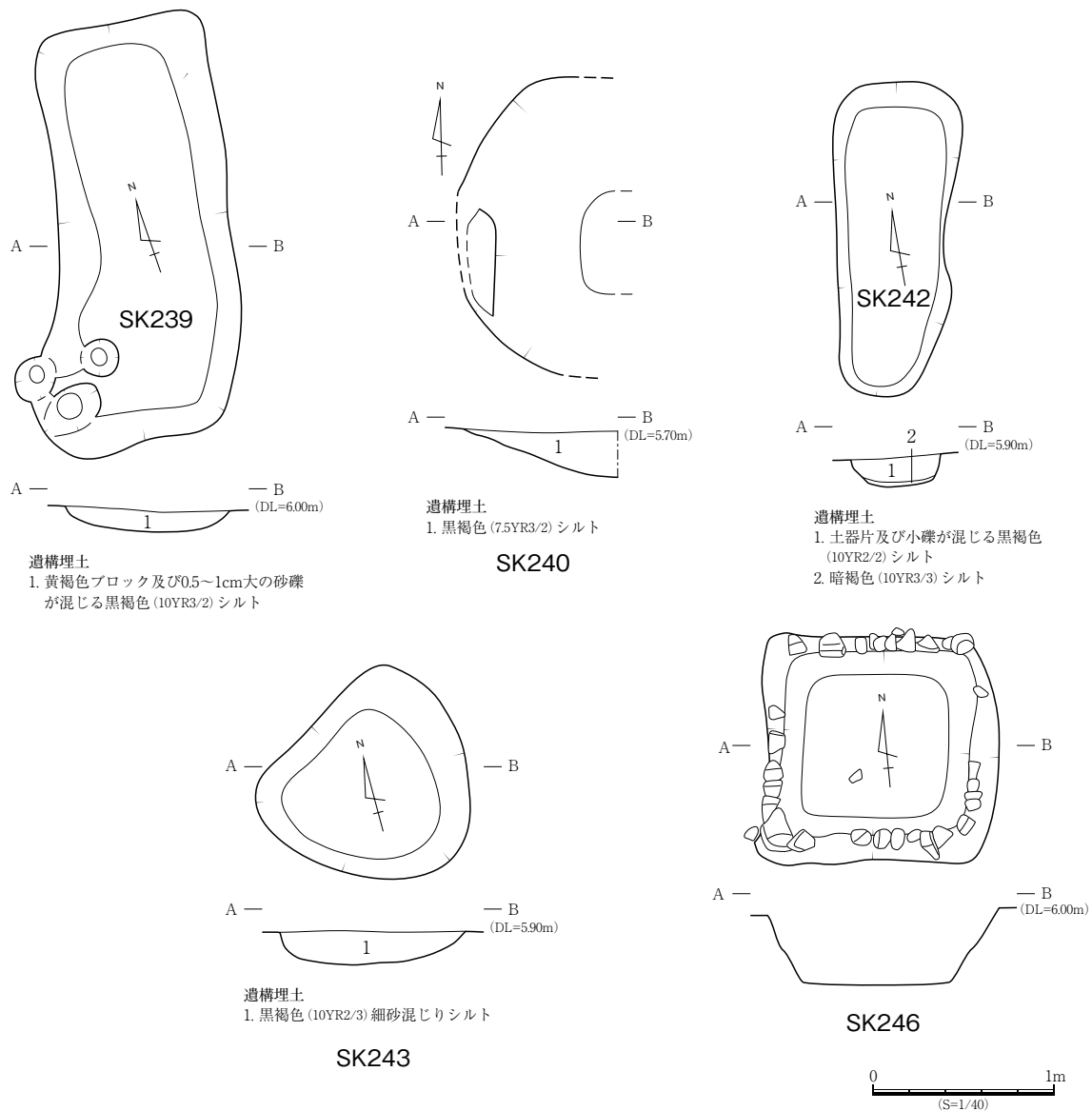


図4-265 SK239・240・242・243・246

できるものはなかった。

SK246(図4-265)

調査区北部にあり、SD154の東側に位置する。平面形は方形で、一辺は1.25m、深さ43cmを測る。遺構の周囲は拳大の石を配置しておりハンダ状の土で固めていた。埋土は褐灰色シルトである。

SK247(図4-244・245)

調査区南西部より検出した。ST11の北壁を切る土坑である。遺構の西壁は家屋の基礎が残っており、検出することはできなかった。平面形は隅丸方形を呈すると推定される。長軸3.0m、短軸2.0m、深さは約25cmで断面形皿状である。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)に土器片及び小礫を含む。遺物は弥生土器、須恵器などが出土しており、その内須恵器杯(693・694)が図示できた。詳細はST11において記述している。

⑤ 溝

SD153(図4-266)

調査区北西隅より検出した。SD154の西側に位置する。確認延長は南北に約10.4m伸びて西方向に曲がり、約0.5m伸びて調査区外に続く。幅は40～60cm、深さ約10cmを測り、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/3)シルトである。遺物は弥生土器、瓦質土器の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SD154(図4-266)

調査区北西部から中央部にかけて検出した。SD155の西側約5.0mに位置する。確認延長18.4m、幅1～1.5m、深さ15cmを測り、断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器、手づくね成形の皿、瓦質土器鍋、須恵器、土師器、弥生土器などの細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

SD155(図4-267・268)

調査区中央部より検出した。調査区を縦断する。南側は調査区南隅で東方向に曲がり、調査区外に

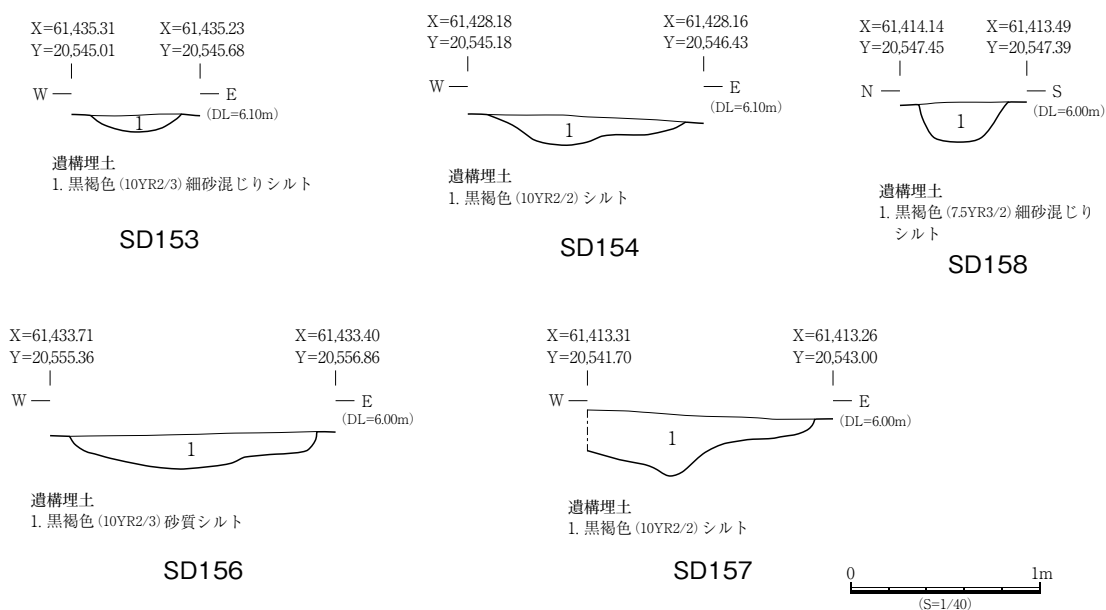


図4-266 SD153・154・156～158

続く。北側も調査区外に続く。溝の南東部にはピットが多く検出されていることから屋敷地を囲む溝と考えられる。確認延長は南北に約39.4m延びて東方向に曲がり、約5m延びて調査区外に続く。幅1.2～2.0m、深さ25～35cmを測り、断面形は舟底状を呈する。埋土は炭化物と風化礫を含む灰褐色粘性土である。遺物は土師質土器の細片が多く出土しており、瓦質土器、須恵器、国内産陶器、弥生土器、青磁、白磁などが出土しており、その内、白磁皿(780)が図示できた。口縁部は端反りで、断面三角形の高台を呈する。E類に属するものである。

SD156(図4-266・268)

調査区北東部より検出した。SD155の東約3.0mに位置し、ST12・13、SX28の上面を切る。確認延長は南北約16m、幅0.6～1m、深さ約18cmを測り、断面形は舟底状を呈する。調査区北東部を縦断し、約8.8m地点で東部に曲がり延びて調査区外に続く、さらに南側7mほど延びてSX28と接する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/3)シルトである。遺物は土師質土器、須恵器、瓦質土器、青磁などの他、ST12あるいはST13の遺物と考えられる弥生土器が出土している。その内弥生土器壺(781)を図示できた。781は広口壺で、口縁部は外方に大きく開く。口唇部は平坦面をなし、上方にやや拡張させ、外面はナデ調整による凹状を呈する。外面は頸部から胴部かけハケ調整とヘラミガキによる調整を施す。内面は口縁部はナデ調整、頸部から胴部はユビオサエに調整を施す。頸部には粘土紐接

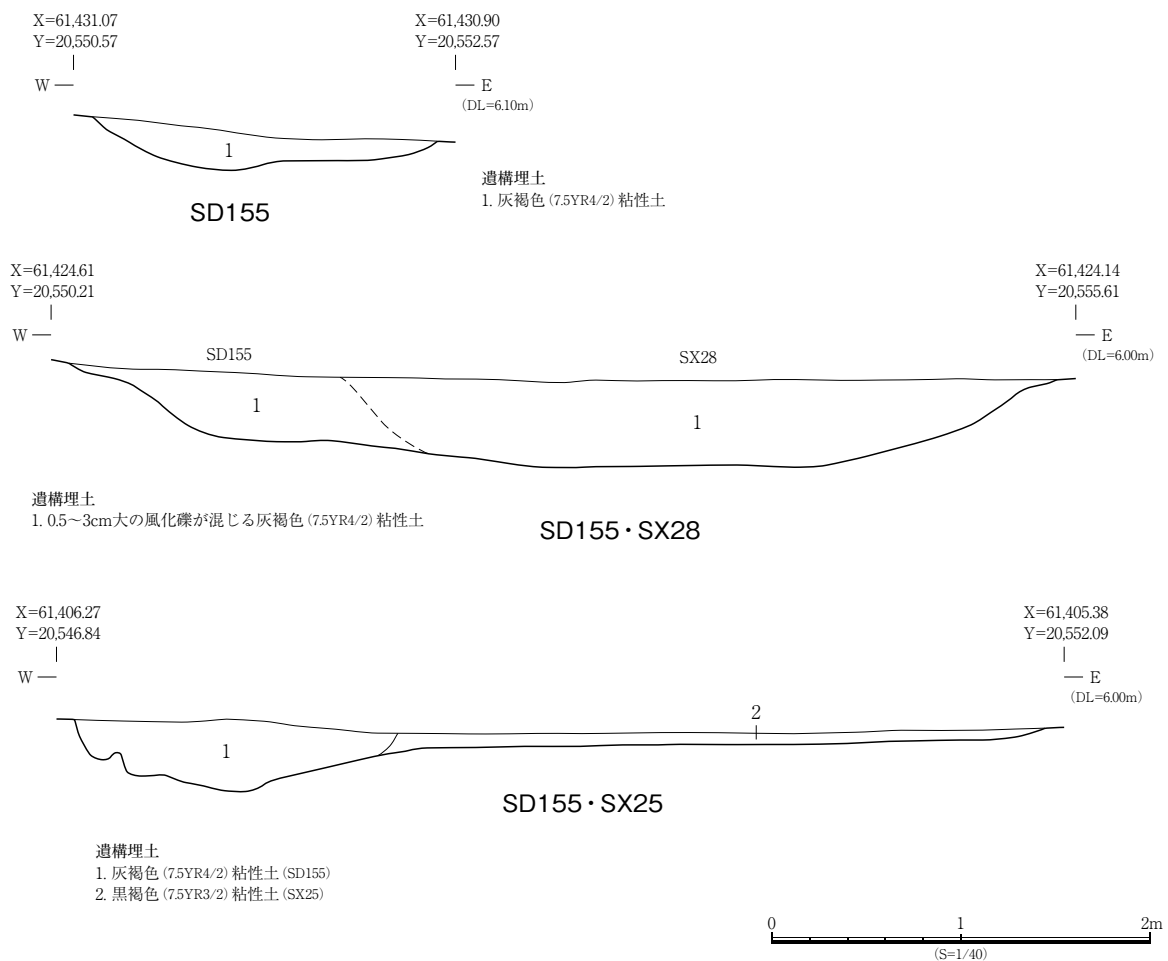


図4-267 SD155 SX25・28

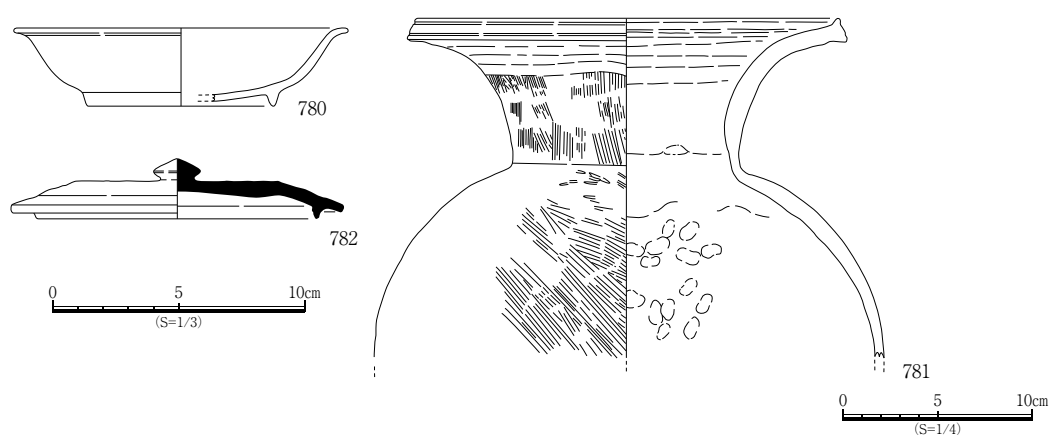


図4-268 SD155・156・161出土遺物実測図

合痕が認められる。胎土は雲母片を多く含む。

SD157(図4-266)

南西側に位置する。調査区北西部から中央部にかけて検出した。SD155の西側約6.0mに位置する。確認延長18.4m, 幅1~1.5m, 深さ15cmを測り, 断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器, 手づくね成形の皿, 瓦質土器鍋, 須恵器, 土師器, 弥生土器などの細片が出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD158(図4-266)

調査区南東部より検出した。調査区西側から中央部にかけて横断し, SD155に切られる。確認延長6.6m以上, 幅40~50cm, 深さ約20cmを測り, 断面形は逆台形状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。遺物は土師質土器, 弥生土器などが出土しているが, 図示できるものはなかった。

SD161(図4-268)

調査区北部中央に位置する。SD155の西側約1.0mにあり, ST16・17を切る。確認延長18.4m, 幅1~1.5m, 深さ15cmを測り, 断面形は皿状を呈する。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR2/2)シルトである。遺物は土師質土器, 須恵器, 土師器, 弥生土器などの細片が出土しており, その内須恵器蓋(782)が図示できた。杯身蓋である。天井部の摘み部分は宝珠形を呈する。口縁部内面には断面三角形のかえりが付く。

⑥ 柱穴

調査区では掘立柱建物跡や柵列に属さない柱穴が200個以上検出されている。調査区全面において検出しているが, 特にSD155より東側に多く分布している。これらの柱穴の約1/3から遺物が出土しており, その大半は土師質土器杯の細片である。これらピットは復元しえなかった掘立柱建物跡や柵列などに属するものも存在すると考えられる。

P62(図4-269)

ST12の東壁側より検出した。ST12に付属する貯蔵穴の可能性がある。平面形は不整形を呈する。長軸1.25m, 短軸1.0mを測る。深さは約20cmである。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトと明褐色(7.5YR5/6)土をブロック状に含んだ暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。

図示できた遺物は甕(783), 鉢(784・785)である。784は外面叩き目痕が残る。内面はハケとユビオサエにより調整がみられる。783は口縁部が欠損している。底部は丸底で胴部は球胴状を呈する。外面には叩き目が認められ、ハケ調整が施される。内面はハケとユビナデが認められる。785は底部は丸底で外面には口縁部まで叩き目が認められ、体部下半は縦方向のハケ調整が施される。内面はハケとナデ調整がみられる。786は外面は摩耗のため調整は不明瞭であるが、内面はユビナデが施される。

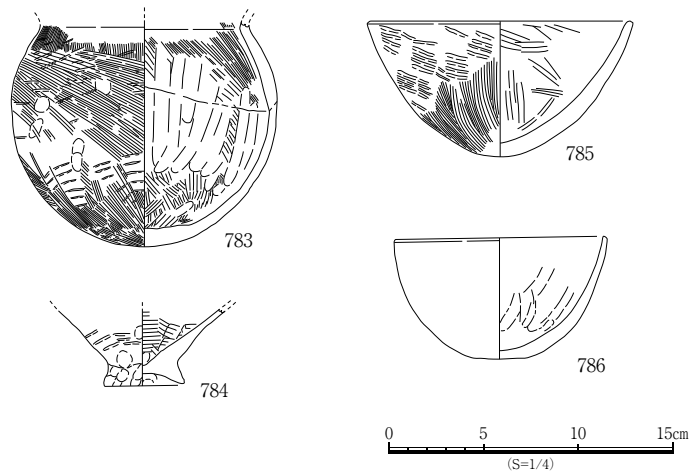


図4-269 P62出土遺物実測図

⑦ 性格不明遺構

SX25(図4-267)

調査区中央部南にあり、SD155の東側に接する。平面形は不整形で、直径3.6m、深さは10cmで断面形は皿状を呈する。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)粘性土である。遺物は土師質土器、瓦質土器、須恵器、弥生土器などが出土しているが、図示できるものはなかった。SD155に付随する遺構の可能性も考えられる。

SX28(図4-267)

調査区中央東にあり、SD155の東側に接する。平面形は円形状で径は約4.2m、深さは44cmで断面形は舟底状を呈する。埋土は灰褐色(4.5YR4/2)粘性土に風化礫を含む。ほぼSD155と同一埋土であり、付随する遺構の可能性も考えられる。遺物は土師質土器片などが出土しているが、図示できるものはなかった。

SX29

調査区中央西部に位置する。SD154を切る。平面形は方形状で、長軸1.3m、短軸1.0m、深さ43cmを測る。断面形は箱状を呈する。遺物では近世陶磁器などが多く出土している。

SX30(図4-270・271)

調査区北東隅において検出した。ST13と同じく調査区東部を縦断するSD156によって切られる。南北2.4m以上、東西3.8m以上を測り、遺構の北半分は調査区外に続く。平面形は隅丸方形状を呈すると考えられる。遺構検出面から床面までの深さは約8cmであり、埋土は小礫を多く含む黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。遺構の北西部では焼土を確認し、床面でピット2基を検出した。竪穴建物跡の可能性も考えられるが、ここではSXとして報告する。

図示できた遺物は土師器皿(790), 須恵器杯(787・788), 弥生土器甕(789)である。790は底部内面には螺旋状の暗文, 口縁部にかけては放射線状のヘラミガキが全面に廻る。外面は底部にヘラ削り, 底部から口縁部にかけてはヘラ磨きを施す。788は須恵器の杯で, 内外面は底部には回転ヘラ切り痕が認められ, 内外面はナデ調整を施す。787も同様に体部から口縁部にかけてナデ調整がみられる。789は

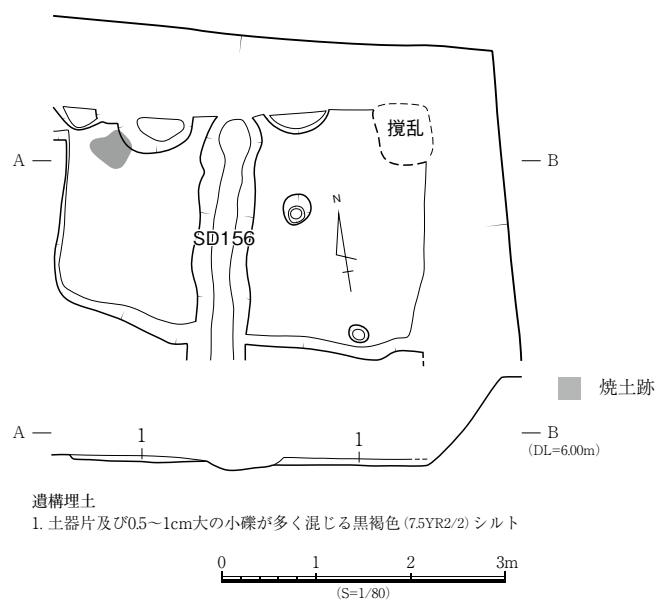


図4-270 SX30

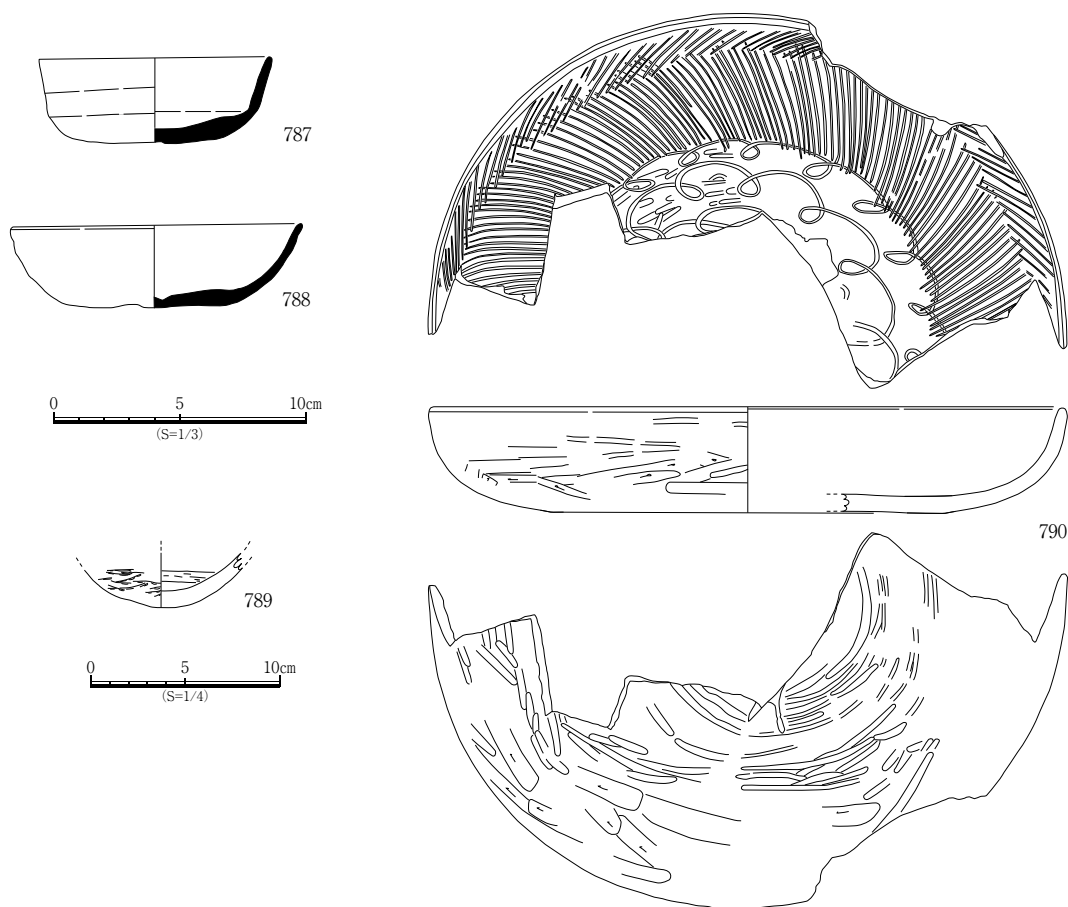


図4-271 SX30出土遺物実測図

4. ⅢB-1区 (2) 検出遺構と遺物

丸底を呈し、外面に叩き目が認められる。内面はヘラ削りを施す。

遺物觀察表

凡例

1. 法量は土器を基準にcmで示しているが、土製品・石製品・金属製品の場合は口径が全長(cm)、器高が全幅(cm)、底径が全厚(cm)、銭貨の場合は口径が銭径(cm)、器高が内径(cm)、底径が銭厚(cm)と読み替えている。それ以外の値については、特徴または本文中に記している。カッコ付きの数値は残存値を示している。
2. 中世の土器・陶磁器の分類については、『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編を参考にしてている。

Π C ☒

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
1	SB1 P3	土師質土器 杯	—	(2.9)	9.5	精良	底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕が残る。	
2	〃 P10	〃 〃	13.9	(3.4)	—	細粒砂	器面には回転ナデを施す。	
3	〃 〃	〃 〃	—	(2.1)	7.8	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
4	〃 P11	〃 小皿	8.0	1.1	4.8	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
5	SB2 P3	〃 杯	—	(1.2)	6.5	〃	底部切り離しは回転糸切り。	
6	〃 〃	〃 〃	—	(2.1)	7.2	〃	底部切り離しは回転糸切り。	
7	〃 〃	〃 小皿	6.5	1.4	4.9	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
8	〃 〃	〃 〃	6.8	1.5	5.0	細粒～ 中粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
9	〃 〃	〃 〃	8.2	1.3	5.9	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
10	〃 P4	〃 杯	13.0	3.9	7.6	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
11	〃 〃	〃 〃	13.6	4.1	8.2	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
12	〃 〃	〃 〃	14.4	3.9	7.6	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
13	〃 〃	〃 〃	14.6	4.2	7.7	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部外面には板状圧痕が残る。	
14	〃 〃	〃 〃	16.0	4.0	9.3	極細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
15	〃 〃	〃 〃	—	(2.7)	7.6	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデ調整が認められる。	
16	〃 〃	〃 〃	—	(1.9)	8.6	〃	底部切り離しは回転糸切り。	
17	〃 〃	〃 小皿	7.2	1.3	5.4	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
18	〃 〃	〃 〃	7.4	1.3	5.7	細粒～ 中粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部外面には板状圧痕が残る。	
19	〃 〃	〃 〃	7.5	1.5	4.6	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
20	〃 〃	〃 〃	7.5	1.4	5.8	細粒～ 中粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
21	〃 〃	〃 〃	7.5	1.7	5.5	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデ調整が認められる。	
22	〃 〃	〃 〃	7.6	1.5	5.2	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
23	〃 〃	〃 〃	7.5	1.6	5.6	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
24	〃 〃	〃 〃	7.6	1.5	5.6	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
25	〃 〃	〃 〃	7.9	1.3	6.3	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部外面には板状圧痕が残る。	

遺物観察表2

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
26	SB2 P4	土師質土器 小皿	8.0	1.5	5.8	細粒～ 中粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
27	〃 P5	〃 杯	15.8	3.6	9.4	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
28	〃 〃	〃 小皿	6.8	1.7	4.6	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
29	〃 〃	〃 〃	7.0	1.7	5.5	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
30	〃 〃	〃 〃	7.6	1.4	5.5	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
31	〃 P10	〃 杯	13.3	4.1	6.2	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
32	SK2	石製品 砥石	(7.6)	4.6	3.4	〃	四面とも使用痕が認められ、石材は泥岩とみられる。	重量 (217.1) g
33	SK6	土師質土器 杯	—	(1.9)	7.9	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
34	SK8	〃 〃	12.6	4.0	6.6	精良	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
35	SK10	〃 小皿	8.2	1.7	4.4	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
36	SK14	〃 杯	—	(3.2)	6.4	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
37	SK17	〃 〃	—	(1.9)	8.0	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
38	〃	〃 小皿	7.9	1.4	6.2	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
39	〃	〃 鍋	—	(6.9)	—	細粒砂～ 小礫	器面にはヨコナデを施し、胴部外面には叩き目が残る。口辺部内面と外面全体には煤が付着。	
40	SD1	〃 杯	—	(2.8)	6.8	細粒～ 粗粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面の一部に回転ナデを施す。	
41	〃	〃 〃	—	(1.4)	8.1	細粒砂	底部切り離しは回転糸切り	
42	SD2	〃 〃	16.2	(3.8)	—	細粒～ 中粒砂	器面には回転ナデを施す。	
43	〃	〃 〃	—	(2.8)	7.9	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
44	〃	〃 〃	—	(1.7)	8.1	〃	底部切り離しは回転糸切り	
45	〃	〃 小皿	7.9	1.2	6.0	細粒～ 中粒砂	底部切り離しは回転糸切り	
46	SD3	〃 杯	13.6	3.9	6.6	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
47	〃	〃 〃	—	(2.0)	6.8	〃	底部切り離しは回転糸切り	
48	SD8	〃 〃	12.9	3.8	8.0	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
49	〃	〃 〃	—	(2.1)	5.6	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
50	〃	〃 〃	—	(2.2)	6.2	細粒～ 粗粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
51	SD8	土師質土器 杯	—	(2.9)	6.0	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
52	〃	〃 〃	—	(1.7)	6.4	〃	底部切り離しは回転糸切り。	
53	〃	〃 〃	—	(1.8)	6.5	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
54	〃	〃 〃	—	(2.2)	6.6	精良	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
55	〃	〃 〃	—	(1.8)	8.5	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
56	〃	〃 小皿	7.1	1.7	5.2	細粒～ 粗粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
57	〃	〃 〃	8.3	1.8	6.4	細粒砂	歪みが大きく、底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部外面には板状圧痕が認められる。	
58	P1	〃 杯	—	(2.8)	7.0	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。体部内面下端に縦方向の条線有り。	
59	〃	〃 〃	—	(2.8)	7.0	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
60	P2	〃 〃	—	(2.9)	7.3	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整とタールの付着が認められる。	
61	P3	〃 小皿	7.0	1.6	4.3	精良	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
62	P4	〃 杯	12.1	4.0	5.1	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
63	P5	〃 小皿	7.9	1.6	4.9	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
64	P6	〃 〃	7.7	1.6	5.2	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
65	〃	〃 〃	8.1	1.7	4.2	〃	底部切り離しは回転糸切り。器面には回転ナデを施し、口縁端部にタールの付着、底部外面には板状圧痕が認められる。	
66	P7	〃 杯	—	(2.3)	5.6	〃	底部切り離しは回転糸切り。	
67	P8	〃 〃	13.8	3.8	6.9	細粒～ 中粒砂	歪みが大きく、底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
68	〃	〃 〃	15.2	4.3	6.4	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
69	P9	〃 小皿	7.0	1.3	4.6	細粒砂	底部切り離しは回転糸切り。	
70	P10	〃 杯	—	(2.2)	8.3	精良	底部切り離しは回転糸切り	
71	〃	〃 小皿	8.0	1.8	4.7	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
72	〃	石製品 砥石	(6.8)	(3.5)	(2.6)		片側を欠損し、石材は砂岩	重量 (74.3) g
73	P11	土師質土器 杯	13.6	4.2	6.6	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
74	P12	〃 小皿	7.3	1.5	5.8	〃	器面には回転ナデを施す。	
75	P13	〃 杯	13.1	4.1	7.3	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	

遺物観察表4

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
76	P13	土師質土器 小皿	6.7	1.4	4.8	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
77	P14	〃 〃	7.8	1.5	5.6	細粒～ 中粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
78	P15	〃 〃	7.3	1.1	5.4	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
79	P16	〃 杯	14.6	4.0	8.4	細粒砂	摩耗のため調整は不明。	
80	〃	〃 小皿	8.0	1.9	5.1	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。	
81	P17	〃 〃	8.2	1.6	5.9	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
82	〃	〃 〃	8.2	1.5	6.2	〃	摩耗のため調整は不明。	
83	P18	〃 杯	—	(3.3)	7.0	細粒～ 中粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
84	〃	〃 〃	—	(1.9)	9.6	〃	底部切り離しは回転糸切りで、底部外面には板状圧痕が認められる。	
85	〃	〃 小皿	8.0	1.4	5.4	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整、底部外面には板状圧痕が認められる。	
86	〃	〃 〃	9.6	1.6	7.1	〃	底部切り離しは回転糸切り。	
87	P19	〃 杯	—	(2.8)	7.8	細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、内面には丁寧なナデ調整が認められる。	
88	P20	〃 〃	—	(2.2)	7.6	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
89	〃	〃 〃	—	(2.1)	8.1	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
90	〃	〃 小皿	7.4	1.3	5.3	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施し、底部外面には板状圧痕が認められる。	
91	P21	〃 杯	—	(2.9)	5.6	極細粒砂	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
92	P22	〃 〃	13.1	3.9	6.3	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
93	I 層	金属製品 銭貨	2.5	2.0	0.2		寛永通宝。	

Ⅲ A 区

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
1	SB6 P7	土師質土器 皿	13.7	(3.1)	—	精土	手づくね成形。口縁部内外面横方向のナデ調整, 内面は丁寧なナデ調整, 体部外面は指頭圧痕が顕著。	
2	SB6 P9	〃 小皿	7.3	1.4	3.8	〃	手づくね成形。	
3	SB8 P6	〃 杯	14.7	3.4	8.8	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 内面は丁寧な横ナデがなされる。糸切り。	
4	SB8 P8	白磁 皿	11.6	(1.7)	—	精緻	口縁部を水平折りまげる。輪花を呈す。	
5	SB9 P4	土師質土器 小皿	8.3	1.5	5.4	精土	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
6	SB12 P2	〃 杯	10.2	4.1	5.7	〃	〃	
7	SB18 P1	〃 皿	13.2	(2.7)	—	〃	手づくね成形, 口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著, 内面は丁寧なナデ調整。	
8	SB19 P4	瓦器 碗	13.5	4.6	4.6	チャート粗 粒砂含む	内面に暗文, 外面には指頭圧痕。断面三角形の高台を有す。器壁が厚い。	
9	SA9 P3	土師質土器 小皿	7.6	1.8	4.9	精土	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
10	〃	〃 〃	7.7	1.3	5.6	〃	〃	
13	SK5	〃 皿	9.2	3.6	5.8	〃	手づくね成形, 内外横方向のナデ調整。	
14	〃	〃 〃	10.3	3.7	6.0	〃	〃	
15	SK7	〃 〃	15.2	3.5	7.3	〃	手づくね成形。口縁部内外面横方向の強いナデ調整, 体外面は指頭圧痕が顕著。内面はハケ状原体を用いたナデ調整。	
16	〃	〃 〃	14.4	(3.9)	—	〃	手づくね成形。口縁部内外面横方向のナデ調整, 体外面は指頭圧痕。内面はナデ調整。口縁部断面に粘土紐の接合痕。	
17	〃	〃 〃	16.7	(3.9)	—	〃	手づくね成形。口縁部内外面横方向のナデ調整(ハケ状原体使用か), 体部外面は指頭圧痕, 指紋が残る。内面は横方向ナデ調整。	
18	〃	〃 〃	15.4	3.0	11.0	精土(赤色風 化礫を含む)	手づくね成形。口縁部内外面はハケ状原体+指での横方向の強いナデ調整, 体部内面ナデ調整, 体部外面は指頭圧痕。	
19	SK8	〃 〃	14.0	4.0	8.2	精土	手づくね成形。口縁部内外面は横方向のナデ調整, 体部内面は横方向のナデ調整, 外面は指頭圧痕顕著。	
20	〃	〃 〃	15.1	3.1	10.4	〃	手づくね成形。口縁部内外はハケ状原体による横方向のナデ調整。体部内面ナデ調整, 外面は指頭圧痕が顕著。	
21	SK9	〃 〃	13.8	3.8	7.4	〃	手づくね成形。口縁部内外面は横方向の強いナデ調整, 体部内面は横方向のナデ調整, 外面は指頭圧痕顕著。	
23	SK10	〃 〃	13.2	(4.0)	—	〃	手づくね成形。口縁部内外面はハケ状原体による横方向のナデ調整。体部内面も同様のナデ調整, 外面は指頭圧痕。	
24	〃	〃 〃	14.3	(3.2)	—	〃	手づくね成形。口縁部内外面は横方向の強いナデ調整, 体部内面は横方向のナデ調整, 外面は指頭圧痕顕著。	
25	〃	〃 〃	13.8	(3.4)	—	〃	手づくね成形。口縁部外面は横方向の強いナデ調整, 内面は口縁部, 体部ともにナデ調整。	
26	〃	〃 〃	14.3	3.7	9.0	〃	手づくね成形。口縁部内外面は横方向ハケ+横方向ナデ調整, 体部外面は指頭圧痕, 体部内面は丁寧なナデ調整。	
27	〃	〃 〃	14.8	3.5	11.3	〃	手づくね成形。口縁部内外面はハケ状原体による横方向ナデ調整, 体部内外面に指頭圧痕。	
28	〃	〃 小皿	8.0	1.6	5.2	〃	手づくね成形。内面は丁寧なナデ調整, 外面は指頭圧痕。	

遺物観察表6

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
29	SK11	土師質土器 皿	13.0	(2.7)	—	精土	手づくね成形。口縁部外面は横方向の強いナデ調整, 内面は丁寧なナデ調整。体部外面は指頭圧痕が顕著。	
30	〃	〃 〃	14.4	3.0	8.8	精土(赤色風 化礫含む)	手づくね成形。口縁部外面は横方向のナデ調整, 体部内外面ナデ調整。	
31	〃	青磁 碗	14.0	(4.4)	—	灰色堅緻	口縁部は外反し端部はやや肥厚する。緑濁色の釉。	
32	SK14	土師質土器 小皿	7.1	1.9	3.4	精土	手づくね成形。内面へラ磨き, 外面ナデ調整。	
33	〃	〃 皿	13.3	4.1	5.9	〃	手づくね成形。口縁部内外面ハケ状原体による横方向のナデ調整, 体部内面は丁寧なナデ調整, 体部外面は指頭圧痕。	
34	〃	〃 〃	11.8	3.8	5.1	〃	手づくね成形。口縁部内外ハケ状原体による横方向のナデ調整, 体部内面は丁寧なナデ調整, 体部外面は指頭圧痕が顕著, 指紋もみえる。	外低〜口 縁部に煤 け
35	〃	〃 〃	14.1	3.5	6.0	〃	手づくね成形。口縁内外面と体部内面はハケ状原体による横方向のナデ調整, 体部外面は指頭圧痕が顕著。	
36	〃	〃 〃	13.6	3.8	7.8	〃	手づくね成形。口縁部内外面横方向のナデ調整, 体部外面指頭圧痕顕著。体部内面は丁寧なナデ調整。	
37	〃	〃 〃	14.4	(4.0)	—	チャート小 礫含む	手づくね成形。口縁部内外面横方向のナデ調整, 体部外面指頭圧痕顕著。体部内面はナデ調整。	
38	SK14	〃 〃	14.7	3.7	—	精土	手づくね成形。口縁部外面は横方向のナデ調整, 体部内面横方向のナデ調整, 体部外面指頭圧痕顕著。	
39	〃	〃 〃	12.7	(3.3)	—	〃	手づくね成形。口縁部内外面はハケ状原体による横方向のナデ調整, 体部内面は横方向のナデ調整, 体部外面は指頭圧痕顕著。	
40	〃	〃 〃	14.1	4.2	8.3	〃	口縁部内外面横方向のナデ調整, 体部内面は不定方向のナデ調整, 体部外面指頭圧痕あり。	
41	〃	〃 〃	13.7	3.1	7.9	〃	手づくね成形。口縁部外面と体部内面横方向のナデ調整, 体部外面は指頭圧痕が顕著。	
42	〃	〃 〃	14.1	3.5	9.4	〃	手づくね成形。口縁部内外はハケ状原体による横方向のナデ調整。体部内面丁寧なナデ調整, 外面は指頭圧痕顕著。	
43	〃	〃 〃	14.0	4.2	8.4	精土(赤色風 化礫含む)	手づくね成形。口縁部外面は横方向のナデ調整(ハケ+指ナデ調整)により段状を呈す。内面はハケ状原体によるナデ調整。	
44	〃	瀬戸 灰釉皿	—	(2.6)	—	灰褐色 粗い胎土	薄黄緑色の釉。	
46	SK17 床面	土師質土器 皿	13.8	3.1	10.4	精土	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著, 内面は丁寧なナデ調整。	外面・外底 が煤ける。
47	SK17	〃 〃	14.4	2.4	10.8	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著, 内面はナデ調整。	
48	〃	〃 〃	13.6	3.0	8.5	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著。	
49	〃	〃 〃	14.0	3.9	9.6	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕, 内面はナデ調整。外底に平行圧痕, 大きな黒斑あり。	
50	〃	〃 〃	12	3.6	7	〃	手づくね成形。口縁部内外はハケ状原体による横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著。	
51	〃	瀬戸 大皿	29.6	(2.8)	—	灰色精緻な 胎土	薄緑色の釉。外面にロクロ目顕著。	
52	〃	土錘	—	—	—	精土	長さ4.8cm, 径2.1cm, 重さ14.6g, 0.6cmの円孔を有す。	
53	〃	土師質土器 杯	—	(3.1)	5.2	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
54	SK17 ・18	〃 〃	6.1	2.3	4	〃	〃	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
55	SK17 ・18	土師質土器 皿	12.6	3.0	8.6	精土	手づくね成形。口縁部内外面横方向のナデ調整, 体部外面は指頭圧痕顕著, 内面はナデ調整。	外面煤け
56	〃	備前 甕	—	(5.7)	50	粗粒砂 多く含む	内外面はナデ調整。	
57	〃	土鍾	—	—	—	精土	長さ4.2cm, 径1.0cm, 重さ4.2g, 0.5cmの円孔を有す。	
58	SK18	〃	—	—	—	〃	長さ3.0cm, 径1.3cm, 重さ2.7g, 0.5cmの円孔を有す。	
59	〃	〃	—	—	—	〃	長さ4.2cm, 径1.5cm, 重さ6.7g, 0.5cmの円孔を有す。	
60	SK20	土師質土器 小皿	6.7	1.5	4.8	〃	ロクロ成形。内外横ナデ調整, 糸切り。	
61	〃	〃 〃	7.2	1.5	4.4	〃	ロクロ成形。内外横ナデ調整, 糸切り。体部内外面に指頭圧痕あり。	
62	〃	〃 〃	7.1	1.5	5.2	〃	ロクロ成形。内外横ナデ調整, 糸切り。	
63	〃	〃 皿	12.9	(3.6)	—	〃	手づくね成形。口縁部内外面は横方向のナデ調整, 内面はハケ+ナデ調整, 体部外面は指頭圧痕が顕著。	
64	SK25	瓦質土器 羽釜	19.8	(5.6)	胴径 23.0	〃	口縁部内外強い横方向のナデ調整, 内面には下地に横ハケが見られる。胴部外面に削りあり。	
65	SK28	土師質土器 小杯	7.2	1.8	5.1	〃	ロクロ成形。内外横ナデ調整, 糸切り。	内外面煤が 付着
66	SK29	土製品 土鍾	—	—	—	〃	長さ4.3cm, 径1.7cm, 重さ11.1g, 0.5cmの円孔を有す。	
67	SK30	土師質土器 皿	13.4	5.2	9.3	〃	手づくね成形。口縁部外面横方向の強いナデ調整, 体部内面・内底はハケ状原体による横方向ナデ調整, 外面は指頭圧痕顕著。外底平行圧痕。	
68	〃	〃 〃	13.5	3.8	9.4	〃	手づくね成形。口縁部内外面ハケ状原体による横方向のナデ調整, 体部外面は指頭圧痕顕著。	
69	〃	〃 〃	12.5	3.6	8	〃	手づくね成形。口縁内外面横方向の強いナデ調整, 外面は段上をなす。体部外面は指頭圧痕顕著。	
70	〃	〃 〃	14.1	4.0	9.5	〃	手づくね成形。口縁内外面横方向の強いナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著。	
71	〃	〃 〃	12.7	3.4	9.2	〃	手づくね成形。口縁部外面ハケ状原体による横方向のナデ調整, 体部内面ナデ調整, 外面は指頭圧痕が顕著。	
72	〃	〃 〃	13.4	3.8	9.2	〃	手づくね成形。口縁部外面ハケ状原体による横方向のナデ調整, 体部内面は丁寧なナデ調整, 外面は指頭圧痕が顕著。	
73	〃	〃 〃	14.9	4.3	9.9	〃	手づくね成形。口縁内外面横方向の強いナデ調整, 内面はハケ状原体による横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕。	
74	〃	〃 小皿	7.6	1.9	5.5	〃	手づくね成形。内外ナデ調整。	
75	〃	〃 〃	7.6	2.0	4.8	〃	〃	
76	〃	〃 〃	6.9	1.9	4.3	〃	〃	
77	〃	瀬戸 大皿	—	—	15.0	〃	内面に灰釉, 目跡が見られる。	
78	SK31	土師質土器 小皿	6.2	1.9	3.8	〃	ロクロ成形。内外横ナデ調整, 糸切り。	
79	〃	〃 杯	12.8	(4.0)	—	〃	口縁部内外面強い横方向のナデ調整, 体部内外面は指頭圧痕顕著。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
80	SK31	土製品 土錘	—	—	—	精土	長さ5.2cm, 径1.7cm, 重さ18.8g, 0.8cmの円孔を有す。ところどころ指圧痕あり。	
81	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.3cm, 径1.5cm, 重さ7.4g, 0.5cmの円孔を有す。	
82	SK32	土師質土器 杯	6.7	1.5	5.3	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
83	SK33	白磁 小皿	10.6	(1.8)	—	〃	透明釉。	
84	SK34	土師質土器 皿	14.2	3.8	8.1	〃	手づくね成形, 口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著。	
85	〃	〃 〃	12.4	3.7	—	〃	〃	
86	SK35	〃 〃	11.7	3.7	7.2	〃	手づくね成形。丁寧なナデ調整。	
87	〃	〃 〃	11.4	2.0	7.9	チャート粗 粒砂含む	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著。	
88	〃	〃 〃	10.6	2.0	6.8	精土	〃	
89	SK38	〃 〃	13.8	3.1	7.6	〃	〃	
90	〃	〃 小皿	8.4	2.6	3.8	〃	手づくね成形。内外ナデ調整。	
91	〃	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ3.2cm, 径1.6cm, 重さ7.4g, 0.4cmの円孔を有す。	
93	SK43	土師質土器 皿	13.7	3.4	9.1	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕が顕著。	
94	〃	〃 〃	13.0	(3.6)	(7.5)	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著。口縁部内面は県取り。	
95	〃	〃 〃	13.5	3.7	8.7	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整, 強いナデ調整により口縁部外面は段状を呈す。体部外面は指頭圧痕顕著。	
96	〃	青磁 碗	14.0	(2.6)	—	灰色精緻	緑色の釉が厚くかかる。内外面片切り彫りによる文様が描かれる。	
97	〃	瓦質土器 播鉢	28.2	(10.0)	—	精土	口縁部は凹状, 外面はナデ調整を基調とし指頭圧痕が見られる。条線は5本単位。	
98	〃	備前焼 大甕	—	(7.4)	—	〃	口縁部玉縁, 内外面横方向のナデ調整。	
99	SK44	土師質土器 皿	14.6	3.6	10.0	〃	手づくね成形。口縁部外面ハケ状原体による横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕顕著。内面は横方向のナデ調整。	
100	〃	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ3.5cm, 径1.1cm, 重さ4.2g, 0.4cmの円孔を有す。	
101	SK46	〃 〃	—	—	—	〃	長さ5.5cm, 径3.7cm, 重さ43.6g, 0.7cmの円孔を有す。	
102	SK48	土師質土器 小杯	6.8	1.9	4.2	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
103	SK53	〃 皿	13.7	3.0	9.0	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕。	
104	〃	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ5.1cm, 径1.8cm, 重さ15.3g, 0.6cmの円孔を有す。	
105	SK54	土師質土器 皿	9.2	2.2	7.4	〃	手づくね成形, 内外横方向のナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
107	SK55	土師質土器 小皿	7.1	1.5	3.0	精土	手づくね成形。外面に指頭圧痕とともにハケ状原体による圧痕あり。	
108	〃	〃 皿	15.8	3.4	10.0	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向の強いナデ調整。体部外面は指頭圧痕。内面は横方向のハケ、内底はナデ調整。	
109	SK37	〃 杯	12.5	3.7	7.1	〃	ロクロ成形。口縁部外面ハケ状原体による横ナデ調整、内面はハケ＋ナデ調整、糸切り。円盤状高台を有す。	
110	SK58	〃 皿	15.8	4.3	－	粗粒砂 多く含む	手づくね成形。口縁部内外横方向の強いナデ調整。体部外面は指頭圧痕。内面は横方向のナデ調整。	
111	〃	〃 〃	15.6	4.0	7.8	精土	手づくね成形。口縁部内外面ハケ状原体による横方向のナデ調整。体部外面は指頭圧痕。内面はナデ調整。	
112	〃	〃 杯	8.9	3.1	3.1	〃	ロクロ成形、内外面横ナデ調整、ヘラ切り。	
113	〃	土製品 土錘	－	－	－	〃	長さ5.2cm、径2.3cm、重さ18.3g、0.8cmの円孔を有す。	
114	SK59	〃 〃	－	－	－	〃	長さ5.9cm、径2.3cm、重さ28.6g、0.6cmの円孔を有す。	
115	〃	瓦質土器 羽釜	27.5	(4.7)	－	〃	内外横方向のナデ調整。口縁部下に台形状の鰐。	
116	SK62	土師質土器 杯	9.4	2.6	5.9	〃	ロクロ成形、内外面横ナデ調整、糸切り。	
117	SK63	〃 小杯	6.9	1.8	5.1	〃	〃	
118	〃	〃 〃	6.9	1.9	5.0	〃	〃	
119	〃	〃 〃	6.3	1.6	4.3	〃	〃	
120	〃	〃 〃	6.8	1.9	4.5	〃	〃	
121	〃	〃 杯	－	(2.7)	7.1	〃	〃	
122	〃	〃 〃	－	(4.9)	6.8	精土(赤色風 化礫を含む)	〃	
123	〃	〃 小杯	7.8	1.6	5.5	精土	〃	
124	〃	瓦質土器 鍋	23.4	(7.1)	胴径 25.2	〃	口縁部内外面及び体部内面は横方向のナデ調整、外面指頭圧痕がみられる。	胴部外面 煤ける
125	〃	〃 〃	22.0	(5.6)	－	〃	口縁部内外面及び体部内面は横方向のナデ調整、外面指頭圧痕、指紋の残るものあり。	
126	SK63	土製品 土錘	－	－	－	〃	長さ5.7cm、径2.7cm、重さ41.5g、0.7cmの円孔を有す。	
127	SK67	〃 〃	－	－	－	〃	長さ4.9cm、径2.0cm、重さ15.0g、0.7cmの円孔を有す。	
128	SK69	土師質土器 皿	11.5	2.3	7.8	チャート 粗粒砂含む	手づくね成形。丁寧な内外ナデ調整。	
130	SK70	〃 杯	－	(3.2)	7.0	精土	ロクロ成形。内外横方向のナデ調整、糸切り。外面底部付近は横ハケ＋横方向のナデ調整。	
131	SK71	〃 皿	13.9	4.1	9.8	精土(赤色風 化礫を含む)	手づくね成形。口縁部内外面は横ハケ＋横方向のナデ、体部内面も横ハケ＋横方向のナデ調整、体部外面は指頭圧痕。	
132	SK72	〃 杯	11.4	5.1	6.1	精土	ロクロ成形、内外面横ナデ調整、糸切り。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
133	SK76	土師質土器 杯	11.5	3.5	7.2	精土(赤色風 化礫を含む)	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。内底には黒色物が 付着。	
134	〃	瓦質土器 羽釜	23.3	(5.7)	—	チャートの小 礫を含む	口縁部内外面横方向の強いナデ調整。断面三角形のしっか りした鐙が巡る。体部外面は指頭圧痕顕著, 内面横方向のナ デ調整。	体部外面 激しく煤 ける
135	〃	〃 〃	—	(5.3)	—	チャートの粗 粒砂を含む	口縁部内外面横方向の強いナデ調整。口唇部面取り, 幅 1 cm の鐙が巡る。	
136	SK83	土師質土器 皿	9.3	2.7	6.4	精土	手づくね成形。口縁部内外面横方向のナデ調整, 内面は丁寧 なナデ調整。	
137	〃	〃 〃	9.7	3.1	5.6	〃	手づくね成形。内面は横方向のナデ調整, 底部外面には凹凸 あり。	外面～外 低は煤け
138	〃	〃 〃	9.5	2.9	5.6	〃	手づくね成形, 口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指 頭圧痕顕著, 内面はナデ調整。	
139	SK86	〃 杯	11.8	3.2	7.4	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
140	〃	東播系須恵器 捏ね鉢	28	(7.2)	—	粗流砂 が入る	内面はハケ状原体による横方向のハケ調整。外面横方向の ナデ調整。	
141	SK87	土師質土器 皿	14.6	4.3	9.7	精土	手づくね成形。口縁部外面は横方向の強いナデ調整, 内面は 横方向を基調とするナデ調整。体部外面指頭圧痕顕著。	
142	〃	〃 〃	15.0	4.3	7.9	精土(赤色風 化礫含む)	手づくね成形, 口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指 頭圧痕顕著。	
143	〃	〃 〃	15.3	4.4	8.7	精土	手づくね成形。口縁部外面は横方向の強いナデ調整, 内面は 横方向を基調とするナデ調整(下地にハケあり)。体部外面 指頭圧痕顕著。	
144	〃	〃 〃	14.2	(3.8)	—	〃	手づくね成形, 口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指 頭圧痕顕著。	
145	〃	〃 〃	15.9	3.3	10.0	〃	手づくね成形, 口縁部外面ハケ状原体による横方向のナデ 調整により段をなす。体部外面は指頭圧痕顕著。	
146	〃	〃 〃	15.3	4.6	8.5	〃	手づくね成形, 口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指 頭圧痕顕著。内面は丁寧なナデ調整。	
147	〃	〃 〃	15.8	4.5	9.4	〃	手づくね成形, 口縁部内外面ハケ状原体による横方向のナ デ調整。体部内面はハケ+ナデ調整, 外面は指頭圧痕顕著, 外底は平行圧痕。	
148	〃	〃 〃	16.8	4.1	10.4	〃	口縁部外面は横方向のナデ調整, 体部との堺に稜が生じる。 内面は横方向のハケ+ナデ調整, 体部外面は指頭圧痕顕著。	
149	〃	〃 〃	15.6	4.0	10.2	〃	手づくね成形, 口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指 頭圧痕顕著。内面は丁寧なナデ調整。	
150	〃	瓦質土器 播鉢	27.7	(7.4)	—	〃	内面横方向のナデ調整, 外面は指頭圧痕顕著。内面条線を5 条まで認める。口唇部面取り。	
151	SK91	土師質土器 杯	—	(2.5)	8.2	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
152	SK92	〃 〃	14.3	3.9	7.4	〃	〃	
153	〃	〃 〃	12.0	3.5	6.6	〃	〃	
154	〃	〃 〃	—	(1.7)	7.3	〃	〃	
155	〃	〃 〃	—	(3.2)	6.0	〃	ロクロ成形, 足高台。内外面横ナデ調整, 糸切り。	
156	〃	〃 〃	—	(1.7)	7.0	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。外底に平行圧痕が 認められる。	
157	〃	〃 小杯	6.2	1.2	4.2	〃	〃	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
158	SK92	土師質土器 小杯	8.5	1.6	5.2	〃	ロクロ成形, 内外面横方向のナデ調整, 糸切り。外底に平行 圧痕あり。	
159	〃	〃 〃	8.0	1.9	4.8	〃	〃	
160	〃	〃 〃	7.6	1.3	5.4	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。焼成後に口縁部を 意識的に鋸歯状に打ち欠いている。	
161	〃	〃 〃	7.5	1.2	5.8	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
162	〃	〃 碗	14.7	5.3	5.7	赤色風化礫 含む	ロクロ成形, 外面ロクロ目顕著。内面はナデ+ミガキ, 円盤 状高台を有し糸切り。内面ベンガラ塗布。	
163	SK98	〃 皿	9.1	(2.5)	—	精土	手づくね成形, 口縁部内外横方向のナデ調整。体部外面は指 頭圧痕顕著。	
165	SK101	瓦質土器 鍋	20.9	(5.7)	—	チャート 砂礫含む	口縁内外面横方向のナデ調整, 胴部外面は指頭圧痕顕著。	
166	SK105	土師質土器 杯	15.4	(4.6)	—	精土	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整。	
167	〃	瓦質土器 鍋	—	(4.1)	—	〃	口縁内外面横方向のナデ調整, 口唇部は凹状を呈する。口縁 部外面に沈線あり。	
168	SK108	土師質土器 皿	13.9	(3.5)	—	〃	手づくね成形。口縁部外面は横方向のナデ調整, 体部外面指 頭圧痕。	
169	〃	〃 〃	12.6	2.5	6.9	〃	〃	
170	〃	〃 〃	13.8	(2.1)	—	〃	手づくね成形。口縁部外面は横方向の強いナデ調整, 体部外 面指頭圧痕。	
171	SK110	〃 小杯	7.4	1.5	4.9	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
172	SK111	〃 皿	13.6	(3.6)	8.7	〃	手づくね成形, 口縁部内外面ハケ状原体による横方向のナ デ調整。体部内面は丁寧なナデ調整, 外面は指頭圧痕による 凹凸が激しい。	
173	〃	〃 〃	14.9	(3.8)	—	〃	手づくね成形。口縁部外面は横方向のナデ調整, 体部内面は 丁寧なナデ調整, 外面指頭圧痕。	
174	〃	白磁 碗	—	(2.4)	6.8	灰白色精緻	外面に削り痕が認められる。	
175	SK117	土師質土器 杯	—	(2.1)	7.8	精土	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
176	SK118	〃 〃	—	(2.6)	9.4	〃	〃	
177	SD1 (W) 中層	〃 〃	11.4	3.1	7.0	〃	〃	
178	〃	〃 〃	—	(2.9)	6.7	〃	〃	
179	〃	〃 〃	11.3	4.8	6.0	〃	〃	
180	〃	〃 〃	—	(2.2)	8.1	〃	〃	
181	SD1 (W) 上層	〃 碗	—	(1.7)	6.0	〃	ロクロ成形。円盤状高台。糸切り	
182	〃	〃 小皿	6.8	1.4	5.6	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。外底に平行圧痕。	
183	SD1 (W) 中層	青磁 碗	15.1	(4.8)	—	淡灰色 精土	内面は2条の沈線で区画を作り中に文様を描く。	龍泉窯

遺物観察表12

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
184	SD1 (W) 上層	青磁 碗	—	(3.5)	—	灰褐色精緻	透明度のある飴色の釉。口縁部内面に細い沈線、体部には文様の一部が見える。	龍泉窯
185	〃	〃 〃	—	(1.6)	5.2	灰色精緻	畳付まで施釉、外底に印刻花文。	龍泉窯
186	〃	〃 合子	—	(1.9)	—	灰色堅緻	受け部露胎。	
187	〃	白磁 壺	9.0	(3.5)	—	灰色精緻	口縁を下方向に拡張し断面三角を呈す。頸部に把手の剥離痕とともれる痕跡あり。水差しと考えられる。	
188	〃	〃 碗	19.2	(2.3)	19.0	白色 堅緻	玉縁状口縁を有する。	白磁Ⅳ類
189	〃 中層	須恵器 甕	35.4	(6.2)	—	精土	口縁部外面横ナデ。頸部外面横、胴部外面斜め方向の叩き目が認められる。	
190	〃 上層	常滑焼 甕	—	(3.8)	19.0	小礫を多く 含む	外面に凹凸が顕著に見られる。	
192	〃	土製品 土錘	—	—	—	精土	長さ4.7cm、径3.1cm、重さ43.5g、0.8cmの円孔を有す。	
193	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.8cm、径2.5cm、重さ24.3g、0.5cmの円孔を有す。	
194	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.2cm、径1.1、重さ4.2g、0.3cmの円孔を有す	
195	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.7cm、径1.5cm、重さ8.7g、0.5cmの円孔を有す。	
196	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ3.7cm、径1.2cm、重さ4.4g、0.3cmの円孔を有す。	
197	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ3.2cm、径1.0cm、重さ2.8g、0.3cmの円孔を有す。	
198	〃	備前焼 播鉢	28.2	11.2	12.8	〃	口唇部は面をなす。外面横方向のナデ調整。内面はナデ調整、7本単位の櫛目。	
199	〃	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ4.6cm、径5.9cm、重さ162.3g、1.0cmの円孔を有す。	
200	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.1cm、径1.4cm、重さ6.6g、0.5cmの円孔を有す。	
201	SD1 (E) 上層	土師質土器 杯	—	(3.5)	8.4	〃	ロクロ成形、内外面横ナデ調整、糸切り。	
202	〃	瀬戸 大皿	—	(2.2)	15.5	粗い胎土	ロクロ成形。外面露胎土、内面灰釉。	
203	〃	〃 〃	—	(1.2)	11.2	精緻な胎土	内底はハケ調整、目跡あり。内面灰釉、外面露胎。	
204	〃	瓦質土器 鍋	14.6	(5.3)	胴径 18.4	精土	内面と口縁部外面は横方向のナデ調整、胴部外面は指頭圧痕が顕著。	
205	〃 下層	〃 〃	13.4	(5.7)	胴径 16.0	〃	内面と口縁部外面は横方向のナデ調整、胴部外面は指頭圧痕。口唇は凹状を呈する。外面に粘土紐の接合痕を認める。	
206	〃 中層	〃 羽釜	17.4	(8.0)	—	チャート 小礫含む	口縁部内外面横方向の強ナデ、断面三角形のしっかりした突帯を貼付、胴部外面はナデ調整を施すも指頭圧痕顕著。脚部の剥離痕を認む。	胴部外面 煤け
207	〃 上層	〃 〃	18.7	(4.9)	—	〃	口縁部内外面、鐙上下を横方向のナデ調整、断面三角形のしっかりした鐙を貼付。	〃
208	〃 中層	東播系 羽釜	23.5	(5.8)	—	精土	口縁部外面および鐙は横方向に強くナデ調整、内面はナデ調整。胴部外面平行叩き。	下層出土 片と接合
209	〃 上層	陶器 甕	—	(5.8)	—	〃	口縁部内外面横ナデ調整、体部内面指による縦方向ナデ。外面平行叩き。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
210	SD1 (E) 下層	東播系 羽釜	23.4	(7.7)	—	精土(角閃石 を含む)	口縁部内外・鏝上下は丁寧なナデ調整, 断面三角形のしっかりした鏝を有す。胴部外面は平行叩き。鏝からは激しく煤けがある。	
211	〃 中層	土師質土器 羽釜	13.0	(4.5)	—	精土	内外面丁寧なナデ調整。	
212	〃	備前焼 壺	—	(3.2)	—	粗粒砂 を含む	内外面横方向のナデ調整。	
213	〃	〃 大甕	—	(7.4)	—	〃	玉縁状口縁部を有す。内外面横方向のナデ調整, 胡麻ふり状の自然釉。	
214	〃	〃 播鉢	1.1	(5.3)	13.0	〃	内面は磨耗が激しい。9本単位の条線。外底に植物繊維状の圧痕あり。	
215	〃	〃 〃	—	(9.3)	—	精土	口縁部外面2条の凹線が見られる。胡麻ふり状の自然釉。	
216	SD2 下層	土師質土器 杯	—	(2.9)	8.0	〃	ロクロ成形。内外面横方向の強いナデ調整。糸切り。	
217	〃	瓦質土器 羽釜	26.0	(5.7)	—	〃	口縁部外面横方向のナデ調整, 口唇面取り, 断面三角の鏝, 胴部外面は指頭圧痕。内面ハケ調整。	外面煤け
218	SD3	土師質土器 杯	10.4	4.4	6.4	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整。糸切り。	
219	〃	〃 〃	—	(2.2)	7.4	〃	〃	
220	〃	〃 〃	—	(2.7)	7.0	〃	〃	
221	〃	瓦質土器 羽釜	(16.7)	(5.7)	2.2	チャートの粗 粒砂を含む	瓦質土器釜の脚部である。	煤ける
222	SD5	〃 鍋	20.0	(7.1)	16.5	精土	口縁部外反, 胴部外面指頭圧痕。	
223	〃	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ5.3cm, 径3.2cm, 重さ42.4g, 1.0cmの円孔を有す。	
224	SD8	土師質土器 小杯	5.8	1.9	3.6	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整。糸切り。	
225	〃	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ4.1cm, 径1.1cm, 重さ4.7g, 0.4cmの円孔を有す。	
226	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.1cm, 径1.2cm, 重さ3.1g, 0.4cmの円孔を有す。	
227	SD10	白磁 碗	—	(2.8)	5.6	精緻	高台内外面割り。	
228	SD12	土師質土器 小杯	7.2	2.4	3.8	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整。糸切り。	
229	〃	〃 〃	6.9	2.1	4.8	〃	〃	
230	〃	〃 杯	11.5	3.4	7.0	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 外面にコテ工具で押さえたような痕跡あり。糸切り。	
231	〃	〃 〃	11.5	3.8	6.7	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整。糸切り。	
232	〃	〃 〃	11.8	3.2	6.9	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整。糸切り。特に内面は丁寧なナデ調整がなされる。	
233	〃	〃 〃	—	(3.2)	6.2	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整。糸切り。	
234	〃	〃 〃	—	(2.3)	6.2	〃	〃	

遺物観察表14

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
235	SD12	青磁 皿	11.4	2.4	6.0	白色精緻	見込みに櫛目文。	
236	〃	白磁 碗	—	(3.3)	6.4	灰白色精緻	外面に削り痕が認められる。見込みに沈線、目跡あり。	
237	〃	土製品 土鍾	—	—	—	精土	長さ4.5cm, 径1.1cm, 重さ4.5g, 0.4cmの円孔を有す。	
238	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ3.9cm, 径1.1cm, 重さ4.1g, 0.4cmの円孔を有す。	
239	SD15	土師質土器 小皿	8.0	1.6	3.5	〃	手づくね成形。内外ナデ調整。	
240	〃	〃 小杯	7.2	1.7	4.8	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整。糸切り。	
241	〃	〃 杯	10.4	3.9	6.4	〃	〃	
242	〃	〃 皿	15.4	5.0	8.0	〃	手づくね成形。口縁部外面は横方向の強いナデ調整, 外面指頭圧痕。	
243	〃	土製品 土鍾	—	—	—	〃	長さ5.1cm, 径1.5cm, 重さ10.6g, 0.4cmの円孔を有す。	
244	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ6.0cm, 径1.6cm, 重さ9.5g, 0.4cmの円孔を有す。	
245	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ5.4cm, 径1.7cm, 重さ10.5g, 0.5cmの円孔を有す。	
246	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ5.5cm, 径1.5cm, 重さ8.3g, 0.4cmの円孔を有す。	
247	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ5.0cm, 径2.0cm, 重さ13.1g, 0.6cmの円孔を有す。	
248	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.3cm, 径1.1cm, 重さ5.3g, 0.3cmの円孔を有す。	
249	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.0cm, 径1.1cm, 重さ4.5g, 0.4cmの円孔を有す。	
250	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.3cm, 径1.2cm, 重さ5.5g, 0.5cmの円孔を有す。	
251	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.3cm, 径1.4cm, 重さ7.6g, 0.5cmの円孔を有す。	
252	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ3.7cm, 径1.5cm, 重さ9.0g, 0.4cmの円孔を有す。	
253	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ3.3cm, 径1.2cm, 重さ3.7g, 0.4cmの円孔を有す。	
254	SD18	土師質土器 甕	28.7	(6.9)	—	〃	口縁部外面横方向の強いナデ調整。体部外面上位は横方向ハケ調整, 以下は縦方向叩き。	外面煤け
255	〃	〃 杯	14.0	4.4	8.5	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
256	〃	〃 〃	16.9	4.6	8.6	〃	〃	
257	〃	〃 〃	14.7	4.6	7.5	〃	〃	
258	〃	〃 〃	15.0	4.1	8.3	〃	〃	
259	〃	〃 〃	13.2	4.2	7.0	〃	〃	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
260	SD18	土師質土器 杯	16.7	4.8	8.9	精土	〃	
261	〃	〃 〃	13.4	3.3	7.8	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
262	〃	〃 〃	—	(3.2)	8.0	〃	〃	
263	〃	〃 〃	—	(3.4)	7.4	〃	〃	
264	〃	〃 〃	—	(1.9)	8.2	〃	〃	
265	〃	〃 〃	—	(2.7)	7.2	〃	〃	
266	〃	〃 〃	—	(2.7)	7.1	〃	〃	
267	〃	〃 〃	—	(3.6)	7.2	〃	〃	
268	〃	〃 小皿	7.9	1.4	5.1	〃	〃	
269	〃	〃 〃	7.3	1.6	5.0	〃	〃	
270	〃	〃 〃	7.3	1.6	5.1	〃	〃	
271	〃	〃 〃	7.6	1.6	5.8	〃	〃	
272	〃	〃 〃	7.6	1.7	5.0	〃	〃	
273	〃	〃 〃	8.0	1.1	5.8	〃	〃	
274	〃	〃 〃	7.3	1.4	4.8	〃	〃	
275	〃	〃 〃	6.9	1.4	4.8	〃	〃	
276	〃	〃 〃	8.3	1.7	5.6	〃	外底に平行圧痕あり。	
277	〃	〃 〃	6.9	1.4	4.7	〃	〃	
278	〃	瓦器 碗	15.3	3.5	3.9	〃	口縁部外面横方向のナデ調整, 体部外面指頭圧痕。内面ヘラミガキ。断面蒲鉾状の比較的しっかりした高台が付く。	
279	〃	〃 〃	16.6	(3.5)	—	〃	〃	
280	SD23	青磁 碗	16.3	(2.7)	—	褐灰色精緻	口縁部内面に櫛目。	
281	SD24	土師質土器 杯	—	(2.3)	6.4	精土	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
282	SD25	〃 〃	—	(2.1)	6.7	〃	〃	
283	〃	〃 〃	—	(2.8)	6.9	〃	〃	
284	〃	〃 〃	—	(1.9)	7.2	〃	〃	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
285	SD25	土師質土器 小皿	7.3	1.5	5.0	精土	〃	
286	〃	瓦器 椀	—	(1.5)	4.4	石英・チャ ート含む	断面三角形のしっかりした高台。内外ナデ調整。	
287	〃	瓦質土器 壺	12.8	(2.9)	—	精土	口縁部は垂直に立ち上がり外面に指頭圧痕あり、口唇は強いナデ調整により凹状を呈す。胴部内面はハケ＋ナデ調整。	
288	〃	〃 鍋	22.6	(9.5)	胴径 24.3	チャート 砂粒含む	口縁部外面横方向のナデ調整、体部上半指頭圧痕顕著。	
289	〃	〃 〃	18	(8.3)	胴径 21.6	〃	口縁部内外横方向の強いナデ調整、体部外面指頭圧痕あり。	
290	〃	〃 〃	21.2	(4.4)	胴径 20.4	〃	口縁部内外横方向の強いナデ調整。	
291	〃	〃 〃	25.4	(5.4)	胴径 26.9	精土	口縁部内面ハケ調整、外面は横方向のナデ調整。	外面煤が激しく付着
292	〃	〃 羽釜	26.6	(6.6)	—	〃	口縁部内外横方向のナデ調整、断面三角の突帯が巡る。体部外面指頭圧痕あり、内面はナデ調整。	〃
293	〃	〃 〃	21.8	(4.7)	—	〃	口縁部は内傾して立ち上がり外面は横方向のナデにより段状を呈す。内面は横方向ハケ、胴部外面は削り。	
294	〃	常滑焼？ 甕	—	(6.3)	16.0	石英他 砂粒含む	外面、内底に自然釉。	
295	〃	白磁 碗	—	(2.2)	6.0	精緻	陶器風の焼成。見込みに印花文。	
296	SD26	土師質土器 杯	—	(2.0)	9.0	〃	ロクロ成形、内外面横ナデ調整、糸切り。	
297	SD29	瓦器 椀	17.7	(4.4)	—	〃	口縁部外面丁寧な横方向のナデ調整、外面指頭圧痕。	
298	SD30	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ4.4cm、径1.7cm、重さ9.9g、0.7cmの円孔を有す。	
299	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ(3.1)cm、径1.3cm、重さ(4.7)g、0.5cmの円孔を有す。	
300	SD34	瓦質土器 短頸壺	12.7	(3.4)	—	〃	内外面横方向のナデ調整。	
301	SD35	〃 鍋	24.5	(6.0)	—	〃	内外面横方向のナデ調整。	外面は激しく煤ける
302	SD37	土師質土器 杯	—	(3.1)	6.3	〃	ロクロ成形、内外面横ナデ調整、糸切り。	
303	SD38	東播系須恵器 捏ね鉢	—	(3.1)	6.5	〃	外面ナデ調整、糸切り底。	
304	〃	土師質土器 杯	12.7	4.4	6.1	〃	ロクロ成形、内外面横ナデ調整、糸切り。	
305	〃	〃 皿	10.0	2.5	7.3	〃	〃	
306	〃	瓦質土器 羽釜	13.7	(10.8)	—	チャート 砂粒含む	内湾して立ち上がる口縁部に1cm幅の鐙が直行する角度でつく。体部外面は指頭圧痕顕著。	外面は激しく煤ける
307	〃	〃 〃	14.1	(12.5)	—	〃	体部外面は指頭圧痕、その他の部位はナデ調整。	〃
308	〃	〃 〃	21.4	(5.9)	—	〃	口縁部に直行する形で幅1cmの鐙が巡る。体部外面には指頭圧痕。	鐙以下外面は煤ける
309	〃	〃 〃	19.5	(6.5)	—	〃	口縁部下に幅1cmの鐙が巡る。体部外面指頭圧痕。器表面の荒れが激しい。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
310	SD38	瓦質土器 羽釜	12	(6.1)	胴径 16.2	チャート 砂粒含む	口縁部・鏝は横方向のナデ調整, 胴部外面指頭圧痕。	
311	P1	土師質土器 小皿	7.5	1.7	5.2	精土	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
312	〃	〃 杯	13.2	3.7	5.3	〃	〃	内外面煤け
313	〃	〃 小皿	7.6	1.9	4.9	〃	〃	
314	〃	〃 〃	7.1	1.4	4.3	〃	〃	
315	P2	〃 皿	15.6	(3.4)	—	〃	手づくね成形。口縁部外面は横方向の強いナデ調整, 内面は横方向のナデ調整, 体部外面指頭圧痕。	
316	P3	〃 小皿	6.7	1.8	2.5	〃	手づくね成形。内面は丁寧なナデ調整。外面は指頭圧痕。	
317	P4	〃 〃	6.9	2.1	2.4	〃	〃	
319	P6	〃 〃	7.7	1.9	4.3	〃	〃	
320	P7	〃 杯	14.2	4.4	7.5	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
321	〃	〃 〃	—	(1.9)	7.1	〃	〃	
322	〃	〃 小皿	7.7	1.7	4.5	〃	〃	
323	〃	〃 〃	7.5	1.1	5.2	〃	〃	
324	〃	〃 〃	7.7	2.0	4.7	〃	〃	
325	P8	〃 杯	14.4	3.7	8.0	〃	〃	
326	P9	〃 〃	13.0	3.4	5.7	〃	〃	
327	〃	〃 小皿	7.4	1.5	5.1	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 内底は丁寧なナデ調整。糸切り。	
328	〃	〃 〃	8.1	1.6	5.8	〃	〃	
330	P10	〃 杯	16.0	4.1	8.8	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
331	〃	〃 〃	13.6	3.7	6.3	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 内底は丁寧なナデ調整。糸切り。	
332	P11	〃 小皿	8.0	1.7	5.7	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
333	P12	〃 小杯	7.0	1.6	4.2	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 内底は丁寧なナデ調整。糸切り。	
334	P13	〃 小皿	8.0	1.7	5.0	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
335	P14	〃 杯	12.4	3.8	6.3	〃	〃	
336	P15	〃 小杯	7.4	1.6	5.8	〃	〃	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
337	P16	土師質土器 小皿	8.0	1.5	5.7	精土	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
338	P17	〃	7.6	1.4	5.5	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
339	〃	〃 杯	14.7	4.1	9.2	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 内面は丁寧な横方向のナデ調整。糸切り。	
340	P18	〃 小皿	7.1	1.3	4.7	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
341	P19	〃	7.6	1.4	3.5	〃	手捏ね成形。内外横方向のナデ調整, 内面は丁寧に施す。	
342	P20	〃 杯	11.0	4.5	5.6	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
343	P21	〃 小皿	6.9	1.4	5.1	小礫 含む	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。内外面に黒色物付着。	
344	P22	青磁 碗	—	—	4.5	灰色やや粗 い胎土	透明度のある青灰色の釉, 疊付けにも施釉。	
345	P23	土師質土器 小皿	6.8	1.4	4.6	精土	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
346	〃	〃	6.5	1.6	4.8	〃	〃	
347	〃	〃	7.1	1.2	4.8	〃	〃	
348	P24	〃 杯	—	(3.0)	6.7	〃	〃	
349	P25	〃 小皿	6.8	1.4	4.6	〃	〃	
350	P26	瓦器 碗	8.6	3.2	4.3	〃	口縁部外面は横方向のナデ調整, 外面指頭圧痕。断面三角の高台。	
351	P27	土師質土器 杯	—	(3.3)	8.2	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
352	〃	〃 小皿	7.8	1.6	5.6	精土(赤色風 化礫含む)	〃	
353	P28	〃 杯	13.2	3.6	5.8	精土	〃	
354	P29	〃 小皿	8.5	1.2	5.6	〃	〃	
355	〃	〃 杯	—	(1.3)	6.6	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 内底は一定方向の横ナデ調整。糸切り。	
356	P30	青磁 碗	—	(3.1)	7.3	灰色 精緻	緑濁色の釉, 高台内釉掻き。	
357	P31	瓦器土器 羽釜	—	(15.9)	—	チャート小礫 多く含む	先端部欠落, 随所に指頭圧痕。	三足
358	P32	土師質土器 小杯	6.7	2.4	4.4	精土	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
359	P33	土錘	—	—	—	〃	長さ4.1cm, 径1.5cm, 重さ6.3g, 0.5cmの円孔を有す。	
360	P34	土師質土器 小杯	6.8	2.0	4.8	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
361	P35	土錘	—	—	—	〃	長さ4.6cm, 径1.6cm, 重さ8.1g, 0.6cmの円孔を有す。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
362	P36	土師質土器 杯	12.1	4.1	6.9	赤色風化礫 含む	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
363	P36	〃 〃	11.5	4.0	6.0	精土	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。底部外面に 長さ10cm, 幅7cm, 厚さ5cmの鉄塊が附着。錆で著しく膨張。	
364	P37	〃 小杯	7.2	2.0	4.5	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
365	〃	〃 〃	7.0	2.1	3.1	〃	〃	
366	P38	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ5.6cm, 径1.8cm, 重さ14.3g, 0.5cmの円孔を有す。	
367	P39	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.9cm, 径1.6cm, 重さ10.8g, 0.5cmの円孔を有す。	
368	P40	土師質土器 杯	14.5	(3.9)	9.6	〃	手づくね成形。口縁部内外面はハケ状原体で横方向の強い ナデ調整。体部内面は丁寧なナデ調整。外面は指頭圧痕。	
369	P41	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ4.7cm, 径3.0cm, 重さ40.8g, 0.8cmの円孔を有す。	
370	P42	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.3cm, 径2.7cm, 重さ29.3g, 0.8cmの円孔を有す。	
371	P43	土師質土器 皿	—	(3.0)	—	〃	手づくね成形。内外面横方向のナデ調整, 体部外面には指頭 圧痕。	
372	P44	〃 〃	7.2	1.8	3.8	〃	手づくね成形。内面は丁寧に施す。	
373	P45	〃 〃	11.0	3.0	4.4	〃	手づくね成形。口縁部内外ハケ状原体による横方向のナデ 調整, 内面は丁寧に施す。外面指頭圧痕。	
374	P43	備前焼 大甕	62.0	(16.7)	—	〃	内外面横方向のナデ調整。外面に自然釉がかかる。	
375	P46	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ4.7cm, 径1.2cm, 重さ4.7g, 0.5cmの円孔を有す。	
376	P47	青磁 碗	—	(4.1)	—	灰色でやや 粗い	透明度のある薄緑釉。鎗蓮弁文。	
377	P48	土師質土器 皿	13.8	4.0	8.7	精土	手づくね成形。口縁部内外面は横方向のナデ調整, 内面はハ ケ状原体によるナデ調整。胴部外面底部外面は指頭圧痕に よる凹凸が激しい。	
378	〃	〃 小皿	6.8	2.4	1.6	〃	内面ハケ調整, 外面指頭圧痕。	
379	P49	〃 杯	—	(2.8)	6.6	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	
380	P50	〃 皿	15.2	3.8	9.0	〃	手づくね成形。口縁部内外横方向のナデ調整, 体部外面指頭 圧痕。外低ナデ調整+平行圧痕。	
381	〃	〃 〃	15.2	3.5	6.2	〃	手づくね成形。口縁部内外ハケ状原体による横方向のナデ 調整, 内面は丁寧に施す。外面指頭圧痕。	
382	P51	備前焼 甕	19.3	(8.7)	—	〃	内外横ナデ調整, 外面には自然釉が激しくかかる。肩部に沈 線を2条まで認む。	
383	P52	土師質土器 杯	14.4	4.4	6.8	〃	ロクロ成形。内外面横方向のナデ調整, 糸切り。	内外面煤け
384	〃	〃 小皿	7.0	1.6	4.6	〃	〃	
385	〃	〃 〃	7.5	1.6	4.7	〃	〃	
386	P53	〃 皿	9.5	2.1	6.7	〃	手づくね成形。内外横方向のナデ調整, 内面は丁寧に施す。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
387	P54	土製品 土錘	—	—	—	精土	長さ4.2cm, 径1.0cm, 重さ3.9g, 0.5cmの円孔を有す。	
389	P56	土師質土器 皿	15.5	3.8	10.4	〃	手づくね成形。内外横方向のナデ調整, 体部内面は丁寧なナデ調整, 外面は指頭圧痕。	
390	P57	土製品 土錘	—	—	—	〃	長さ3.7cm, 径2.0cm, 重さ11.0g, 0.6cmの円孔を有す。	
391	P58	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.9cm, 径1.7cm, 重さ12.0g, 0.5cmの円孔を有す。	
392	P59	土師質土器 皿	14.2	4.1	8.5	〃	手づくね成形。口縁部内外面はハケ状原体で横方向のナデ調整。体部内面は丁寧なナデ調整。外面は指頭圧痕。	
393	P60	〃 小皿	6.8	1.4	3.9	チャート 砂粒含む	手づくね成形。内面は丁寧なナデ調整。外面は指頭圧痕。	
394	P61	〃 小杯	7.5	1.9	5	精土	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
395	P62	〃 皿	15.2	3.9	6	〃	手づくね成形。内外横方向のナデ調整, 体部内面はナデ調整, 外面は指頭圧痕。	
396	P63	〃 杯	10.7	3.8	5.9	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。口唇面取り。	
397	P64	〃 〃	14.2	4.0	7.9	〃	ロクロ成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
398	SE1 上層	瓦質土器 播鉢	25.6	(6.5)	—	〃	口唇は凹状, 内外横ナデ調整, 条線は5本単位。内面に炭化物が激しく	
399	〃 〃	備前焼 播鉢	—	(7.1)	—	〃	外面横ナデ調整, 掘り目は7本単位。外面に重ね焼の痕跡。	
400	〃 中層	瀬戸焼 大皿	—	(4.3)	—	やや荒めの 胎土	内面見込みに沈線1条を巡らす。内外面灰釉。	
401	〃 〃	東播系土師質 羽釜	20.4	(5.0)	—	精土	口縁部内外横方向のナデ調整, 断面三角の突帯が巡る。胴部外面平行叩き, 内面横ナデ調整。口唇面取り。	胴部外面煤 け
402	〃 〃	〃 羽釜	—	(8.9)	胴径 23.6	石英など 砂粒含む	口縁部欠損, 鐔幅2cm, 鐔の上下面及び上胴部外面横ナデ, 下胴部は横方向の削り。内面は横方向のハケ調整。	外面下半煤 ける
403	〃 〃	瓦質土器 火鉢	—	(6.8)	—	〃	外面に菊花の印刻文。器厚1.4cm。	
404	〃 〃	土製品 土錘	—	—	—	精土	長さ4.3cm, 径1.2cm, 重さ5.4g, 0.5cmの円孔を有す。	
406	〃 下層	土師質土器 鍋	31.4	(5.9)	—	石英粒 多く含む。	口唇は凹状, 内外横方向ナデ調整。	外面は激しく 煤ける
407	〃 〃	〃 皿	9.6	2.2	7.3	精土	手づくね成形。内外横方向ナデ調整。体部外面に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ調整。	
408	〃 〃	青磁 碗	—	(2.5)	7.7	灰色精緻	外低は蛇の目状に釉掻き。	
409	SE2 〃 〃	〃 〃	11.2	(3.8)	—	灰色 やや粗い	片切り彫りによる略式蓮弁。	
410	遺物 包含層	土師質土器 皿	12.2	3.8	8.0	精土	手づくね成形。内外横方向の強いナデ調整。体部内外面に指頭圧痕。	
411	〃 〃	〃 杯	10.2	4.1	6.4	〃	回転台成形, 内外面横ナデ調整, ヘラ切り後ナデ調整。	
412	〃 〃	〃 〃	9.8	3.1	7.1	〃	〃	外面一部に 煤け
413	〃 〃	〃 〃	10.4	3.5	7.1	〃	〃	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
414	遺物 包含層	土師質土器 杯	10.8	3.2	7.1	精土	回転台成形, 内外面横ナデ調整, ヘラ切り後ナデ調整。	
415	〃	〃 〃	10.3	3.7	6.2	〃	回転台成形, 内外面横ナデ調整, ヘラ切り。	
416	〃	〃 〃	10.6	3.2	7.1	〃	回転台成形, 内外面横ナデ調整, ヘラ切り後ナデ調整。	
417	〃	〃 小皿	8.4	1.5	4.6	〃	ロクロ成形, 内外面は横ナデ調整, 糸切り。	
418	〃	〃 〃	7.6	1.6	4	〃	〃	
419	〃	〃 皿	13.1	4	4.9	〃	手づくね成形。口縁部内外面はハケ状原体で横方向のナデ調整。体部内面は丁寧なナデ調整。外面は指頭圧痕。	
420	〃	〃 杯	11.4	3.4	6.7	〃	回転成形, 内外面横ナデ調整, 糸切り。	
421	〃	青磁 皿	9.9	1.9	7.3	灰色 精緻	見込みに櫛目, 外低露胎。	同安窯
422	〃	土製品 土錘	—	—	—	精土	長さ5.2cm, 径1.2cm, 重さ6.6g, 0.4cmの円孔を有す。	
423	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ5.8cm, 径1.9cm, 重さ16.3g, 0.6cmの円孔を有す。	
424	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.5cm, 径1.4cm, 重さ6.4g, 0.4cmの円孔を有す。	
425	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.2cm, 径1.1cm, 重さ5.6g, 0.6cmの円孔を有す。	
426	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ3.2cm, 径1.2cm, 重さ5.7g, 0.4cmの円孔を有す。	
427	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.2cm, 径1.1cm, 重さ3.8g, 0.4cmの円孔を有す。	
428	〃	〃 〃	—	—	—	〃	長さ4.2cm, 径1.4cm, 重さ8.1g, 0.4cmの円孔を有す。	
429	SK128	青磁 碗	—	(2.7)	—	精良	口辺部破片で, 外面に細蓮弁文を配する。	
430	SK129	金属製品 釘	(6.9)	0.4	0.4	—	釘と考えられるもので, 錆ぶくれが目立つ。	重量(3.8) g
431	SK133	土師質土器 皿	11.6	2.5	8.2	細粒～ 粗粒砂	ほぼ完存し, 手づくね成形である。口辺部内外面にヨコナデ, 底部内面にナデ, 体部下半から底部外面にかけて指オサエを施す。	
432	〃	〃 〃	11.8	2.2	8.8	細粒砂 ～小礫	手づくね成形で, 口辺部内外面にヨコナデ, 底部内面にナデ, 体部下半から底部外面にかけて指オサエを施す。	
433	SK138	須恵器 碗	—	3.0	7.0	細粒砂	底部破片で, 内外面に回転ナデを施す。	
434	SD39	土師質土器 燭台	—	(4.3)	5.5	〃	口縁部を欠損する。底部切り離した後, 底部からヘラ状工具で削り貫く。	
435	〃	青磁 皿	—	(3.1)	—	精良	口縁部破片で, 内面に蓮弁状の文様を2重に配する。	
436	〃	青花 碗	15.0	5.1	5.3	〃	削り出し高台。口縁部内面と体部外面下端に2重圈線, 見込には高台径とほぼ同様の圈線有り。	漳州窯産とみられる。
437	SD40	土師質土器 皿	13.2	3.7	6.8	細粒砂	手づくね成形。口辺部内外面にヨコナデ, 底部内面にナデ, 体部下半から底部外面にかけて指オサエを施す。	
438	〃	〃 〃	15.1	3.5	9.0	〃	手づくね成形。口辺部内外面にヨコナデ, 底部内面にナデ, 体部下半から底部外面にかけて指オサエを施す。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
439	SD41	土師質土器 皿	12.6	3.8	8.0	細粒～ 中粒砂	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内面に指オサエとナデ、体部下半に指オサエ、底部外面にナデ調整を施す。	
440	〃	土製品 土錘	5.1	1.8	1.7	細粒砂	完存し、表面には指頭圧痕が残る。	重量 14.3g
441	SD42	土師質土器 杯	—	(2.2)	8.9	〃	底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
442	〃	〃 鍋	19.0	(5.9)	—	細粒砂 ～小礫	内面にハケ、口縁部外面にヨコナデ、体部外面に指オサエを施し、体部外面には煤が付着する。	
443	〃	〃 〃	—	(4.1)	—	〃	鍋とみられる口辺部破片で、器面にはヨコナデを施し、外面には煤が付着する。	
444	〃	〃 〃	—	(2.6)	—	細粒砂	鍋とみられる胴部破片で、外面に格子状の叩き目が認められる。	
445	〃	瓦質土器 播鉢	—	(5.4)	—	〃	口辺部破片で、摩耗が著しいが内面に回転ナデ調整が残る、条痕が3条認められる。	
446	〃	備前焼 〃	31.2	(7.6)	—	細粒砂 ～小礫	口辺部破片で、器面には回転ナデを施し、内面には条痕が10条認められる。	
447	〃	〃 甕	—	(6.0)	—	〃	口辺部破片で、器面には回転ナデを施す。	
448	〃	〃 〃	—	(6.9)	27.0	細粒～ 中粒砂	底部破片で、器面には回転ナデを施す。	
449	〃	瀬戸焼 皿	27.5	(2.1)	—	〃	口辺部破片で、器面には回転ナデを施す。	
450	〃	〃 鉢	—	(4.0)	—	細粒砂	口辺部破片で、器面には回転ナデを施す。口縁部内面と外面は釉剥ぎを行い、口縁部外面の沈線内には釉が残る。	
451	〃	青磁 碗	—	(2.2)	4.7	〃	削り出し高台で、見込と外面に文様と圏線、を配し、畳付には砂目が残る。	
452	〃	〃 〃	—	(2.6)	5.9	精良	底部破片で、削り出し高台である。	
453	〃	〃 〃	—	(3.4)	5.7	〃	底部破片で、2次焼成を受ける。見込にスタンプ文を配し、高台内は施釉後、蛇ノ目釉剥ぎを行う。	
454	〃	白磁 皿	—	(1.5)	4.1	〃	底部破片で、体部下端と見込は釉剥ぎを行う。	
455	〃	〃 〃	—	(1.1)	7.5	〃	底部破片。畳付は露胎で、砂面が残る。	
456	〃	石製品 石臼	(19.7)	(10.7)	13.5	—	上臼とみられ、一部のみ残存する。6条単位の条痕が認められ、石材は砂岩である。	重量 (3,400) g
457	〃	鉄滓	9.4	9.5	4.8	—	鉄滓とみられるものである。	重量 (489) g
458	SD43	土師質土器 杯	—	(2.0)	5.5	細粒砂	底部破片で、摩耗のため調整は不明である。	
459	〃	〃 〃	—	(3.1)	5.5	粗粒砂	底部破片。底部切り離しは回転糸切りで、器面には回転ナデを施す。	
460	SD46	土師器 羽釜	26.6	(6.6)	—	細粒砂 ～小礫	口縁部破片で、内面にハケ、口辺部外面にヨコナデ、胴部外面に指オサエを施し、内面と外面の一部には煤が付着する。	
461	〃	土師質土器 皿	10.2	2.0	5.9	細粒砂	手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、内面にナデ、体部下半から底部の外面には指オサエを施す。	
462	〃	〃 小皿	6.7	1.3	5.2	〃	ほぼ完存し、底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕が残る。器面には回転ナデを施す。	
463	〃	〃 鍋	19.2	(8.9)	—	細粒砂 ～小礫	内面にハケ、口辺部外面にヨコナデ、胴部外面に指オサエを施し、鏝より下部には煤が付着する。	胴径 22.9 cm

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
464	SD46	瀬戸焼 碗	—	(1.9)	4.4	細粒砂 ～小礫	天目茶碗と考えられるもので、底部切り離しは回転糸切り。切り離した後、ヘラで削り出し、高台を成形する。体部外面にはヘラ削り調整がみられる。	
465	〃	白磁 皿	—	(1.4)	3.4	細粒砂	底部破片で、削り出し高台。全面施釉後、体部下半と高台には釉剥ぎを行う。	
466	〃	瓦 丸瓦	(9.4)	(11.5)	2.5	〃	丸瓦と考えられるもので、摩耗が著しいが、内面に布目圧痕とナデ調整が認められる。	
467	SD48	〃 〃	(9.0)	(7.4)	1.7	細粒砂 ～小礫	外面に丁寧なナデを施しており、3条の条線が認められる。内面は雑なナデ調整がみられ、端部はヘラ削りを施す。	
468	SD56	須恵器 壺	—	(4.2)	14.4	精良	張り付け高台で、内外面にヨコナデを施す。内面には自然釉が認められ、使用による摩耗がみられる。	
469	〃	土師質土器 皿	9.0	3.0	6.8	〃	手づくね成形で、内外面に丁寧なナデを施す。底部内面は煤がタール状に付着し、底部外面も煤ける。	
470	〃	〃 〃	9.4	3.6	6.0	〃	ほぼ完存し、手づくね成形。口辺部と体部内外面はヨコナデ、底部内面にナデ、底部外面に指オサエを施す。	
471	〃	〃 〃	9.7	2.5	6.9	細粒砂	手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、体部内面に指オサエとナデ、底部内面にナデ、体部と底部の外面には指オサエを施す。	
472	〃	〃 〃	9.8	2.3	6.0	精良	手づくね成形で、器面にはヨコナデを施す。	
473	〃	〃 〃	13.8	2.0	8.2	〃	手づくね成形で、外面には指頭圧痕が明瞭に残る。	
474	〃	〃 鍋	20.6	(3.5)	—	〃	口縁部内外面に丁寧なヨコナデを施す。	
475	SD56	〃 〃	—	(4.6)	—	細粒砂 ～小礫	把手付の内耳鍋と考えられるもので、内面と口縁部外面にはナデ、把手の外面には指オサエを施す。	
476	〃	〃 釜	13.7	(8.2)	—	精良	口縁部は内傾して立ち上がり、内外面にはナデを施す。	
477	〃	〃 〃	14.2	(7.7)	—	小礫	口縁部が短く、垂直に立ち上がり、端部はやや外反する。内外面にはナデ調整が認められる。	
478	〃	〃 〃	15.4	(9.8)	—	細粒砂 ～小礫	内外面にはヨコナデを施し、鐙より下部には煤が付着する。	
479	〃	〃 〃	—	(11.2)	—	精良	幅2cmの鐙が水平に付き、器面にはヨコナデを施す。鐙下部には煤が付着する。	鐙径28.4 cm
480	〃	〃 〃	16.1	(7.8)	—	〃	口縁部はやや外反し、短く立ち上がる。胴上部には径5mmの焼成前穿孔が認められる。	
481	〃	備前焼 播鉢	25.5	(5.5)	—	細粒砂	口辺部破片で、器面には回転ナデを施す。	
482	〃	〃 〃	—	(5.8)	10.8	精良	内面の一部に条痕が認められ、使用による摩耗が著しい。	
483	〃	〃 〃	—	(7.0)	14.8	細粒砂	底部破片で、器面には回転ナデを施し、底部外面下端には回転ヘラ削り調整が認められる。内面には11条単位の条痕がみられる。	
484	〃	〃 甕	—	(7.8)	—	粗粒砂	器面には回転ナデを施す。	
485	〃	瀬戸焼 碗	11.3	5.8	4.6	〃	天目茶碗で、削り出し高台。2次焼成を受け、釉や胎土が変色する。	
486	〃	〃 〃	12.6	(5.2)	—	細粒砂	天目茶碗で、体部下半まで鉄釉を施す。無釉部分には化粧掛けが認められる。	
487	〃	〃 香炉	—	(2.9)	17.8	〃	香炉と考えられるもので、円錐状の脚を底部外面に貼付け。外面の一部に鉄釉が残る。	
488	〃	青磁 碗	10.2	(4.2)	—	精良	外面に細蓮弁を配する。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
489	SD56	青磁 碗	—	(3.1)	5.6	精良	削り出し高台。見込にはスタンプ文とヘラ描き圏線を施す。	
490	〃	〃 皿	—	(1.6)	5.3	〃	削り出し高台。高台内と畳付、見込は露胎。見込には重ね焼きの痕跡が残る。	
491	〃	白磁 皿	14.3	3.5	7.8	〃	全体に施釉し、畳付には砂目が認められる。	
492	〃	青花 碗	14.1	(2.0)	—	〃	口縁端部内面に2条の凹線を施す。	
493	〃	〃 皿	—	(1.6)	3.4	〃	碁笥底。内面に回転ナデ、外面に回転ヘラ削りを施し、見込と畳付は露胎。見込みと体部外面には圏線を配する。	
494	〃	土製品 土錘	6.1	2.5	2.0	〃	表面には指頭圧痕。孔径0.7cm、重量(28.5)g。	
495	〃	金属製品 鑿	(5.3)	(1.3)	(0.6)	—	鑿とみられる。基部は断面方形を呈し、先端は扁平である。	重量(8.0)g
496	P65	瀬戸焼 碗	—	(2.0)	4.1	〃	外面には回転ヘラ削りが認められる。内面には鉄釉がみられ、使用に伴う擦り傷が多く残る。	
497	P66	白磁 皿	12.9	3.4	7.2	〃	端反皿畳付は露胎で、砂目が残る。器面には厚く施釉する。	
498	P67	土師質土器 皿	9.6	2.2	5.2	細粒砂	手づくね成形で、口辺部内外面にヨコナデ、底部内面にナデ、体部外面下端と底部外面に指オサエを施す。	
499	〃	〃 〃	9.6	(2.2)	—	〃	手づくね成形。摩耗のため調整は不明瞭であるが、口縁部外面にヨコナデ調整、体部外面下端に指頭圧痕が認められる。	
500	〃	〃 〃	10.1	(1.9)	—	精良	手づくね成形。内面と口縁部外面にヨコナデ、体部外面下半と底部外面に指オサエを施す。	
501	〃	〃 〃	10.2	2.0	7.0	〃	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、底部内外面に指オサエを施す。	
502	〃	〃 〃	10.0	2.9	6.7	細粒砂	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、底部内面にナデ、体部外面下端と底部外面に指オサエを施す。	
503	P68	〃 〃	9.4	2.3	6.7	精良	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、底部内面にナデ、体部外面下半と底部外面に指オサエを施す。	
504	〃	〃 〃	9.5	2.6	6.3	〃	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、底部内面にナデ、体部外面下半と底部外面に指オサエを施す。	
505	〃	〃 〃	10.3	2.0	6.0	〃	手づくね成形。大きく歪む。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面下半と底部内面にナデ、体部外面下半と底部外面に指オサエを施す。	
506	P69	白磁 皿	11.2	2.9	6.1	〃	端反皿。畳付は露胎で、砂目が残る。胎土は粗く、釉は薄い。	
507	P70	土師質土器 皿	12.7	3.1	9.3	細粒砂	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面下半と底部内面にナデ、体部外面下半と底部外面に指オサエを施す。	
508	P71	瓦質土器 鍋	18.4	(8.4)	—	細粒～ 粗粒砂	内面は摩耗。口縁部外面にヨコナデ、体部外面下半には指オサエを施し、鐏の上下には張り付け時のヨコナデ調整が残る。鐏下部には煤が付着。	胴径20.4 cm
509	P72	土師質土器 皿	11.4	2.8	7.6	〃	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、底部内面にナデ、体部外面下半と底部外面に指オサエを施す。	
510	P73	瓦質土器 鍋	28.0	(8.1)	—	細粒砂	内面と口縁部外面にヨコナデ、鐏より下部には指オサエを施し、体部外面下半には煤が付着する。	
511	P74	土師質土器 皿	13.4	3.4	5.0	精良	口縁部内外面にヨコナデ、体部内面下半と底部内面に丁寧なナデ、体部外面下半と底部外面に指オサエを施す。口縁端部内面には煤が付着。	
512	P75	〃 小皿	8.6	1.3	6.2	細粒砂	底部切り離しは静止糸切り。口縁部内外面には回転ナデを施し、底部内面は摩耗する。	
513	P76	〃 〃	8.6	1.5	6.2	〃	底部切り離しは糸切りで、器面には回転ナデを施す。	

番号	遺構層位	器種器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
514	P77	土師質土器 杯	—	(26)	5.8	細粒砂 ～小礫	底部切り離しは回転糸切りで、内面には回転ナデを施すが、外面は摩耗する。	
515	P78	〃 小皿	8.1	1.5	4.8	精良	底部切り離しは回転糸切り。板状圧痕が残る。器面は摩耗が著しいが、外面の一部に回転ナデ調整が残る。	
516	SE4	〃 皿	13.0	3.3	7.0	〃	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、内面にナデ、外面に指オサエを施す。	
517	SX6	〃 鍋	22.4	(10.7)	27.6	細粒～ 粗粒砂	口縁部内外面にヨコナデ、内面にハケとナデ、胴部外面に叩きを施し、鐏より下部には煤が付着する。	
518	II 層	〃 杯	13.2	4.4	6.0	精良	底部切り離しは回転糸切り。器面には回転ナデを施す。	
519	〃	〃 〃	13.7	6.0	8.3	細粒砂	底部切り離しは回転糸切り。器面には回転ナデを施す。	
520	〃	〃 小皿	8.3	1.9	3.6	〃	底部切り離しは回転糸切り。板状圧痕が残り、器面には回転ナデを施す。	
521	〃	瀬戸焼 碗	—	(1.4)	4.8	〃	外面に回転ヘラ削り。内面には鉄釉を施し、外面は露胎。	
522	〃	〃 鉢	—	(5.1)	—	精良	碗型の鉢と考えられる。器面には回転ナデを施し、釉は剥離する。	
523	〃	青磁 碗	—	(5.4)	—	〃	口縁部外面に2条の沈線と3条単位の櫛描文、体部外面上半に1条の沈線を配す。	
524	〃	〃 〃	—	(5.6)	7.5	〃	見込にヘラ描き沈線を配し、高台と畳付は露胎。	
525	〃	白磁 碗	11.4	(2.4)	—	〃	端反碗と考えられる。口縁端部は釉剥ぎを行う。	
526	〃	〃 皿	9.1	1.6	4.5	〃	削り出し高台。高台には挟りがみられる。釉は全体に施す。	
527	〃	〃 〃	—	(1.7)	5.2	〃	無高台の皿で、器面には回転ヘラ削りを施し、底部には部分的に釉が残る。	
528	〃	瓦 平瓦	(14.8)	(12.9)	2.4	細粒砂 ～小礫	側面と端面にはヘラ削りを行い、内面には縄目状の叩き目、外面には布目圧痕が認められる。	

III B 区

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
1	SB26	土師質土器 小皿	6.8	(1.5)	4.0	砂粒 含む	手づくね成形。内外面に指頭圧痕とナデ調整。	
2	SB27	〃 皿	12.0	(2.8)	6.8	砂礫 含む	てづくね成形。内面にナデ調整。外面口縁部ナデ調整、胴部指頭圧痕。	15c 前半～ 16c 前半頃
3	SB27	〃 〃	14.2	(3.1)	—	〃	てづくね成形。内面に指頭圧痕とナデ調整。外面口縁部に強いヨコナデ調整、胴部は指頭圧痕とナデ調整。	
4	SB28	瓦質土器 鍋	22.9	11.1	26.0	砂粒 含む	口縁部に丁寧なナデ調整。内外面胴部に指頭圧痕とナデ調整。接合痕あり。煤付着。	
5	SB33	土師質土器 皿	12.0	(3.1)	—	〃	てづくね成形。内面に強いヨコナデ調整。外面口縁部に強いヨコナデ調整、胴部は指頭圧痕。	
6	SB34	〃 〃	12.7	3.0	6.2	〃	てづくね成形。口縁部は外反し下部は肥厚、ヨコナデ調整。内外面胴部から底部に指頭圧痕とナデ調整。	15c 前半～ 16c 前半頃
7	SK17	染付 碗	10.3	6.2	3.6	精土	畳付露胎。口縁部内面に雷文帯、見込みに圏線と柳？。外面界線・渦・柳・傘・草文様、枠内に寿の文字。高台に圏線と櫛歯文。	
12	SK21	土師質土器 皿	13.4	3.4	8.2	砂粒 含む	てづくね成形。口縁部肥厚。内面にナデ調整。外面口縁部はナデ調整、胴部に指頭圧痕とナデ調整。煤付着。	
13	SK21	〃 〃	11.7	(3.0)	—	〃	てづくね成形。口縁部に強いヨコナデ調整、胴部は指頭圧痕とナデ調整。	
14	SK25	〃 鍋	26.5	(7.8)	—	砂礫、雲 母含む	口縁端部に強いナデによる凹線。内面ヨコナデと縦方向のナデ調整。外面指頭圧痕、煤付着。	16c 頃
15	SK28	瓦質土器 鍋	19.4	(5.0)	—	砂粒稀 に含む	内面にナデ調整。外面ナデ調整と指頭圧痕。口縁部下に粘土帯を貼付し指頭圧痕。羽釜の形態の形骸化。	15c 前半頃
18	SK48	土錘	—	—	—	砂粒 含む	全長 4.9 cm, 全幅 1.1 cm, 全厚 1.2 cm, 重さ 6.0g, 孔径 0.4 cm。	二次被熱？
19	SK48	〃	—	—	—	〃	全長 4.5 cm, 全幅 1.2 cm, 重さ 6.0g, 孔径 0.5 cm。	二次被熱？
20	SK48 ・68	東播系 片口鉢	—	(3.7)	8.6	〃	底部糸切り。内外面にナデ調整。	検出面
21	SK53	土師質土器 羽釜	18.1	(5.0)	—	赤色・黒 色粒含む	口縁端部にナデによる凹線。内面ナデ調整。口縁部外面ナデ調整。鋳下接合痕顕著。鋳部分から胴部は指頭圧痕とナデ調整。	
22	SK53	瓦質土器 羽釜	22.7	(4.1)	—	精土、雲 母片含む	口縁端部に沈線。退化した鋳が付く。内面にナデ調整。外面ナデ調整と指頭圧痕。	14c 後半～ 15c 前半頃
23	SK54 ・60	土師器 皿	13.9	4.7	9.4	砂粒多く 含む	胴部から口縁部にかけ内湾。口縁部に指頭圧痕とナデ調整、胴部から底部内面はナデ調整。口縁部から胴部外面に指頭圧痕とナデ調整、底部はナデ調整。	
24	SK59 検出面	土師質土器 皿	12.1	2.8	6.5	精土	てづくね成形。内面にナデ調整。外面口縁部ナデ調整、胴部から底部は指頭圧痕とナデ調整。	
25	SK60	瓦質土器 鍋	21.3	(4.8)	—	砂粒 含む	口縁部外反。内外面にナデ調整。	14c 頃？
26	SK61	金属製品 刀子	—	—	—	—	残存長 3.7 cm, 全幅 1.0 cm, 全厚 0.3 cm, 重さ 3.0g。	
27	SK62	土師質土器 羽釜	21.4	(3.3)	—	砂粒、雲 母片含む	鋳端部に強いナデ調整による凹線。内外面にナデ調整。	摂津系
28	SK62	瓦質土器 釜	25.8	(9.4)	—	〃	内面口縁部にハケ、胴部ナデ調整。外面口縁部から鋳にかけてナデ調整、胴部指頭圧痕とナデ調整。煤付着。	
29	SK65	土師質土器 小皿	6.8	1.4	4.3	砂粒 含む	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にナデ調整。	
30	SK65	〃 羽釜	20.8	(6.6)	—	砂粒、礫 含む	断面方形に近い鋳が付く。内面にナデ調整。外面ナデ調整と指頭圧痕。煤付着。	
31	SK65	瓦質土器 羽釜	20.2	(3.9)	—	小礫 含む	断面三角形の鋳が付く。内外面にナデ調整。	

番号	遺構層位	器種器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
32	SK65	瓦質土器 羽釜	20.8	(9.6)	—	砂粒、雲母 含む	内面に丁寧なナデ調整。外面口縁部ナデ調整、鏝の一部と 胴部に指頭圧痕。煤付着。	14c 頃？
33	SK66	備前？ 壺	—	(3.8)	8.6	砂粒 含む	ロクロ成形。外面に施釉、一部自然釉が掛かる。	
34	SK66	瓦質土器 鍋	22.6	(3.8)	—	〃	内外面にナデ調整。	14c 頃？
35	SK66	〃 〃	17.9	(4.5)	—	〃	口縁部に粘土帯を貼付て肥厚。内面にナデ調整。外面指頭 圧痕とナデ調整。煤付着。	
36	SD1	土師質土器 杯	10.2	2.4	5.6	砂粒、雲母 含む	ロクロ成形。底部糸切り。全面に赤褐色の化粧土。内面ナ デ調整、内底部は強いナデとヘラ描き。外面ナデ調整。	
37	SD2	〃 皿	7.4	1.3	5.5	精土	ロクロ成形。底部糸切り、板状圧痕。内外面にナデ調整。	
38	〃	土錘	—	—	—	〃	全長 6.7 cm、全幅 4.3 cm、重さ 91.76g、孔径 1.4 cm。表面ナ デ調整と指頭圧痕。	
39	SD4	土師質土器 杯	—	(2.7)	5.2	砂粒 含む	円盤状高台。底部糸切り。	
40	〃	〃 皿	7.3	(1.7)	3.8	白色粒 含む	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にナデ調整。	
41	SD5	備前 甕	38.0	(7.3)	—	砂粒 含む	内面にナデ調整。外面はナデ調整と頸付け根部分に指頭圧 痕。	
42	〃	土師質土器 皿	7.6	1.6	5.6	砂粒 少量含む	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にナデ調整。	
43	〃	青磁 碗	14.2	4.0	—	精土	無文。	15c 頃
44	〃 中層	白磁 皿	11.3	2.1	—	〃	口縁端部端反。外面に細かい髹が入る。	
45	〃	土師質土器 鍋	24.2	(6.1)	—	砂粒、雲母 含む	内外面にナデ調整。煤付着。	播磨型 16c 後半頃
46	〃	〃 小皿	7.8	1.3	5.4	砂粒 含む	底部糸切り後に板状の圧痕が付く。内外面にナデ調整。	
47	〃	〃 〃	6.9	1.6	4.0	〃	底部糸切り後に何かの圧痕が付く。内外面にナデ調整。	
48	〃	〃 皿	7.8	1.8	5.1	白色砂粒 含む	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にナデ調整。	
49	〃	〃 〃	7.1	1.6	5.2	砂粒少量 含む	底部糸切り。内面にナデ調整、内底部はナデにより凸状。 外面ナデ調整。	
50	〃	〃 〃	8.3	1.7	5.5	精土	底部糸切り。内外面にナデ調整。	
51	〃	〃 〃	7.1	1.5	4.9	砂粒少量 含む	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にナデ調整。	
52	〃	〃 〃	12.8	3.4	7.6	砂粒 含む	てづくね成形。内面はナデ調整とヘラ状の圧痕。外面は指 頭圧痕とナデ調整。	
53	〃	石製品 砥石	—	—	—	—	全長 9.8 cm、全幅 6.0 cm、全厚 1.0 cm、重さ 91.0g。両面に 使用痕。仕上用砥石。	
54	〃 底	土師質土器 杯	13.3	4.0	7.0	砂粒 含む	ロクロ成形。底部糸切り。内面はナデ調整、内底部ロクロ 目顕著。外面はナデ調整、ロクロ目顕著。	
55	〃 底	〃 小皿	7.8	1.3	5.6	砂粒、雲母 含む	ロクロ成形。底部糸切り。口縁端部まで厚みがほぼ変わら ない。内外面にナデ調整。	
56	SD6	〃 皿	10.8	2.0	6.6	精土	てづくね成形。内面にナデ調整。外面口縁部ナデ調整、胴 部から底部は指頭圧痕とナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
57	SD6 検出面	土師質土器 羽釜	—	(5.9)	—	砂粒、雲母 含む	内面口縁部寄りに指頭圧痕、胴部ナデ調整。外面ナデ調整。 煤付着。	搬入品？
58	SD6・10・ 15 検出面	須恵器 甕	24.8	(6.3)	—	砂粒 含む	口縁部外面に沈線、端部は水平。内外面にナデ調整。	
59	〃	白磁 皿	10.6	2.9	5.4	精土	口縁部端反。畳付露胎、はなれ砂付着。	15c 頃
60	SD6・10 ・15	土師質土器 皿	10.2	(2.7)	—	砂粒少量 含む	てづくね成形。口縁部にナデ調整。外面胴部は指頭圧痕。 摩耗。	検出面
61	SD6・10 ・11・15	瓦質土器 羽釜	22.4	(5.6)	—	砂粒 含む	内外面にナデ調整。煤付着。	13c 後半～ 14c 前半頃
62	SD7	土師質土器 羽釜	—	(5.5)	—	砂粒、雲母 含む	内面にナデ調整。外面鐏下までナデ調整、胴部に叩き目。 煤付着。	
63	〃 中層	白磁 碗	15.2	(2.3)	—	精土	口縁部は玉縁状に肥厚。	12c 前半頃
64	〃	瓦質土器 鍋	16.5	(4.9)	—	砂粒 含む	口縁部は直立気味で、端部に強いナデによる凹線。内面ナ デ調整。外面口縁部ナデ調整、胴部指頭圧痕。	14c 後半～ 15c 頃
65	SD8 上層	〃 〃	21.2	(5.0)	—	〃	口縁端部に強いナデによる凹線。内面ナデ調整。外面指頭 圧痕。	14c 後半～ 15c 頃？
66	SD10 中層	土師質土器 小皿	7.6	1.7	4.8	精土	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にヨコナデ調整。	
67	〃	〃 皿	12.8	(2.5)	7.7	砂粒少量 含む	てづくね成形。内面にナデ調整。外面口縁部ナデ調整、胴 部から底部は指頭圧痕とナデ調整。	
68	SD10 ・15	瓦質土器 釜	18.6	(4.2)	—	砂粒 含む	口縁端部ナデにより線状痕。鐏下接合痕顕著。内外面にヨ コナデ調整。煤付着。	13c 後半～ 14c 前半頃
69	SD10 ・15	〃 羽釜	20.3	(7.9)	—	小礫 含む	内面にヨコハケとナデ調整。外面口縁部から鐏にかけてナ デ調整、胴部指頭圧痕。煤付着。	13c 後半～ 14c 前半 頃？
70	SD11	土師質土器 羽釜	21.7	(4.1)	—	砂粒 含む	退化した鐏が付く。内外面にナデ調整。	
71	SD12	瓦質土器 羽釜	16.8	(3.5)	—	〃	内面にナデ調整。外面鐏下までナデ調整、胴部に指頭圧痕。 煤付着。	搬入品？
72	SD15	〃 釜	—	—	—	〃	残存長 9.1 cm、脚部厚 2.7 cm。内面に丁寧なナデ調整。外 面摩耗。	
73	〃	石製品 砥石	—	—	—	—	全長 11.9 cm、全幅 10.9 cm、全厚 4.3、重さ 807.0g。両面と 側面に使用痕。	
74	SD19 上層	土師質土器 皿	13.0	2.5	7.2	赤色・黒色 砂粒含む	てづくね成形。口縁部にナデ調整。外面胴部は指頭圧痕が 顕著。	
75	SD19	〃 〃	13.8	(2.4)	—	白色・黒色 砂粒含む	てづくね成形。口縁部に強いナデ調整。外面は指頭圧痕顕 著。	
76	SD19-1	〃 〃	14.1	2.5	9.6	砂粒少量 含む	てづくね成形。口縁部にナデ調整、端部は強いヨコナデ調 整。内面指頭圧痕とナデ調整。外面は指頭圧痕。	
77	〃	〃 羽釜	16.8	(3.3)	—	白色・黒色 粒含む	内外面に指頭圧痕とナデ調整。	播磨型、 搬入品
78	SD24	炆器 壺	—	(1.2)	10.3	白色粒 含む	底部に断面方形の高台を貼付ける。	
79	〃	土師質土器 杯	11.0	4.3	6.3	白色・黒色 粒含む	ロクロ成形。底部糸切り。胴部から口縁部にかけて斜め上 方に伸びる。内外面にナデ調整。	
80	SD24～ 26 バンク	〃 皿	12.0	(2.2)	—	砂粒少量 含む	てづくね成形。内面にナデ調整。外面口縁部ナデ調整、胴 部指頭圧痕。	
81	〃	瓦質土器 鍋	24.4	(4.0)	—	白色・黒色 粒含む	口縁部は内傾して立ち上がる。外面口縁部下に指頭圧痕。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
82	SD26	土師質土器 羽釜	18.2	(2.7)	—	石英・雲母 含む	口縁部は内傾し、端部は平坦。断面台形状の鐳が付く。鐳部分に強いナデ調整。煤付着。	播磨型
83	〃	〃 釜	15.8	(6.8)	—	砂粒少量 含む	口縁部は直立し、端部は平坦。内外面にナデ調整。煤付着。	
84	SD33 上層	白磁 碗	14.8	(1.6)	—	精土	口縁部は玉縁状に肥厚。	白磁Ⅳ類、
85	SD33 中層	土師質土器 羽釜	23.1	(3.4)	—	白色・黒色 粒含む	口縁端部は面取り。断面台形状の鐳が付く。鐳部分は強いナデ調整。内面ナデ調整。	播磨型
86	SD33 中層	瓦質土器 播鉢	—	(3.5)	—	〃	内面に摺目。口縁部ナデ調整。口縁端部に強いナデによる凹線。外面に指頭圧痕。	
87	〃	土鍾	—	—	—	白色粒 含む	全長 4.3 cm, 全幅 1.4 cm, 重さ 7.0g, 孔径 0.4 cm。表面摩耗。	
88	SD33 下層	備前 播鉢	—	(5.5)	—	白色・黒色 粒含む	内面に摺目。口縁端部は肥厚。	
89	SD33	白磁 皿	—	(1.1)	—	精土	外面にロクロ目。	15c 後半頃
90	〃	備前 壺?	—	(3.5)	—	砂礫 含む	内外面にナデ調整。一部自然釉が掛かる。	14c 頃?
91	〃	〃 甕	34.2	(4.8)	—	砂粒 含む	内外面にナデ調整。	14c 頃?
92	〃	土師質土器 羽釜	—	(4.5)	—	砂粒、雲母 含む	口縁端部に強いナデによる凹線。断面三角形の鐳が付く。内面ヨコナデ調整。外面口縁部ヨコナデ調整、胴部に叩き目。	
93	〃	土鍾	—	—	—	精土	全長 4.7 cm, 全幅 1.6 cm, 重さ 9.0g, 孔径 0.4 cm。表面摩耗。	
94	SD34	土師質土器 羽釜	19.8	(4.6)	—	石英 含む	断面三角形の鐳が付く。口縁部に強いナデ調整。鐳貼付け部分は指頭圧痕。煤付着。	播磨型
95	SD36	〃 杯	13.7	3.5	8.6	白色・黒色 粒含む	ロクロ成形。口縁部やや外反。底部糸切り。内面にナデ調整。外面ナデ調整、ロクロ目顕著。	
96	SD37	陶器 播鉢	—	(7.1)	11.2	石英・赤色・ 黒色粒含む	内面には縦方向に 13 条単位、斜方向に 9 条単位の摺目。内外面にナデ調整。	関西系?
97	〃	土師質土器 小皿	6.4	(1.3)	4.9	砂粒 含む	底部糸切り。口縁部から胴部にかけて肥厚。	
98	〃	〃 〃	7.0	1.7	4.0	白色・黒色 粒含む	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にナデ調整。	
99	SD39	〃 〃	13.6	4.4	6.4	礫稀 に含む	底部糸切り、板状圧痕。内外面にナデ調整。	
100	SD40	〃 〃	7.5	1.4	5.4	砂粒 含む	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にナデ調整。	
101	SD43	〃 皿	9.7	2.3	6.7	石英・雲母・ 白色粒含む	底部回転ヘラ切り。底部から胴部は直線的に伸び口縁部に至る。内外面にナデ調整。	10c 前半頃?
102	SD57	〃 杯	12.2	3.7	7.2	砂粒 含む	ロクロ成形。口縁部やや外反。底部糸切り。内外面にナデ調整。	
103	〃	瓦質土器 羽釜	21.0	11.4	24.4	〃	断面三角形の鐳が付く。内面にナデ調整。外面口縁部から鐳下までナデ調整、胴部から底部は指頭圧痕とナデ調整。煤付着。	13c 後半～ 14c 前半頃
104	〃	〃 羽釜	24.2	(5.5)	—	白色・黒色 粒含む	口縁部に歪み。退化した鐳が付く。内面にハケとナデ調整。外面口縁部ナデ調整、胴部に指頭圧痕。鐳貼付け部分は指頭圧痕と強いナデ調整。	
105	SD70	須恵器 鉢	—	(3.1)	8.8	石英 含む	片口鉢。底部糸切り。内外面にナデ調整。	東播系
106	暗渠 1	瓦質土器 焜炉	—	(3.6)	19.5	砂粒 含む	内面にナデ調整。外面に叩き目。高台接合痕、キラ粉。	19c 頃

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
109	暗渠 2	土管	—	—	—	白色粒 含む	全長 11.0 cm, 全幅 20.8 cm, 全厚 3.3 cm, 孔径 11.5 cm。内面摩耗。	
110	暗渠 3	土師質土器 羽釜	21.8	(4.5)	—	〃	内面にハケ, 口縁端部ナデ調整。外面口縁部から鰐下までナデ調整, 胴部指頭圧痕。	
111	〃	染付 碗	10.6	6.1	4.5	精土	二次被熱。口縁部端反。畳付露胎。内面口縁部に帯線・鋸歯文, 見込みに圏線・雲。外面に帯線・鋸歯文・雲, 窓に山水文。高台に二重圏線, 高台内に角枠「茶山」。	能茶山, 19c 頃
112	〃	〃 小碗	8.4	5.5	3.7	〃	二次被熱。畳付露胎。内面口縁部に二重圏線, 見込みに圏線・亀。外面に草花文, 高台際に圏線。高台に二重圏線, 高台内に文様。	
113	〃	青磁 染付碗蓋	9.5	2.7	—	〃	朝顔形碗の蓋。摘み端部露胎, 径 3.8 cm。内面口縁部に四方櫛, 見込みに二重圏線・五弁花文。外面摘み内に銘。	肥前産, 18c 後半
114	〃	陶器 浅碗	13.0	4.5	—	〃	口縁部端反。二次被熱。内面見込みは蛇ノ目釉剥。外面胴部下半から高台内まで露胎。	能茶山, 19c 頃
115	暗渠 4	土師質土器 焜炉	23.8	(5.8)	—	砂粒 含む	口縁部に鉄製の把手が付く。内面にナデ調整。外面口縁部ナデ調整, 胴部に刺突充填文。キラ粉・煤付着。	近世, 116 と同一体
116	〃	〃 焜炉	—	(9.5)	16.7	〃	内面にナデ調整, 煤付着。内底部ロクロ目顕著。外面胴部に刺突充填文。脚付底部にはなれ砂付着。キラ粉。	近世, 115 と同一体
117	〃	〃 焙烙	44.2	4.1	—	〃	内面にヨコナデ調整。外面口縁端部は強いヨコナデ調整, 煤付着。キラ粉。	
118	〃	染付 皿	10.9	2.1	6.4	精土	褐釉口銚。内面口縁部から見込みに菱重・桐・界線, 中央に二重圏線・花鳥文。畳付露胎, はなれ砂付着。	近代
119	〃	陶器 鉢	30.7	(9.3)	—	〃	口縁部は大きく外反し垂下する。内面口縁端部から施釉, うのふ釉と一部銅緑釉。外面は垂下する口縁部内側露胎, 胴部は鉄釉掻き取り。	瀬戸・美濃
120	〃	磁器 蓋	—	—	—	〃	全長 13.3 cm, 全幅 (8.0) cm。内面施釉, 鰐下から内かえり部分露胎。外面施釉, 松・月?。方形か?	近代
121	〃	〃 徳利	—	(8.4)	4.6	〃	畳付露胎, はなれ砂付着。内面露胎。外面施釉, 胴部と高台内に文字。	近代
122	〃	石製品 硯	—	2.7	—	〃	全長 11.6 cm, 全幅 6.8 cm。使用痕顕著。	二次被熱?
123	〃	植木鉢	—	(17.2)	16.7	〃	ロクロ成形。内面にナデ調整, 一部施釉。外面施釉, 高台下半から底部は露胎。高台一部分削る。粘土帯を摘んだ突帯が付く。	
124	〃	陶器 皿	11.4	2.3	6.8	〃	上絵付。内面に富士山・山裾に文様。畳付にハナレ砂付着。	統制陶器?
125	SE1	青磁 碗	13.5	(2.0)	—	〃	口縁部外面雷文帯。	龍泉窯系, 15c 頃
126	〃	白磁 皿	—	(1.5)	4.0	〃	二次被熱。内面施釉。外面露胎。	15c 頃
127	〃	備前 甕	—	(5.1)	—	礫, 石英・ 黒色粒含む	内外面にナデ調整。	
128	〃	土師質土器 羽釜	21.0	(3.8)	—	赤石粒多く 含む	内面にナデ調整。外面口縁部から鰐下までナデ調整, 胴部叩き目。	播磨型, 搬入品
129	〃	瓦質土器 鍋	20.3	(6.5)	—	雲母 含む	酸化焰焼成。内面にナデ調整。外面指頭圧痕とナデ調整。	14c 後半～ 15c 前半頃
130	P1	〃 羽釜	—	(5.9)	—	砂粒 含む	断面三角形の鰐が付く。内外面に指頭圧痕とナデ調整。煤付着。	13c 後半～ 14c 前半頃
131	P2	青磁 碗	—	(1.8)	5.0	精土	内面施釉。外面施釉, 蓮弁文。畳付から高台内露胎。	龍泉窯系,
132	〃	焰器	—	(2.7)	—	砂粒 含む	内外面にナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	口径	法量 器高	底径	胎土	特徴	備考
133	P2	土師質土器 皿	12.6	3.0	—	砂礫 多く含む	てづくね皿。内面口縁部に強いヨコナデ調整、胴部はナデ調整。外面口縁部に強いヨコナデ調整、胴部は指頭圧痕とナデ調整。	
134	P3	〃 〃	6.7	1.9	(2.0)	砂粒、雲母 含む	てづくね成形。焼成が瓦器風。底部から内湾気味に立ち上がる。内面ナデ調整とヘラ状痕。外面指頭圧痕とナデ調整。	15c 前半～ 16c 前半頃
135	P4	青磁 碗	13.5	(2.3)	—	精土	鎚蓮弁文。	龍泉窯系
136	P5	土師質土器 羽釜	22.6	(5.9)	—	砂粒 含む	内面にナデ調整。外面に指頭圧痕とナデ調整。煤付着。	14c 後半～ 15c 初頃
137	P6	青磁 碗	—	(2.5)	5.2	精土	高台に厚みがあり、低い。外面鎚蓮弁文。高台内一部露胎。	龍泉窯系、 13c 後半頃
138	P7	土師質土器 杯	15.3	5.1	8.0	砂粒 含む	ロクロ成形。底部糸切り。内外面にナデ調整。内底部と外面ロクロ目顕著。	
139	P8	〃 皿	9.6	1.6	6.0	白色砂粒 含む	底部回転ヘラ切り。内外面にナデ調整。	
140	SX1	〃 小皿	11.4	1.5	9.0	精土	白色系小皿。内面にナデ調整。外面にロクロ目とナデ調整、底部ナデ調整。口縁部にタール付着。	
141	〃	染付 小碗	7.6	3.5	2.9	〃	口縁部端反。畳付露胎、ハナレ砂付着。口縁部褐釉口錆。見込みに文様。外面に象形文字。	瀬戸、19c 頃
142	〃	〃 碗	11.0	5.6	4.4	〃	畳付露胎。内面口縁部に圏線、見込み際に二重圏線、見込みに文様。外面木賊文。	瀬戸・美濃産、19c
143	〃	〃 〃	10.2	5.4	4.2	〃	畳付露胎。内面口縁部に二重圏線、見込み際に圏線、見込みに文様。外面草花文・多重圏線文。	近世
144	〃	〃 〃	11.0	(5.3)	—	〃	口縁部端反。口縁部内面に雷文帯、見込み際に圏線。外面上下界線に半菊・唐草・果実？、高台脇に斜格子、際に圏線。高台に圏線。	瀬戸、19c 頃
145	〃	青磁 香炉	—	(3.2)	5.2	〃	碁笥底。内面露胎。外面高台から露胎。蛇ノ目凹形高台。	波佐見産、 近世
146	〃	白磁 紅皿	4.7	1.6	1.3	〃	型押し成形、貝殻状。内面施釉。外面露胎。	19c 頃
147	〃	〃 茶碗	6.5	7.3	3.8	〃	畳付露胎。内外面施釉。外面に上絵付け剥がれ文字の痕跡のみ残る、商店名？	近代
148	〃	備前 播鉢	29.6	(4.5)	—	砂粒 含む	内外面にナデ調整。口縁部外面に1条の浅い凹線。	16c ～ 17c 初頃
149	〃	〃 〃	31.4	(11.5)	—	〃	内面17条単位の手摺目、口縁部1条の凹線。外面ナデ調整、口縁部に2条の凹線。	関西系、 17c 頃
150	〃	陶器 播鉢	29.6	(7.1)	—	〃	内面13条単位の手摺目、口縁部1条の凹線。外面ナデ調整、口縁部に2条の凹線。	関西系、 17c 頃
151	〃	〃 甕	18.2	(6.0)	—	精土	内外面に鉄釉。外面に一部黒鉄釉を掛け流す。	近世
152	〃	〃 蓋	6.9	3.4	—	〃	摘み径1.4cm、かえり径4.3cm。内面露胎、かえり部に突起。外面青緑釉、宝珠形摘み。	能茶山、 近世
153	〃	〃 蓋	—	(2.0)	4.5	〃	摘み径2.2cm。内面露胎、ロクロ目顕著、底部糸切り。外面施釉。	
154	〃	〃 小碗	6.3	3.1	2.4	〃	畳付露胎。内外面施釉、釉の厚さが均一ではない。	
155	〃	徳利	3.8	17.1	5.4	〃	内面頸部以下露胎、ロクロ目顕著。外面呉須、山水楼閣文。底部露胎。	近世
156	〃	綾花 皿	14.9	4.4	9.2	〃	畳付露胎。内面に松、見込みに二重圏線。外面唐草文、高台脇に圏線、高台に二重圏線。	近世
157	SB54	土師器 甕	16.8	(5.6)	—	雲母片 含む	口縁部外反。頸部内外面ユビオサエ、ナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
158	〃	土師質土器 皿	7.8	1.4	4.1	黒色砂粒含 む、精緻土	底部外面回転糸切り。内外面は回転ナデ調整。内底部はヨ コナデ。	
159	〃	〃 〃	7.2	1.6	4.4	白色砂粒 含む	底部回転糸切り痕。内外面回転ナデ調整。	
160	SB52	黒色土器 椀	14.2	(4.8)	—	赤色風化礫 含む	内面黒色処理。内底部にはヘラミガキ調整。口縁内面に沈 線が2条みられる。	
161	SB55	土師質土器 皿	8.3	1.7	5.3	〃	底部回転糸切り痕残る。口縁部内外面ナデ調整。	
162	〃	〃 〃	7.6	1.1	4.6	赤色風化礫 含む	底部外面回転糸切り痕残る。内外面ナデ調整。	
163	SK80	瓦質土器 釜	21	(6.0)	—	白色・黒色 砂粒含む	口縁下には断面三角形の鐳が廻る。鐳部分は強いユビオ サエ。口縁部はナデ調整。胴部外面はユビオサエとナデ調 整。外面には煤。	
164	〃	〃 〃	22	(8.0)	—	白色砂粒 含む	口縁下粘土帯状の鐳が廻る。鐳側面はユビオサエ、ナデ調 整。外面ユビオサエ、内面ナデ調整。外面には煤。	
165	SK83	土師器 皿	12.6	4.3	7.4	赤色風化礫 含む	手づくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整。底部外面は 丁寧なナデ調整。	検出面
166	SK89	土師質土器 杯	11.8	4.1	6.6	白色砂粒 含む	底部回転糸切り。内外面回転ナデ調整。。	
167	SK91	土師器 皿	7.5	1.8	—	白色・黒色 砂粒含む	手づくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整。内面は丁寧 なナデ調整を施す。内面の一部には煤。	
168	〃	〃 〃	7.7	1.7	—	赤色風化礫 粒含む	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。	
169	〃	〃 〃	7.7	1.8	—	精緻土	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。	
170	〃	〃 〃	7.6	1.7	3.9	白色砂粒 含む	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。	
171	〃	〃 〃	8.5	2.6	4.6	〃	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。口 縁端部内面には一部ヘラミガキが残る。口縁部下には粘土 接合痕が残る。	
172	〃	〃 〃	8.6	2.6	—	赤色風化礫 含む	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。口 縁部下には粘土接合痕が残る。	
173	〃	〃 〃	7.8	2	4	精緻土	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。	
174	〃	〃 〃	13	(3.1)	—	赤色風化礫 含む	手づくね成形。内外面はユビオサエ、ハケ調整。口縁部下 は強いヨコナデ、ハケ調整を施す。	
175	〃	〃 〃	14.4	3.5	—	赤色風化礫 粒含む	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。口 縁部下は強いヨコナデ。	
176	〃	〃 〃	14.9	(3.5)	—	〃	手づくね成形。内外面はユビオサエ、ナデ調整。内底部に はハケ調整を施す。口縁部下は強いヨコナデ。	
177	〃	〃 〃	14.75	4.9	10.3	〃	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。口 縁部下は強いヨコナデ調整を施す。	
178	〃	〃 〃	14.7	4.8	—	白色砂粒 含む	〃	
179	SK98	土師質土器 杯	—	(2.4)	6.6	〃	底部回転糸切り。内外面ナデ調整。	
180	SK100	瀬戸 天目碗	12	(4.2)	—	精緻土	口縁部から体部の内外面には褐色と黒褐色釉を施釉。	
181	〃	備前 撞鉢	—	(4.0)	—	白色礫 含む	口縁端部は上方に拡張させる。	IV期、15 世紀
182	SK107	白磁 杯	5.8	(2.1)	—	精緻土	白濁色の釉を施釉。口縁端部は輪花状を呈する。	白磁 D 類

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
183	SK107	青花皿	10.8	(2.7)	—	精緻土	口縁部は外反。外面には牡丹唐草文、内面見込みにも文様あり。	
184	SK109	土師器皿	10.45	4.15	6	白色砂粒含む	手づくね成形。底部外面には板状の圧痕が残る。内外面ユビオサエと丁寧なナデ調整を施す。	
185	SK120	土師質土器釜	22.9	(7.6)	—	雲母片含む	叩き成形。口縁下外面には断面三角形の鐏が廻る。口縁部内外面はヘラ削り、ナデ調整。体部内面はハケとナデ調整。	
186	SK134	土師器皿	14.8	1.9	11.2	石英・雲母片含む	底部外面回転ヘラ切り痕残る。内外面ナデ調整。	
187	〃	〃杯	12.7	3.9	7.6	精緻土	底部外面回転ヘラ切り。内外面丁寧なナデ調整。	
188	〃	〃	12.8	3.2	7.6	赤色風化礫含む	底部外面回転ヘラ切りが残る。内外面回転ナデ調整。	甕内より出土
189	〃	〃	11.9	2.9	7.6	石英含む	底部外面回転ヘラ切り。板状の圧痕が残る。内外面は回転ナデ調整を施す。口縁部は外反。	
190	〃	〃	14.6	(5.2)	—	黒色粒含む	内外面ナデ調整。外面にはタール吸着。	
191	〃	〃	—	(4.4)	8	赤色風化礫含む	底部外面回転ヘラ切り。内外面は回転ナデ調整を施す。	
192	〃 中層	〃	17.9	(4.2)	—	〃	底部欠損。底部には円盤状及び輪高台が付くと考えられる。外面にはタールが付着。	
193	SK134	〃	18.2	(5.7)	—	〃	内外面は回転ナデ調整。体部は途中で段部を呈する。	
194	〃	黒色土器碗	12	(3.5)	—	雲母片含む	内面は黒色化。内外面ヘラ磨き調整。器壁薄いつくり。	
195	SK134 下層	土師器甕	12.3	(6.8)	—	赤色風化礫含む	胴部叩き成形。内外面はナデ調整。口縁端部は上方に拡張させる。外面には煤付着。	
196	〃 上層	〃	19.2	(6.3)	—	雲母片含む	頸部から胴部外面ハケ調整、内面はユビオサエ、ハケ調整。口縁部内外面は丁寧なナデ調整。端部は上方に拡張。	
197	SK134	〃	18.1	19.5	—	赤色風化礫含む	叩き成形。口縁部内外面ナデ調整、端部は外上方に拡張。頸部外面ハケ調整。胴部内面はヘラ削り、ナデ調整。	
198	〃 上層	須恵器甕	—	(9.8)	—	白色砂礫含む	叩き成形。内外面にはナデ調整を施す。	
199	SK137	土師器皿	10.8	3.0	6.9	赤色風化礫含む	手づくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整。底部外面には板状の圧痕が残る。口縁部から底部にかけタール付着。	
200	SK142	瓦質土器釜	16	(4.5)	—	石英含む	口縁部内外面ユビオサエ、ナデ調整。頸部外面には貝状の押し型文様あり。内面はハケ、ナデ調整を施す。	
201	SD34 下層	土師器皿	11.6	2.4	5.3	精緻土	手づくね成形。内外面はユビオサエ、丁寧なナデ調整。口縁部下は強いヨコナデ調整を施す。	
202	〃 上層	青花皿	14.9	(0.8)	—	〃	口縁部端反り。外面は唐草文、内面は二条の界線。	染付 B 群
203	SD34	〃	13.7	(1.9)	—	〃	口縁部端反り。外面は唐草文、内面は二条の界線。	染付 B 群
204	〃 上層	青磁碗	13.3	(3.8)	—	〃	口縁部内面は陽刻文、外面には崩れた雷文帯。	青磁碗 C 群
205	〃 下層	土師質土器羽釜	19.3	(3.3)	—	石英含む	口縁下断面三角形の鐏が廻る。貼付部分は強いナデ調整。外面には煤が付着。	
206	〃 上層	青磁皿	—	(3.0)	—	精緻土	稜花皿。内面は丸鑿状の菊花文、外面はヘラ状の文様。端部は抉りを施す。	15 世紀後半代
207	〃 中層	製塩土器	—	—	—	白色砂粒含む	内面布目痕が残る。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
208	SD51	青磁 碗	15.6	(3.4)	－	精緻土	口縁部は外反。内外面無文。	15 世紀
209	〃	白磁 皿	10.5	(2.2)	－	〃	白濁色釉を施釉。	白磁 D 類
210	〃	土師質土器 鍋	23.6	(12)	－	石英 含む	口縁部端部はユビオサエとナデ調整でつまみ出す。外面は底部は格子状の叩き目が残し、ユビオサエとナデ調整、内面はハケ、ユビオサエと丁寧なナデ調整。	外面全体 に煤
211	SD72	白磁 碗	－	(3.3)	－	精緻土	口縁は玉縁状を呈す。	白磁Ⅳ類
212	〃	瀬戸 碗	12.4	(3.3)	－	石英 含む	天目茶碗。口縁部端反り。内面には黒褐色釉を施釉。	
213	〃 中層	〃 〃	－	(1.6)	4.1	精緻土	天目茶碗底部。削り出し高台。内面には黒褐色釉を施釉。	
214	〃	〃 〃	－	(3.9)	4.3	〃	天目茶碗底部。削り出し高台。高台脇上部はケズリ。内面には黒色釉を施釉。高台は露胎。	
215	〃 中層	備前 播鉢	27	(4.4)	－	白色砂礫 含む	口縁部は上方に拡張。端部は平坦面をなす。内外面回転ナデ調整。	V A 期
216	〃 〃	瓦質土器 鍋	20	(5.2)	－	白色砂粒 含む	口縁部外面ユビオサエ、ナデ調整。内面はへら状工具によるナデ調整。	
217	〃 上層	〃 〃	21.9	(6.9)	－	白色砂粒 含む	口縁部下外面ユビオサエ、ナデ調整。内面はナデ調整。	
218	〃	土師質土器 羽釜	26.8	(8.6)	－	石英・雲母 片含む	口縁下外面は扁平な鍔を貼付。叩き成形、口縁部外面はナデ調整。口縁部端部から体部内面はへらケズリ、ナデ調整。	
219	〃 上層	〃 〃	18	(3.9)	－	黒色・白色 砂粒含む	口縁下断面三角形の鍔が廻る。内面はハケ、ナデ調整。外面鍔下は煤。	
220	〃	〃 鍋	23.2	(6.0)	－	赤色風化礫 雲母片含む	叩き成形。外面には格子状の叩き痕が残る。口縁部外面はユビオサエ、ナデ調整。内面はナデ、ヨコ方向のハケ調整を施す。	搬入品
221	〃	金属製品	10.9	(0.6)	－		薄い作りを呈す。青銅製か？	
222	SD73	瓦質土器 鉢	17.8	6.2	8.0	白色砂粒 含む	口縁部外面はユビオサエ、ナデ調整。内面はナデ調整。摩耗あり。	
223	SD74	青磁 碗	14.7	(3.9)	－	精緻土	内外面無文。口縁部端反り。	
224	〃	陶器 皿	－	(1.8)	5.2	石英 含む	底部ケズリ出し高台。内面鉄絵。	唐津
225	SD77	土師質土器 皿	7.9	1.5	5.2	白色砂粒 含む	底部外面回転糸切り痕。内外面か回転ナデ調整を施す。	
226	〃	瀬戸 皿	12.6	3.1	7.2	石英 含む	端反皿？外面回転ケズリ、内面ナデ調整。底部ケズリ出し高台で、高台内面は露胎。	大窯Ⅰ 期？
227	〃	土師器 皿	10.3	(3.1)	－	砂粒 含む	手づくね成形。内外面ユビオサエ、丁寧なナデ調整を施す。	
228	〃	瀬戸 天目碗		(5.0)	4.6	石英 含む	底部ケズリ出し高台（くり出し）。内外面には黄褐色の釉を施釉。高台は露胎。	大窯Ⅰ 期？
229	SD81	土師質土器 皿	6.5	1.5	4.3	赤色風化礫 含む	底部外面回転糸切り痕。口縁部内外面ナデ調整。	
230	〃	〃 〃	8.1	1.4	4.8	〃	底部回転糸切り痕。内外面回転ナデ調整。	
231	SD81	〃 杯	12.2	4.25	6.2	赤色風化礫 粒含む	底部外面回転糸切り痕。口縁部内外面は回転ナデ調整。	
232	〃	〃 〃	11.7	4.3	6.8	〃	底部回転糸切り痕。内外面回転ナデ調整。内底面は摩耗。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
233	SD81	金属製品	—	—	—	—	全長 31.2 cm, 全幅 2.7 cm, 全厚 0.7 cm, 重量 152.3g。刀子。 外面の一部には木片が付着する。	
234	SD82	土師質土器 杯	12.2	4.3	6.6	赤色風化礫 砂含む	底部が移転糸切り痕, 内外面回転ナデ調整。	
235	〃	陶器 皿	12.8	(2.8)	—	精緻土	唐津皿。白濁色釉を施釉。内面見込みに胎土目痕。	
236	SD88	土錘	全長 5.4 cm	全幅 2.2 cm	全厚 2.0	白色砂粒 含む	重量 23.0g。直径 5 mm の穿孔を施す。	
237	SD84	〃	全長 4.9 cm	全幅 1.1 cm	全厚 1.1 cm	精緻土	重量 4.97g。長方形状を呈し, 直径 4 mm の穿孔を施す。	
238	SD91	青磁 皿	6.4	2.3	3.6	〃	高台内面から底部は露胎。内面には丸鑿状工具による菊の 印刻文。	
239	〃	須恵器 器台	—	(7.5)	—	〃	外面に波状文を廻らす	
240	〃	備前焼 播鉢	31.5	(5.75)	—	白色小礫 含む	口縁部は上方に拡張し, 端部は平坦面を呈する。内外面は ナデ調整。内面には条線が残る。	V 期
241	SD91 ・ 95	〃 〃	31.6	(15)	—	〃	口縁部は上方に拡張する。内面には 8 条の条痕。	
242	SD91	常滑焼 甕	41.3	(9.1)	—	白色・赤褐 色礫含む	緑帯部が頸部上端に密着する。外面に自然釉がかかる。	
243	〃	備前焼 甕	—	(6.2)	—	白色・黒色 砂粒含む	玉縁状の口縁部。内外面ナデ調整を施す。	IV 期
244	SD91	常滑焼 甕	—	(5.1)	—	〃	緑帯部はくつつく。内外面ナデ調整を施す。	9 ～ 11 期
245	SD91 ・ 93	須恵器 甕	—	(7.4)	—	白色砂粒 含む。	頸部から体部が残存, 外面には格子状の叩き目。内面はユ ビオサエ, ナデ調整。器壁厚い。	
246	SD91	石製品 砥石	—	—	—	—	全長 11.3 cm, 全幅 6.0 cm, 全厚 4.6 cm, 重量 492g。砂岩製。 6 面使用。	集石内
247	〃	〃 〃	—	—	—	—	残存長 8.3 cm, 残存幅 5.1 cm, 残存厚 2.3 cm。重量 143g。2 面使用。砂岩製。	
248	〃	〃 石臼	—	—	—	—	重量 1,553g。花崗岩製。	
249	SD92	瓦質土器 釜	19.5	(6.3)	—	白色・黒色 砂粒含む	口縁下断面三角形の鑊が廻る。鑊貼付部分は丁寧なナデ 調整。外面にユビオサエ, ナデ調整。内面は丁寧なナデ調 整を施す。	
250	P11	土師器 碗	—	(3.4)	6.1	精緻土	断面方形の高台を貼付。外面ヘラ削り, ナデ調整。内面 ナデ, ヘラミガキ調整を施す。	
251	P12	土師質土器 杯	8.2	2.7	5.0	赤色風化礫 含む	内外面摩耗。内面の一部に煤。	
252	P14	〃 皿	9.3	2.2	5.0	白色砂粒 含む	底部回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ調整。焼成時の亀 裂あり。	
253	P13	金属製品	全長 5.6 cm	全幅 0.7 cm	全厚 0.5 cm	—	重量 6.42g。断面は長方形状を呈する。一部欠損。	
254	P15	白磁 皿	9.9	2.2	3.7	精緻土	削り出し高台。外面回転ヘラ削り調整。高台は露胎。	白磁 D 類
255	P16	緑釉陶器 皿	—	(2.2)	6.2	〃	円盤状の削り出し高台。高台脇まで施釉。	
256	P16	灰釉陶器 皿	—	(1.5)	7.1	〃	断面三日月状の高台を呈する。内底面には重ね焼き痕。	
257	P17	土師質土器 皿	7.4	1.2	4.4	赤色風化礫 粒含む	底部外面回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
258	P17	土師質土器 羽釜	—	(4.8)	—	赤色風化礫 含む	断面長方形の鍔が廻る。接合部は丁寧なナデ調整。口縁 端部は内傾。内面ヘラケズリ、ナデ調整。	
259	P18	〃 皿	7.8	1.8	4.5	〃	底部外面回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ調整。	
260	P19	土師器 皿	10.3	1.5	6.6	黒色・白色 砂粒を含む	底部外面回転ヘラ切り痕が残る。内外面回転ナデ調整。	
261	P20	土師質土器 皿	7.7	2.6	4.2	精緻土	柱状高台。底部外面回転糸切り痕残る。	
262	〃	土師器 高杯	—	(3.6)	—	赤色風化礫 精緻土	内外面回転ナデ調整。	
263	P21	白磁 碗	16.9	(4.0)	—	精緻土	口縁部端反り。内外外面櫛描文様。	白磁Ⅴ－4 類
264	P22	土師質土器 杯	14.5	3.7	7.6	白色砂粒 含む	底部回転糸切り痕が残る。内外面回転ナデ調整。	
265	P23	〃 皿	7.7	2.6	4.4	〃	両側面はやや内傾。底部回転糸切り痕残る。内外面回転ナ デ調整。	耳皿状
266	〃	〃 〃	7.9	1.7	5.2	白色砂礫 含む	底部回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ調整。	
267	P24	〃 〃	7.8	1.5	4.4	黒色・白色 砂粒含む。	底部回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ調整。	
268	P25	瓦器 碗	—	(1.9)	5.0	〃	断面長方形の高台を貼付。外面はユビオサエ、内面は一 部剥離している。	
269	〃	製塩土器	—	(2.7)	—	砂礫 含む	口縁部残存。外面はユビオサエ、内面には布目痕。	
270	P26	土師質土器 杯	15.1	4.2	7.3	白色砂粒 含む	口縁部外反。底部外面回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ 調整。	
271	〃	〃 〃	14.6	4.3	7.6	赤色風化礫 粒含む	口縁部大きく開く。底部外面回転糸切り痕残る。内底面に は一部ハケ調整。内外面回転ナデ調整。	
272	P27	〃 小壺	7.85	5.95	5.9	石英 含む	底部回転糸切り痕。口縁部は短く外反、端部はナデ調整に より平坦面を呈す。体部下半側面はヘラ状工具で面取りを 施す。底部内面はユビオサエ、ナデ調整。	
273	P26	〃 皿	8	1.8	5.3	白色砂粒 含む	底部回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ調整。	
274	P28	〃 杯	15.8	(5.8)	7.4	赤色風化礫 含む	底部円盤状高台。底部外面糸切り痕残る。外面は黒色処理。 内外面ナデ調整。	
275	P30	〃 皿	7.8	1.6	4.2	〃	底部外面回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ調整。	
276	P29	土師器 皿	12.6	2.7	7.0	〃	手づくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整を施す。底部 内外面は丁寧なナデ調整。口縁部内外面強いナデ調整。	
277	〃	〃 〃	12.1	2.6	8.0	精緻土	手づくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整を施す。底部 内外面は丁寧なナデ調整。	
278	P30	土師質土器 杯	14	4.3	6.7	赤色風化礫 含む	口縁部大きく開く。円盤状高台。底部外面回転糸切り痕。	
279	P31	〃 皿	8	1.5	5.9	〃	底部外面回転糸切り痕残る。内外面は回転ナデ調整。	
280	P32	須恵器 甕	22.4	(7.5)	—	黒色・白色 砂礫含む	広口壺。叩き成形。口縁部内外面回転ナデ調整、頸部内面 はヘラケズリを施す。	
281	P33	土師器 杯	12.1	3.3	7.3	精緻土	底部回転ヘラ切り痕残る。内外面回転ナデ調整。口縁端部 は強くなでる。	
282	P34	土師質土器 皿	7.8	1.7	4.9	〃	底部回転糸切り痕。内外面回転ナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
283	P35	土師器 碗	—	(3.1)	6.3	〃	断面台形状の高台を貼付。内底部はナデ調整。内面は摩耗。	
284	P36	〃 杯	12	3.5	7.5	白色砂粒 含む	底部外面回転ヘラ切り痕残る。内外面回転ナデ調整。	
285	P37	青花 碗	13.2	4.7	5	精緻土	口縁内外面には2重圏線文。外面唐草文、芭蕉葉文。内面見込みに文様あり。透明度の高い釉がかかる。	碗C群。
286	包含層	土師質土器 碗	16.2	5.8	5.5	〃	断面方形形状の高台を貼付。口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。内外面はナデ調整を施す。	
287	〃	白磁 碗	14	(3.0)	—	〃	口縁端部は玉縁状を呈し、縁帯部下はヘラ削り状の調整がみられる。	白磁Ⅱ類
288	〃	土師質土器 杯	14.5	4.6	6.6	白色砂礫 含む	底部外面回転糸切り痕残る。内外面ナデ調整。口縁端部の一部には自然釉がかかる。	
289	〃	〃 碗	—	(3.6)	7.0	精緻土	断面方形形状の高台を貼付。内外面は丁寧なナデ調整を施す。	
290	〃	瓦器 碗	—	(1.0)	4.4	白色砂粒 含む	断面逆台形状の高台を貼付。高台部分は丁寧なナデ。	
291	〃	土師質土器 皿	8.8	1.4	5.2	〃	底部外面は回転糸切り。ロクロ成形。体部から口縁部は回転ナデ調整。	
292	〃	〃 〃	8.0	1.7	4.9	精緻土	内外面はナデ調整を施す。	
293	ST1	弥生土器 壺	12.3	(5.2)	—	砂粒少量 含む	外面はナデ調整。内面はハケ調整。頸部外面には接合痕あり。歪む。外面には煤付着。	
294	〃	〃 〃	15.3	(7.2)	—	4mm 大以下 少量含む	口縁部は大きく開く。外面はヨコナデ調整。下地はハケ調整。口縁部内面はハケ調整。頸部には工具の静止痕が認められる。	
295	〃	〃 〃	14.9	(7.1)	—	3mm 大以下 少量含む	口縁部は大きくひらき、口縁端部をつまみ上げる。口縁部外面、タテハケ後ヨコナデ調整。体部外面、ハケ。体部内面、粘土接合痕。	
296	〃	〃 〃	—	(15.8)	—	〃	外面はミガキ調整。内面はナデ調整。	煤付着。
297	ST1 SK1	弥生土器 体部	—	(15.2)	—	〃	外面はハケ調整。内面はナデとハケメ状の調整。黒斑あり。	搬入品か。
298	ST1	〃 甕	12.3	17.1	(3.2)	〃	「く」の字状の口縁を呈する。口唇部は丸くおさめる。丸底。外面は叩き痕。口縁部内面はハケ調整。体部内面はナデ調整。	
299	〃	〃 〃	14.5	22.3	2.2	3mm 大以下 多く含む	「く」の字状の口縁。口唇部は丸くおさめる。丸底。口縁部外面は叩き後ハケ調整。体部外面は叩き。内面はハケ調整。	被熱変色。 煤付着。
300	ST1 SK1	〃 〃	18.4	(14.8)	—	4mm 大以下 少量含む	「く」の字状の口縁。外面は叩き目。内面はハケ調整、ナデ調整、ケズリによる調整。	煤付着。
301	ST1 下層	〃 〃	18.6	(3.8)	—	3mm 大以下 少量含む	「く」の字状の口縁。内外面はハケ調整。外面には煤付着。	
302	ST1 上層	〃 〃	15.5	(6.1)	—	6mm 大以下 少量含む	「く」の字状の口縁。口唇部は丸くおさめる。口縁部外面は叩き後ヨコナデ調整。体部外面は叩き。内面はハケ調整。	
303	〃	〃 鉢	18.2	(4.3)	—	3mm 大以下 多く含む	口唇部は凹面状を呈する。外面はナデ・ハケ調整。内面はハケ・ミガキ調整。	外面煤付 着。
304	〃	〃 高杯	25.0	(7.6)	—	4mm 大以下 少量含む	口唇部は面取りを呈する。内面はハケ後ミガキ調整。口縁部外面はミガキ調整。杯部外面はケズリ後ミガキ調整。	
305	〃	〃 〃	18.2	(7.2)	—	〃	外面はミガキ調整。内面はハケ後ミガキ調整か。	
306	〃	〃 〃	—	(6.6)	—	〃	脚部には円孔。外面はミガキ調整。内面にはしほり目とナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
307	〃	弥生土器 高杯	—	(8.4)	13.8	〃	脚部, 「ハ」の字状を呈する。3ヶ所に円孔。外面はミガキ調整, 脚部内面はケズリ調整。裾部内面はハケ調整。	
308	〃	ミニチュア土器	6.2	5.5	—	2mm 大以下少量含む	手捏ね成形。ほぼ完存。	
309	〃 SK1	石製品 叩石	9.5	9.2	3.6	砂岩	扁平な円形の川原石。側面に弱い敲打痕。	
310	ST2 下層	弥生土器 壺	9.5	(5.9)	—	2mm 大以下少量含む	直口壺。外面, ハケ後ミガキ。内面, ハケ・ナデ。	
311	〃	〃 〃	15.4	(3.5)	—	5mm 大以下少量含む	口唇部には刻目。外面は縦方向のハケ調整。内面はハケ調整。粘土紐を積上げている状況が認められる。	
312	〃	〃 〃	19.1	(7.1)	—	2mm 大以下少量含む	口唇部はヨコナデ調整により凹面状を呈する。内外面ともハケ調整。	
313	〃 上層	〃 〃	—	2.3	—	〃	肩部には櫛描波状文。	
314	〃 SK1	〃 〃	19.6	37.3	3.4	3mm 大以下少量含む	体部は球形状を呈する。丸底。口唇部には刻目。体部外面下半部は叩き後ハケ調整。上半部はハケ調整。体部内面はハケ・ナデ調整。残存率良好。	
315	〃	〃 〃	21.4	(5.8)	—	2mm 大以下少量含む	二重口縁壺。口唇部は面取り。内外面ともナデ調整。一部にはミガキ状の調整。	
316	〃 上層	〃 〃	—	(4.0)	—	5mm 大以下少量含む	複合口縁壺。外面は櫛描波状文。内外面ともヨコハケ調整。	
317	〃 下層	〃 〃	—	(20.6)	—	2mm 大以下少量含む	内外面ともハケ・ナデ調整。底部丸底。黒斑。	煤付着。
318	〃 上・下層	〃 甕	16.2	(19.1)	—	5mm 大以下少量含む	「く」の字状口縁。口唇部は丸くおさめる。外面は叩き。口縁部外面, 叩き後ヨコナデ調整。体部内面はハケ後ナデ調整。口縁部から肩部内面はハケ調整。	外面には煤付着。
319	〃 SK1	〃 〃	9.5	(6.8)	—	2mm 大以下少量含む	小型。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ・ミガキ調整。	
320	〃 下層	〃 〃	—	(2.5)	—	雲母片 少量含む	内外面ともヨコナデ調整。端部はつまみ上げる。	搬入品か。
321	ST2	〃 〃	—	(24.8)	—	3mm 大以下多く含む	丸底。外面は叩き目。下半部は叩き後粗いハケ調整。底部付近は叩き後ナデ調整。内面肩部はナデ調整。下半部はハケ調整。内面には接合痕が認められる。	
322	〃 上層	〃 〃	27.1	(6.8)	—	3mm 大以下少量含む	「く」の字状口縁。口唇部, 刻目。外面, 叩き後ナデ調整。口縁部, 叩き後ナデ調整。内面, ナデ調整。	煤付着。
323	〃 下層	〃 底部	—	(8.6)	3.4	5mm 大以下少量含む	ほぼ丸底。外面は叩き後ハケ調整。外底面は叩き目。内面はハケ・ナデ調整。	被熱変色。
324	〃 上層	〃 鉢	9.8	3.1	—	1mm 以下 極少量含む	皿状。内外面はミガキ調整。	
325	ST2	〃 〃	10.9	6.2	—	3mm 大以下少量含む	丸底。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ調整。被熱変色。ほぼ完存。	外面煤け
326	〃 SK1	〃 〃	11.9	7.4	2.1	6mm 大以下少量含む	ほぼ丸底。底端部は強いナデ調整。外底面は凹む。外面はナデ調整。内面は工具によるナデ調整。外面は粘土紐接合痕が認められる。ほぼ完存。	
327	ST2	〃 〃	17.2	6.7	—	5mm 大以下少量含む	丸底。磨耗, 調整等不明瞭。外面は叩き後ハケ調整か。内面はナデ調整。ほぼ完存。	
328	〃 下層	〃 〃	—	(7.6)	—	3mm 大以下少量含む	丸底。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ調整。擬口縁か。黒斑あり。	
329	〃 P1	〃 高杯	13.6	(5.0)	—	2mm 大以下少量含む	外面はミガキ調整。内面はナデ後ミガキ調整。	煤ける
330	ST2	〃 〃	—	(5.8)	—	〃	脚部。中実。脚部外面はミガキ調整。杯部内面にもミガキ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
331	ST2	弥生土器 高杯	—	(7.8)	—	2mm 大以下少量含む	脚柱部。中実。裾部に 4 ヶ所の円孔。外面はミガキ調整。	煤付着。
332	〃 下層	〃 〃	—	(8.5)	—	3mm 大以下少量含む	裾部に 4 ヶ所の円孔。脚部外面はハケ調整。裾部外面はミガキ調整。裾部内面はハケ調整。	
333	〃 上層	〃 〃	—	(2.9)	—	2mm 大以下少量含む	外面に櫛描波状文を施した突帯がみられる。円孔。外面はミガキ調整。	搬入品か。
334	〃 下層	〃 〃	—	(2.5)	18.0	〃	大きくひろがる裾部。内外面はハケ調整。円孔。	
335	〃 下層	〃 脚部	—	(3.7)	15.4	3mm 大以下少量含む	内外面はヨコナデ調整、ハケメ状の調整。端部はつまみ出す。	
336	〃 下層	支脚	—	(7.1)	—	5mm 大以下少量含む	手づくね成形。指頭圧痕が顕著。	煤付着。
337	〃 下層	石製品 叩石	10.7	7.4	3.0	砂岩	扁平な楕円形の自然石。中央部と側面に敲打痕。	
338	〃 SK1	〃 〃	11.2	10.1	4.6	〃	中央部に敲打痕。側面は敲打によるものかは不明。	
339	〃 上層	〃 〃	14.3	6.7	4.8	〃	棒状の自然石。	被熱変色。
340	〃 下層	〃 〃	16.3	7.5	3.1	〃	扁平な棒状の自然石。側面に弱い敲打痕。握りやすい形状。	
341	ST2	〃 台石	15.6	19.5	8.0	〃	欠損。平滑。	被熱変色。 煤付着。
342	ST3	土師器 甕	21.5	(3.2)	—	2mm 大以下少量含む	内外面はナデ調整。	
343	〃 下層	弥生土器 甕	15	(2.2)	—	〃	口縁部外面はナデ、ハケ調整。内面はハケ調整を施す。	
344	〃 〃	〃 〃	—	(2.6)	3.7	〃	叩き成形。底部外面ユビオサエ。内外面はナデ調整。	
345	〃 〃	金属製品	—	—	—	—	残存長 2.7 cm, 全幅 1.5 cm, 全厚 0.4 cm, 重さ 3.0g。	
346	〃 上層	青磁 碗	—	(2.4)	—	〃	口縁部内面 3 条の界線, 端部端反り。	
347	ST4	弥生土器 壺	17.2	(5.7)	—	5mm 大以下多く含む	口縁部は外反。口唇部は丸くおさめる。擬口縁。磨耗のため調整は不明瞭。	
348	ST4 上層	〃 〃	15.0	(6.8)	—	3mm 大以下少量含む	口縁部は内湾する。口唇部は面取り。口縁部外面はヨコナデ調整。口縁部内面, 粗いハケ後ナデ調整。	
349	ST4	〃 〃	—	(6.2)	7.4	4mm 大以下少量含む	大型壺。丸底。外面は叩き後ハケ調整。外底面はナデ調整。内面はハケ調整。内底面に指頭圧痕。亀裂と黒斑がみられる。上に続く可能性有り。	
350	〃 P7	〃 甕	14.6	(4.3)	—	2mm 大以下少量含む	「く」の字状口縁。口唇部は面取り。口縁部内外面はヨコナデ調整。体部外面は叩き後ナデ調整。体部内面はハケ調整。頸部外面に粘土接合痕が認められる。	煤付着。
351	ST4	ミニチュア土器	8.4	4.6	3.0	3mm 大以下少量含む	丸みを持った平底。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ調整。黒斑あり。	
352	〃	弥生土器 鉢	13.6	5.3	9.0	4mm 大以下少量含む	径の大きな平底。内外面はハケ・ナデ調整。指頭圧痕。黒斑あり。製作途中か。	
353	〃	〃 高杯	—	(4.6)	—	3mm 大以下少量含む	杯底面は円形に凹む。内外面はミガキ調整。杯底部は粘土充填。	
354	〃 上層	〃 〃	—	(6.5)	—	2mm 大以下少量含む	脚柱部。中実。外面はタテ方向のミガキ調整。裾部内面はハケ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
355	ST4	弥生土器 高杯	—	(5.9)	—	1mm 大以下少量含む	脚柱部。中実。外面はハケ後ミガキ調整。裾部内面はハケ調整。	
356	ST4 下層	〃 〃	—	(3.6)	—	3mm 大以下少量含む	外面に櫛描波状文を施した突帯。裾部に円孔。外面はミガキ調整。内面はナデ調整。	搬入品か。
357	〃 上層	〃 〃	—	(4.1)	13.6	2mm 大以下少量含む	裾部,「ハ」の字状を呈す。円孔。外面はハケ後ミガキ調整。内面はハケ調整。	
358	〃 下層	〃 〃	—	(3.3)	19.2	〃	裾部は大きくひろがり、端部は尖らせる。外面はミガキ調整。内面はハケ調整。	
359	〃 下層	ミニチュア土器	6.2	(4.4)	3.3	〃	内外面ともナデ調整。	
360	ST4	〃	4.2	2.3	0.9	3mm 大以下少量含む	手捏ね成形。ほぼ完形。	被熱変色。
361	〃	石製品 石包丁	8.8	5.0	1.1	砂岩	打製石包丁。片刃。表面には主要剥離面を残す。裏面は自然面。紐掛け用の挟りがみられる。	
362	〃	〃 〃	9.5	5.7	1.9	〃	打製石包丁。片刃、刃部付近、厚みは急に薄くなる。表面は主要剥離面を残す。裏面は自然面。紐掛け用の挟りがみられる。	
363	〃	〃 叩石	14.1	9.5	4.8	〃	側面と中央部に敲打痕。短辺の一边に強い敲打。	被熱変色。
364	〃 床	焼石	14.8	10.7	4.8	〃	明瞭な使用痕はみられない。	被熱変色。
365	ST5 P6	弥生土器 壺	11.0	(5.3)	—	1mm 大以下少量含む	直口壺。内外面ともハケ後ミガキ調整。	
366	ST5	〃 〃	14.5	(4.4)	—	3mm 大以下少量含む	口唇部は面取り。内外面ともハケ調整。	
367	〃 上層	〃 〃	15.4	(4.2)	—	4mm 大以下少量含む	口唇部は面取り。口縁部外面は叩き後ナデ調整。内面はハケ・ナデ調整。粘土接合痕がみられる。	煤付着。
368	〃 中層	〃 〃	16.4	(5.4)	—	〃	口唇部は面取り。下端は引つ張り出す。外面はハケ調整。内面はハケ、ナデ調整。	
369	ST5 床	〃 体部	—	(5.7)	—	2mm 大以下少量含む	上胴部に櫛描波状文。磨耗し調整不明瞭。外面は叩き後ナデ調整。内面は工具によるナデ調整。内面には粘土接合痕が認められる。	
370	ST5	〃 〃	—	—	—	〃	櫛描波状文。外面はミガキ調整。内面はナデ調整。	
371	〃	〃 甕	13.7	19.6	2.8	3mm 大以下少量含む	「く」の字状口縁。ほぼ丸底。外面、叩き後、下半部、ハケ。口縁部、叩き後ナデ調整。口縁部内面、ハケ調整。体部、ナデ調整。頸部内面、粘土接合痕。	煤付着。
372	〃 P1	〃 〃	14.6	(20.2)	—	4mm 大以下少量含む	「く」の字状口縁。外面は叩き、下半部には叩き後ハケ調整。内面はナデ・ハケ調整。	煤・おこげ付着。
373	〃 中央 P	〃 底部	—	(6.5)	4.6	〃	丸底。外面は叩き後ナデ調整。外底面はナデ調整。内面はハケ調整。内底面は指頭圧痕。黒斑あり。	
374	〃	〃 甕	13.8	(13.5)	—	3mm 大以下少量含む	「く」の字状口縁。外面は叩き後下半部にハケ調整。内面はナデ調整。	煤付着。
375	〃 P1	〃 〃	15.1	(9.8)	—	4mm 大以下多く含む	「く」の字状口縁。口唇部丸くおさめる。外面は叩き後ナデ調整。口縁端部はヨコナデ調整。肩部内面はケズリ調整。口縁部と体部内面はハケ調整。	煤付着。
376	〃	〃 〃	18.0	(8.0)	—	2mm 大以下少量含む	「く」の字状口縁。外面は叩き後にタテ方向のハケ調整。口縁部内面はハケ調整。体部内面はナデ調整。肩部内面には粘土接合痕が認められる。	被熱変色。
377	〃 上・中層	〃 〃	16.8	(6.4)	—	4mm 大以下少量含む	屈曲の弱い「く」の字状口縁。外面は叩き目。内面はハケ調整。肩部内面はケズリによる調整。	
378	〃 P1	〃 〃	12.7	(3.1)	—	3mm 大以下少量含む	外面は叩き目。口縁部外面はハケとナデ調整。下地には叩き目有りか。内面はナデ調整。	煤付着。

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
379	ST5	弥生土器 甕	16.2	(3.6)	—	2mm 大以下少量含む	口縁部は内湾する。口唇部は尖らせる。口縁部外面はナデ調整。体部外面は叩き目。内面はハケ調整。	
380	〃	〃 底部	—	(6.5)	3.5	4mm 大以下多く含む	平底。外面はタテ方向のハケ調整。外底面はハケ調整。内面はハケ・ナデ調整。	
381	ST5 P5	〃 底部	—	(4.5)	3.1	3mm 大以下少量含む	角のとれた平底。外面は叩き。外底面は叩き後ナデ調整か。内面はナデ調整。	被熱変色。
382	ST5	〃 〃	—	(4.1)	—	〃	丸底。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ調整。	煤付着。
383	〃	〃 高杯	9.7	(3.3)	—	2mm 大以下少量含む	外面はミガキ調整。内面はハケ後ミガキ調整。	搬入品か。
384	〃	〃 鉢	12.3	7.9	3.6	3mm 大以下少量含む	底部は突出する。丸みを持った平底。外面は叩き後ナデ調整。内面はハケ調整。亀裂がみられる。	被熱変色、 煤付着。
385	〃 中央 P	〃 〃	12.8	8.0	—	〃	外面は叩き後にナデ調整。内面はハケ・ナデ調整。外底面は強いナデ調整。黒斑あり。残存率は良好。	被熱変色。
386	〃 P1	〃 〃	16.7	7.4	—	4mm 大以下少量含む	丸底。内外面はハケ調整。口縁部外面には亀裂がみられる。残存率は良好。	
387	〃 上・中層	〃 〃	18.1	8.9	—	5mm 大以下少量含む	丸底。外面は叩き後ヨコ方向のハケ調整。外底面は強いナデ調整。内面はハケ・ナデ調整。	
388	ST5	〃 〃	11.4	8.8	2.5	3mm 大以下少量含む	口縁部は短く外反する。底部平底。内外面はハケ調整。外底面はハケ調整。内底面はナデ調整。	煤付着。
389	〃 下層	〃 〃	13.0	(9.7)	—	〃	口縁部は短く外反する。丸底。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ・ハケ調整。	
390	〃 P1	〃 〃	—	(3.3)	3.6	2mm 大以下、少	内外面ともナデ調整。外面はミガキ状を呈する。底部側面には指頭圧痕。黒斑あり。	煤付着。
391	〃 中層	〃 高杯	—	(6.0)	—	2mm 大以下少量含む	脚柱部は中実。裾部には円孔。外面はミガキ調整。裾部内面はハケ・ナデ調整。	煤付着。
392	〃 上層	〃 〃	—	(5.6)	—	〃	脚柱部。中実。裾部には円孔。外面はミガキ調整。裾部内面はナデ調整。	
393	〃	〃 〃	—	(7.4)	—	3mm 大以下少量含む	脚柱部は中実。外面はミガキ調整。杯部内面はミガキ調整。裾部内面はハケ調整。	被熱変色。
394	ST5	〃 〃	—	(7.5)	—	2mm 大以下少量含む	裾部には円孔。外面はミガキ調整。内面はハケ・ナデ調整。	
395	〃	〃 〃	—	(7.3)	14.4	3mm 大以下少量含む	裾部は「ハ」の字状を呈する。円孔が2孔1対で施される対面配置か。外面はハケ後ミガキ調整。内面はナデ・ハケ調整。	
396	〃 上層	〃 〃	—	(3.4)	13.4	2mm 大以下少量含む	裾部は「ハ」の字状を呈する。円孔は4方向で均等配置。外面はハケ後ミガキ調整。内面はハケ調整。	
397	ST5	支脚	—	17.5	—	2mm 大以下多く含む	中空。天端の約半分を内側に折り込み、両端を支点とする。背部、穿孔。裾部はわずかにひろげる。外面は叩き調整。内面はナデ調整。黒斑あり。	被熱変色。
398	〃	粘土塊	—	(9.1)	—	4mm 大以下少量含む	外面はナデ調整。内面はハケ調整。	
399	〃	〃	8.1	5.8	0.7	3mm 大以下少量含む	内外面はナデ調整。粘土塊、付着。	
400	〃	〃	10.0	10.1	5.9	4mm 大以下多く含む	496g。粘土塊。全面に指頭圧痕。	被熱変色。
401	〃	ミニチュア土器	7.4	(3.6)	—	3mm 大以下少量含む	内外面はナデ調整。外面には粘土接合痕が認められる。	外面煤が付着
402	〃 P4	〃	7.5	7.0	2.0	〃	底部丸底。球形の体部に外反する口縁部。内外面はナデ調整。ほぼ完存。	被熱変色。

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
403	ST5 上層	石包丁	9.0	5.0	1.6	砂岩	打製石包丁。表面、主要な剥離面を大きく残す。裏面、自然面。刃部付近、急に薄くなる。片刃。両端に紐掛け用の挟り。背部、敲打により整形。	
404	ST5	〃	9.3	5.1	1.5	〃	打製石包丁。表面、主要な剥離面を大きく残す。裏面、自然面。刃部にむかって、薄くなる。片刃。両端に紐掛け用の挟り。背部、敲打により整形。刃部の一部、欠損。	被熱変色
405	〃	叩石	11.0	8.1	4.2	〃	側面には線状の敲打痕。上下端と中央部に弱い敲打痕。全体的に平滑。	
406	ST6	須恵器 杯蓋	13.6	(2.7)	—	2mm 大以下少量含む	かえり有り。外面は回転ナデ、回転ヘラケズリ調整。自然釉付着。	
407	ST6 下層	〃 〃	—	(1.6)	—	〃	口縁部内面は凹面状を呈す。内外面は回転ナデ調整。	
408	〃	〃 杯身	—	(1.9)	4.8	3mm 大以下少量含む	底部外面は回転ヘラ切り。体部内外面は回転ナデ調整。	
409	〃 カマド	土師器 甕	13.5	(3.3)	—	4mm 大以下少量含む	口縁端部は外反。口唇部は尖らせる。内外面はヨコ方向のナデ調整。	
410	ST6	〃 甕	22.3	(12.5)	—	6mm 大以下少量含む	口縁部は外反。口唇部は尖らせる。口縁部はヨコ方向のナデ調整。体部外面はタテ方向のハケ調整。体部内面はナデ調整。	被熱変色。
411	〃 下層	金属製品 鉄鏝	9.1	2.3	0.7	—	方頭鏝。鏝身の断面形は長方形、茎の断面形は方形。茎の一部は欠損する。	
412	ST7 下層	弥生土器 壺	14.2	(5.5)	—	7mm 大以下少量含む	口縁部外面はヨコ方向のナデ調整。内面はハケ調整。体部外面は叩き後ハケ調整。内面はハケ調整。	
413	ST7	〃 〃	18.8	(4.9)	—	3mm 大以下少量含む	口縁部は大きく開く。口唇部は平坦面を呈する。外面は縦方向のハケ調整。内面はハケ、ナデ調整。	
414	〃 中層	〃 〃	18.2	(4.2)	—	2mm 大以下少量含む	二重口縁壺。口唇部は面取り。内外面ともに粗いハケ調整。	
415	〃 P1	〃 甕	11.5	20.2	—	4mm 大以下少量含む	「く」の字状の口縁を呈する。ほぼ丸底。外面は叩き後ハケ調整。内面はハケ、ナデ調整。	被熱変色、 煤付着。
416	〃 下層	〃 〃	15.6	(5.8)	—	3mm 大以下少量含む	長めの「く」の字状口縁を呈する。口縁部外面は叩き後ハケ調整。内面はハケ調整。体部外面は叩き後ナデ調整。内面はハケ調整。	外面激しく 煤ける
417	ST7	庄内式土器 甕	—	(2.5)	—	金雲母片 少量含む	口縁端部はつまみ上げる。内外面はヨコ方向のハケ調整。	〃
418	〃 P4	弥生土器 鉢	9.0	2.5	—	3mm 大以下、少	皿状鉢。手づくね成形。器壁は厚い。歪む。残存率は良好。	罌以下外面 煤ける
419	ST7	〃 〃	9.3	3.4	—	3mm 大以下少量含む	皿状鉢。丸底。内外面はナデ調整。残存率は良好。	被熱変色。
420	〃	〃 〃	10.3	4.5	3.5	4mm 大以下少量含む	丸みを帯びた平底。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ調整。内底面は工具による静止痕がみられる。外面には亀裂。黒斑あり。残存率は良好。	
421	〃 P3	〃 〃	11.7	6.5	3.3	3mm 大以下少量含む	平らな部分が残る丸底。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ調整。	被熱変色。
422	〃 P1	〃 〃	11.9	6.7	—	3mm 大以下少量含む	底部丸底。内外面はナデ調整。	内外面煤、 被熱変色。
423	〃 P3	〃 〃	10.6	8.2	3.4	〃	底部は平らな部分が残る丸底。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ・ハケ調整。	被熱変色。
424	ST7	〃 〃	13.0	7.4	5.8	4mm 大以下少量含む	丸みを帯びた平底。外面は叩き後ナデ調整。内面はハケ・ナデ調整。外面には亀裂がみられる。残存率は良好。	被熱変色。
425	〃 上・中層	〃 〃	14.3	8.0	2.0	3mm 大以下少量含む	底端部は強いナデにより丸底化する。外面は叩き後ナデ調整。内面はハケ・ナデ調整。残存率は良好。	被熱変色。
426	〃 中層	〃 〃	15.0	7.4	—	2mm 大以下少量含む	外面は叩き後ナデ調整。内面はハケ調整。	被熱変色。

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
427	ST7	弥生土器 鉢	20.0	7.3	2.1	3mm 大以下少量含む	丸底。底部は残存。外面は叩き後ナデ調整。内面はナデ調整。残存率は良好。	煤付着。
428	〃	〃 〃	17.5	5.0	—	2mm 大以下少量含む	内外面ともナデ調整。器壁は厚い。黒斑あり。歪む。	
429	〃 上層	〃 体部	—	(1.5)	—	砂粒 含まない	内外面ともナデ調整。内面は赤色顔料付着。	外面は煤付着。
430	ST8	〃 壺	—	(1.5)	—	2mm 大以下少量含む	内外面ともナデ調整。内面に赤色顔料付着。	外面は煤付着。
431	〃	〃 壺	—	(5.7)	4.7	3mm 大の砂 礫含む	外面頸部まで叩き成形。内面はハケ調整、頸部内面はヘラ状工具によるナデ調整。	
432	〃 床	〃 〃	—	(5.8)	5.0	〃	内底部一部剥離。底部は平底を呈す。外面は叩きの後タテ方向のハケ調整。	
433	ST8	〃 甕	9.5	(10)	—	〃	口縁部はくの字状を呈する。口縁部外面まで叩き成形、内面はハケ調整、胴部にはヘラケズリによる調整。	
434	〃 中層	〃 鉢	12	(6.6)	—	チャート礫 含む	叩きの後外面はナデ調整。口縁部内面はハケ調整、下半部はユビナデ。	
435	〃 上層	〃 〃	14.9	(5.4)	—	3mm 大の砂 礫含む	外面は叩きの後ナデ調整。内面ハケ調整。	
436	ST8	〃 高杯脚部	—	(7.0)	—	砂礫 含む	外面タテ方向のケズリ。細かいミガキを施す	
437	〃	〃 高杯	—	(3.0)	15.7	1mm 大砂礫 含む	裾部は段状を呈する。3ヶ所の穿孔が認められる。外面はナデ、ヘラミガキ調整。内面はナデ調整。	
438	〃 床	〃 鉢	—	(4.0)	4.0	〃	外面ユビオサエ。内外面は摩耗のため調整不明瞭。	
439	ST8	金属製品 鉄族	5.0	1.0	0.15	—	鍔茎の一部、欠損。	
440	〃	〃 鉄族	3.1	4.95	0.18	—	鍔身の断面形長方形、茎の断面形長方形。茎の一部、欠損。	
441	〃	石製品 石包丁	—	—	—	—	全長 10.5 cm、全幅 6.3 cm、全厚 1.6 cm、重量 206g。砂岩製。側面には挟り。	
442	〃	〃 摺石	—	—	—	—	全長 11.3 cm、全幅 10.6 cm、全厚 5.6 cm、重量 955g。砂岩製。	
443	SB61	土師器 皿	14.3	3.9	9.3	雲母片 含む	口縁部内外面はユビオサエ、ナデ調整。	
444	SB62	〃 碗	15.2	(4.5)	—	白色砂粒 含む	口縁部外反。高台部分欠損。ロクロ成形。外面ナデ調整。内面ミガキ調整。	
445	SB82	瀬戸 皿	32	(2.7)	—	精緻土	回転ロクロ成形。口縁端部を拡張。	
446	SK145	土師器 皿	11.4	2	8.5	石英 含む	底部回転ヘラ切り痕と板状の圧痕が残る。内外面回転ナデ調整。	
447	〃	〃 杯	11.6	3.5	7.5	精緻土	ロクロ成形。底部か回転ヘラ切り。内外面回転ナデ。口縁部には一部煤が付着。	
448	〃	〃 〃	12.2	4.9	7.6	黒色・白色 砂粒含む	底部外面回転ヘラ切り痕と板状の圧痕が残る。内外面ナデ調整。	
449	〃	〃 〃	13.3	4.8	7.7	赤色風化礫 含む	底部回転ヘラ切り痕が残る。内外面は回転ナデ調整。	
450	〃	〃 〃	—	(4.8)	8.2	〃	底部外面にはヘラ切り痕が残る、高台部分は丁寧なナデ調整。体部内外面はナデ調整。	一部煤付着
451	〃	黒色土器 碗	16.9	(4.5)	—	雲母片 含む	内面黒色。内外面丁寧なヘラ磨きを施す。器壁は薄い。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
452	SK145 No.1	黒色土器 椀	16	5.2	7.4	雲母片 含む	内面黒色処理。体部が外面と底部外面には墨書あり。底部外面には三角形の高台を貼付。内面にはミガキ。内底面には平行方向のミガキによる調整。	
453	SK145	土師器 羽釜	27.2	(5.4)	—	石英 含む	口縁下には断面長方形の鐙が付く。鐙部分は丁寧なナデ調整。外面はユビオサエ、ハケ調整。内面はナデ調整を施す。	
454	SK155	〃 杯	12.4	5.5	7.1	赤色風化礫 含む	内外面ナデ調整。摩耗の底部外面調整は不明瞭。	
455	〃	瓦質土器 鍋	16.6	(3.0)	—	白色砂粒 含む	外面ユビオサエ。内外面ナデ調整。	
456	SK156 ・ 166	土師器 皿	13.5	1.9	9.1	赤色風化礫 含む	底部回転ヘラ切り痕が残る。内外面回転ナデ調整。	
457	SK156	〃 杯	13.6	(4.9)	7.8	〃	底部貼付高台。外面は回転ヘラ切り痕残る。内外面ナデ調整。高台貼付部分は丁寧なナデ調整。	
458	SK156 ・ 166	〃 〃	12	(2.5)	—	精土	内外面ナデ調整。	
459	SK156 ・ 166	黒色土器 椀	14.2	(2.5)	—	石英・雲母 片含む	内面黒色処理。内面並行のヘラミガキを施す。器壁薄い。	
460	SK156 ・ 166	〃 〃	—	(2.6)	7.0	雲母片 含む	内面黒色処理。底部外面に断面三角形の貼付高台。内面ヘラミガキを施す。	
461	SK156	土師器 杯	11.8	3.7	7.7	赤色風化礫 粒含む	底部外面回転ヘラ切り痕残る。内外面ナデ調整。口縁から体部内面にはタール。(紐状)	
462	SK156 ・ 166	〃 甕	18.4	(3.2)	—	〃	内外面ナデ調整。口縁端部は平坦面を呈する。	
463	SK166	〃 杯	13.2	3.9	8.0	〃	ロクロ成形。底部外面回転ヘラ切り。内外面丁寧なナデ。	
464	SK166	〃 〃	10.6	2.9	5.4	〃	底部回転ヘラ切り痕残る。回転ナデ調整。	
465	SK166	黒色土器 椀	—	(0.8)	7.2	雲母片 含む	断面三角形の高台を貼付。内面にはヘラミガキを施す。	
466	SK157	土師器 皿	12.5	1.65	8.3	精土	口縁部は端反り。底部か回転ヘラ切り。内外面は回転ナデ。	
467	SK157	〃 杯	12.7	5.0	7.6	赤色・黒色 粒含む	底部外面回転ヘラ切り痕残る。口縁部は外上方に開く。	
468	SK157	〃 甕	27.4	22.4	23.2	雲母片 含む	長胴甕。口縁はくの字状に屈曲し、端部は外方に摘み出す。外面はハケ調整。内面下部はヘラケズリとナデ調整。	
469	SK158	緑釉陶器	—	(1.1)	7.6	精土	削り出し高台(蛇ノ目状高台)。	
470	SK158	瓦質土器 鉢	24.6	(5.9)	—	白色砂粒 含む	口縁部から体部内外面ユビオサエ、ナデ調整。口縁は片口状を呈する。内面には5条単位の摺目。	
471	SK171	土師器 杯	12.5	3.8	5.2	〃	底部回転ヘラ切り。口縁端部と内面の一部に煤が付着。	
472	SK171	〃 〃	13.6	5.0	7.7	黒色砂粒 含む	底部外面には高台を貼付するが剥離。内外面ナデ調整。	
473	SK171	黒色土器 椀	14.9	4.85	8.9	精土	断面三角形の高台を貼付。口縁内面1条の沈線。内面は並行のミガキを施す。外面はユビオサエとナデ調整。	
474	SK172	土師器 杯	12.7	2.5	8.0	〃	内外面ナデ調整。	
475	SK172	〃 〃	11.4	3.5	6.8	赤色風化礫 含む	ロクロ成形。内外面ナデ調整。	
476	SK172 下層	〃 〃	13.2	(3.5)	—	白色砂粒 含む	内外面回転ナデ調整。	目痕

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
477	SK172	土師器 杯	12.3	3.3	7.2	白色砂粒 含む	底部回転ヘラ切り痕残る。内外面ナデ調整。	
478	〃	〃 〃	11.7	3.4	7.2	赤色風化礫 粒含む	底部外面回転ヘラ切り痕残る。内外面ナデ調整。口縁端部は外反。	
479	〃	黒色土器 椀	—	(2.4)	5.2	雲母片 含む	内面黒色化。底部に断面三角形の貼付高台。内面はヘラミガキを施す。	
480	SK174	青磁 碗	—	(4.1)	—	精土	口縁部内湾。内外面雷文帯文様。貫入あり。	
481	〃	土師質土器 釜	—	(4.6)	—	石英 含む	把手貼付。円形の穿孔。把手部分はユビオサエ、ナデ調整。	
482	SK177	土師器 皿	12.8	1.7	9.2	雲母片 含む	内外面ナデ調整。体部から底部煤付着。	
483	SK175	瓦質土器 鍋	20.7	4.9	—	白色砂粒 含む	口縁部やや直立する。内外面ユビオサエ、ナデ調整。	
484	SK177	移動式 竈	—	(8.6)	31.1	砂礫多く 含む	外面はハケ、ナデ調整、内面はユビオサエとナデ調整。	
485	SK179	土師器 皿	10.8	1.5	6.2	白色砂粒 含む	底部外面回転ヘラ切り痕が残る。内外面ナデ調整。	
486	〃	〃 〃	11.1	1.6	7.2	〃	内面黒色化。内外面ナデ調整。	
487	〃	〃 〃	10.3	1.8	6.5	〃	内外面は摩耗著しく調整は不明瞭。	
488	〃	〃 椀	—	(1.5)	6.6	雲母片 含む	底部外面断面三角形の貼付高台。高台はナデ調整。内面はヘラミガキを施す。	
489	〃	土師質土器 羽釜	28.3	(4.5)	—	石英 含む	口縁下断面方形の鐙が廻る。口縁端部は拡張。外面ユビオサエ、ナデ調整。内面はナデ調整。	
490	〃	〃 〃	24.6	(5.4)	—	〃	口縁下断面三角形の鐙が廻る。鐙下半はヘラケズリ、ナデ調整。外面はユビオサエとナデ、内綿はナデ調整。	
491	SK185	土師器 甕	23.5	(4.5)	—	石英・雲母 片含む	口縁端部は上方に拡張する。口縁部内外面はナデ調整。頸部外面にはハケ調整。	
492	SK199	〃 皿	12.6	1.2	8.9	赤色風化礫 粒含む	底部回転ヘラ切り痕残る。内外面ナデ調整。	
493	〃	〃 杯	15	4.6	6.8	石英 含む	底部回転糸切り痕残る。内外面回転ナデ調整。	
494	〃	黒色土器 椀	—	(1.7)	9.5	雲母片 含む	内面黒色処理。底部丸みをのびた高台を貼付。	
495	〃	土師器 杯	14.1	(3.9)	—	精土	内外面回転ナデ調整。	
496	〃	緑釉陶器 小壺?	—	(1.1)	6.4	〃	平底。内転部はロクロ目が残る。ナデ調整。	
497	〃	土師器 甕	17.6	(4.8)	—	チャート 含む	内面ユビオサエ、ナデ、ハケ調整。外面ナデ、ハケ調整。口縁端部は上方に拡張する。	
498	〃	〃 〃	19.2	(3.1)	—	石英 含む	口縁部内面はハケ、ナデ調整。外面はナデ調整。口縁端部を拡張させる。	
499	SK203	白磁 碗	13.8	(2.1)	—	精土	口縁部は玉縁状を呈する。	
500	SK204	土師器 杯	13	3.1	8.9	〃	底部外面回転ヘラ切り痕残る。内外面はナデ調整。	
501	SK205	土師質土器 釜	19	(3.9)	—	雲母片 含む	断面方形の鐙が廻る。鐙下部はユビオサエ。ヘラ削り、ナデ調整。内面はナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
502	SK205	土錘	全長 4.1	全幅 2.1	全厚 1.9	砂礫 含む	重量 14g。孔径 6 mm。	
503	SK210	土師器 杯	11.9	3.4	7.9	赤色風化礫 含む	底部外面に回転ヘラ切り痕残る。内外面は回転ナデ調整。	
504	〃	〃 〃	13.4	3.6	7.6	〃	底部外面は回転ヘラ切り痕残る。内外面は回転ナデ調整。	
505	〃	〃 甕	19.2	(2.3)	—	砂礫多く 含む	口縁部内外面はナデ、ハケ調整。強いナデ調整により端部は拡張する。器壁は薄い。	
506	〃	〃 〃	23.8	(5.8)	—	雲母片 含む	口縁部内外面はナデ調整。頸部内面はナデ調整。外面はタテ方向のハケ調整。	
507	〃	〃 〃	25	(5.8)	—	石英 含む	口縁部内外面はナデ、ハケ調整。頸部内面はユビオサエ、ユビナデを施す。口縁端部はナデ調整により拡張させる。	
508	SK220	白磁 皿	12.2	(2.0)	—	精土	口縁部は外反。内外面は無文。	
509	〃	青磁 〃	—	(1.3)	5.7	〃	削り出し高台。内面見込みに蛇ノ目釉剥ぎ。	
510	SK222	〃 碗	—	(3.5)	—	〃	内面口縁下には一条の界線。貫入が入る。	
511	〃	土師器 皿	13.6	4.3	10.2	〃	手づくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整。体部から底部内面にかけハケ調整を施す。	
512	SK224	〃 杯	13.3	4.2	3.3	〃	内面は放射線状のミガキ。内底部にもミガキ。口縁部外面は強い横方向のナデ調整。体部外面はユビオサエ、底部にはヘラケズリを施す。	
513	〃	須恵器 杯	9.5	4	6.6	〃	内外面回転ナデ。口縁部の一部には歪みがみられる。	
514	〃	〃 杯身	13.2	(2.8)	—	〃	断面三角形のカエリあり。回転ナデ調整。	
515	〃	ガラス製品 玉	—	—	—	—	残存径 0.39 cm, 残存厚 0.29 cm, 孔径 1.1 mm	
516	SK225	土師器 杯	10.8	2.6	5.3	〃	薄い器壁。内外面は摩耗する。	
517	〃	黒色土器 碗	15.0	(2.9)	—	〃	内面黒色処置。口縁から体部内外面はヘラミガキによる調整を施す。	
518	〃	土師器 杯	16.0	(5.4)	—	〃	体部から口縁部は大きく開く。内外面はナデ調整。	外面に煤
519	〃	〃 碗	17.4	(4.2)	—	石英を 含む、精土	口縁端部外反。内外面回転ナデ調整。	
520	〃	竈	—	—	—	砂礫含む	残存幅 7.2 cm。	
521	SK229	弥生土器 壺	16.4	(6.5)	—	3 mm大砂礫 含む	口縁端部は平坦面を呈す。内外面摩耗。	
522	〃	〃 壺?	13	(3.5)	—	1 ~ 2 mm大 砂礫含む	口縁部は外上方に伸びる。内外面はハケ調整。	
523	〃 検出面	〃 壺	12.8	(9.1)	—	砂礫多く 含む	口縁部は短く外上方に伸びる。叩き成形。外面はハケとミガキ。内面はハケ調整。	
524	〃 検面	〃 〃	11	(16)	—	石英 含む	叩き成形。口縁部から胴部外面はハケ調整。口縁部内面はナデ、頸部から胴部はユビオサエとナデ、一部ケズリ。口縁部と胴部外面には煤。	
525	〃 No.5	〃 〃	14	31.5	26.6	〃	口縁部くの字状を呈する。外面はハケ、ナデ。底部内面はナデ、ユビナデによる調整。	
526	〃 検出面	〃 〃	13.3	(17)	—	砂礫 多く含む	短頸壺。叩き成形。口縁部内外面ハケ調整。頸部接合痕あり。胴部内面ハケ、ナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
527	SK229	弥生土器 甕	15.6	(7.7)	—	チャート 含む	叩き成形。口縁部内外面はハケ、ナデ調整。胴部内面はナデ調整。	
528	〃	〃 〃	14.7	(10)	—	砂礫 多く含む	叩き成形。口縁部くの字状を呈する。内面は細かいハケ調整。	
529	〃	〃 〃	14.8	(9.0)	—	2mm大 砂礫含む	叩き成形。口縁部内外面ナデ、胴部内面はハケ調整。口縁部から胴部にかけ煤付着。	
530	〃	〃 〃	17.6	(4.3)	—	〃	口縁部は大きく外反する。口縁内外面はハケ、ナデ調整。内面には粘土接合痕が認められる。	
531	SK229	〃 〃	14.8	(8.2)	—	3mm大砂礫 含む	叩き成形。口縁部はくの字状を呈する。内面はハケ、胴部内面はヘラケズリを施す。内面に粘土紐接合痕認められる。	
532	〃	〃 〃	20.2	(7.7)	—	2mm大の砂 礫含む	叩き成形。口縁端部は平坦面をなす。内面ハケ、ユビオサエ、ナデ調整。	
533	〃 検出面	〃 〃	10	16.5	3.3	砂礫 多く含む	叩き成形。格子状の叩き。外底部はナデ調整。内面はユビナデ、ナデ調整。口縁部内面はハケ調整。	
534	〃	〃 〃	—	(18)	3.2	〃	叩き成形。口縁部は欠損。外面はナデ調整。内面はハケとナデ調整。	外面一部 煤。
535	〃	〃 〃	10.1	(5.4)	—	3mm大砂礫 含む	叩き成形。口縁部内外面はナデ調整。胴部内外面にはハケ調整。	
536	〃	〃 鉢	12.5	5.9	3.0	石英 含む	叩き成形。底部は平底状を呈する。内面はナデ調整。	
537	〃	〃 鉢	—	(3.9)	3.1	3mm大砂礫 含む	外面一部叩き成形痕が残る。内面はナデ調整。	
538	〃	てづくね土器	11.4	3.3	—	石英 含む	てづくね成形。外面はユビオサエ、ナデ調整。内面はハケ、ユビオサエ、ナデ調整。	
539	〃	弥生土器 高杯	—	(5.4)	—	チャート 含む	脚裾部と杯部が欠損する。脚部には直径 0.7 cm の穿孔。外面はミガキ、ナデ調整。	
540	〃	〃 高杯脚部	—	(6.0)	—	石英 含む	外面は細かいミガキによる調整。脚部内面はハケ調整。	
541	〃	〃 〃	—	(4.3)	14	砂礫 含む	脚部底部のみ残存。外面はハケとミガキによる調整。内面はハケとナデ調整。	
542	〃	土製品?	全長 4.7 cm	全幅 1.5 cm	全厚 1.1 cm	〃	手づくね成形。ユビオサエが顕著。支脚の一部の可能性があり。	
543	SD94 ・ 95	炆器 小壺	—	(2.9)	6.0	精土	底部外面回転糸切り痕、外面にはヘラ状のケズリ痕。内面には自然釉がかかる。	
544	〃	緑釉陶器 皿	12.8	(3.0)	—	〃	胎土は須恵器質。内外面は施釉。一部摩耗している。	
545	SD95	手づくね土器	9.7	4.9	8.0	砂礫含む	内外面ユビオサエとナデ調整。	
546	SD95・ 125・94	須恵器 鉢	27	(3.2)	—	精土	口縁部は肥厚させる。内外面回転ナデ調整。	
547	SD95	青磁 碗	13.6	6.45	4.4	〃	体部から口縁部は内湾する。内外面無文。高台畳付は斜位に削る。畳付けから底部は露胎。	
548	〃 中層	〃 皿	12.8	(2.3)	—	〃	口縁部は大きく屈曲し開く。外面には蓮弁文がみられる。	
549	SD95	〃 碗	13.8	(3.8)	—	〃	口縁部は内湾。外面には線描き蓮弁文がみられる。	
550	〃 底面	青花 皿	—	(3.2)	—	〃	口縁部端反り。外面には牡丹文。	
551	〃	〃 〃	—	(2.0)	8.1	〃	高台畳付釉かき取り、砂付着する。内面見込みには松文様、外面高台内には文字あり。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
552	SD95 中層	土師質土器 鍋	24.2	(4.2)	—	石英 含む	口縁部は直立して伸び、端部はやや肥厚する。端部はナデによりやや凹む。外面はユビオサエ、ナデ調整。内面はナデ調整。外面には煤付着。	
553	〃	瓦質土器 釜	15.4	(5.4)	—	雲母片 含む	口縁部は内傾。口縁部ナデ調整。頸部外面には貝状の押し型文様。内面はユビオサエと丁寧なハケ調整を施す。	
554	〃 下層	土師質土器 羽釜	—	(3.1)	—	石英・雲母片 含む	口縁端部は外反。内外面ナデ、内面はハケ。口縁下には断面三角形の鐳を貼付。	
555	SD97 下層	青磁 皿	—	(1.8)	—	精緻土	稜花皿。口縁端部に挟りあり。	
556	SD97	〃 〃	12.6	(2.8)	—	〃	口縁部は横方向に開く。外面にはヘラ描き蓮弁文。	
557	SD97	〃 碗	—	(2.4)	4.8	〃	外面ヘラ描き蓮弁文。高台畳付より内面は露胎。	
558	SD97	〃 〃	—	(1.9)	—	〃	口縁部は内湾する。外面に界線あり。	
559	SD97	〃 〃	—	(2.9)	—	〃	無文。口縁部は外反する。	
560	SD97 下層	〃 〃	—	(2.4)	5.2	〃	内面見込みには花文状の印刻文。削り出し高台で高台内面は露胎。	
561	SD97	〃 〃	—	(1.8)	5.8	〃	外面ヘラ描き蓮弁文。内面見込みには印刻文と目痕が残る。削り出し高台を呈する。高台畳付及び内面は露胎。	
562	SD97	〃 〃	—	(1.9)	5.4	〃	削り出し高台。高台畳付け及び内面は露胎。	
563	SD97 上層	〃 〃	—	(2.7)	5.0	〃	削り出し高台。高台内面は露胎。貫入が入る。	
564	SD97 上層	〃 盤	—	(1.1)	—	〃	外面陽刻文。	
565	SD97	〃 〃	23.4	(4.1)	—	〃	口縁端部は上方に短く伸び、平坦面を呈する。	
566	SD97	白磁 皿	8.2	(3.0)	—	〃	口縁部端反り。体部下半は露胎。	
567	SD97 上層	〃 〃	9.2	(2.2)	—	〃	陶器質の胎土。細かい貫入あり。	
568	SD97 底	〃 〃	—	(2.1)	3.3	〃	断面逆台形状の高台。高台は露胎。	
569	SD97	〃 〃	—	(1.3)	3	〃	白濁色の釉。削り出し高台を呈し、高台部分は露胎。	
570	SD97	〃 〃	—	(2.5)	6.2	〃	断面三角形の高台。高台畳付のみ釉ハギ。	
571	SD97	炆器 壺	10.7	(2.8)	—	〃	短頸壺。口縁部はやや外反し、内面には黒褐色、外面には緑色系の釉あり。	
572	SD97 上層	瀬戸 天目碗	—	(3.1)	—	〃	内外面褐色釉を施釉。体部下半は露胎。	
573	SD97 中層	〃 卸皿	10.6	(1.4)	—	〃	口縁端部が左右に拡張する。内外面は回転ナデ調整。	
574	SD97 下層	〃 皿	22.2	(2.0)	—	〃	口縁端部は拡張。内外面は回転ナデ調整。瀬戸大皿か？	
575	SD97	〃 卸皿	15.2	(2.5)	—	〃	口縁端部は平坦面を呈する。口縁下内面には目痕状に残る。	
576	SD97	〃 皿	30.4	(2.9)	—	〃	口縁端部は拡張させる。内外面は施釉。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
577	SD97	瀬戸皿	33.8	(5.5)	—	精緻土	口縁端部は拡張させる。内外面は施釉。	
578	〃	備前焼 播鉢	—	(5.2)	—	黄褐色風化 土含む	口縁端部は肥厚させる。内外面回転ナデ調整。内面には7条の条痕。	
579	SD97 中下層	〃 〃	—	(6.1)	11	白色・黒色 砂礫含む	内外面は回転ナデ調整。内面には12条単位の条痕を施す。	
580	〃 中層	瓦質土器 鉢	25.6	(6.6)	—	白色砂粒 含む	口縁端部は平坦面をなし、内外面はユビオサエ、ナデ調整を施す。内面には条痕あり。	
581	〃 中層	備前焼 播鉢	26.8	(6.5)	—	〃	口縁端部は上方に拡張する。内外面ナデ調整。	
582	SD97	瓦質土器 鍋	49.2	(7.3)	—	白色・黒色 砂粒含む	口縁部は上方に伸びる。内外面は指頭圧痕。	
583	SD97 中層	〃 〃	21.4	(8.9)	—	〃	口縁部端部は平坦面をなす。内外面ユビオサエ、ナデ調整。	
584	〃 中層	〃 〃	24.8	(5.7)	—	白色砂粒 含む	口縁部はやや内傾し、端部は平坦面を呈する。外面はユビオサエとナデ調整。内面はナデ調整。口縁端部は強くナデ調整を施す。	
585	〃 下層	土師質土器 鍋	25.4	(7.6)	—	石英・赤色 土粒含む	外面はユビオサエとナデ調整。底部外面には格子状の叩き痕。内面は丁寧なナデ調整。	
586	SD97	〃 〃	20.0	(7.2)	—	雲母片 含む	口縁端部は強いナデ調整。体部内外面はユビオサエとナデ調整。外面には煤。	
587	〃	〃 〃	30.4	(7.8)	—	石英・赤色 土粒含む	口唇部はナデにより段状を呈する。外面はナデ、内面はナデ調整。	
588	SD97 中層	瓦質土器 鍋	22	(5.6)	—	白色砂粒 含む	口縁部はやや外反する。外面ユビオサエとナデ調整。口縁部内面はハケ、体部内面はナデ調整。体部下半には煤。	
589	〃 底面	土師質土器 羽釜	19.6	(5.0)	—	〃	口縁下には断面三角形の鋳が付く。外面は叩き成形痕。口縁部内面ヘラケズリ、ナデ調整。	
590	SD97	〃 〃	15.6	(5.3)	—	石英・雲母 片含む	口縁下には断面三角形の鋳が付く。口縁部外面はナデ調整、内面は横方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き成形。	
591	SD97 中層	〃 〃	—	(3.8)	—	〃	口縁下には断面長方形の鋳が付く。内面はヘラ削りとナデ調整。外面鋳下には煤。	
592	SD97	常滑焼 甕	—	(4.8)	—	白色礫 含む	口縁端部は欠損。口縁縁体部が密着する。	
593	〃	〃 壺	—	(5.1)	—	〃	内外面はナデ調整。	
594	〃	備前焼 壺	20.8	(5.5)	—	白色・黒色 砂礫含む	口縁部は玉縁状を呈する。	
595	SD97 底面	〃 〃	19.8	(4.1)	—	〃	口縁部は短く斜め外上方に伸びる。端部は丸く被圧させる。	
596	SD97	炆器 壺	—	(8.2)	15.1	石英 含む	底部平底。外面には自然釉がかかる。	
597	SD97 上層	〃 〃	—	(3.5)	15.2	白色礫 含む	外面はヘラ削り。内面はユビナデ調整。	
598	〃 底面	常滑焼 甕	—	(2.9)	—	石英 含む	N字状口縁を呈す。端部は欠損している。外面には自然釉がかかる。	
599	〃 中層	備前焼 甕	—	(5.0)	—	白色・黒色 砂礫含む	口縁部は玉縁状を呈する。内外面ナデ調整。	
600	SD97	炆器	—	(8.6)	—	石英・黒色 砂礫含む	外面には自然釉がかかり、ヘラ描きの記号が施される。内外面丁寧なナデ調整。	
601	SD97 上層	備前焼 甕	36.0	(4.9)	—	白色粒 含む	口縁部は玉縁状を呈する。内外面回転ナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
602	SD97 上 ・中層	備前焼 甕	35.6	(5.1)	—	白色・黒色 砂礫含む	口縁端部は玉縁状を呈する。内外面回転ナデ調整。	
603	SD113	土師器 杯	—	(2.1)	—	白色砂粒 含む	底部外面回転ヘラ切り痕。内外面ナデ調整。	内面に煤 付着。
604	〃	〃 〃	—	(2.6)	10	白色砂粒・ 雲母含む	高台はハの字状に開く。内外面はナデ調整。	
605	〃	黒色土器 椀	—	(0.9)	6.8	雲母片 含む	断面三角形の高台を貼付。内面黒色処理、ヘラミガキによる調整。	
606	〃	土師器 甕	23	(3.5)	—	石英、雲母 片含む。	口縁端部は上方に伸び、平坦面を呈する。内面はハケ、外面はナデ調整。	
607	SD114	瓦質土器 鍋	20	8.1	—	黒色・白色 砂粒含む	胴部はやや丸みを持ち、口縁部は直立気味に伸びる。外面はユビオサエ、ナデ調整、内面は丁寧なナデ調整。外面に煤付着。	
608	〃	〃 〃	23.6	(1.0)	—	〃	胴部はやや丸みを持ち、口縁部は直立気味に伸びる。外面はユビオサエ、ナデ調整、内面は丁寧なナデ調整。外面に煤付着。	
609	〃	〃 〃	23.7	(11)	—	〃	胴部はやや丸みを持ち、口縁部は直立気味に伸びる。端部は平坦面を呈する。内外面はユビオサエ、ナデ調整。外面に煤付着。	
610	SD120	土師器 甕	21.2	(2.5)	—	雲母片 含む	口縁部は大きく外方に開き、端部は平坦面を呈する。内外面はハケとナデ調整。	
611	SD124	緑釉陶器 皿	—	(1.5)	6.4	精緻土	削りだし高台。底部外面は露胎。	
612	〃	土師器 甕	33.4	(3.2)	—	石英 含む	口縁端部は丸くおさめる。外面はハケとナデ調整。内面はユビナデがみられる。煤が付着する。	
613	SD125	土師質土器 皿	7.9	1.7	4.0	精緻土	てづくね成形。内外面丁寧なナデ調整。	
614	〃	黒色土器 椀	15.2	(2.6)	—	雲母 含む。	内面黒色処理。口縁内面下に一条の沈線がみられる。内外面はヘラミガキとナデ調整。	
615	SD136	白磁 皿	15.4	(1.8)	—	精緻土	口縁部は端反り。	白磁 E 類
616	〃	須恵器 小壺	8.1	(3.0)	—	白色砂粒 含む	口縁部は直立して伸びる。端部は内傾する。内外面ナデ調整、頸部内面には格子状の叩き目が残る。	
617	〃	炆器 壺	—	(4.2)	8.4	〃	底部平底。内外面回転ナデ調整。底部内面はユビオサエによる調整。	
618	〃	土師器 甕	23.7	(4.4)	—	〃	口縁部はくの字状に大きく開き、口縁端部は上方に拡張する。内外面ハケとナデ調整。	
619	〃	土師器 羽釜	—	(4.1)	—	〃	口縁端部は平坦面を呈する。内外面ナデ調整。	
620	SD137	緑釉陶器 皿	—	(1.6)	—	精緻土	口縁端部はやや外反する。軟質の胎土をもつ。	
621	〃	瓦質土器 摺鉢	20.6	(5.0)	—	白色砂粒 含む	口縁部は外上方に開く。端部は平坦面を呈する。外面ユビオサエ、ナデ調整。内面ナデ調整、2条の条痕が残る。	
622	〃	〃 鍋	26.8	(4.3)	—	黒色砂粒 含む	口縁部は直立して短く伸びる端部は平坦面を呈する。外面ユビオサエ、ナデ調整。内面ナデ調整。	
623	SD138	土師器 甕	18	(3.4)	—	石英 含む	口縁部は外方に開き、端部は肥厚する。内外面はナデ調整。	
624	SD140	須恵器 鉢	19.5	(4.3)	—	白色・黒色 粒含む	口縁部端部は丸く肥厚させる。内外面回転ナデ調整。	
625	SD139	瓦質土器 鍋	16.5	(6.3)	—	黒色・白色 砂粒含む	口縁部は直立して短く伸びる。端部は平坦面呈する。外面はユビオサエ、ナデ調整。内面は丁寧なナデ調整。	
626	SD139	土師質土器 釜	22.2	(4.6)	—	白色粒 含む	口縁下外面に扁平な鏝が巡る。鏝部分にはユビオサエが残る。外面は叩き目痕とナデ調整。口縁部内面はナデ調整、胴部はハケを施す。外面煤付着。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
627	〃	チャート 剥片	全長 3.7 cm	全幅 3.1 cm	全厚 0.9 cm	—	重量 11.71g	ST2 に関 連する？
628	P38	土師器 皿	12.8	(3.3)	7.0	赤色風化礫 雲母片含む	手づくね成形。内外面はユビオサエとナデ調整。口縁部は強いナデを施す。	
629	〃	〃 〃	13.9	(3.4)	8.6	精緻土	手づくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整。口縁部は強いナデ調整。	
630	〃	〃 〃	11.7	3.8	6.9	〃	手づくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整。口縁部端部は平坦面を呈する。	
631	P38	〃 〃	11.9	3.0	—	赤色風化礫 粒含む	てづくね成形。内外面ユビオサエ、ナデ調整。	
632	P40	〃 〃	15.8	(3.7)	—	白色砂粒 含む	てづくね成形。口縁下強いユビナデ。内面ユビナデ、ユビオサエ。内底面ナデ。	
633	P41	青磁 碗	15.5	(5.2)	—	精土	内面に陽刻文。	
634	P39	土師器 甕	17.9	(5.0)	—	赤色風化礫 粒含む	長胴甕。外面はユビオサエ、ハケ調整。内面ナデとユビオサエによる調整。	内面には 煤。
635	P44	〃 皿	8.7	1.85	7.1	〃	底部回転ヘラ切りの後粘土帯を貼付する。内外面は回転ナデ調整。	
636	P45	土師質土器 皿	9	1.5	5.5	白色粒 含む	底部回転糸切り痕。板状圧痕あり。内外面回転ナデ調整。	
637	〃	〃 〃	9.25	2.05	6.2	精緻土	底部回転糸切り痕。板状圧痕がみられる。内外面は回転ナデ調整。	
638	P43	土師器 皿	12.9	3.25	6.4	白色粒 含む	てづくね成形。内外面はユビオサエが顕著。口縁部内外面はナデ調整。	
639	P47	〃 〃	10.4	1.5	—	雲母片 含む	底部回転ヘラ切り痕で、板状圧痕が残る。内外面は回転ナデ調整。	
640	P51	〃 碗（杯）	14.15	3.95	8	1～2mm大 砂粒含む	底部回転糸切り痕。円盤状高台。内外面は回転ナデ調整。	
641	P50	黒色土器 碗	14.2	4.4	7.4	雲母片 含む	内面黒色処理。高台には断面三角形の高台を貼付。内外面ナデ、ミガキによる調整。	外面煤付 着。
642	P55	土師質土器 杯	11.8	5.1	6.5	2mm大 砂粒含む	底部外面回転糸切り痕。ロクロ成形。	
643	P58	〃 〃	12.3	4.6	6.7	〃	ロクロ成形。底部回転糸切り痕。内外面は回転ナデ調整。底部2度の切り離し痕あり。	
644	P53	甌 把手	—	1.4	—	砂礫 含む	外面ユビオサエ、ユビナデによる調整。	
645	P54	須恵器 小壺	6.2	(2.3)	—	白色粒 含む	短頸壺。内外面は回転ナデ調整。	
646	P59	〃 杯	14.1	9.9	—	白色砂粒 含む	断面方形の高台貼付。内外面回転ナデ。内底部は横方向のナデ。	
647	P61	金属製品 銭貨	—	—	—	—	残存 2.0 cm。「元」が認められる。	
648	P48	石製品 叩石	全長 7.7 cm	全幅 9.7 cm	全厚 2.9 cm	—	重量 351g。砂岩製。両面に使用痕あり。	
649	P49	金属製品 刀子	—	—	—	—	残存長 5.4 cm, 残存幅 1.2 cm, 残存厚 0.25 cm。	
650	P52	備前焼 播鉢	19	11.05	9.6	石英 含む	内面には9条の条痕。片口状を呈する。	
651	P57	土製 焔炉	17.4	(5.7)	—	角閃石 含む	口縁端部は平坦面を呈す。外面はハケ。内面はナデ。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
652	P46	弥生土器 鉢	16	9.7	5.3	チャート 含む	内外面ナデ、ミガキ、ハケ調整。接合部分はユビオサエが 顕著。内面はナデ調整。	
653	P42	石製品 石包丁	—	—	—	—	打製石包丁。全長 8.4 cm, 全幅 4.4 cm, 全厚 1.0 cm。片刃。 自然面を残す。	
654	P56	〃 石臼	全長 12.2	全幅 4.6 cm	全厚 2.4 cm	—	重量 224g。上臼の一部。下部には細かい削りが施される。	
655	P60	〃 〃	—	—	—	—	残存長 10.5 cm, 残存厚 5.0 cm。	
656	〃	〃 〃	—	—	—	—	残存長 12.0 cm, 残存厚 6.8 cm。	
657	SX23 底	青磁 皿	11.3	(2.0)	—	精緻土	稜花皿。二次被熱を受ける。	
658	包含層	弥生土器 甕	29.5	(9.7)	—	砂礫 含む	口縁部はくの字状を呈す。外面は叩き目が認められる。内 面はハケ、ナデ調整を施す。	
659	〃	弥生土器 甕	—	(22)	—	〃	胴部外面は叩き目、タテ方向のハケ調整、内面はハケ、ナ デ調整。	
660	〃	青磁碗	—	(4.0)	5.8	精緻土	内面印刻花文と内底には渦状文。高台内面まで施釉。外底 面は露胎。	
661	〃	瀬戸 天目碗	12	(2.8)	—	〃	口縁部外面下には黒褐色釉を施釉。	
662	〃	土師器 椀	16.3	5.4	69.5	〃	断面台形状の断面を貼付。全体に摩耗しているため調整は 不明瞭。	
663	〃	瓦質土器 摺鉢	24.6	(8.7)	—	石英 含む	外面ナデ、ユビオサエ。内面ナデ。内面には5条単位の条 線を施す。	
664	ST10 中央 P	弥生土器 壺	13.15	31.6	7.0	チャート・ 石英含む	口縁部は直立気味。胴部は球胴状を呈す。叩き成形。外面 叩き後ハケ調整。内面はハケ調整。	
665	〃	〃 〃	14.4	—	—	〃	器壁が薄く、口縁部は短く外反する。外面に叩き痕、内面 にはハケ調整。	
666	ST10 上層	〃 〃	—	(15)	2.4	チャート 含む	丸底。叩き成形。外面ハケ、ナデ調整。内面ハケ調整。	底部内面 に煤。
667	ST10	〃 甕	—	(11)	—	チャート 多く含む	丸底。底部外面はヘラ削り、ハケ、ミガキ。内面はハケと ユビナデ。	
668	ST10 中央 P	〃 〃	11.8	18.6	—	チャート・ 石英含む	口縁端部外反。叩き成形。外面叩きとハケ。内面はハケと ナデ調整。胴部は球胴状を呈す。	
669	〃	〃 小型壺?	9.5	(6.8)	—	〃	外面はハケ、細かいミガキによる調整。内面はナデと一部 ミガキがみられる。	
670	〃	〃 甕	18	(3.7)	—	チャート 含む	口縁部くの字状に外反。叩き成形。口縁部内外面ハケとナ デ調整。	
671	ST10	〃 〃	20.6	(10)	—	チャート・ 石英含む	叩き成形。外面は指頭圧痕、ハケ。内面は口縁部はハケと ナデ調整、胴部は斜位とタテ方向のハケ調整。	
672	ST10 床 中央 P	〃 〃	—	(11)	—	〃	叩き成形。外面はハケ、ナデ調整。頸部はナデ、ユビナデ による調整。	外面煤。
673	ST10 床面	〃 鉢	10.4	(5.6)	—	〃	底部外面に叩き目、ナデ調整。内面はナデ調整。	
674	〃	〃 〃	—	(4.9)	—	〃	叩き成形。口縁部内外面はナデ調整。	
675	ST10 中央 P	カマド	—	—	全厚 1.7 cm	チャート 含む	外面はハケ・ナデ調整。一部ミガキ調整。内面にはユビナデ、 ハケ状のナデ調整。	
676	ST10 床面	土製品 土玉	全長 3.1 cm	全幅 3.2 cm	全厚 3.2 cm	チャート・ 石英含む	孔径 0.45 cm。重量 25.37g。外面ナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
677	ST10 床	支脚	10.5	(8.0)	—	石英・雲母 片含む	手づくね成形。内外面は指頭圧痕顕著。内面にはハケ調整。	
678	ST10	金属製品 鉄鏃	4.8	1.6	1.0	—	鏃身の断面形は長方形状。	
679	ST10 中層	石製品 石錐?	—	—	—	砂岩	全長 15.3 cm, 全幅 7.9 cm, 全厚 3.2 cm, 重量 584g。砂岩製? 両側面には抉りを施す。	
680	ST11 中層	弥生土器 壺	—	(3.7)	—	チャート・ 石英含む	口縁端部は剥離。内外面ハケ, ナデ調整。	
681	ST11 下層	〃 甕	15	(5.4)	—	〃	口縁部はくの字状。叩き成形。口縁部はナデ, 内面はハケ 調整。	
682	ST11	〃 〃	17.3	(9.9)	—	チャート・ 砂礫含む	口縁部くの字状を呈す。叩き成形。外面はハケ調整。内面 はハケとユビナデによる調整。	
683	〃	〃 鉢	14.6	8.65	5.2	〃	叩き成形。外底部はナデ調整。内面ヘラミガキ, ナデ調整。	
684	〃	〃 〃	15.7	8.8	5.7	〃	叩き成形。底部外面はヘラケズリ, ナデ。内底部にはユビ ナデ, ユビオサエ。	
685	〃	〃 〃	14.4	5.1	—	石英, 雲母片 含む	底部外面はヘラケズリ, ナデ。内外面ナデ。	
686	〃	〃 〃	13.6	(5.0)	—	砂礫 含む	底部は凸状。底部外面はナデ調整。内面はナデ調整。	
687	ST11 中層	〃 〃	9.6	5.5	4.4	チャート・ 石英含む	底部外面にはハケ調整が残る。内外面はユビオサエとユビ ナデによる調整。	
688	ST11 サブトレ	ミニチュア土器	10	(6.0)	—	〃	てづくね成形。内外面はユビオサエとナデ調整。	
689	ST11 中層	弥生土器 鉢	—	(4.1)	4.6	〃	脚部との接合部はユビオサエが顕著。内面はユビナデ。	
690	ST11	〃 〃	—	(3.9)	6.4	石英, 雲母片 含む	台付き鉢。外面ユビナデ, ヘラケズリ。内面は細かいヘラ ミガキを施す。	
691	〃 下層	〃 高杯	—	(5.5)	10.3	チャート・ 石英含む	脚裾部外面はナデとミガキ調整。内面はヘラ状工具による ナデ調整。	
692	ST11 中層	土製品	—	(6.4)	—	〃	支脚の一部か?	
693	SK247	須恵器 杯	13.6	(3.3)	—	白色砂粒 含む	内外面は回転ナデ調整。	
694	〃	〃 〃	13.3	5.2	6.6	精土	内底部は中央部がやや凹む。内外面は回転ナデ調整。口縁 部には歪みあり。	
695	ST11 下層	石製品 石包丁	全長 8.7 cm	全幅 5.8 cm	全厚 1.3 cm	〃	砂岩製。重量 62.0g。自然面を残す。剥片の可能性あり。	
696	ST12	弥生土器 壺	20.5	(4.0)	—	小礫 含む	口唇部は平坦面を呈する。口唇部から口縁部外面はナデ, はけ調整。内面はナデ調整。	
697	〃	〃 〃	—	(10.5)	—	〃	外面はタテ方向のハケ, 低部内面はユビナデにより調整を 施す。	
698	ST12 床面	〃 甕	16.8	(6.2)	—	砂礫多 含む	口縁部くの字状を呈す。叩き成形。内面はハケ。	
699	ST12	〃 〃	15.1	(12)	—	〃	口縁部くの字状に外反する。叩き成形後ナデ調整。口縁部 には煤あり。口縁部内面は斜位方向のハケ。内面には縦方 向のハケ。頸部内面はユビナデが残る。	
700	〃	〃 〃	—	(19)	—	砂礫多く 含む	叩き成形。頸部外面はハケ。内面ハケ, ナデ。接合痕あり。	
701	〃	〃 〃	25	29	—	〃	叩き成形。口縁部はくの字状を呈す。外面はハケ, 口縁部 内面はナデ, 胴部はハケ, ナデ調整を施す。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
702	ST12	弥生土器 甕	16.8	(6.7)	—	チャート・ 石英含む	口縁部はく字状を呈す。叩き成形。端部はナデにより凹 状を呈する。内面ハケとユビナデによる調整。	
703	ST12 上層	〃 鉢	12	9.1	3.6	砂礫多く 含む	叩き成形。底部外面には格子状の叩き痕。内面はハケ調整。	
704	ST12	〃 〃	13.5	5.3	2.4	小礫 含む	底部外面はヘラケズリによる調整。口縁部内外面にはナデ 調整。	
705	〃	〃 〃	9.5	6.7	3.0	〃	叩き成形。内面はナデ調整。	
706	〃	〃 〃	105	(6.0)	—	砂礫 含む	叩き成形。内面はハケ、ナデ調整。	
707	〃	〃 〃	12.0	(5.0)	—	〃	叩き成形。口縁部は外方に開く。内面はハケ、ナデ調整。	
708	ST12 上層	〃 高杯	11.6	9.5	10	チャート 含む	外面はハケ、ナデ調整。脚部内面はヘラケズリとナデ調整。 裾端部はナデ調整。。	
709	ST12	〃 〃	21	(6.2)	—	砂礫多く 含む	口縁部は外上方に開く。外面はハケとミガキ。内面はミガ キ調整。	
710	〃	〃 〃	21.7	(7.1)	—	赤色・灰色 小礫含む	外面は縦方向のハケ調整。段部は強いヨコナデ調整。内面 は内底部まで斜位方向のハケ調整と縦方向のハケ調整。	
711	〃	土師器 釜	20.6	(5.3)	—	砂礫 含む	口縁下外面には断面三角形の鋸が廻る。外面はタテ方向 のハケ調整、内面はナデ調整。	
712	ST13	弥生土器 壺	14.2	(3.2)	—	〃	口縁端部には刻目、口縁部内面はナデと篋状の圧痕あり。 外面はナデと頸部近くにはミガキを施す。	
713	〃	〃 〃	10.1	(5.3)	—	石英 含む	口縁部は外方に短く伸びる。外面はタテ方向のハケ調整。 内面はハケ、ナデ調整。頸部内面に指頭圧痕。	
714	ST13 床面	〃 〃	16.6	(5.5)	—	砂礫 含む	口縁端部に刻目。口縁部外面はハケ調整とミガキを施す。	
715	ST13	〃 〃	17.2	(14)	—	雲母片 含む	口縁部ラッパ状に開き、端部は平坦面をなす。外面はハケ、 ナデ。内面はナデ、ハケ調整。	
716	〃	〃 〃	—	(25)	4.1	チャート・ 砂礫含む	叩き成形。外面はハケとナデ。内面はハケとユビオサエ。 胴部外面には一部煤。	
717	〃	〃 〃	—	(20.8)	6.8	〃	叩き成形。外面はタテ方向のハケ調整。内面はハケ、ナデ 調整。底部内面には指頭圧痕。	
718	〃	〃 〃	—	(15)	—	雲母片 含む	器壁薄い。外面はタテ方向のハケ調整。底部内面はヘラケ ズリ、体部内面は指頭圧痕とナデ調整。	
719	〃	〃 甕	16.6	(15.8)	—	石英 含む	叩き成形。口縁部外面はナデ調整。口縁部内面はハケ、頸 部から胴部内面は指頭圧痕、ナデ調整。	
720	〃	〃 〃	13.5	(13.3)	—	〃	叩き成形。口縁部内外面はナデ調整。	
721	〃	〃 〃	12.2	(8.0)	—	〃	口縁部はく字状を呈する。外面は摩耗し調整は不明瞭で ある。胴部内面にはハケとユビオサエ、ナデ調整。	
722	〃	〃 〃	13.0	(5.3)	—	砂礫多く 含む	叩き成形。口縁部内外面はハケ。頸部内面はハケ状のナデ 調整。体部外面は摩耗する。	
723	ST13 上層	〃 〃	13.8	(5.6)	—	チャート 含む	叩き成形。口縁部内面は細かいハケ調整。頸部内面はヘラ ケズリとナデ調整。	
724	ST13	〃 〃	14.5	(3.6)	—	〃	口縁部内外面はナデ調整。	
725	〃	〃 鉢	11.3	6.5	—	チャート・ 石英含む	内底面はヘラ状工具のナデ。口縁部内面は横方向のナデ。 外面には一部叩き痕が残る。	
726	〃	〃 〃	—	(3.4)	4.5	〃	叩き成形。外面はナデ調整。内面はヘラ状工具によるナデ 調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
727	ST13	弥生土器 鉢	172	(7.7)	—	チャート・ 砂礫含む	叩き成形。口縁部外面はナデ調整。体部下半はハケ調整。 内面はハケ、ナデ調整。	
728	〃	〃 〃	18.3	6.5	—	〃	叩き成形。内面はハケとミガキによる調整。	
729	〃	〃 〃	13.6	5.7	3.5	〃	叩き成形。外面は指頭圧痕。内面はハケ、ナデ調整。	
730	〃	〃 〃	11.8	(4.6)	—	砂礫 含む	口縁～頸部はハケ、ナデ調整。内面はハケ、ナデ調整。	
731	〃	〃 高杯	9.5	(3.1)	—	石英 含む	外面は平行のミガキ、内面は放射線状のミガキ調整。口縁 端部内外面はナデ調整。	
732	〃	〃 〃	—	(6.9)	—	〃	脚部の一部。外面はケズリとミガキ調整。内面はケズリと 指頭圧痕が認められる。	
733	〃	〃 〃	—	(3.4)	—	砂粒 含む	外面はミガキ調整。内面はナデ調整。	
734	〃	ミニチュア土器	8.8	3.5	—	石英 含む	外面は指頭圧痕が顕著。内面ナデ調整。	
735	〃	〃	—	(4.8)	1.4	砂粒 含む	外面は指頭圧痕、ミガキ調整。内面は指頭圧痕が顕著。	
736	〃	土師器 杯	10.5	3.25	7.6	白色砂粒 含む	底部外面回転ヘラ切り。回転ナデ調整。	
737	〃	瀬戸 皿	—	(1.3)	8.4	精土	回転ナデ調整。内面は自然釉がかかる。	
738	ST14	弥生土器 壺	14.3	(22.4)	—	石英 含む	口縁部から頸部外面はハケ、ナデ調整、体部はナデ調整。 内面はナデ調整。	
739	ST14 中層	〃 甕	16.3	(6.6)	—	チャート 含む	口縁部くの字状を呈す。内外面はハケ、ナデ調整。	
740	〃 〃	〃 〃	15.4	(4.9)	—	チャート・ 石英含む	口縁部はくの字状を呈す。叩き成形、内面はハケ調整。	
741	〃 〃	〃 鉢	21.8	(4.7)	—	石英 含む	叩き成形。口縁端部はナデにより凹状を呈する。内面はハ ケ調整。	
742	ST14	〃 〃	10.6	3.9	—	砂礫多く 含む	内外面ユビオサエ、ユビナデによる調整。内面は黒色。	
743	ST14 中層	〃 〃	17.8	(6.7)	—	チャート・ 石英含む	口縁端部は平坦面をなす。内外面はナデ調整。	
744	ST14	支脚	—	(10)	—	砂礫多く 含む	中空。側面三カ所の穿孔。一部被熱を受ける。ユビオサエ、 ナデ、ハケ調整。	
745	ST14 下層	〃	—	(8.4)	9.4	雲母片 含む	叩き成形。裾部はユビオサエによる調整。内面はユビナデ がみられる。	
746	〃 上層	弥生土器 高杯脚部	—	(5.9)	—	角閃石 含む	3ヶ所の穿孔。外面ミガキとナデ。内面はハケとナデ調整。	
747	ST14	石製品 砥石	—	—	—	砂岩	全長 23.1 cm, 全幅 6.0 cm, 全厚 4.6 cm, 重量 919g。	
748	〃	〃 〃	全長 9.4 cm	全幅 4.7 cm	全厚 3.4 cm	—	重量 233g。六面使用。断面六角形状を呈する。	
749	ST16	須恵器 甕	16.2	(4.8)	—	白色・黒色 粒を含む	口縁部はくの字状を呈す。端部は強くナデる。外面は叩き、 内面には同心円文。	
750	〃	〃 蓋	11.4	2.8	—	〃	摘み径 1.9 cm, かえり径 9.6 cm。宝珠形の摘み。天井部には 2条の沈線が廻る。口縁部内面には断面三角形のかえ りが付く。	
751	〃	〃 脚部	—	(3.4)	11.1	〃	内外面は摩耗のため調整は不明瞭。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
752	ST16	須恵器 高杯脚	—	(6.7)	—	白色粒 含む	外面回転ナデ, 内面ヘラケズリとナデ調整。	
753	ST16 上層	土師器 甕	29.4	(4.9)	—	チャート・ 石英含む	口縁部は直線上に上方に伸びる。端部は丸くおさめる。内 外面はナデと内面にはケズリを施す。	
754	〃 〃	〃 〃	33.8	(3.5)	—	砂礫 含む	口縁部は斜め上方に伸び、端部は丸くおさめる。内外面は ナデ調整。	
755	ST17	弥生土器 壺	11.8	(5.0)	—	〃	口縁端部は下方に摘み出す。外面はハケとナデ。頸部外面 にはミガキ調整を施す。	
756	ST17	〃 〃	19.2	(4.6)	—	チャート・ 石英含む	口縁端部は肥厚させる。外面はハケ, 内面にはハケとユビ オサエが一部残る。	
757	〃	〃 〃	22.8	(1.9)	—	〃	口縁端部には刻目。内外面ハケとナデ調整。	
758	〃	〃 〃	10.3	(6.8)	—	砂礫 含む	口縁部外上方に直線的に伸びる。頸部内面にはユビオサエ が残る。	
759	ST17 上層	〃 甕	28.2	(8.8)	—	チャート・ 石英含む	叩き成形。口縁部外面はユビオサエ, 内面はハケ調整とナ デ調整。	
760	ST17	〃 〃	—	(11.8)	—	チャート・ 砂礫含む	叩き成形, 外面はハケ調整, 内面はユビナデが顕著。	
761	ST17 床面	〃 壺または鉢	—	(2.8)	2.2	白色砂粒 含む	内底部はヘラ削り。内面はナデ調整。	
762	〃 中層	〃 小型鉢	—	(4.1)	2.3	チャート 含む	内外面ナデ調整。内面にはユビナデが残る。	
763	ST17	弥生土器 鉢	16.8	8.6	2.5	砂礫 含む	叩き成形。外面はナデ調整。内面は摩耗する。	外面は煤
764	〃	〃 〃	15.6	(5.6)	—	〃	外面はナデ, 指頭圧痕。内面はナデ調整。	
765	〃	〃 〃	11	4.2	4.5	チャート・ 石英含む	外面はユビオサエとナデ。内面はハケとナデ調整。	
766	ST17 中層	〃 〃	11.5	6.2	3.8	砂礫 多く含む	口縁部内外面はナデ。下部は内外面ユビオサエによる調整。	外面には 煤。
767	ST17	〃 〃	—	12.4	9.5	チャート・ 砂礫含む	口縁部外面ナデ, ハケ調整, 脚部との接合部はナデとユビ オサエ。鉢内面はナデ, ユビナデ。脚部内面はハケ調整。	
768	ST17 中層	〃 高杯	—	(3.9)	—	チャート・ 石英含む	外面ハケ調整の後, 細かいミガキを施す。脚部内面はハケ 調整。	
769	〃 中層	ミニチュア土器	3.2	3.4	2.3	砂礫 含む	外面叩き成形痕。内外面ユビオサエが顕著。内面には一部 粘土帯が残る。	
770	ST17	支脚	5.5	6.5	6.3	チャート・ 石英含む	上部は一方に傾斜。上部中央はやや凹む。ユビナデ, ユ ビオサエが顕著。粘土塊から作り出す。	
771	ST18 上層	弥生土器 壺	16.6	(5.3)	—	〃	口縁部外面に波状文を施す。内面にはハケ調整。	
772	〃 中層	〃 甕	16	(6.4)	—	小礫 含む	叩き成形。胴部外面にはハケ調整, 内面はハケとナデ調整。	
773	ST18	〃 〃	15.1	23.8	3.0	チャート・ 砂礫含む	叩き成形。口縁部くの字状を呈す。内面は指頭圧痕, ナデ 調整。粘土紐接合痕が残る。	外面には 煤
774	〃	〃 〃	—	(7.2)	2.4	〃	叩き成形。内底部指頭圧痕。胴部内面はナデ調整。	
775	ST18 下層	〃 高杯	—	(3.6)	—	チャート・ 石英含む	内外面ハケ調整, ミガキ調整。	
776	〃 上層	〃 鉢	9.5	4.3	2.8	〃	叩き成形。内面はハケ調整, 内底部はユビオサエ。底部外 面はナデ調整。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量			胎土	特徴	備考
			口径	器高	底径			
777	ST18 下層	ミニチュア土器	7.4	(4.5)	－	チャート・ 石英含む	手づくね成形。器壁薄い。	
778	SB89	石製品 石包丁	－	－	－	砂岩	打製石包丁。全長 7.2 cm, 全幅 5.6 cm, 全厚 0.7 cm。片刃。 自然面を残す。両端に挟りあり。	
779	SK238	土製品 支脚	－	(6.4)	－	砂礫含む	叩き成形。指頭圧痕が顕著に残る。	
780	SD155	白磁 皿	13.1	3.1	7.4	精土	口縁部端反り。高台畳付けは釉をかき取る。	白磁 E 類
781	SD156	弥生土器 壺	22.5	(18.2)	－	雲母片 含む	広口壺。口唇部は拡張し、強くナデ。頸部外面から体部に かけハケとヘラミガキ調整。内面はナデ調整。頸部から体 部はナデ、指頭圧痕。	
782	SD161	須恵器 蓋	13	2.4	－	白色・黒色 砂粒含む	かえり径 11.1 cm。径天井部は宝珠形の摘み。口縁内面には 断面三角形のかえりが付く。外面回転ヘラケズリ、ナデ 調整、内面回転ナデ調整を施す。	
783	P62	弥生土器 甕	－	(11.7)	－	砂礫 含む	底部丸底。叩き成形。外面はハケ調整。内面はハケ、ユビ ナデによる調整。	
784	〃	〃 鉢	－	(4.0)	3.3	〃	台付き鉢。叩き調整。外面は指頭圧痕。内面はハケ調整。	
785	〃	〃 〃	13.6	7.2	－	〃	丸底。叩き成形。体部下半外面はハケ調整。内面はナデ調整。	
786	〃	〃 〃	11	8.6	3.3	〃	平底。外面は摩耗。内面はナデ調整。	
787	SX30	須恵器 杯	11.5	3.3	6.7	黒色・白色 砂粒含む	回転ナデ調整。	
788	〃	〃 〃	9.2	3.4	6.6	〃	内外面回転ナデ調整。底部回転ヘラ切り。ナデ調整	
789	〃	弥生土器 甕	－	2.85	6.6	石英含む	叩き成形。外面はナデ調整。内面はヘラケズリ、ハケ、ナ デ調整。	
790	〃	土師器皿	25	4.2	15.4	白色粒 含む	内底部螺旋状の暗文。内底部から口縁部にかけ放射線状の ミガキが廻る。外面底部ヘラ削り、ミガキ調整。	

Ⅲ B－4区瓦観察表

番号	遺構層位	器種器形	法量			平瓦厚	特徴	備考
			口径	器高	底径			
8	SK17・18	軒丸瓦	－	－	14.0	10.6	右巻きの三巴文に12個の珠文がめぐる。瓦当裏面に布目痕。キラ粉。	
9	SK18	丸瓦	－	(13.5)	－	－	凹面に布目痕。キラ粉。	
10	〃	平瓦	－	－	－	－	凸面と端面に土が付着。	
11	〃	〃	－	－	－	－	キラ粉。	
16	SK43	軒丸瓦	－	－	14.7	11.5	左巻きの三巴文に19個の珠文がめぐる。巴尾は長く圏線状。キラ粉。	
17	〃	軒平左棧瓦	－	－	4.5	3.6	中心飾り欠損，第1・2唐草と子葉部分が残存。キラ粉。	
107	暗渠2	軒平瓦	－	－	3.7	2.5	二次被熱。唐草文。キラ粉。	19c 頃
108	〃	〃	－	－	－	－	三巴，唐草文。キラ粉。	

土坑・豎穴建物跡・掘立柱建物跡計測表

Ⅱ C区

遺構番号	平面形態	規模			備考
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK1	不整円形	0.76	0.71	4	
SK2	隅丸方形	2.56	—	86	
SK3	不整形	—	—	7	
SK4	〃	0.77	—	6	
SK5	隅丸長方形	—	0.62	17	
SK6	楕円形	0.68	0.59	9～24	
SK7	—	—	—	11	
SK8	楕円形	0.84	0.73	7	
SK9	方形	0.56	—	10	
SK10	〃	0.56	0.47	9	
SK11	隅丸長方形	0.90	0.43	5	
SK12	楕円形	0.69	0.63	14	
SK13	隅丸長方形	0.81	0.56	22	
SK14	不整形	1.13	0.39～0.73	7～34	
SK15	隅丸長方形	1.08	0.73	15	
SK16	楕円形	0.86	0.35	6	
SK17	〃	—	0.59	29	
SK18	円形	0.77	0.74	8	
SK19	隅丸長方形	2.08	0.71	15～17	

Ⅲ A区1

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK1	ⅢA-6・7区	円形	0.99	0.93	48	
SK2	〃	〃	0.85	0.82	54	
SK3	〃	楕円形	1.91	1.5	17	
SK4	〃	〃	2.24	1.38	11	
SK5	〃	〃	1.3	0.93	18	
SK6	〃	〃	1.73	1.4	12	
SK7	〃	〃	2.27	1.6	29	
SK8	〃	〃	1.91	1.56	28	
SK9	〃	不整楕円形	2.0	1.32	32	
SK10	〃	不整形	3.93	1.11～2.04	34(北) 14(南)	
SK11	〃	〃	1.42	1.0(西) 1.3(東)	24	
SK12	〃	不整楕円形	3.6	2.65	30	
SK13	〃	楕円形	1.7	0.8	10	
SK14	〃	不整形	2.54	2.53	36	
SK15	〃	楕円形	0.79	0.42	29	
SK16	〃	不整楕円形	2.03	1.4	20	
SK17	〃	不整形	3.77	3.06(南)	25(北)	
SK18	〃	〃	3.88	1.48	26	
SK19	〃	楕円形	1.05	0.6	10	
SK20	〃	〃	2.99	1.66	42(南)	
SK20	〃	〃	2.99	1.66	42(南)	
SK21	〃	方形	1.85	0.84	13	
SK22	〃	楕円形	1.25	0.67	8	
SK23	〃	円形	1.15	1.06	21	

Ⅲ A区2

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK24	ⅢA-6・7区	不整楕円形	2.21	1.71	22	
SK25	〃	楕円形	1.55	0.98	36	
SK26	〃	不整形	2.43	1.15	19	
SK27	〃	〃	1.11	0.88	残存 5	
SK28	〃	円形	1.06	0.95	26	
SK29	〃	楕円形	1.97	1.41	25	
SK30	〃	長楕円形	3.11	1.31	33	
SK31	〃	楕円形	1.8	1.5	29	
SK32	〃	不整円形	2.12	2.02	21	
SK33	〃	不整形	1.55	1.65	13	
SK34	〃	楕円形	2.34	1.4	25	
SK35	〃	〃	1.19	1.02	7	
SK36	〃	不整形	1.23	0.99	7	
SK37	〃	楕円形	1.0	0.8	18	
SK38	〃	長楕円形	3.24	1.2	21	
SK39	〃	不整方形	2.8	1.59	23	
SK40	〃	円形	0.96	0.78	40	
SK41	〃	不整円形	1.52	1.26	13	
SK42	〃	円形	0.75	0.73	26	
SK43	〃	楕円形	3.38	1.66	37	
SK44	〃	不整形	1.58	1.16	13	
SK45	〃	〃	1.38	1.16	8	
SK46	〃	長楕円形	1.9	0.53	16	
SK47	〃	不整楕円形	1.28	0.48	12.5	
SK48	〃	長楕円形	1.97	1.28	13	
SK49	〃	隅丸方形	1.06	1.52	31	
SK50	〃	楕円形	0.86	0.46	16	
SK51	〃	楕円形	1.0	0.73	8	
SK52	〃	楕円形?	1.17	0.74	12	
SK53	〃	不整形	1.87	1.57	27	
SK54	〃	〃	3.12	2.6	16.5	
SK55	〃	方形	1.51	1.34	22	
SK56	〃	不整形	0.8	—	18	
SK57	〃	〃	0.82	0.8	17	
SK58	〃	〃	3.83	2.4	27	
SK59	〃	隅丸方形	1.65	1.1	34	
SK60	〃	円形	0.87	0.75	22	
SK61	〃	円形?	0.9	0.76	6	
SK62	〃	楕円形	0.76	0.67	14	
SK63	〃	隅丸方形	1.28	0.83	21	
SK64	〃	不整楕円形	0.9	0.6	17	
SK65	〃	不整形	0.55	0.64	20	
SK66	〃	楕円形	0.85	0.6	14	
SK67	〃	—	3.47	—	33	
SK68	〃	—	0.7	1.22	24	
SK69	〃	楕円形	1.21	0.84	23	
SK70	〃	隅丸方形	1.18	1.07	10	
SK71	〃	不整形	1.1	0.72	7	

Ⅲ A 区 3

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK72	Ⅲ A - 6・7区	不整形?	—	0.3	9	
SK73	〃	円形	0.69	0.65	26.7	
SK74	〃	—	—	—	—	
SK75	〃	楕円形	1.47	0.8	14.5	
SK76	〃	〃	1.87	1.68	31	
SK77	〃	方形?	1.25	1.17	41	
SK78	〃	円形	1.8	0.83	24	
SK79	〃	—	—	—	—	
SK80	〃	不整長方形	1.69	0.9	8	
SK81	〃	円形	2.05	1.96	21	
SK82	〃	〃	2.46	2.2	18	
SK83	〃	隅丸方形	1.04	0.98	32	
SK84	〃	円形	0.97	0.66	14	
SK85	〃	〃	0.53	0.48	11	
SK86	〃	〃	1.0	1.0	19	
SK87	〃	楕円形	1.98	0.9	20	
SK88	〃	不整形	1.0	0.8	20	
SK89	〃	—	—	—	—	
SK90	〃	不整円形	1.0	1.35	9	
SK91	〃	不整形	1.11	1.02	12	
SK92	〃	楕円形	1.54	1.23	29	
SK93	〃	—	1.1	0.17	—	
SK94	〃	不整形	1.75	2.75	17	
SK95	〃	楕円形	0.86	0.65	14	
SK96	〃	〃	1.18	0.7	12	
SK97	〃	〃	1.5	0.96	16	
SK98	〃	不整形	0.73	0.55	40	
SK99	〃	楕円(隅丸長方形)	0.93	0.63	13	
SK100	〃	隅丸方形長方形	1.35	0.75	10	
SK101	〃	隅丸方形	1.07	0.97	7	
SK102	〃	不整円形	0.83	0.78	9	
SK103	〃	円形	0.64	0.58	24	
SK104	〃	〃	0.66	0.6	26	
SK105	〃	〃	0.79	0.76	15	
SK106	〃	楕円形	0.98	0.7	11	
SK107	〃	〃	0.64	0.45	12	
SK108	〃	〃	4.32	2.64	26	
SK109	〃	—	—	—	—	
SK110	〃	隅丸方形	0.95	0.95	14	
SK111	〃	〃	1.21	0.78	17	
SK112	〃	不整円形	0.76	0.57	15	
SK113	〃	〃	0.7	0.64	23	
SK114	〃	楕円形	0.81	0.62	8	
SK115	〃	円形	0.62	0.6	15	
SK116	〃	楕円形	1.04	0.48	18	
SK117	〃	隅丸方形	0.71	0.68	24	
SK118	〃	隅丸長方形	1.1	0.23	10	
SK119	〃	円形	0.75	0.67	24	

Ⅲ A区4

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK120	ⅢA-6・7区	円形	0.63	0.61	24	
SK121	〃	不整形	1.1	0.7	24	
SK122	ⅢA-5区	〃	—	—	11～47	
SK123	〃	隅丸長方形	1.4	0.8	20	
SK124	〃	〃	1.9	1.0	16～22	
SK125	〃	不整形	1.1	1.0	14	
SK126	〃	不整円形	1.0	1.0	57	
SK127	〃	不整隅丸長方形	2.4	0.9	12～16	
SK128	〃	隅丸長方形	1.9	1.1	13～18	
SK129	〃	不整隅丸長方形	2.3	1.5	33～42	
SK130	〃	〃	1.6	0.9	20	
SK131	〃	〃	1.3	1.2	37	
SK132	〃	円形	0.8	0.8	20	
SK133	〃	〃	0.9	0.8	24	
SK134	〃	不整楕円形	1.8	0.6	11～13	
SK135	〃	長方形	2.9	1.1	58	
SK136	〃	—	—	—	17	
SK137	〃	不整隅丸長方形	1.5	0.4	40	
SK138	〃	隅丸長方形	—	0.9	14～17	
SK139	〃	〃	—	0.6	17	
SK140	〃	〃	1.0	0.7	17	

Ⅲ B区1

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK1	ⅢB-4区	隅丸方形	0.95	0.94	8	
SK2	〃	不整形	1.55	0.95 (1.35)	11	上面SX2に切られる
SK3	〃	円形	1.11 (1.19)	1.04	12	
SK4	〃	〃	0.96	0.95	5	
SK5	〃	〃	0.82	0.78	4	
SK6	〃	不整形	1.07	0.90	8	SD17を切る？
SK7	〃	楕円形	0.75	0.62	11	
SK8	〃	不整楕円形	1.67	1.48	19	周辺Pitとの切り合いあり
SK9	〃	不整形	1.38	0.95	4	調査区西壁に続く
SK10	〃	不整楕円形	0.91	0.72	27.5	SD6下で検出, SD6を切る可能性あり。
SK11	〃	円形	1.00	0.93	11	
SK12	〃	不整長方形	1.17	0.90	7	
SK13	〃	不整形	0.80	0.70	4	
SK14	〃	隅丸長方形	1.43	0.98	6	下層にはSD33あり
SK15	〃	不整形	1.26	1.13	19	
SK16	〃	円形	0.94	0.79	30	
SK17	〃	不整楕円形	1.35	1.08	37	攪乱
SK18	〃	〃	1.36	1.06	26	攪乱
SK19	〃	〃	1.23	0.80	16 (20)	SK20を切る, 二段掘り
SK20	〃	不整形	0.75	0.50	16	SK19に切られる
SK21	〃	不整円形	1.43	1.23	24	
SK22	〃	楕円形？	1.41	1.22	41	調査区西壁に続く
SK23	〃	円形	0.65	0.54	20	SD19に切られる, 底より検出

Ⅲ B区2

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK24	ⅢB-4区	不整楕円形	2.96	2.02	15	二段掘りか？
SK25	〃	不整円形	2.81	2.65 (3.04)	35	SK28を切り、SD37を切る？
SK26	〃	不明	—	—	8	調査区外に続く
SK27	〃	楕円形	1.55	1.21	11	
SK28	〃	不整円形	1.27 (0.86)	0.96 (0.83)	24	SK25に切られる
SK29	〃	不整楕円形	2.05	1.16	10	
SK30	〃	円形	0.87	0.84	47	
SK31	〃	〃	0.86	0.76	5	
SK32	〃	〃	0.90	0.86	31	
SK33	〃	不整円形	0.95	0.74	20	
SK34	〃	円形	0.74	0.66	39	
SK35	〃	〃	2.21	—	36	
SK36	〃	不明	1.30	—	8	調査区南壁に続く
SK37	〃	楕円形	1.07	—	13	
SK38	〃	不明	—	1.00	10	SD47・SK41と繋がる可能性あり
SK39	〃	不整楕円形	1.90	1.03	13	SK70を切る
SK40	〃	円形	1.15	1.09	19	Pitを切る
SK41	〃	楕円形	3.14	0.78	13	SD47・SK38と繋がる可能性あり
SK42	〃	円形	0.98	0.90	9	
SK43	〃	方形	1.82 (東西)	1.67 (南北)	53	底面には瓦片が集中、底直上には砂層
SK44	〃	〃	1.50 (東西)	1.73 (南北)	53～56	連結式土坑か？
SK45	〃	不整方形	1.33	0.72	5	
SK46	〃	円形	0.68	0.65	48	
SK47	〃	〃	0.90	0.73	33	
SK48	〃	〃	0.88 (東西)	0.85 (南北)	35	SK68と隣接
SK49	〃	〃	1.41	1.12	20	
SK50	〃	〃	1.05	0.85	15	
SK51	〃	〃	1.06	0.86	15	
SK52	〃	不整楕円形	2.56	1.87	30	
SK53	〃	隅丸長方形	2.35	0.84	22	
SK54	〃	円形	1.43	1.08	20	柱穴を切る、切られる
SK55	〃	円形？	—	—	27	
SK56	〃	不整方形	—	0.80	19	
SK57	〃	円形	1.04	0.93	14	
SK58	〃	不整楕円形	1.48	0.54	26	
SK59	〃	不整形	0.57	0.45	3	SD48に切られる
SK60	〃	〃	1.50	1.13	6	
SK61	〃	不整円形	1.63	0.70	40	SD61を切る
SK62	〃	不明	—	—	15	
SK63	〃	円形	0.75	—	47	
SK64	〃	〃	0.94	0.75	13	
SK65	〃	隅丸方形	1.02	1.02	8 (11)	
SK66	〃	楕円形	—	0.76	8	
SK67	〃	円形	0.55	0.50	6	
SK68	〃	円形？	—	0.73	38	
SK69	〃	不整形	1.10	0.59	7	
SK70	〃	〃	—	—	10.8	SK39に切られる
SK72	ⅢB-2区	円形	0.71	0.6	22	

Ⅲ B区3

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK73	ⅢB-3区	隅丸長方形	1.09	0.75	17	
SK74	〃	不整楕円形	1.55	(1.0)	18	
SK75	〃	〃	1.2	(0.92)	17	
SK76	〃	円形	0.84	0.85	13	
SK77	〃	隅丸方形	0.82	0.66	17	
SK78	〃	—	0.84(南北)	0.8(東西)	12	
SK79	〃	円形	0.87	0.76	12	
SK80	〃	楕円形	2.15	1.18	13	
SK81	〃	〃	0.86	(0.79)	15	
SK82	〃	円形	0.89	0.76	20	
SK83	〃	不整方形	1.12	1.05	8	
SK84	〃	不整形	2.0	(1.8)	12	
SK85	〃	方形	1.25	1.15	12	
SK86	〃	不整楕円形	1.92	0.77	27	
SK87	〃	不整長方形	1.73	1.05	33	
SK88	〃	不整円形	0.89	0.76	20	
SK89	〃	楕円形	0.95	0.76	8	
SK90	〃	不整楕円形	1.30	1.15	18	
SK91	〃	—	—	—	—	
SK92	〃	楕円形	0.94	0.81	14	
SK93	〃	〃	1.05	0.78	14	
SK94	〃	不整円形	0.66	0.66	16	
SK95	〃	隅丸楕円形	1.65	0.75	12	
SK96	〃	不整長方形	2.7	0.6	36	
SK97	〃	楕円形	1.75	0.92	14	
SK98	〃	不整楕円形	1.72	0.95	13	
SK99	〃	円形	0.96	0.96	25	
SK100	〃	隅丸長方形	2.98	1.61	39	
SK101	〃	〃	2.04	0.82	15	
SK102	〃	円形	1.08	0.96	62	SD72の底面近くで確認
SK103	〃	楕円形	0.9	0.8	18	
SK104	〃	不整形	0.6	0.6	6	
SK105	〃	楕円形	(1.66)	1.34	10	カクランに切られる
SK106	〃	〃	(1.9)	1.5	17	調査区西側に延びる
SK107	〃	円形	1.3	(1.3)	28	
SK108	〃	楕円形	2.73	(2.08)	8.0	カクランに切られる
SK109	〃	〃	(0.9)	(0.55)	17	SK106との切り合い関係? 調査区西側に延びる
SK110	〃	隅丸方形	(0.75)	1.36	49	調査区北側に延びる
SK111	〃	円形	0.9	0.9	12	SK112に切られる
SK112	〃	〃	0.75	(0.75)	12	
SK113	〃	不整円形	0.84	0.84	4	
SK114	〃	〃	1.04	0.75	7	
SK116	〃	隅丸方形	1.68	1.25	28	
SK117	〃	楕円形	(2.38)	1.11	13	
SK118	〃	不整楕円形	2.51	1.73	13~18	
SK119	〃	楕円形	0.88	0.55	6	
SK120	〃	不整楕円形	1.71	0.91	5	
SK121	〃	不整形	3.02	(1.65)	10	

ⅢB区4

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK122	ⅢB-3区	—	3.0	2.2	—	
SK123	〃	不整形	(2.85)	2.47	19	
SK124	〃	不整形	0.75	0.58	12	
SK125	〃	不整形円形?	1.57	—	11 (17.5)	二段掘り状, SK123との切り合い関係確認
SK126	〃	楕円形	1.25	0.53	6	
SK127	〃	円形	1.07	1.07	6	
SK128	〃	—	—	(0.4)	16	
SK129	〃	—	—	(0.5)	50	
SK130	〃	—	—	(0.7)	12	
SK131	〃	不整形か隅丸方形	2.05	0.45	10	
SK132	〃	楕円形	1.05	0.53	26	
SK133	〃	隅丸長方形	1.07	0.75	16	
SK134	〃	隅丸方形	1.73	1.40	35	
SK135	〃	楕円形	1.21	0.87	8	
SK136	〃	円形	0.86	0.86	16	SK137に切られる
SK137	〃	〃	0.9	0.9	30	SK136を切る
SK138	〃	不整形	—	0.75	5	
SK139	〃	円形	1.0	1.0	10	
SK140	〃	不整形	1.55	(0.78)	19	SD94に切られる
SK141	〃	〃	1.1	0.87	11	
SK142	〃	不整形円形	0.75	0.55	10	
SK143	ⅢB-2区	不整形	1.90	1.03	20	
SK144	〃	〃	1.38	0.4	27	
SK145	〃	方形	1.66	1.55	19	
SK146	〃	不整形楕円形	1.13	(0.85)	7	
SK147	〃	不整形	1.15	1.01	21	
SK148	〃	円形	0.75	0.8	10	
SK149	〃	方形	1.15	0.95	15.2	
SK150	〃	不整形	2.0	1.35	19.5	
SK151	〃	〃	—	(0.86)	25	
SK152	〃	楕円形	1.25	0.9	16.2	
SK153	〃	〃	0.85	0.53	13.7	
SK154	〃	円形	1.4	1.45	14	
SK155	〃	不整形	(1.50)	1.45	24	
SK156	〃	〃	1.9 (南北)	1.65 (東西)	20	
SK157	〃	楕円形	1.55	1.3	32	
SK158	〃	〃	2.0	(1.3)	20	
SK159	〃	不整形	1.1	(1.1)	15	
SK160	〃	円形	0.82	(0.7)	23	
SK161	〃	不整形	3.4	2.1	9	
SK162	〃	不整形	2.56	1.1	19	
SK163	〃	不整形円形	1.0	0.9	6	
SK164	〃	不整形	1.95	(1.0)	10	
SK165	〃	〃	1.30	0.5	12.6	
SK166	〃	〃	(1.75)	1.45	10	
SK167	〃	不整形円形	0.85	(0.5)	25	
SK168	〃	円形	0.6	0.56	22	
SK169	〃	楕円形	0.9	0.4	19	

Ⅲ B区5

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK170	ⅢB-2区	隅丸方形	1.25	1.1	10	Pに切られる
SK171	〃	〃	1.43	1.28	16	
SK172	〃	〃	1.65	1.55	30	SDを切る
SK173	〃	円形	1.9	—	35	
SK174	〃	〃	2.75	2.55	25～49	
SK175	〃	不整形	0.85	0.6	29	
SK176	〃	不整形	0.85	0.8	10	Pに切られる
SK176	〃	隅丸方形	0.83	0.8	10	
SK177	〃	方形	1.0	—	19	
SK178	〃	隅丸方形	1.6	1.3	8	
SK179	〃	不整形	0.82	(0.6)	25.8	
SK180	〃	〃	—	(0.3)	39	
SK181	〃	不整楕円形	0.65	0.55	36.5	
SK182	〃	楕円形	1.40	0.75	14	
SK183	〃	〃	0.87	0.76	9.0	
SK184	〃	円形	1.15	1.07	37	
SK185	〃	方形	0.90	0.95	5	
SK186	〃	隅丸楕円形	1.6	0.75	5	
SK187	〃	円形	1.0	0.95	10	
SK188	〃	不整形	(0.62)	0.75	30	
SK189	〃	不整楕円形	2.50	1.24	34	
SK190	〃	不整円形	1.1	0.8	13	
SK191	〃	〃	0.94	1.05	29	
SK192	〃	不整楕円形	0.80	0.69	22	
SK193	〃	隅丸長方形	3.42	0.7	22	SK229切る
SK194	〃	不整楕円形	1.04	0.85	7	SK229を切る
SK196	〃	—	(1.0)	—	4.5	
SK197	〃	楕円形	1.20	0.75	10	
SK198	〃	欠番	—	—	—	
SK199	〃	方形	1.22	(0.87)	27	
SK200	〃	不整形	1.0	0.38	28.2	
SK201	〃	円形	0.50	0.53	30	
SK202	〃	〃	0.70	0.6	18	
SK203	〃	楕円形	1.55	(1.17)	15	
SK204	〃	不整楕円形	1.30	0.7	32	
SK205	〃	不整形	1.3	0.9	35	底面の凹凸が激しい
SK206	〃	不整円形	0.7	—	31	
SK207	〃	〃	1.63	1.7	24.3	
SK208	〃	不整形	0.6	0.4	37	
SK209	〃	楕円形	0.85	0.5	13	
SK210	〃	〃	1.9	1.4	24	
SK211	〃	方形	4.1	(1.9)	8	
SK212	〃	楕円形	0.95	0.35	10	
SK214	〃	〃	0.93	0.64	11	
SK215	〃	不整円形	0.6	—	17	
SK216	〃	不整長方形	3.77	0.78	15	
SK217	〃	不整楕円形	2.25	1.05	12	
SK218	〃	〃	1.85	(0.53)	7	

ⅢB区6

遺構番号	調査区	平面形態	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK219	ⅢB-2区	不整楕円形	1.95	1.1	14	
SK220	〃	不整方形	1.40	1.2	9	
SK221	〃	円形	1.1	1.1	15	SE4を切る
SK222	〃	不整形	(0.95)	(0.5)	16	
SK223	〃	円形	1.9	1.75	30	
SK224	〃	隅丸長方形	(2.56)	0.8	45	
SK225	〃	隅丸方形	(2.08)	0.87	50	
SK226	〃	—	0.68	0.5	49.8	
SK227	〃	—	0.6	0.5	12.2	
SK228	〃	円形	0.75	0.76	11	
SK229	〃	隅丸方形	2.97	(2.7)	8	上面中世ピットに切られる
SK230	〃	—	1.4	0.3	43	
SK231	〃	楕円形	1.0	0.4	24	
SK232	〃	〃	2.3	0.4	10	
SK233	〃	〃	0.9	0.3	6	
SK234	〃	欠番	—	—	—	
SK235	ⅢB-1区	円形	1.8	1.75	65	ST11を切る
SK236	〃	不整形	(1.7)	1.45	9	
SK237	〃	不整方形	2.2	2.3	64	
SK238	〃	隅丸長方形	1.7	1.3	25	
SK239	〃	〃	2.3	0.95	10	
SK240	〃	円形	1.65	(0.9)	27	
SK241	〃	楕円形	2.8	1.1	10	ST14に付随する土坑か
SK242	〃	不整楕円形	1.75	0.65	18	
SK243	〃	不整円形	1.18	1.18	18	
SK244	〃	不整楕円形	1.30	0.8	9	
SK245	〃	円形	0.8	0.8	20	
SK246	〃	方形	1.25	1.25	43	
SK247	〃	隅丸方形	3.0	2.0	26	

竪穴建物跡計測表

竪穴建物跡計測表

遺構名	調査区	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (㎡)	床面標高 (m)	時期	備考
ST1	Ⅲ B - 2 区	隅丸方形	3.75	3.05	11.4	5.9	弥生終末～古墳初頭	貯蔵穴有り。
ST2	〃	〃	5.3	(4.6)	28.1	5.9	弥生終末～古墳初頭	ベッド有り。貯蔵穴有り。
ST3	〃	〃	4.7	(4.0)	(18.8)	5.9	古墳後期	カマド有り。
ST4	〃	隅丸長方形	6.7	5.95	39.8	6.0	弥生終末～古墳初頭	ベッド有り。
ST5	〃	隅丸方形	5.4	(5.4)	29.1	5.8	弥生終末～古墳初頭	ベッド有り
ST6	〃	隅丸長方形	(5.2)	4.95	(25.7)	6.0	古墳後期	カマド有り。
ST7	〃	隅丸方形か	4.8	(3.1)	(22.5)	5.8	弥生終末～古墳初頭	ベッド有り。貯蔵穴有り。
ST8	〃	隅丸方形	3.83	(3.8)	(14.5)	5.9	弥生終末～古墳初頭	ベッド有り。
ST9	Ⅲ B - 1 区	隅丸方形(推定)	(1.95)	(3.5)	(6.8)	5.7	弥生終末～古墳初頭	
ST10	〃	〃	(4.5)	(2.7)	(12.1)	5.6	弥生終末～古墳初頭	
ST11	〃	〃	(4.8)	(3.8)	(18.2)	5.5	弥生終末～古墳初頭	
ST12	〃	〃	(4.8)	(3.9)	(19.1)	5.7	弥生終末～古墳初頭	
ST13	〃	〃	4.75	(4.45)	(21.1)	5.6	弥生終末～古墳初頭	ベッド有り。
ST14	〃	〃	4.9	4.3	(21)	5.7	弥生終末～古墳初頭	ベッド有り。
ST16	〃	〃	(4.1)	(2.2)	(9.0)	5.7	古墳後期	カマド有り。
ST17	〃	多角形(推定)	(4.7)	(3.6)	(16.9)	5.7	弥生終末～古墳初頭	
ST18	〃	隅丸方形(推定)	4.9	4.9	24.0	5.5	弥生終末～古墳初頭	ベッド有り。

※ST15は欠番 少数第2位, 8以上切り上げ, 7以下切り下げ

掘立柱建物跡計測表1

遺構名	調査区	規模 (桁行 × 梁間)	面積 (㎡)									備考
			0 ～ 5	5 ～ 10	10 ～ 15	15 ～ 20	20 ～ 25	25 ～ 30	30 ～ 35	35 ～ 40	40 ～ 45	
SB1	Ⅱ C 区	4 間 × 2 間							1			
SB2	〃	4 間 × 4 間								1		
SB3	Ⅲ A - 6・7 区	2 間 × 1 間						1				
SB4	〃	3 間 × 2 間						1				
SB5	〃	3 間 × 2 間				1						
SB6	〃	3 間 × 2 間						1				
SB7	〃	3 間 × 2 間								1		
SB8	〃	3 間 × 2 間							1			
SB9	〃	3 間 × 2 間								1		
SB10	〃	2 間 × 2 間			1							
SB11	〃	2 間 × 1 間		1								
SB12	〃	5 間 × 2 間								1		底部分 50.4 ㎡
SB13	〃	3 間 × 2 間						1				底部分 31.8 ㎡
SB14	〃	5 間 × 1 間						1				
SB15	〃	2 間 × 1 間	1									
SB16	〃	3 間 × 2 間			1							
SB17	〃	3 間 × 2 間							1			底部分 64.3 ㎡
SB18	〃	4 間 × 1 間										
SB19	〃	2 間 × 1 間	1									
SB20	Ⅲ A - 5 区	2 間 × 2 間						1				
SB21	〃	2 間 × 1 間			1							
SB22	〃	3 間 × 2 間				1						
SB23	〃	3 間 × 1 間		1								
SB24	〃	2 間 × 1 間			1							
SB25	〃	3 間 × 1 間				1						
SB26	Ⅲ B - 4 区	2 間 × 1 間		1								
SB28	〃	2 間 × 1 間		1								
SB29	〃	3 間 × 1 間			1							
SB31	〃	2 間 × 1 間			1							
SB32	〃	2 間 × 2 間		1								
SB34	〃	2 間 × 1 間		1								
SB35	〃	2 間 × 1 間	1									
SB36	Ⅲ B - 3 区	1 間 × 2 間		1								
SB37	〃	2 間 × 1 間			1							
SB38	〃	2 間 × 1 間		1								底部分 16.3 ㎡
SB39	〃	2 間 × 2 間				1						
SB40	〃	2 間 × 1 間			1							
SB41	〃	2 間 × 1 間	1									
SB42	〃	3 間 × 1 間		1								
SB43	〃	2 間 × 1 間	1									
SB44	〃	3 間 × 2 間						1				
SB45	〃	2 間 × 1 間		1								
SB46	〃	2 間 × 1 間				1						

掘立柱建物跡計測表2

遺構名	調査区	規模 (桁行 × 梁間)	面積 (㎡)									備考
			0～5 (㎡)	5～10	10～ 15	15～ 20	20～ 25	25～ 30	30～ 35	35～ 40	40～ 45	
SB47	Ⅲ B - 3 区	2 間 × 1 間		1								
SB48	〃	1 間 × 2 間		1								
SB49	〃	2 間 × 2 間				1						庇部分 13.5 ㎡
SB50	〃	2 間 × 2 間			1							
SB51	〃	3 間 × 1 間		1								
SB52	〃	2 間 × 2 間				1						
SB54	〃	2 間 × 1 間		1								
SB55	〃	2 間 × 1 間			1							
SB56	〃	2 間 × 2 間					1					
SB57	〃	3 間 × 1 間			1							
SB58	〃	2 間 × 1 間			1							
SB59	Ⅲ B - 2 区	2 間 × 2 間				1						
SB61	〃	2 間 × 1 間			1							
SB62	〃	3 間 × 1 間				1						
SB63	〃	2 間 × 2 間				1						庇部分 23.75 ㎡
SB64	〃	2 間 × 1 間			1							
SB65	〃	2 間 × 1 間	1									
SB66	〃	1 間 × 1 間	1									
SB67	〃	2 間 × 1 間		1								
SB68	〃	2 間 × 1 間		1								
SB69	〃	2 間 × 1 間	1									
SB70	〃	3 間 × 2 間			1							
SB71	〃	2 間 × 1 間		1								
SB72	〃	2 間 × 1 間		1								
SB73	〃	2 間 × 1 間		1								
SB74	〃	2 間 × 2 間				1						
SB75	〃	2 間 × 1 間		1								庇部分 10.7 ㎡
SB76	〃	3 間 × 2 間				1						
SB77	〃	2 間 × 1 間			1							
SB79	〃	2 間 × 1 間		1								
SB80	〃	2 間 × 1 間	1									
SB81	〃	2 間 × 1 間		1								
SB82	〃	2 間 × 1 間	1									
SB83	〃	2 間 × 2 間		1								
SB84	〃	2 間 × 2 間		1								
SB85	〃	2 間 × 1 間		1								
SB89	Ⅲ B - 1 区	3 間 × 3 間				1						
合計 (棟)			10	25	16	13	3	2	1	4		74

圖 版

II C ☒



調査前風景(南西より)



調査区南壁セクション(北より)

図版2



西部遺構検出状態（東より）



中央部遺構検出状態（南西より）



東部遺構検出状態（南西より）



西部遺構完掘状態（東より）

図版4



中央部遺構完掘状態（北西より）



東部遺構完掘状態（南西より）



SB2完掘状態(東より)



SB2 P16 遺物出土状態(東より)



SB2 P16 遺物出土状態(北東より)



SB2 P16 遺物出土状態(南より)



SB2 P26 遺物出土状態(南より)



SA1・8 SD3完掘状態(南より)



SK25セクション(西より)



SK25完掘状態(西より)

図版6



SK1バンクセクション(南より)



SD2バンクセクション(北より)



SD8バンクセクション(北より)



SD8完掘出土状態(南東より)



P8遺物出土状態(東より)



P11遺物出土状態(西より)



P17遺物出土状態(南より)



P18遺物出土状態(北より)



土師質土器皿・杯

図版8



土師質土器皿・杯, 石製品(砥石)

Ⅲ A6・7区





調査前風景(北西より)



Ⅲ A - 6区航空写真(西より)

図版10



Ⅲ A - 6区航空写真(上空より)



Ⅲ A - 6区遺構完掘状態(南東より)



Ⅲ A - 7区航空写真(北上空より)



Ⅲ A - 7区航空写真(上空より)



Ⅲ A - 7区遺構完掘状態(南東より)



Ⅲ A - 7区遺構完掘状態(北西より)



Ⅲ A - 6区遺構検出状態(東より)



Ⅲ A - 6区遺構検出状態(西より)



Ⅲ A－7区遺構検出状態(南東より)



Ⅲ A－7区遺構検出状態(南西より)



Ⅲ A - 6区北壁セクション(南東より)



Ⅲ A - 7区北壁セクション(南より)



SB2完掘状態(北より)



SB3完掘状態(西より)



SD15完掘状態(南東より)



SD25完掘状態(北より)

図版18



SD1～4完掘状態(南より)



SD1・25完掘状態(南西より)



SD1バンクセクション(南より)



SD2・3バンクセクション(南より)



SE1完掘状態(南より)



SE2完掘状態(南より)



SK5 遺物出土状態 (東より)



SK5 完掘状態 (東より)



SK11 セクション (西より)



SK11 完掘状態 (北より)



SK20 完掘状態 (南より)



SK32 セクション (北東より)



SK35 完掘状態 (北西より)



SK48 完掘状態 (南西より)



SK54 セクション (南西より)



SK54 完掘状態 (南東より)



SK58 セクション (南西より)



SK76 完掘状態 (南西より)



SD1W 完掘状態 (南より)



SD1W 北西コーナー部 (南西より)



SD1W 完掘状態 (北より)



SD2・3 完掘状態 (南より)



SD2バンクセクション(南より)



SD5・6・8完掘状態(南より)



SD5・6セクション(南より)



SD5セクション(南より)



SD7セクション(南より)



SD8・18完掘状態(西より)



SD8バンクセクション(南より)



SD12完掘状態(西より)

図版24



SD12 セクション (西より)



SD15 完掘状態西側 (北より)



SD15 完掘状態西側 (北より)



SD15 完掘状態北側 (東より)



SD15 セクション (西より)



SD15 セクション (東より)



SD16 セクション (北より)



SD18 完掘状態 (東より)



SD20 セクション (西より)



SD21 セクション (東より)



SD22 完掘状態 (南より)



SD24 完掘状態 (東より)



SD30 完掘状態 (東より)



SD31 完掘状態 (東より)



SE1 セクション (南より)



SE2 セクション (南より)



SB19 P4 瓦器碗 (8) 出土状態



SK5 古銭 (11・12) 土師質皿 (13・14) 出土状態



SK14 土師質土器 (40・41 など) 出土状態



SK17 床土師質皿 (46) 出土状態



SK30 土師質土器皿 (67・73) 出土状態



SK35 土師質土器 (86～88) 出土状態



SK43 床土師質皿出土状態



SK63 遺物出土状態



SK70 土師質土器杯 (130) 出土状態



SK71 土師質皿 (131) 出土状態



SK83 土師質土器皿 (136 ~ 138) 出土状態



SK87 遺物出土状態



SD1 上層土師質小皿 (182) 出土状態



SD1 備前播鉢 (198) 出土状態



SD1 土師質土錘 (199) 出土状態



SD38 遺物出土状態



P30 青磁 (356) 出土状態



P31 瓦質土器釜脚部 (357) 出土状態



P36 土師質土器杯 (362) 出土状態



P43 備前大甕 (374) 出土状態



P48 土師質土器皿 (377) 出土状態



P49 礎石, 土師質土器杯 (379) 出土状態



P50 土師質土器皿 (380) 出土状態



P59 土師質土器皿 (392) 出土状態



140
(外面)



140
(内面)



209



288



363
(外面)



363
(内面)



403
(外面)



403
(内面)

近世陶器, 瓦質土器鍋, 土師質土器杯(鉄滓), 瓦質土器釜

図版30



土師質土器皿



土師質土器皿・杯





青磁碗·皿(外面)



青磁碗·皿(内面)

图版34



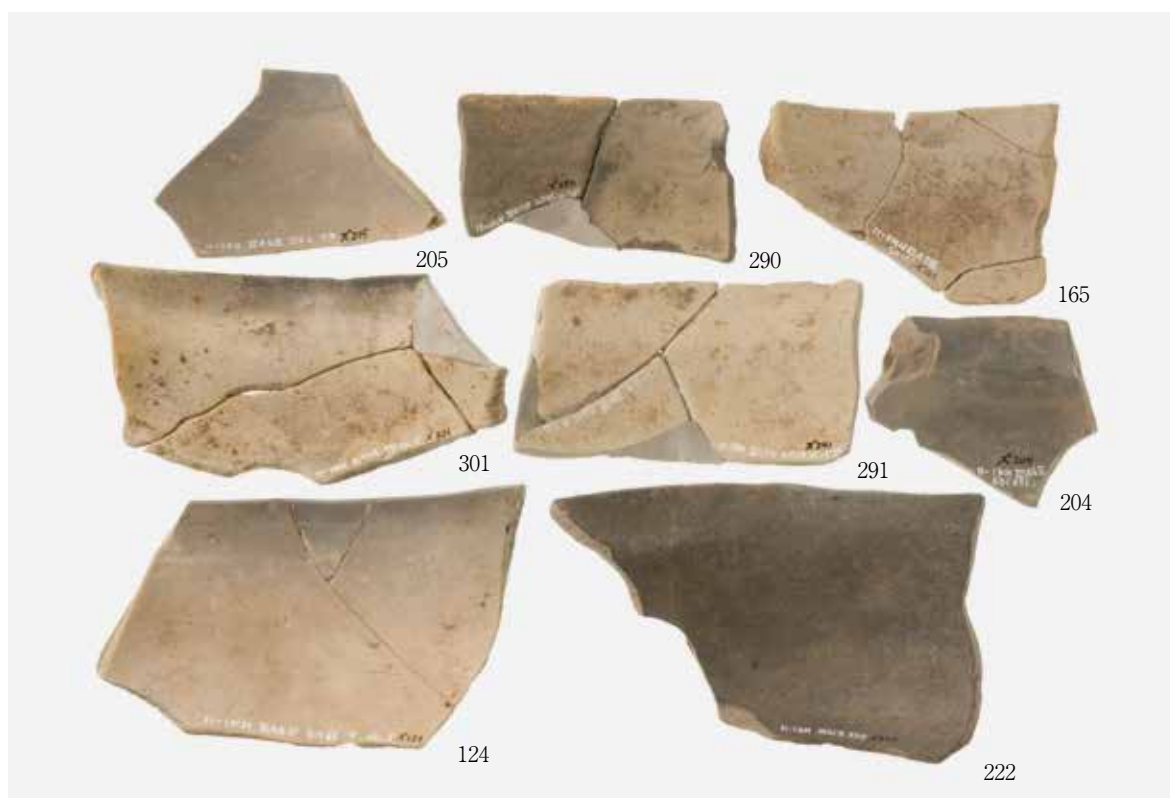
白磁碗 (外面)



白磁碗 (内面)



瓦質土器鍋(外面)



瓦質土器鍋(内面)

図版36



瓦質土器羽釜



瓦質土器羽釜



土師質土器羽釜



瓦質土器釜



瓦質土器播鉢(外面)



瓦質土器播鉢(内面)



国内産陶器瀬戸(外面)



国内産陶器瀬戸(内面)

図版 40



備前焼壺 (外面)



備前焼壺 (内面)



備前焼播鉢 (外面)



備前焼播鉢 (内面)

図版42



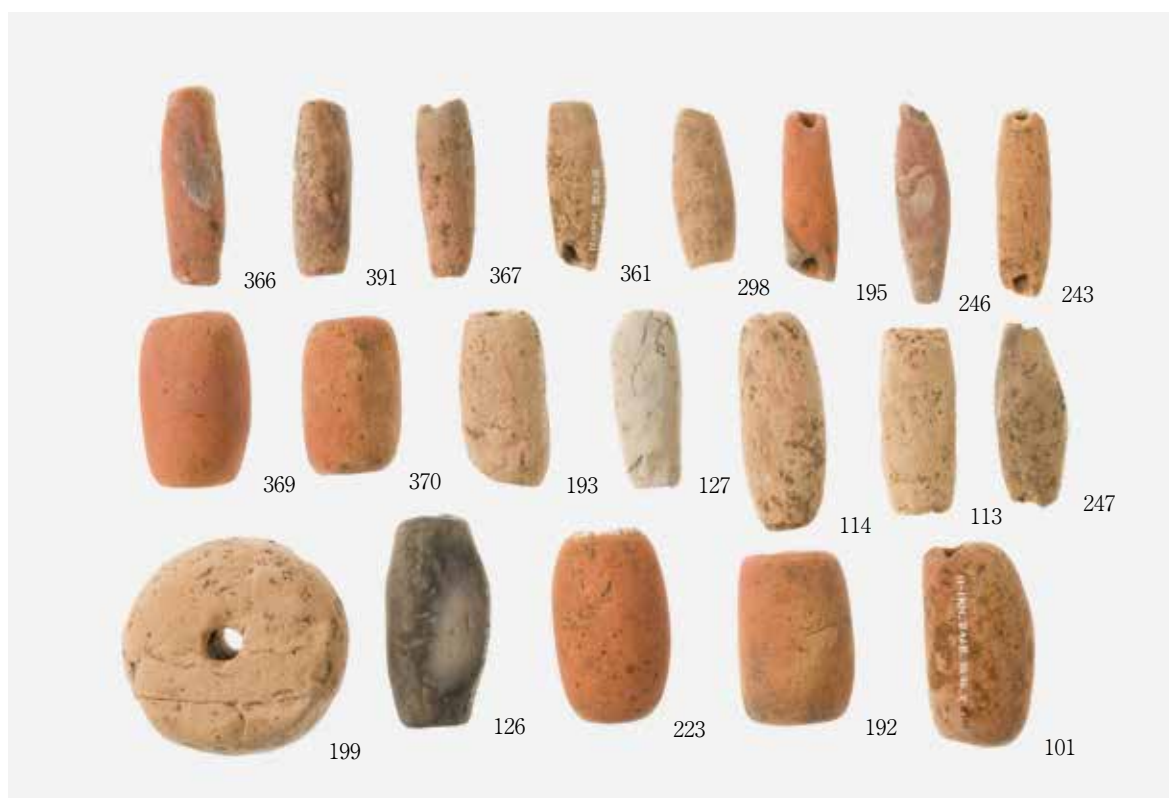
備前焼甕



石鍋



備前焼甕



土製品土錘



瓦器碗, 土師質土器皿・杯

Ⅲ A - 5 区



調査前風景(南東より)



調査区東部遺構検出状態(西より)



調査区遺構検出状態(西より)



遺構検出状態(東より)



調査区西部遺構検出状態(西より)



調査区西部遺構完掘状態(西より)

図版48



SD40 バンクセクション



SD46 バンクセクション



SD56 青磁碗 (490) 出土状態



SD56 青花皿 (493) 出土状態



SD56 バンクセクション



SD56 完掘状態



SE3 バンクセクション



土師質土器杯 (519) 出土状態



土師質土器皿



Ⅲ B－4 区





調査前風景(西より)



遺構検出状態(東より)



遺構完掘状態（上空より）



遺構完掘状態（西より）



調査区北壁セクション(南より)



調査区北壁セクション(南西より)



SK35 セクション (南より)



SK43 セクション (南より)



SK44 セクション (北より)



SK54 遺物出土状態 (南より)



SK59 遺物出土状態 (北より)



SD1 遺物出土状態 (西より)



SD2 遺物出土状態 (南より)



SD5 バンクセクション (北より)



SD5 遺物出土状態 (西より)



SD5 遺物出土状態 (北より)



SD33 バンクセクション (西より)



SD43 遺物出土状態 (南東より)



SD57 遺物出土状態 (北より)



SD61 バンクセクション (南より)



D10 - 3 - 20P7 遺物出土状態 (南より)



D10 - 4 - 19P14 遺物出土状態 (北より)



暗渠1～3蓋石・暗渠4瓦検出状態(南より)



暗渠1～3蓋石・暗渠4瓦検出状態(北より)



暗渠1 蓋石検出状態(北より)



暗渠1 セクション(南より)



暗渠2 蓋石検出状態(南より)



暗渠4 瓦検出状態(西より)



暗渠4 瓦検出状態(北より)



SX1 セクション(南西より)



土管出土状態(北東より)



SX1 遺物出土状態(北より)



暗渠1～3 蓋石除去・暗渠4完掘状態(南より)



暗渠1 蓋石除去・暗渠4完掘状態(南より)



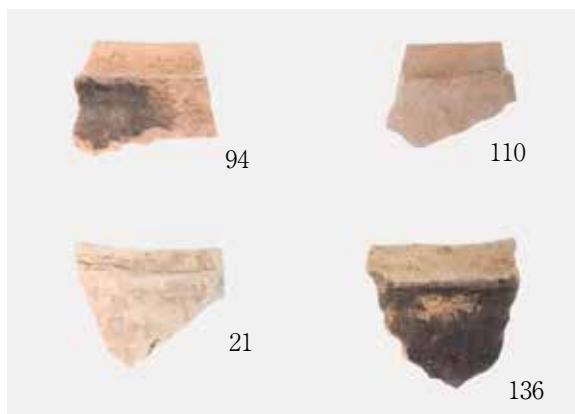
土師器皿, 土師質土器皿・杯, 瓦質土器鍋・釜



土師質土器皿・杯, 瓦質土器釜



瓦質土器鍋・羽釜, 土師質土器皿・杯



瓦質土器羽釜・焜炉, 土師質土器羽釜・焜炉, 磁器碗・皿, 陶器播鉢, 瓦

Ⅲ B - 3 区



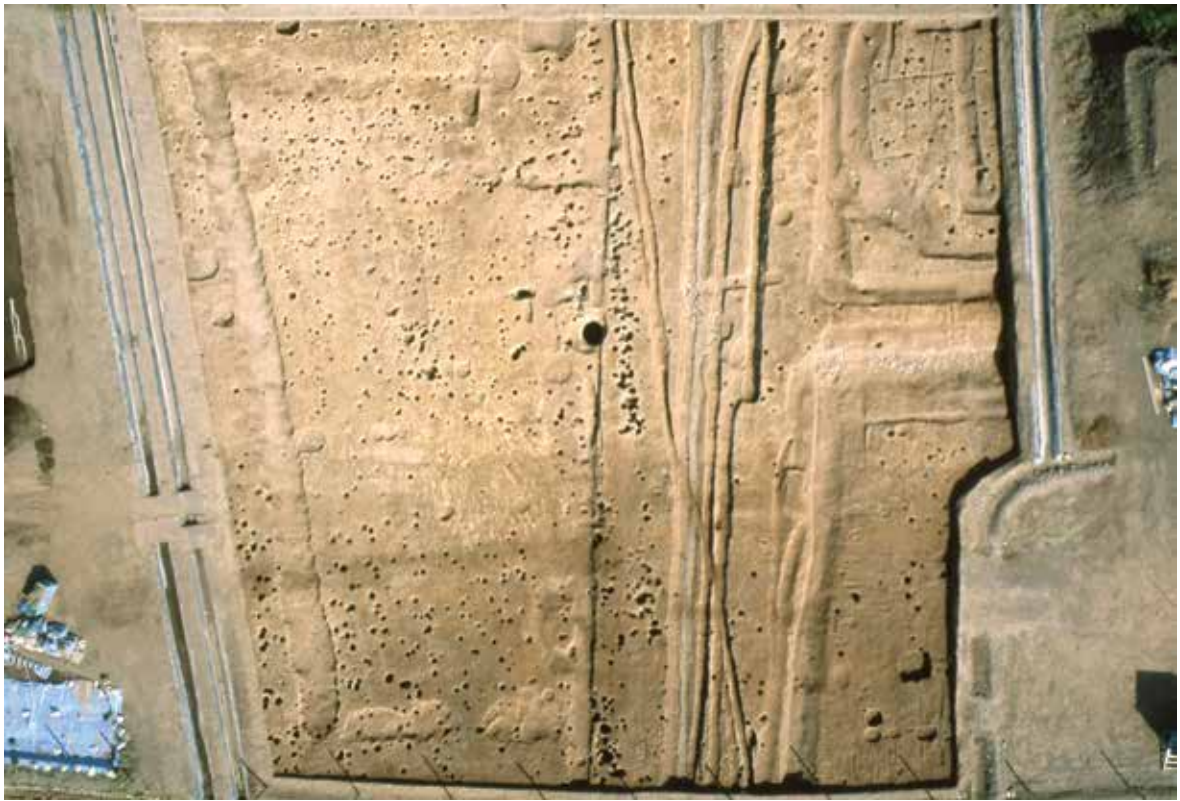


調査前遠景(東より)



調査区西部航空写真(上空より)

図版64



調査区東部航空写真(上空より)



調査区北部遺構検出状態(西より)



調査区北部遺構完掘状態(北西より)



調査区西部遺構完掘状態(西より)



調査区東部遺構検出状態(西より)



調査区東部遺構完掘状態(西より)



調査区西部北壁セクション(南東より)



調査区東部北壁セクション(南より)



調査区西部完掘状態(北東より)



調査区西部南側完掘状態(西より)



調査区東部北側完掘状態(東より)



調査区東部南側完掘状態(南より)

図版 70



SD34・51バンクセクション(東より)



SD72・77バンクセクション(南東より)



SD72バンクセクション(南より)



SD82バンクセクション(北より)



SD73黒色土器杯出土状態(北より)



SD81刀子, 土師質土器出土状態



SD81刀子, 土師質土器出土状態(南東より)



SD81刀子出土状態(東より)



SK85完掘状態(南より)



SK90遺物出土状態(東より)



SK100バンクセクション(北より)



SK100完掘状態(北より)



SD91集石出土状態(北より)



石臼出土状態



掘立柱建物跡完掘状態(北より)



P15白磁皿出土状態



SK107 青花皿出土状態



SK142 瓦質土器出土状態



SK134 バンクセクション (南より)



SK134 土師器甕出土状態 (北東より)



SK134 土師器杯出土状態 (北東より)



SK134 土師器甕出土状態 (南より)



SD89・90 バンクセクション (南より)



SD91 青磁皿出土状態



SD91 砥石出土状態



SD92バンクセクション(南より)



SD95バンクセクション(南より)



SD95 青花皿出土状態



SD95 瓦質土器釜出土状態



SD95 石臼出土状態



SD96バンクセクション(南より)



SD93・106バンクセクション(南より)



P27 土師質土器小壺出土状態1(東より)



P27 土師質土器小壺出土状態2(東より)



SB55 土師質土器皿出土状態(北より)



P26 土師器皿出土状態(北より)



P20 土師器出土状態(東より)



P37 青花碗(285) 出土状態



P26 上面土師質土器杯出土状態(北より)



P23 遺物出土状態(東より)



土師質土器杯, 土師器皿



土師質土器杯, 土師器皿, 瓦質土器釜, 常滑焼甕, 白磁皿



土師器甕, 土師質土器小壺・鍋, 須恵器器台・甕, 青花碗・皿, 青磁皿, 刀子



Ⅲ B - 2 区





遺構検出状態（西より）



上面遺構完掘状態（西より）



遺構完掘状態（上空より）



遺構完掘状態（北方向より）



調査区中央北壁セクション(南より)



調査区北壁セクション(南より)



ST1完掘状態(北より)



ST1遺物出土状態(西より)



ST2完掘状態(東より)



ST2遺物出土状態(南西より)



ST2 - SK1 遺物出土状態(南東より)



ST2床面検出状態(南より)



ST2遺物出土状態(南より)



ST3完掘状態(北より)



ST3-SK1 半裁セクション



ST3カマド半裁状態



ST3カマド除去状態



ST3上面遺構完掘 床面ピット検出状態



ST4完掘状態(東より)



ST4バンク 遺物出土状態(北西より)



ST5完掘状態(東より)



ST5遺物出土状態(東より)



ST5遺物出土状態(北より)



ST5中央ピット遺物出土状態(南より)



ST5中央ピット北床面遺物出土状態(北より)



ST6完掘状態(南より)



ST6バンクセクション(東より)



ST6カマド完掘状態(南より)



ST6調査区壁出土遺物状態(東南より)



ST6鉄鏝出土状態(南西より)



ST7完掘状態(北東より)



ST7 - P1 遺物出土状態(北より)



ST7 - P3 遺物出土状態(北より)



ST7 遺物出土状態(東より)



ST7 バンクセクション(南より)



ST8ベッド除去状態(南より)



ST8バンクセクション(南より)



ST8バンクセクション(南より)



ST8床面検出状態(東より)



ST8石包丁出土状態



SB59完掘状態（東より）



SB60完掘状態（東より）



調査区南西部SK171・172完掘状態(東より)



SK145完掘状態(北より)



SK229 遺物出土状態(南より)



SK229 遺物出土状態



調査区中央南側完掘状態(南より)



SK224完掘状態(南より)



SD139・140バンクセクション(南より)



SD125・95バンクセクション(東より)



SD97バンクセクション(東より)



SD126バンクセクション



SD114バンクセクション



SD114遺物出土状態



SK199完掘状態(南より)



SK225セクション(北より)



SK157 セクション (西より)



SK157 遺物出土状態 (南より)



SK171 遺物出土状態 (南より)



SK172 遺物出土状態



SK145 遺物出土状態 (東より)



SK145 セクション (北より)



SK145 黒色土器碗出土状態 (東より)



SK155 遺物出土状態



SD97 遺物出土狀態



P38 遺物出土狀態



SK224 遺物出土狀態



P51 遺物出土狀態



包含層弥生土器甕出土狀態



包含層青磁出土狀態



P40 遺物出土狀態



SD95 遺物出土狀態



弥生土器壺・甕

図版 98



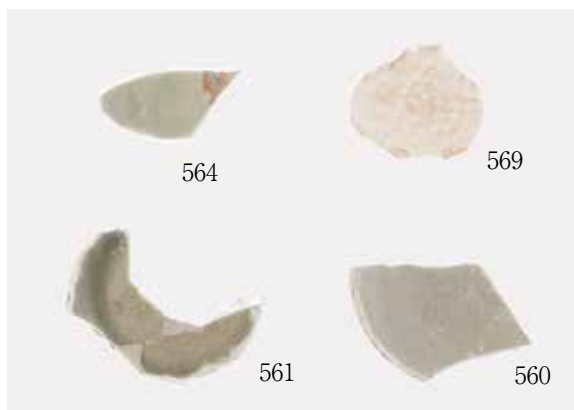
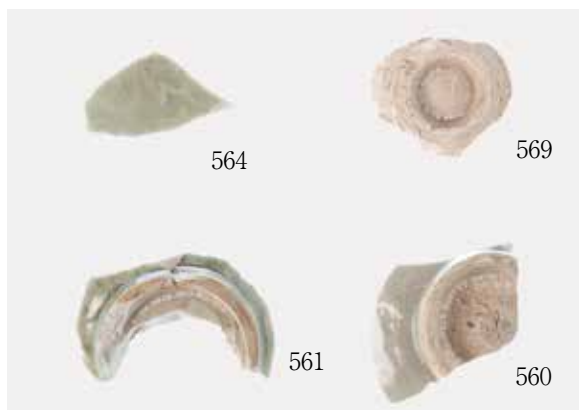
弥生土器鉢, ミニチュア土器, 石製品(石包丁)



弥生土器鉢, 粘土塊, ミニチュア土器, 石製品 (石包丁)



弥生土器鉢, 粘土塊, 支脚, 石製品(石包丁), 黑色土器碗, 土師器杯, 瓦質土器鍋



瓦質土器鍋, 土師器皿・杯・甕, 須惠器杯, 青磁碗・盤, 白磁



土師器杯, 黒色土器碗, 土師質土器羽釜・杯

Ⅲ B - 1 区





遺構検出状態（南より）



遺構完掘状態（南より）



遺構完掘状態(上空より)



調査区東壁セクション(西より)



ST9完掘状態（東より）



ST10完掘状態（南東より）



ST14完掘状態(南西より)



ST16完掘状態(南より)



ST17完掘状態(南西より)



ST18完掘状態(西より)



調査区南側完掘状態(北西より)



SB89完掘状態(北より)



調査区北側完掘状態(西より)



調査区完掘状態(北上空より)



ST10 中央ピットセクション(南より)



ST10 遺物出土状態(東より)



ST10 遺物出土状態(南より)



ST10 甕出土状態(南より)



ST12 遺物出土状態(東より)



ST12 遺物出土状態(東より)



ST13 遺物出土状態(西より)



ST13 遺物出土状態(北より)



ST14 遺物出土状態 (南より)



ST14 砥石出土状態



ST14 南北バンクセクション (西より)



ST16 カマド検出状態



ST17 東西バンクセクション (北より)



ST17 遺物出土状態



ST18 バンクセクション (西より)



ST18 遺物出土状態



ST10土製品土玉(676)出土状態



ST11遺物出土状態(東より)



ST11完掘状態(南より)



ST13完掘状態(東より)



SB86完掘状態(東より)



SK238セクション(東より)



SK238完掘状態



SK246セクション(南より)



SK246完掘状態



SD155バンクセクション(南より)



SD155白磁皿(780)出土状態(東より)



SD156完掘状態(北より)



SD161完掘状態(北より)



SX30須恵器杯(787)出土状態



SX30完掘状態(東より)



SX30土師器皿(790)出土状態





弥生土器壺・甕・鉢・高杯, 石製品



706



705



710



686



725



735



683



745

弥生土器鉢・高杯, ミニチュア土器, 支脚



749



750



752



764



765



684



769



770

弥生土器鉢, ミニチュア土器, 支脚, 須恵器甕・杯蓋・高杯



弥生土器甕・鉢, 須恵器杯, 土師器皿, 土製品, 石製品

報告書抄録

ふりがな			ひがしのどいいせきに						
書名			東野土居遺跡Ⅱ						
副書名			南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅷ						
シリーズ名			高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書						
シリーズ番号			第143集						
編著者名			出原恵三, 下村裕, 久家隆芳, 矢野雅子, 筒井三菜						
編集機関			公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター						
所在地			高知県南国市篠原1437－1						
発行年月日			2015年3月20日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地		コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
ひがしのどいいせき 東野土居遺跡	〒781－5213 こうちけんこんなんし 高知県香南市 のいちちょうひがしのどいい 野市町東野・土居		39211	200039	33° 33′ 17″	133° 43′ 01″	2010.12.1 ～ 2011.1.19 2011.4.25 ～ 2012.2.20	17,183㎡	記録保存 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構				主な遺物	特記事項	
東野土居遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 土坑 溝 柱穴 井戸 性格不明遺構				弥生土器 土師器 須恵器 土師質土器 貿易陶磁器 国内産陶磁器 瓦質土器	弥生時代終末 ～古墳時代初頭、 古墳時代後期の 竪穴建物跡、溝で 囲繞された屋敷 跡など検出され ており、本地域 における当該期 の様相を示す貴 重な資料を得る ことができた。	
要約	検出遺構・遺物の殆どは中世に属するものである。東側の調査区にあたるⅢB－1・2区では弥生時代～古墳時代初頭・古墳時代後期の竪穴建物跡を検出している。古代ではⅢB区において掘立柱建物跡や土坑などを検出している。 中世遺構は、調査区全域から検出されており、区画溝に囲われたなかに掘立柱建物や土坑が見られる。その時期は出土遺物からみて13世紀～16世紀代であるが、その中心は14～15世紀代と考えられる。そのなかでもⅢA区において検出された屋敷跡では一辺約54mを測る区画溝を把握することができており、確認した敷地面積は1,900㎡に及び最大規模である。区画溝内の掘立柱建物跡も今回検出された建物跡では規模の大きなものが集中している。ⅢB区においても一辺約50mを測る区画溝を検出しており、出土遺物などからは同じく中世後期に属すると考えられる。Ⅲ区では当該期の区画溝を持つ屋敷群が形成されていたことが判明した。								

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第143集

東野土居遺跡Ⅱ

南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅷ

(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ)

2015年3月20日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

Tel 088-864-0671

印刷 株式会社 飛鳥

